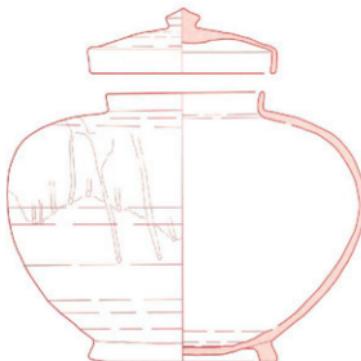


茨城県稲敷郡美浦村

信太入子ノ台遺跡

—「日本中央競馬会美浦トレーニング・センター
乗馬苑移設に伴う造成工事」に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—



第2号瓶形器

2011

日本中央競馬会
大日本土木株式会社
美浦村教育委員会

茨城県稲敷郡美浦村

信太入子ノ台遺跡

—「日本中央競馬会美浦トレーニング・センター
乗馬苑移設に伴う造成工事」に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

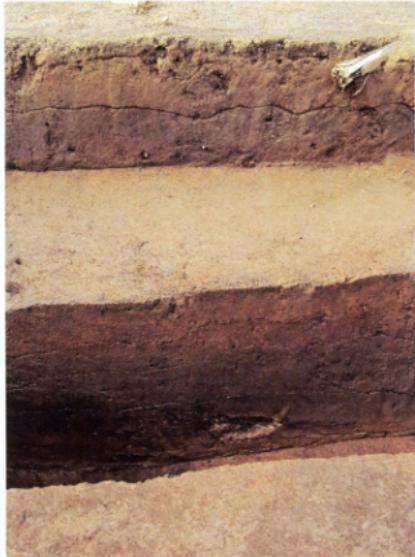
日本中央競馬会
大日本土木株式会社
美浦村教育委員会

図版. 1

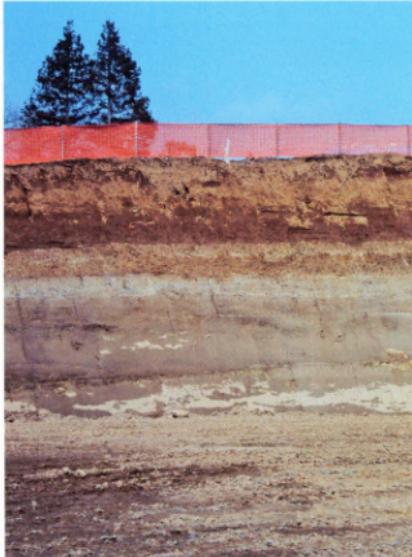


信太入子／台遺跡全景（空中撮影 上が北）

図版. 2



谷部31トレンチ 基本層序



西台地南半部北側法面（粘土層）



縄文時代の土器（第96・99号土坑）



弥生時代の土器（第13・16・32・34号住居址）



古墳時代の土器（第13・16・21・26号住居址）

図版. 4



平安時代の土器（第23号住居址一括）



藏骨器（右から1, 2, 3号）

序

美浦村の信太は、古代からの郡名に由来する由緒ある地名で、樅縫神社が鎮座するなど、從来から郡内の要所として栄えた土地と考えられてきました。今回、「JRA美浦トレーニング・センターの乗馬苑移設工事に伴う造成工事」に伴って行われた信太入子ノ台遺跡の発掘調査は、当地において初めてとなる本格的な考古学調査であり、現地説明会に予想を上回る多くの方が参加されたことは、歴史に彩られた信太の地への関心の高さの表れといえます。

本書は、平成21年10月から約8ヶ月間にわたって現地調査を実施した、その信太入子ノ台遺跡の報告書です。調査の結果、縄文時代から平安時代にいたる数多くの遺構や遺物が検出されましたが、中でも、「志太」「佛」と墨書きされた土器や、火葬された遺骨が納められていた灰釉陶器や須恵器の蔵骨器の存在は、当地が古代仏教の影響のもと當まれた信太郡内の村落であったことを示しています。特に、蔵骨器の蓋に書かれていた「大伴」の墨書きは、墓碑銘として希少な発見となりました。

今後、以上のような調査成果をもとに進められる研究によって、新たな地域史が描かれ、それが地域文化の発展に活用されていくこと、そしてこの貴重な調査を支援された、日本中央競馬会の益々のご発展を願う次第です。最後になりましたが、発掘調査にご協力・ご尽力を賜りました方々に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

平成23年12月

美浦村教育委員会
教育長 門脇厚司

例　　言

1. 本書は、「美浦トレーニング・センター乗馬苑移設に伴う造成工事」に伴い、事業主である日本中央競馬会（JRA）が大日本七木株式会社に委託して行った、埋蔵文化財調査の発掘調査報告書である。

2. 調査に関わる事項及び調査組織は以下の通りである。

遺跡名　　信太入子ノ台（しだいりこのだい）遺跡

遺跡所在地　茨城県稲敷郡美浦村大字信太狐塚 2361 番地

発掘調査期間　平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 6 月 1 日

調査面積　約 13,200 m²

調査主体者　大日本七木株式会社東京支店 今井吉治 仙田守英

監督指導　美浦村教育委員会 中村哲也

調査担当者　宇佐美義春（アジア航測株式会社）

調査員・補助員　関健吾 山田誠司 丸山和浩 板田裕之（アジア航測株式会社）

3. 調査参加者は以下の通りである。

（現地調査）

宮本富夫 四ツ谷栄 石川和男 嶽校小千子 小野邦代 矢口克 沖日出夫 市村浩男 堀端孝行

斎井二郎 木野内照子 根本和恵 山田富子 関峰ミ 加藤通紀 谷畠節子 丸山勢津子 清原卓

江口弥男 大沼義則 山崎一義 安藤春枝 寺田恵利 宮本博文 池田美佐子 大野ふみ江

墳崎富男 塚本清 岩波博美 奥山俊一 収本哲男 前田次男 黒沢章江 池田隆子 吉木藍

塙町口子 小泉実 針ヶ谷紀夫 長谷川嘉代子 和島伸一 佐藤正作 谷畠千秋 寺崎清次 表豊

荒井哲也 下山豊二 若泉亜紀 渡辺藍 岡田春 森永典昭 柿崎昇 工藤はるな 鈴木利勝

沼田久男 玉木秀隆

（整理作業）

土屋一未 大川明子 山下雅江 堀越晴子 須藤香織 佐藤京子 高橋洋子 草鹿裕美 市田武子

青木千賀子 萩原眞理子

4. 本書作成にあたっては、人骨については谷畠美帆氏に鑑定をお願いした。また、藏骨器の実測については川井正一氏にお願いした。なお、出土炭化材の樹種同定、鉄器の X 線写真及び保存処理については、株式会社パリノ・サーヴェイに委託した。

5. 本書の編集・執筆は、美浦村教育委員会による「Ⅱ—調査に至る経緯」を除き、美浦村教育委員会の指導・助言のもと、以下の通り分担執筆した。

I、Ⅱ—調査の方法～調査成果の概要、Ⅲ—5：宇佐美 Ⅲ—1、Ⅳ—調文時代：関

Ⅲ—2・3、Ⅴ—弥生時代・古墳時代：坂田 Ⅲ—4、Ⅴ—平安時代：丸山

6. 本書の挿図図版は、十里一木を中心としてデジタル処理・編集により作成したものである。

7. 調査に関わる図面・写真・遺物等の資料は、美浦村教育委員会が一括して保管している。

8. 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表します。

上野正 佐野良平 濱田哲夫 中村岳彦 前田和昭 茂木孝行

日本中央競馬会美浦トレーニング・センター 山下工業株式会社

凡　　例

1. 全体図及び遺構平面図に示した方位の北は、座標北を表し、座標値は世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用している。
2. グリッドの基点杭「A1」は、Aライン座標値Y=43,000、1ライン座標値X=-1,800であり、グリッド南西隅の杭名をグリッド名とした。大グリッド8×8m、小グリッド4×4mで、小グリッドは時計回りにa、b、c、dを付し、大グリッド「A1」、小グリッド「A1-a」等と表記した。
3. 「第1図 信太入子ノ台遺跡の位置図」は、国土地理院発行の1/200,000地形図『水戸』『千葉』を、また「第2図 信太入子ノ台遺跡周辺遺跡分布図」は、同じく国土地理院発行の1/50,000地形図『佐原』『玉造』を使用した。
4. 遺構等の略称は以下の通り。

堅穴住居址：J　土坑：D　柱穴・ピット：P　構状遺構：M　焼土址：S　古墳周溝：KS
藏骨器：Z　埋甕：U　トレンチ：T　炭化材：C　搅乱：K

なお、単独ピットは1P、2P、3P～、遺構に伴う柱穴・ピットはP1、P2、P3～と表記した。
5. 遺構・遺物の縮尺は、原則以下の通り。

遺構　全体図1/300(付図)、1/1,000　堅穴住居址・掘立柱建物址1/60　カマド・炉1/30　土坑1/60
溝状遺構1/100(断面図1/50)　古墳周溝1/100(断面図1/50)　焼土址1/60
藏骨器1/60、1/30　埋甕1/30　単独ピット1/60

遺物　土　器：坏・椀・小型盞類1/3　拓影1/3　甕・瓶・壺類・大型土器・深鉢1/4
石器・石製品：剥片石器2/3　石斧・磨石・石皿・砥石1/3
上製品・金属器・金属製品：1/2
6. 遺構・遺物の計測値のうち、()は復元値、〔 〕は現存値を表す。土器の口縁部径・底部径や劔錐車径等では、遺存率が1/2に満たない場合は復元値とした。また、高台付坏の底径は高台部の径とした。
7. 弥生～平安時代の住居址の主軸は、炉に近い壁や、カマドのある壁にはほぼ直交する軸を主軸とした。
8. 遺構・遺物実測図に関しては、以下のように表現・表記した。

遺構実測図　・住居址床面硬化面は一点鎖線
　　・断面図のうち、土層断面図は大文字A-A'、エレベーション図は小文字a-a'
　　・出土遺物　●：土器　○：時期外の土器　△：石器類　□：土製品　×：金属器類
　　上記を原則としたが、意味・内容の異なる場合は図版中に明記した。
　　・カマド・炉等の赤化部：■　カマド構築材の粘土：■
　　・焼土分布範囲：■　灰分布範囲：■　木炭分布範囲：■
遺物実測図　・灰釉面・赤彩土器・鐵維土器・石器滑沢面：■
　　須恵器断面：■　内黒土器：■
　　・土器実測図の側線に付した「-」は、縄文土器や弥生土器では縄文施文部の境を示し、
　　須恵器・土師器では調整痕の境を示す。
9. 土層注記中の「斑状コーム」とは、コームブロックとは異なり、ローム粒が丸く斑状にまとまつもので、軟質である。土層全体では霜降り状にみえる。

目 次

目次

序

例言

凡例

目次

I 遺跡の立地と歴史的環境	1
信太入子ノ台遺跡の位置と地形／信太入子ノ台遺跡の歴史的環境	
II 調査の経過と概要	5
調査に至る経緯／調査の方法／調査の経過／調査成果の概要	
III 検出された遺構と遺物	
1. 繩文時代の遺構と遺物	11
繩文時代の概要／堅穴住居址／土坑／埋甕／包含層調査／グリッド山上遺物 ／トレンチ出土遺物／時期外遺構山上の繩文時代遺物	
2. 弥生時代の遺構と遺物	49
弥生時代の概要／堅穴住居址／包含層遺物／グリッド山上遺物 ／トレンチ山上遺物／時期外遺構出土の弥生時代遺物	
3. 古墳時代の遺構と遺物	71
古墳時代の概要／堅穴住居址／周溝／グリッド山上遺物 ／トレンチ出土遺物／時期外遺構出土の古墳時代遺物	
4. 奈良・平安時代の遺構と遺物	89
奈良・平安時代の概要／堅穴住居址／掘立柱建物址／平安時代の土坑／焼土址／蔵骨器 ／方形区画溝／グリッド山上遺物／トレンチ出土遺物 ／時期外遺構出土の平安時代遺物／鉄器のX線写真について	
5. その他の遺構	143
概要／焼上址／土坑／溝状遺構／ピット	
IV 山上遺物の鑑定と分析、保存処理	189
1. 信太入子ノ台遺跡出土古代人骨について	谷畠美帆
2. 信太入子ノ台遺跡の自然科学分析	バリノ・サーヴェイ株式会社
3. 金属遺物の保存処理	バリノ・サーヴェイ株式会社
V まとめ	195
繩文時代／弥生・古墳時代／奈良・平安時代	
引用・参考文献	197
報告書抄録	
付図（遺跡全体図）	

挿図目次

第1図 信太人子ノ台遺跡の位置	2	第42図 第42号住居址 (1)	63
第2図 信太人子ノ台遺跡周辺遺跡分布図	3	第42図 第42号住居址 (2)	64
第3図 グリッド設定期	4	第48図 包含層N1土器群	65
第4図 トレンチ設定期	7	第49図 時期外遺構出土の弥生時代遺物	66
第5図 基本層序	9	第50図 第8号住居址	72
第6図 漢跡全体図	10	第51図 第10号住居址	73
第7図 第1号住居址	12	第52図 第14号住居址	74
第8図 第6号住居址	13	第53図 第19号住居址 (1)	75
第9図 第31号住居址	15	第54図 第19号住居址 (2)	76
第10図 第33号住居址	16	第55図 第21号住居址 (1)	77
第11図 第37号住居址 (1)	18	第56図 第21号住居址 (2)	78
第12図 第37号住居址 (2)	19	第57図 第22号住居址 (1)	79
第13図 第39号住居址	20	第58図 第22号住居址 (2)	80
第14図 第43号住居址	21	第59図 第26号住居址 (1)	81
第15図 複文時代の土坑 (1)	23	第60図 第26号住居址 (2)	82
第16図 複文時代の土坑 (2)	25	第61図 第27号住居址	83
第17図 複文時代の土坑 (3)	27	第62図 第41号住居址	84
第18図 複文時代の土坑 (4)	28	第63図 古墳圓溝	85
第19図 複文時代の土坑 (5)	29	第64図 グリッド・時期外遺構出土の古墳時代遺物	86
第20図 第1号埋甕	30	第65図 第2号住居址 (1)	90
第21図 包含層N2～5ト部群 (1)	32	第66図 第2号住居址 (2)	91
第22図 包含層N2～5上部群 (2)	33	第67図 第3号住居址 (1)	92
第23図 包含層N2～5土器群 (3)	34	第68図 第3号住居址 (2)	93
第24図 谷頭部 (包含層N6)・谷頭出土土器	36	第69図 第4号住居址 (1)	94
第25図 グリッド出土の複文土器数分布図 (1)	37	第70図 第4号住居址 (2)	95
第26図 グリッド出土の複文土器数分布図 (2)	38	第71図 第5号住居址	96
第27図 グリッド出土土器 (西台地)	40	第72図 第9号住居址 (1)	97
第28図 グリッド出土土器 (東台地) (2)	41	第73図 第9号住居址 (2)	98
第29図 グリッド出土土器 (東台地)	41	第74図 第11号住居址 (2)	99
第30図 時期外遺構出土の複文土器 (西台地)	42	第75図 第11号住居址 (1)	100
第31図 時期外遺構出土の複文土器 (東台地) (1)	44	第76図 第12号住居址 (1)	102
第32図 時期外遺構出土の複文土器 (東台地) (2)	45	第77図 第12号住居址 (2)	103
第33図 石器 (1)	46	第78図 第15号住居址 (1)	104
第34図 石器 (2)・「製品」	47	第79図 第15号住居址 (2)	105
第35図 第7号住居址 (1)	50	第80図 第17号住居址 (1)	106
第36図 第7号住居址 (2)	51	第81図 第17号住居址 (2)	107
第37図 第13号住居址 (1)	53	第82図 第18号住居址	108
第38図 第13号住居址 (2)	54	第83図 第20号住居址 (1)	110
第39図 第16号住居址 (1)	55	第84図 第20号住居址 (2)	111
第40図 第16号住居址 (2)	56	第85図 第23号住居址 (1)	112
第41図 第24号住居址	58	第86図 第23号住居址 (2)	113
第42図 第32号住居址	59	第87図 第25号住居址	114
第43図 第34号住居址	60	第88図 第28号住居址	116
第44図 第36号住居址	61	第89図 第29号住居址	117
第45図 第40号住居址	62	第90図 第30号住居址	118

第91図	第35号住居址	119	第110図	土坑 (7)	154
第92図	第38号住居址	120	第111図	土坑 (8)	155
第93図	第1号掘立柱建物址 (1)	121・122	第112図	土坑 (9)	156
第94図	第1号掘立柱建物址 (2)	121	第113図	土坑 (10)	157
第95図	第1号掘立柱建物址 (3)	125	第114図	土坑 (11)	158
第96図	平安時代の土坑 (1)	126	第115図	土坑 (12)	159
第97図	平安時代の土坑 (2)	127	第116図	土坑 (13)	160
第98図	藏骨器 (1)	129	第117図	土坑 (14)	161
第99図	藏骨器 (2)	130	第118図	第1号清状遺構	168
第100図	第6号清状遺構 (1)	131	第119図	第2号清状遺構 (1)	170
第101図	第6号清状遺構 (2)	132	第120図	第2号清状遺構 (2)	171
第102図	時期外遺構出土の平安時代遺物	133	第121図	第3・4・5号清状遺構	172
第103図	焼土址 (1)	144	第122図	第7・8・9号清状遺構	173
第104図	焼土址 (2)・土坑 (1)	146	第123図	ピット (1)	175
第105図	土坑 (2)	148	第124図	ピット (2)	176
第106図	土坑 (3)	150	第125図	ピット (3)	177
第107図	土坑 (4)	151	第126図	ピット (4)	178
第108図	土坑 (5)	152	第127図	ピット (5)	179
第109図	土坑 (6)	153			

表目次

第1表	石磐・土製品観察表	48	第25表	第5号住居址出土土器観察表	135
第2表	第7号住居址出土遺物観察表	67	第26表	第9号住居址出土遺物観察表	135
第3表	第13号住居址出土遺物観察表	67・68	第27表	第11号住居址出土土器観察表	135・136
第4表	第16号住居址出土遺物観察表	68	第28表	第12号住居址出土土器観察表	136
第5表	第24号住居址出土土器観察表	68	第29表	第15号住居址出土土器観察表	136・137
第6表	第32号住居址出土土器観察表	68	第30表	第17号住居址出土土器観察表	137
第7表	第34号住居址出土遺物観察表	69	第31表	第18号住居址出土遺物観察表	137
第8表	第36号住居址出土土器観察表	69	第32表	第20号住居址出土遺物観察表	137・138
第9表	第40号住居址出土遺物観察表	69	第33表	第23号住居址出土土器観察表	138
第10表	第42号住居址出土遺物観察表	69・70	第34表	第25号住居址出土土器観察表	138
第11表	包含層No.1十畳部土器観察表	70	第35表	第28号住居址出土土器観察表	139
第12表	時期外遺構出土土器観察表	70	第36表	第29号住居址出土遺物観察表	139
第13表	第8号住居址出土遺物観察表	86	第37表	第30号住居址出土遺物観察表	139
第14表	第14号住居址出土土器観察表	86・87	第38表	第35号住居址出土土器観察表	139
第15表	第19号住居址出土土器観察表	87	第39表	第38号住居址出土土器観察表	139・140
第16表	第21号住居址出土遺物観察表	87	第40表	第14号土坑出土遺物観察表	140
第17表	第22号住居址出土遺物観察表	87	第41表	第6号縄跡出土遺物観察表	140
第18表	第26号住居址出土遺物観察表	87・88	第42表	第1号樹立柱建物址出土遺物観察表	140・141
第19表	第27号住居址出土十畳部観察表	88	第43表	第4号燒土址出土土器観察表	141
第20表	第41号住居址出土遺物観察表	88	第44表	時期外遺構出土土器観察表	141
第21表	グリッド・時期外遺構出土遺物観察表	88	第45表	藤首器観察表	141
第22表	第2号住居址出土遺物観察表	131	第46表	土坑・窓表	182
第23表	第3号住居址出土土器観察表	134・135	第47表	ピット一覽表	186
第24表	第4号住居址出土遺物観察表	135			

写真図版目次

- PL. 1 東台地南半部全景 西台地中央部全景
PL. 2 西台地北半部全景 容部全景
PL. 3 東台地全景 基本上層①②③⑦
PL. 4 第1・2・3号住居址
PL. 5 第4・5・6号住居址
PL. 6 第7号住居址
PL. 7 第8・9・10号住居址
PL. 8 第11・12・13号住居址
PL. 9 第14・15・16号住居址
PL. 10 第17・18・19号住居址
PL. 11 第20・21・22・23号住居址
PL. 12 第24・25・26・27号住居址
PL. 13 第28・29・30号生居址
PL. 14 第30・31・32号住居址
PL. 15 第33・34・35・36号住居址
PL. 16 第37・38・39・40号住居址
PL. 17 第41・42・43号住居址
PL. 18 第1号独立住居址物
PL. 19 周溝
PL. 20 方形区画溝（第6号溝状遺構）
PL. 21 第15・60・68号土坑
PL. 22 第60・96・99号土坑
PL. 23 第99・108・146・218号土坑
PL. 24 包含層Na1・2・3・4・5号器群 谷頭部包含層
PL. 25 第1号藏骨器
PL. 26 第2号藏骨器
PL. 27 第3号藏骨器
PL. 28 第4・14号土坑
PL. 29 第1・2・3・4号燒土址
PL. 30 第5・6・7・8号燒土址
PL. 31 第56・132・136・137・138・139号土坑
PL. 32 第2・48・102・135号土坑
PL. 33 第3・11・12・166・203号土坑
PL. 34 第16・18・30・31・32・37・38・78号土坑
PL. 35 第83・88・91・98・101・105・118・131号土坑
PL. 36 第154・155・156・157・158・159・161・162号土坑
PL. 37 第163・165・173・184・185・186・192・194号土坑
PL. 38 第195・197・200・201・205・221・226・227号土坑
PL. 39 第1・2・3・4号溝状遺構
PL. 40 第5・7・8号溝状遺構
PL. 41 東台地ピット群 西台地ピット群
PL. 42 第1・6号住居址出土上器
PL. 43 第31・33・37号住居址出土下器
PL. 44 第39・43号住居址出土上器 第15・60号土坑出土土器
PL. 45 第69・96・99号土坑出土土器
PL. 46 第108号土坑出土土器 第1号堆溝 包含層No2土器群
PL. 47 包含層Na3・4・5号器群
PL. 48 谷頭部・谷部出土土器
PL. 49 グリッド出土土器（西台地）(1)
PL. 50 グリッド出土土器（西台地）(2) (東台地)
PL. 51 時期外遺構出土の縄文土器（東台地）(1)
PL. 52 時期外遺構出土の縄文土器（東台地）(2) (西台地)
PL. 53 石器(1)(2)
PL. 54 石器(3) 土製品
PL. 55 第7・8・13号住居址出土遺物
PL. 56 第16・19・21・24号住居址出土遺物
PL. 57 第26・32号住居址出土遺物
PL. 58 第34・40・41・42号住居址出土遺物 包含層Na1土器群
グリッド出土遺物（砾石）（勾玉）
PL. 59 訪撫車（第7・13・21・31・40・42号住居址）
球状土器（第16・21・22・26・40号住居址、第6号溝）
PL. 60 第2・3号住居址出土遺物
PL. 61 第4・5・9・11・15・17号住居址出土遺物
PL. 62 第17・18・20・21・23号住居址出土遺物
PL. 63 第23・25・28・29・30・35・38号住居址出土遺物
PL. 64 第14号土坑・第4号焼土址・第6号溝出土遺物
第1・2号藏骨器
PL. 65 第3号藏骨器
墨青土器(1) (第9・11・17・21号住居址、第6号溝)
PL. 66 墓青土器(2) (第9・15・19・20・21・23・35号住居址、第1号獨立柱、第171号土坑、グリッドQ31)
PL. 67 金属製品 (第2・4・9・18・20・29・30号住居址、第1号獨立柱、第14号土坑)
PL. 68 調査・整理作業風景

I 遺跡の立地と歴史的環境

信太入子ノ台遺跡の位置と地形

信太入子ノ台遺跡の所在する茨城県稲敷郡美浦村は、茨城県南部に位置し、村の北部および東部は霞ヶ浦に面し、南部は稲敷市、西部は阿見町に隣接している。

美浦村の地勢を概観すると、霞ヶ浦湖岸を中心に広がる沖積地と、樹枝状に開析した谷地形の顕著な稻敷台地とからなる。稻敷台地は、約14万年前の下末吉期の海進により形成された平坦地形が、その後の海退によって陸地化したもので、最上部には常緑粘土層とよばれる灰白色の粘土層が見られる。この上に関東山地の火山活動によつてもたらされた火山灰が堆積している。

本遺跡はこの稲敷台地東縁部の、南にのびる舌状台地の上に営まれた集落址である。標高約25~27m、周囲の谷津との比高差は約16~18mである。

信太入子ノ台遺跡の歴史的環境

美浦村では、旧石器時代以降から中近世にいたるまでの人文活動の痕跡を確認することができる。

旧石器時代では、良好な石器群の発見はないものの、岸内遺跡（第2図21）のナイフ形石器をはじめ、陣屋敷（4）、根元（6）、原（26）、奥津白井（41）等の遺跡で真岩系の剥片が採取されている。

绳文時代では、著名な陸平貝塚（2）、前期後半・奥津式土器のタイプサイトである奥津貝塚（35）、前・中期の鹿児島貝塚（39）をはじめ、木原城址（27）、内出（14）、下の下（17）、原（26）等の遺跡で、前期から中期にかけてと思われる集落址の一部が確認されている。高野台遺跡（38）では、早期の竪穴状遺構や燐穴が検出され、また法堂遺跡（19）では晩期の製壺址が検出されるなど、绳文時代の生業を考える上で、貝塚とともに貴重な遺跡となっている。

弥生時代では、後期の集落址が多い。前・中期の集落址はいまのところ確認されていないが、多古山II遺跡（8）で、中期の上器片が採取されており、注目される。後期では、27軒の堅穴住居址が検出された陣屋敷遺跡や、23

軒の根元遺跡をはじめとして、八ヶ山（24）、諏原妙山（25）、 笹山（34）、大谷谷津台（40）、野中（61）の各遺跡のほか、高野台遺跡の南西側に隣接した十三塚遺跡においても、後期の集落址が確認されている。

古墳時代では、前期から後期にわたって集落が営まれ、弥生時代後期とともに活発な人間活動の痕跡が各地に残されている。古墳も村北側を中心に造営されている。前期では、本遺跡のほか野中遺跡などが知られるが、いまのところ多くはない。古墳では、山王山古墳（42）や木原古墳群（46）中の愛宕山古墳が、比較的大きな前方後円墳として前期に遡る可能性が考えられている。中期では、陣屋敷、木の根田（13）、宮後（16）、下り内（28）、虚空蔵、ミコヤ（11）等の各遺跡で中期の集落址や住居址が確認されており、この時期の遺跡の広がりを示しているのかもしれない。後期では、下り内遺跡、大輪遺跡（18）、野中遺跡などが知られる。古墳では、大半の古墳がこの時期に造営されたと思われるが、調査された古墳は少ない。常陸笠山古墳群（56）中の光仮古墳、大塚古墳群（43）中の弁天塚古墳、八枚原古墳群（51）中の庚申古墳などは箱式石棺を埋葬施設とする後期の古墳である。古墳群中の盟主墳とされる前方後円墳は、舟子塚原古墳群（55）で2基、常陸笠山群で1基、木原原古墳群（59）で3基が確認されている。そのほか、木原白旗2号墳は埴輪を有し、双円墳の可能性が指摘されている。信太美胸古墳群（57）では、谷津を挟んだ本遺跡西部に円墳10基が現存しており、本遺跡北側の円墳も同じ古墳群中の1基かもしれない。

奈良・平安時代では、陣屋敷、下り内、稻荷山（36）、原畠（37）等の各遺跡で平安時代の集落址、堅穴住居址が検出されており、そのほか御靈平（7）、天神平I（9）、押井戸（12）、魔迦陀（33）などが知られる。多古山II遺跡や陣屋敷遺跡では、住居址とともに鐵骨器・火葬墓も検出されており、本遺跡との類似性が注目されよう。

平安時代以降、本遺跡では確実な人間活動の痕跡を見ることができず、おそらく近世末から近代にかけてのころによく道路状遺構（第2号溝）が掘削されたにすぎない。

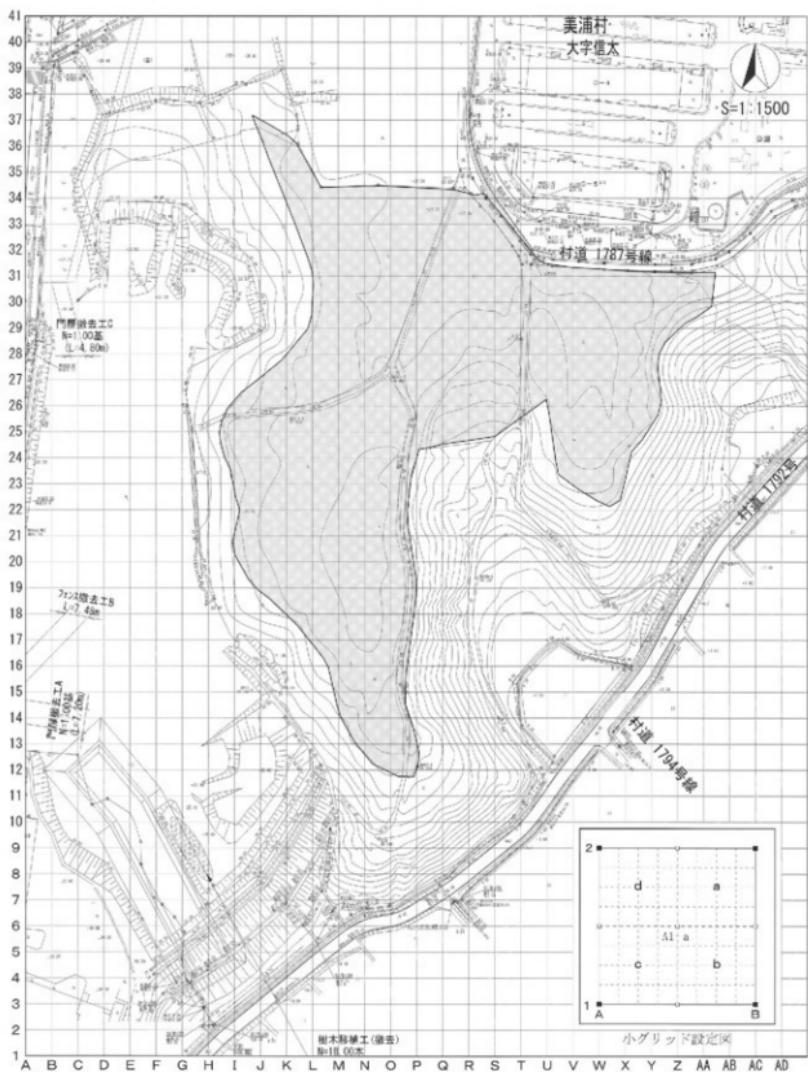


第1図 信太入子ノ台遺跡の位置



1 伊太入子ノ台遺跡	2 駒平貝塚	3 宮庭遺跡	4 陣原敷道跡	5 陣原敷低深地遣跡	6 根本遺跡	7 御笠平遺跡
8 多古山Ⅱ遺跡	9 天神平Ⅰ遺跡	10 天神平Ⅱ遺跡	11 ミヤコ遺跡	12 押井Ⅱ遺跡	13 木の根田遺跡	14 内出遺跡
15 宮前遺跡	16 宮後遺跡	17 下の下遺跡	18 大輪遺跡	19 法家遺跡	20 平木貝塚	21 烏内遺跡
22 街茶園遺跡	23 茂邑天神遺跡	24 八ヶ山遺跡	25 许留妙山遺跡	26 旗遺跡	27 木原城址	28 木原古墳群
29 城ノ内遺跡	30 舟子宮平遺跡	31 犬田遺跡	32 木原神田遺跡	33 摩迦陀遺跡	34 宝山遺跡	35 斐波貝塚
36 猪荷山遺跡	37 原彌遺跡	38 無明台遺跡	39 宮原貝塚	40 大谷津合遺跡	41 興津白井遺跡	42 山王山古墳
43 大塚古墳群	44 茂呂根本古墳群	45 大須賀津古墳群	46 木原自腹古墳群	47 茂呂カリマツ古墳	48 古墳（酒誠）	49 古墳（酒誠）
50 大谷八幡台古墳	51 八枚原古墳群	52 木原清月古墳群	53 城山古墳	54 東廢古墳	55 鬼子原古墳群	56 常陸佐山古墳群
57 伊太美駒古墳群	58 訓山古墳群	59 木原原古墳群	60 大日遺跡	61 野中遺跡		

第2図 信太入子ノ台遺跡周辺遺跡分布図



第3図 グリッド設定図

II 調査の経過と概要

調査に至る経緯

平成 19 年 12 月 10 日、美浦村教育委員会に日本中央競馬会美浦トレーニング・センターより、乗馬苑移設に伴う埋蔵文化財の取扱いについての照会があった。照会では周知の遺跡ではなかったが、周辺の遺跡分布や地形から埋蔵文化財が包蔵されている可能性が高いと考えられたことから、美浦村教育委員会は平成 19 年 12 月 26~28 日に試掘調査を行い、その結果遺跡の所在を確認し、翌年 1 月 9 日付でその旨を回答した。また同日付で茨城県教育委員会教育長宛に、当該遺跡の発見について信太入子ノ台遺跡の名称で通知した。平成 21 年 7 月 1 日には、日本中央競馬会より上木工事等に伴う埋蔵文化財発掘の届出が茨城県教育委員会教育長宛に発送され、遺跡の保存対策について協議を進めたが、現状保存が困難であることから、県教育委員会より事前に発掘調査を実施するよう通知された。平成 21 年 9 月 1 日付で、事業者である日本中央競馬会と、同会から調査を受注した大日本木株式会社東京支店、及び美浦村教育委員会の 3 者で協定書が締結され、併せて大日本木より埋蔵文化財発掘調査の届出が県教育委員会に発送された。発掘調査は大日本木株式会社東京支店の監督のもと、アジア航測株式会社が担当し、現地調査は平成 21 年 10 月 1 日から平成 22 年 6 月 1 日の期間実施されている。

調査の方法

調査区とグリッドの設定（第3図）

遺跡の範囲は、ほぼ標高 25m の等高線に沿って設定されている。この等高線を境に、かなり急な斜面地となって谷部を形成している。

調査区の設定にあたっては、先行して行うトレンチ調査の結果をふまえ、美浦村教育委員会との協議の上、全面発掘部分、トレンチ調査部分という調査区を設定した。

トレンチ調査部分は西台地南部の 16 トレンチ以南と谷部、全面発掘部分はそれ以外の全域である。調査区面積は約 13,200 m² である。

グリッドは、大グリッド 8×8m で、西より東に向かって A ライン、B ライン、……、南より北に向かって 1 ライン、2 ライン、……と付し、グリッド名は南北隅の杭名をグリッド名とした。基点 A1 の座標は、A ライン平面直角座標 IX 系座標値 Y = 43,000、1 ライン同座標値 X = -1,800 である。小グリッドは大グリッド四分割の 4 × 4m で、北東小グリッドから時計回りに a ~ d と付し、A1-a 等と表記した。

発掘の方法

トレンチ調査では、幅 1m、10m 每に 1 本のトレンチを設定したが、西台地南部では、5m 每に 1 本として、できる限り遺構の見逃しが無いように配慮した。表土層削除は、小型のバックホーで行い、遺物が検出された時点で人力掘削に切りかえた。

トレンチ調査後の表土層は、重機（バックホー、クローラー）を使って掘削・堆土運搬した。この際、表土層が薄いため、掘削した表土を盛って重機の索道とし、最終的にこの索道を除去しながら表土層削除を終えた。

人力による遺構確認後、とくに遺構の密な地区に回しては確認遺構の配置図（概略図）を作成し、遺構層土層削除に備えるとともに、遺構番号の重複等の混乱が生じないように工夫した。

各遺構は、サブトレンチによって覆土、床面や底面、壁の状況を把握し、土層剥離用のベルト（吐）を残しながら、土層の層位毎に掘り下げるこを原則とした。この際、覆土中の人の為痕跡の見逃しがないように留意した。遺構内の遺物は、遺構内の小区画（住居址では a ~ d の 4 小区画）毎に層位別に取り上げ、有意義な出土状況を示す遺物に關しては、出土位置、層位、標高等を遺物台帳に記録し、出土状況の写真撮影を行った。

包含層出土物及びトレンチ出土遺物のうち、遺構に伴わない遺物に関しては、小グリッド単位あるいはトレンチ毎に層位別に取り上げたが、集中資料は一括遺物群（上器群）として番号を付し、出土状況を記録した。

測量は、トータルステーションによる地上測量と平板測量を併用した。また、一部空中測量を採用した。遺構

配置図は地上測量、個別遺構図は平板測量及び手実測を上としている。

なお、遺跡内に残る相当量の切り株の処置については、美浦村教育委員会との協議により、遺構にかかる切り株は根切りのうえ除去して搬出、それ以外の切り株は根元までの根切りを行い、遺構の見逃しが無いよう対処した。この一連の作業は全て手作業で行った。

調査の経過

現地調査

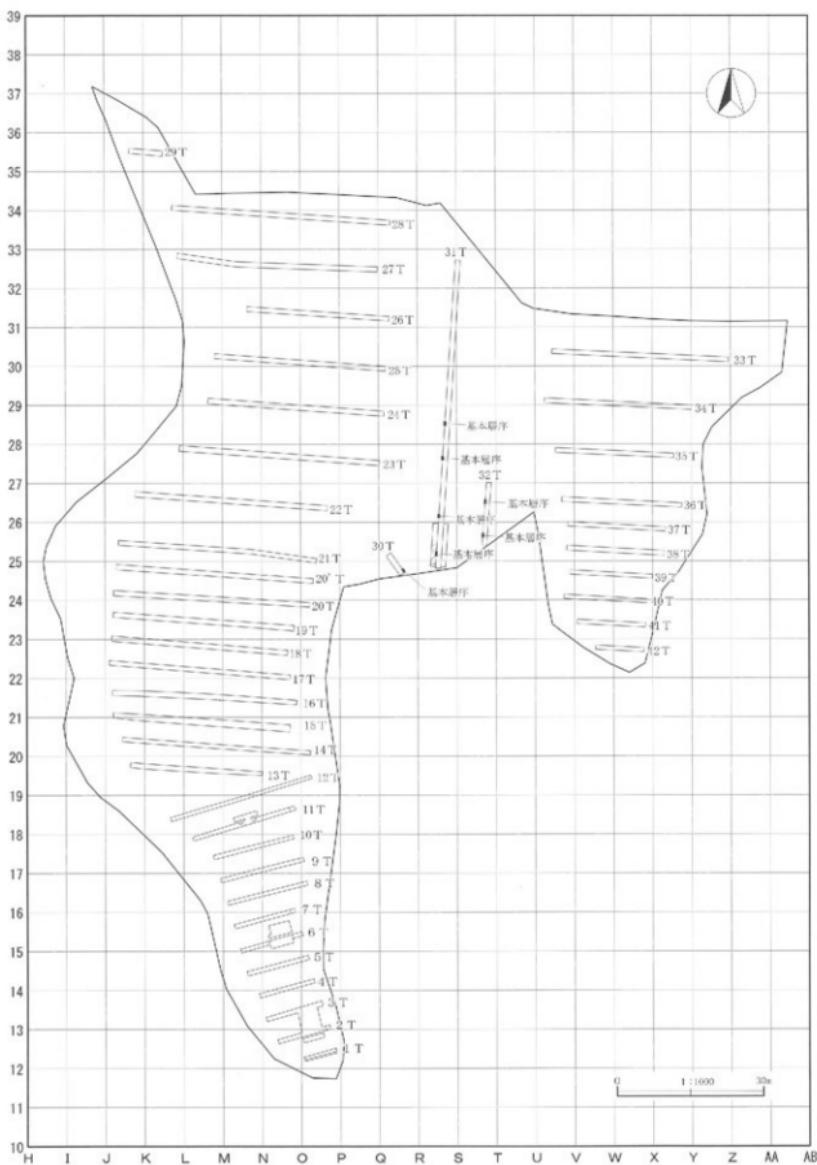
現地の発掘調査は、平成21年10月6日のプレハブ設置、7日より9日にかけての器材搬入、9日の遺跡現況の空中撮影を経て、13日より本格的に開始した。

降雨・降雪による現地調査中止日は、4ヶ月以降に予定される見学会の準備も兼ねて、遺物の洗浄・注記・接合を行っている。また、作業上の安全確保のため、月初めには「安全大会」を実施して、安全意識の向上をはかった。以下、調査日誌抄を掲載する。

10月13日 西台地南部南端よりトレンチ設定(1T~42T)開始。(~19日)。10月20日 本日より作業員が参加して、1Tよりトレンチ調査開始。2Tより弥生土器群出土。周辺を拡張して、土器群の分布範囲を追う。10月23日 弥生土器群(包含層No1十器群)の精査開始。本日より重機によるトレンチ表土掘削開始(~29日)。10月29日 西台地のトレンチ(1T~29T)調査終了。10月30日 谷部のトレンチ(30T~32T)調査開始。谷部の中央を通る31Tでは、縄文時代の遺物包含層の調査となったが、遺物量はそれほど多くはなく、自然流入の遺物と判断されたが、後日(11月26日~12月6日)拡張してこの点を再確認した。11月2日 東台地のトレンチ(33T~42T)調査開始。11月5日 トータルステインションによる1T~17T配置図の地上測量。東台地のトレンチ調査終了。空中撮影に備えて、トレンチ内清掃

11月10日 本日までに西台地南部の遺構調査(弥生土器群、1・2坑)も終え、トレンチ調査終了。(11月16日村教育委員会による西台地南部の終了確認(1T~16Tまで)と第2回空中撮影。午後より、西台地北部北西から重機による表土掘削開始(~12月15日)。11月18日 人

力による遺構確認を西台地北部より開始(~12月2日)。住居址(1~7住)、古墳周溝、十坑、鹿骨器No1、ビット等確認。11月26日 西台地では遺構確認を継続しつつ鹿骨器の精査を先行して行い、東台地北半部では根切り・抜根(~12月9日)、谷部では31Tの拡張開始(~12月1日)。11月30日 グリッド杭打設。地上測量による調査区範囲測量。12月2日 西台地北部の遺構剖面開始(1・2住、古墳周溝等)。本日より表土搬出開始(~12月15日)。12月9日 東台地北半部の抜根・根切りを終わらせ、西台地の遺構調査に合流。12月15日 西台地北部1~5住、周溝(~12月17日)の調査継続。本日中に重機による表土削削・拂土搬出終了。12月17日 西台地北半部の確認遺構配置図(概略図)ほぼ終了。12月22日 グリッド杭打設。本日より遺構の拂土運搬の効率化をはかるため、怪ダンプによる拂土運搬開始。12月25日 遺構調査継続。年末年始の休み(12月26日~1月5日)に向けて、遺跡内の安全管理を徹底。1月6日 東台地北半部の遺構確認開始(~1月14日)。西台地では、4・6・7住の調査継続。1月15日 東台地北半部の遺構調査開始(10・11住)。グリッド杭打設、調査区範囲の地上測量実施。1月27日 東台地北半部の確認遺構配置図(概略図)終了。1月28日 本日までに東台地北半部では12~19住の調査開始。西台地では、引き続き4・7住、十坑、ビット等の調査継続。1月29日 本日までに検出されていた西台地北半部の遺構調査に、ほぼ目途がついたため、中央部の遺構確認を開始。地上測量による西台地北西のビット群(古墳周溝を切るビット群)平面図作成。BM設置。2月4日 東台地では20住調査開始。西台地では1~7住等の調査が終了し、地上測量による7住、5溝等の平面図と遺構配置図作成。2月9日 抜根・根切りと併行して西台地中央部の遺構調査開始。確実な住居址ではなく、土坑が主体。2月24日 西台地北半部北側の調査を終え、中央部の調査に合流。2月25日 中央部南東隅に住居址検出(9住)、周辺を拡張する。3月1日 東台地では、本日までに21・22住調査開始。本日より上曜日も調査を行うこととする。3月3日 6溝(方形区画溝)調査開始(~1月7日)。地上測量による遺構配置図作成。3月4日 西台地中央部では、土坑として調査を開始していた遺構群が獨立柱建物址と判明。残りの柱穴を探査(~3月12日)。9住より「佛」の墨書き土器出土。3月17



第4図 トレンチ設定図

日 東台地では、本日までに 23・24 住調査開始。西台地中央部では、8 住、2 号焼上址調査開始（～4 月 13 日）。
3 月 29 日 空中撮影準備。3 月 31 日 第 3 回空中撮影（西台地中央部）。4 月 13 日 西台地中央部調査終了。本日までに、東台地では 25～27・34 住、西台地では 28・30～33 住調査開始。4 月 21 日 見学会準備（～24 日）。4 月 25 日 見学会開催。多数の見学者が来場し、大盛況であった。5 月 7 日 本日までに、東台地では 35・36 住、西台地では 29・37・38 住調査開始。5 月 8 日 第 4 回空中撮影（東台地南半部）。西台地 4 号焼上より完存の須恵器盤出土。5 月 18 日 地上測量による遺構配置図作成。5 月 19 日 西台地 2 構調査開始。5 月 27 日 谷頭部包含層調査開始（～31 日）。5 月 29 日 第 5 回空中撮影。5 月 31 日 本日までに、東台地 40～42 住、基本上層、西台地 39・43 住・2 構、基本上層の調査を終える。収集準備。6 月 1 日 美濃村教育委員会による最終的終了確認。これをもって全調査終了。

整理作業

整理作業は 6 月 2 日より開始した。遺物の洗浄・注記・台帳作成・検査・修復・実測・トレース・写真撮影と併行して、遺構図の修正・デジタルトレース・遺構図版編集作業を実施した。その後、写真図版作成、原稿執筆を 12 月 16 日まで行った。

調査成果の概要

トレンチ調査（第 1 図）

本調査に先立つトレンチ調査では、幅 1m で 43 本のトレンチを設定しており、そのうち西台地南部では 5m 每の 16 本のトレンチ（1T～16T）を調査した。2T から弥生土器群、6T で第 1 号土坑、11T で第 2 号土坑が検出されたにとどまり、全体的に遺物もごくわずかである。弥生土器群出土地点では、住居址の可能性も考えられたため、周辺を拡張したが、炉や柱穴、床面の痕跡は無く、最終的には一括土器群（包含層 No.1 土器群）として取り上げた。

谷部では、30T～32T の 3 本を設定した。中央の 31T では比較的多くの土器片が出たが、人為的な廃棄行為を示すような出土状況や数量ではなく、同一層位内

も上層の時期にはばらつきがある、谷部埋没過程で上方から流入した土器片と思われる。トレンチ南端部西側の拡張掘り下げの結果でも同様の所見を得ている。

基本層序（第 5 図）

台地平坦部と谷部とでは、堆積土は全く異なるが、同じ層序番号を用いた。遺構断面図中の基本上層は全て平坦部における基本層である。

平坦部 I 層：表土層。II 層：やや赤味のある茶褐色ローム。西台地北部北側を中心分布。遺構確認面、遺物包含。III 層：暗黄褐色ローム。ロームブロックを含まない層で、色調で 2 枚に分層（III' 層）される。上面が遺構確認面、遺物包含。IV 層：暗黄褐色ローム。色調・ロームブロック混入の度合いから 3 枚に分層（IV' 層、IV'' 層）。V 層：灰白色粘質土。粘土層。

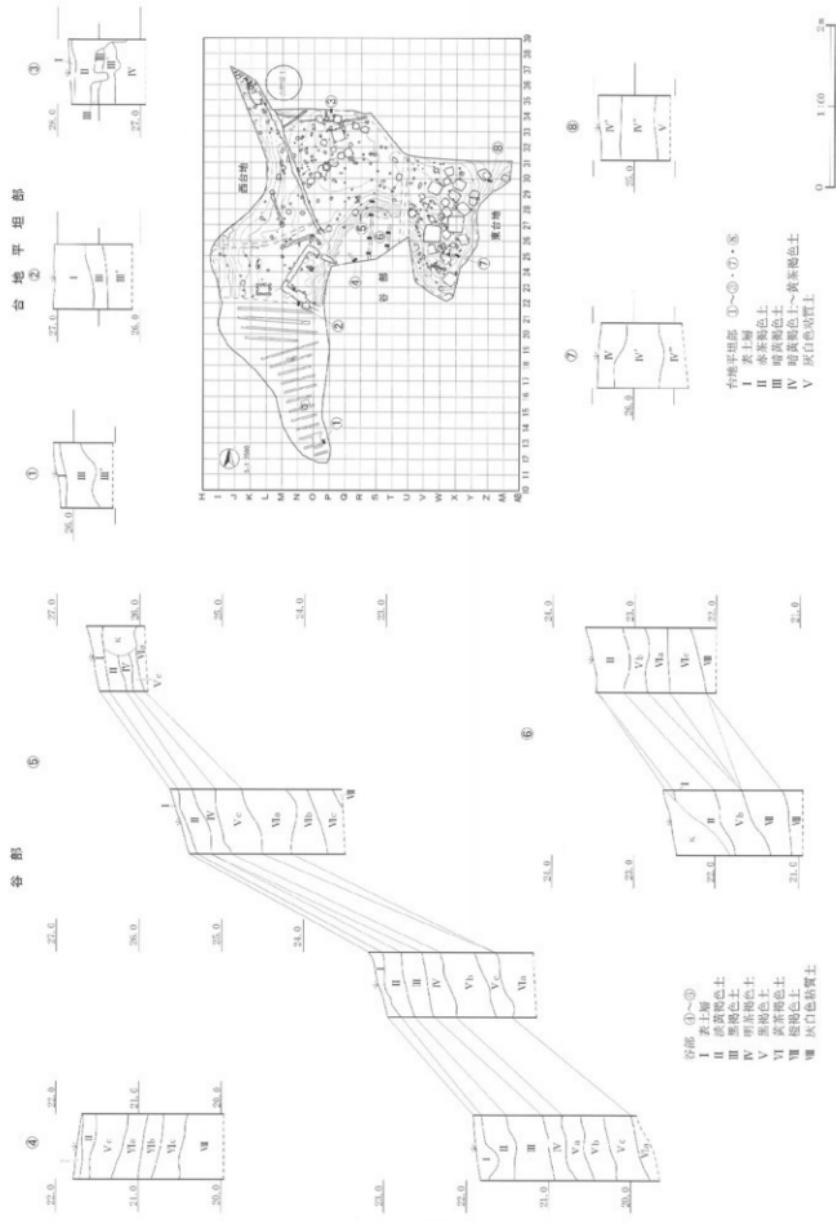
谷部 I 层：表土層。II 层：淡黄褐色土。砂質の流出ローム。III 层：黒褐色土。II・III 层では平安時代や縄文時代の遺物包含。IV 层：明茶褐色土。流出ローム。縄文遺物包含。V 层：黒褐色土。斑状のロームを含む Va 层、斑状の黒色土を含むやや明色の Vb 层、粘性をもつさめの細かい Vc 层。縄文時代の包含層と思われるが、今回の調査では層序の時期を特定できるほどの資料を得ていない。VI 层：黄茶褐色土。流出ロームと思われる。縄まりのある Vla 层、硬質の Vlc 层、その中間の Vtb 层。VII 层：漸移層。VIII 层：灰白色粘質土。平坦部の V 层に相当。

遺跡の概要

今回の調査では、縄文時代～平安時代の遺構・遺物が検出された。遺構は、縄文時代では堅穴住居址 7 軒（前期）、土坑 10 基（中期）、埋甕 1 基（前期前半）、土器集中地点 4ヶ所、弥生時代では堅穴住居址 9 軒（後期）、土器集中地点 1ヶ所、古墳時代では堅穴住居址 9 軒（前期）、古墳周溝 1 基分、平安時代では堅穴住居址 18 軒、掘立柱建物址 1 棟、土坑 2 基、焼土址 1 基、方形区画溝 1 基、蔵骨器 3 基、時期不明の土坑 201 基、溝状遺構 8 条、焼土址 7 基、ビット 161 本である。

遺物は、早期中葉～後期前半の縄文土器や石器・石皿等の石器、後期の弥生土器や纺錘車、古墳時代前期の土器、須恵器・土師器・刀子・釘などの平安時代遺物がある。

第5图 基本剖面





第6図 遺跡全体図

III 検出された遺構と遺物

1. 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の概要

縄文時代の遺構としては、堅穴住居址と土坑、壇甕が検出されている。堅穴住居址 7 軒はいずれも前期の住居址で、形状から前期前半と考える第 43 号住居址は遺物が少ないうえに、掘り込みも浅く、時期決定には不安が残る。いずれにしろ、縄文時代の堅穴住居址は西台地北端にまとまり、中央部や南端、東台地には検出されていない。土坑のうち、遺物が豊富で、確実に縄文時代と思われる上坑は 8 基であり、その他 2 基は主として覆土や掘り込み状態から縄文時代としたものである。後者の基準では、まだ数基の土坑がこの時代に含まれると思われるが、「IV その他の遺構」に一括して掲載した。この時代の確実な土坑は、いずれも中期中葉～後葉に属し、堅穴住居址と同じく西台地北端に展開するが、全体的にみると点々と散在するような分布状況である。前期前半の埋甕は、ただ 1 基東台地北端部にある。この他、中期後半の土器集中点が 4ヶ所ある。西台地の西斜面地に 3ヶ所、東斜面地に 1ヶ所である。

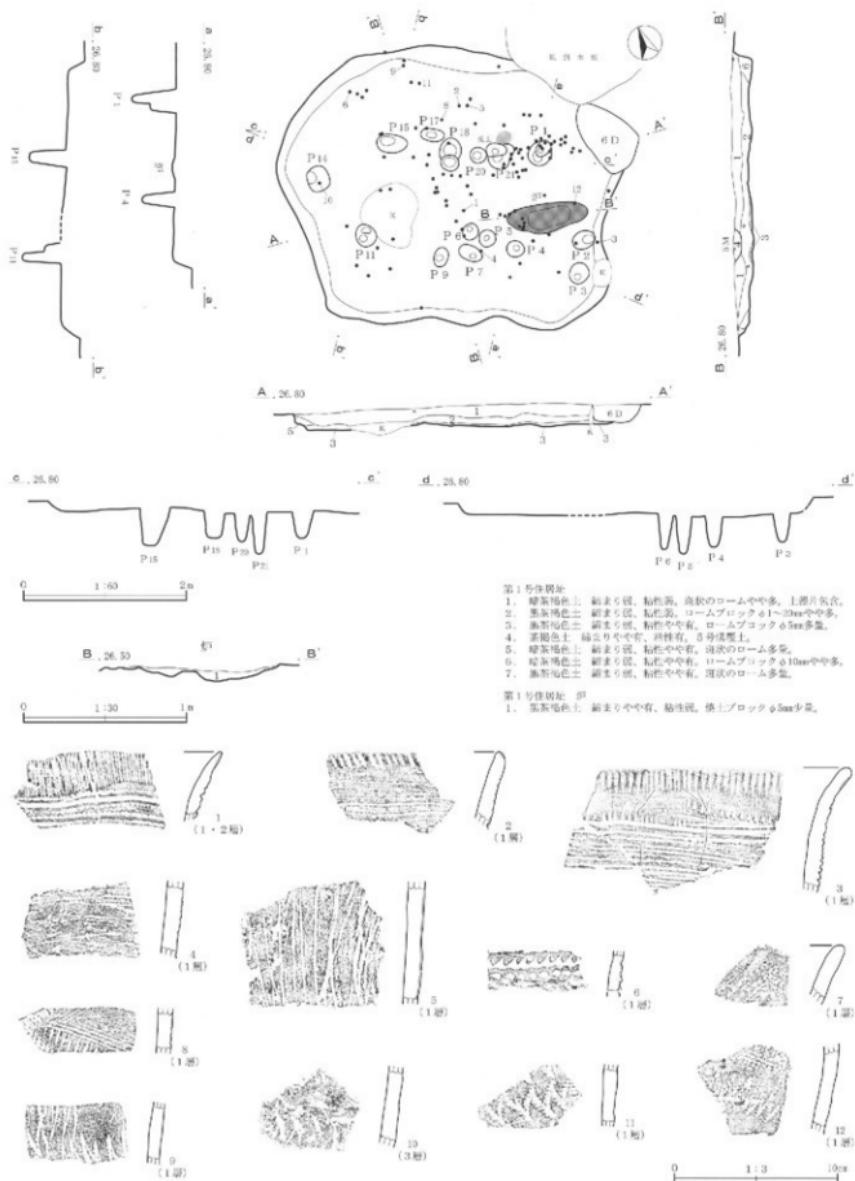
遺物は、土器、石器、上製品である。U29 グリッドより北東側のグリッドについては、現代の宅地跡として削平を受けており、その周辺の遺物の散布状況は、削平工事の際の擾乱の影響を考慮する必要がある。土器は早期中葉から後期前半のもので、前期後半が上体を占め、ついで中期中葉・後半が多い。石器には、石鏃・石錐・石匙・打製石斧・磨石・凹石・石皿の他、剥片・チップ類があるが、量的には少ない。

堅穴住居址

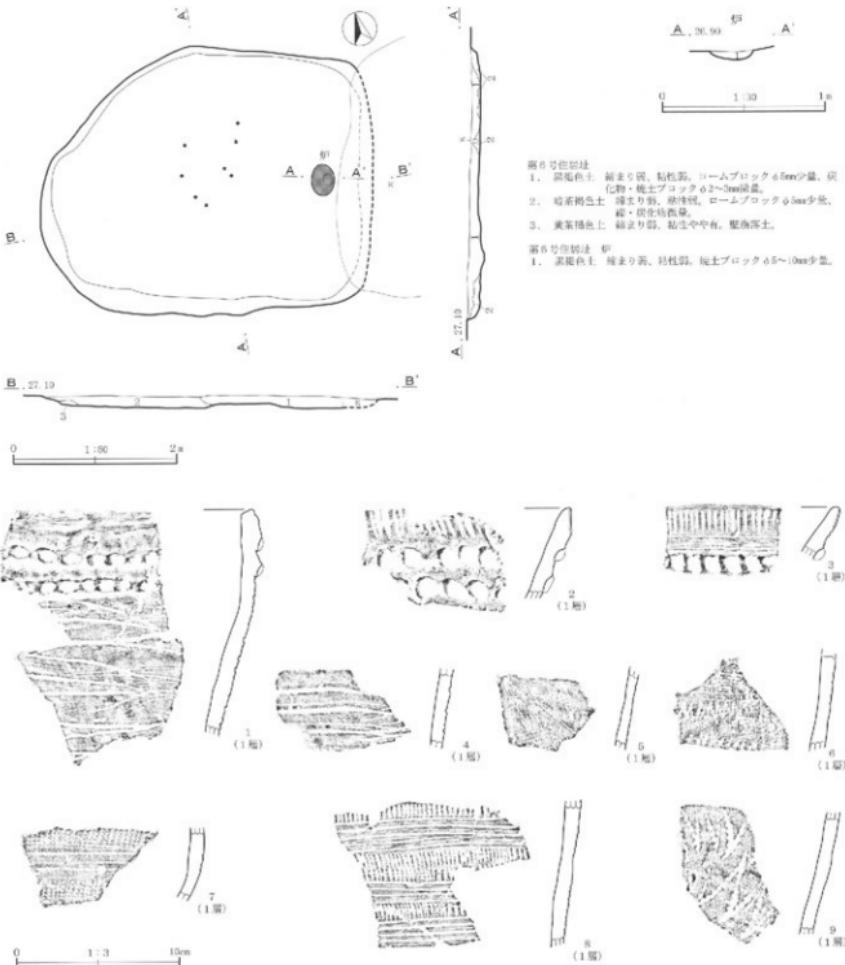
第 1 号住居址（第 7 図、図版 4・42）

グリッド O33。遺存・重複。西台地北寄りにある。第 5 号溝状遺構と第 6 号土坑に切られる。住居址北東側を

倒木痕で破壊されている。さらに、住居址南側でも木の根倒れがあり、壁の検出を難しくした。形状・規模 長軸を東西にもつ梢円形。上面径 4.00×3.32m、床面径 3.78×2.92m、最大壁高 0.22m、床面積 11.04 m²。床面・掘り方 掘り方にコーム土を敷いて床面とし、硬化面は無い。炉 炉は 1 基あり、住居址南東よりにある。床面上に上面径 0.98×0.36m、深さ 8 cm の浅い梢円形の窪みを掘って作られ、使用面は、赤化して硬化している。炉覆土には焼上がブロック状に混じっている。さらに、住居址北東より、直径 18cm の円形の赤化した硬化面が床面上に見られた。これも炉として利用されていた可能性がある。炉の覆土からは縄文上器胸部片 2 点、剥片石器 1 点が出た。住居内施設 柱穴が 15 本ある。深さは、P 1-32 cm、P 2-30 cm、P 3-35 cm、P 4-37 cm、P 5-45 cm、P 6-38 cm、P 7-58 cm、P 9-35 cm、P 11-46 cm、P 14-47 cm、P 15-43 cm、P 17-47 cm、P 18-50 cm、P 20-31 cm、P 21-50 cm。柱穴平面配置から、住居址上部構造を支える柱穴列が東西方向に 2 列伸びていたと推測される。柱穴の覆土には黒茶褐色土と灰色がかった黄褐色土のものがあり、第 1 号住居址は 1 度建て替えられた可能性がある。出土遺物 本遺跡の縄文時代の住居址の中ではもっとも遺物が出土した。住居址の 1・2・4・7 層と柱穴から遺物が出土しているが、大半は 1 層から出土した。1-12 の土器片は、4 を除き、縄文時代前期後半の土器であると考えられる。1 は深鉢の口縁部で、口縁部に縦の条線を引き、横方向に有節の沈線と刺突文が施文された土器で、興津 I 式。2 は口縁部に縦方向の沈線、さらにその下に横方向の半截竹管状工具による平行沈線のある浮島式。3 は、深鉢の口縁部で、口縁部に縦の条線を引き、横方向に半截竹管状工具による平行沈線と有節の平行沈線と刺突文が施文された土器で、興津 I 式と考えられる。4 は、横方向に擦痕が見られ、沈線が入った胸部片。やや薄い黄褐色で、白色の粒子や礫が含まれ、密度の粗い



第7図 第1号住居址



第8図 第6号住居址

胎土を考慮すると、撚糸文系土器と沈線文系土器の間に位置する早期中葉の土器であると考えている。5は、縱方向に沈線の引かれた深溝の胴部片。6は三角文と輪積み痕の見られる浮島式の胴部片。7は波状口縁を持つ破片で、沈線と貝殻縞文が見られ、奥津II式の可能性がある。8も同じく沈線と貝殻文をもつ奥津II式の胴部

片。9~11は、波状貝殻文を施された胴部片。12は、へラ削りされた後、波状貝殻文が施された胴部片。他に出土した遺物で時期が特定できたものは、1層からは、前期前半の口縁部片1点・胴部片2点、前期後半の口縁部片15点・胴部片74点、中期の胴部片2点、さらに土師質の高台杯の底部片1点・杯の口縁部片1点、土師器

の壺の口縁部片1点、剥片石器7点が出土。2層からは、前期後半の口縁部片6点・胴部片21点、3層からは前期後半の胴部片3点、7層からも前期後半の胴部片2点が出土。柱穴では、P14・17・18・20・21から遺物が出土した。時期が特定できたのはP14出土の胴部片2点とP17出土の胴部片1点で、いずれも縄文時代前期後半のもの。P14出土の胴部片2点のうち1点は底面で出土した。**備考** 最下層の3層や柱穴から縄文時代前期後半の土器片が出土し、覆土から出土した大半の土器も同じ前期後半の、浮島Ⅲ、興津Ⅰ、興津Ⅱ、粟島台式のものである。従って、本住居址も同時期に利用された可能性が高いと考えている。

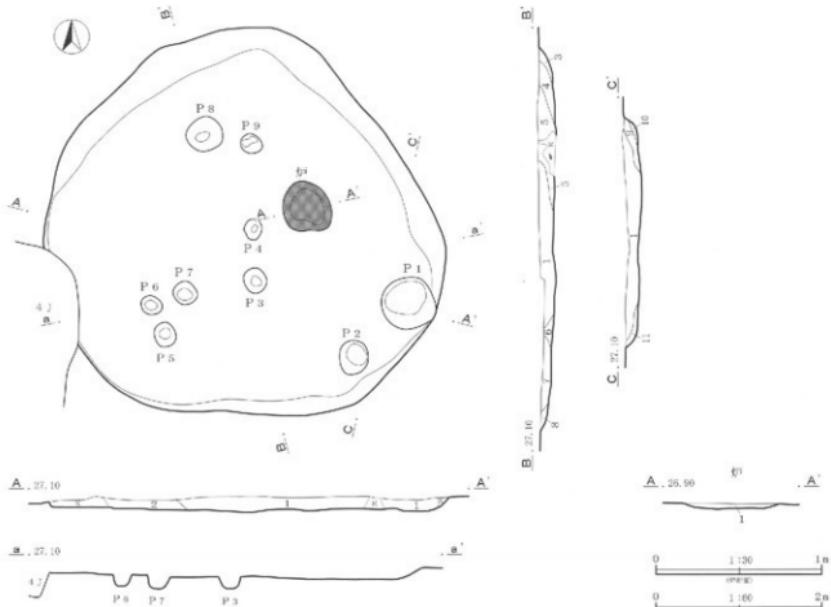
第6号住居址（第8図、図版5・42）

グリッド R33。遺存・重複 西台地北東寄りにある。住居址東側を木の根攪乱によって破壊されている。さらに、住居址北西部と南西部にも木の根攪乱が入り、住居址域の検出を難しくした。**形状・規模** 長軸を東西にもつ台形。上面径4.06×3.26m、床面径3.76×3.00m、最大壁高0.18m、床面積11.28m²。床面・掘り方 掘り方にローム土を敷いて床面とし、硬化面は見られない。**炉** 住居址東よりにある。上面径0.28×0.38m、深さ11cmの楕円形。焼土の量は少ない。**住居内施設** 柱穴・周溝は検出できなかった。**出土遺物** 土器が出土したのはすべて1層からである。1～9は、全て縄文時代前期後半の土器である。1は、深鉢の破片で、2段の輪積み底に凹文が施され、横方向の沈線が胴部に引かれている。浮島式と思われる。2・3は、深鉢の口縁部で、口縁部に縦の条線を引き、輪積み底に横からの刺突を施したもので、3には、横方向の沈線が加わる。4は横方向に半截竹管状工具による平行沈線の描かれた胴部片。5と6は、半截竹管状工具による平行沈線が縦と横方向に施され、6は波状貝殻文が見られる。7・8は、平行沈線と貝殻腹縁文が施された、興津Ⅱ式の深鉢の胴部片。9は、波状貝殻文を施された胴部片。さらに、同じ1層出土で、時期が前期後半と特定できた土器片は、口縁部片4点・胴部片17点である。石器では黒曜石の剥片が1点、磨石らしいものの破片が1点出土している。**備考** 1層から出土したものは前期後半の上器である。第6号住居址周辺で出土しているのも同じ前期後半の土器が中心である。この

ことから、第6号住居址は縄文時代前期後半に属するものであると考えている。

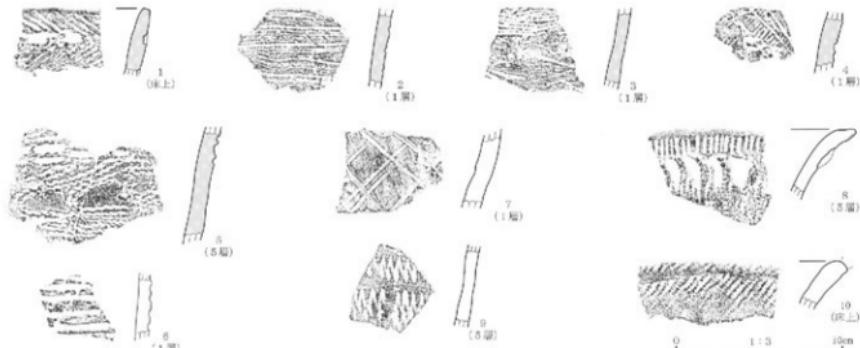
第31号住居址（第9図、図版14・43）

グリッド P・Q31。遺存・重複 西台地北東寄りにある。住居址北西側の上部は、農道によって壊されていた。さらに、住居址南西部を、第4号住居址（平安時代）によって切られている。南部と南東部には木の根攪乱が入り、住居址の堀を一部壊していた。**形状・規模** 長軸を東西にもつ円形。上面径4.82×4.76m、床面径4.62×4.34m、最大壁高0.24m、床面積29.05m²。床面・掘り方 掘り方にローム土を敷いて床面とし、硬化面は見られない。**炉** 住居址床面北東よりにある。上面径0.59×0.65m、深さ2cmの楕円形。焼土の量は多く、使用面は赤化しているが、硬化はしていない。**住居内施設** 柱穴が9本ある。深さは、P1-26cm、P2-10cm、P3-11cm、P4-9cm、P5-10cm、P6-13cm、P7-13cm、P8-50cm、P9-32cm。**出土遺物** 1～5は胎土に織紋を含む前期前半の土器片である。1は、無筋の羽状網文が施され、ヘラ状T工具による刺突が横方向に加えられている口縁部片。2は、3本歯の櫛状T工具と、半截竹管状工具による平行沈線で文様が描かれた胴部片。3は、掘りの異なる繩を巻いた撚糸文が見られる胴部片。4は、無筋Lの網文に沈線が描かれた胴部片。5はヘラ状工具による横方向の刺突と、R巻きの木目状撚糸文が見られる胴部片。6は、早期中葉の沈線文系土器。薄い黄褐色で、白色の粒子や礫を多量に含み、密度の粗い胎土を持つ。7は交差するように沈線が描かれた胴部片で、前期後半のものか。8は、口縁部に縦の条線が引かれ、胴部に貝殻腹縁文と貝殻刺突文が見られる土器で興津式と考えられる。9は波状貝殻文を持つ胴部片で、10は、LR網文が施された口縁部で、胎土に砂や礫を多量に含む。いずれも前期後半の土器片であると考えている。他に時期が特定できる上器片は、1層から出土したものでは、前期前半の胴部片3点、前期後半の胴部片7点、4層からは前期前半の胴部片5点である。さらに、5層からは前期前半の胴部片1点、前期後半の口縁部片1点である。覆土の一括として採取したのは、前期前半の口縁部片2点・胴部片34点・底部片2点、前期後半の口縁部片1点・胴部片9点である。**備考** 覆

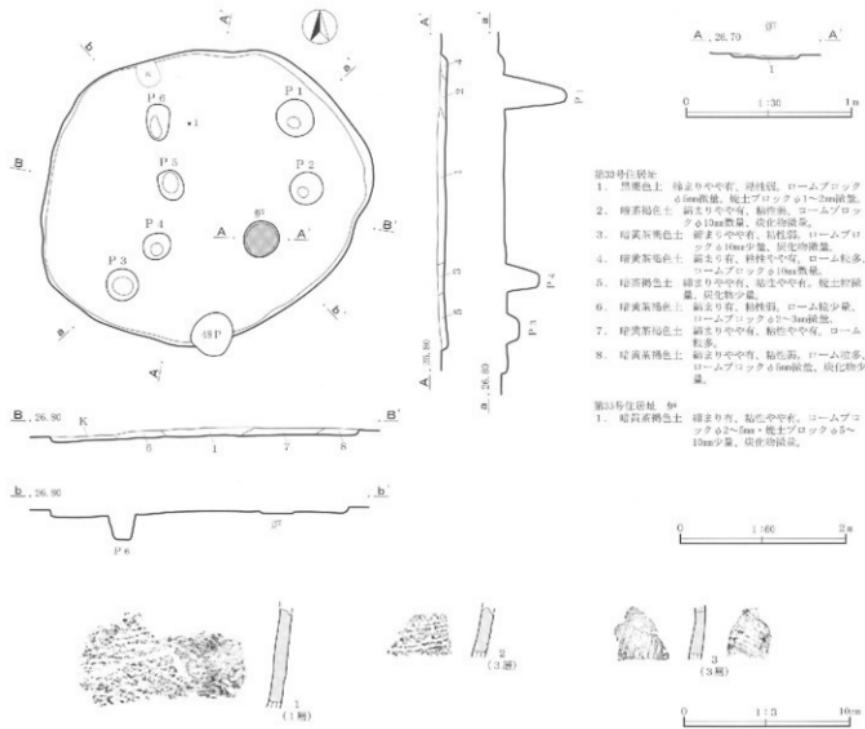


- 第31号住居址
1. 高泥炭土 硬まり有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 2\sim5\text{mm}$ ・堆土ブロック $\phi 2\sim3\text{mm}$ 数箇、底状のローム少箇。
 2. 堆茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 5\text{mm}$ ・既成のローム・堆土ブロック $\phi 1\sim4\text{mm}$ ・炭化物無量。
 3. 堆茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ローム少箇。
 4. 苔褐色土 硬まり有、粘性や有。底状のローム微量。
 5. 苔褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 2\sim10\text{mm}$ ・堆土ブロック $\phi 1\sim2\text{mm}$ 少箇、底状のロームやや多。
 6. 堆茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。底状のロームやや多。
 7. 堆茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 3\sim5\text{mm}$ ・底状のローム・堆土ブロック $\phi 2\sim5\text{mm}$ 少箇。
 8. 堆茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。底状のローム・堆土ブロック $\phi 1\sim2\text{mm}$ 少箇。
 9. 堆茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 2\sim5\text{mm}$ ・底状のローム少箇、堆土ブロック $\phi 1\text{mm}$ ・炭化物無量。
 10. 堆茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 1\sim2\text{mm}$ 少箇。
 11. 堆茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ローム少箇。

- 第31号住居址 枝
1. 堆茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 20\text{mm}$ ・堆土ブロック $\phi 20\sim50\text{mm}$ 多箇、炭化物 $\phi 1\sim5\text{mm}$ 少箇。



第9図 第31号住居址



第10図 第33号住居址

土と住居址周囲からは、縄文時代前期後半と思われる土器片も出土するが、織維を含む縄文時代前期前半のものと思われる土器片のほうが多い。埴土に織維を含むので土器表面の文様がはっきりしなくとも前期前半の土器片の時期を特定しやすいことを考えれば、時期が特定できなかった土器片の中に前期後半の土器片が多く含まれている可能性が高く、第31号住居址の前期前半と前期後半の土器出土量は、変わらない可能性が高い。しかしながら、前半の住居址とを考えられる第1号・第6号住居址では、前期前半と思われる織維を含む土器片が殆ど出土していない。従って、第31号住居址から出土の前期後半の土器は、第1号・第6号住居址が利用された際に流入したものと考えれば、第31号住居址の時期を縄文時代前期前半に属すると結論つけるのは妥当だと思われる。

第33号住居址 (第10図、図版15・43)

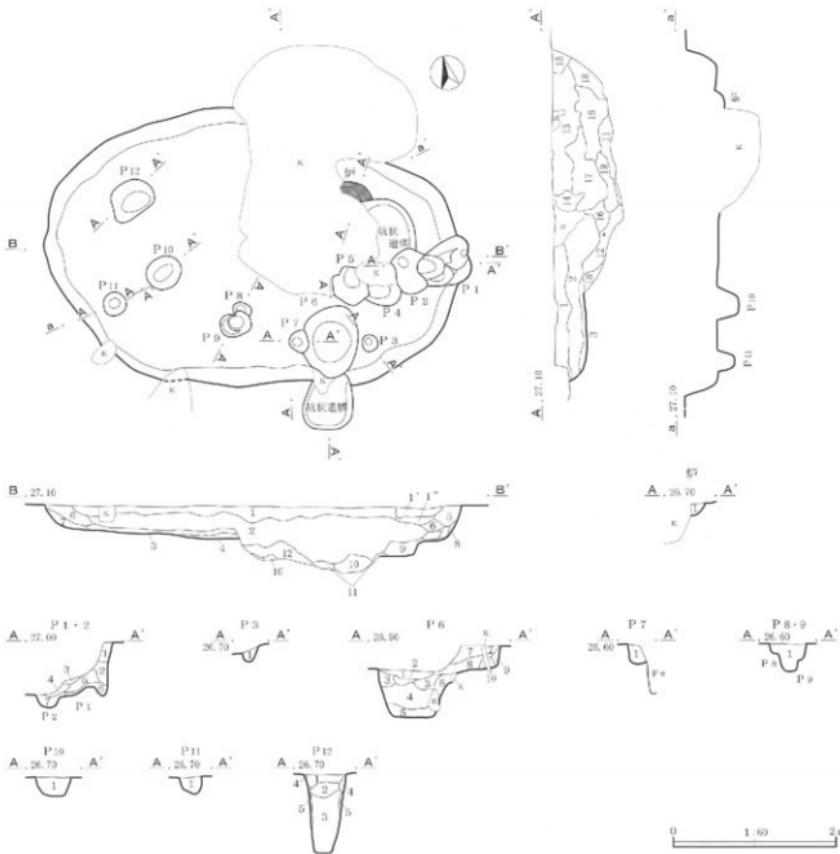
グリッド N29. 遺存・重複 西台地北東寄りにある。住居址西側と南側は、木の根搅乱によって住居址の壁が不明瞭であった。住居址南側で、48Pが本住居址を切っている。形状・規模 長軸を東西にもつ円形。上面径3.86×3.66m、床面径3.82×3.60m、最大壁高0.11m、床面積13.75 m²。床面・掘り方 ローム層を地床としている。床面は周囲のローム層よりは継まっているが、硬化は部分的である。**炉** 住居址南東よりにある。上面径0.42×0.38m、深さ11cmの楕円形。埴土の量は少ない。住居内施設 柱穴は6本である。深さは、P1-72cm、P2-52cm、P3-14cm、P4-38cm、P5-6cm、P6-32cm。出土遺物 遺物の出土量はとても少ない。土器は1層と3層から出土している。I・2は織維を含み、縄文時代前期前半

の土器と考えている。1は、外側は磨耗し、一部は剥離しているが、縄文が施された胴部片。2は、LR縄文に半截竹管状工具による有筋の平行沈線が描かれている胴部片。3は、外側に条底文、内側に擦痕が見られる十器片で、早期後半のものと考えている。これ以外で、時期が特定できる上器片では、1層から、前期前半の胴部片4点、中期の胴部片1点、3層からは前期前半の胴部片3点が出土した。備考 第33号住居址から出土し、表面がナデの調整か、縄文が施文されるのみで、時期が特定できない胴部片は5点あり、それ以外の山上上器片はすべて織維の含む十器片で、図示してある3を除き、前期前半の十器片と考えられる。従って、この第33号住居址も、縄文時代前期前半の時期に属するものであると考えている。

第37号住居址（第11・12回、図版16・43）

グリッド P30・31。遺存・重複 北壁からの床面、がの一部が倒木痕で破壊され、床面が坑状の掘り込みに、南壁の一部が第38号住居址に切られる。形状・規模 長軸を東西にもつ橢円形で、掘り込みは比較的深い。上面径5.10×3.44m、床面径4.68×3.00m、最大壁高0.44m、床面積14.04m²。床面・掘り方 ローム層を床面としており、貼床はない。壁全体を除き全体的によく締まるが、とくに硬質面はみられない。炉 床面北東部に寄っている。焼上量は少ないが、底面はよく焼けて赤化している。住居内施設 柱穴は10本。深さは、P1-16cm、P2-64cm、P3-22cm、P6-58cm、P7-24cm、P8-12cm、P9-34cm、P10-23cm、P11-21cm、P12-97cm。出土遺物 床面直上の遺物はない。また、住居址覆土中の上器と床面を切る上坑内の土器との分別ができる、ここでは一括として扱っておく。遺物の出土量は第1号住居址に次いで多い。遺物が出土したのは2層からが大半で、他にP6と倒木痕から出土している。1は織維を含む十器片で、単節RL縄文に竹管による円形刺突文が見られる。前期前半の土器と考えられる。2~12は前期後半の上器と考えている。2は半截竹管状工具による、平行沈線文と連続爪形文が描かれた奥津1式の胴部片。3は、半截竹管状工具により、口縁部に縦方向の沈線と胴部に横方向の平行沈線、さらに刺突文が施されている深鉢の破片。4は輪積み痕と刺突文、平行沈線のある口縁部片。5は口唇部を刺突することによって波状口縁を作り出している

鉢の破片で、外側に波状貝殻文と平行沈線が見られる。6は、沈線間に半截竹管状工具による刺突列が加えられた奥津1式で、沈線と貝殻腹縫文がみられる。7は、興津II式の胴部片。8は、半截竹管状工具による平行沈線が施された深鉢の胴部片。9・10は波状貝殻文のある胴部片。11・12は無節縄文Lを使った結節文の見られる破片で、栗島台式か。13~15は中期前半の十器片。13は押し引き手法による区画内に三角形印刻文が施される口縁部の突起で、瓦瀬ヶ台式の鉢の破片と思われる。14は陣帶に沿って角押文一列が施された、阿生台1式の胴部片。15は、輪積み痕を残し、胎土に、白色粒・金雲母粒を含む胴部片。阿玉台式のものか。2層から出土した上器片で、他に時期が特定できるものは、早期中葉の十器片1点、前期前半の十器片が口縁部片1点・胴部片34点、前期後半の七器片が口縁部片6点・胴部片56点、中期前半の口縁部片1点・胴部片3点、士師質の坏底部片1点、士師器の坏の口縁部片1点・胴部片1点、士師器裏の胴部片2点。P6からは、前期前半の胴部片1点、前期後半の口縁部片1点、士師質の坏の胴部片1点。更上一括として取り上げた遺物は、前期前半の胴部片1点、前期後半の胴部片1点、中期前半の口縁部片2点、上師質の坏の胴部片1点。さらに、倒木痕からは、前期前半の胴部片3点、前期後半の口縁部片1点・胴部片2点、上師質の坏の口縁部片1点、上師器の壺の胴部片6点・底部片1点が出土した。備考 十坑とともに前期後半と思われる。P6は坑状の深い掘り込みで単独の土坑の可能性もあるが、住居址との切り合いは確認することができず、ここでは住居址に伴うピットとしておく。この種の円形の掘り込みには、単独の十坑として第37号土坑がある。第37号住居址の2層からは、早期から古代までの遺物が出土しているが、倒木痕が広範囲にわたって住居址の覆土堆積状況に影響を与えていたため、2層出土遺物が本住居址に伴う遺物であるかどうか断定はできない。出土遺物では、縄文時代前期の土器が多い。織維を含むゆえ、胎土から時期を特定しやすい縄文時代前期前半の土器片の数は、文様から時期を絞り込んでいる前期後半の土器片より数が少ない。従って、本住居址から出土した上器片において、時期を特定できなかった遺物の中で、前期後半の土器片の数はかなりの量を占めると思われる。このことから、第37号住居址の時期は、縄文時代前期後



第37号住居地

1. 黒灰色土 硬まり有、粘性やや有。赤茶ローム多量。硬状のロームやや多。
2. 黒灰色土 硬まり無、粘性やや有。赤茶ローム少量。硬状のロームやや多。
3. 黑灰色土 硬まり無、粘性有。赤茶ローム少量。硬状のロームやや多。
4. 黑灰色土 硬まり有、粘性やや有。黄ローム少量。黄ローム少量。
5. 黑灰色土 硬まり有、粘性有。1層に黄ローム少量。
6. 黑灰色土 硬まり有、粘性有。黄ロームブロック約1mm少量。
7. 黑灰色土 硬まり有、粘性有。黄ロームブロック約1mm少量。
8. 球状黃色土 硬まり有、粘性やや有。黄ロームブロック約1~5mm少量。黄ローム泥状やや多。
9. 球状黃色土 硬まり有、粘性有。赤茶ローム少量。黄ローム少量。
10. 黄褐色土 硬まり有、粘性有。黄ロームブロック約1mm少量。黄ローム少量。黄ロームブロック約10~30mm微量。
11. 球状黃色土 硬まり有、粘性やや有。黄ロームブロック約0~5mm。黄ローム少量。
12. 黄褐色土 硬まり有、粘性やや有。黄ロームブロック約10mm微量。黄ローム少量。
13. 黄褐色土 硬まり有、粘性やや有。黄ロームブロック約10~50mm微量。黄ローム少量。
14. 球状黃色土 硬まり有、粘性やや有。黄ローム少量。赤茶ローム少量。
15. 球茶色土 硬まりやや有、粘性やや有。黄ロームブロック約1mm微量。赤茶ローム少量やや多。

16. 球茶色土 前述も有、粘性有。黄ロームブロック約10~20mm。黄ローム辺少量。黄ロームブロック約10mm微量。硬状のローム・赤茶ローム少量や多。
17. 球茶色土 前述も有、粘性やや有。黄ロームブロック約10~50mm少量。黄ローム粒多。
18. 黄褐色土 前述も有、粘性やや有。黄ロームブロック約10~80mm。黄ローム粒多量。
19. 球茶色土 前述も有、粘性有。赤茶のローム・黄ローム粒少量。赤茶ローム粒や多。

第37号住居地 P 1, P 2

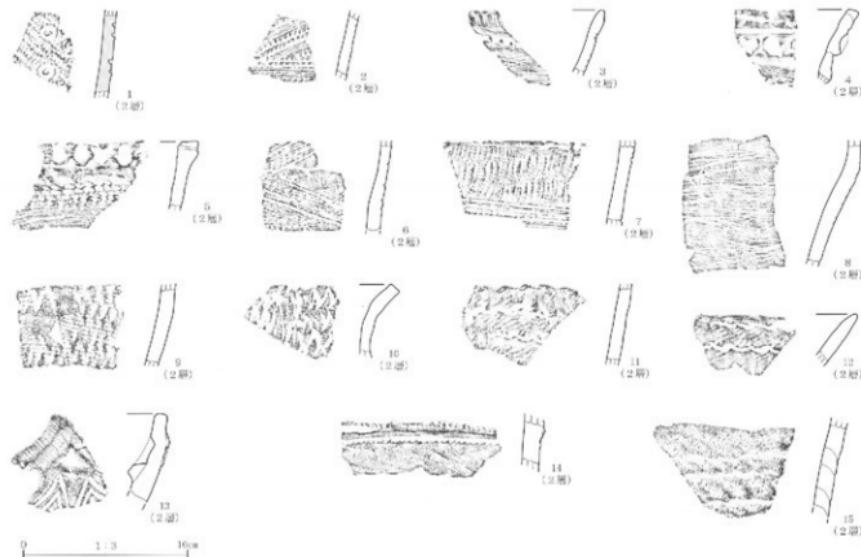
1. 球茶色土 硬まりやや有、粘性やや有。赤茶ローム少量や多。
2. 球茶色土 硬まりやや有、粘性やや有。黄ロームブロック約1~2mm少量。黄ローム粒多量。
3. 其他色土 硬まりやや有、粘性やや有。黄ローム粒約1mm少量。
4. 球茶色土 硬まりやや有、粘性やや有。黄ロームブロック約5mm微量。黄ローム粒やや多。
5. 球茶色土 前述も有、粘性やや有。黄ロームブロック約1~5mm微量。黄ローム泥やや多。道状のローム少量。
6. 球茶色土 硬まりやや有、粘性やや有。黄ロームブロック約1~5mm少量。黄ローム粒やや多。
7. 球茶色土 前述も有、粘性やや有。黄ロームブロック約5mm少量。硬状のローム少量。黄ローム粒や多。

第37号住居地 P 3, P 7~P 11

1. 球茶色土 前述も有、粘性有。黄ロームブロック約1mm微量。黄ローム粒少量。黄ローム团状。

第11図 第37号住居地（1）

- 第37号住居址 P 6
1. 黒茶色土 線まり有、粘性やや有。黄ローム粒・斑状のローム少量。
 2. 黒茶色土 線まり有、粘性有。1層細層。
 3. 黒茶色土 線まり有、粘性有。黄ローム粒や多量。
 4. 黒茶色土 線まり有、粘性有。黄コームブロックφ1mm微量。黄ローム粒・斑状のローム少量。
 5. 暗褐色土 線まり有、粘性有。黄ロームブロックφ1~5mm・斑状のローム少量。黄ローム粒や多量。
 6. 暗褐色土 線まり有、粘性有。黄ローム粒多。
 7. 暗褐色土 線まり有、粘性有。黄コーム粒・斑状のローム少量。
 8. 暗褐色土 線まり有、粘性有。黄ローム粒や多量。
 9. 黑褐色土 線まり有、粘性有。黄ロームブロックφ5mm微量。黄ローム粒や多量。
 10. 黑褐色土 線まり有、粘性やや有。黄ロームブロックφ10~20mm微量。黄ローム粒や多量。
 11. 黑褐色土 線まり有、粘性やや有。黄ローム粒や多量。
 12. 黑褐色土 線まり有、粘性やや有。黄ローム粒や多量。
 13. 黑褐色土 線まり有、粘性やや有。黄ローム粒や多量。
 14. 黑褐色土 線まり有、粘性やや有。黄ローム粒や多量。
 15. 黑褐色土 線まり有、粘性やや有。黄ローム粒や多量。



第12図 第37号住居址（2）

半に属する可能性が高いと考えている。

第39号住居址（第13図、図版16・44）

グリッド O30。遺存・重複 西台地北寄りにある。住居址西側の壁を木の根掘乱によって破壊されている。さらに、第30号住居址、第38号住居址、第203号土坑、第215号土坑に切られている。形状・規模 長軸を南北にもつ梢円形。上面径4.74×6.34m、床面径4.62×6.14m、最大壁高0.20m、床面積28.37m²。床面・掘り方 コーム層を地床としている。床面の硬化は部分的である。炉 住居址南西よりにある。上面径0.76×0.98m、深さ5cmの梢円形。炉の周囲には焼土粒子・炭化物が散らば

- 第37号住居址 P 12
1. 黒茶色土 線まりやや有、粘性やや有。黄ロームブロックφ6mm微量。黄ローム粒少量。
 2. 黒茶色土 線まりやや有、粘性有。黄ロームブロックφ10mm微量。黄ローム粒少量。
 3. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ロームブロックφ1~5mm・斑状のローム少量。
 4. 黒茶色土 線まりやや有、粘性やや有。黄ロームブロックφ10~20mm微量。黄ローム粒多。
 5. 細撮色土 線まりやや有、粘性弱。黄ロームブロックφ1~5mm微量。黄ローム粒少量。

6. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒多。

7. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

8. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

9. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

10. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

11. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

12. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

13. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

14. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

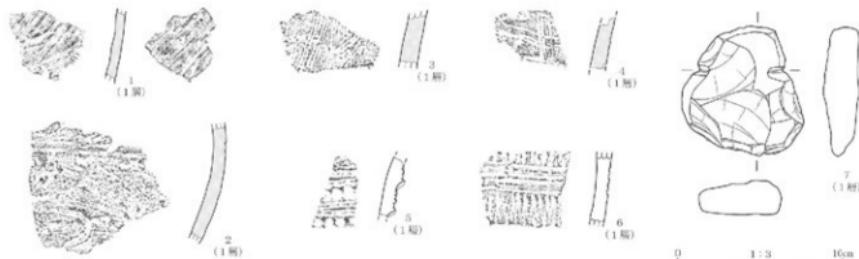
15. 黒茶色土 線まりやや有、粘性少。黄ローム粒や多量。

っている。住居内施設 柱穴は12本である。深さは、P 1-14cm、P 2-61cm、P 3-39cm、P 4-14cm、P 5-12cm、P 6-11cm、P 7-30cm、P 8-15cm、P 9-9cm、P 10-12cm、P 11-9cm、P 12-28cm。出土遺物 遺物はすべて1層から出土している。1は外面が条痕文、内面に擦痕が施された繊維を含む破片で、早期終末のものと考えられる。2~4は前期前半の土器。2はヘラ状工具による沈線と、擦りの異なる綿を巻いた撚糸文が施された繊維を含む胸部片。3は、2と異なり、外側をナデ調整した後、し巻きの木目状撚糸文が施された繊維を含む土器片。4はヘラ状工具で沈線が施された繊維を含む上器片。5~6は前期後半の土器。5は半截竹管状工具によって有節の平行沈線

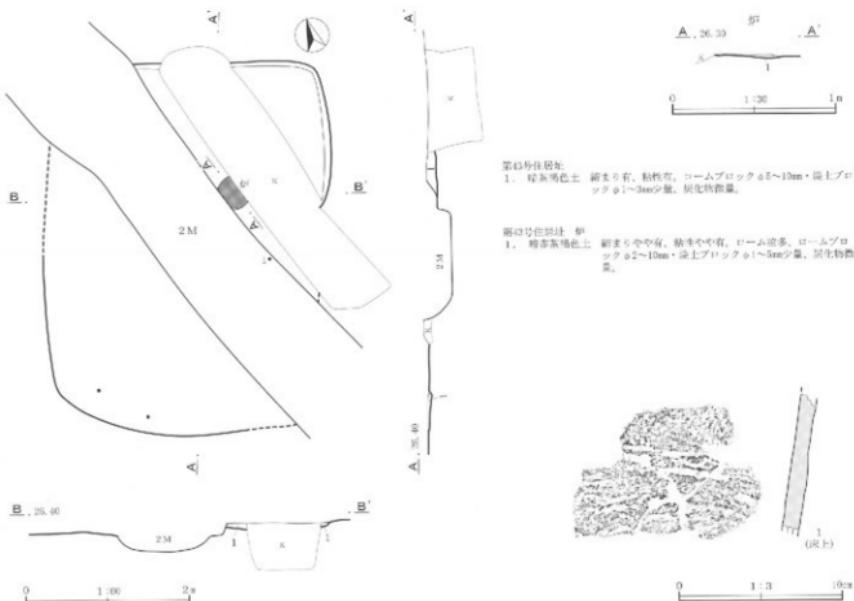


- 第39号住居址
 1. 緑青茶褐色土 塗りやや厚、泥性やや有、ロームブロックφ5mm程度、斑状のローム多、底土ブロックφ10mm程度。
 2. 黒褐色土 線まり弱、粘性有、ローム粒多。
 3. 緑青茶褐色土 塗りやや厚、泥性有、ロームブロックφ5mm程度、ローム粒多。
 4. 緑青茶褐色土 塗りやや厚、泥性やや有、底土中等、底土ローム粒少。
 5. 黑褐色土 塗りやや厚、泥性有、ローム粒多。
 6. 黑褐色土 塗りやや厚、粘性やや有、ローム粒少。
 7. 緑青茶褐色土 塗りやや厚、泥性やや有、ローム粒多。

- 第39号住居址
 1. 緑青茶褐色土 塗りやや厚、粘性有、ロームブロックφ10mm、ローム粒・換土ブロックφ2~10mm、底土少量、炭化物φ2~5mm程度。



第13図 第39号住居址



第14図 第43号住居址

文が施され、輪積み瓶に刺突文が見られる興津I式。6は貝殻腹縫文が施された外面に、ヘラ状工具によって沈線が横方向に施された興津II式の胴部片。7は石鍬。他に時期が特定できる土器片は、前期前半と推定される口縁部片1点・胴部片10点、前期後半の口縁部片1点・胴部片4点、中期の胴部片5点、土師器の甕口縁部片1点・胴部片3点、須恵器の焼胴部片1点、土師質の甕の胴部片2点出土。備考 平面形が橢円形の住居址で、炉があることから、第39号住居址は绳文時代の住居址であると考えられる。住居址とその周囲からは、绳文早期から中期までの遺物が出土するが、中心となる遺物は前期の遺物である。さらに、周辺の住居址も前期のものと見られることから、第39号住居址も绳文前期の住居址であると考えている。

第43号住居址 (第14図、図版17・44)

グリッド M31。遺存・重複 西台地北寄りにある。第2号溝状遺構と、溝状遺構に平行して掘られた方形の穴

に切られる。さらに、本住居址内に木の株があり、搅乱が入る。この溝状遺構と木の根搅乱ゆえに住居址の範囲を検出するのに時間がかかった。第2号溝状遺構に上部を削平されており、検出段階で住居址として残っていたのは殆ど床面の土のみである。形状・規模 長軸を南北にもつ方形。上面径 3.46×4.60m、床面径 3.38×4.50m、最大壁高 0.08m、床面積 15.21 m²。床面・掘り方 ローム層を掘り込んだ面を連床とし、硬化面は確認できない。炉 中央よりやや北東よりにある。上面径 40cm、深さ 2cm の円形の窪み。焼土の量は少ない。住居内施設 柱穴・周溝は検出できなかった。出土遺物 本住居址からの出土した遺物は 3 点のみ。1 は船土に模様を含む胴部片。第2号溝状遺構の覆土の下の、本住居址床面上から出土した。外面は磨耗しているが、縄文が施されている。内面は磨かれている。時期は绳文時代前期前半の土器か。ほかに床面上から剥片石器 1 点と、前期後半の上器と思われる、半截竹管状工具による平行沈線が描かれた胴部片 1 点が出土している。この 2 点は、床面が殆ど削平さ

れた第43号住居址の南西部で出土した。備考 床面出土の土器は、前期前半の胴部片1点と前期後半の胴部片1点。本住居は溝状遺構や木の根杭乱で破壊され、床面出土の土器が、明確にこの住居に伴うか断定できない。住居址形状は前期前半の可能性はあるが、この住居址周辺では、縄文時代前期前半から後半にかけての土器が出土していることから、この第43号住居址は縄文時代前期のいずれかに利用されたと考えている。

土坑

第15号土坑（第15・17図、図版21・14）

グリッド M・N32。遺存・重複 西台地北西寄りにある。堆積土からみて、土坑の天井部分は、大部分が既に崩落している。形状・規模 平面形は円形、断面形はフラスコ型。上面径1.90×1.70m、底面径2.04×2.00m、最大壁高0.59m。出土遺物 遺物は1層を中心に出土した。1～5は前期後半の縄文土器。1・2は、半截竹管状工具による平行沈線文が見られる。3は口縁直下の継ぎの沈線文と半截竹管状工具による刺突文からなる前期後葉の土器。4は、口縁部に1段の輪積み痕。5は半節LRの結節文。これ以外の上器で、時期が特定できるものでは、1層からは、前期前半の胴部片6点、前期後半の口縁部片1点・胴部片7点、中期前半の胴部片3点が出土した。2層からは、前期前半の口縁部片1点・胴部片1点、前期後半の口縁部片1点出土している。備考 形状からいわゆるフラスコ状土坑で、縄文時代の貯蔵穴であると推定される。第15号土坑の時期については、1の上器が本土坑の底面から出土していることから、縄文時代前期後半に利用されたものと推測している。

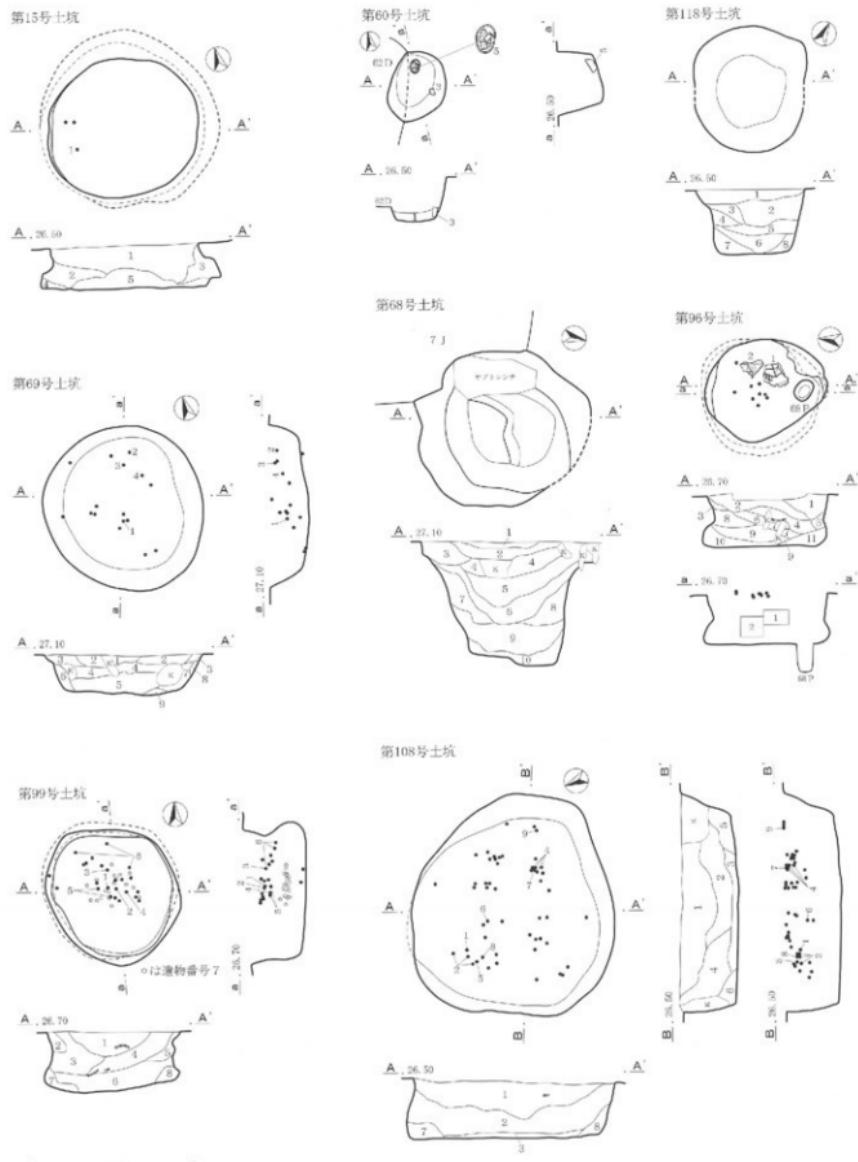
第60号土坑（第15・17図、図版21・14）

グリッド N32。遺存・重複 西台地北西寄りにある。第62号土坑に切られている。形状・規模 平面形は円形、断面形は台形。上面径0.46×0.86m、底面径0.32×0.64m、最大壁高0.55m。出土遺物 第62号土坑を掘削中に第60号土坑を検出したため、第60号土坑の遺物はいずれも最下層出土である。1～5は、前期後半の縄文土器である。1は、櫛齒状工具を利用した平行沈線文である。

2は輪積み痕を残す胴部破片で、破片の上下断面も輪積みの部分である。段の部分にRL縞文が施されている。3は、直立した状態で山上し、表面に波状紋文が施された底部である。底面の調整はナデ。4は、波状I縞を持ち、口縁部が外反する深鉢である。半截竹管状工具による平行沈線文と刺突文が見られる。さらに表面には結節文とRLR-2LRの付加条が施されている。浮島Ia式土器であると思われる。5は外側がヘラ状工具で削られた後、ナデ調整され、平坦な底面がヘラ状工具で磨かれている土器。舟底型上器の一種であると考えている。3と同様、口縁部を上に向けて直立した状態で出土した。1・2・4の上器片は、5の内部から密集した状態で出土し、このことから5の土器も前期後半の上器であると考えている。備考 第60号土坑の覆土は、ローム層の土と殆ど変わらず、検出するのに時間がかかった。3と5の上器は直立した状態で出土し、5の中には、1・2・4の土器片が入っていた。これらのことから、第60号土坑の山上土器は、土坑が掘られた後、何らかの意図をもって土坑に埋められた可能性を考えている。本土坑の時期については、最下層の出土土器が縄文時代前期後半のものと考えられることから、同時期のものと考えている。

第68号土坑（第15図、図版21）

グリッド P33。遺存・重複 西台地北寄りにある。第7号住居址に切られている。土坑の北東部の壁の一部を木の根杭乱で壊されている。形状・規模 平面形は梢円形、断面形は台形。上面径1.90×2.16m、底面径0.90×1.04m、最大壁高1.47m。出土遺物 遺物が出土したのは1層と2層である。時期が分かるものでは、1層からは、前期前半の胴部片3点、前期後半の口縁部片4点・胴部片2点、中期初頭の口縁部片2点、土師質の高台壠の胴部片1点出土した。2層からは、前期前半の胴部片2点、前期後半の胴部片1点、中期中葉の把手1点、土師質の蓋の端部片1点出土した。備考 壁の傾斜のきつい、底面が平坦な深い土坑である。土坑の深さと壁の傾斜を考えると、第68号土坑は落とし穴である可能性が高いと考えている。切りあいから、第68号土坑は第7号住居址より古い。本土坑開闢から縄文時代早期～中期の土器片が多く出土しており、第68号土坑は、縄文時代のものであると考えている。



第15図 純文時代の土坑（1）

第 69 号土坑 (第 15・17 図、図版 22・45)

グリッド Q32。遺存・重複 西台地北寄りにある。土坑の北側の壁の一帯を木の根掘乱に破されており、上坑の範囲を周囲の壁の形状から確認した。**形状・規模** 平面形は円形、断面形は台形。上面径 1.98×2.04m、底面径 1.48×1.62m、最大壁高 0.48m。**出土遺物** 遺物は 2 層から底面まで出土している。1 は、体部から口縁部に向かって直線的に聞く深鉢の破片で、口縁部は肥厚する。表面は半截竹管状工具を使った平行沈線文が波状に縱に描かれている。前期後半の土器か。2 は、口縁に突起を持つ深鉢の破片で、縁帶に沿った沈線を鋸い、中に沈線で輪廓状に文様を描く。阿玉台 IV 式であると考えられる。3 は、2 と同様に、胎土に白色粒子を多量に含む鉢の口縁部片。縁帶と沈線で表面に文様が施されている。口縁直下に施された無節縞文をナデにより消している方法と胎土から、2 と同様の阿玉台式の土器と推定している。4 は、胴部上半を縁帶、沈線、刺突文と突起で文様が施されているキャリバー形の鉢の破片である。縁帶上の刻み目は勝坂式の影響か。胴部下半は、II. の反撲の縞文が施されている。胎土に金雲母粒を含むこの破片は、中期前半の土器か。他の出土土器の内、時期が分かるもので、2 層からは、前期前半の口縁部片 1 点・胴部片 1 点、3 層からは、前期前半の胴部片 1 点が出土。4 層からはもっとも多く遺物が出土し、時期が分かるものでは、前期前半の口縁部片 3 点・胴部片 4 点・底部片 2 点、前期後半は胴部片 7 点が出土。さらに磨石の破片 1 点が出土。底面からは前期後半の胴部片 1 点出土。**備考** 底面が平坦な土坑である。土坑の覆土中位から底面にかけて土器片がまとまって出土した。4 層に大きめの上器片がまとまって出土していることから、第 69 号土坑は、土器の捨て場として利用された可能性がある。前期前半から中期中葉まで遺物は出土するが、最下層の 5 層から、2 の上器が出士しているので、第 69 号土坑は、縄文時代中期中葉に利用されたものと考えられる。底面出土の前期後半の土器片 1 点は混入した遺物であると考えている。

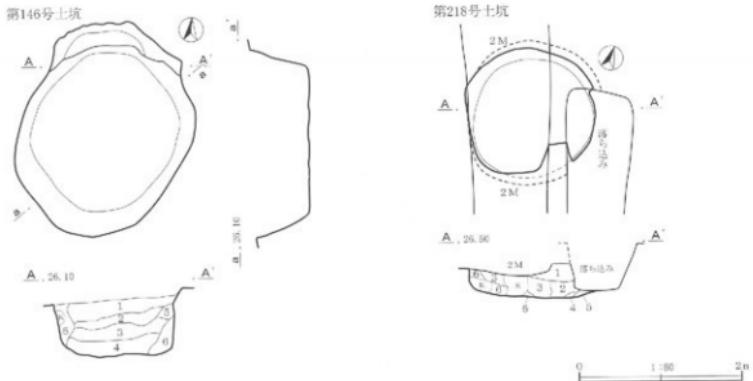
第 96 号土坑 (第 15・18 図、図版 22・45)

グリッド N29。遺存・重複 西台地北寄りにある。68 P は土坑を底面まで掘った段階で確認しており、第 96 号土坑と同時期に利用された可能性がある。第 96 号土坑

の堆積土を見ると、土坑の天井部分は殆ど崩落したと考えられる。**形状・規模** 平面形は梢円形、断面形はラスコ形。上面径 1.26×1.52m、底面径 1.34×1.40m、最大壁高 0.61m。**出土遺物** 遺物が出土したのは 1 层・4 层・8 层・9 層である。1 層からは、もっとも土器が出土した。1 は、張り出した口縁部が内湾するキャリバー形深鉢で、潰れた状態で出土した。縁帶に沿って角押文が一列施され、沈線が横に引かれ、胴部上半には無節縞文 I. が施されている。胎土には金雲母粒が含まれる。阿玉台 I b 式と考えている。2 は、張り出した口縁部があまり内湾しない深鉢で、横に倒れた状態で出土した。突起と把手が見られ、縁帶に沿った幅の広い角押文と沈線で区画された中に、縱方向の条線を施して文様を描いている。胎土中に金雲母粒を多量に含む。阿玉台 III ~ IV 式と考えられる。これ以外の土器片で、時期が分かるものでは、1 层からは中期の口縁部片 1 点・胴部片 4 点出土。4 层からは、前期前半の胴部片 4 点、中期の口縁部片 1 点・胴部片 1 点が出土。さらに土師質の胴部片 2 点、土師器の胴部片 1 点が出土。8 层からは前期前半の胴部片 1 点、前期後半の口縁部片 1 点、中期中葉の胴部片 2 点が出土した。**備考** 形状から、いわゆるラスコ状上坑で、縄文時代の貯蔵穴であると推定される。大半の出土土器は、第 96 号土坑利用後に北側から自然混入したものと考えられるが、図示した 2 個体の土器（中期中葉）は、丸形に近い形でまとめて出土しており、自然流入したというよりも、土坑に投棄されたものと考えている。従って、人井が崩落した土である 9 層の上の、8 层堆積時の縄文時代中期中葉には捨て場所として利用されていたと考えられることから、第 96 号土坑は、縄文時代中期前葉～中期後葉に利用された土坑と推定される。

第 99 号土坑 (第 15・19 図、図版 22・23・45)

グリッド N29。遺存・重複 西台地北寄りにある。**形状・規模** 平面形はほぼ円形、断面形はラスコ形。上面径 1.64×1.70m、底面径 1.47×1.50m、最大壁高 0.77 m。**出土遺物** 遺物が出土したのは 1 层・4 层・6 层・7 層・底面である。1~7 の遺物はいずれも縄文時代中期のものと考えられる。1 は、鉢の口縁部で、外に張り出した口縁部がやや内湾し、口縁部に縁帶で区画された中に縱方向の条線が施される。R 無節縞文が施され、胎土に



第16図 繩文時代の土坑（2）

- 第5号土坑
1. 暗赤褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のローム少量。土壌片包含。
2. 黒褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のロームやや多。
3. 黄褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のローム少量。礫崩上。
4. 黑褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ローム少量。ブロック約10mmやや多。
5. 深褐色土 備まりやや有、粘性やや有。コームブロック約10mmやや多。天井崩
壁土。

- 第6号土坑
1. 緑黄褐色土 備まりや有、粘性有。ロームブロック約5mm少量。炭化物微量。

- 第9号土坑
1. 黑褐色土 備まりやや有、粘性有。粘土ローム約5mm。炭化物微量。
2. 暗赤褐色土 備まりやや有、粘性弱。選状のロームやや多。炭化物微量。
3. 暗赤褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のロームやや多。
4. 暗赤褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のロームやや多。
5. 黑褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のロームやや多。
6. 黑褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ローム土塊。
7. 明褐色土 備まりやや有、粘性有。ローム土塊。
8. 明褐色土 備まりやや有、粘性有。ローム土塊。
9. 黄褐色土 備まりや有、粘性有。ローム土塊。
10. 黄褐色土 備まりや有、粘性有。ローム少量。ロームブロック約10mmやや多。

- 第69号土坑
1. 黑褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のローム微量。
2. 暗赤褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のローム少量。炭化物微量。
3. 暗赤褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のロームやや多。選状。礫崩上。
4. 黑褐色土 備まりやや有、粘性やや有。選状のロームやや多。炭化
物、鉱物質。土崩片微量。
5. 緑黄褐色土 備まりやや有、粘性弱。ローム少量。土壌片微量。

6. 黄褐色土 備まりやや有、粘性少。コーム少量。ロームブロック約5mm微量。

7. 緑黄褐色土 備まりやや有、粘性少。選状のローム微量。

8. 黄褐色土 備まりやや有、粘性少。選状のロームやや多。礫崩上。

9. 黄褐色土 備まりやや有、粘性少。ローム主体。

- 第96号土坑
1. 黑褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ロームやや多。粘土的豊量。土壌片
微量。

2. 黑褐色土 備まりやや有。粘性弱。ロームブロック約1mm多量。炭化物微量。

3. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ローム少量。ロームブロック微量。

4. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ローム少量。土壌片微量。

5. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ロームブロック約10mm微量。

6. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ロームブロック約10~20mm多量。

7. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ロームブロック約10~20mm多量。

8. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ローム少量。粘土片包含。

9. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ローム少量。ロームブロック約5~10mm
多量。

10. 黑褐色土 備まりやや有。粘性少。ロームブロック約10~40mm多量。

11. 黑褐色土 備まりやや有。粘性少。ロームブロック約10~50mm少量。

- 第146号土坑
1. 黑褐色土 備まりやや有。粘性有。空や赤みあり。ローム微量。

2. 黑褐色土 備まりやや有。粘性少。ローム少量。

3. 黑褐色土 備まりやや有。粘性有。やや明色。ローム多量。コームブロック約10~20mm
少量。

4. 黑褐色土 備まりやや有。粘性有。コーム少量。ロームブロック約10~30mmやや多。

5. 黑褐色土 備まりやや有。粘性有。ローム少量。ロームブロック約20~50mm多量。

- 第99号土坑
1. 黑褐色土 備まりやや有。選状。ロームブロック約5~5mm。選状のローム少量。
2. 黑褐色土 備まりやや有。選状。ロームブロック約1mm。選状片包含。
3. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ローム多量。ロームブロック約5~10mm
少量。選状ブロック約2~3mm。炭化物微量。
4. 緑黄褐色土 備まりやや有。粘性少。ローム少量。炭化物微量。
5. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性少。ローム少量。ロームブロック約5mm
少量。
6. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性少。ローム少量。コームブロック約10~20mm
少量。
7. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。ロームブロック約10mm微量。
8. 黑褐色土 傘立型。羅立型。ローム少量。

- 第10号土坑
1. 黑褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ローム少量。ロームブロック約5mm
少量。選状ブロック約1~2mm。炭化物微量。土壌片包含。

2. 緑黄褐色土 備まりやや有。粘性やや有。ローム少量。ロームブロック約
5~2~5mm微量。

3. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性有。ローム少量。ロームブロック約2~3mm微量。

4. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性やや有。二八混多。隕微量。

5. 黑褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。

6. 黑褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。土壌片包含。

7. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。ロームブロック約5~
10mm微量。

8. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性少。ローム少量。隕微量。ロームブロック
約2~3mm微量。

- 第11号土坑
1. 黑褐色土 備まりや有。粘性やや有。ローム少量。ロームブロック約2~5mm少量。炭化
物微量。

2. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性少。ローム少量。ロームブロック約2~5mmや
多量。

3. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性弱。選状。ローム少量。炭化物微量。

4. 黑褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。ロームブロック約10~20mm少
量。

5. 黑褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。土壌片包含。

6. 黃褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。ロームブロック約10~20mm
やや多量。

7. 黃褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。

8. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。

- 第12号土坑
1. 黑褐色土 備まりや有。粘性少。ローム少量。ロームブロック約5~10mm
少量。炭化物微量。

2. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性少。ローム少量。ロームブロック約2~5mmや
多量。

3. 緑黄褐色土 備まりや有。粘性弱。選状。ローム少量。炭化物微量。

4. 黑褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。ロームブロック約20mm少
量。

5. 黑褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。土壌片包含。

6. 黃褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。ロームブロック約10~20mm
やや多量。

7. 黃褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。

- 第13号土坑
1. 黑褐色土 備まりや有。粘性有。ローム少量。ロームブロック約5~10mm
少量。

2. 黑褐色土 備まりや有。粘性少。選状。ローム少量。

3. 黑褐色土 備まりや有。粘性有。やや明色。ローム多量。コーム少量。

4. 黑褐色土 備まりや有。粘性有。ローム少量。コーム少量。

5. 黑褐色土 備まりや有。粘性有。ローム少量。ロームブロック約5mm微量。選状のロームや
多量。

は白色粒子と金雲母粒を含む。阿玉台式。2は粗製の深鉢の口縁部で、企雲母粒を少量含む。表面に半截竹管状工具による平行沈線で文様が描かれている。3は、口縁の突起で、陸帯と沈線が表面に施され、胎土は金雲母粒を含む。阿玉台式のものか。4は深鉢の胴部下半で、表面はRL単節繩文が施され、胎土に白色粒と金雲母粒が多量に含まれる。5は口縁部が肥厚した浅鉢で、胎土に白色粒と金雲母粒が入る。6は深鉢の口縁部で、破片のうち1点のみ第96号土坑の1層から出土した。II縁直下に2条の陸帯を巡らし、上の陸帯には刺突を上下に加え、下の陸帯はV字状にした文様で、阿玉台IV式～加曾利E1式並行か。繩文は単節RL。7は4層を中心に出土した深鉢で、肥厚したII縁部直下とその下に沈線を2本ずつ巡らしている。RL繩文が器面全体に施されている。平坦口縁には上から錐形状に貼付文が付される。横S字状添付文が2つ連結した形であると考えており、大木8a式の影響を受ける阿玉台IV式平行の土器か。これ以外の土器片で、時期が分かるものでは、1層からは、前期前半の口縁部片1点、前期後半の胴部片2点、中期中葉の口縁部片3点・胴部片1点が出土。4層からは前期前半の胴部片2点、中期中葉の胴部片6点が出土した。**備考** 形状から、いわゆるフラスコ状土坑で、繩文時代の貯蔵穴であると推定している。7の上器は上坑天井部分が崩落した土である6層の上の、4層を中心に破片がまとまって出土しており、かつ十坑底面と7層にも破片が出土している。このことから、第99号土坑が利用されずに天井が崩落し、自然堆積が始まる時期に、7の深鉢は第99号土坑周辺に投棄されていたと推定される。従って第99号土坑の利用時期は、繩文時代中期中葉の阿玉台IV式の時期であったと考えている。

第108号土坑（第15・18図、図版23・46）

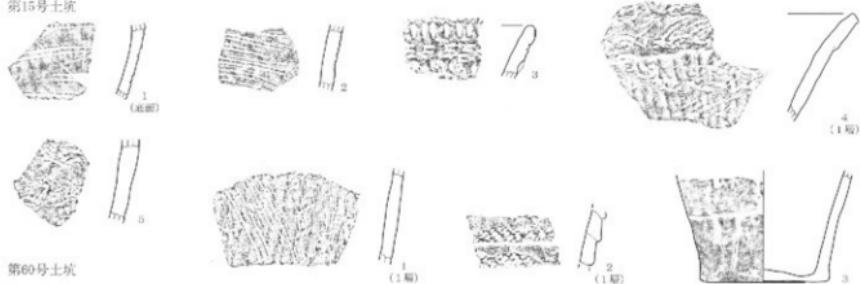
グリッド M27。遺存・重複 西台地北寄りにある。土坑南側と東西の両側の壁部分の一部に木の根攪乱があり、壁の一部を壊している。**形状・規模** 平面形は不定形、断面形は台形。壁は一部でオーヴァーハンプ状になつていて。上面径2.68×2.48m、底面径2.30×2.34m、最大壁高0.77m。**出土遺物** 遺物が出土したのは1層と8層で、大半が1層から出土した。1～9は繩文時代中期の土器片で、2・3・5・6・8は加曾利E式と考えられる。1

は口縁直下に陸帯と沈線を巡らし、器面全体にRL繩文を施した浅鉢の破片。2は、複節RLの繩文に2条を単位とする沈線で文様が描かれた深鉢の底部。3は単節RL繩文に3条を単位とする沈線文をもつ深鉢。4も深鉢の破片で、器面全体にRL繩文が施されている。5はRL繩文を施し、2条と1条単位の沈線文を組み合わせた底部片。6は3条を単位とする沈線と1条単位の沈線を組み合わせ、RL繩文を施したもの。7は2条を単位とした沈線に単節LR繩文が施されている。8は内湾する口縁部の文様帶に、陸帯と沈線、RL繩文が付されている深鉢の破片。9は沈線で渦巻き文を描いた胴部片で、浮線文に刻み目が入る。五領ヶ台式か。他に時期が分かるもので、1層から出土したのは、前期前半の胴部片が7点、前期後半の口縁部片1点・胴部片24点、中期のII縁部片2点・胴部片32点・底部片1点。8層からは、中期の口縁部片2点・胴部片5点が出土。**備考** 1層出土の中期の土器は、五領ヶ台、阿玉台、加曾利E式と思われるものが出土するが、中でも加曾利E式が多い。さらに第108号土坑利用時の自然流入土と思われる8層出土の上器片のうち、口縁部片1点は加曾利E1～E2式に属すると思われる。このことから、第108号土坑は、中期後葉の加曾利E式の時期のものと考えている。

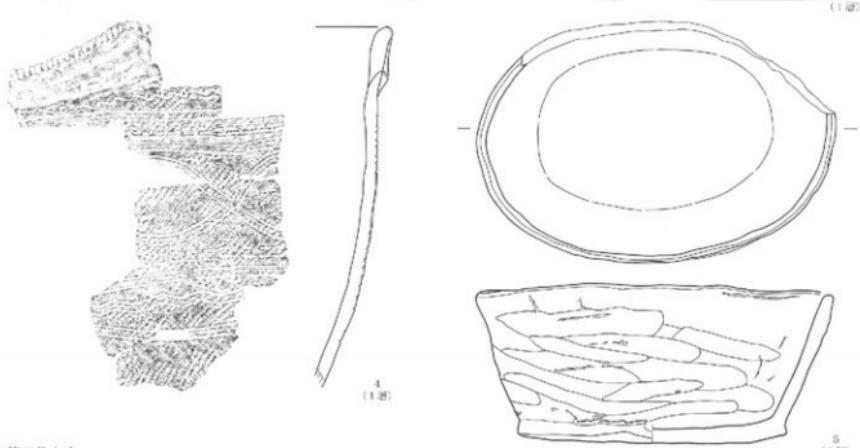
第118号土坑（第15図、図版35）

グリッド L26。遺存・重複 西台地にある。**形状・規模** 平面形は格円形、断面形は台形。上面径1.35×1.56m、底面径0.88×0.86m、最大壁高0.81m。**出土遺物** 遺物が出土したのは、2層から胴部片1点、底面直上で口縁部片1点。表面調査は磨かれている。繩文土器であると考えている。**備考** 断面形態から、いわゆるピーカー形の土坑であると考えられる。1～6層は埋め戻しの土である。この上坑の形状と十坑底面から出土した繩文土器より、第118号土坑は繩文時代のものであると考えられる。似た形状の土坑に第109号土坑がある。第118号土坑周囲からは前期前半と中期の土器片が採取されているが、数はいずれも多くはない。第118号土坑のある丘陵部分より西に斜面を下った箇所に繩文時代中期後葉の土器を多量に含む、繩文の包含層No.3・4上器群が見つかっており、第118号土坑も同じ中期後葉のものと考えている。

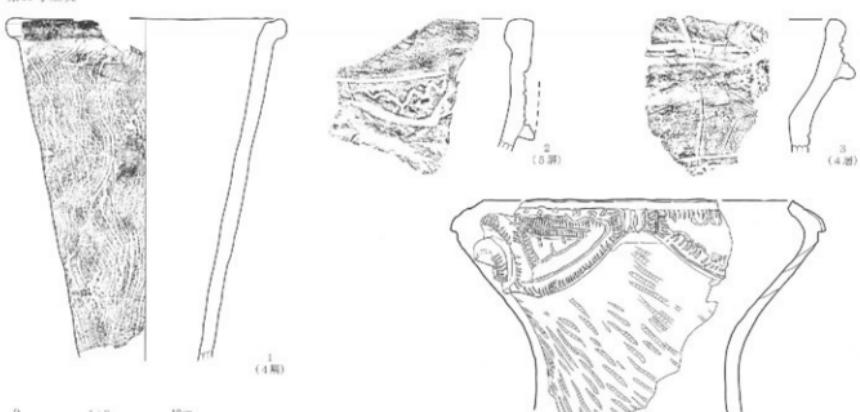
第15号土坑



第60号土坑



第69号土坑



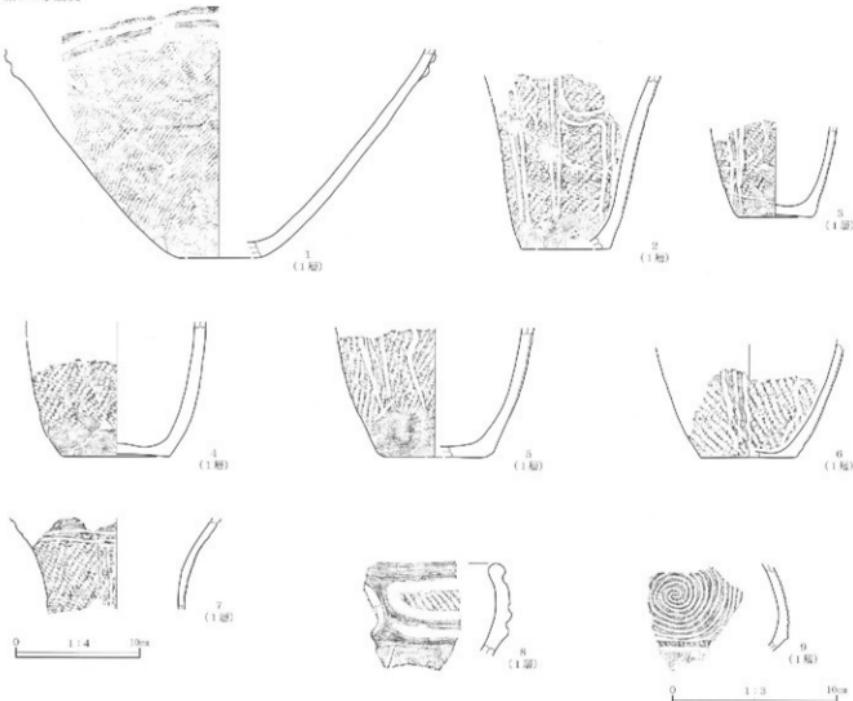
0 1:3 10cm

第17図 縄文時代の土坑 (3)

第96号土坑



第108号土坑

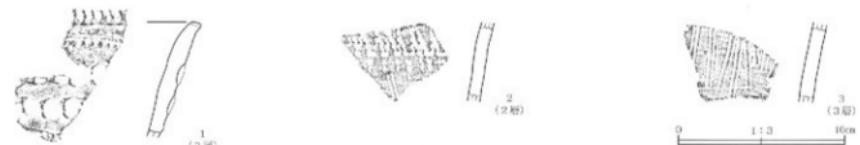


第18図 繩文時代の土坑 (4)

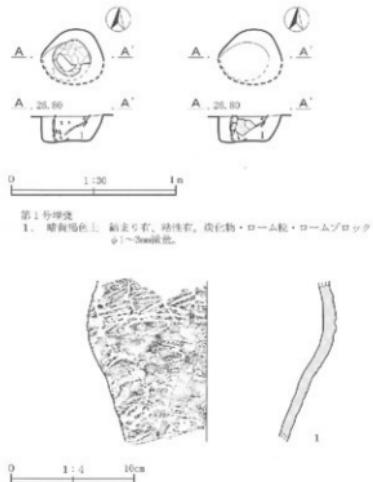
第99号土坑



第218号土坑



第19図 純文時代の土坑 (5)



第20図 第1号埋壺

第146号土坑（第16図、図版23）

グリッド J23。遺存・重複 西斜面地に占地するため四壁はやや低くなっている。北壁には深さ25cmの块状の掘り込みがあり、別造構とすれば当土坑が新しいと思われる。形状・規模 円形。上面径2.31×2.00m、底面径1.80×1.72m、最大壁高0.72m。壁は直に近く、しっかりとした掘り込みである。底面は平坦。出土遺物 遺物は少ない。確認より縄文中期土器の大片出土。覆土2層からは、阿玉台I式の口縁部片1点、縄文土器脣部片3点・底部片1点が出土した。覆土一括の土器として出土したのは、縄文時代中期の脣部片1点、土師質の蓋の天井部片1点、時期不明の脣部片3点。備考 形状、規模、覆土の状態から縄文時代の土坑と考えておきたい。

第218号土坑（第16・19図、図版23）

グリッド M30。遺存・重複 西台地北寄りにある。第2号溝状造構と、第2号溝状造構に平行に連続して掘られている方形の擾乱（落ち込み）に切られている。土坑南東部は方形の擾乱（落ち込み）で壊され、西部は土坑上部を第2号溝状造構に接されている。形状・規模 平面形は不定形、断面形はフラスコ状。上面径1.60×1.52

m、底面径1.50×1.46m、最大壁高0.59m。出土遺物遺物が出土したのは2層と3層で、大半が3層から出土した。1は、口縁に刻み目を持ち、口縁直下に三角文と刺突文を持つ浮島III式の深鉢の破片。2は、波状貝殻文と半截竹管状工具による平行沈線文が施された脣部片。3も平行沈線文が縱方向に施された脣部片。他に時期が特定できる土器片では、3層から、縄文時代前期前半の脣部片1点、前期後半の脣部片1点、中期中葉の口縁部片2点・脣部片2点が出土。覆土一括として採取した遺物では、縄文時代前期前半の脣部片2点、前期後半の脣部片5点、黒曜石の再調整された刃片1点が出土している。備考 形状から、いわゆるフラスコ状土坑で、縄文時代の貯蔵穴であると考えている。土坑天井部分は、第2号溝状造構と、方形の搅乱（落ち込み）の間の部分で残っており、3層は土坑天井部分が崩落した際の土であると考えている。3層からは縄文時代前期前半から中期中葉までの上器片が出土しているので、第218号土坑は、縄文時代中期中葉の阿玉台式期に崩落して使われなくなつたと考えられ、縄文時代中期中葉頃の土坑であると推測している。

埋壺

第1号埋壺（第20図、図版46）

グリッド U30。東台地北西部、南北に走る現代の道路のやや東側の平坦な場所から出土。遺存・重複 付近では過去に造成工事が行われており（おそらく昭和に入つてからであろう）、当該遺物の上半部はそのときの削平により失われたものと思われる。形状・規模 幅33.5cm、長さ38cm、深さ14.5cmにローム面を掘り込んでおり、覆土には炭化物が微量に含まれている。遺物は東へ傾斜した状態で検出されていて、掘り込みの底面や立ち上がりに硬化は認められない。半截時点で既に、土圧や経年劣化により器面にはひびが入り、碎けた状態であったため、細かな破片として取り上げる他はなかった。出土遺物1が、破片を接合できた、胎土に纖維を含む脣部。脣部が強く張り出しており、外面はL掘りの撚糸文で文様を施している。内面調査はナデ。縄文時代前期前半の土器であると考えている。備考 埋壺内部では遺物は採取できなかつた。

包含層調査

包含層 No. 土器群

No. 2 土器群 (第 21・22 図、図版 24・46)

グリッド J24。遺存・重複 西台地南西の斜面上で土器片がまとまって出土した。形状・規模 1.53×1.71m の範囲にわたって遺物が集中して出土した。出土遺物出土遺物は縄文時代中期のものと思われる。1 は深鉢の口縁部で、陸帯と沈線で満巻文が施され、中空の突起が口縁部についている。口縁の内深度は弱い。胴部には 3 条の沈線を単位とする懸垂文と、LRL の複節縄文が施文。加曾利 E 式。2 は、口縁部に突起を持ち、沈線で満巻文が施された粗製の深鉢の破片。加曾利 E 式か。3 は土器片鍾。4 は、波状口縁を持つ粗製の深鉢で、縱方向の条線文が器面全体に施される。これ以外の遺物で時期が分かるものでは、前期後半の胴部片 1 点、中期では、キャリバー形深鉢の口縁部から胴部上半部まで部分的に残存しているのが 1 個体、さらに口縁部片 3 点・胴部片 12 点・底部片 1 点が出土。磨石の破片も 1 点出土している。備考 時期を特定できなかった出土土器片の大半も、器厚と焼成の程度、胎七の色調の点で、中期のものと考えられる。加曾利 E 式が出土しており、出土土器片の中に雲母が入るものもあることから、本包含層は縄文時代中期中葉から後葉にかけての土器片が含まれるものと考えられる。土器片は、ローム層中から出土しており、斜面上のローム層が風雨で斜面を移動して二次堆積していく中で、これらの土器片も堆積され、包含層が形成されたと考えている。

No. 3 土器群 (第 21・22 図、図版 24・47)

グリッド I25・26。遺存・重複 西台地西側丘陵斜面の傾斜が緩やかに変化する場所に土器片が溜まるかたちで検出。形状・規模 0.97×1.71m の範囲にわたって、ローム層中から遺物が出土。特に南西部の 0.46×0.80m の範囲に遺物が集中している。出土遺物 出土した土器片のうち、南西部に網まで出土した土器片が接合し、それを図示したのが、1 の土器である。1 は、3 条と 2 条を単位とする沈線による懸垂文と、条線文が器面全体に施され、部分的に条線の上に LR 縄文が施される。黄茶褐色

色の胎土で、白色粒を微量に含む。焼成は良好。深鉢の胴部で、加曾利 E 式と思われる。接合はしないものの、本包含層から出土した土器片の大半は、1 の土器の破片であると思われる。時期が分かる遺物で、他に出土したものは、早期後半の条線文系七器の胴部片 2 点、前期後半の胴部片 1 点、阿玉台式の口縁部片 1 点、加曾利 E 式の胴部片 1 点、中期の胴部片 30 点・底部片 2 点。磨石の可能性のある礫片 1 点出土。備考 本包含層から出土した中期の土器は、陸帯と沈線、複節縄文を持つ破片で、一部の土器片は胎土に金雲母粒を含む。これは、出土した土器の大半を占める中期の土器片が縄文時代中期中葉から後葉に属するものである可能性を示す。斜面傾斜が緩やかになる箇所のローム層中から土器片が出土していることから、斜面の上から風雨で移動してきたローム層と共にこの場所に二次堆積されたと考えている。従って、本包含層は縄文時代中期中葉から後葉にかけて形成されたと考えられる。

No. 4 土器群 (第 21・22・23 図、図版 24・47)

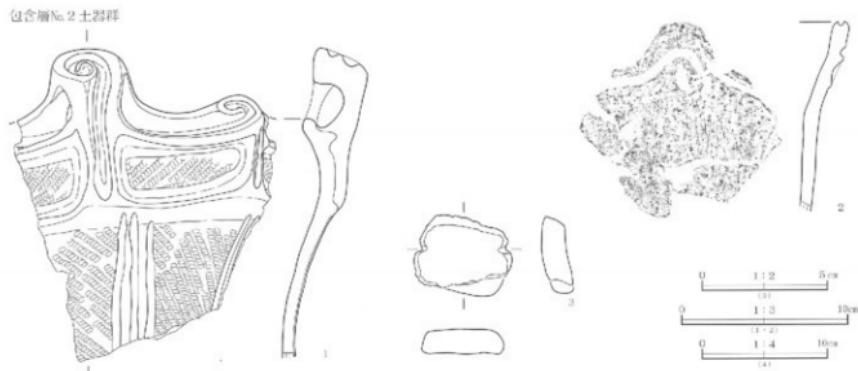
グリッド I26。遺存・重複 西台地西側の調査区段で、丘陵斜面の傾斜が緩やかになった場所に、上器片がまとまって出土した。形状・規模 3.25×3.70m の範囲にわたって遺物が出土。特に南西部の 1.56×1.65m の範囲に出土遺物が集中している。出土遺物 1~4 は、加曾利 E 式。1 は、口縁部と腰帶に陸帯と沈線による満巻文を施し、胴部の文様帶に 3 条と 1 条を単位とする沈線による懸垂文が描かれた深鉢で、複節縄文 LRL が施文されている。2~4 も、内湾する口縁部を陸帯と沈線によって区画している深鉢の破片。4 は R 無節縄文が区画内に施される。5 は粗製土器の口縁部で、中空の突起である。口唇部に沈線が施される。加曾利 E 式か。6 は、縱方向の条線に沈線で紋様を施した胴部片。胎土に白色粒と金雲母粒を多量に含む。7 は 1 を巻いた撚糸文地に、3 条を単位とする沈線で、満巻文・懸垂文を描いた胴部片。加曾利 E 式。8 は粗製の深鉢の底部で、2 本の沈線で懸垂文を施している。9 はキャリバー形の粗製深鉢で、口縁部は横方向に磨かれており、胴部は半截竹管状工具を使って条線が施されている。他に時期が分かる七器片は、加曾利 E 式の胴部片 1 点、中期の口縁部片 10 点・胴部片 25 点・底部片 2 点である。口縁部片は、内湾したキャリバー形口縁



第21図 包含層No.2～5土器群（1）

と言われるもので、削部片は、隆帯、懸垂文や縦方向の条線が施されたもの。胎土には金雲母粒を含むものがある。他に出土している時期が特定できない土器片も、器厚と焼成の程度、胎土の色調から、中期の土器片と思われる。さらに黒曜石の剥片が1点出土している。備考 本包含層の出土遺物は、斜面傾斜が緩やかになる箇所のコーム層中から出土していることから、斜面の上から風雨

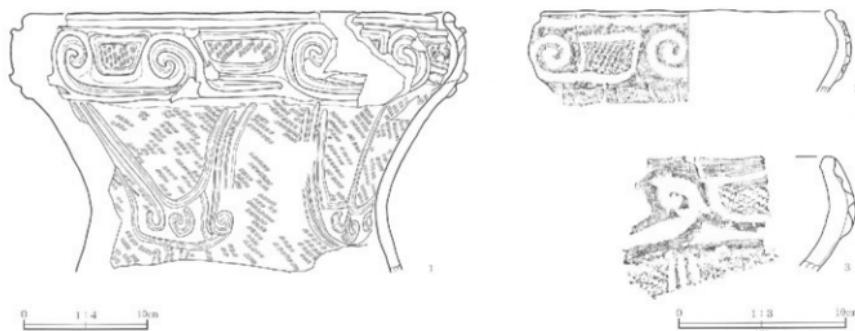
で移動してきたローム層と共にこの場所に二次堆積されたと考えている。時期が特定できた出土土器片は加曾利E式で、他の中期と思われる出土土器片の中には、五領ヶ台式や阿玉台式にのみ見られる特徴を持つ土器片はない。このことから、出土土器の大半は、加曾利E式と考えられ、本包含層は純文時代中期後葉に形成されたと考えている。



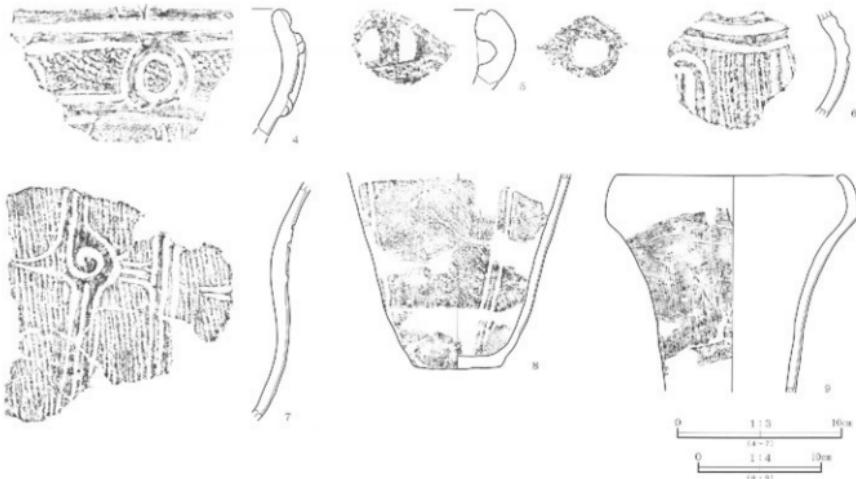
包含層No.3 土器群



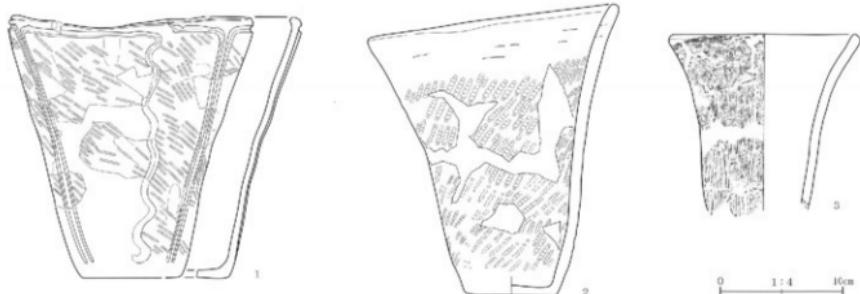
包含層No.4 土器群



第22図 包含層No.2～5 土器群（2）



包含層No.5 土器群



第23図 包含層No.2～5 上器群（3）

No.5 土器群（第21・23図、図版24・47）

グリッド O25。遺存・重複 西台地東側で、斜面がやや東へ傾斜している箇所の、木の切り株周囲で土器片がまとまって出土した。形状・規模 0.90×0.59mの範囲にわたって遺物がまとまって出土した。出土遺物 遺物は接合する土器片が大半で、3個体の土器が出土。1はL無節縄文を器面全体に施した後、沈線で口縁部と器面全体に文様を描いた深鉢。縄文時代中期のものか。2は、RL縄文を胴部に施し、口縁直下の縄文をナデ調整で消している。3は小型の粗製深鉢の口縁部分で、表面に半

截竹管状工具を使って、縱方向に条線が引かれている。他に時期が分かる出土遺物では、中期の口縁部片1点・胴部片1点。さらに土師質の壺の胴部片が1点出土している。備考 図示している土器は、器厚と焼成の程度、周辺から出土する土器片から、いずれも縄文時代中期の土器と考えている。1・3は木の根の間に挟まれた土の中からまとめて出土した。2はローム層上に散布していた土器片が接合した。接合する土器片が狭い範囲にまとまって出土し、ローム層上面から出土したことから、この周辺に投棄された土器であると考えている。

谷部・谷頭部の調査

谷部は、3本のトレンチ（30T～32T）と谷部の中央を通る31Tの拡張という2段階を踏んで調査を行った。土層の堆積状態は良好で、31TではI～VII層が確認され、VII層は灰白色の粘土層である。31T南端部でこの粘土層までは深さ2.22m、標高は19.54mである。

谷頭部の調査（第24図、図版24・48）

グリッドR・S27・28。（包含層No.6）**遺存・重複** 西台地と東台地に挟まれた丘陵の谷部分の遺物包含層。調査区内で谷部の頭にあたるところで、沢部分の黒褐色堆積土中に含まれる遺物を採取した。**形状・規模** 上面径15.3×6.9mの範囲にわたって沢に堆積している土を掘削した。**出土遺物** 1～3は、胎土に繊維を含む縄文時代前期前半の土器片である。1は、Lを卷いた撚糸文を外面に施している。2は横方向に沈線を巡らした胴部片で、穿孔されている。3も沈線を巡らした胴部片。2・3は黒浜式か。4～7は縄文時代前期後半の土器片。4は、半截竹管状工具を使って胴部に平行沈線や透続爪形文を施した土器片で、浮島式か。5は、組紐文を地として、半截竹管状工具で平行沈線を施した胴部片。6は、平行沈線を縱と横方向に施した胴部片。7はII唇部に刻目を持ち、輪積み痕の段に刺突文を施した口縁部片で、浮島III式か。

これ以外の山上遺物で、時期が分かることは、IV崩山下遺物では、早期後半の条痕文系土器の胴部片5点、前期前半の口縁部片4点・胴部片56点・底部片2点、浮島Ia式の胴部片1点、浮島III式の胴部片4点、浮島式の胴部片1点、興津式の胴部片1点、栗島台式の口縁部片1点・胴部片1点、前期後半の胴部片9点、阿玉台式の口縁部片2点、加曾利E式の胴部片1点である。さらに剥片石器が3点出土している。

Vc層山上遺物では、早期後半の条痕文系土器の胴部片1点、黒浜式の胴部片6点・底部片1点、前期前半の口縁部片1点・胴部片16点・底部片2点、中期の底部片1点が出土した。**備考** ローム層の沢へ流入した十層の上の黒褐色土を掘削し、遺物を採取したが、早期～中期の土器片が含まれていた。

谷部の調査（第24図、図版48）

グリッドR24～27。遺存・重複 確認調査の段階で、西台地と東台地に挟まれた丘陵の谷部分に南北にトレンチ（第31トレンチ）を入れ、層位ごとに遺物を採取した。所々に木の根乱れや現代のゴミの混ざる搅乱が入っていた。**形状・規模** 幅1.2m、長さ27.8mの方形にトレンチを入れて遺物を採取した。**出土遺物** IV層から出土した上器片は8～18。8は沈線を縱と横に引き、さらに煙波線を口唇部と口縁直下にもつ破片。早期中葉の沈線文系土器。9～11は繊維を含む前期の黒浜式の土器。9・10は横に沈線を巡らした胴部片で、10には竹管による円形刺突文が施されている。11は沈線を2条単位で、胴部に縱と横方向に施している。12～16は縄文時代前期後半の土器。12は輪積み痕を残して、縦方向に沈線を引いた鉢の口縁部。13は、横方向に半截竹管状工具による平行沈線、有筋平行線文を施したもので、浮島式。14は、口縁直下に縦条線と貝殻刺突文に貝殻腹縁文を施した、興津式の深鉢。15・16は結節文をもつ栗島台式か。15は単節LR縫文、16はし無筋縫文。17は、3条と1条を単位とする沈線による懸垂文が描かれた深鉢底部で、複筋縫文RLRが施文。加曾利E式か。18は磨消縫文をもつ胴部片で、後期の名古式か。

Vc層山上土器は19～27まで。19～24は繊維を含む縄文時代前期前半の土器。19は貝殻腹縁文が施された胴部片。20～22は黒浜式か。20・21は沈線が縦と横方向に引かれるが、21は、沈線2条を単位として引いており、さらにしを巻いた撚糸文が施される。22は、3本箇の櫛齒状工具を使った平行沈線文。23は沈線に短沈線を加えて文様を施す。24は羽状縫文を施した胴部片。25・26は前期後半の上器片。25は横方向に半截竹管状工具による平行沈線を施す。26は平行沈線と波状貝設文を施した胴部片。27は、口縁直下に縦と横方向の沈線を巡らした、やや内湾する口縁部片で、中期前葉の五頭ヶ台式と思われる。

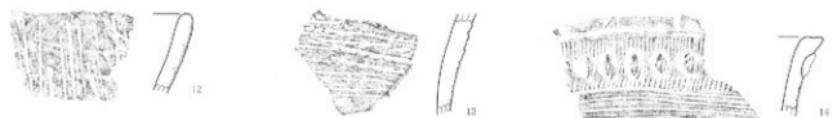
それ以外の土器片で時期が分かったものの層位ごとの内訳は、次の通りである。

I層からは中期中葉～後葉の胴部片3点、II層から前期前半の胴部片3点、前期後半の胴部片12点、阿玉台式の胴部片2点、中期の口縁部片2点・胴部片9点出土。III層からは前期前半の胴部片2点、中期中葉～後葉の口縁部片1点・胴部片4点・底部片1点、III層下部からは、

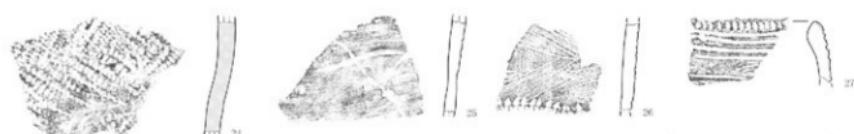
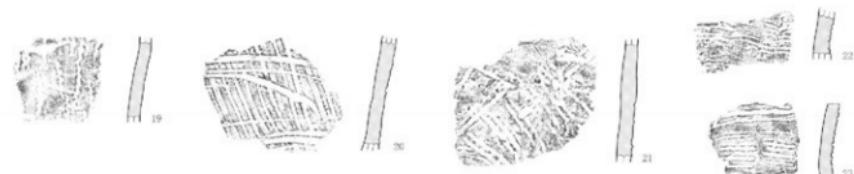
谷頭部包含層



谷部IV層



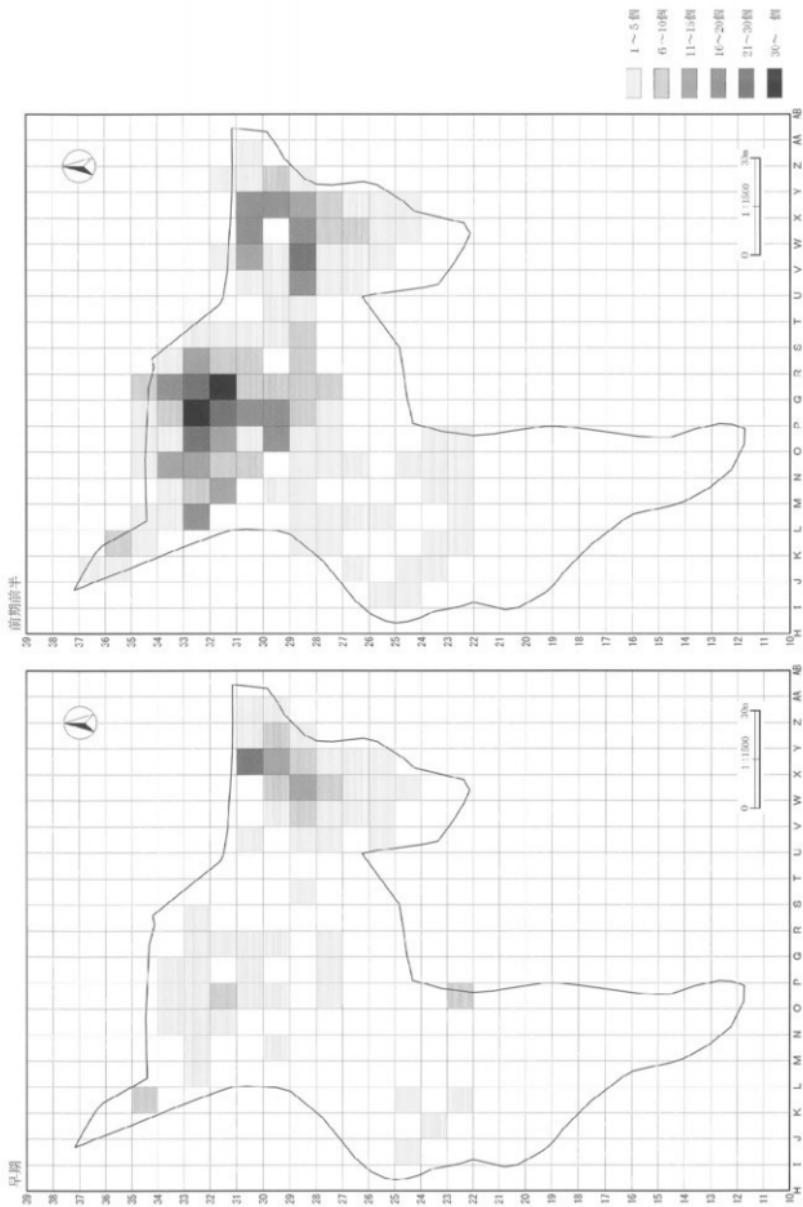
谷部Vc層

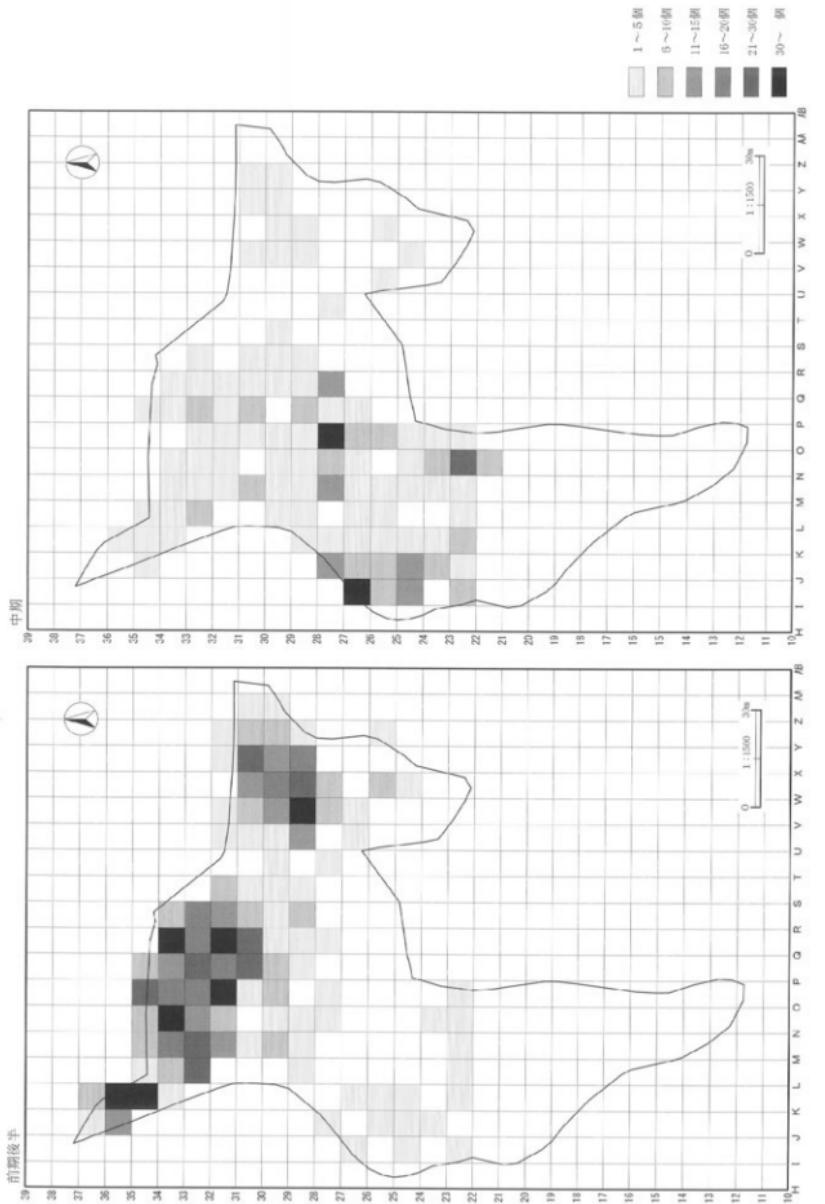


0 1:3 10mm

第24図 谷頭部・谷部出土土器

第25図 グリッド山上の龜文上器数量分布図(1)





第26図 グリッド山上の縄文土器数量分布図（2）

前期前半の胴部片 1 点、加曾利 E 式の胴部片 1 点、中期の口縁部片 1 点・胴部片 2 点が出土した。IV 層からは、前期前半の胴部片 2 点、五領ヶ台式の口縁部片 2 点、加曾利 E 式の胴部片 1 点、中期の口縁部片 4 点・胴部片 18 点、底部片 1 点が出土している。Va 層からは、前期前半の胴部片 3 点、前期後半の胴部片 4 点、中期前半の口縁部片 1 点・胴部片 8 点、底部片 1 点、Va 層下からは、中期中葉～後葉の胴部片 1 点が出土。Vb 層からは、前期前半の胴部片 9 点・底部片 1 点、前期後半の口縁部片 1 点・胴部片 2 点、中期中葉～後葉の口縁部片 2 点・胴部片 4 点、底部片 1 点。Vc 層からは、前期前半の胴部片 8 点、前期後半の口縁部片 1 点・胴部片 4 点、五領ヶ台式の口縁部片 1 点、中期前半の胴部片 2 点、中期中葉～後葉の胴部片 4 点が出土した。

石器では、II 層からは、黒曜石の剥片と、二次調整された剥片が 1 点ずつ出土。磨石の可能性のある礫片が、III 層下部からは 2 点、IV 層から 1 点出土。IV 層は右轍 1 点（第 33 図 4）も出土。Vb 層からは黒曜石の剥片 1 点出土。**備考** ローム層の沢への流入堆積上（VI 層）の上に堆積している V 層は、n～層までいずれも前期前半から中期後葉までの土器片を含んでいる。縄文時代の前期と中期の遺構には V 層対応の黒褐色土が覆土として堆積しており、辻接があうものと考えている。

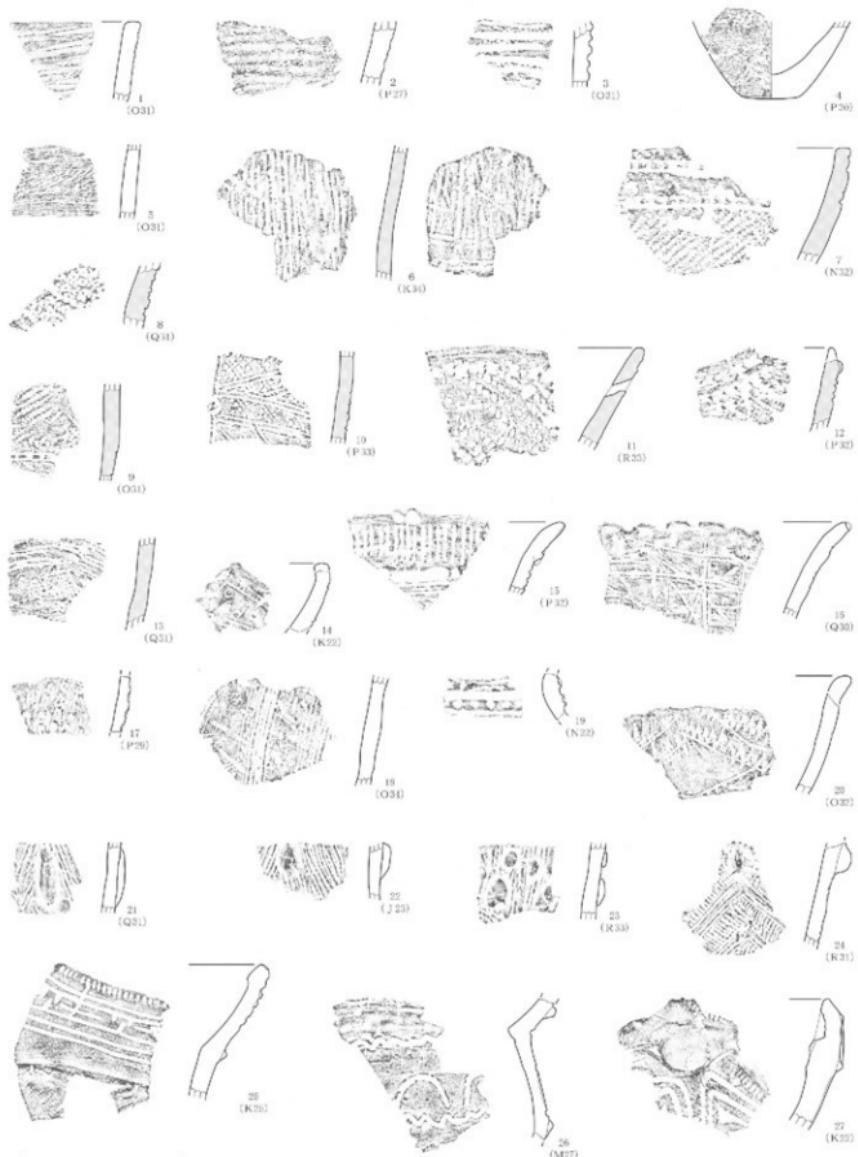
グリッド出土遺物

8×8m のグリッドごとに採取した、時期が分かれる土器片の分布図は、第 25・26 図に示した。出土した層位は II 層の下部からローム層の上面にかけてである。第 25・26 図にあるように、グリッドにおける時期別の土器片数は場所による偏りを示しており、早期後半の土器は、東台地北部、前期の土器は調査区北部、中期の土器は西台地南より出土する。

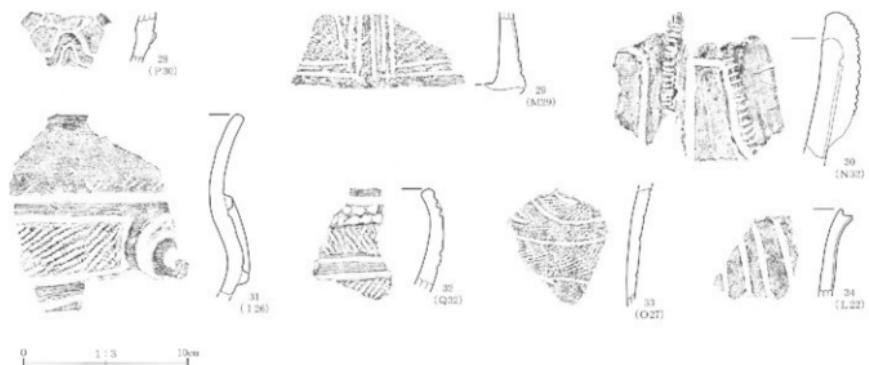
西台地の土器（第 27・28 図、図版 49・50）

1～5 は、淡黄褐色～灰黄褐色で、密度が疎で、白色粒・穂を含む胎上を持つ早期中葉頃の土器片。1・2・5 は沈線文系土器。3 は凹線文で、沈線文系でも古い段階のものか。4 は表面が横方向にヘラ削りされた尖底部で、撚糸文系七器と沈線文系土器との間の時期のものと考えられ

る。6 は、早期後半の条痕文系土器。7～13 は、胎上に纏繩を含む前期前半の土器。7 は、半截竹管状工具により有節の平行沈線文で、原体の異なる羽状纏繩が施される。8 は RL 繩文上に、竹管による円形刺突文を施したもの。9 は RL 繩文を羽状に施し、半截竹管状工具による有節の平行沈線が見られる。10 は、2RL + Tr の付加条件文に平行沈線と円形刺突文を施文。黒浜式か。11 は日の粗い RL 繩文が施され、ヘラ状工具による横方向の刺突が見られる。穿孔されている。12 は、RL 繩文上に半截竹管状工具による横方向への刺突が 3 列施され、瘤状貼付文が見られる口縁部片。関山 I 式。13 は、輪の中央部を境に、撚りの異なる撚糸文を施した胴部片。14～24 は、前期後半の土器。14 は、連続爪形文と円形刺突文が見られる口縁突起で、浮島 I 式。15 は、口縁直下に縱条線が施され、輪積み底上に只縫による押圧と、その下には平行沈線が引かれる。興津式。16 は、横方向への平行沈線と縱方向への沈線を組み合わせた波状口縁。17 は、半截竹管状工具により縱方向への刺突文がある胴部片。18 は、7 本齒の櫛状工具を利用して平行沈線を施している。19 は、横方向への隆帶上に刺突がある胴部片。20 は、沈線間に只縫文が見られる興津 II 式の波状口縁部片。21～23 は、棒状貼付文と集合沈線を持つ諸磯 e 式。24 は、瘤状貼付文に貝殻腹縫文、平行沈線文を施した興津 II 式。25～31 は、中期の土器片。25 は口縁部が張り出した深鉢の破片で、沈線と刺突文、隆帶が見られる。五領ヶ台式か。26 は、隆帶と沈線、有節沈線文で文様を描く。胎上に、白色粒と金雲母粒を含む。阿下台 II 式か。27 は、鉢の口縁突起で、押引手法による区画内に三角印刻文が施される。内面にも三角印刻文が施され、五領ヶ台式と思われる。28 は波状口縁部片で、隆帶とそれに沿って施された有節沈線文が施される。阿玉台 I 式か。29 は RL 繩文を施した器皿を、沈線と有節沈線で区画した胴下半部。五領ヶ台式か。30 は隆帶上に刻み目をいれ、隆帶に沿って沈線を引いた口縁部片。阿玉台式。31 は、隆帶と沈線で口縁部文様を作っている、加曾利 E II 式の深鉢。32～34 は、後期の称名寺式と思われる。32 は、内湾した口縁部片で、円形刺突文と磨消纓文が施文される。纓文は RL 単節。33 は、渦巻状に文様が施され、纓文が充填されて磨り消された胴部片。34 は、やや外湾する口縁部片で、口唇部に沈線が引かれる。さらに縦方向に沈線が施され、纓文が



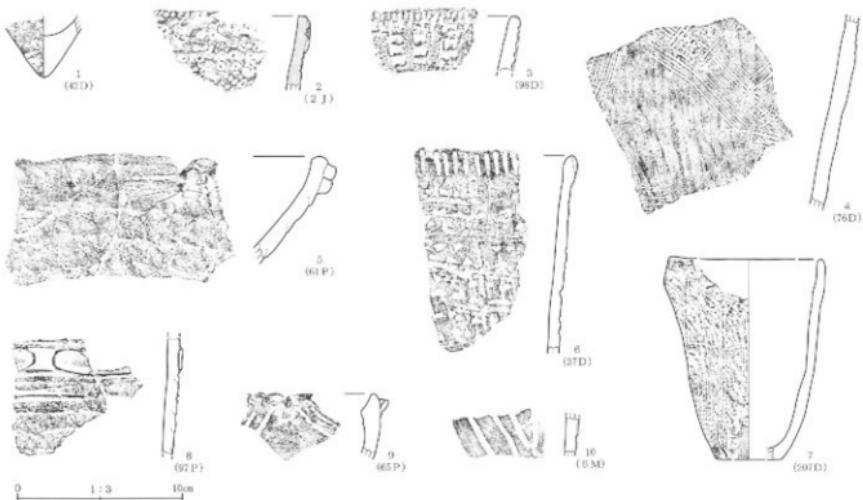
第27図 グリッド出土土器（西台地）（1）



第28図 グリッド出土土器（西台地）（2）



第29図 グリッド出土土器（東台地）



第30図 時期外遺構出土の縄文土器（西台地）

充填されて磨り消されている。

東台地の土器（第29図、図版50）

1~6は早期後半の土器で、胎土に纖維を含む。1は、外面が沈線と刺突からなり、内面は条痕が施される。2は細隆起線文で区画して中に刺突文を施し、細隆起線交点に竹管状工具で押捺文を加えている。鶴ヶ島台式の口縁部片。3~5は、外面と内面に条痕文が施された早期終末期の土器片で、3は口唇部に刻み目が加えられている。4は、器面に段が施され、段に沿って刺突文が加えられた胴部片で、茅山下層式か。6は尖底で、外面調整はナデ。7~8は前期前半の上器で、いずれも胎土に纖維を含む。7は無筋の羽状縄文で、沈線が横方向に施される。8は、横方向の刺突文と、大木2a式との関連をしめす網目状撲糸文が施された胴部片で、黒浜式か。9~11・13は、前期後半の土器。9は、口縁部突出で、半截竹管状工具による連續爪形文で文様が描かれる。浮島Ia式か。10は、貝殻腹縄文を器面に施した後、横方向に沈線を施した口縁部片。11は、縱方向に条線を描き、半截竹管状工具によって平行沈線文を胴部に描く深鉢の口縁部片。輪

積み痕を残し、穿孔されている。浮島式。13は口唇部に刻み目を加えた破片で、いわゆるソーメン状浮線文で文様を描き、添付文を外面に加えて三角形の抉り込みをもつ。前期終末の十三菩提式であると考えられる。12は張り出した口縁部を持つ深鉢の破片で、沈線、隆帯、刺突、RL縄文が施される。中期初頭の土器か。

石器・土製品（第33・34図、図版53・54）

石器には、石鎌、石錐、石匙、削器、磨製石斧、磨石、敲き石、スタンプ形石器（？）、剥片がある。そのほか、砥石片、礫、礫片があり、砥石は横断面長方形や縱断面山形を呈し、側面に条線状の切り出し痕をもつものもある。中・近世以降の砥石と思われる所以ここでは割愛する。礫は所属時期不明であるが、ここで集計しておきたい。

石器・土製品は遺跡内に広く、ほぼ普遍なく分布しており、特に集中する地区はみられない。器種別にみて、この傾向はほぼ変わらない。ただ、東台地のグリッド27ライン以南の南半分では、平坦部が狭い上に、遺構も多く、そのためか磨石片と礫片2点が採取されたことにとどま

る。

石鏃 5 点（第 33 図 1～3・5・6）、削器 1 点（10）、石錐 1 点（11）、石砕 2 点（12・13）、磨製石斧片 1 点（17）、磨石 19 点で、図示したのは完存 8 点の内の 4 点（21～24）、敲石 2 点（19・20）、剥片は 54 点あり、黒曜石が最も多く 29 点、チャート 8 点、ホルンフェルス 7 点、メノウ 5 点、珪質頁岩 2 点、粘板岩 2 点、硬質砂岩 1 点である。頁岩製の剝片は、他に表様が 1 点あり、旧石器時代に属する可能性がある。なお、片側側面に自然面をもつチャート製のスタンプ形石器の大片がグリッド Q3I から採取されている。礫は安山岩が多く、円錐 5 点、棒状の自然錐 3 点、疊片 14 点。

土製品は土器片鉢 1 点（第 34 図 31）、不明土製品 5 点、焼成粘土塊 14 点。不明土製品のうち、棒状 2 点（32）、板状 2 点、小円錐状が 1 点である。板状のうち 1 点は、土器底部片のようにも見えるがはつきりしない。

トレンチ出土遺物

確認調査の段階でトレンチから出土した遺物のうち、時期が特定できる縄文時代の遺物の内訳を記載する。

西台地の土器

西台地のトレンチ、1T～29Tまでのうち、時期が特定できた縄文時代の遺物は次の通りである。

3T より前期後半の胴部片 1 点、4T より前項後半の胴部片 1 点、6T より、横ヘラ削りされた早期中葉の胴部片 1 点、前期後半の胴部片 1 点、7T より前項後半の胴部片 1 点、9T より阿玉台 I b 式の胴部片 1 点、10T より中期前半の胴部片 1 点、11T より前項後半の胴部片 2 点、阿玉台 I 式の口縁部片 1 点、中期の胴部片 1 点、12T より前項前半の口縁部片 1 点、14T より、前期前半の口縁部片 1 点、前期後半の胴部片 1 点、五領ヶ台式の胴部片 1 点、阿玉台 I 式の胴部片 1 点、中期前半の胴部片 1 点、中期中葉～後葉の深鉢口縁部片 3 点・胴部片 1 点、15T より、前期後半の胴部片 2 点、16T より、加曾利 II 式の深鉢の胴部片 2 点、中期の深鉢の胴部片 1 点、17T より阿玉台 I 式の鉢口縁部片 1 点、中期の鉢口縁部片 1 点、後期の称名寺式の胴部片 1 点、18T より中期前半の鉢口縁部片 1 点、中期の口縁部片 1 点、19T より中期の鉢口縁部片 1 点、20T より中期後半の胴部片 1 点、中期中葉～後葉の鉢口縁部片 2 点、21T より前項後半の胴部片 1 点、22T より早期中葉の平行沈線文系土器の口縁部片 1 点、前項後半の胴部片 1 点、加曾利 II 式の深鉢口縁部片 1 点・胴部片 1 点、加曾利 II 式の深鉢口縁部片 1 点、中期の口縁部片 2 点・胴部片 1 点、24T より早期中葉の平行沈線文系土器の胴部片 1 点、前項前半の胴部片 1 点、前項後半の胴部片 1 点、中期中葉～後葉の胴部片 3 点、25T より前項前半の口縁部片 1 点・胴部片 3 点、浮島式の鉢口縁部片 1 点、前項後半の胴部片 1 点、阿玉台 I 式の口縁部片 1 点、26T より前項前半の胴部片 3 点、前項後半の胴部片 1 点、27T より前項後半の胴部片 7 点、中期前半の口縁部片 1 点、28T より興津式の口縁部片 1 点、興津 II 式の胴部片 2 点、前項後半の口縁部片 2 点・胴部片 13 点、中期の胴部片 1 点、29T より興津式の胴部片 1 点、阿玉台 I b～II 式の胴部片 1 点。

東台地の土器

東台地のトレンチ、33T～42Tまでのうち、時期が特定できた縄文時代の遺物は次の通りである。

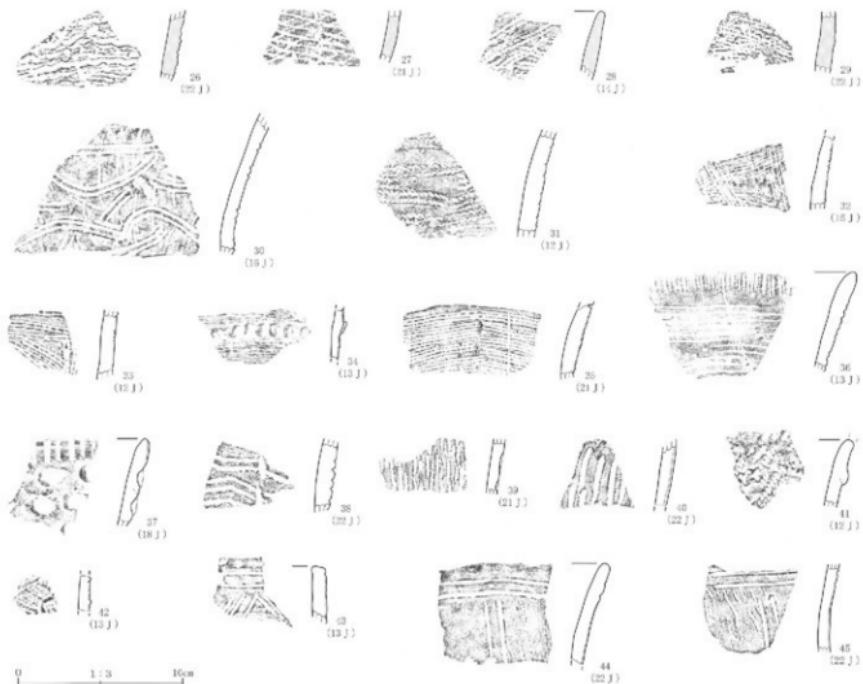
33T より早期後半の胴部片 4 点、前項前半の胴部片 3 点、浮島 I 式の胴部片 1 点、前項後半の胴部片 4 点、34T より早期後半の胴部片 4 点、前項前半の胴部片 2 点、浮島式の胴部片 1 点、興津 II 式の胴部片 1 点、前項後半の胴部片 4 点、35T より早期後半の胴部片 4 点、前項後半の口縁部片 1 点・胴部片 2 点、36T より横ヘラ削りされた早期中葉の胴部片 1 点、早期後半の胴部片 2 点、37T より早期後半の胴部片 2 点、前項後半の胴部片 1 点、38T より、鶴ヶ島台式の胴部片 1 点、早期後半の胴部片 1 点、39T より中期前半の胴部片 1 点、中期の胴部片 5 点・底部片 1 点、40T より中期前半の鉢の胴部片 1 点。

石器・土製品（第 34 図、図版 54）

トレンチからの採取は少ない。西台地中央部の 22T より石皿片 1 点（第 34 図 26）、北部 24T より磨石片 1 点、25T より焼成粘土塊 1 点、26T より剥片 2 点（チャート）と焼成粘土塊 1 点、西台地 36T より疊 2 点である。



第31図 時期外遺構出土の縄文土器（東台地）（1）



第32図 時期外遺構出土の縄文土器（東台地）（2）

時期外遺構出土の縄文時代遺物

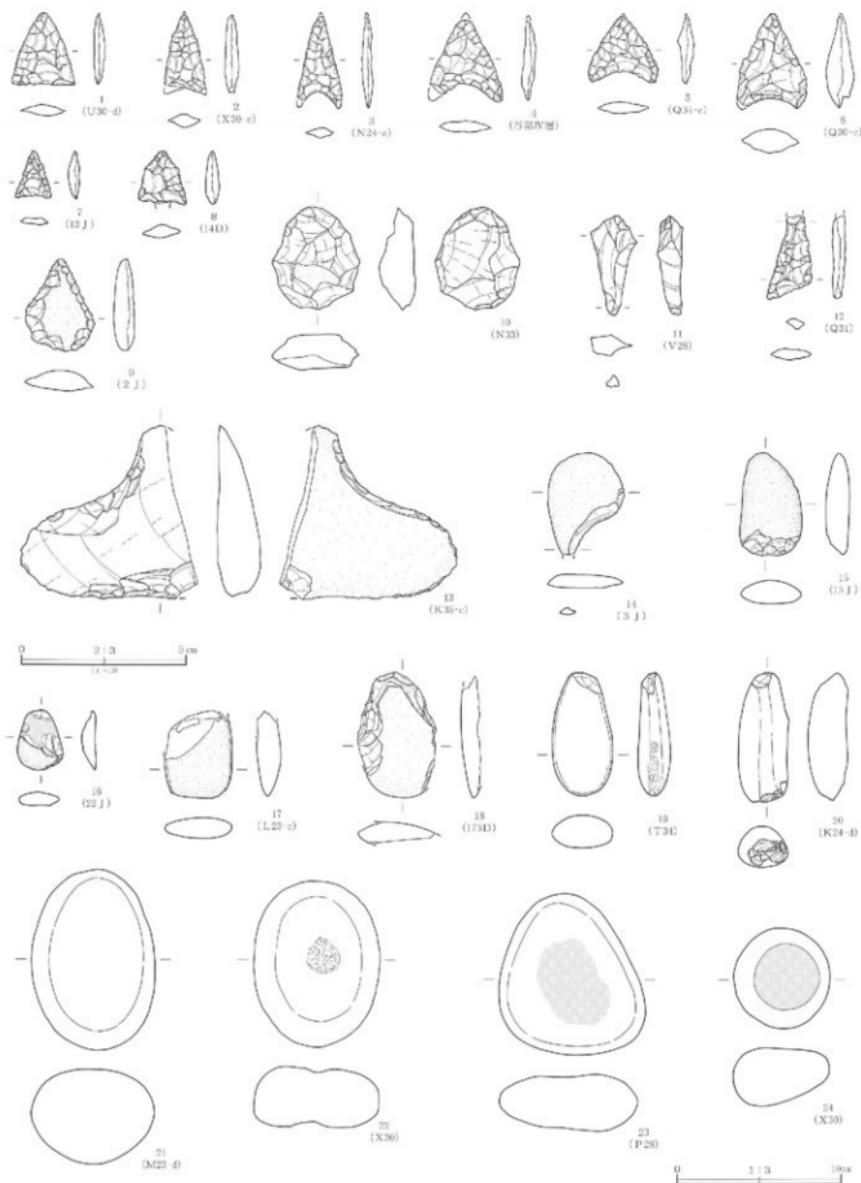
西台地の土器（第30図、図版52）

1は胎土に繊維を含まない、早期の尖底土器。2は繊維を含む前期前半の上器。口縁直下に隆帯が巡り、RL縄文に竹管による円形刺突文が施されている。3・4・6は前期後半の土器。3は、ヘラ状工具による刺突を縦方向に施して、文様を作り出している口縁部片。4は、半截竹管状工具による平行沈線文を施した深鉢の脛部。6は、口縁部に縦方向の沈線を施し、器面に三角文を施した深鉢の口縁部で、浮島式。5・7～9は、中期の土器。5は、張り出した口縁部がやや内湾する深鉢の破片で、扇状把手がつき、粘土紐の輪積み痕が3段見られる。阿玉台I式。7は小型の深鉢で、縦方向に条線が施される。8

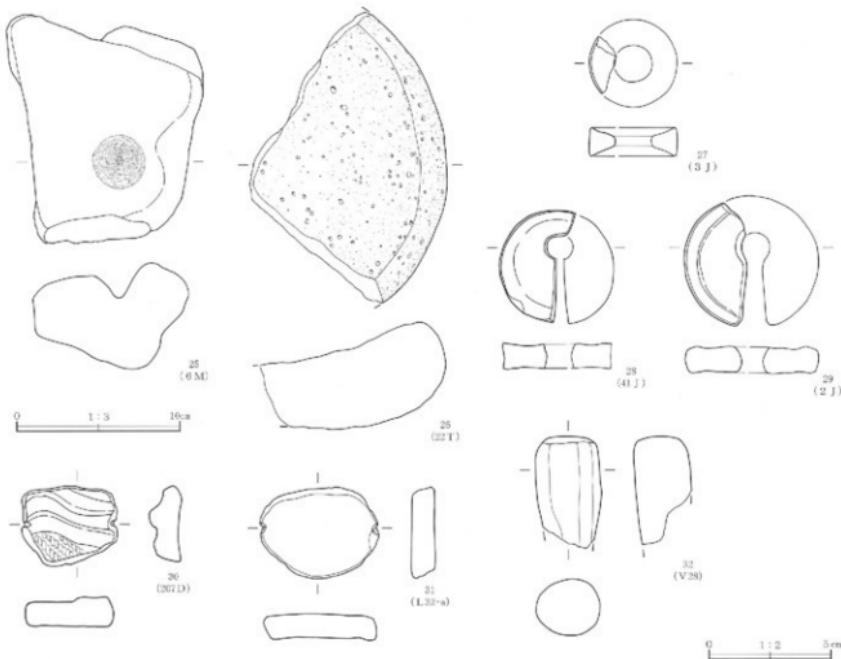
は、器面に隆帯と有筋沈線で梢円形区画を持つ文様を描き、輪積み痕を残した鉢の脣部片で、阿玉台Ib式か。9は鉢の突起で、口唇部と口縁直下に角印文を施している。阿玉台Ia式か。10は、描かれた沈線の間に、縫文を施して磨り消した後期の称名寺式と思われる。

東台地の土器（第31・32図、図版51・52）

1～20は早期の土器。3～20は胎土に繊維を含む。1は胎土に白色粒子や繊維を多量の含み、密度の粗い胴部片。器面を横方向にヘラ削りされており、撚糸文系土器と沈線文系土器の間に位置する早期中葉の土器と考えている。2は早期中葉の沈線文系土器。3～6・8は外面と内面に条痕が施され、細隆起線による区画内に条線が施された破片で、早期後半の野島式。7・9～15は、鶴ヶ島台式。7・9・10は、細隆起線文上に、一定の間隔で竹管状工具に



第33図 石器 (1)



第34図 石器（2）・土製品

より押捺文を加え、内面に擦痕が施される。11・15は、沈線による交点に、円形刺突文を加え、沈線の間に刺突を加えた胴部片。15の内面は条痕文が施される。12は、外面に沈線と円形刺突文、刺突文が施され、内面に擦痕を持つ口縁部片。13は、条線による交点に竹管の押捺文を加え、区画内に刺突を施している。内面に擦痕が施される。14は肥厚した口縁部に刻み目を持ち、横方向の沈線の間に刺突が加えられている。16は胴部上半が外へ張り出す鉢の破片で、外面の隆帯上に刻み目を持ち、器面に擦痕が見られる。内面には条痕が施される。茅山下層～上層式か。17は、外・内面に擦痕を持ち、胴部上半の段に刻み目を持つ。茅山下層式か。18～20は、外面と内面に条痕が施された早期後半の土器で、18と20は口唇部に刻み目を持つ。21～29は船上に纖維を含む前期前半の土器。21は波状口縁を持つ鉢の破片で、外面にはLR網文が施され、半截竹管状工具による連続爪形文が施され

る。22は竹管を4本組み合わせた工具で刺突を横方向に加えた胴部片。23は口縁部に沿って半截竹管状工具による刺突を加え、器面にRL網文を施した深鉢の破片。24は無節の羽状網文に、ヘラ状の工具で縱方向に刺突を加えたもの。25・26は、沈線を横方向に平行に巡らした胴部片で、黒浜式か。27は、網目状撚糸文が施された、黒浜式。28・29は、F巻きとし巻きの撚糸文が施された胴部片。30～45は前期後半の土器。30は、Lに巻いた撚糸文上に半截竹管状工具による平行沈線文と連続爪形文を施した深鉢の胴部片で、浮島I式。31は、変形爪形文を横方向に施した浮島式。32は半截竹管状工具による平行沈線文を縦と横方向に施した胴部片。33は、有節の平行沈線文で胴部に文様を描いたもの。34は、薄手の鉢の破片で、横方向に平行沈線と有節の平行沈線を引き、輪積み直部分に棒状の突起を貼り付けた胴部片。興津I式。35は、横方向に3本歯の櫛齒状工具で平行沈線を引いた

胸部片。36は、口縁に縦条線、胸部に半截竹管状工具による平行沈線文を横に巡らす深鉢の破片。37は、口縁部に刻み、胸部に凹文を施した浮島式の深鉢。38は平行沈線を鋸歯状に施した浮島I式の胸部片。39・40は短沈線を縦方向に施した胸部片。41は、口縁部下に陰帯を巡らし、口唇部と器面にLR織文を施した鉢の破片。織維を含まないが、早期の土器の可能性もある。内面はナゲ調整。42は、平行沈線によって区画された中に半截竹管状工具で条線を充填した破片。43~45は、単沈線で文様を描いたもので、44・45はRに巻いた撚糸文上に沈線を施している。

石器・土製品（第33・34図、図版53・54）

石器は、石鑿3点（第33図7~9）、石錐1点（14）、鍛器（あるいは削器）1点（15）、磨製石斧片1点（16）、凹石1点（第34図25）で、石鑿8と凹石以外は、弥生以降の住居址混入の石器である。このほか、磨石片、剥

片がわずかながら採取されている。14は片面自然面、15は扁平な椎円錐の端部に調整を加えたもの、16は小型の磨製石斧片と思われ、上・下面の剥離面が滑沢な磨り面となっている。

土製品は、耳飾3点（第34図27~29）。27は環状、28・29は块状である。

なお、石鑿4は31Tの基本層序第IVc層出土、2次加工した磨製石斧片18は時期不明遺構とした173号土坑、土器片錐30は同じく207号土坑出土である。

第1表 石器・土製品観察表

No.	出土地點	種類	特徴	直 径	長 度	幅 cm	厚さ cm	重 量	材質・加工		参考
									石	骨	
1	U30-d	重巻玉	G 織	先存	2.25	1.31	0.37	1.26	チート		
2	X30-c	圓盤上	石 錐	先存・基部欠損	[2.37]	[1.21]	0.45	[1.11]	チート		
3	N24-a	圓盤上	石 錐	先存・基部欠損	[2.80]	1.30	3.00	[1.03]	チート		
4	31Bレンザ	（鉢心）	G 織	先存・基部欠損	[2.6]	[2.2]	[0.15]	[1.86]	ホルンフェルス		
5	Q34-c	圓盤上	石 錐	先存・基部欠損	[2.03]	2.04	0.54	[1.31]	チート		
6	Q30-c	圓盤上	石 錐	基部欠損	2.96	2.96	0.46	[5.73]	ホルンフェルス		
7	13件	圓盤上	石 錐	先端欠損か	1.47	1.07	0.33	0.55	チート		
8	145	圓盤上	石 錐	先存・基部欠損	[1.67]	1.45	0.45	10.85	メラフ	表面もつ立角形調	
9	2往	圓盤上	石 錐	先存	2.84	2.10	0.66	3.70	ホルンフェルス	片面に一部熱変色あり	
10	N33	圓盤上	石 錐	先存	3.15	2.60	1.10	8.80	ホルンフェルス	片面に一部熱変色あり	
11	V28	圓盤上	石 錐	先端欠損	[3.06]	1.35	1.25	[1.9]	黒曜石		
12	Q31	圓盤上	石 錐	先端欠損	2.61	1.40	0.40	[1.1]	黒曜石		
13	K35-c	圓盤上	石 錐	1/2欠損	5.30	[5.1]	1.30	[30.1]	ホルンフェルス	片面自然面	
14	3往	圓盤上	石 錐	先端欠損	[6.26]	4.50	0.85	[25.8]	ホルンフェルス	片面自然面	
15	13往	圓盤上	石 錐	先存	6.25	3.70	1.46	48.45	チート	偏平部の刃端を調査、削除か	
16	22牛	圓盤上	磨製石斧	欠損か	[3.66]	[2.65]	0.87	[10.2]	蛇紋石	破損部裏面に横溝線、低周波	
17	L23-c	圓盤上	磨製石斧	欠損か	[3.4]	4.10	1.45	47.11	蛇紋石		
18	173丸	禮子	磨製石斧	欠損か	17.85	14.8	[1.1]	[53.2]	蛇紋石	石斧の底角尖か	
19	E34	圓盤上	磨 石	一面欠損	7.56	3.60	1.95	69.65	砂岩	削除跡に凹凸感	
20	K24-d	圓盤上	磨 石	一部欠損	8.0	2.0	2.45	69.95	ホルンフェルス	削除部に歓打痕	
21	M23-d	圓盤上	磨 石	先存	11.0	7.40	5.86	657.0	安山岩	全面削除、とくに一強スベスル	
22	X30	圓盤上	磨 石	先存	10.10	7.45	3.75	315.6	安山岩(多孔質)	全面に削除、背面に削れ痕	
23	P28	圓盤上	磨 石	先存	9.80	8.80	3.70	495.0	安山岩	全面、侧面に磨り痕	
24	X30	圓盤上	磨 石	先存	6.10	5.75	3.80	173.0	安山岩	片面のみ磨り痕	
25	M24-b	禮子	磨 石	欠損か	[14.0]	[11.96]	[6.8]	[393]	つくば石		
26	22-レンザ	圓盤上	石 錐	先存	2.25	6.6	12001	安山岩(多孔質)			
27	3往	圓盤上	耳 鈴	欠損品	外径(3.6)、内径(1.6)	1.25	2.40	白色燧、赤粒状			
28	4・往	圓盤上	耳 鈴	1/2欠損	外径(4.05)	1.05	12.50	貝石、雲母礫片	块状骨骼		
29	2往	圓盤上	耳 鈴	1/2欠損	外径(5)	1.05	15.55	黑色矿物粒	块状骨骼		
30	207b	圓盤上	土器片錐	先存	3.20	3.90	1.35	26.25	砂粒		
31	L23-a	圓盤上	土器片錐	先存	3.75	4.80	1.10	22.10	雲母片多	中腹の土器片使用	
32	V28	圓盤上	土器片錐	欠損か	[4.6]	2.70	2.30	124.45	白色・赤色粒	土器成形	

2. 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の概要

弥生時代の遺構としては、堅穴住居跡 9 軒が検出されている。いずれも後期の住居跡で、第 7 号住居跡が西台地北部の北側に、第 32 分住居跡が同北部の東端に占地し、他 7 軒は東台地に展開している。弥生時代の遺構・遺物は西台地では分佈が薄く、南部南側の土器群（包含層 No.1 土器群）とグリッド N24 周辺（第 2 号焼土跡周辺）の上器片が目に付く程度である。ただ、グリッド N24 周辺の上器は、後述するように 2 次移動したローム土に混入した上器片の可能性が強い資料である。

弥生時代の遺物は口縁部に貼瘤を付け頸部を無紋とし、その他の器面に繩文を施す弥生時代後期の壺・甕がほとんどであった。施される繩文は附加条第 1 種（R1-2L、LR+2R）が圧倒的に多く、その他に無節・單節・撚糸・反撚などの繩文が確認できる。また、堅穴住居跡の遺物出土状況では第 32 分住居跡のように床面から弥生土器、覆土上層から確認面にかけて古墳時代前期の土器が検出されるというように、弥生時代後期後半から古墳時代前期への移行期を考えるうえで興味深い現象を提供している。

堅穴住居跡

第 7 号住居跡（第 35・36 図、第 2 表、図版 6・55・59）

グリッド P32・33。遺存・重複 西台地北側平野部に占地する。住居の遺存は良好だが、南西隅を第 47 号土坑により損なわれている。また、北東隅で第 44 号土坑を壊している。北壁で第 66 号土坑を切り、北東隅を第 9・68 号土坑、東壁を第 64・63 号土坑が切っている。**形状・規模** 方形。上面径 6.2×5.85m、床面径 5.7×5.4m、最大壁高は南壁にあり 0.56m、床面積約 30.78 m²。**主軸方位** N-18°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、貼床はない。硬化面はないがよく踏み固まっている。**炉** 住居中央部やや北寄りに位置する。上面径 0.76 × 0.68m、底面径 0.63 × 0.49m。深さは約 0.1m を測る。浅い皿状の掘り込みで中心部が赤化している。覆土中に焼土粒・焼土ブロックが多く含まれていた。土器片が 1 片出土している。**住居内施設** 周溝は住居壁を全周せ

ずに断続的な状態で巡っている。東壁のものは I 字形の断面形をし、西壁は断面形が深い V 字形のようなものであつた。深さは 4~8 cm を測る。ピットは計 24 本検出された（P1~24）。その内 P1・2・4・5 は住居の主柱穴であり、掘り込みがしっかりとしている。その他のピットも主柱穴のピットの覆土と類似する覆土であるため住居に伴うと考えられる。P3 は出入り口に関わる施設と考えられ、付近の P9・10 も同様のものと考えられる。また、炉の周辺で確認される P15~18 はかに伴う施設のものと考えられ、これら以外のピットも住居の間仕切りに関わる可能性が考えられる。

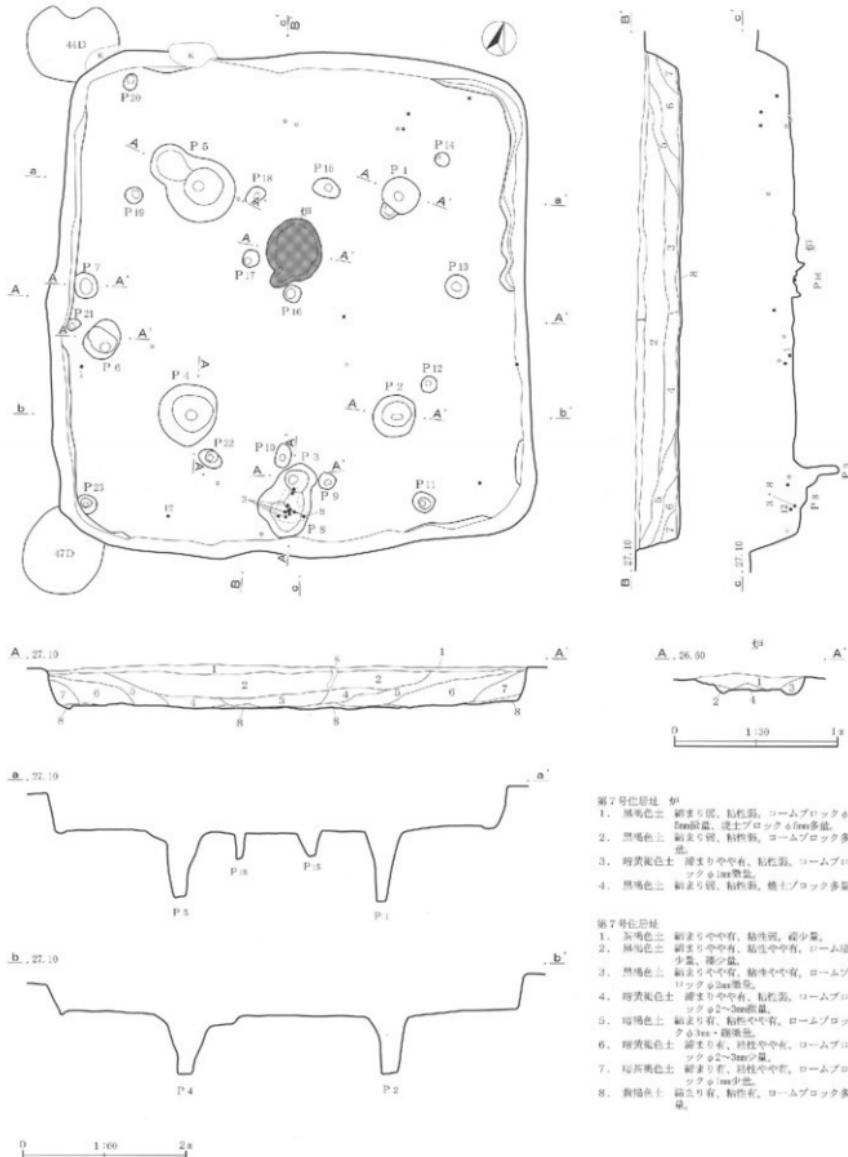
No	上面径cm	底面径cm	深さcm
P1	40×46	7×8	85
P2	52×51	6×14	72
P3	38×38	11×11	52
P4	77×70	12×14	73
P5	80×116	9×9	82
P6	50×40	8×10	59
P7	32×28	19×15	8
P8	60×54	50×38	12

出土遺物 弥生土器の壺・甕（3~11）、高杯（1・2）、紡錘車（12）が出土した。その他に弥生土器の壺・甕片 9 点、高杯片 2 点、上師器壺・甕片 78 点、小型土器片 4 点、埴輪 1 点、その他土器片 5 点が出土した。住居覆土全般にかけて繩文土器の混入が確認できた。古墳時代の遺物で良い資料はなかったが、床面付近では古墳の遺物も確認でき、弥生土器と共にしている様相が確認できた。

備考 床面から古墳時代の上師器も出土するが P7・8 の出土土器から弥生時代後期後半。

第 13 号住居跡（第 37・38 図、第 3 表、図版 8・55・59）

グリッド W・X29。東台地北部中央やや東よりに占地する。遺存・重複 住居の西半分は 4 本の切り株によつて破壊されており、さらに南壁の一部を壊乱により壊されている。**形状・規模** 方形。上面径 5.98×5.21m、床面径 5.41×4.78m、最大壁高は西壁にあり 0.52m、床面積約 25.86 m²。**主軸方位** N-65°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、貼床はない。硬化面はないがよく踏み固まっている。上面径 5.98×5.21m、床面径 5.41×4.78m、最大壁高は西壁にあり 0.52m、床面積約 25.86 m²。**主軸方位** N-65°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、貼床はない。硬化面はないがよく踏み固まっている。上面径 5.98×5.21m、床面径 5.41×4.78m、最大壁高は西壁にあり 0.52m、床面積約 25.86 m²。



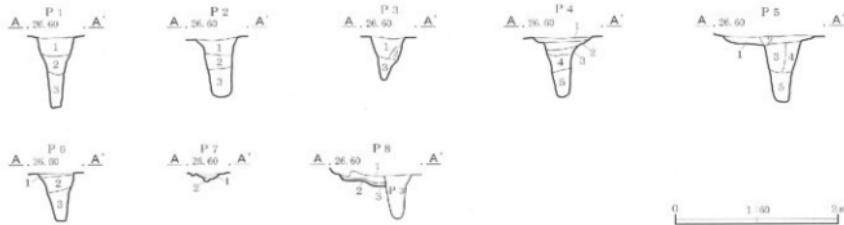
第7号住居址 無

1. 黒褐色土 細まり灰、粘性弱。ロームブロック多く残す。
2. 黒褐色土 細まり灰、粘性弱。ロームブロック多量。
3. 灰黄褐色土 細まり灰や有、粘性弱。ロームブロック少々有。
4. 黑褐色土 細まり灰、粘性弱。粘土ブロック多量。

第7号住居址

1. 黑褐色土 新まり灰や有、粘性弱。礫少量。
2. 黑褐色土 細まり灰や有、粘性や有。ローム塊少々有。
3. 黑褐色土 細まり灰や有、粘性や有。ロームブロック少々有。
4. 灰黄褐色土 細まり灰や有、粘性弱。ロームブロック少々有。
5. 灰褐色土 細まり灰、粘性や有。2~3mm礫量。
6. 灰褐色土 細まり灰、粘性や有。ロームブロック少々有。
7. 灰黄褐色土 細まり灰、粘性や有。ロームブロック少々有。
8. 黑褐色土 細まり灰、粘性弱。ロームブロック多量。

第35図 第7号住居址 (1)



第7号住居址 P 1

- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生やや有。ロームブロックφ2~3mm少量。木炭片少量。
- 明葉褐色土 線まり細、粘性弱。ロームブロックφ2~3mm少量。
- 茶褐色土 線まり弱、辺生弱。ロームブロックφ1mm多。

第7号住居址 P 2

- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生やや有。經無灰。
- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生弱。經微灰。
- 茶褐色土 線まり弱、辺生強。經微灰。

第7号住居址 P 3

- 明葉褐色土 線まり弱、柱状やや有。經無灰。
- 明葉褐色土 線まり弱、柱状弱。ロームブロックφ2~3mm少量。燒結品。
- 茶褐色土 線まり弱、柱状弱。ロームブロックφ2~3mm少量。經微灰。

第7号住居址 P 4

- 明葉褐色土 線まり弱、辺生やや有。經無灰。
- 明葉褐色土 線まり弱、辺生少。ロームブロックφ10mm微量。
- 茶褐色土 線まり弱、辺生やや有。ローム粒、經微灰。
- 明葉褐色土 線まり弱、辺生弱。經無灰。
- 茶褐色土 線まり弱、辺生やや有。ロームブロックφ2~3mm少量。經微灰。

第7号住居址 P 5

- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生有。ロームブロックφ1~5mm少量。
- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生やや有。ロームブロックφ2~3mm少量。經少量。
- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生弱。ロームブロックφ2~3mm微量。
- 茶褐色土 線まり弱、辺生弱。ロームブロックφ1mm少量。
- 茶褐色土 線まり強、辺生強。ロームブロックφ1mm少量。

第7号住居址 P 6

- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生有。ロームブロックφ1mm少量。
- 明葉褐色土 線まり弱、粘性弱。ロームブロックφ1mm少量。
- 茶褐色土 線まり弱、辺生弱。羅達根。ロームブロックφ1mm微量。

第7号住居址 P 7

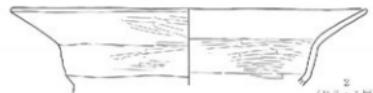
- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生やや有。ローム燒結品。
- 明葉褐色土 線まり弱、辺生弱。經微灰。

第7号住居址 P 8

- 明葉褐色土 線まりやや有、辺生やや有。ローム燒結品。
- 明葉褐色土 線まり弱、辺生弱。經微灰。ローム燒結品。



0 1:4 10cm



(P 7・1層)



4



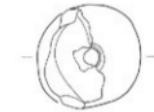
5 (3層)



6 (3層)



7 (3層)



(P 8・1層)



(P 14・1層)

0 1:3 10cm



11 (5層)

第36図 第7号住居址 (2)

ム面を床面としている。全体的に炭化物が分布し、何箇所かに炭化材が検出されている。その直下で床面がガラガラに赤化・硬化し、ボロボロになっているといった状況がみられる。その他では炉の周辺等がよく硬化している。炉 住居中央よりやや西に位置する。幅 36 cm、長さ 58 cm、深さ 3 cm の梢円形で底面は皿状を呈する。遺物は作わなかった。**住居内施設** 周溝は確認されなかつた。ピットが 6 本検出されている。(P1~6)。

No	上面径cm	床面径 cm	深さ cm
P1	22×22	14×12	43
P2	32×19	13×11	49
P3	20×19	11×7	38
P4	35×32	13×6	45
P5	26×25	21×15	51
P6	20×17	14×10	22

住居覆土第 4 層と上質が近いためどのピットも住居に伴うものと考えられる。しかし、P3 を除いて覆土内に焼土は混入していなかった。**出土遺物** 弥生土器の壺、甕 5 個体(1~5)、高杯 1 個体(6)、壺 2 個体(7・8)、小型上器(9)、劔鍔車 2 点(11・12)、砾石 1 点(10)が出土した。2 は横位、11 が東を向いて出土。1 は大甕で胴部に施設後に施されたと思われる穿孔痕が見られ、切り株に抱えられるような形で出土し、器面は摩滅が著しい。その他に弥生土器壺・甕片 66 点、土師器壺・甕片 108 点、高杯片 19 点、壺片 16 点、小型土器片 5 点、椀片 15 点が出土している。

備考 床面出土土器から弥生時代後期後半。

第 16 号住居址(第 39・40 図、第 4 表、図版 9・56・59)

グリッド X27・28。東台地傾斜部に占地する。**遺存・重複** 重複する遺構は見られないが、住居東壁は丘陵の影響により西壁に比べて低く明瞭な壁ではなかった。**形状・規模** 岡丸長方形。上面径は 5.0×6.62m、床面径 4.6×6.18m、最大壁高は西壁付近にあり 0.72m、床面積約 28.42 m²。**主軸方向** N-45°—W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、貼床はない。住居中央部が踏みかためられ硬化している。また、東壁寄りの床には弥生土器壺の胸部分下部(2)が床面に埋められていた。掘り込みを確認した結果、床面と類似する土が堆積し、

壺の脚には磨石(7)が壺を支えていたと考えられる状態で出土していた。そのため、廃棄以外の目的で埋められたと考えられる。**炉** 住居内では硬化した燃焼面を作った明確な炉は検出しなかつたが、P4 と P5 の上層部に焼土が含まれる可能性が考えられる。また、北東隅壁に隣接する第 199 号土坑では硬化した底面をもつ事から屋外への可能性も考えられる。**住居内施設** 周溝は確認されずピットが 9 本確認された(P1~9)。

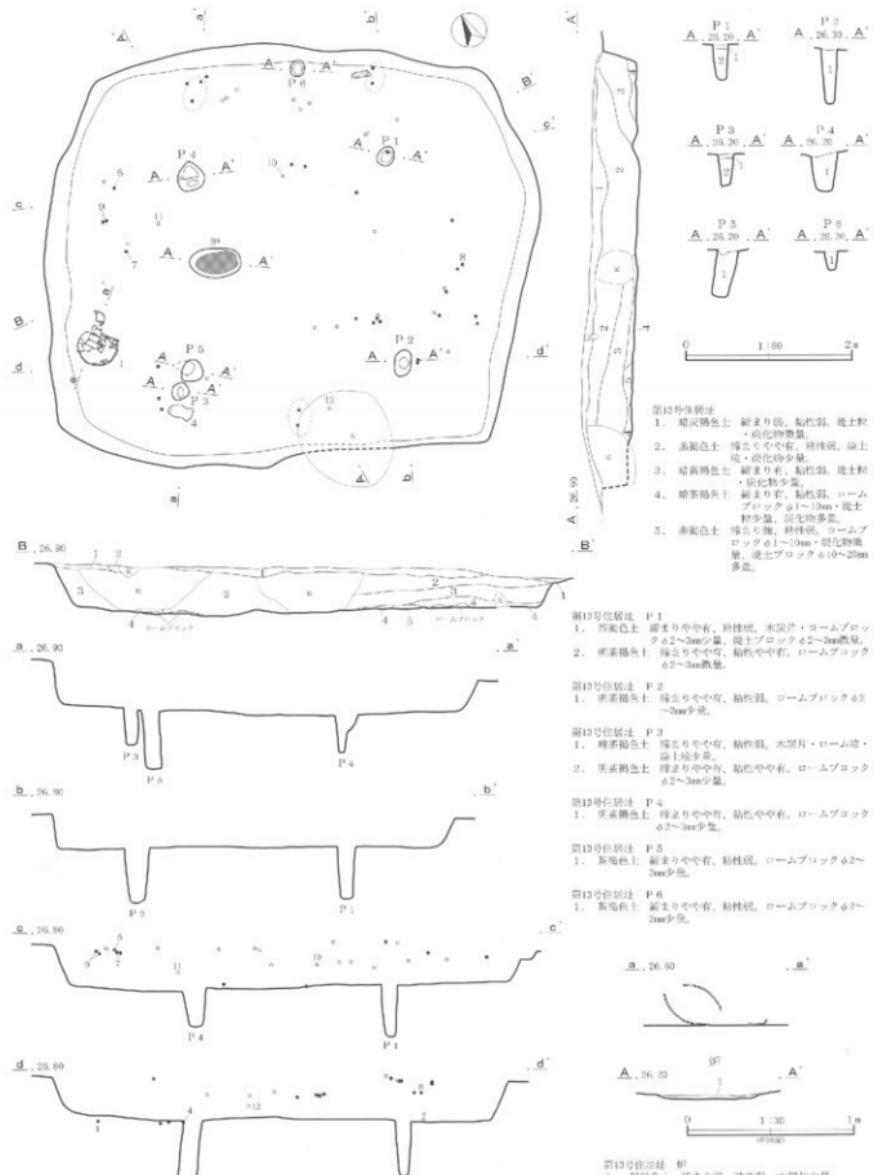
No	上面径cm	床面径cm	深さcm
P1	59×48	32×30	82
P2	68×60	24×20	45
P3	44×35	16×9	69
P4	49×33	16×10	19
P5	53×59	43×38	23
P6	35×35	16×10	35
P7	37×25	12×8	32
P8	32×26	18×10	63
P9	46×32	13×10	28

出土位置から P1・3・8・9 を住居の主柱穴と考えることができ、その他のピットも住居に伴う施設のものと考えられる。**出土遺物** 床面付近からは弥生時代、床面より上層からは古墳時代の遺物が出土した。住居から弥生土器壺・甕が 5 個体(2・3・4・5 含む)、壺 1 個体(1)、土師器壺・甕 1 個体、高杯 1 個体、鉢 1 個体(4)、壺 2 個体、球状土鍤 1 点(8)、磨石 1 点(7)が出土した。その他に弥生土器壺・甕片 37 点、土師器壺・甕片 75 点、高杯片 4 点、椀片 3 点、壺片 8 点、その他土器片 12 点が出土した。

備考 床面出土土器から弥生時代後期後半。

第 24 号住居址(第 41 図、第 5 表、図版 12・56)

グリッド X25・26。東台地中央部東斜面に占地する。**遺存・重複** 住居北西隅が後世の擾乱により切られている。また、南壁には切り株が 1 本住居に絡み壁を一部損なっている。**規模・形状** 上面径 5.45×4.10m、床面径 5.18×3.83m、最大壁高は北壁にあり 37 cm、床面積約 19.83 m²。**主軸方向** N-27°—W。**床面・掘り方** ローム面を床面とし、貼床は見られなかった。住居西壁～中央部がよく踏み固められ、東側は斜面の影響により明



第37図 第13号住居址(1)

- 第13号住居址
1. 鮎沢褐色土 細まり有、粘性弱、塊状物少量。
 2. 淡褐色土 塵こぼれ有、粘性弱、淡上色化物少量。
 3. 猫糞褐色土 細まり有、粘性弱、塊状物少。
 4. 菊芋褐色土 粘性弱、ロームブロックφ1~3cm。塊状物少、淡上色化物多。
 5. 赤褐色土 塵こぼれ、粘性弱、ロームブロックφ1~3cm。塊状物少、淡上色化物多。

- 第12号住居址 P1
1. 淡褐色土 細まりや有、粘性弱。木炭片・ヨームブロックφ2~3cm有。
 2. 淡茶褐色土 細まりや有、粘性弱。ヨームブロックφ2~3cm少。

- 第12号住居址 P2
1. 淡茶褐色土 細まりや有、粘性弱。ヨームブロックφ2~3cm少。

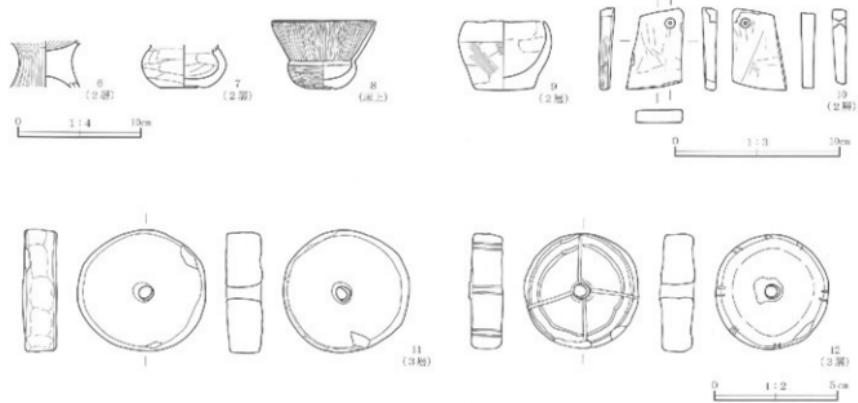
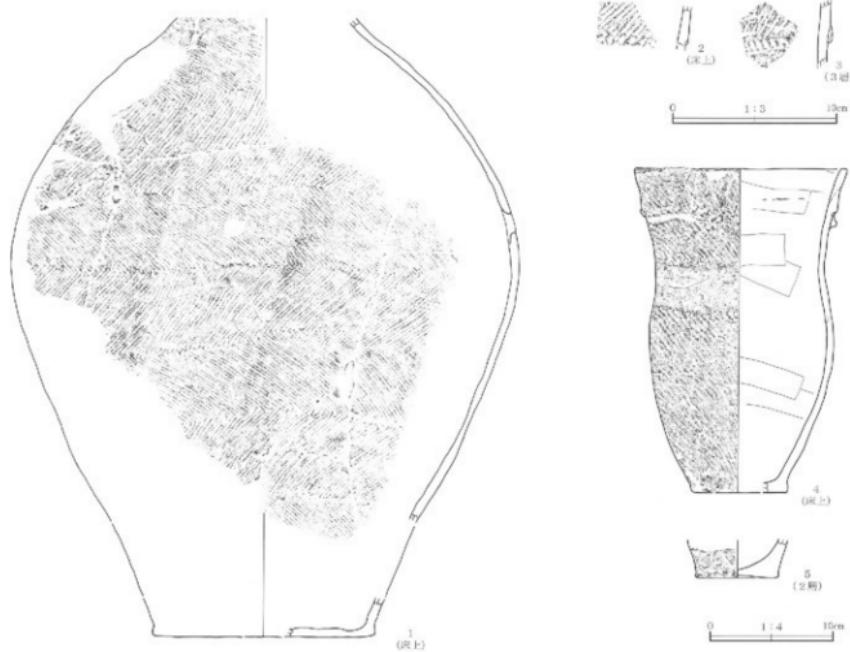
- 第12号住居址 P3
1. 淡茶褐色土 細まりや有、粘性弱。木炭片・ヨームブロックφ2~3cm有。
 2. 淡茶褐色土 細まりや有、粘性弱や有。ヨームブロックφ2~3cm少。

- 第12号住居址 P4
1. 淡茶褐色土 細まりや有、粘性弱。ヨームブロックφ2~3cm少。

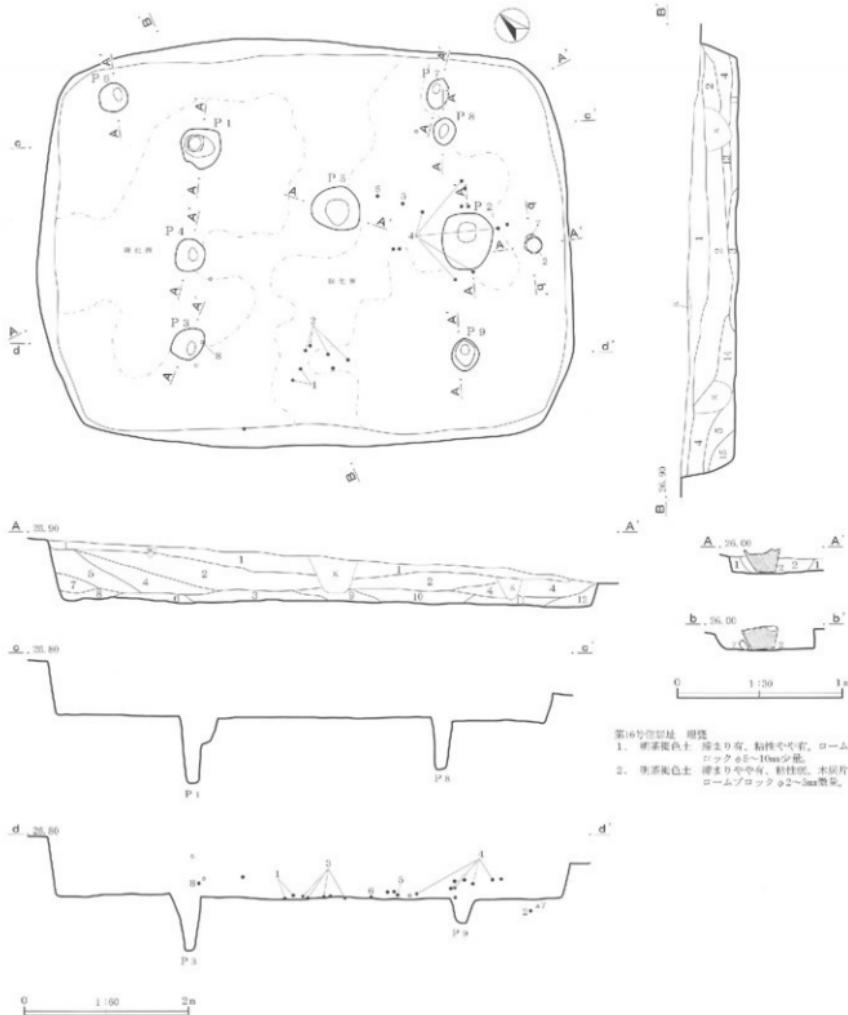
- 第12号住居址 P5
1. 淡茶褐色土 細まりや有、粘性弱。ヨームブロックφ2~3cm少。

- 第13号住居址 P6
1. 淡褐色土 細まりや有、粘性弱。ヨームブロックφ2~3cm少。

- 第13号住居址 楼
1. 黑褐色土 細まり弱、粘性弱。木炭片少。



第38図 第13号住居址 (2)



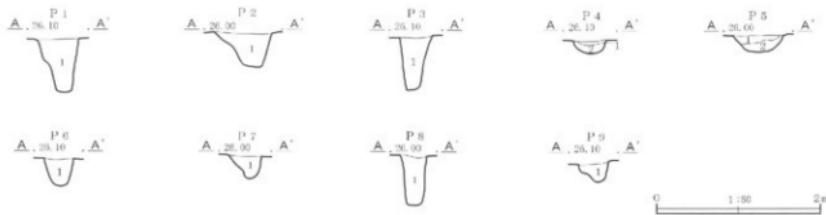
第16号住居址 縦断

1. 削平褐色土 緩まり有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 8\sim10$ m少量。
2. 剥離褐色土 緩まり有、粘性少。ロームブロック $\phi 2\sim3$ m少量。

- 第16号住居址
1. 暗灰褐色土 緩まり有、粘性少。砂質土。燧土粒・炭化物微量。
 2. 黒褐色土 緩まりやや有、粘性弱。コームブロック $\phi 1\sim10$ m・壁上端・炭化物少量。
 3. 細黃褐色土 緩まり有、粘性少。ローム粒多量。コームブロック $\phi 20\sim30$ m中少。
 4. 黄褐色土 緩まり有、粘性少。砂質土。コームブロック $\phi 2\sim3$ m微量。
 5. 坎窓褐色土 緩まりやや有、粘性少。ロームブロック $\phi 2\sim3$ m微量。
 6. 深褐色土 緩さりやや有、粘性やや有。燧土ブロック $\phi 2\sim3$ m・コーム粒少量。
 7. 灰褐色土 緩さりやや有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 2\sim3$ m微量。

8. 細黃褐色土 緩まりやや有、粘性やや有。ローム粒少量。
9. 反覆褐色土 緩まり有、粘性弱。コームブロック $\phi 2\sim3$ m少量。
10. 黑褐色土 緩まりやや有、粘性少。ロームブロック $\phi 6\sim10$ m少量。
11. 黄褐色土 緩まり有、粘性少。砂質土。コームブロック $\phi 5\sim10$ m多量。
12. 明褐褐色土 緩まりやや有、粘性少。砂質土。コームブロック $\phi 5\sim10$ m多量。
13. 明灰褐色土 緩さりやや有、粘性少。ローム粒少量。
14. 淡灰褐色土 緩さりやや有、粘性少。ローム粒少量。
15. 黑褐色土 緩まり有、粘性弱。ロームブロック $\phi 2\sim3$ m少量。

第39図 第16号住居址（1）



第16号住居址 P 1

1. 深茶褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ロームブロック少量。

第16号住居址 P 2

1. 深茶褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ローム粒少量。

第16号住居址 P 3

1. 深茶褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ロームブロック約2~3mm少量。

第16号住居址 P 4

1. 深茶褐色土 上 備まり深、粘性弱、洗土ブロック約2~3mm少量。

2. 深茶褐色土 下 備まりやや有、粘性やや有。ロームブロック約2~3mm少量。

第16号住居址 P 5

1. 深茶褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ロームブロック少量。

2. 深茶褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ローム粒少量。

第16号住居址 P 6

1. 深茶褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ロームブロック少量。

第16号住居址 P 7

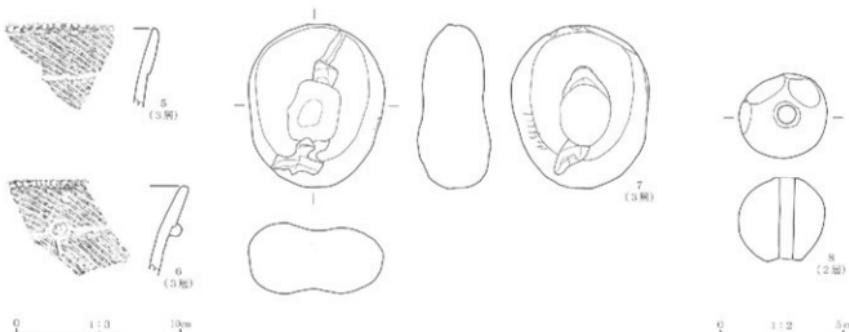
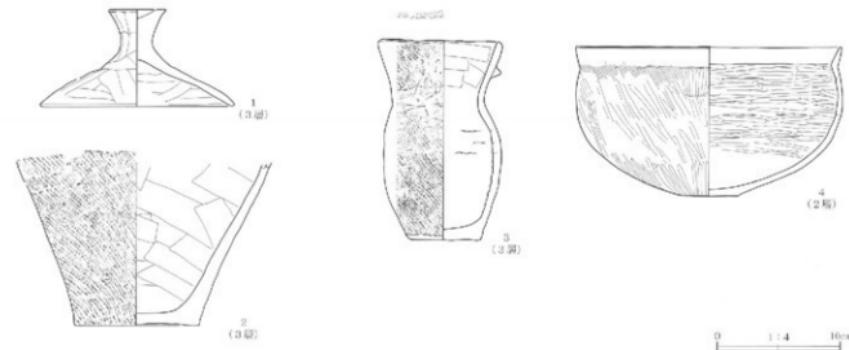
1. 深茶褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ローム粒少量。

第16号住居址 P 8

1. 深茶褐色土 備まりやや有、粘性やや有。ローム粒約5~10mm・コームの少量。

第16号住居址 P 9

1. 深茶褐色土 上 備まりやや有、粘性弱、ロームブロック約5~10mm少量。



第40図 第16号住居址 (2)

確な床面が流出していると考えられる。炉 床面中央部やや北壁寄りに位置し上面径 1.09×0.78m、底面径 0.95×0.64m、深さ約 15 cm を測る。硬化した焼土ブロックを伴う赤化面が 2 箇所存在した。1 箇所は炉の北端部に位置し、炉の北側掘り込み上に硬化面が広がっていた。硬化面の範囲は 0.31×0.24m で深さは 3 cm であった。もう一方は炉の南部に位置し、炉の掘り込み内に存在した。そのため、本来の炉が南側であり、南側を使い終えた後に北で炉を使用したと考えられる。住居内施設 壁溝は確認されず、床面からはピットが計 4 本確認された (P1 ~4)。P1 は上面径 0.30×0.30m、底面径 0.14×0.18m、深さ 54 cm を測る。P2 は上面径 0.27×0.35m、底面径 0.15×0.17m、深さ 58 cm を測る。P3 は上面径 0.34×0.41m、底面径 0.13×0.20m、深さ 64 cm を測る。P4 は上面径 0.34×0.36m、底面径 0.13×0.20m、深さ 56 cm を測る。出土位置、深さ、類似する堆積層から住居に伴う上柱穴といえ、よく掘り込まれている。遺物は出土しなかった。**出土遺物** 弥生土器壺・甕 3 個体 (1~3) が出土し、ほとんどの弥生土器片が 1~2 に接合した。1 は口縁部のみであり、口縁を床につけた状態で出土した。2 は住居壁に隣接する根の影響で破砕されている。1・2 とともに胴部片は確認されなかった。その他に弥生土器壺・甕片 15 点、土師器壺・甕片 13 点、その他土師器片 1 点が出土した。

備考 床面出土土器から弥生時代後期後半。

第 32 号住居址 (第 12 図、第 6 表、図版 14・57)

グリッド T29・30、遺存・重複 東に接して現代の道路が通り、東壁はかなり削平されている。形状・規模 ほぼ南北に長軸をもつ隅丸長方形。上面径 3.30×2.59m、床面径 3.15×2.42m、最大壁高は西壁にあり 0.35m、床面積約 7.62 m²。主軸方位 N-73°—W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、貼床はない。壁周辺を除き、よく踏み固まって硬質化している。とくに炉周辺は滑つなまで硬質化している。炉 床面のやや西壁寄りにある。上面径 0.64×0.78m、底面径 0.52×0.70m、深さ 6 cm を測る。焼土量は多くないが、下層に黒灰色の灰の純層がみられる。西壁との間にも厚い灰層があるが、この直下の床面に被熱痕はみられず、またこの灰層が、床面上に広く拡散した痕跡もありない。住居内施設 炉以外に

確認できなかった。**出土遺物** 覆土上層から確認面にかけて古墳時代前期の土器が、床面からは弥生時代後期の土器が出土している。弥生土器小型壺(4)、壺(2)、壺・甕(1・3)、土師器高杯(6)、器台(5)が出土した。弥生土器小型甕・壺は色調・器形が他の弥生住居出土土器に比べて粗雑な印象を受ける。弥生終末期の土器は前段階に比べて粗雑になる特徴を持つことから当住居内で出土した土器は終末期の可能性を考えられる。その他に弥生土器壺・甕片 28 点、土師器壺・甕片 60 点、高杯片 2 点、壺片 4 点が出土した。

備考 床面出土土器より弥生時代後期後半～終末。

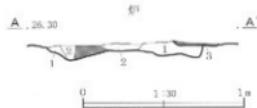
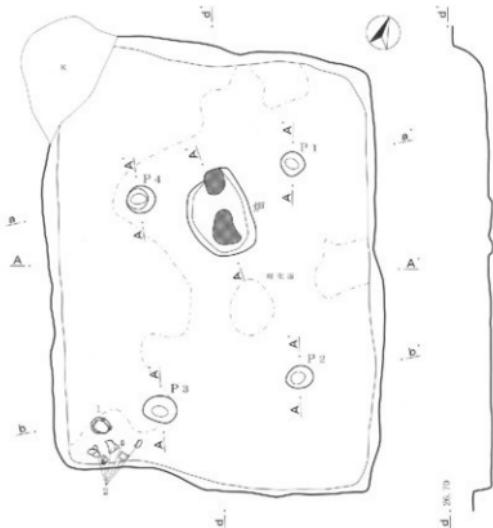
第 34 号住居址 (第 43 図、第 7 表、図版 15・58)

グリッド Y29・30、東台地北東の平坦地から斜面地に移行する境目付近に位置する。遺存・重複 住居のおよそ 1/3 を第 11 号住居址に切られている。また、南西部分は比較的新しい攪乱にかなりの部分が乱され上層部の遺存は悪く、北西部も切り株などの根による攪乱の影響で壁の立ち上がりがありはつきりとしなかった。形状・規模 方形。上面径 5.76×4.84m、床面径 5.60×4.66m、床面積約 26.1 m²。最大壁高は西側で 42 cm。主軸方位 N-32°—W。床面・掘り方 ローム面を床面とし、貼床は確認できなかった。全体的にやや踏み固められているが硬化面は確認できなかった。炉 住居中央部やや西壁寄りに位置する。上面径 0.26×0.24m、底面径 0.2×0.16m、深さ 20 cm を測る。炉東壁に硬化した赤色硬化面があり、覆土上層からも焼土ブロックが多く出土した。住居内施設 炉以外の施設は確認できなかった。出土遺物 弥生土器壺(1~4)、紡錘車(5)が出土した。1・4 はともに住居西壁寄りで倒れた状態で括して出土した。この 2 点以外の弥生土器はあまり接合しなかった。その他に弥生土器壺・甕 4 点、土師器壺・甕片 6 点、高杯片 1 点、その他土師器片 1 点が出土している。

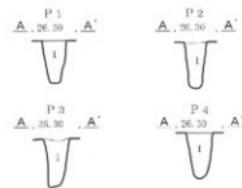
備考 床面出土土器から弥生時代後期後半。

第 36 号住居址 (第 44 図、第 8 表、図版 15)

グリッド W26、東台地ほぼ中央、第 21 号住居址の東・第 22 号住居址の南西に占地。遺存・重複 住居の北壁の一部を第 22 号住居址によって遮されている。東壁及び床面は切り株が入り込み攪乱されている。西壁の一部は攪乱によ

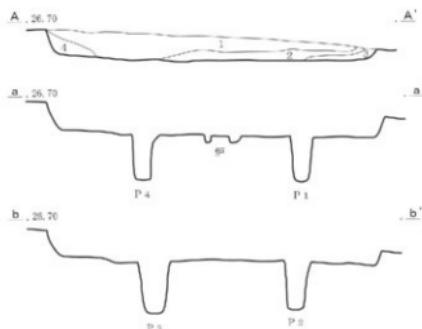


第24号住居址
1. 黄褐色土 壤土りやや有、粘性弱。ロームブロックφ2~3mm少量。
2. 黑褐色土 細まり有、粘性弱。泥土ブロックφ2mm多量。
ロームブロックφ3mm微量。



第24号住居址 P1・4
1. 緑茶褐色土 緑まりやや有、粘性弱。ロームブロックφ2~3mm少量。

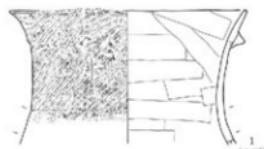
第24号住居址 P2・3
1. 緑茶褐色土 緑まりやや有、粘性弱。ロームブロックφ3~10mm微量。



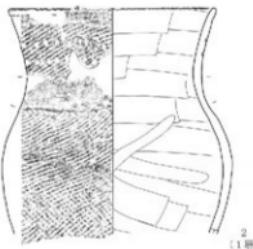
第24号住居址

- 明茶褐色土 壽まりやや有、粘性弱。木炭片少量。ロームブロックφ2~5mm微量。
- 黒褐色土 細まりやや有、粘性弱。ロームブロックφ3mm少量。
- 灰褐色土 細まり有、粘性弱。ロームブロックφ2~3mm多量。
- 茶褐色土 細まり弱。粘性弱。ロームブロックφ3~10mm微量。

0 1:60 2m

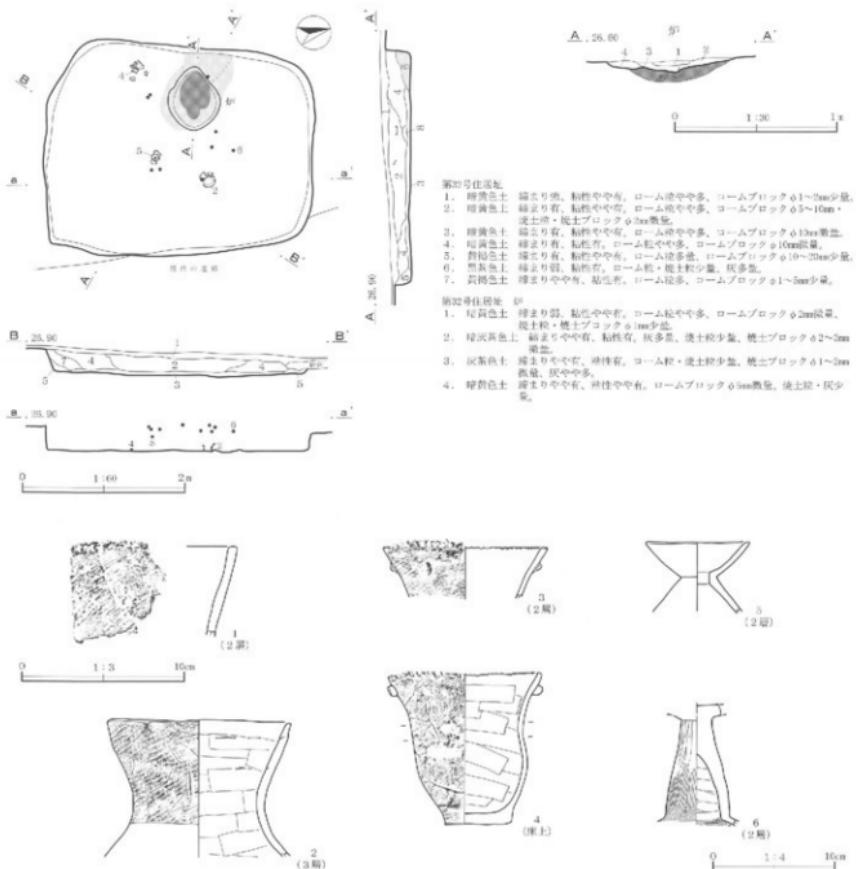


0 1:4 10cm



2m

第41図 第24号住居址

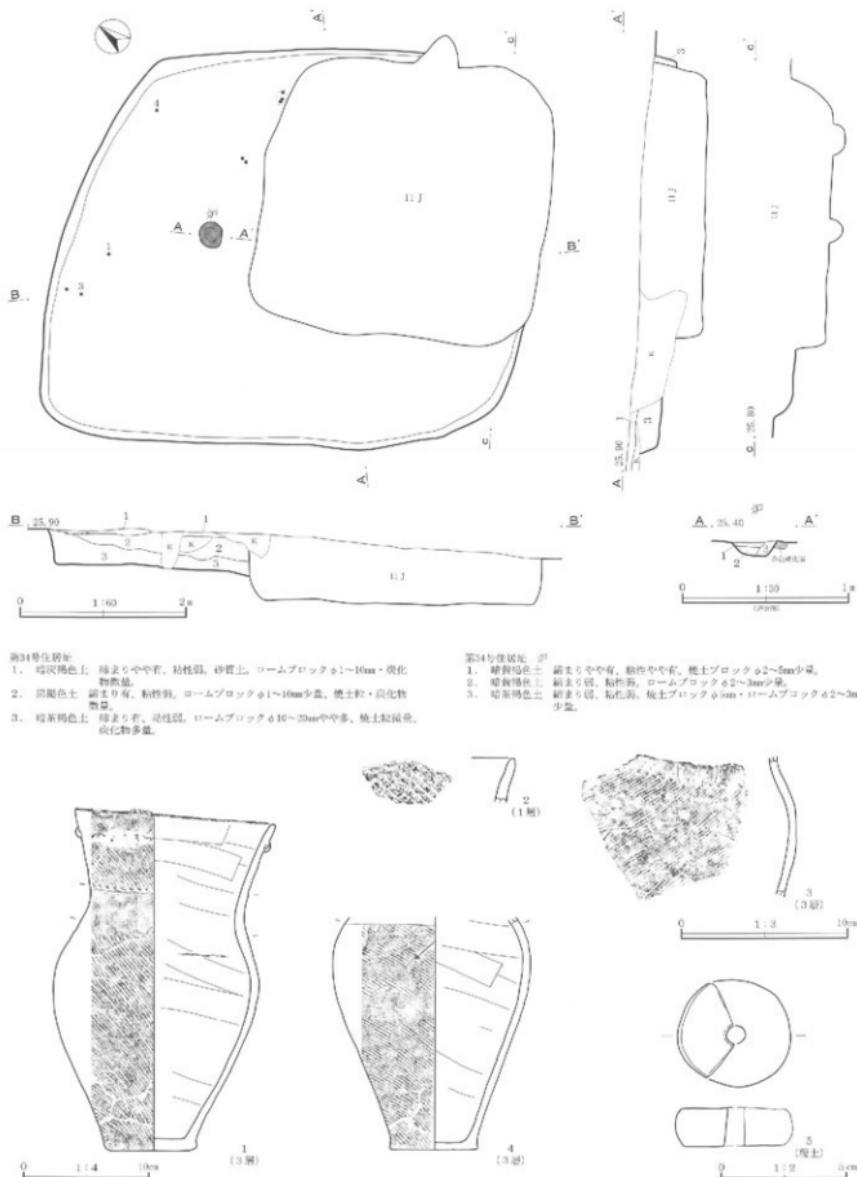


第42図 第32号住居址

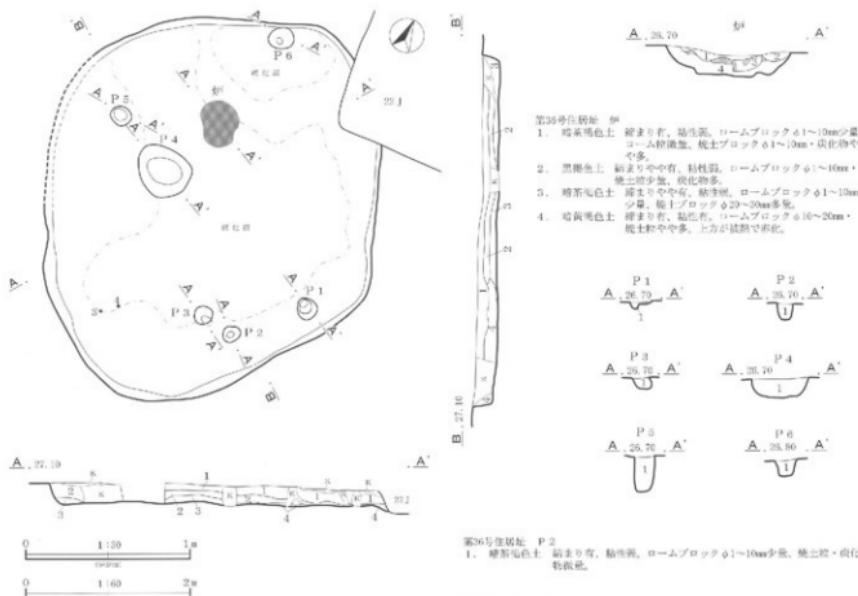
り明確に立ち上がらない。**形状・規模** 横円形か。上面径 $4.56 \times 3.98\text{m}$ 、床面径 $4.45 \times 3.86\text{m}$ 、床面積約 17.2 m^2 、最大壁高は南壁にあり 0.29m 。**主軸方位** $N-23^\circ-W$ 。**床面・掘り方** ローム面を床面としていて広範囲に硬化面が確認できる。特に炉やP4・6周辺では硬化が著しく、ガチャガチ。住居北西部・南東部には炭化物が多く散布するが赤化は認められない。炉 幅 44 cm 、長さ 57 cm 、深さ 13 cm の横円形で底面は皿状を呈し、赤化・硬化が認められる。覆土には焼土ブロックが多量に混じり、灰は確

No	上面径 cm	底面径 cm	深さ cm
P1	26×24	11×8	8
P2	22×19	9×7	19
P3	22×22	14×8	12
P4	70×58	18×17	23
P5	26×22	17×13	42
P6	30×25	8×7	19

認できない。2層には炭化物が多量に混じり、底面には



第43図 第34号住居址



第36号住居址
1. 緑黄褐色土 硬さり強、粘性弱。ローム少量、燒土粒、炭化物微量。
2. 黒褐色土 硬さり弱、塑性良。ロームブロック $\phi 16\sim20mm$ 、燒土粒、炭化物少量。
3. 緑茶褐色土 硬さり有、粘性弱。ロームブロック $\phi 10\sim20mm$ 少量、燒土粒、炭化物やや多。
4. 黑褐色土 滑まり弱、塑性良。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、燒土粒少量、炭化物やや多。

第36号住居址 P 1

1. 緑茶褐色土 硬さりやや有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、燒土粒、炭化物微量。

第36号住居址 2
1. 緑茶褐色土 硬さり有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、
ローム少量、燒土粒やや多。
2. 黒褐色土 硬さりやや有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、燒土粒やや多。
3. 緑茶褐色土 硬さりやや有、粘性弱。ロームブロック $\phi 29\sim30mm$ 少量。
4. 緑黃褐色土 硬さり有、粘性弱。ロームブロック $\phi 10\sim20mm$ 少量、燒土粒やや多。上方が焼跡で炭化。

第36号住居址 P 2
1. 緑茶褐色土 硬さり有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、燒土粒、炭化物微量。

第36号住居址 P 3
1. 緑茶褐色土 硬さり弱、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ やや多、燒土粒、炭化物微量。

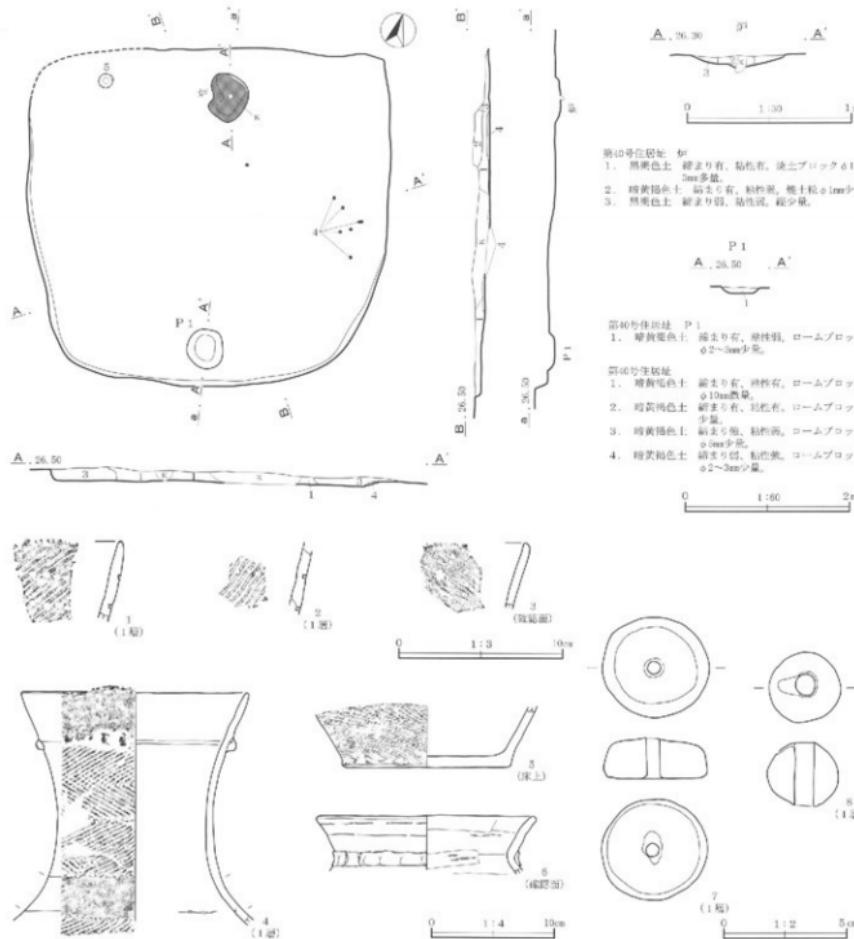
第36号住居址 P 4
1. 緑茶褐色土 硬さりやや有、粘性弱。ロームブロック $\phi 10\sim20mm$ 、炭化物少量、燒土粒微量。

第36号住居址 P 5
1. 緑茶褐色土 硬さりやや有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 、燒土粒、炭化物微量。

第36号住居址 P 6
1. 緑茶褐色土 硬さり有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、燒土粒、炭化物微量。



第44図 第36号住居址



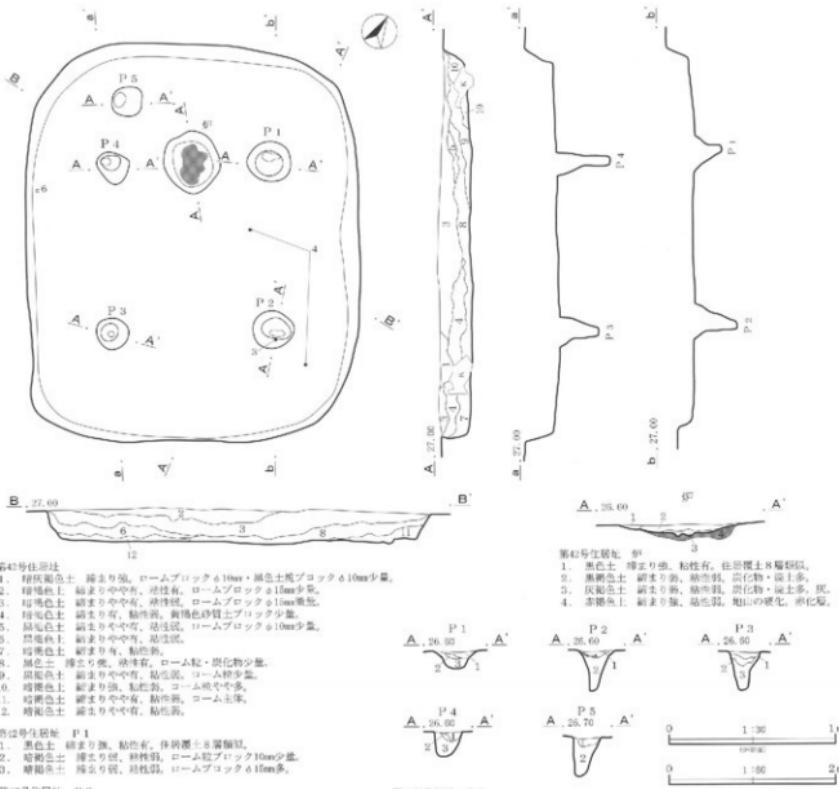
第45図 第40号住居址

硬さも認められるが赤化はしていない。遺物は伴わなかった。住居内施設 6本のピットが確認される(P1~6)。いずれのピット覆土にも焼土粒・炭化物を含む。また、色調や内容物が住居第3層の覆土と類似している。粘性に多少バラつきがあるが住居に伴う構造であると考えられる。**出土遺物** 青生土器の壺・甕片7点(1~4含む)が出土した。その他に土師器壺・甕片5点が出土した。

備考 出土遺物から弥生時代後期後半。

第40号住居址 (第45図、第9表、図版16・58・59)

グリット W30、東台地北部平野部に占地する。遺存・重複 東台地北側では整地が行われた事が確認され整地の影響で住居確認面と床面が非常に浅い。北壁・東壁付近には根による搅乱の影響で明瞭な壁は消失している。

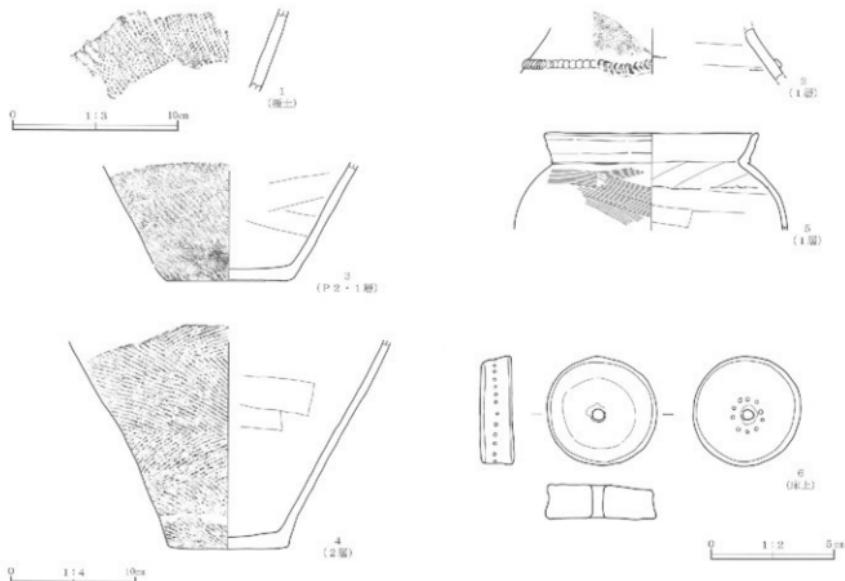


形状・規模 方形。上面径 4.16×4.35m、底面径北壁 3.9m・西壁 3.6m・南壁 3.0m・東壁 2.6m、最大壁高は南壁にあり 18 cm を測る。主軸方位 N-17°-W。床面・掘り方 ローム面を床面とし、貼床は確認できなかった。床面全体で硬化している所は見られなかった。炉 床面中央部北壁寄りで検出された。上面径 0.6×0.45m、底面径 0.5×0.27m、深さ約 10 cm を測る。住居内施設 周溝は確認されなかった。床面にビットが 1 本検出された。上面径 0.48×0.44m、底面径 0.31×0.25m、深さ 5 cm で

ある。**出土遺物** 古墳時代前期の遺物が確認面から出土し、弥生時代の遺物が床面から出土した。弥生土器壺・甕 5 個体 (1~5)、土師器壺・甕 1 個体 (6)、紡錘車 1 点 (7)、球状土鍬 1 点 (8) が出土した。その他に弥生土器壺・甕片 23 点、土師器壺・甕片 54 点、高杯片 1 点、埴片 1 点、高杯・器台片 1 点、小型土器片 10 点が出土した。

備考 床面出土土器から弥生時代後半。

第 42 号住居址 (第 46・47 図、第 10 表、図版 17・58・59)



第47図 第42号住居址（2）

グリット W27・28。東台地中央部に位置する。遺存・重複 北に第15号住居址、西に第17号住居址、南に第22号住居址が隣接するが重複関係はない。規模・形状 方形。上面径 4.88×4.05m、底面径 4.67×3.75m、最大壁高は西壁に40cmを測る。床面積は約 17.51 m²。主軸方位 N—36°—W。床面・掘り方 ローム面を床面とし、貼床を持たない。住居全体がよく踏み固められている。 炉 床面中央部北壁寄りに位置する。上面径 0.76×0.68m、底面径 0.55×0.47m、深さ約5cmの皿状の掘り込みである。床面約15cmを掘り込み炉として使用している。底面は硬化している。住居内施設 計5本検出された（P1～5）。P1は上面径0.49×0.54m、底面径0.30×0.33m、深さ20cm。P2は上面径0.46×0.50m、底面径0.08×0.18m、深さ50cm。覆土1層から弥生土器壺底部（2）が出土した。P3は上面径0.37×0.40m、底面径0.07×0.08m、深さ約50cm。P4は上面径0.4×0.37m、底面径0.1×0.12m、深さ63cm。P5は上面径0.36×0.35m、底面径0.15×0.15m、深さ51cm。住居覆土8層が上層

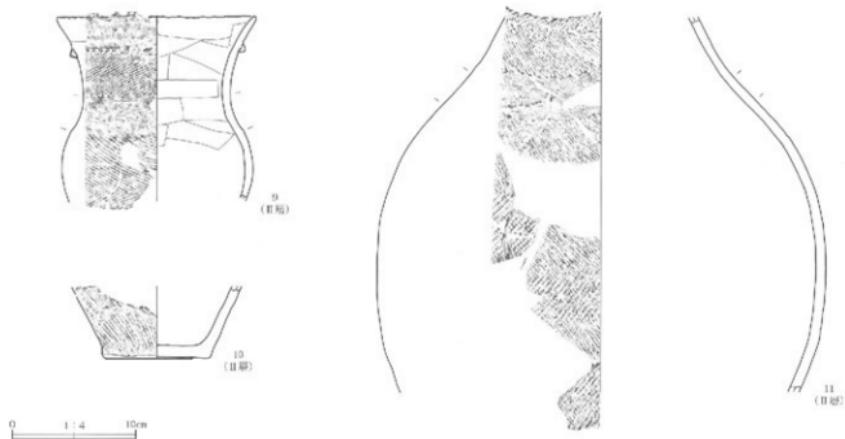
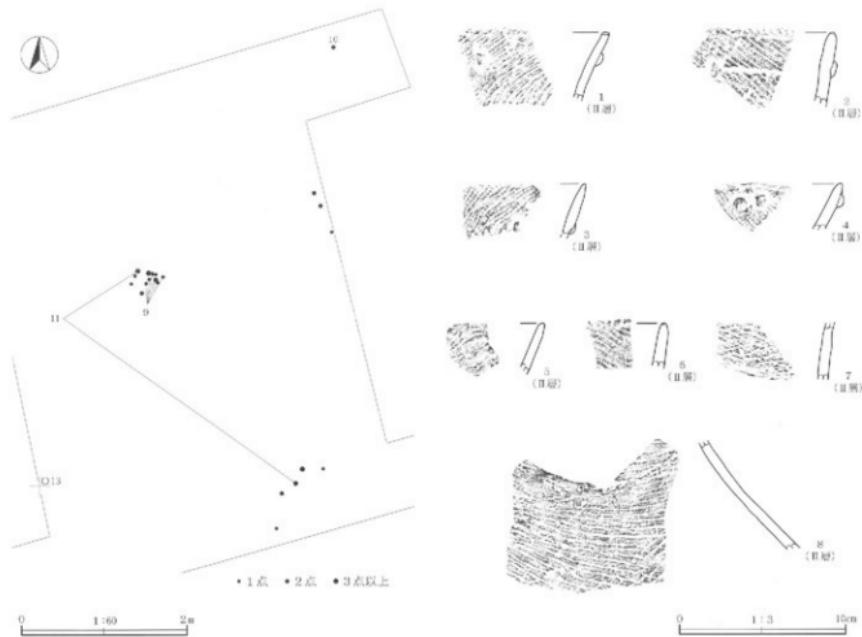
に入り込んでいるため住居に伴うピットと考えられる。P5を除く4本は住居の主柱穴と考えられる。出土遺物 弥生壺・甕4個体（1～4）、土師器壺1個体（5）、紡錘車1点（6）が出土した。その他に弥生土器壺・甕片27点、土師器壺・甕片30点、片付1点が出土した。

備考 出土遺物から弥生時代後期後半。

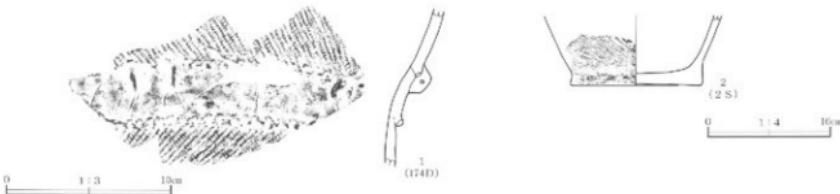
包含層遺物

包含層 No.1 土器群（第48図、第11表、図版24・58）

グリッド O12・13。西台地南端部でトレーンチ調査における2～3トレーンチで検出。形状・規模 表土下深さ4～16cmにローム層を検出した。そのローム層上面で、南北に伸びる尾根の頂部に沿ってやや硬化したローム層が薄く堆積している。その硬いローム層中に弥生土器は含まれていた。出土遺物 弥生土器壺・甕片がほとんどであり計191片出土した。しかし、明確に個体として確認できる資料は9～11のみであり、その他の破片はあまり



第48図 包含層No.1 土器群



第49図 時期外遺構出土の弥生時代遺物

接合しなかった。原体はその他の住居同様に附加条が多く、附加条第2種と思われる資料も確認できた。色調は黄・白色系が大半であり、器面に砂質的な質感があり住居から出土する土器片とは若干異なっている。

グリッド出土遺物

(第49図、第12表、図版58)

グリッドからは、277点の土器片が採取されている。グリッドUライン以東の東台地で191点、以西の西台地で86点である。東台地では、第40・13・34号住居址に閉まれたグリッドX30が101点、西接グリッドW30が18点、W29が13点で、他のグリッドでは1~5点、26ライン以南では6ヶ所のグリッドで各1点と少ない。こうしてみるとX30が異様に多いことが分かる。先述したように、この周辺は旧宅地造成で整地をうけており、第40号住居址もこの時壁上半が削平された可能性が強いことから、X30の土器片のなかには第40号住居址の土器も混在していることが考えられる。

西台地では、グリッド25ライン以南でみると、N24の第2号焼土上面出土の46点、この西方の132号土坑のあるK24で7点、M23で2点、K22で3点、N22で4点、25ライン以北から30ラインまででは7点とかなり少なく、30ライン以北の第7号住居址周辺で17点である。第2号焼土上面出土の土器は、後述するように、2次移動したと思われるコームから検出された土器群である。

土器の様相は住居出土土器と同様であるが、1点のみ櫛歯波状の口縁部片が東台地W27から採取されている。図示した土器は1点である。第52図2はN24採土器。木葉痕をもつ底部で、附加条第一種の繩文を施す。

トレンチ出土遺物

トレンチからは49点の土器片を採取している。西台地では39点。1T~6Tで計30点あるが、このうち2・3Tで20点、他は1~4点である。包含層N1土器群と関連する土器であろう。16Tで1点、25・26Tで8点あるが、第7号住居址のかかる27Tでは採取されていない。東台地では10点。33・37・41・42Tで各1点、34・38Tで各3点である。土器の様相は住居出土土器と同様である。

時期外遺構出土の弥生時代遺物

(第49図、第12表、図版58)

ここでは時代・時期の判明した平安時代の遺構に混入した弥生土器片について集計しておきたい。縄文時代や古墳時代遺構あるいは時期不明遺構出土の弥生土器については、その各遺構あるいは本文の各項で集計してある。

土器の様相は住居出土土器と同様である。東台地では8軒の平安住居から76点採取されている。北側の第11・12・18号住居址の3軒で50点、南側の第17・20・23・25・35号住居址の5軒で26点と、北側に多い点はグリッドの場合と似ている。西台地では6軒の住居を含む8遺構から34点採取されている。第7号住居址周辺の第2~5・38号住居址で14点、第6号構(方形区画溝)で2点であり、第29号住居址の14点は特異である。この住居の位置するグリッドQ27周辺では、弥生土器の分布はほとんどない。

図示した土器は1点である。第52図1は、時期不明とした第174号土坑出土。2段の複合口縁で、貼唇に細い穿孔をもつ本造跡唯一例の口縁部片である。

第2表 第7号住居址出土遺物觀察表

No.	位置 層位	種別 器種	遺存度	直量 (cm)	形状・技術の特徴	出土	焼成	色調	備考	
1	復1-2層 生土	網状 灰陶	網状1-2層 ±5	[4.4] -	外彌・不規則: 繩状弦文が複数。斜面凹凸、ナゲ 型壁。開口: 口部が入りきにくく。	石灰 少 白色灰 少	良好 良好	赤・灰・青 内・断・黄		
2	P7-1層 覆土2層 素灰	口縁1-2層以下	[28.8] [6.1] -	外彌・内彌: 菱形・ヨコガタ。口唇・口縁内面: 鳥 文。内縁: 悪な外反。全体: 壁立円。	石灰 白色灰 少	良好 良好	赤・灰・青 白・灰	断・黄		
3	復1層 生土	5405 2/3	-	[11.5]	外彌: 65%、無文。側部: 斜面角度 - 頂LR+2R。 内縁: ナゲ調整。	石灰 多 砂粒 多	良好 良好	灰・灰		
4	復1層 生土 土・灰	口縁1-2層以下	[3.1] -	外彌: 頂部、横文。側部: 頂部斜面第一種RL+2R。 内縁: 2コナラ・ヨコ評・脚文。	石灰 少 白色灰 少	良好 良好	赤茶褐色 白色灰			
5	復土3層 生土 土・灰	口縁1-2層以下	[2.6] -	外彌: 口加高第一種LR-2R。	砂粒 多 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰	表面摩耗。	
6	覆土3層 生土 土・灰	口縁1-2層以下	[2.9]	口開き: 滲文。内面ナゲ調整。	砂粒 少 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰	表面摩耗。	
7	復1-2層 生土 土・灰	口縁1-2層以下	[2.6] -	外彌: LR鈍。口輪郭: 滲文。内縁: ナゲ調整。	石灰 少 白色灰 少 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰	草酸液らしい。頭片。	
8	P8-1層 生土 土・灰	口縁1-2層以下	[3.0] -	レ・留目: 滲文。外・内縁: ナゲ調整。	砂粒 多	良好	白・灰	白・灰		
9	覆土2層 生土 土・灰	口縁1-2層以下	[1.6] -	外彌: 口平滑、横文、無文。内縁: ナゲ調整。	砂粒 多 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰	表面摩耗気味。	
10	復土3層 生土 土・灰 土・灰	口縁1-2層以下	[3.9] -	複合口縁: に縫・下縫に斜縫の痕みとみ高1.0。複 合: 異外縫・附加高第1種RL+2R。内面ナゲ調整。	砂粒 少 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰		
11	覆土2層 覆土2層 土・灰	張土	張土-剥離	[6.0] -	張土: 無文。張筋: 滲文。附加条筋: 張土- 2R。内縁: ナゲ調整。	石英 少 砂粒 少 白色灰 少	良好 良好	白・灰	白・灰	
12	復土3層 土・灰	上製品	70%	直徑: 4.2 厚: 1.8 穴径: 0.5	石英 多 砂粒 少	良好 良好	赤茶褐色	赤茶褐色		

第3表 第13号住居址出土遺物觀察表

No.	位置 層位	種別 器種	遺存度	直量 (cm)	形状・技術の特徴	出土	焼成	色調	備考	
1	床土 生土	頭部-尾部	1/2	[31.0] (18.0)	頭部: 「T」字形。脚部が大きく傾くのみ、全く右旋で ある。外縁: 滲文。附加高第1種RL-2L 内縁: 2Rの羽状状が遺留。内面: ナゲ調整。	砂粒 多 石英 多 白色灰 少	良好 良好	白・灰 白・灰	内面の頭部摩耗らしい。	
2	床土 生土 土・灰	J縫 1-2層以下	[2.4] -	複合口縫: 口縫下縫に附み、外縫: 附加条筋第一 種RL-2R。	砂粒 少 白色灰 少	良好 良好	白・灰	白・灰	小茶褐色	
3	復1-2層 生土 土・灰	口縫 1-2層以下	[3.9]	複合: 1縫。1縫下縫に附み、外縫: 附加条筋第一 種RL-2R。内縫: 滲文。	砂粒 多 石英 多 白色灰 多	良好 良好	白・灰	白・灰	頭部が摩耗らしい。	
4	床土 生土 土・灰	近部 1/4-2/3	17.0 28.5 (7.6)	「T」字形: 滲文。縫合: 2縫。口縫下縫に附くと欲 望のいくぐら、びつた横文完全化へ附加条筋: 『垂 2-2』が施される。内縫: ナゲ調整。	石英 多 砂粒 少 白色灰 多	良好 良好	白・灰 白・灰	白・灰	熱帯の影響により、外セミが 草成。	
5	覆土2層 生土 土・灰	頭部	1/4	-	複合: 1-2層底、外縫: 口縫下縫・側LR-2R、側 筋: 縦立的!に立ち上った後、外縫とする。	砂粒 多 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰	
6	復1-2層 上始筋	体部-其筋 1/1	[3.6] -	脚部内側が大きく傾く。特征: これが脚壁。沿内面 ナゲ調整。	石英 少 砂粒 少	良好 良好	白・灰	白・灰	摩耗の点による、摩耗 やすい。	
7	覆土2層 土脚筋	コロボル大筋 体部	1/1	[3.5]	蓋部第1筋印を有する。外脚筋小柱下筋によら 筋筋、外筋筋在場所: 下部接縫上にナゲ。底筋 上げ筋。	白色灰 多 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰	
8	床底 土脚筋	J縫 1-2層以下	8.4 2.5 2.4	口縫部が外縫に対し大きく外方ずな。体筋が底筋 筋筋を差す。外縫ナゲ: ヨコガタのナゲ。内縫ナゲ: ナゲ調整。底筋: ナゲ。	白色灰 少 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰		
9	覆土2層 土脚筋	口縫 1-2層 3/4	[4.7] 4.2 3.1	外縫: 不規則。底筋: 小柱等やかに外縫し、口縫部 筋筋: 内縫等、ナベ筋: 1-2筋脚筋にヨコナゲ。体 筋筋: 削面刷毛仕上。ナゲ調整。内縫: ナゲ。	白色灰 多 石英 少	良好 良好	白・灰	白・灰	底筋: 11 cm/cm。	
10	復1-2層 武石	原基 1-2層	長径: 3.0 厚: 2.1 宽径: 0.85	「T」字形: 滲文。縫合: 2縫。内縫等: カルトナージで作成される。内縫に複数筋、底筋 筋: 入れ込み手筋等。壁内: 砂を充填し、底: 2 g						

No.	位置 部位	種別 種類	直角度	法蓋 (cm)	器形・技法の特徴	形状 色彩	施成	色調	備考
11	腰上3層	土器品	方形	-	直径 5.1 厘 1.4 次深 0.6~0.8 側面指印捺、表面丸方彫。高さ 45.55cm	直角 多 凹性 多	直射	黄褐色	
12	腰上3層	土器品 (瓦々彫)	尖形 (瓦々彫)	直径 4.7 厘 1.4 宽 0.8 研出に凸出溝をもつて、 所置無力彫抜、背面に瓦面、瓦々彫らる。手裏に窓十字を彰 い瓦々彫で飾り、後に円形を2~3箇に秀ひられる。	直徑 多 研出 多	直角 多 白化粧 多	直射	褐色 黑墨	

第4表 第16号住居出土十数件觀察表

No.	位置 部位	種別 種類	直角度	法蓋 (cm)	器形・技法の特徴	形状 色彩	施成	色調	備考
1	腰上3層	陶器	直径 2/3	[7.0]	外輪につぶみ筋、タケナワの指印捺、环状、横方 向のクサブレ調整、内面に横方向のクサブレ調整。	直角 少 筋道 多	直射	黄褐色	つぶみ筋、指印捺、 中心部にへこむ。
2	腰上3層	生土	直50形 筒形	13.4, 10.0	腹部が膨らみ、底部がすぼまる。外輪・底輪多 重筋。内面のクサブレ。	直角 少 筋道 少 白色粒 少	直射	米・暗褐色 灰・白 明灰色	
3	腰上3層	陶生	4 / 5	10.5, 16.4 5.4	直口筒、内輪・外輪・底輪各2筋で骨立たる腰筋 に加え、外輪・底輪各1筋で一筋、頭部は 直筒形。内面にテラコッタ風。	直角 少 筋道 少 白色粒 少	直射	黄褐色	陶系褐色 青白
4	腰上 +2層	三脚瓶	直径～底部 4/5	21.3 12.2 4.7	直口筒、口幅が狭く、底部は下方にボーダー。 脚部：脚部にアーチ状の筋、环状：脚部のクサブレ、 底部：底部にアーチ状の筋、内面：内面にクサ ブレ調整。	直角 少 筋道 少 白色粒 少	直射	黄褐色 灰 白	底部入式、座卓上より 調査不明。 近世付近。黒塗あり。
5	腰上3層	生土	直50形～下	[5.5]	筒形口筒、口部は横文、外輪・脚部筋条背・通孔。 底部：底部に1枚下板に貼付、底部に直筒、内面：ナ ガ彫刻。	直角 少 筋道 少 白色粒 少	直射	米・暗褐色 灰・白 明灰色	
6	腰上3層	陶生	口直 1/6以下	-	直口筒、口部は横文、外輪・脚部筋条背・通孔。 底部：底部に1枚下板に貼付、底部に直筒、内面：ナ ガ彫刻。	直角 少 筋道 少 白色粒 少	直射	米・暗褐色 灰・白 明灰色	
7	腰上3層	泥石	方筒	-	長さ 10.0 横 3.2 厚 4.4 全体に海苔風(淡灰色)、兩側面にぬれた底紋。石材 岩山岩。重さ 556g	直角 少 筋道 少	直射	米・暗褐色 灰・白 明灰色	
8	腰上2層	土器品	光形	-	直口筒 3.5 高さ 3.5 次深 0.7	直角 少 白色粒 少	直射	褐色	
		漆狀土板	外面：手びねりの骨ハラシ。全体的に丸形がかかる。裏面 は漆状物である。	-	直角 少 白色粒 少	直射	褐色		

第5表 第24号住居出土十数件觀察表

No.	位置 部位	種別 種類	直角度	法蓋 (cm)	器形・技法の特徴	形状 色彩	施成	色調	備考
1	腰上1層	生土	口直 1/1	19.3 11	直のいし・複合口筒。口幅下端に一列の側突起と 底盤が付く。外輪・環状文部付に2筋と7筋筋 一筋と2筋が施される。内面・クサブレ。	直角 少 石英石 少	直射	黄褐色	跡地に口筒で等差層に記 載が付される。
2	腰上1層	陶生	口直 1/2 横部：1/2のみ 1/1	17.0 17.8	直口筒、口部は横文、外輪・脚部筋条背・通孔。 底部：底部に1枚下板に貼付、底部に直筒、内面ナ ガ彫刻。	直角 少 筋道 少 白色粒 少	直射	黄褐色	表面 不规则。
3	腰上1層	陶生	地20 1/4	[1.8] [2.4]	底部：内面に互い立上がりの後縫合から外反。 外面：附加条帶一種 0.4~2cm。内面：ナガ彫刻。	直角 少 筋道 多	直射	黄褐色	表面翠斑。

第6表 第32号住居出土十数件觀察表

No.	位置 部位	種別 種類	直角度	法蓋 (cm)	器形・技法の特徴	形状 色彩	施成	色調	備考
4	腰上	陶片	80%	(12.6) 12.5 3.5	口部直に絞込み、直筒。口部・底部・体部無彫、無 施。底盤は1つのみ突出している。	直角 少 台白色 少	直射	其揚色	無定形。
5	腰上3層	陶生	口直一深部 及び充てん	[14.4] -	直口筒、口部に縮入、口幅・底盤・横部・外輪・脚部筋 条背・通孔。底盤は1枚下板に付する。底部は直筒で、 内面の縫合に付いてはねむけの推定。内面ナガ彫刻。	直角 少 筋道 多	直射	白化粧	体感の影響あり。
3	腰上2層	陶生	直筒 1/3	(13.4) (4.3)	直筒。口付附近は純筒、外輪・足部: 反曲例 L、内面: ナガ彫刻。	直角 少 石英 少 白色粒 少	直射	黄褐色	
1	腰上2層	陶生	口直 1/8以下	-	底口筒、口部は横文。底部: 反曲例 L、内面: ナガ彫刻。	直角 少 白色粒 少	直射	白化粧	
5	腰上2層	土器片	口直～厚22/3	8.4 [5.7]	口付直に細く、やや内凹する。直筒は「H」の字 をもつ。底盤は1枚下板に付する。外輪する。底盤は1 枚下板に付する。内面ナガ彫刻。	直角 少 筋道 少	直射	其揚色	か・H面像後、 これがもしくはしては あるから。
6	腰上2層	土器片	開花のみ 1/1	[10.0]	開花: 口部をもつ。中空あり。記録に記入。外 面: ナガ彫刻。底盤: 褐色。	直角 少 白色粒 少	直射	明灰褐色	ナガ彫刻に 複数や世界で、 豊富な記入。

第7表 第34件住居址上付物観察表

No.	位置 層位	種別 器種	直径cm	重量 (kg)	断面・形状の特徴	粒土	塊成	色調	備考	
1	覆土3層 底生	-	90%	16.1 28.0 6.3	複合構造。コア部分で充てて、上部は複数段ではなく、下部に複数の窓みと結構、複数段式。頂部表面は複数段式。	白色 青白粒 青白粒	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	全体的に被膜の影響あり。 後者3日目は6.0kg。	
2	覆土1層 底・奥 底・奥 底・奥	口徑1.0以下	-	[2.7]	外壁:附着角型1種RL+LR。内面:少	砂粒 砂粒 砂粒	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色		
3	覆土2層 底生	頭部	1/8	-	[6.5]	複合・既成。頭部:複数条筋・複合RL+LR。内面:少	白色 砂粒 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	
4	覆土3層 底生	頭部	4/5	[19.0] [7.0]	頭部:複数条筋が並んでおり、頭部:複数条筋。その下から複数Rが伸びる。底部:頭部より大きい複数Rが並んでおり、内面:少	砂粒 砂粒 白色粒	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	強烈の影響が見られる。	
5	覆土 土質品 砂礫層	-	1/0強	-	直徑4.2 厚1.6 穴径0.7 好みにナゲ状がある。重さ: 12.0kg	白色 白色 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色		

第8表 第26号住居址山十士頭觀察表

No.	位置 層位	種別 器種	直徑 (cm)	断面・形状の特徴	粒土	塊成	色調	備考	
1	覆土3層 底生 底・奥 底・奥	頭部	1/8以下	[6.2] - - -	外壁:斜面・難成、底部以外:附着角型・複合RL+LR。内面:少	砂粒 砂粒 白色 白色	良好 良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	解説されている。
2	覆土1層 底生 底・奥	頭部	1/8以下	[4.0]	[外壁:複数R、内面:少]	砂粒 砂粒 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	解説されている。
3	覆土2層 底生 底・奥	頭部	1/8以下	[13.7]	外壁:無形、内面:ナゲ調壁。	砂粒 砂粒 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	解説されている。
4	覆土1層 底生 底・奥	頭部	1/8以下	[10.3]	外壁:無形、内面:ナゲ調壁。	砂粒 砂粒 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	解説されている。

第9表 第40号住居址山十士頭觀察表

No.	位置 層位	種別 器種	直徑cm	断面・形状の特徴	粒土	塊成	色調	備考		
1	覆土1層 底生 底・奥	リ生	[1.0]/8以下	[6.0] - -	口部が圓形。外壁:附着角型1種RL+LR、側壁2種(主に斜面)による。内面:ナゲ型。	白色 白色 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	解説あり。	
2	覆土1層 底・奥	リ生	1/8以下	-	外壁:斜面R、内面:ナゲ調壁。	砂粒 砂粒 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	解説あり。	
3	覆土1層 底・奥	リ生	1/8以下	[4.0]	外壁:複数R、内面:ナゲ。	白色 白色	良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色	解説なし。	
4	覆土1層 リ生	口部	1/8以下	[18.0] [18.9] -	複数R。口部に薄い、白土層に隣接する。内壁:複数R、底部:複数R、底部:複数R、内壁:ナゲ調壁。	白色 白色 白色 白色	良好 良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色	内土層調査なし。	
5	底	リ生	直通	-	-	複数R。内壁に近い外壁部分へ付着する。内壁:複数R、内壁:ナゲ調壁。	三色粒 白色	良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色	内土の解説なし。
6	底1層	土頭器	1/8以下	[17.2] [4.7] -	口部R。内壁の外方、底部に凹をつけて接着する。外・内面にナゲ調壁がなされれる。	白色 白色	良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色		
7	底1層	上部凸 砂鉢裏	100%	-	直徑4.0 厚0.3 高さ0.5 重さ4.0kg、直徑2.9 高さ0.8 重さ2.0kg	白色 白色 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色		
8	覆土1層 土質品 砂・土堆	-	一概欠損	-	直徑3.8 厚0.29 高さ0.8 重さナシで直形の器皿が数個の跡が17個もわかる。	白色 白色 白色	良好 良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色 黄赤褐色		

第10表 第42号住居址山十士頭付物観察表

No.	位置 層位	種別 器種	直径cm	断面・形状の特徴	粒土	塊成	色調	備考	
1	覆土 底生	頭部	1/8以下	[3.0]	外壁:複数条筋。内面:ナゲ。	白色 白色	良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色	
2	覆土1層 底生	頭部	1/8以下	[1.3]	頭部:無文様。直通下端に複数の窓みと配筋。底部:複数の窓みと配筋。内壁:無文様。外壁:複数R。	白色 白色	良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色	側面剥離せまい。
3	P2.1層 底生	底部のみ 底	底部のみ 底	- 9.5	複数R。内壁:無文様。直通下端に複数の窓みと配筋。底部:複数の窓みと配筋。内壁:無文様。外壁:複数R。	白色 白色	良好 良好	黄赤褐色 黄赤褐色	

No.	位置 部位	種別 特徴	遺存度	測定 (cm)	断面・復元の特徴	断面	焼成	色調	備考
4	原土層 sondage	灰生	周約 1/1 割れ 90%	- [16.9] 9.4	鋸歯が詰まらぬ底板がすばると複数される。外壁 は鉛直・長範囲の柱状、内面はナメ物質。	白色板 多 良好 黒点	良好		
5	原上層 sondage	灰生	周縁 開口 1/4	[17.9] - -	長縦・複数立柱状に並ぶ。通常、複数・複数を残する。 内壁: 口内方向の「ラナグ」。 内面: 口内方向の「ラナグ」。	白色板 多 石英 少 白板 多 良好 茶褐色	茶褐色 良好	焼成の影響あり。 ハケ約10本/cm。	
6	地上	土乳晶	円形	側面中央部斜 傾き点	直径 4.5 穹高 0.6 高径 0.4 側面の側面斜り、片刃の乳突状の突起にも軽突刻が開 き、集落など痕跡の影響あり。	露骨 少 白板 多 良好 黑点	良好	茶褐色	

第11表 包含層 No.1 土器群土器観察表

No.	位置 部位	種別 特徴	遺存度	測定 (cm)	断面・復元の特徴	測量: 上段=口径、下段=腰厚 (): 備考値 [] : 備考			
						断面	焼成	色調	備考
1	II (2~3丁) 直・焼 直・焼	灰生	口縁1/8以下	- 4.1	1番部 滴文、外壁 斜面、内面ナメ画溝。	白色板 多 砂粒 多 良好	灰好	暗黃褐色	焼成。
2	II 直・焼 直・焼	灰生	口縁1/8以下	- [5.0]	口縁部: 滴文、外壁: 扇形1/4回、斜面垂幕・斜面 内面: 六角形・ナメ画溝。	白色板 少 石英 少 白板 多 良好	良好	暗赤色	焼成の影響あり。
3	II 直・焼 直・焼	灰生	口縁1/8以下	[3.1] -	外壁: 口唇部、滴文、斜面1/2回、斜面垂幕・斜面 内面: 六角形・ナメ画溝。	石英 少 砂粒 少 白板 多 良好	良好	暗黃褐色	焼成している。
4	II 直・焼 直・焼	灰生	口縁1/8以下	- [2.9]	外壁: 口唇部、滴文、斜面2周半強、附加条第一巻 RL=1.5、内面ナメ画溝。	石英 多 砂粒 多 白板 多 良好	良好	暗褐色	焼成している。
5	II 直・焼 直・焼	灰生	口縁1/8以下	- [3.0]	外壁: 反側凹(?)、内面ナメ画溝。	白板 少 良好	良好	暗黃褐色	焼成している。
6	II 直・焼 直・焼	灰生	口縁1/8以下	- [2.7]	内面凹: 滴文、外壁: 附加条第二巻 RL=1.5、内 面ナメ画溝。	白色板 少 石英 少 白板 多 良好	良好	暗褐色	
7	直層 直・焼	灰生	口縁1/8以下	- [3.5]	附加条第二巻(?)、内面: ナメ画溝。	三色板 少 良好	良好	暗褐色	焼成の影響あり。
8	II 直・焼 直・焼	灰生	脚部 1/8以下	[6.6] -	先端、横方向、内面ナメ画溝。	白色板 多 石英 少 良好	良好	米白色	焼成の影響あり。
9	II 烧 直口底	灰生	口縁一部斜 1/2	[6.0] [5.2] -	前金口縁、口縁部に滴文、上部に横文の丸みと 塗装、底部文様を挟んで盤面、半周斜面と底部 の余張部が點文画溝。(内面)ナメ画溝。	砂粒 少 白色板 少 良好	良好	暗黃褐色	
10	II 直・焼 直・焼	灰生	底部 1/1	- [6.0] 8.4	底部一部にかけて幾つもの矢状孔を持つ。外周 側面: 附加条第一巻 RL=1.5と RL=+0.5の頂部付近、内面 ナメ画溝。	砂粒 多 石英 多 三色板 多 良好	良好	暗褐色	
11	II 烧 直	灰生	底部 1/2	[30.6] -	網筋が大きく詰め込み、底板のナメ画溝や内反、外壁: 附加条 第一巻 RL=2.1、内面: ナメ画溝、底部: 大量底。	白色板 多 石英 少 白板 少 良好	良好	暗褐色	内側の底部密着して LG窓の底体付近に焼成。

第12表 特殊外沿縫合十士器観察表

No.	位置 部位	種別 特徴	測定 (cm)	重量 (kg)	森形・復元の特徴	測量: 上段=口径、中段=腰厚、下段=底厚 (): 備考値 [] : 備考			
						断面	焼成	色調	備考
1	J71号坑 sondage 土	灰生	口縁約1/8	1.04. -	2段の伝子口底、各級下間に横文の列を持つ。 1段の下部には浮かぶ點文の網筋。コロナ1段 目、2段目下に附加条第一巻 RL=0.5と底。	石英 多 砂粒 多 白板 多 良好	良好	茶褐色	
2	2号坑 I 直上	灰生	脚部 1/1	- [5.7] 10.3	底部: 塗手の水痕後縫合や内反、外壁: 附加条 第一巻 RL=2.1、内面: ナメ画溝、底部: 大量底。	砂粒 少 石英 少 白板 多 良好	良好	暗褐色	焼成している。

3. 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の概要

古墳時代の遺構としては、堅穴住居址 9 軒、古墳周溝 1 基分である。このうち堅穴住居址 8 軒は、前期に属し、東台地に展開している。西台地中央部の第 8 号住居址は土器小片と球状土鉢以外に時期を知る遺物がほとんどなく、位置づけは難しいが、ここでは、住居形態から前期と考えておきたい。西台地に単独で 1 軒が占地していることになる。遺跡北端の調査区外に古墳の墳丘が残り、遺跡内に周溝がかかるることは事前に予想された。この古墳は、位相的に西方の信太尖突古墳群中の 1 基と考えられるが、墳丘の残りもよく、規模も比較的大きな古墳である。周溝内からは、時期を知るだけの遺物は検出されていない。遺物には、土師器の壺・甕・高杯・器台・小型土器・土製紡錘車・球状土鍤・磁石などがある。

堅穴住居址

第 8 号住居址（第 50 図、第 13 表、図版 7・55）

グリッド M・N22。遺存・重複 中央部を方形区画溝が切る。形状・規模 方形。上面径 5.07×4.76m、床面径 4.29×4.53m、最大壁高 0.66m、床面積約 19.4 m²。主軸方位 N-43°-E。床面・掘り方 壁周辺と東側過半を除き、よく踏み固まるが、とくに硬質面はみられない。かから西側の床面はローム面であり、東側から南側にかけて約 10cm ほどほぼ平坦に掘り下げて床を貼っている。炉 床面中央の北壁寄りにある。上面径 49.0×38.0 cm、底面径 27.0×17.0 cm の楕円形、深さ 6.0 cm の皿状の掘り込みである。焼上は少なく、微細な木炭片が混入する。底面は一部赤化・硬化する程度で、使い込まれた状態ではない。住居内施設 南東隅に二段掘りの貯蔵穴があるが、北側は第 6 号溝に切られる。上面径 [55] ×50.0 cm、底面 [48] ×38.0 cm、深さ 29.0 cm の方形の掘り込みである。底面はほぼ平坦である。長さ約 28 cm、径約 5 cm の焼化材が底面より若干浮いた状態で出土している。周溝は、現状では 2 ヶ所で途切れる。深さ 10 cm 前後、底面幅 4~10 cm、ピット 3 本。西壁際にあるが、住居に伴うかどうか不明。床面からの深さは、P1-27.0 cm、P2-20.0

cm、P3-14.0 cm。出土遺物 土師器甕胴部片 2 点、球状土鉢 1 点、輕石 1 点（1）、チャートの剥片 1 点が遺物の全てである。このうち、甕片 1 点と剥片は埴土中出土、他は床面である。指紋遺物は輕石（1）の 1 点。

備考 床面より浮いた状態で、北壁の 2 ヶ所に埴土が分佈し、床面上には微量であるが木炭片が散布していた。焼失住居の可能性がある。時期を知る遺物には不足するが、ミガキをもつ甕片（あるいは壺）や住居形態から前期と判断しておく。

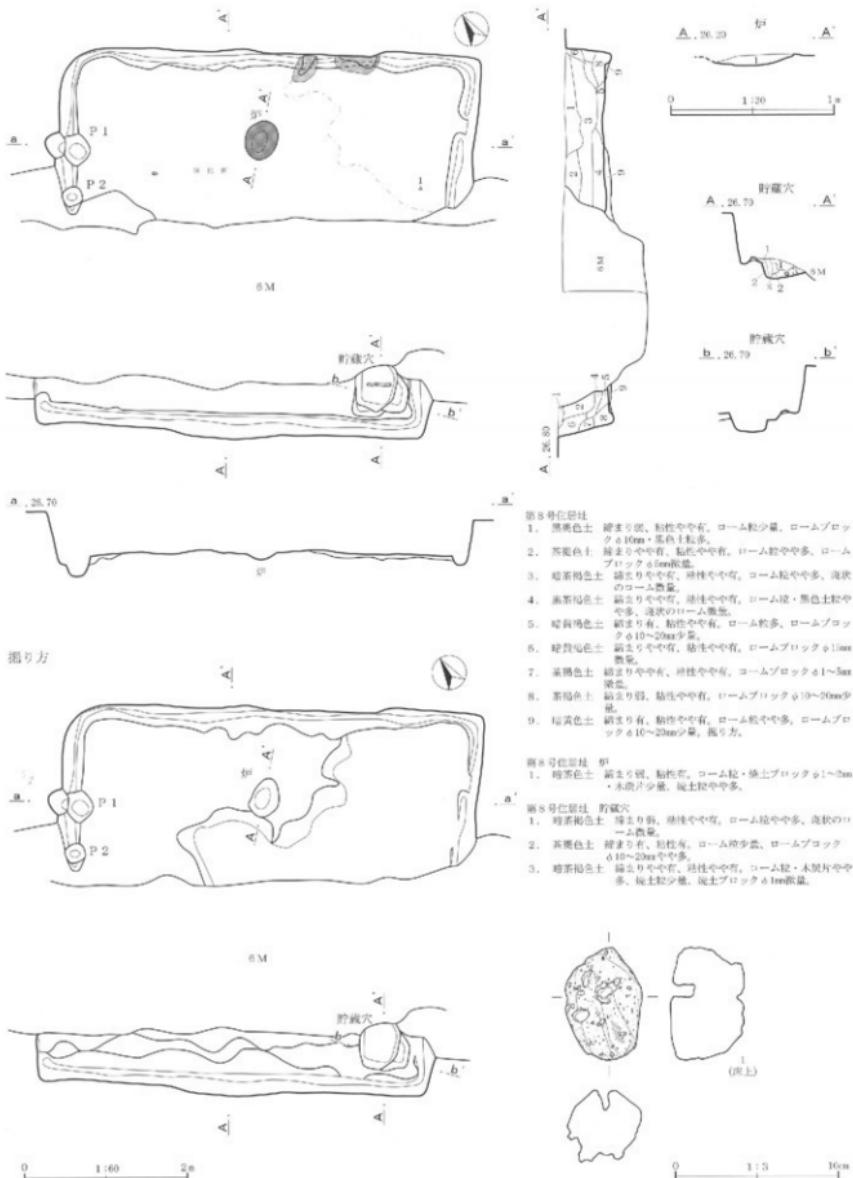
第 10 号住居址（第 51 図、図版 7）

グリッド Z・A A29・30。東台地北部の最東部斜面に占地する。遺存・重複 切り合ひ関係は無く、東壁・南壁とともに傾斜の影響により明確な壁が流出している。形状・規模 方形。上面径 2.98×2.97m、床面径 2.8×2.65 m、最大壁高は 0.31m、床面積約 7.42 m²。主軸方位 N-60°-W。床面・掘り方 粘質土を床面としており、全面にわたって硬く縮まっているが、炉の周辺は特にガチガチに硬化する。炉 幅 60 cm、長さ約 58 cm、深さ 6 cm の楕円形で、底面は皿状を呈する。上層では灰が多少混ざり埴土粒が多く見られる。下層には焼土ブロックが多く見られ、一部赤化・硬化する。遺物は出土しなかった。住居内施設 炉に隣接してピットが存在する。上面径 25×38 cm、深さ約 10 cm で楕円形。埴土内には埴土粒・炭化物がやや多く、底面に硬化した場所もなく、灰が検出されたわけでもないが、焼土粒・炭化物等がやや多いように思われる。住居に作うものか不明瞭。出土遺物 土師器甕・甕片 39 点、高杯片 2 点、小型土器片 2 点、弦生土器壺・甕片 13 点が出土した。細片がほとんどで、接合関係も少なく個体も確認できないため図化した遺物はない。

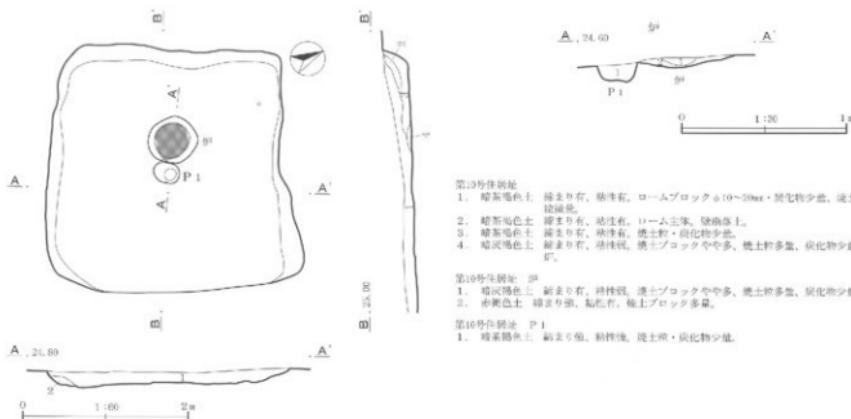
備考 出土遺物から古墳時代前期。

第 14 号住居址（第 52 図、第 14 表、図版 9）

グリッド X・Y28。東台地北部東側傾斜部に占地する。遺存・重複 北壁は第 12 号住居址に重複され上部が切れ、東壁～南壁は傾斜の影響により壁が流出している。形状・規模 方形。上面径 4.29×3.56 m、床面径は 3.98



第50図 第8号住居址



第51図 第10号住居址

×3.0m、最大壁高は西壁にあり 60 cm、床面積約 13.53 m²。主軸方位 N-8° - E。床面・掘り方 ローム面を床面としており、貼床もなく、硬化面も確認されなかつた。炉 床面の中央部北壁寄りに位置する。上面径 0.43 × 0.38m、底面径 0.27 × 0.23m、深さ約 4 cm を測る。焼土量は多くなく、底面に硬化した箇所は確認されなかつた。住居内施設 壁構は確認されなかつた。床面中央部でビットが 2 本検出された。P1 は上面径 0.62 × 0.45m、底面径 0.47 × 0.27m、深さ約 10 cm である。P2 は上面径 0.35 × 0.48m、底面径 0.15 × 0.31m、深さは約 20 cm を測る。覆土内から土師器鉢 1 個体(1)、甕 1 片が出土している。色調・混入物など住居内覆土 3 層と変化が少ないので住居に伴うものと考えられるが住居主柱穴と断定できない。出土遺物 遺構内から土師器蓋・甕 5 個体(2~6)が出土し、その他に土師器蓋・甕片 98 点、碗片 1 点、高杯片 4 点、培片 3 点、その他土師器片 23 点が出土した。

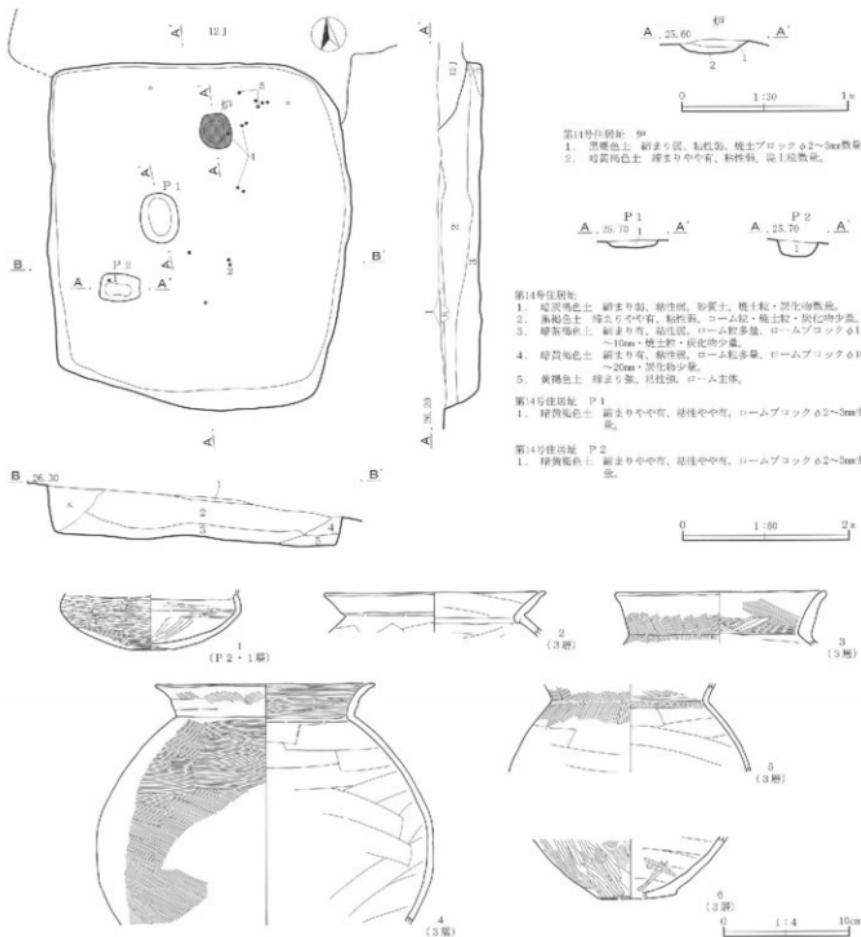
備考 出土土器から古墳時代前期と推定される。

第19号住居址 (第53・54図、第15表、図版10・56)

グリッド V・W28・29。東台地北部中央よりやや西側に占地。遺存・重複 住居南西側から南東側にかけて、近現代と思われる搅乱を受ける。他遺構との切り合はないが、東側の一部に切り株がかかり、壁が壊されていく。形状・規模 方形。上面径 6.17 × 5.78m、床面径 5.71

× 5.26m、床面積約 30.03 m²、最大壁高は東壁にあり 0.51 m。主軸方位 N-55° - W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、広範囲にわたって硬化が確認できる。特に炉の周辺ではガチガチに硬化しているが、住居南側においては搅乱により床面が失われているため確認はできない。また、住居覆土 2 層においては焼土ブロックが散らばり、炭化物が多量に含まれる状況を確認する事ができた。さらに、4 層には多量の燒土粒・炭化物が混じり、住居跡に沿うように分布していたのではないかとを考えられる。炉 住居中央よりやや西側に位置する。幅 54 cm、長さ 72 cm、深さ 4 cm の楕円形で底面は皿状を呈する。赤化・硬化が激しく、覆土には焼土ブロックが多量に含まれる。

No	上面径 cm	底面径 cm	深さ cm
P1	28×27	11×8	25
P2	26×17	7×4	52
P3	29×22	15×9	19
P4	40×28	29×15	17
P5	20×14	10×7	10
P6	28×23	11×10	13
P7	24×23	8×8	16
P8	40×31	12×13	14
P9	50×40	16×15	14
P10	24×18	12×10	11



第52図 第14号住居址

れ、炭化物が少量検出されたが、灰の含有は確認出来なかつた。住居内施設 ピット 10 本 (P1~10) と周溝を確認した。

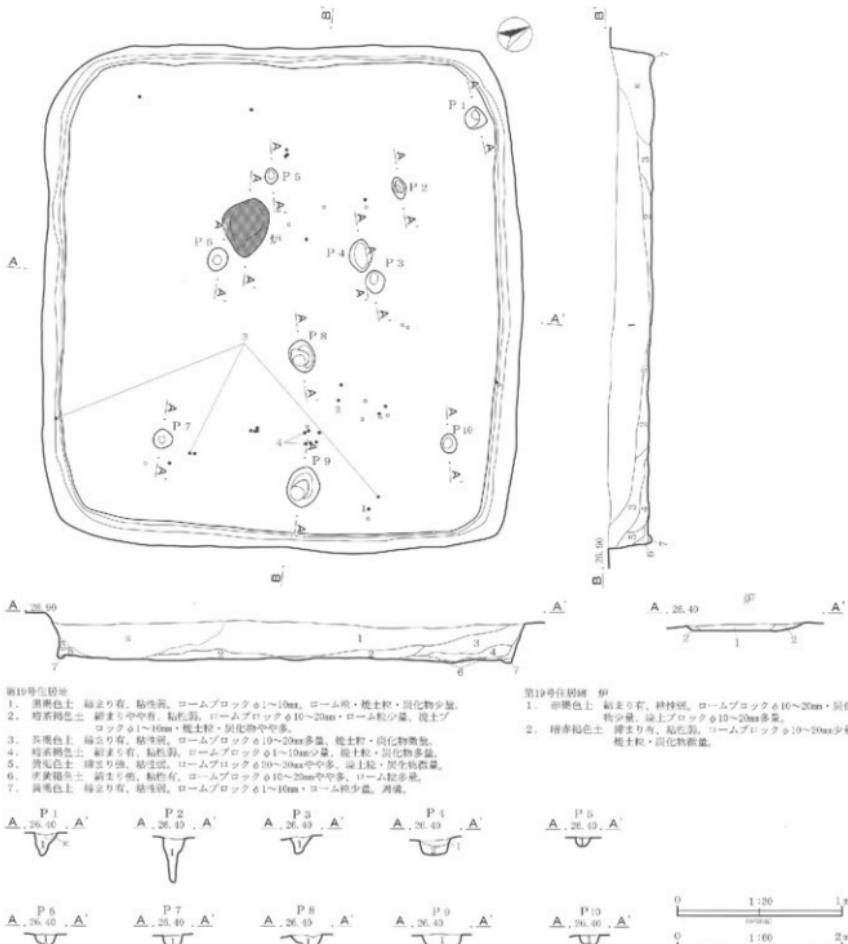
P2~4、7~10 はその覆土の色調・内容物の同一性からみて住居に伴うものと考える。周溝はほぼ全周し、深さ 4~6 cm であった。出土遺物 遺構内から土師器壺・甕 3 個体 (4 含む)・高杯 1 個体・埴 3 個体 (1・2 含む)・

器台 2 個体 (3 含む) が出土した。その他に土師器壺・甕片 128 点、高杯片 13 点、その他土師器片 47 点、弥生土器壺・甕片 29 点が出土した。

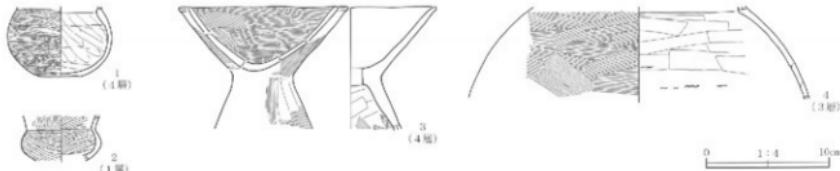
備考 出土遺物から古墳時代前期。

第 21 号住居址(第 55・56 図、第 16 表、図版 11・56・59)

グリット V26。東台地中央部に占地する。遺存・重複



第53図 第19号住居址（1）



第54図 第19号住居址 (2)

重複する遺構はないが、住居西壁南半分は丘陵の傾斜の影響により流出している。形状・規模 方形。上面径 8.52 × 8.35m、床面径 8.0 × 7.8m、最大壁高は北西隅にあり 67 cm を測る。床面積約 62.4 m²。主軸方向 N-2°—W。床面・掘り方 ローム面を床面とする。貼床はない。壁側周辺が若干踏み固められているが中央部は硬化した場所はなかった。床面から約 25 cm 下まで掘り方が存在する。炉 床面中央部や北壁よりに位置する。上面径 0.58 × 0.38m、深さ約 6 cm を測る。堆積層内に硬化した焼土ブロックを多量に含み、底面も硬化していた。住居内施設 周溝は確認できず、掘り方覆土の下からピットが計 7 本検出された (P1~7)。

No	上面径cm	底面径cm	深さcm
P1	64×76	22×22	65
P2	80×62	20×20	70
P3	46×52	24×18	30
P4	94×64	8×10	54
P5	86×56	30×30	45
P6	36×26	10×6	20
P7	42×50	16×10	32

堆積土の様相からどのピットも住居に伴うと考えられ、P1~4 が主柱穴、P3 は出入口施設と推定される。出土遺物 土師器壺・甕 4 個体 (2 含む)、高杯 1 個体 (1)、小型土器 1 個体 (3)、筋鉢車 (4)、球状土錐 (5) が出土した。他にも土師器壺・甕片 187 点、高杯片 2 点、埴片 1 点、小型土器片 21 点、その他土師器片 31 点、赤生土器壺・甕片 126 点、砥石片 5 点が出土した。また、櫻土上層部から土師質の坏片 114 点、皿片 5 点、鉢片 2 点、甕片 63 点、瓶片 2 点、須恵器の坏片 2 点、蓋片 2 点、甕片 19 点、甑片 1 点、灰陶陶器片 2 点、土師器甕片 59 点が出土している。当住居の周辺には平安時代の住居が多く出土している。

く、これらの住居からの廃棄場として利用されていたと考えられる。

備考 床面出土土器から古墳時代前期。

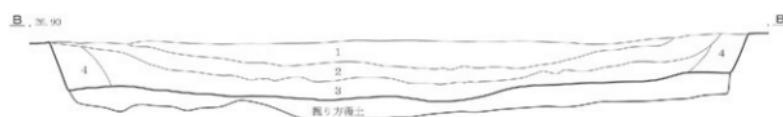
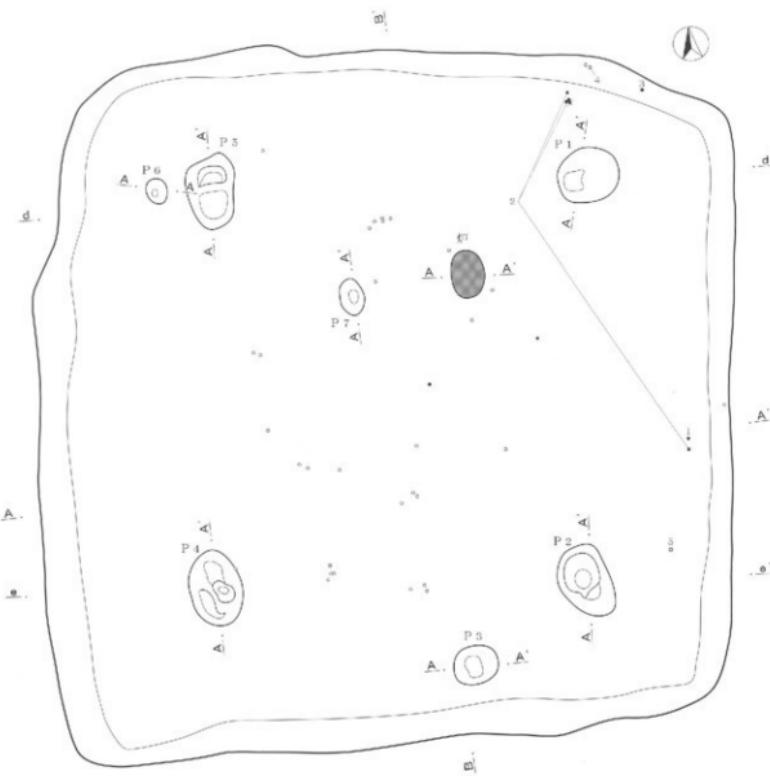
第 22 号住居址 (第 57・58 図、第 17 表、図版 11・59)

グリット W・X26・27。東台地中央部に占地する。遺存・重複 住居西壁で第 36 号住居址を切っている。形状・規模 上面径は 7.84×7.48m、床面径は 7.6×7.26m、最大壁高は西壁にあり 46 cm、床面積約 55.18 m²。主軸方位 N-3°—E。床面・掘り方 ローム面を床面とし、貼灰は見られなかった。床面全体はあまり踏み固められず硬化した所は確認できなかった。炉 床面で炉は確認できなかった。しかし、床上 10 cm 付近では住居中央部に焼土が散在していた。特に北壁寄りには大きな焼土塊があり、3・4 を含む土師器壺・甕 94 点が出土している。

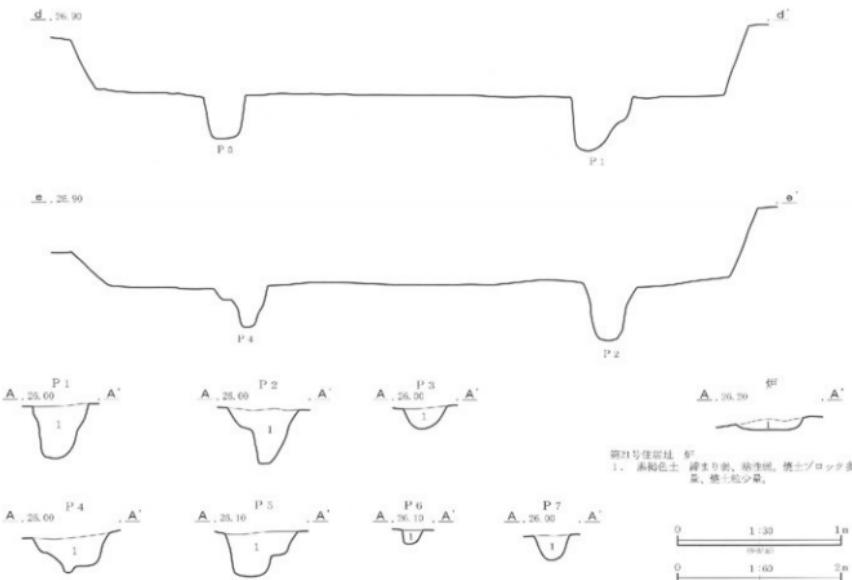
住居内施設 周溝は確認されない。ピットが計 6 本検出された (P1~6)。

No	上面径 cm	底面径 cm	深さ cm
P1	33×37	9×20	22
P2	33×40	17×20	37
P3	29×40	13×18	48
P4	25×40	15×19	32
P5	37×47	11×17	56
P6	30×35	7×10	26

住居覆土 2 層と色調や混人物が類似する覆土であるためピットは住居に伴うものと考えられる。P1・2・5・6 が住居の主柱穴と推定され、また、住居北東隅に貯蔵穴が検出される。上面径 0.8×0.88m、底面径 0.7×0.66m、深さ 28 cm を測る。出土遺物 土師器壺・甕 5 個体 (2~4 含む)、壺 2 個体 (1 含む)、球状土錐 1 点 (5) が出土した。その他に土師器壺・甕片 237 点、高杯片 4 点、壺



第55図 第21号住居址 (1)



第21号住居址

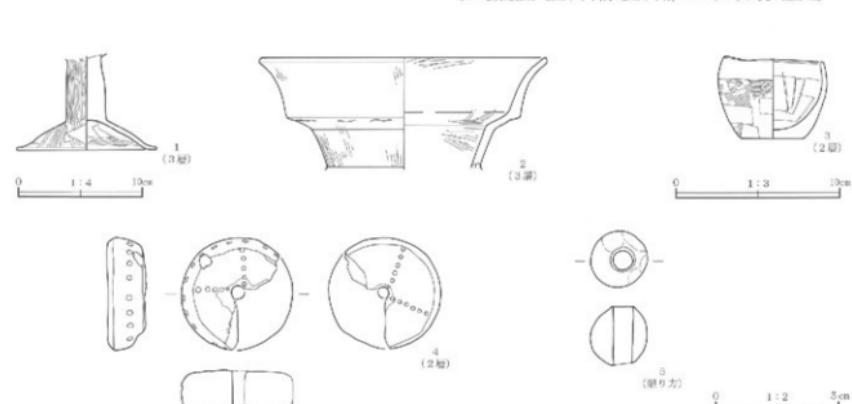
- 暗赤褐色土 剥まり弱、粘性弱。ロームブロック 6~3mm少量、木炭片微量。
- 黒褐色土 剥まりやや有、粘性弱。ロームブロック少、木炭片微量。
- 茶褐色土 剥込み強、粘性弱。
- 暗赤褐色土 剥込み弱、粘性弱。
- 暗赤褐色土 剥込み弱、粘性弱。ローム少量、ロームブロック 6~3mm少量。

第21号住居址 P 1

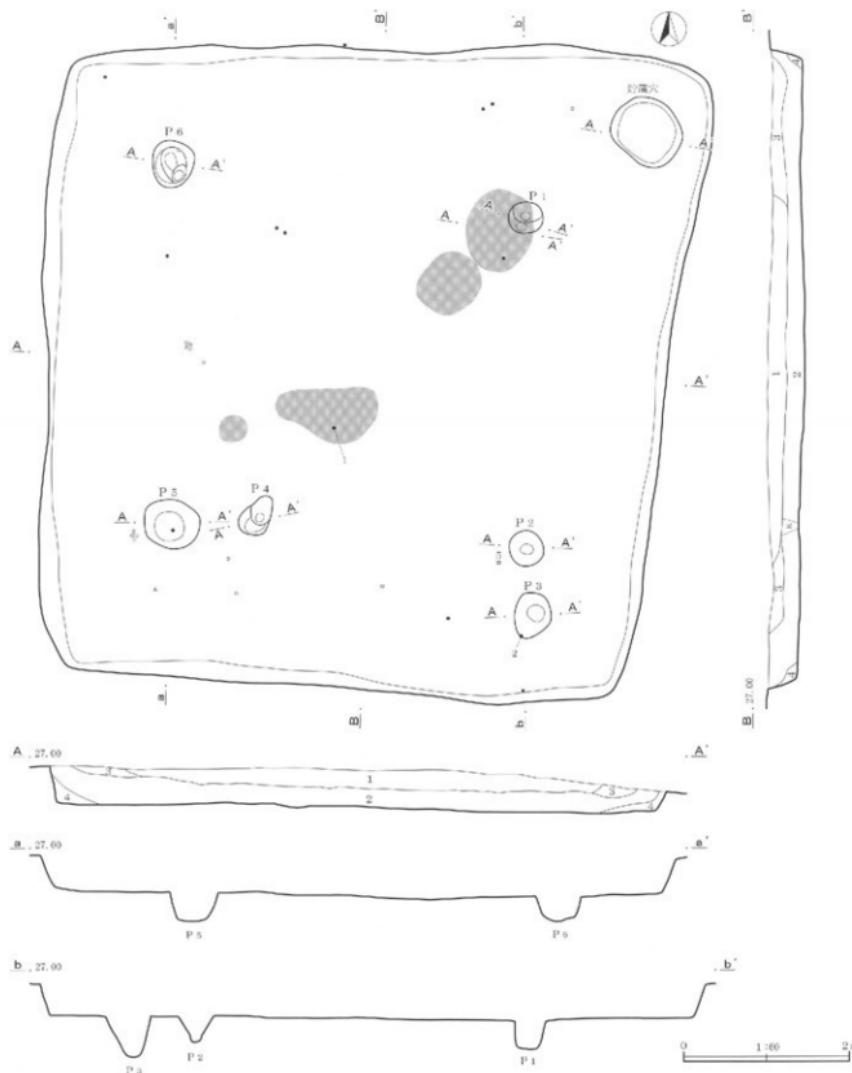
- 暗赤褐色土 剥込みやや有、粘性弱。ローム絶缺。

第21号住居址 P 2

- 暗赤褐色土 剥まりやや有、粘性弱。コーム少量。



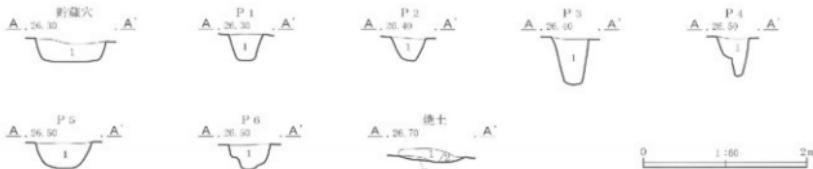
第56図 第21号住居址 (2)



第22号住居址

1. 黒褐色土 稲毛り跡、粘性弱、ローム粒・ロームブロック少々～微量。
2. 明茶褐色土 稲毛り跡、透性やや弱、ロームブロック少々～微量。
3. 茶褐色土 稲毛り跡や有、粘性やや強、ロームブロック少々～微量。
4. 暗黄褐色土 稲毛り跡、粘性強、ロームブロック多量。

第57図 第22号住居址 (1)



第22号住居社 P 1～3・5・6・7窓穴

1. 灰褐色土 細まりややゆる。泥化や有。ロームブロックφ2～3mm少量。

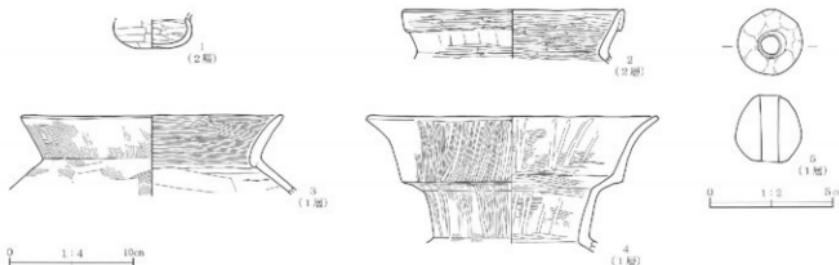
第22号住居社 P 4

1. 黄褐色土 細まりやや硬。粘性質。ロームブロックφ2～3mm少量。

第22号住居社 便所

1. 明灰褐色土 細まり弱。粘性質。純土粒・本岩片多量。便土塊・ロームブロック多量。

2. 黄褐色土 細まり弱。粘性質。便土粒少量。ローム粒少量。



第58図 第22号住居址 (2)

片3点、その他土師器41点、弥生土器壺・甕片31点、

検出できた(P1～6)。

軽石1点が出土した。

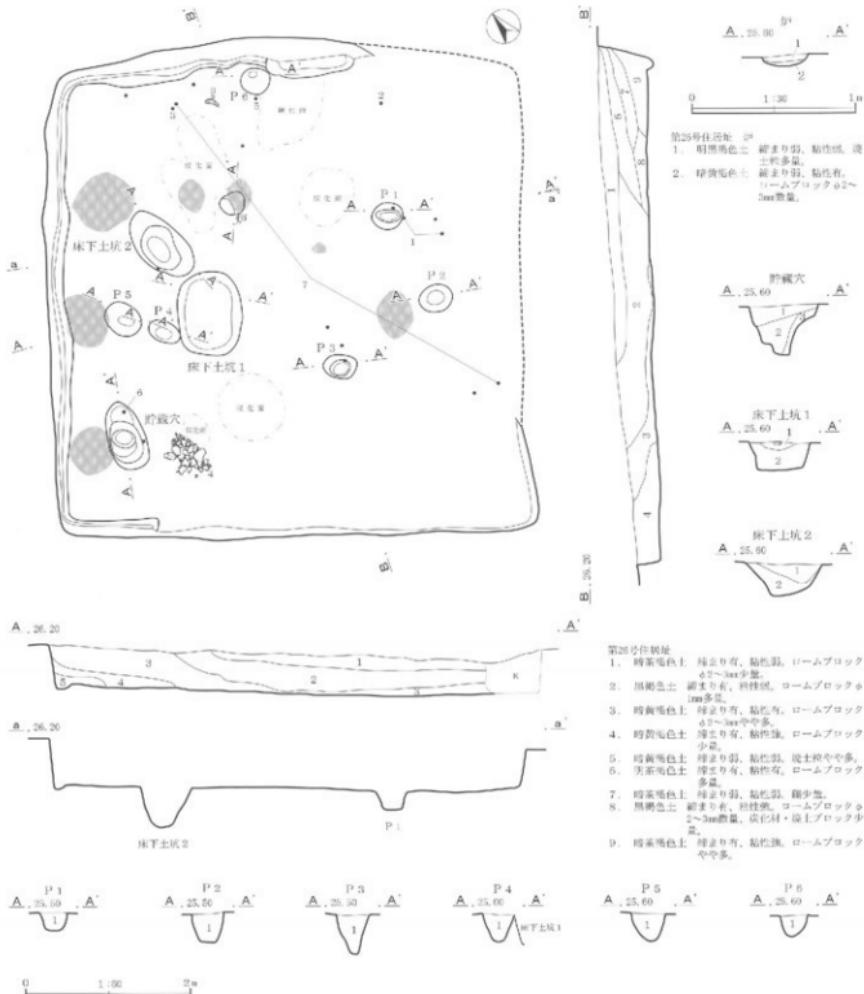
備考 出土遺物から古墳時代前期と推定。

第26号住居址(第59・60図、第18表、図版12・57・59)

グリット W・X23。東台地南端部の東に下る傾斜面に占地する。遺存・重複 住居東壁は搅乱と傾斜面の影響により流出している。形状・規模 方形。上面径6.12×5.75m、床面南北径5.65m、北辺径[3.35]m、南辺径5.57m、最大壁高は北西隅にあり約68cm。主軸方位 N-40°—E。床面・掘り方 ローム面を床面とし、貼床は確認できなかった。住居が台地傾斜面付近に占地した影響と考えられるが、床面の一部が硬化する他の硬化した場所が確認できなかった。また、床面付近からやや硬化した焼土粒子や焼土ブロック・炭が散在していたため焼失住居と考えられる。炉 床面中央部西壁寄りに位置する。上面径0.27×0.30m。西半部分で焼土ブロックを確認できる。住居内施設 床面北壁～西壁にかけて周溝が確認できる。深さは3～13cmである。床面でピットが計6本

No	上面径 cm	底面径 cm	深さ cm
P1	38×42	20×12	33
P2	42×42	12×18	30
P3	54×44	20×22	50
P4	38×38	15×12	44
P5	60×68	30×36	35
P6	56×48	20×14	33

住居の床面付近の覆土と類似するためピットは住居に伴うものと考えられる。しかし、住居の主柱穴と思われるものは無かった。また、住居南西隅で貯藏穴が1基検出された。上面径0.83×0.46mの楕円形で、底面径0.16×0.2m、深さ62cm。貯藏穴内からは土師器壺・甕・脛部2点が検出した。その他に住居中央部で床下土坑が2基検出された。1は上面径1.03×0.78m、底面径0.85×0.58m、深さ37cm。確認面からつくば石が1点出土した。2は上面径0.96×0.53m、底面径0.2×0.35m、深さ52cm。出土遺物 上部器蓋・甕10個体(4～8含む)、高杯1個体、壺1個体(3)、器台2



第26号住居址 P 1
1. 明黄色色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック φ2~3cm少量。

第26号住居址 P 2
1. 明黄色色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック φ2~3cm少量。

第26号住居址 P 3
1. 明黄色色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック少量。

第26号住居址 P 4
1. 明黄色色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック φ2~3cm少量。

第26号住居址 P 5
1. 明黄色色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック φ2~3cm少量。

第26号住居址 P 6
1. 美茶褐色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック φ2~3cm少量。

第26号住居址 P 7
1. 美茶褐色土 緩まり弱、粘性弱。コームブロック φ2~3cm少量。
2. 黑褐色色土 緩まり弱、粘性弱。桃子核・蓮蓬殻。

3. 明黄色色土 緩まり弱、粘性弱。ロームブロック φ2~3cm少量。

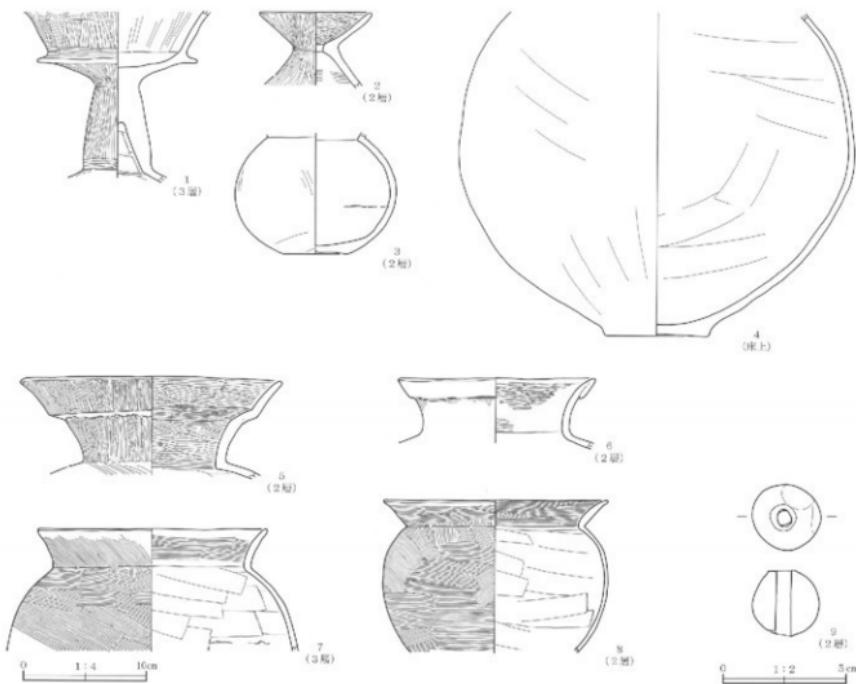
第26号住居址 床下土坑 1

1. 黑褐色色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック φ2~3cm少量。
2. 美茶褐色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック少量。

第26号住居址 床下土坑 2

1. 黑褐色色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック φ2~3cm少量。
2. 美茶褐色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック少量。

第59図 第26号住居址 (1)



第60図 第26号住居址（2）

個体（1・2）、球状土錐（9）が出土した。その他に土師器壺・甕片 250 点、高杯片 1 点、埴片 12 点、器台片 1 点、弥生土器壺・甕片 35 点が出土している。

備考 出土土器から古墳時代前期。

第 27 号住居址（第 61 図、第 19 表、図版 12）

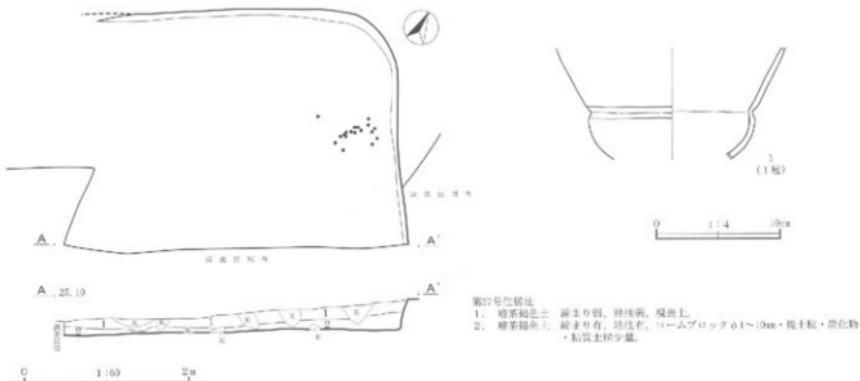
グリッド W22。東台地の最南端やや東よりに占地。遺存・重複 他造構との切り合いは無いが、住居大半が調査区外にかかっている。形状・規模 正方形か。上面径 [3.6] × [2.95] m、床面径 [3.52] × [2.84] m、床面積約 [9.99] m²、最大壁高 0.34m。床面・掘り方 床面は粘り気のある粘質土主体で、全体的によく締まる。特に東端付近にて検出された遺物集中地点の直下・周辺では、焼土粒が多い量に散らばり、一部赤化・硬化している状況を確認した。また、灰は検出されていない。住居内施設 周溝や

ピット等の付属施設は見つかっていない。出土遺物 土師器壺・甕 2 個体、高杯 2 個体、埴 1 個体(1) 出土している。その他に土師器壺・甕片 30 点、高杯片 3 点、埴片 4 点が出土した。どの破片も器面の磨耗が著しいが、被熱の影響と考えられる。

備考 出土土器から古墳時代前期。

第 41 号住居址（第 62 図、第 20 表、図版 41・58）

グリッド W・X28・29。東台地北部平野部に占地する。遺存・重複 住居南壁の一部を第 224 号土坑により切られていた。また、住居北東壁は掘り下げすぎたため不明。形状・規模 長方形。上面径 4.35 × 5.64 m、床面径 4.25 × 5.45 m、壁高は 5 cm、床面積約 23.16 m²。主軸方位 N-53°-W。床面・掘り方 ローム面を床面とし、貼床・硬化面も確認されなかった。所々に硬化した焼土が入り



第61図 第27号住居址

込んでいる。炉 床面中央部で検出された。上面径 0.89 × 0.72m、底面径 0.77 × 0.61m、深さ約 10 cm を測る皿状のものである。硬化した底面は確認されず、炉中央部に焼土粒子の塊が確認された。住居内施設 周溝は確認されず、床面からピットが 3 本検出された(P1~3)。P1 は上面径 0.47 × 0.5m、底面径 0.11 × 0.23m、深さ 69 cm。P2 は上面径 0.67 × 0.37m、底面径 0.14 × 0.14m、深さ 39 cm。覆土内から土師器壺・甕片 1 点が出土した。P3 は上面径 0.35 × 0.35m、底面径 0.25 × 0.21m、深さ 16 cm。覆土内から土師器壺・甕片 14 点が出土した。住居覆土との関係から P3 は住居に伴うものと言えるが、P1・2 は根穴の可能性も考えられる。出土遺物 土師器高杯 1 个体(1)、壺・甕 4 个体(2・4・5 合む)、台脚 1 个体(3)、剣形土製品 1 点(6) が出土した。その他に土師器壺・甕片 210 点、台脚片 2 点、高杯片 8 点、小型土器片 13 点、その他土師器片 1 点、弥生土器壺・甕片 25 点、黒曜石 1 点が出土した。

備考 床面出土土器から古墳時代前期。

周溝

周溝 (第 63 図、図版 19)

グリッド J ~ N 33 ~ 36。西台地北部に占地する。遺存・重複 調査区外北に残存する古墳の周溝の一部と考えられる。周溝南西部にブリッジ状の平坦な場所が確認

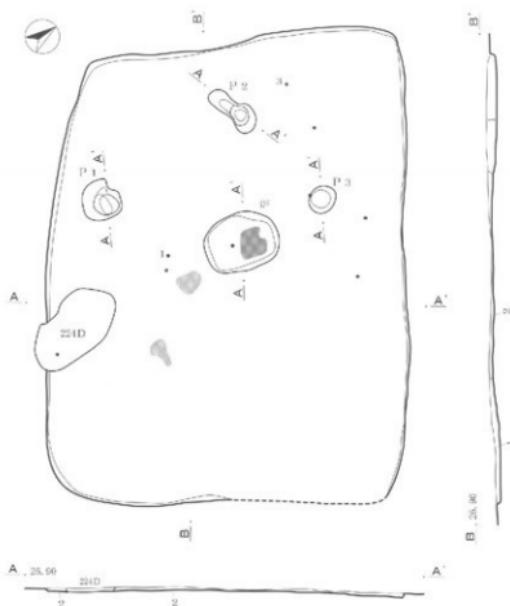
されており、それより北西の掘り込み部分は、東側が長方形形状の坑状の掘り込みや第 2 号溝によって壊されており、ブリッジより東側の掘り込み部分は第 1 号溝や切り株などによって壊される。形状・規模 南西部にブリッジを持つ。円形と思われる。立ち上がりはグラダラと緩やかに立ち上がる。北側の調査を外域の墳丘規模と図上からの復元によると周溝の内径は約 23 ~ 25m ほどになると思われる。現状では西側では幅 1.89m、長さ 6.78m、深さは表土から 74 cm、確認面から 36 cm。東側では幅 1.56 m、長さ 8.54m、深さは表土から 89 cm、確認面から 56 cm。床面・掘り方 あまり締まらないコーム面を底面とする。出土遺物 古墳時代の遺物は土師器壺・甕片 8 点と非常に少ない。その他に繩文土器片 259 点、奈良・平安時代の土師質須恵器片 15 点、片口 1 点、土師器甕片 2 点、灰釉陶器片 6 点、須恵器片 5 点が出土している。

備考 奈良・平安時代の資料の混入から埋没時期は古墳時代以後と考えられる。

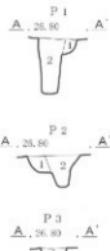
グリッド出土遺物

(第 64 図、第 21 表、図版 58)

グリッドからは 411 点の土器片のほか、勾玉 1 点、砥石 1 点、球状土鍾 1 点が採取されている。石製品は時代が確定的でないが、この項で扱っておく。採取された土器片は、住居と同様前期に属するもので、器種の点でも



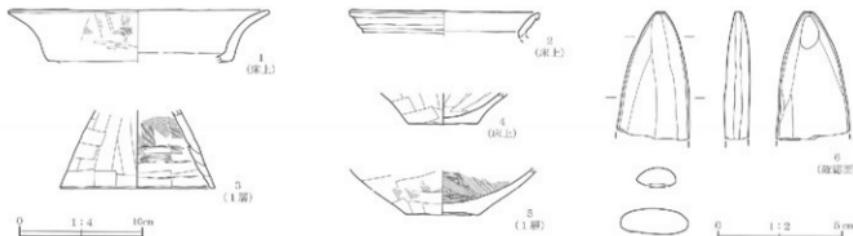
第41号住居址 断面
1. 破壊褐色土 塗まり有、粘性有。ロームブロックφ2~3mm少量。
2. 黒褐色土 塗えり有、粘性有。泥土ブロックφ2~3mm多量。



- 第41号住居址 P1
1. 破壊褐色土 塗えりや有、粘性や有。ロームブロックφ2~3mm少量。
2. 明瞭褐色土 塗まり有、粘性有。ロームブロックφ1mm微量。
- 第41号住居址 P2
1. 破壊褐色土 塗まり有、粘性有。
2. 明瞭褐色土 塗まり有、粘性有。ロームブロックφ1mm微量。
- 第41号住居址 P3
1. 破壊褐色土 塗まり有、粘性有。ロームブロックφ2~3mm少量。

0 1:50 2m

第41号住居址
1. 破壊褐色土 塗えり有、粘性有。ロームブロックφ2~3mm少量。
2. 破壊褐色土 塗えり有、粘性や有。ロームブロックφ2~3mm少量。



第62図 第41号住居址

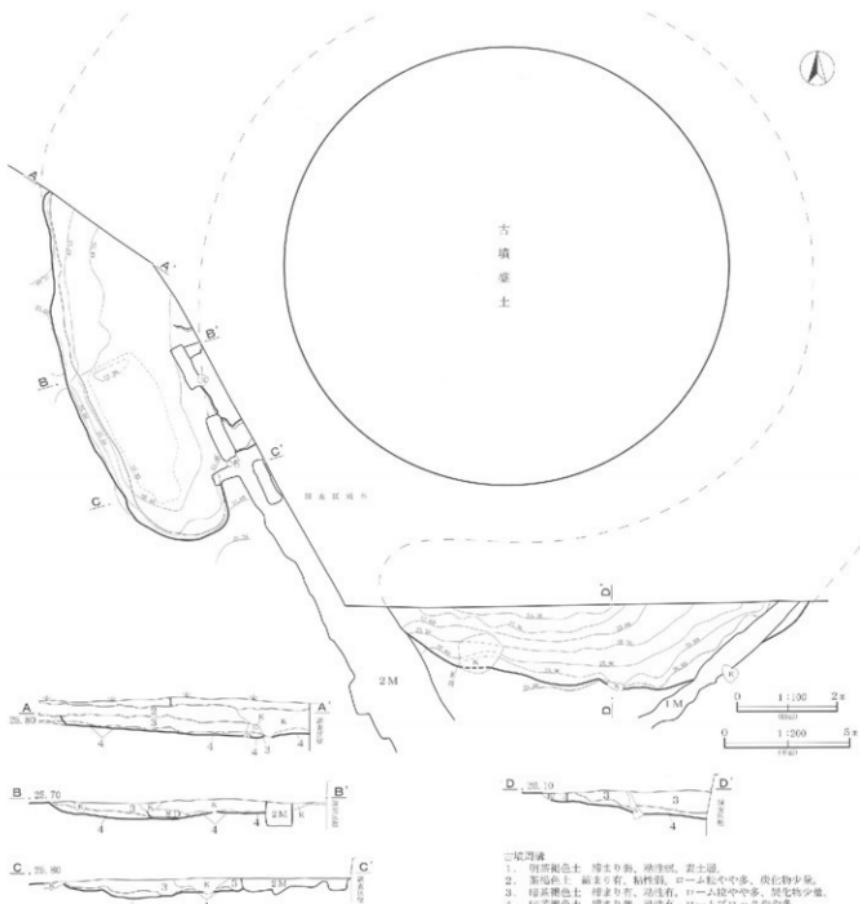
壺・甕・壺・高杯・器台など住居出土の土器と違いはなく、器種によって分布が偏在する様子もみられない。

東台地では368点である。グリッド27ライン以北の北半部で269点、南半部で99点と北半部に集中する。特に、V~X28・29(14・19・41号住居周辺)で169点あり、きわどっている。

西台地では43点ある。28ライン以北の北部で26点、

25ライン以南の中央部で17点を数える。北部では第32号住居址周辺のS~T29~30の12点が多く、同住居址上面で検出された土器群との関連性が窺われるが、接合関係はない。北部では他にまとまった分布はみられない。中央部では、N24で6点、他は第8号住居址周辺のグリッドK~O21~23で各1、2点採取されている。

図示にたてる資料は2点で、第64図5は東台地X28



第63図 古墳周溝

採取の勾玉、7は砥石で、擦痕が顕著である。

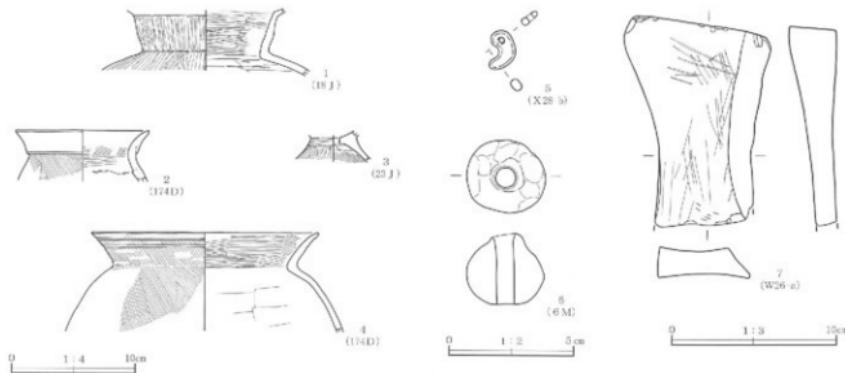
トレンチ出土遺物

127点の土器片が採取されている。西台地では南部の1~14Tで計58点、中央部19~20' Tで11点、北部25・26・28Tで6点採取され、南部に目立った分布がある。谷部31Tでは基本層序第II層から11点、III層から2点、

Vc層から1点が採取されている。東台地では南端の42Tを除くトレンチから計37点出土しているが、際だって多いトレンチではなく、最大でも8点である。

古墳周溝

1. 附落褐色土 塗まり無、砂性強、岩土混。
2. 黄褐色土 線まり有、粘性弱、ローム塊や少多、炭化物少徴。
3. 緑茶褐色土 塗まり有、粘性有、ローム塊や多、炭化物少徴。
4. 緑茶褐色土 塗まり無、粘性有、ロームブロックや多。



第64図 グリッド・時期外遺構出土の古墳時代遺物

時期外遺構出土の古墳時代遺物

(第64図、第21表、図版58・59)

弥生時代同様、平安時代の遺構に混入した古墳前期土器片について集計しておく。大半の土器の様相は住居出土土器と同様であるが、第8号住居周辺の第6号溝(方形区画溝)覆土中の土器はハケメ調整窓をもたず、段階的にはやや新しい様相をしめしている。

東台地では9軒の住居から223点採取されている。グリッド27ライン以北の7軒で202点と多く、グリッドの場合と数量的に類似しているが、斜面に位置する第20号住居では73点あり、上方からの流れ込みであろう。つ

いで第12号住居の47点が多い。南半部の2軒では21点である。

西台地では114点採取されている。北部の第2~4・29号住居、第14号土坑で計17点と少なく、大半が台地中央部の第6号溝覆土中出土である。この溝の南辺に第8号住居が切られていることから、第8号住居の遺物であった可能性が高いが、とすると、第6号溝掘削時の堆土が再び溝の埋土として戻ったことになる。

図示した遺物は、第18・23号住居混入の壺、器台、第6号溝の球状土錐、時期不明とした東台地の第174号土坑上面採取の壺である(第64図1~4・6)。

第13表 第8号住居出土遺物観察表

No.	位置	種別	産生成	重量 (g)	器形・技法の特徴	法量(上段=口径、中段=器高、下段=底径)():復元値():現存値			
						胎土	焼成	色調	備考
1	床上	軽石	100%	共56.9 厚4.56 厚さ4.45 石粉:安山岩、粘物:6箇の厚底、重さ21.0g					

第14表 第14号住居出土土器観察表

No.	位置	種別	透視図	透視度	法量 (cm)	器形・技法の特徴	法量:上段=口径、中段=器高、下段=底径():復元値():現存値			
							胎土	焼成	色調	備考
1	I2-1層	土師器	体~底部	1/2 [4.6] (3.8)	-	底面上げ丸、輪郭の凹輪形を過す。体端上半に最大径を持つ。口縁は器形に対し大きめ外方なる輪郭。外壁:透影で年輪、内面:漆器ミガ。	白色粘 多 石英 稀	良好	墨・内 黄茶褐色	全面摩滅する。
2	覆土3層	土師器	口縁	1/8 [3.7]	(18.0) -	口縁:絶く深く、底面が急に外反。「C」の字を呈す。外部:口縁のみナガ、胴へナガ。内面:口縁よりコロゾ、胴ナガ。	白色粘 少 石英 少	良好	赤茶褐色	
3	覆土3層	土師器	口縁	1/8 -	(18.8) [4.5]	口縁:無く縫や少く外反する。外壁:断面目歴(縫合近)コナガ、内面:内面も同様。一回にナガ割れ。	白色粘 少 石英 少	良好	外:茶褐色 内:暗褐色	剥毛目 9×15本/cm。

No.	供試 部位	測定 器種	測定法	重量 (g)	器形・技術の特徴	植土	粒度	色調	備考
4	根尖部	土壤剪 碎器	白蝶 1/2 鋼鉄 1/5	[17.6] [19.7] -	口縁: 略か外反。頭部: 球体状を呈し頭部下部に最大溝。口縁: 細毛片後部ノブ。底: 脊も 少。内: ノコ目切。側面: ノブ。	白色 多 石英 少	灰 黑色	副毛目 10本/cm	
5	根尖部	土壤剪 碎器	白蝶 1/2 鋼鉄 1/3	[2.2] -	根尖: 略か外反。内: 稍少し頭部はさみ い。頭部: 球形。頭部: ノブ無。内: ノ ブ無。頭部: 球形。頭部: ノブ無。内: ノ ブ無。	白色 少 石英 少	灰 黑色	副毛目 5本/cm	
6	根尖部	土壤剪 碎器	底部金舟 1/1	- 6.2	底部: 略やかく曲がる。頭部: 球形。内: 略か い。頭部: ノブ無。底部: ノブ無。内: ノブ無。 底部: 略やかく曲がる。頭部: ノブ無。	白色 少 石英 少	灰 黑色	副毛目 9~10本/cm	

第15表 第19号住居址出土十脚鰐蟹表

仮名: 上段一ノ層、中段一基高、下段一底盤 (): 復元値 (): 現存値

No.	位置 部位	種類	測定値	法値 (cm)	器形・技術の特徴	植土	粒度	色調	備考	
1	根土4層	土師器	体部	1/1	体部を量り、外側: 頭部: 略毛片後部方角に ガタ。底部: ノブ無。頭部: ノブ無。底部: ノ ブ無。内: 頭部付近ヨコナギ。体部: ノ ブ無。	砂岩 シ 石英 少 白色粘 少	灰 黑色	赤紫色		
2	根土1層 埋	土師器	体部	1/3	[3.5]	馬頭工を量る。外側: 頭の丸が半楕円。内 側: 手形の凹が半楕円。	砂岩 シ 石英 少 白色粘 少	灰 黑色	赤紫色 内: 赤紫色	
3	壁上 3層+4層	土師器	广輪-底盤	1/2	[13.4] [10.0]	受け口: 一部をかきむけにする。受け口外側: 頭 のハサギ。頭: ノブ無。内: 頭部の前半部。底盤外 面: 頭の丸なみ。内面: 頭毛目ノブ無。	石英 少 砂岩 シ 白色粘 少	灰 黑色	副毛目 10本/cm, 8.5本/側面	
4	根土3層 埋12層	土師器	脚底約	1/8	- 7.5	球形を量る。外側: 頭部: ノブ無。頭部: 頭のハサギ。内面: 略方的にナゴヤ型。	白色粘 土 白色粘 土	灰 黑色	副毛目 11本/cm	

第16表 第21号住居址出土遺物観察表

仮名: 上段ニ口袋、中段ニ耳袋、下段ニ底盤 (): 復元値 (): 現存値

No.	位置 部位	種類	測定値	法値 (cm)	器形・技術の特徴	植土	粒度	色調	備考
1	根土3層 高杯	土師器	脚底 2/8	[7.6] (11.2)	頭部: 中央部を量する。低部: 略外方。外側: ケイクハサギ。頭部: ノブ無。内: 頭部付近ヨコナ ギ。頭部: ノブ無。	砂岩 少 石英 多 白色粘 多	灰 黑色	赤紫色	
2	根土3層 素	土師器	口輪 1/3	[23.0] (9.2) -	新規な接合等を有し口縁。縫へ口縁。直立に近 い。内: 縫: 縫: 直立に近い。外側: 略外方。	白色粘 多 石英 少 砂岩 少	灰 黑色	良好	赤紫色 内: 赤紫色
3	根土2層 小型器	土師器	丸形	6.1	直立-底盤: 内: 滑落形に立ち上りの、直脚的な形 である。外側: ノブ無。内: 頭毛目ノブ無。	砂岩 少 白色粘 少	灰 黑色	良好	副毛目
4	根土2層 鉢脚車	土師器	3/4	直径 4.5 厚 0.5、穴径 0.5、 直徑 2.2 厚 0.5	表面: 直脚。裏面: 裏面に指ナギ凹形。 裏面二次による剥離あり。体壇に底盤無。蓋: 直 径 2.2 厚 0.5	砂岩 少	灰 黑色	良好	赤紫色
5	掘り方 土師器	丸形	直徑 6.2 厚 2.4、穴径 0.8、 直徑 11.4 厚 1.8	金合のこぎがかかる。 ホケ: ホケナガが6つ有り、穿孔: ホケナゲ倒 向によっている。蓋: 直径 11.4 厘米	石英 少 白色粘 少	灰 黑色	良好	赤紫色	

第17表 第22号住居址出土遺物観察表

仮名: 上段ニ口袋、中段ニ耳袋、下段ニ底盤 (): 復元値 (): 現存値

No.	位置 部位	種類	測定値	重量 (g)	器形・技術の特徴	植土	粒度	色調	備考
1	根土2層 根	土師器	体-底部 1/2 根	- 2.3	肩部直状を量する。外側: ノコナギ、内面: 指ナ ギ。頭部: ノブ無。	石英 少 白色粘 少	灰 黑色	赤紫色	
2	根土2層 素	土師器	口輪約 1/8	[18.0] [4.4] -	手形: 直立-底盤。外側: J型窓口ロコナガ後ヒキ。頭 部: ノブ無。内: ノブ無。内: ノブ無。	砂岩 シ 砂岩 シ 白粘少	灰 黑色	外: 赤 内: 黑	
3	根土1層 素	土師器	口輪 7/8	[21.0] [6.5] -	くの字状を量する。頭部: ノブ無。頭毛目直脚。 内: ノブ無。	石英 少 白色粘 少	灰 黑色	赤紫色	副毛目 10本/cm
4	根土1層 素	土師器	口輪 1/5 脚 1/3	[23.2] [10.3] -	直立-底盤。頭部: ノブ無。頭毛目直脚。 内: ノブ無。	石英 少 白色粘 少	灰 黑色	良好	副毛目 10本/cm
5	根土1層 根状土器	丸形	直徑 2.7 厚 2.8、穴径 0.9 直徑 3.0 厚 0.9	外表面ホケが多く、マキガシがある。直徑 17.9g	石英 少	灰 黑色	良好	赤紫色	

第18表 第26号住居址出土遺物観察表

仮名: 上段ニ口袋、中段ニ耳袋、下段ニ底盤 (): 復元値 (): 現存値

No.	位置 部位	種類	測定値	法値 (cm)	器形・技術の特徴	植土	粒度	色調	備考	
1	根土3層 筋	土師器	受口部 1/2 筋部	[13.8] -	袋状凹凸、外側: 石英、内: マキガシ。内面: 石英、もが シ。頭部: ノブ無。	石英 少 白色粘 シ	灰 黑色	赤紫色	受け口内面直脚。 つけ足: 置脚状の 丸柱付き脚。	
2	根土2層 筋	土師器	受口部 1/1 筋部 1/3	9.0 6.2 穴径 3.0-0.9	[11.8] [6.2] -	「ハ」の字状を量する。受け口: 頭部に折し小 い外側: ノブ無。内面: ノブ無。部分的な内ガタ構 成。ナゲ脚部に脚柱は2つある。	石英 多 砂岩 少	灰 黑色	良好	緑茶褐色

No.	位置 部位	種別 名稱	造作度	径量 (cm)	藝術・技術の特徴	胎土	焼成	色 調	備 考
3	腰上1層	上部端 縫	作鉢 1/5	[10.1] 9.2	模様を盛る。外径:さきがけ、下平にナガ。内面:直壁。裏面:打窓。	石英 少 白色少 褐色少	良好	青灰色 黄褐色	熟練の影響強い。 ハゼ感。
4	腰上	上部端 縫	正鉢 1/1 斜鉢 1/2	- [26.5] 8.3	滑部:外形を盛る。底大筋でやや体部中央に持つ。外側:ハサクの模様。内面:アーチ調整。基部:~明治時代までのさな立ち七巧名持つ。	石英 少 白色多 褐色多	良好	白系灰白	成熟による内外面の厚紙 美しい。
5	腰上2層	口縫~78端 1/5	28.5	有輪自殺。口縫~78端に切妻な腰なし。外圍:斜面系タケのさきがけ。内面:斜面・側身口縫のさきがけ。	石英 多 白色多 褐色多	良好	青褐色		
6	腰上2層	二三脚 縫	口鉢 1/3	[15.6] [20.8]	折り返し。口縫。礎部:底に氣泡に外反。外面:口縫部下部輪郭にハサク。内面:口縫にナガ。	砂紋 多 石英少 白色多	良好	白系灰色	草紙美しい。
7	腰上3層	上部端 縫	口鉢~肩鉢 1/2	[18.5] [10.0]	口縫:「L」の字状の腰なし外反。礎部:口縫が若干右寄りで斜状にする。外側:直壁。内面:口縫部の直壁。底:原形。頭部:ナガ。	石英 多 白色多 褐色多	良好	青褐色	刷毛目10本/cm。
8	腰上3層	上部端 縫	口鉢~深鉢 1/5 斜 1/3	[16.0] [12.6]	口縫:かづれ「L」の字状の外反。口縫:底に斜状の腰なし。外側:口縫部斜毛をヨコナガ。礎部:斜毛。内面:口縫部斜毛をヨコナガ調整。	砂紋 少 白色少 褐色少	良好	系褐色	刷毛目10本/cm。
9	腰上3層	土製品 漆器土鉢	光形	-	底径2.7 厚み0.3 穴径0.5 さきがけ少。全体的にさきがけからかく。 重さ17.8g	白色少	良好	品褐色	

第19表 第27号住居周辺出土上漿物観察表

No.	位置 部位	種別 名稱	造作度	径量 (cm)	法益:上段=口縫、中段=腰高、下段=底径 ():復元値 ():現行値				
					藝術・技術の特徴	胎土	焼成	色 調	備 考
1	腰上1層	上部端 縫	口鉢約1/5 作鉢 1/2	- [4.2]	作鉢:端平な斜円頂を呈する。口縫:体部より大きくなり、側外側へ外方すると規定。	白色 多 白色少 褐色少	-	赤褐色	半成が半径に黒い。

第20表 第41号住居周辺出土上漿物観察表

No.	位置 部位	種別 名稱	造作度	径量 (cm)	法益:上段=口縫、中段=器皿、下段=底径 ():復元値 ():現行値				
					藝術・技術の特徴	胎土	焼成	色 調	備 考
1	腰上1層	上部端 縫	口鉢約1/5 作鉢 1/2	- [4.2]	作鉢:端平な斜円頂を呈する。口縫:体部より大きくなり、側外側へ外方すると規定。	白色 多 白色少 褐色少	-	赤褐色	半成が半径に黒い。
2	腰上	七寸器 縫	口縫 1/8	[15.0] [2.0] -	さくら外方を持つ。口縫部はつまみ出され、口縫部から斜を走っている。内面はコロナガが施されている。	白色少	良好	青灰色	
3	腰上1層	上部端 縫	金輪1/4 台部	- [6.4] -	本施加在ハの半径、下部に粘土土の點が複数附着する。外側:アーチ調整。内面:アーチ調整。	白色少	良好	青褐色	刷毛目11本/cm。
4	腰上	上部端 縫	廣鉢 1/1	[2.6] 5.7	基部:丸やや小判した後に大きく外反する。外側:アーチ調整。内面:アーチ調整。	石英少 白色少	良好	青褐色	
5	腰上1層	上部端 縫	底鉢 1/1	[3.8] 3.8	底部上部:腰部:火付き(焼き)、調査を下すと半径:外反:外方:斜毛を施す。内面:アーチ調整。内面:ハサク構造。	砂紋少 石英少	良好	青褐色	刷毛目9本/cm。 丸回りに施されている。
6	複数個	土製品 鉢形?	先端のみ	-	幅2.9 高さ6.2、厚み1.05 斜めに複数箇所筒状。 重さ15.3g				

第21表 グリット・附期外造情出土遺物観察表

No.	位置 部位	種別 名稱	造作度	径量 (cm)	法益:上段=口縫、中段=器皿、下段=底径 ():復元値 ():現行値				
					藝術・技術の特徴	胎土	焼成	色 調	備 考
1	腰上1層 18号住居	斜鉢	斜鉢 1/2	[5.5]	礎部:端やや外反し、表:火付きを付す。斜縫:頭部から外反する外反。(焼形)を呈する。外縫:アーチの外縫。内縫:アーチ。	白色少	良好	青褐色	
2	腰上1層 174号土坑	上部端 縫	口鉢 1/1	[7.9] [3.0] -	折り返しはなし。斜縫:頭部に腰平はなし。外縫:アーチ。内縫:アーチ調整。斜縫:頭部はなし。斜縫:頭部はなし。斜縫:頭部はなし。斜縫:頭部はなし。	白色少 白色少	良好	青褐色	
3	腰上1層 23号住居	小型鉢 上部端	斜鉢 1/2-2/3	[2.6]	半球形に凸溝の穿孔。斜縫:「L」の字状に斜縫に開く。外縫:アーチ。内縫:アーチ。斜縫:頭部はなし。斜縫:頭部はなし。斜縫:頭部はなし。	砂紋少 白色少 褐色少	良好	青褐色	外山にハゼ感あり。 底穴9本/cm。
4	腰上1層 174号土坑	土製品 縫	口鉢 1/2 斜 1/4	[18.0] [8.0] -	[18.0]の半に口縫が外反。斜縫が妻子らしき。口縫:外縫:2カ所の改築の凹縫。ヘラナガ。刷毛目。内縫:口縫と斜縫の間。斜縫:頭部はなし。	砂紋少	良好	赤褐色	刷毛目27本/cm。 外山面や斜縫。
5	X28-b 2-ム上部	馬糞	光形	-	長さ1.6 横1.01、厚0.41。底1.06。右材:地灰岩				
6	M23-d 6号宿 浮土	上部端	光形	-	直径6.0 厚1.9 底径0.8 底径1.7 厚1.7 厚1.4g	白色少	良好	青褐色	
7	w-25-a ヨーム上部	石	端部欠損	-	長さ13.8 幅5.2 厚2.8 重さ373g。 右材:後山から取扱被視頭面図。欠損部も施している。				

4. 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の概要

奈良・平安の遺構としては、堅穴住居址 18 軒、掘立柱建物址 1 棟、土坑 2 基、焼土址 1 基、方形区画溝 1 基、蔵骨器 3 基である。東台地に堅穴住居址 9 軒、それ以外の遺構は西台地に展開する。西台地では、6 軒が北部平坦地に、3 軒が中央部の東斜面地にあり、やや離れた位置関係にある。カマドの位置をみると、多くの住居址が北西～北東を探るなかで、西台地の第 2 号住居址が西、第 3 号住居址と東台地の第 12 号住居址が東を探っている。北西～北東を探る住居址の中でも谷部を望む住居址では、斜面にほぼ平行な主軸をもつていて興味深い。

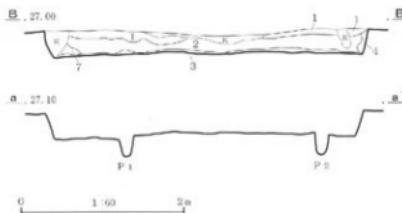
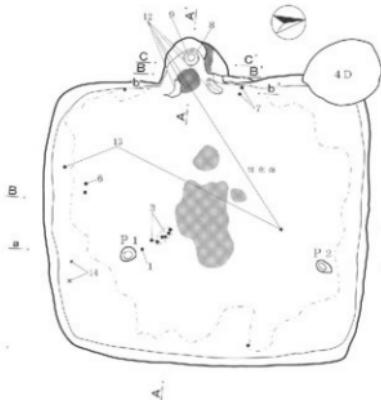
カマド内に土師器の小型壺を倒立させたり、筑波石を直立させて据える例が数軒の住居跡でみられる。一方、第 2 号住居址や第 15 号住居址のように袖部補強材として土師器壺を埋め込んだ例がある。さらに、第 4 号住居址や第 17 号住居址などからは床面から多量の炭化材が検出されていて、焼失家屋であった可能性も考えられる。

西台地中央部の南側には、掘立柱建物址、方形区画溝、第 9 号住居址がある。掘立柱建物址は時期が判然としないが、「V まとめ」で述べるように、方形区画溝は 9 世紀前半には埋没が進んでいたことが出土遺物の層位から窺われ、また住居址は 9 世紀後半以降に位置づけられそうであり、少なくとも構築時期にはずれがある。それでも第 9 号住居址の鉄鉢形土器や「佛」の墨書き器などの出土遺物の在り様は、蔵骨器とともに、西台地北部を含めたこの地区的性格の一端を示しているように思われる。遺物には、灰釉瓶・壺、須恵器蓋・盤・壺、須恵器技法の土師質環・高台环・皿・壺・瓶、土師器壺・小型壺、刀子、釘、釘状銅製品、砥石などがあり、住居址出土上器では、須恵器はほとんどみられない。土師質の壺はそのほとんどが胴部上位に縦、あるいは斜めの叩き目を施し胴部中位から下位に横方向のケズリを入れている。また、土師質の壺・高台环はロクロ成形がほぼ全てであり、内面黒色処理を施したものが多く目立つ。他にも、壺の体部の調節として下端に横方向の回転ヘラ削りや手持ちヘラ削りを施すものが多い。無台のもの、高台付きのも

のと存在するが、足高でハの字に開くものもやや見受けられる。土師器の壺は、薄手の長胴タイプもよく見られる。口縁部の形状は口唇部先端を斬り上げるもの、受け口状に開くもの、先端部が平らになり、沈線がめぐるものなどがあり、まれに先端部を外側に折り込むものも見られる。他にも注目すべき点として、大部分の住居址から出土している筑波石の破片が挙げられる。先にも述べたカマド内の支脚として使用する例の他にも、ただ床面に散乱しているケースも見られる。その大きさはまちまちで、手のひらにすっぽり収まるものから 30 cm を超えるものもある。どのような目的でそれらを住居内に持ち込んだのかは、今の段階でははつきりしていない。

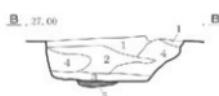
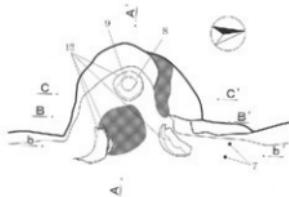
堅穴住居址

第 2 号住居址 (第 65・66 図、第 22 表、図版 4, 60, 67)
グリッド P33。西台地北側の平坦地。**遺存・重複** 南壁に古い倒木痕がかかる。第 4 号土坑に切られ、第 53 号土坑を切る。**形状・規模** 方形。上面径 3.96 × 3.57 m、床面径 3.83 × 3.20 m、最大壁高は南壁にあって 34 cm。床面積約 12.3 m²。**主軸方位** N-80° → W。**床面・掘り方** ローム面を床面とする。壁周辺を除き、硬化面が広く拡がる。住居中央に約 1.1 × 0.56 m の範囲で赤化面があり、さらにこの西側に径 33 × 26 cm、北側に径 20 × 17 cm の円形の赤化面が点在する。火を使用した痕跡なのか、住居焼失時の火勢で焼かれたものなのか、はつきりしない。床面には小さな木炭片がところどころみられる程度であるが、覆土中には少量ながら焼土が広く分布するため、焼失住居の可能性もある。**カマド** 西カマド。西壁中央のやや南寄りにある。カマド北壁に厚さ約 10 cm の赤化壁が残るが、南壁には残っていない。南壁にも同様の赤化壁があったとすると、カマドは本来、西壁を幅約 50 cm、奥行き 53 cm、深さ 25 cm の半円径に掘り込んで構築されていたと推測される。左右袖部分には、ほぼ半截された底部欠損の土師器壺(12)が、左袖部では横転して、右袖部では倒立状態で検出された。袖部補強材として転用された上器であろう。燃焼部は皿状の掘り込みで、赤



第2号住居址

1. 黒褐色土 硬さりやや有、粘性有。ローム板・焼少量・焼土ブロックφ1m・炭化物微量。
2. 黄褐色土 硬さりやや有、粘性有。ロームブロックφ1m・焼土ブロックφ5mm少量。
3. 黑褐色土 硬さり有、粘性有。ロームブロックφ1m・焼少量・焼灰量。
4. 黑褐色土 硬さり有、粘性有。ローム板・焼土少量。
5. 黑褐色土 硬さり有、粘性有。焼土板・土に焼土の散じた層。
6. 黑茶褐色土 硬さり有、粘性有。焼土板・土に焼土の散じた層。
7. 黑茶褐色土 硬さりやや有、粘性やや有。ローム板・焼土焼少量・ロームブロックφ5mm微量。
8. 黑褐色土 硬さり有、粘性弱。ロームブロックφ2m微量・焼土板・焼土ブロック多量。



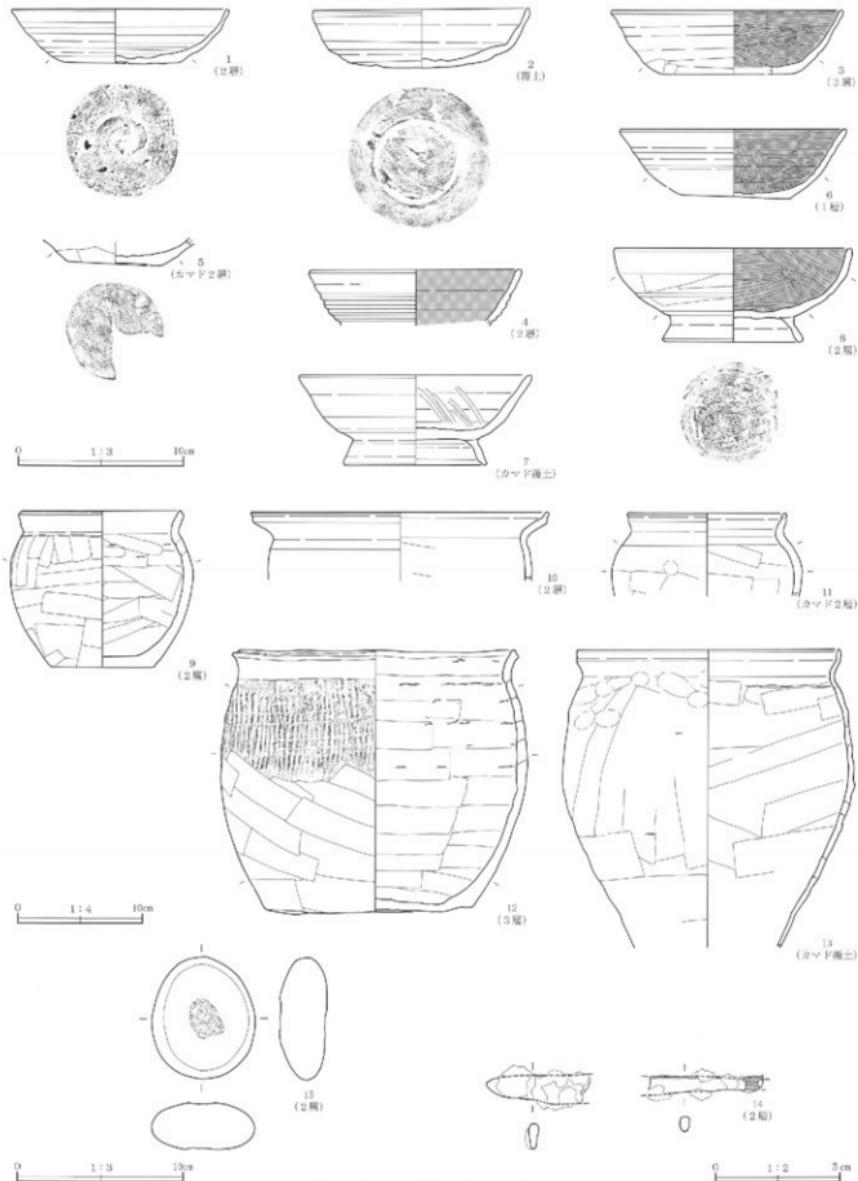
第2号住居址 カマド SPA・SPB

1. 在窓壁土 1層と同一
2. 在窓壁土 2層と同一
3. 在窓壁土 3層と同一
4. 多細胞土 硬さりやや有、粘性有。燒土板φ2m・炭化物微量・焼土ブロック少量。

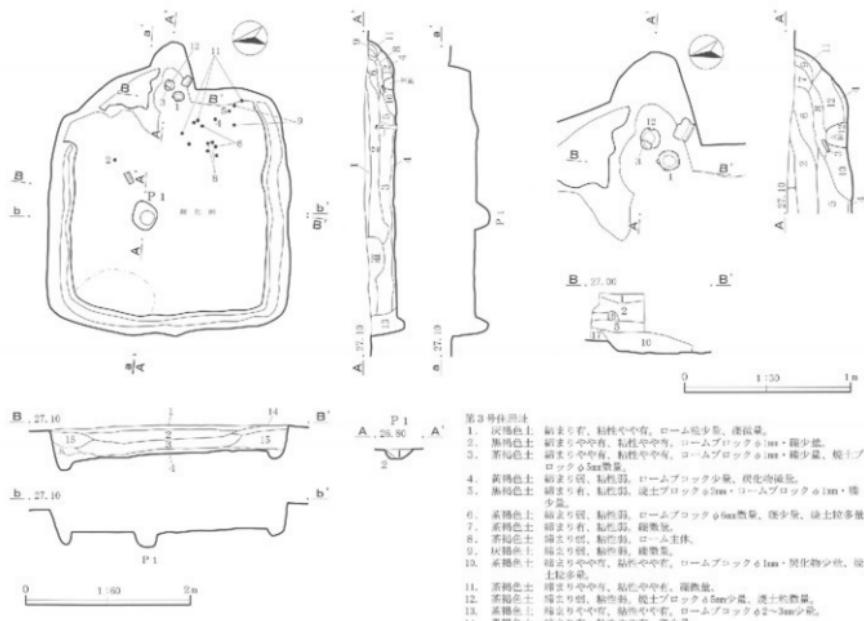
第2号住居址 カマド壁 SPC

1. 灰褐色土 硬さり弱・粘性弱。燒土壁・燒土ブロック・燒少量。
2. 黑褐色土 硬さりやや有、粘性有。ロームブロックφ5mm多量。
3. 黄褐色土 硬さり弱・粘性弱。ロームブロックφ5mm多量。

第65図 第2号住居址 (1)



第66図 第2号住居址 (2)



第67図 第3号住居址（1）

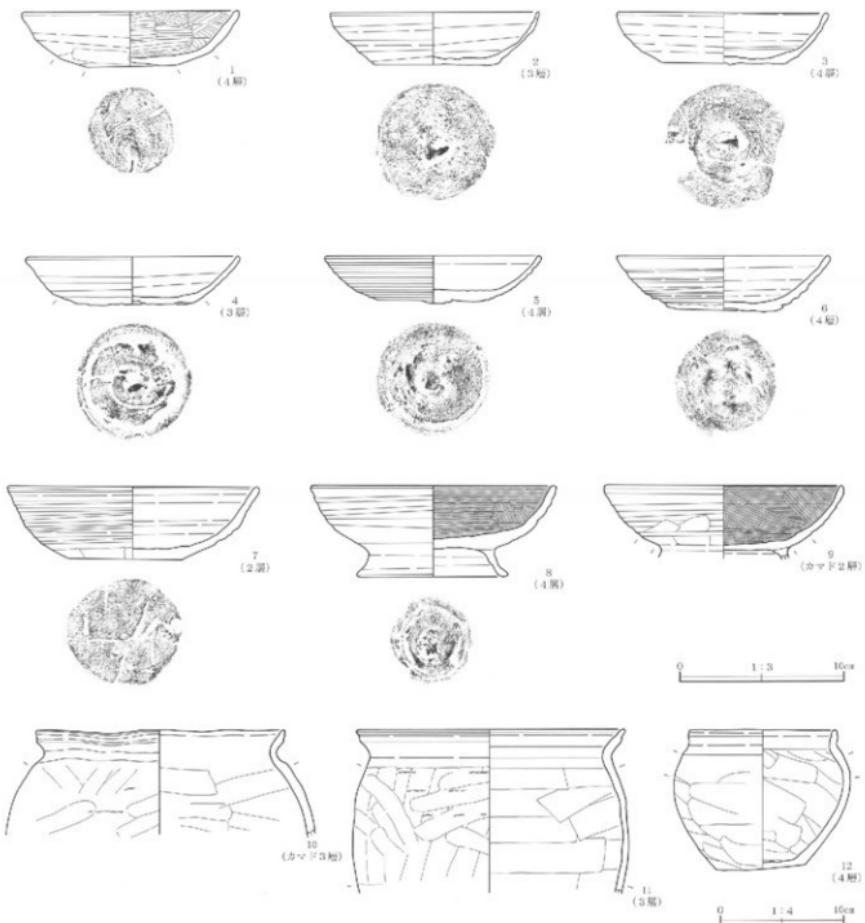
化・硬化して、よく使い込まれている。この燃焼部と煙道部との間に土師器小型甕（9）が倒立状態で据え置かれ、この上（底部）に高台坏（8）が伏せ置かれていた。

住居内施設 P1は深さ21cm、P2は20cm、小ピットながらしっかりと据り込みであり、柱穴と考えてよいと思われる。出土遺物 器種は、壺、甕、刀子。壺・高台坏はロクロ使用の土師質であり、破片数104点（1,2,5）。このうち内ミガキ片は、3個体（5,7,8）の他、4点。内墨片は3個体（3,4,6）の他43点。叩きをもつ土師質甕1個体（12）。土師器甕は、小型甕を含め4個体（9～11,13）の他、破片数146点。このほか、刀子1点（14）、磨石1点（15）。

第3号住居址（第67・68図、第23表、図版4、60）
グリッド Q33。西台地北側の平坦地。遺存・重複 第3号土坑を切る。当初、新旧が分からず、北西にかかる

第3号土坑も同時進行で掘り下げたため、この部分の住居壁を損壊した。形状・規模 方形。上面径3.02×2.93m、周溝を除く床面径2.55×2.35m、最大壁高は南壁にあって30cm。床面積約6m²。主軸方位 N-87°-E。床面・握り方 ローム面を床面とする。周溝周辺を除き、よく踏み固まって硬化する。カマド 東カマド。東壁のほぼ中央を幅約55cm、奥行き約60cm、深さ34cmの半椭円形状に掘り込んで構築される。左袖部には地山のロームが高さ5～6cmほど残り、造り出しが袖部基礎部分と思われる。右袖部にはみられない。この東側（裏側）に高さ12cmほどの段上部が造作されている。重複する坑状構かとも思われたが、切り合はないなく、カマド覆土と連続する泥土混じりの堆積土であった。燃焼部は赤化・硬化してよく使い込まれている。握り込みはほとんどなく、床面とほぼ同じレベルにある。この燃焼部の奥に、煙道壁と接するように、小型甕（12）が倒立状態で据え置か

- 第3号住居址 P1
1. 茶褐色土 砂より有、粘性やや有、ロームブロック少量、礫少量。
2. 黄褐色土 砂より有、粘性やや有、ロームブロック少量、礫少量、板土少量。
3. 茶褐色土 砂より有、粘性やや有、ロームブロック少量、礫少量、板土少量。
4. 黄褐色土 砂より有、粘性弱、ロームブロック少量、炭化物微量。
5. 黑褐色土 砂より有、粘性弱、ロームブロック少量、礫少量、板土多量。
6. 茶褐色土 砂より有、粘性弱、ロームブロック少量、礫少量、板土微量。
7. 茶褐色土 砂より有、粘性弱、板土少、礫微量。
8. 茶褐色土 砂より有、粘性弱、板土少、礫微量。
9. 灰褐色土 砂より有、粘性弱、板土少、礫微量。
10. 茶褐色土 砂より有、粘性やや有、ロームブロック少量、炭化物少量、板土微量。
11. 茶褐色土 砂より有、粘性やや有、板土少、礫微量。
12. 茶褐色土 砂より有、粘性弱、板土少、ロームブロック少量、炭化物微量。
13. 黑褐色土 砂より有、粘性やや有、板土少、ロームブロック少量。
14. 黑褐色土 砂より有、粘性やや有、板土少、礫微量。
15. 茶褐色土 砂より有、粘性やや有、ロームブロック少量。
16. 黑褐色土 砂より有、粘性やや有、ロームブロック少量。
17. 黑褐色土 砂より弱、板土少、礫微量。ロームブロック少量。

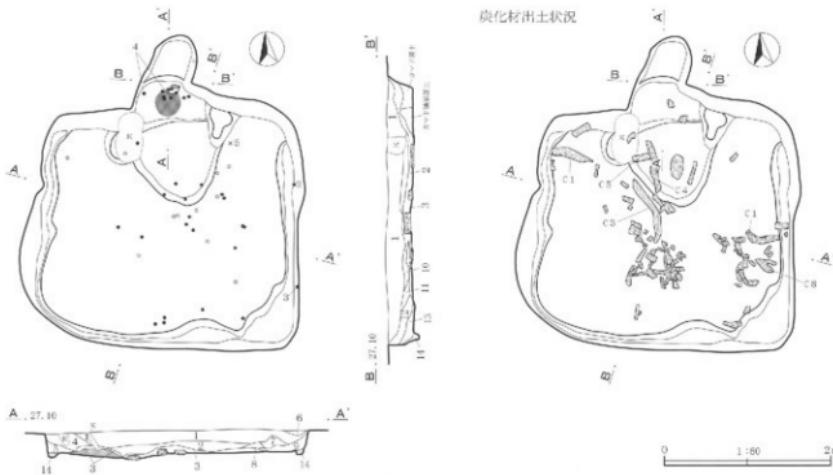


第68図 第3号住居址（2）

れ、上（底部）に壊片（3）が伏せ置かれていた。住居内施設 P1は深さ18cm。周溝は東壁側には巡らない。幅広く、しっかりした掘り込みで、底面幅8~15cm、深さ5~10cmほどである。出土遺物 器種は壺、甕。壺はコクロ使用の土師質土器。壺は6個体（2~7）。内黒、内ミガキの壺・高台壺は3個体（1、8、9）。その他の壊片の破片として、22点あり、そのうち、内黒片は7点。土師器

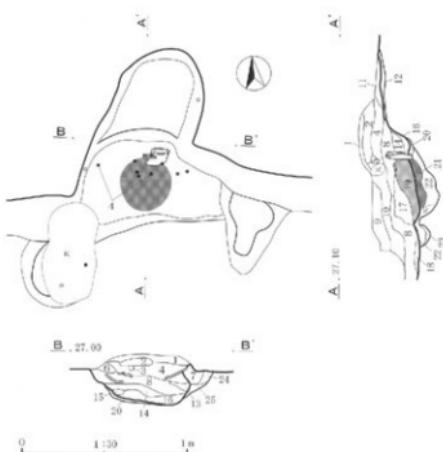
甕は小型甕を含め、3個体（10~12）の他、破片数59点。遺物はカマド周辺に集中する。

第4号住居址（第69~70図、第24表、図版5、61、67）
グリッド P31。西台地北寄りにある。遺存・重複 住居址とカマドの上を現代の林道が南北に通り、住居址とカマドの上部が削平されていた。さらに、カマドに木根



第4号住居跡
A. 27.10
B. 27.10
A'

1. 砂質褐色土 塗まりやや有、粘性やや少有。炭化物、根ふき2~3mm少有。
2. 植生褐色土 塗まり少、粘性やや有。ロームブロックφ30~50mm多量。
3. 植生褐色土 塗まり少、粘性少。ロームブロックφ2~3mm多量。炭化物や多。木炭片少有。
4. 砂質褐色土 塗まり少、粘性少。炭化物少。
5. 砂質褐色土 塗まり少、粘性少。炭化物少。
6. 砂質褐色土 塗まりやや有、粘性少。炭化物少。
7. 砂質褐色土 塗まりやや有、粘性少。炭化物少。
8. 砂質褐色土 塗まり少、粘性少。炭化物φ2~3mmやや多。
9. 砂質褐色土 塗まり少、粘性少。炭化物少。
10. 砂質褐色土 塗まり少、粘性少。
11. 砂質褐色土 塗まり少、粘生やや有。炭化物。
12. 砂質褐色土 塗まり少、粘生やや有。炭化物少。
13. 砂質褐色土 塗まり少、粘生やや有。炭化物多量。
14. 砂質褐色土 塗まり少、粘生者。底状のローム多量。周縁。

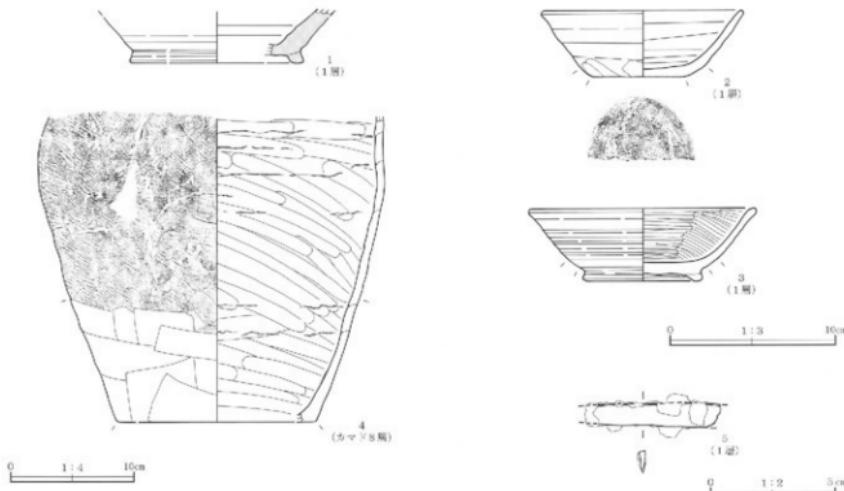


炭化物出土状況

第4号住居跡 カマド

1. 砂質褐色土 塗まり有、粘性有。焼土ブロックφ5cm。炭化物少量。
2. 砂質褐色土 前述より少、粘性有。焼土ブロックφ10~20mm多量。灰少量。炭化物少量。
3. 黄褐色土 烧土アッシュの堆积地。
4. 黄褐色土 烧土アッシュ有。粘性やや有。焼土ブロックφ5cm。炭化物少量。
5. 砂質褐色土 塗まり少、粘性やや有。粘土ブロックφ1~2mm少有。
6. 砂質褐色土 塗まり有、粘性やや有。焼土ブロックφ10mm多量。炭化物φ2~10mm少量。堅泥露土。
7. 黄褐色土 前述よりやや少、粘性やや少。カマド構造材。
8. 黄褐色土 塗まり少、粘性やや有。焼土ブロックφ5~10mm。炭化物少量。
9. 黄褐色土 前述よりやや少、粘性やや有。ロームブロックφ5mm。炭化物微量。焼土φ2cmφ2~10mm少量。
10. 黄褐色土 塗まり少、粘性やや有。ロームブロックφ5mm。焼土ブロックφ2cm少量。粘泥露土。
11. 黄褐色土 塗まり少、粘性少。炭化物、焼土ブロックφ2cm少量。
12. 黄褐色土 塗まりやや少、粘性やや有。ローム主張。焼土ブロックφ5mm微量。
13. 黄褐色土 塗まり少、粘性少。炭化物・焼土ブロックφ1cm・焼土ブロックφ2~3cm少量。
14. 黄褐色土 前述よりやや少、粘性やや有。焼土ブロックφ2~5mm。灰少量。炭化物少量。
15. 灰白色土 塗まり少、粘性少。炭化物やや有。焼土ブロックφ2~5mm。炭化物少量。燒土多量。土壌片包含。
16. 砂質褐色土 前述よりやや少、粘性やや有。焼土ブロックφ1~2mm微量。
17. 砂質褐色土 塗まりやや少、粘性やや有。焼土ブロック多量。灰やや多。木炭片少量。
18. 黑褐色土 前述より少、粘性やや有。炭化物多量。焼土ブロックφ1~2mm多量。
19. 烧土層 前述よりやや少、粘性少。焼土ブロックφ5~10mm微量。炭化物少量。燒土多量。土壌片包含。
20. 砂質褐色土 前述より少、粘性少。焼土少。
21. 砂質褐色土 前述より少、粘性少。焼土少。
22. 砂質褐色土 前述より少、粘性やや有。ロームブロックφ10mmやや多。堅り少。
23. 黄褐色土 前述より少、粘性やや有。焼土ブロックφ5mmやや多。炭化物微量。灰、灰少量。
24. 黄褐色土 前述より少、粘性少。焼土少。堅り少。
25. 黄褐色土 前述より少、粘性少。焼土少。堅り少。燒土ブロックφ10~25mmやや多。堅り少。

第69図 第4号住居跡 (1)



第70図 第4号住居址（2）

址が入る。第31号住居址、第215号土坑を切っている。

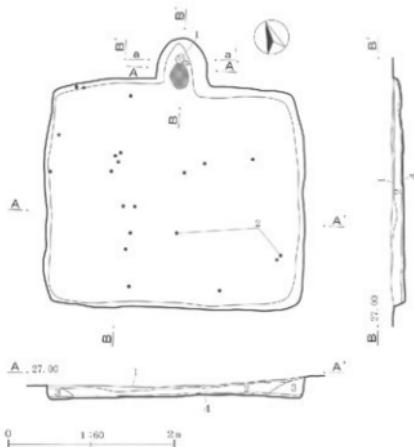
形態・規模 方形。上面径 3.10×3.40 m、床面径 2.78×2.94 m、最大壁高 41 cm、床面積約 $8.17 m^2$ 。主輪方位 $N - 9.5^\circ - E$ 。床面・掘り方 堀り方にロームブロックを含むローム層主体の土を埋めて、床面を構築している。硬化面は無い。カマド 北カマド。幅 74 cm、長さ 82 cm、深さ 38 cm の半楕円形の堀り込み。燃焼部は床面上より一段低く、燃焼面は硬化している。支柱として須恵器窓の胴部片 2 を利用。燃焼部から傾斜のある段がついて、浅い煙道部がある。煙道は主軸よりやや北東側へ傾く。カマドの壁は赤化し、強く硬化している。カマド袖部は白色粘土を使って構築されており、カマド内に焼土と白色粘土が混じった堆積層があることから、火災と共にカマドが壊れたと推定。袖部白色粘土は、焼土と共に南西側の床面に崩れて流れ出ている。床面に堆積したカマド袖部の粘土と焼土の上に炭化材が乗っていることから、天井の柱材が崩れる前にカマドが崩落したことになり、カマドから出火した可能性がある。遺物は、小破片のほか、カマド崩落と共に流れ込んだ土師質須恵器片が出土。住居内施設 周溝は住居址北辺を除いて巡るが、南東部分は幅が広い。深さ 4~10 cm。出土遺物 器種は壺、甕、

盃、刀子。土師質の壺片はコクロ成形で 13 点出土(2,3)、そのうち内黒の壺片は 5 点で高台壺片は 1 点。土師質甕片は 11 点(4)で、斜めの叩きが脇部に確認できる個体がある。土師質甕片は 38 点で、あまり接合しない。灰釉陶器の短頸壺が 1 点(1)。刀子が 1 点(5)。床面上で炭化材が出土。炭化材は、住居全体から出土したが、特に住居中心部分と南東部分に集中が認められた。断面形が円形状の柱であり、柱の表面が調整されていたかは不明。床面に柱穴が検出できることから、住居中心部分の炭化材は、住居天井の梁柱と推定。南東部分に集中した炭化材は、この場所だけ壁際に集中していることから、住居入り口に利用した壁材か、入り口への梯子の可能性もある。

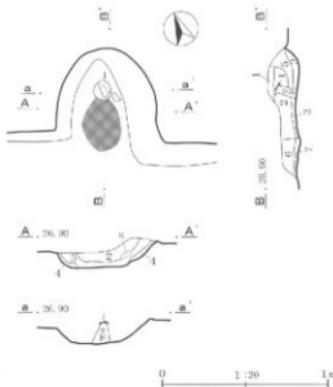
備考 火災に遭っている。北西に第14号土坑が検出されており、覆土から旋土、炭化物が上器片と共に検出されていることから、焼失した第4号住居址の遺物を第14号土坑に投棄した可能性がある。

第5号住居址（第71図、第25表、図版5、61）

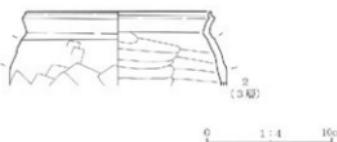
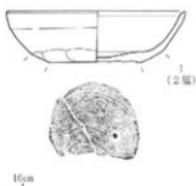
グリッド O32。西台地北側の平坦地。遺存・重複 他遺構との重複なし。北側はトレンチで一部削平されてい



第5号住居址
1. 黑褐色土 硬まり有、粘性有、ロームブロック 6mm厚盤、礫少量。
2. 増葉指印土 硬さりや有、粘性少有、ロームブロック 6mm、礫・炭化物微量。
3. 黑褐色土 硬まり有、粘性少有、ローム粒・礫微量。
4. 黑褐色土 硬まり有、粘性少有、礫微量。



第5号住居址
1. 黒褐色土 新まき有、活性高、酸熱気。
2. 黑褐色土 新まきや有、粘性や有、坂土ブロック 6mm少量、礫微量。
3. 黄褐色土 新まき有、活性低、礫微量、坂土粒・硬土ブロック少量。
4. 淡褐色土 新まき有、活性や有、礫微量。
5. 淡褐色土 新まきや有、粘性や有、活性少量。
6. 黄褐色土 新まきや有、粘性や有、コームブロック 3mm厚盤、坂土ブロック 6mm少量。
7. 黄褐色土 新まきや有、粘性や有、坂少量。



第71図 第5号住居址

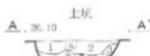
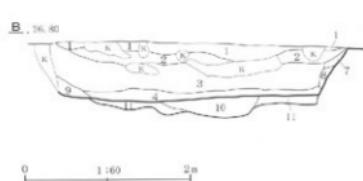
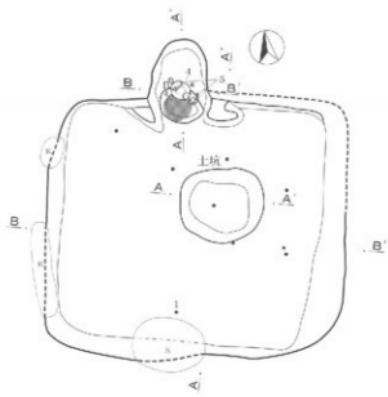
形態・規模 方形。上面径 3.13×2.80m、床面径 2.96×2.67m、最大壁高は北東壁の 25 cm。床面積約 8 m²。**主軸方位** N-23°-E。床面・掘り方 ローム面を床面とする。壁周辺を除きよく踏み固まるが、特に硬化面はない。カマド 北カマド。北壁のはば中央を、幅 68 cm、奥行き 53 cm、深さ 12 cm の半梢円形状に掘り込んで構築される。袖部は遺存しない。燃焼部は床面の外側にあり、掘り込みはほとんどない。赤化・硬化してよく使い込まれているが、焼土はそれほど多くはない、灰もほとんどみられない。燃焼部の北端に高さ 12.5 cm の円柱状の土製支脚が立ち、その上に壺片(1)が伏せ置かれていた。カマド内の遺物は少なく、壺・土師器壺片など 10 点。住居内施設 なし。出土遺物 器種は壺、土師器壺。量的に

は少ない。壺はカマド内の 1 個体(1)のほか 26 点。このうち、内黒片 2 点、高台片 1 点。土師器壺片は、1 個体(2)のほか 5 点。叩きをもつ土師質の壺片が 1 点ある。

第9号住居址

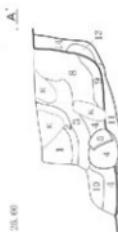
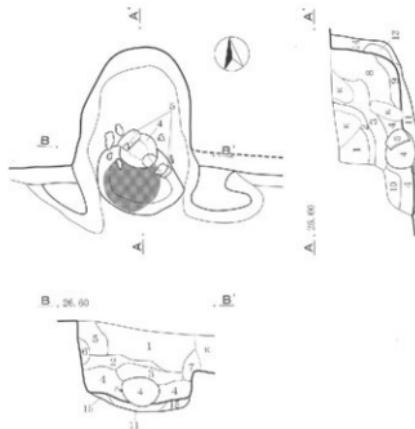
(第 72・73 図、第 26 表、図版 7, 61, 65, 66, 67)

グリッド N21。西台地南東寄りにある。遺存・重複 住居址とカマドに木棺址が入り込み、住居址の壁を一部壊している。第 6 号構造遺構を切っている。**形態・規模** 方形。上面径 3.40×3.62m、床面径 2.94×3.12m、最大壁高 65 cm、床面積 9.17 m²。**主軸方位** N-10°-E。床面・掘り方 掘り方にロームブロックを含むローム層の土を埋めて、床面を構築している。硬化面は無い。力



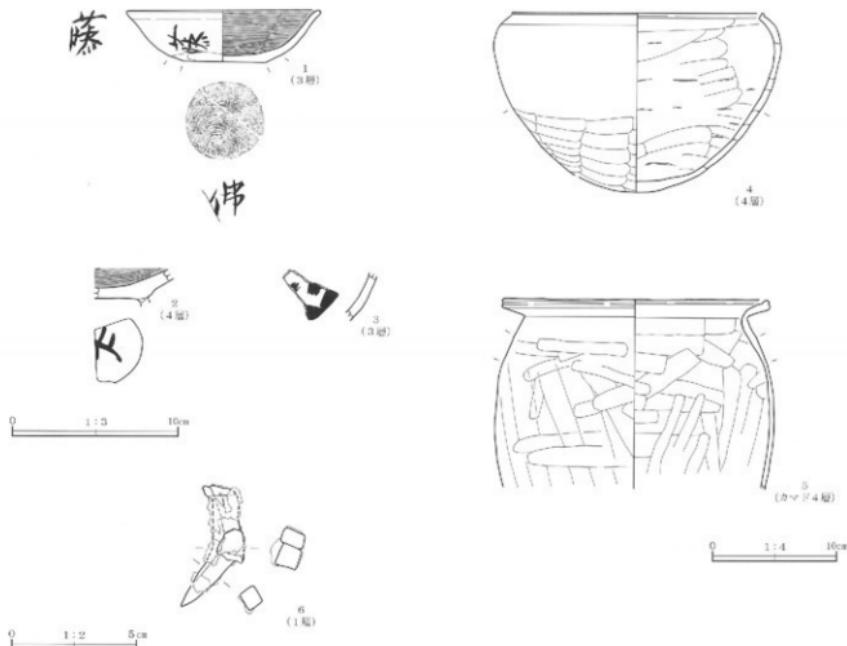
- 第9号住居址
1. 暗褐色土
2. 黄褐色土
3. 灰黄褐色土
4. 灰褐色土
5. 黄褐色土
6. 灰褐色土
7. 灰褐色土
8. 黄褐色土
9. 灰褐色土
10. 黄褐色土
11. 黄褐色土
12. 黄褐色土
13. 灰褐色土
14. 灰褐色土
15. 黄褐色土
- 堆積より有。粘性や中等。ロームブロック約3cm
等々有。植生有。ロームブロック約5cm。炭化物
等有。
堆積より有。粘性有。ロームブロック約16~
20cm。炭化物有。
堆積より有。粘性有。植生有。ロームブロック約6~
10cm等有。
堆積より有。粘性有。植生有。
堆積より有。粘性有。植生有。ローム主体。
堆積より有。粘性有。植生有。ローム主体。
堆積より有。粘性有。植生有。ロームブロック約2~3cm等有。
堆積より有。粘性有。植生有。ロームブロック約5cm等有。
堆積より有。粘性有。植生有。ローム主体。耐力有。
堆積より有。粘性有。植生有。炭化物等多。炭化物
等多。カマド残骸有。
堆積より有。粘性有。植生有。ローム主体。白色粘土。
堆積より有。粘性有。植生有。ロームブロック約1cm少有。
堆積より有。粘性有。植生有。ロームブロック約3cm微量。

- 第9号住居址 土質
1. 暗黃褐褐色土
2. 暗黃褐褐色土
3. 暗黃褐褐色土
4. 暗黃褐褐色土
5. 暗黃褐褐色土
- 堆積より有。粘性有。ロームブロック約5cm。炭化物約2~3cm微量。
堆積より有。粘性有。植物や中等。炭化物微量。
堆積より有。粘性や中等。ローム粘や多。
堆積より有。粘性有。ローム粘や多。
堆積より有。粘性や中等。植物や中等。炭化物
微量。ローム粘や多。



- 第9号住居址 カマド
1. 暗黃褐褐色土
2. 暗黃褐褐色土
3. 暗黃褐褐色土
4. 暗黃褐色土
5. 暗黃褐色土
6. 暗黃褐色土
7. 暗黃褐色土
8. 水系褐色土
9. 水系褐色土
10. 水系褐色土
11. 暗黃褐色土
12. 暗黃褐色土
13. 暗黃褐色土
14. 暗黃褐色土
15. 暗黃褐色土
- 堆積より有。粘性有。ローム粘。耐力有。
堆積より有。粘性有。ローム粘。耐力有。土灰少。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。白色粘土多量。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。白色粘土多量。白色粘土多量。耐力有。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物
微量。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物微量。耐力有。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物
微量。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物微量。耐力有。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物
微量。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物微量。耐力有。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物
微量。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物微量。耐力有。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物
微量。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物微量。耐力有。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物
微量。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物微量。耐力有。
堆積より有。粘性有。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物
微量。耐力有。土灰少。炭化物微量。炭化物微量。耐力有。

第72図 第9号住居址 (1)



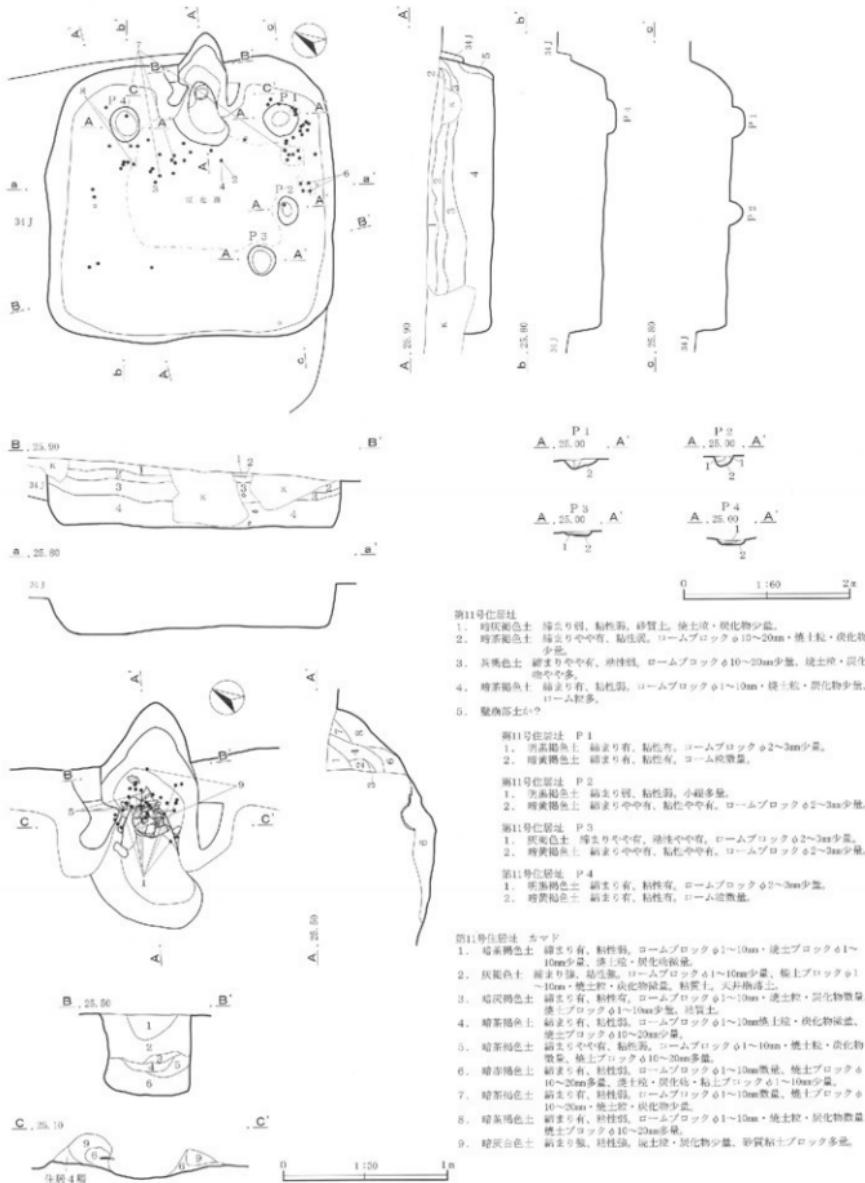
第73図 第9号住居址（2）

マド 北カマド。住居北側のほぼ中央の壁面を、幅77cm、長さ70cm、深さ51cmの半楕円形に掘り込み構築している。燃焼部はやや皿状に掘り込んでいて、硬化している。煙道部は燃焼部との段差が殆ど無く、短く急に立ち上がっている。白色粘土は、カマド堆積土に多く含まれていることから、カマド神部だけではなく、カマド天井部を作るのに利用されたと推測。カマドの壁は一部硬化し、焼土の量も多くないことから、カマドの使用期間は長くはなかった可能性がある。カマド燃焼部の上で、小破片と共に鉄鉢形土器が出土（4）。鉄鉢形土器は、火を受けておらず、口縁部を逆さにして、カマド天井部の粘土が崩落流入する前に、カマド内に投棄されている。

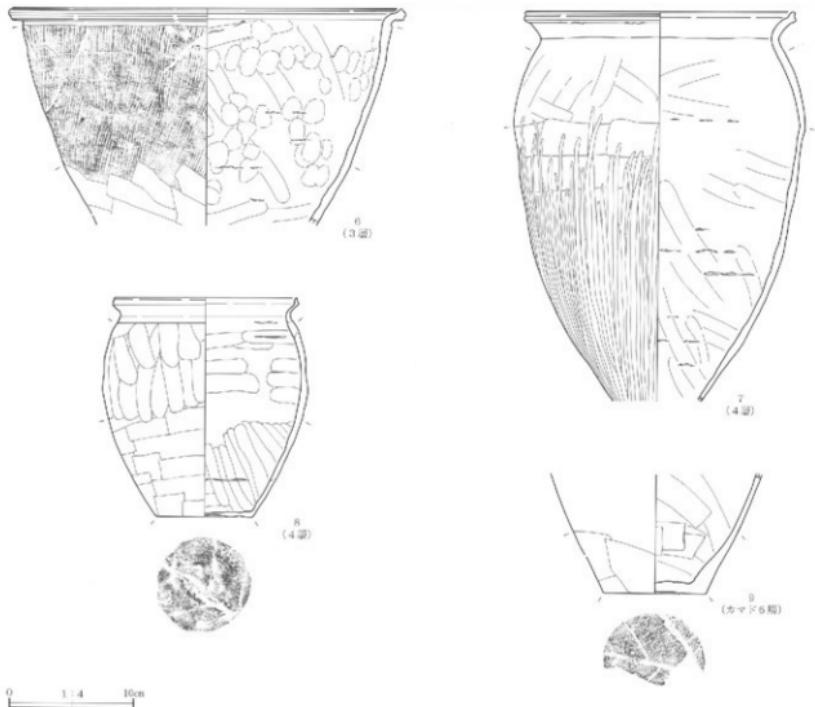
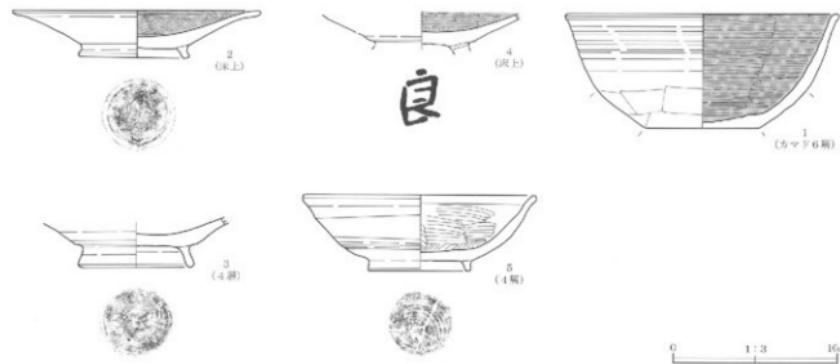
住居内施設 住居址中心部や東よりに、上面径1.02×0.92m、深さ30cmの土坑が存在する。床面上で検出しており、住居址と同時期に利用されたものか。出土遺物 器種は壺、鉢、甕、瓶、鐵器で、上師質の壺片はクロコ

形で92点出土（1、2、3、6）。内黒の壺片がこのうち54点で、高台壺片は2点。墨書片が3点含まれていて、「佛」・「藤」と読めるもの、「○太」、「寺？」と推測されるものなどがある。上師質の鉢は1点（4）で、鉄鉢形土器と思われる。土師質の甕片は54点（5）。上師質の瓶片は3点。須恵器の壺片は10点。須恵器の甕片が3点。土師器の甕片は63点（5）。不明鉄製品が1点（7）だが、鐵滓かと思われるものが他に8点出土。また、灰釉陶器と思われる小片が1点出土している。

第11号住居址（第74・75図、第27表、図版8, 61, 65）
グリッド Y29・30、Z30。東台地北東部の斜面落ち際に占地。遺存・重複 第34号住居址の約1/4を切る。住居の南西側を現代の擾乱によって崩されている。形状・規模 方形。上面径 3.48×3.36m、床面径 3.08×3.06m、床面積 9.42 m²。最大壁高 82 cm。主軸方位 N-



第74図 第11号住居址（1）



第75図 第11号住居址 (2)

17° -W. カマド 北カマド。北壁中央のやや東寄りの壁面を幅 78 cm、長さ 155 cm、深さ 63 cm の半楕円形に掘り込み、構築している。燃焼部は床面からさらに低く作られており、やや赤化・硬化したものが堆積する。袖は白色で砂混じりの粘質上で構築されている。上層の覆土には袖に用いたものと類似する粘質土が堆積するが、これは天井部に使用されたものが崩落したものと思われる。このカマドの内部からは、上師質の高台坏(5)や、上師質の鉢(1)、さらに土師器の壺(9)などが出土している。

床面・掘り方 粘り気のあるローム面を床面としており、全面よく縮まるが、特に中央部から東にかけてと、南に向かってガチガチに硬化する部分がある。住居内施設計 4 本のビットが確認された。

No	上部径 cm	底面径 cm	深さ cm
P 1	41 × 40	20 × 17	10
P 2	31 × 25	16 × 12	12
P 3	36 × 33	27 × 22	6
P 4	42 × 34	30 × 25	6

各ビットとも、底面の精査においていわゆるアタリ痕は見つかっておらず、また堆積する覆土についても住居覆土と類似するところがなく、柱穴とするにはやや弱い。出土遺物 器種は壺、皿、碗、甕、瓶。坏片はクロ成形で土師質。46 点出土(3, 4, 5)。このうち内黒の坏片は 26 点で高台坏片は 4 点。墨書き上器は 1 点(4)で「良」と表記する。土師質壺片は 63 点(6)。土師器甕片は 34 点(7, 8, 9)。須恵器甕片は 2 点。須恵器坏片は 5 点。灰釉陶器の破片数は 1 点のみで小片。

第 12 号住居址 (第 76・77 図、第 28 表、図版 8)

グリッド X・Y28, 29. 東台地北東部、第 11 号住居址の南西、調査区東端の緩やかな斜面に占地。遺存・重複 第 14 号住居址の北側を切る。南側と東側に切り株が入り、特に東側はカマド直上に位置するため遺存は悪い。

形状・規模 方形。上面径 4.08 × 4.20 m、床面径 3.78 × 3.84 m、床面積 14.5 m²。最大壁高 40 cm。主軸方位 N-67° -W. カマド 東カマド。幅 98 cm、長さ 120 cm、深さ 15 cm の半楕円形。切り株によってほとんど壊されていて、調査時も、掘り進めるのが困難なほど。それでも、支脚の名残りらしき赤化した砂岩がばらばら

になって出土し、焼土散布面を確認する事はできた。

床面・掘り方 ローム面を床面としており、全体によくしまる。特に 1 号かから南西コーナー、P2 の北側、P1 の西側などガチガチに硬化する。また住居北部中央付近では、焼上がり多量に分布し、一部赤化するが硬化はしない。床面上からは碎けた筑波石が広い範囲で検出されており特に大きなものは住居南西側に分布するようである。

炉 1 号かは幅 50 cm、長さ 54 cm、深さ 5 cm の楕円形で堆積した覆土には焼土ブロックが多量に混じる。燃焼部は皿状を呈しており赤化・硬化してガチガチ。遺物は出土していない。2 号炉は幅 59 cm、長さ 73 cm、深さ 20 cm の楕円形で、燃焼部は皿状を呈して赤化・硬化していてガチガチ。堆積した覆土には焼土ブロックと炭化物が多量に混じる。遺物は上層から土師器甕の胴部小片が 1 点出土している。住居内施設 計 3 本のビットが確認された。

No	上部径 cm	底面径 cm	深さ cm
P 1	103 × 60	91 × 36	23
P 2	56 × 42	38 × 36	9
P 3	84 × 59	65 × 42	37

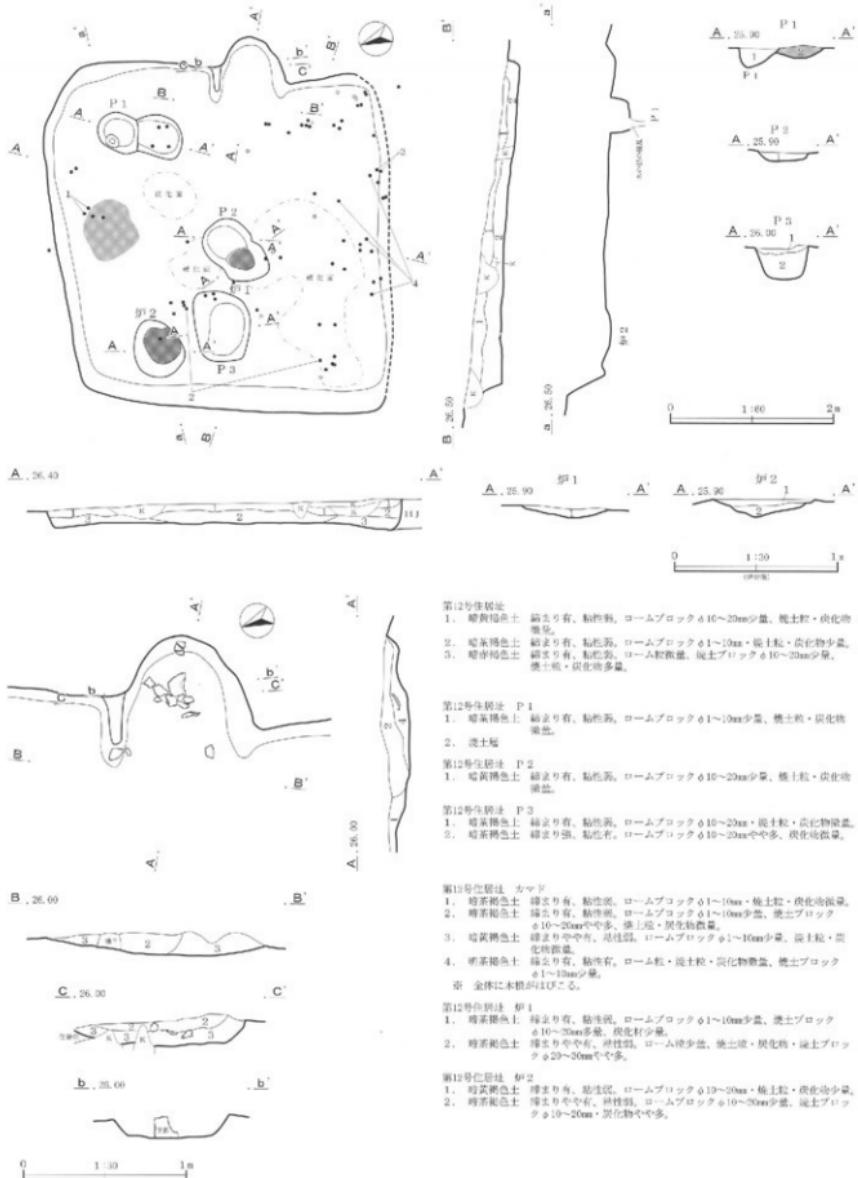
P1, P2 については堆積した覆土の内容物、形状の同一性から、住居に伴うものと考えられる。P3 については形状・土質の違いから P1, P2 とは性格の違う遺構と思われるが確実なことはわかっていない。

出土遺物 器種は、壺、皿、碗、甕、瓶、灰釉陶器片。坏片はクロ成形の土師質であり、坏片数 80 点(1, 2, 3)。内面黒色処理をした破片は全部で 31 点。この中で、内黒の高台坏片は覆土中出土の 3 点。須恵器甕片は 8 点。叩き口を持つ土師質の甕片は 5 点。土師器甕片は 272 点あるが、接合するものは少ない。灰釉陶器片は小片ばかり 3 点。

第 15 号住居址 (第 78・79 図、第 29 表、図版 9, 61, 66)

グリッド W28. 東台地北部中央よりやや東、第 19 号住居址の南東、第 18 号住居址の南に占地。遺存・重複 他遺構との切り合いはない。住居北西から南西にかけての壁に切り株の根があり込み壊されてはいるが、概ね良好な状態である。

形状・規模 上面径 3.68 × 3.56 m、床面積約 8.76 m²。



第12号住居址

1. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm少量、焼土粒・炭化物無。
2. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm少量、燒土粒・炭化物少量。
3. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm少量、燒土粒・炭化物多量。

第12号住居址 P1

1. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm少量、燒土粒・炭化物無。
2. 混土層

第12号住居址 P2

1. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm少量、燒土粒・炭化物無。

第12号住居址 P3

1. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm少量、燒土粒・炭化物微量。
2. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mmや多、燒土粒・炭化物微量。

第12号住居址 ガマゾ

1. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm、燒土粒・炭化物微量。
2. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm少量、燒土ブロック ϕ 10~20mmや多、燒土層・炭化物微量。
3. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm少量、燒土粒・炭化物微量。
4. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ローム粒・泥土粒・炭化物微量、燒土ブロック ϕ 1~10mm少量。

※ 全体に木板が付着する。

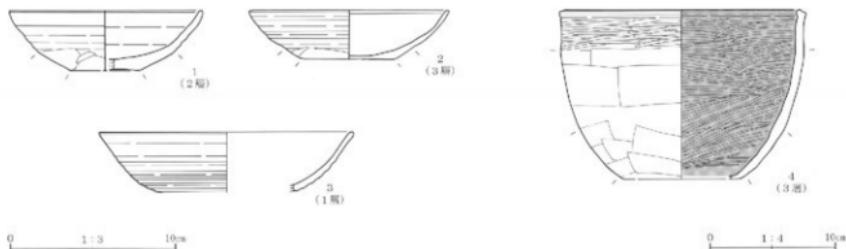
第12号住居址 P1'

1. 塚崎褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm少量、燒土粒・炭化物微量。
2. 燃灰褐色土 細粒より今や有、粘性弱。ローム焼少量、燒土層・炭化物、泥土ブロック ϕ 20~30mmや多。

第12号住居址 P2'

1. 可塑性褐色土 細粒より有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm、燒土粒・炭化物少量。
2. 燃灰褐色土 細粒より今や有、粘性弱。ローム焼少量、燒土層・炭化物、泥土ブロック ϕ 10~20mm、炭化物や多。

第76図 第12号住居址 (1)



第77図 第12号住居址（2）

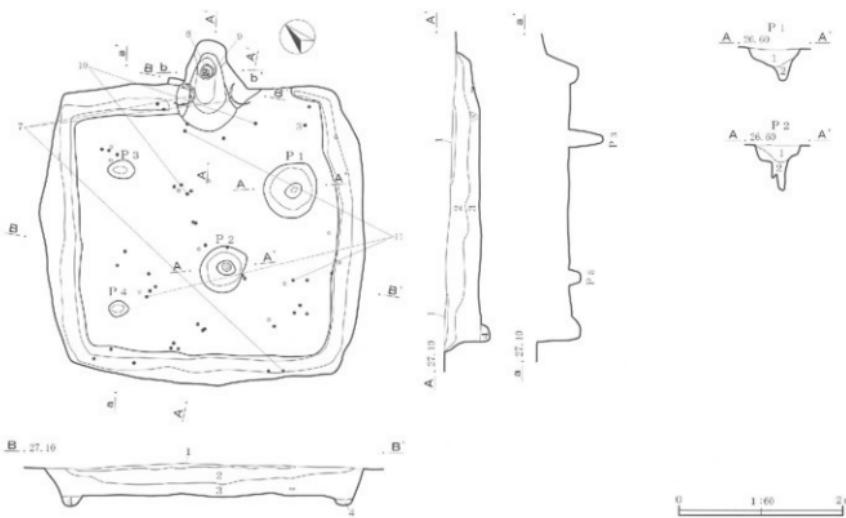
主軸方位 N-45°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、全体に良く縮まる。特にカマド前から住居中央にかけてと、P1、P2の南側などはガチガチに硬化する。また、住居の壁際よりも中央に行くほど盛り上がるような造りになっている。カマド 北カマド。住居外北東方向に、幅 55 cm、長さ 55 cm、深さ 32 cm の半楕円形に掘り込まれている。燃焼部は床面より 5 cm ほど低く、赤化はするがそれほど硬化しない。中央に土壺器の小型甕（9）を伏せて置き、上に高台坏（6）を逆さまに被せ、さらに土壺器甕の胴部片を乗せて支脚としていたようである。この小型甕の直下には、支脚を配置するために施したと思われる掘り込みが確認できる。煙道部と左右の壁面はガチガチに赤化・硬化している。袖部は土壺器甕（7）をほぼ半蔵し、倒立させて埋め込み、構築している。第2層に入る砂混じりの粘土ブロックや、第3層の多量の焼土ブロックは天井構築材の崩落土か。また、燃焼部直上に堆積する第4層には多量の焼土粒・焼土ブロックとともに少量の灰が混ざる。住居内施設 ピット 4 本が検出されている。

No.	上面径 cm	底面径 cm	深さ cm
P 1	62×66	8×5	38
P 2	62×57	5×3	54
P 3	33×22	17×8	40
P 4	23×18	15×9	12

全てのピットに堆積した覆土はいずれも、住居覆土第3層と類似の土層で、住居に伴うものと考えられる。周溝は幅 12~22 cm、深さ 11 cm。カマド部分を除きほぼ全周する。出土遺物 器種は坏、椀、蓋、甕、瓶。坏片

はクロ成形の土師質で 82 点（1、2、3、4、6）。そのうち内黒で高台坏片は 4 点。墨書き器片が 1 点出土している（4）が小片の為、文字は不明。土師質椀片 1 点（5）、土師質甕片 15 点。土師質瓶片 4 点（11）。土師器蓋片は 245 点（7、9、10）。須恵器坏片 1 点。須恵器蓋片 2 点。須恵器甕片 3 点。灰釉陶器瓶片 5 点。

第17号住居址（第80・81図、第30表、図版17, 61, 62, 65）
グリッド V・W27。東台地のほぼ中央、比較的平坦な場所に占地。遺存・重複 住居東側中央付近を第152土坑によって切られる。また、全ての方向に切り株の根があり込み、壁や床面に影響を与える。あまり良好な状態ではない。
形状・規模 方形。上面径 2.81×2.91m、床面径 2.74×2.57m、床面積 7.04 m²、最大壁高 30 cm。
主軸方位 N-45°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としていて良く縮まる。特にカマド前から南壁までの住居中央付近はガチガチに硬化している。南西側の床面は根があり込んだ影響でやや荒れている。カマド 北カマド。北壁の中央よりやや東の住居外に向かって、幅 42 cm、長さ 78 cm、深さ 40 cm の半楕円形に掘り込んで造られており、煙道部先端はやや西側に傾く。燃焼部は床面よりも低く皿状に掘り込まれていて、赤化はするが硬化はしない。煙道部は燃焼部よりも硬はするが赤化はしていない。左右の壁面は強く被熱していて赤化・硬化の為ボロボロ。袖部は砂混じりの白色粘土で構築されており、その両脇に棚状に残存する同様の白色粘土の堆積は、袖が壊れる段階で漏出したものの堆積かと推測される。また、カマド第2層、第4b層に混じる粘土ブロックは赤化しており、天井部の崩落土である可能性も考えられる。



第15号住居址

1. 砂灰褐色土 破まり弱、粘性弱。砂質土。板上端、炭化物微量。
2. 黒褐色土 破えりやや有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm・焼土粒、炭化物少量。
3. 砂茶褐色土 破まり有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm・焼土粒、炭化物少量。
4. 茶褐色土 破まり有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm多量、板上端、炭化物微量。陶器。

第15号住居址 P1

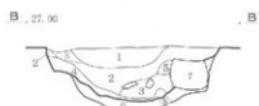
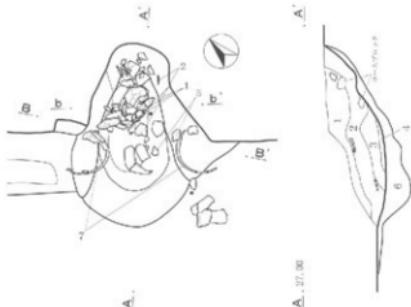
1. 砂茶褐色土 破えりやや有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm・焼土粒、炭化物微量。
2. 砂茶褐色土 破えり有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm少量、板上端微量。

第15号住居址 P2

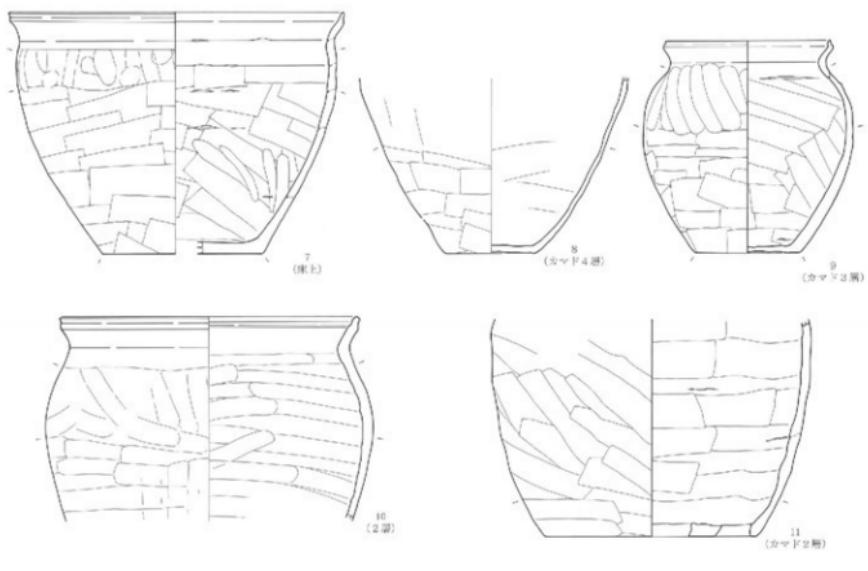
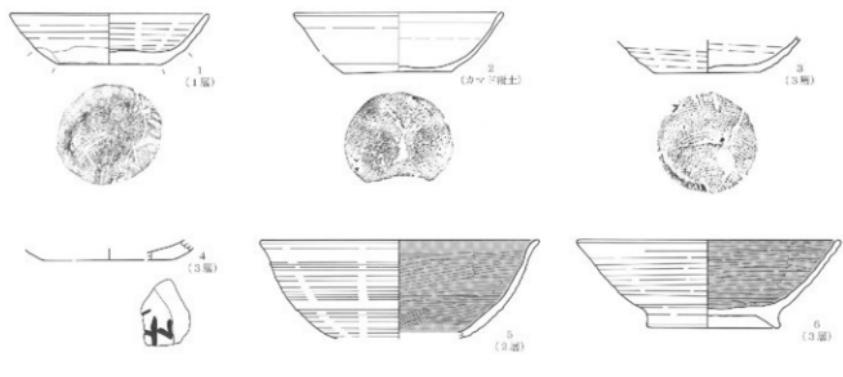
1. 砂茶褐色土 破えりやや有、粘性弱。ロームブロック ϕ 1~10mm・焼土粒、炭化物微量。
2. 砂茶褐色土 破えりやや有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm少量、板上端、炭化物微量。

第15号住居址 分A

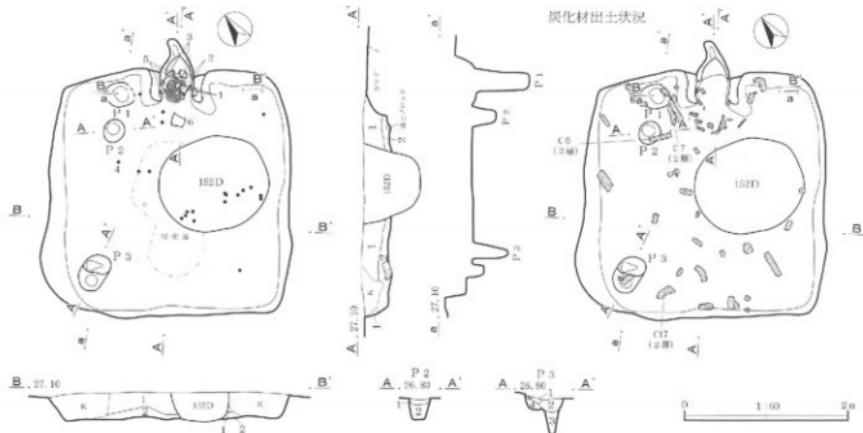
1. 砂茶褐色土 破えり有、粘性弱。砂質土。ロームブロック ϕ 1~10mm微量、板上端・炭化物少量。
2. 砂茶褐色土 破えり有、粘性弱。ロームブロック ϕ 10~20mm・焼土粒、炭化物・焼土ブロック少量。
3. 焙燒土 破えり有、砂生有。ロームブロック ϕ 1~10mm微量、板上端・炭化物 ϕ 10~20mmや多、焼土粒・炭化物少量。
4. 砂茶褐色土 破えり有、砂生やや有。ロームブロック ϕ 1~10mm微量、焼土粒・炭化物 ϕ 10~20mm少量、焼土粒・炭化物少量、BC。
5. 茶褐色土 破えり有、砂生有。ローム砂・ロームブロック ϕ 10~20mm少量、焼土粒・炭化物微量。陶器等。
6. 砂茶褐色土 破えり強、砂生有。ローム砂・ロームブロック ϕ 20~30mm多量、陶器。



第78図 第15号住居址 (1)



第79図 第15号住居址 (2)



第17号住居址

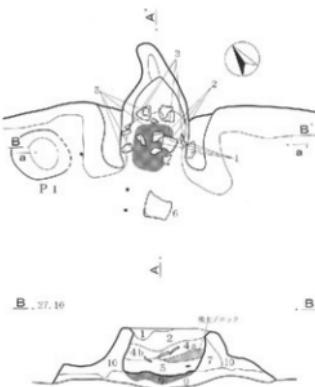
1. 緑褐色土 塵まり有、粘性有。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 、焼土塊、炭化物少量。切り株による堆積を受ける。
2. 緑系褐色土 塵込りや有、粘性有。コームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、焼土ブロック $\phi 10\sim20mm$ 、炭化材、炭化粘土ブロック多量。

第17号住居址 P 2

1. 黄褐色土 新まり強、粘性有。ローム粒多量、焼土粒微量、炭化物や多量、炭化物や多量。
2. 緑褐色土 新まり弱、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、焼土粒微量、炭化物や多量。

第17号住居址 P 3

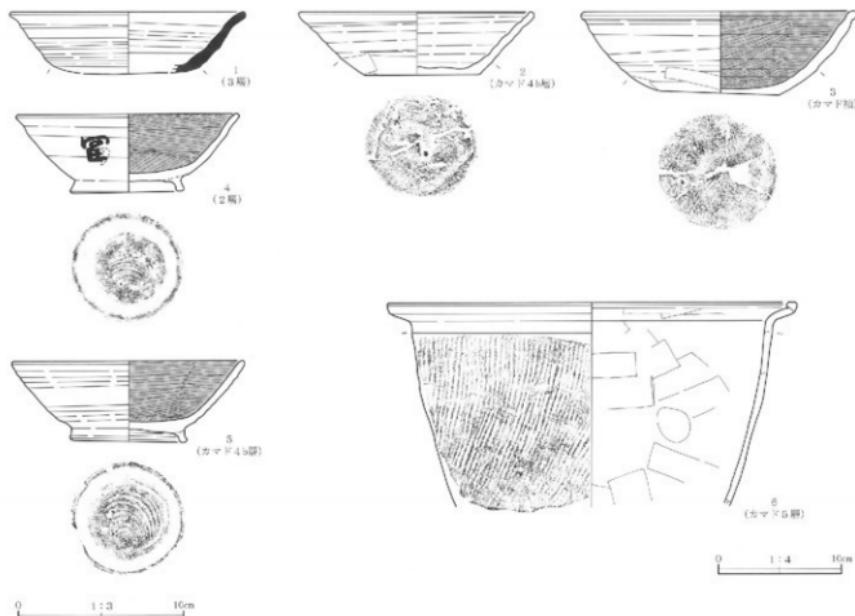
1. 緑褐色土 塵りや有、粘性や有。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 、焼土塊、炭化物多量、炭化物少量。
2. 緑褐色土 塘まり有、粘性有。コームブロック $\phi 10\sim20mm$ や多量、焼土上部、炭化物少量。
3. 緑系褐色土 塘まり有、粘性弱。コームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、焼土塊、炭化物微量。
4. 黄褐色土 上 新まり有、粘性有。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、ローム粒多量、炭化物微量。



第17号住居址 カマド

1. 黄褐色土 塘まり有、粘性有。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、焼土粒、炭化物微量。
1a. 緑褐色土 塘まり有、粘性有。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 微量、焼土ブロック $\phi 1\sim10mm$ 少量、焼土塊少量。
2. 緑褐色土 塘まり有、粘性有。コームブロック $\phi 10\sim20mm$ 、炭化材、焼土ブロック $\phi 10\sim20mm$ や少量、焼土上部。
3. 焼土色土 塗まりやや有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 、焼土塊。
4. 緑褐色土 塗まりやや有、粘性弱。コームブロック $\phi 1\sim10mm$ 多量、炭化物微量。
4b. 緑褐色土 塗まりやや有、粘性弱。ローム粒、炭化粘土ブロック少量、焼土塊、炭化物微量、炭化物微量。
5a. 緑褐色土 塗まりやや有、粘性弱。ローム粒、焼土塊、炭化物微量。
5b. 緑褐色土 塗まりやや有、粘性弱。ローム粒、焼土塊、炭化物微量。
6. 緑褐色土 塗まりやや有、粘性弱。ローム粒微量、焼土ブロック $\phi 1\sim10mm$ や多量、焼土塊。
7. 緑褐色土 塗まり有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10mm$ 微量、焼土粒や少量。
8. 緑褐色土 塗まり有、粘性弱。コームブロック $\phi 1\sim10mm$ 微量、焼土ブロック $\phi 10\sim20mm$ や少量、焼土塊少量。
9. 緑褐色土 塗まり有、粘性有。ロームブロック $\phi 10\sim20mm$ や多量、焼土粒、炭化物微量。砾々方。
10. 緑褐色土 塗まり有、粘性弱。砂質粘土。コーム粒微量、焼土ブロック $\phi 10\sim20mm$ 、焼土ブロック多量。カマド有。

第80図 第17号住居址（1）



第81図 第17号住居址（2）

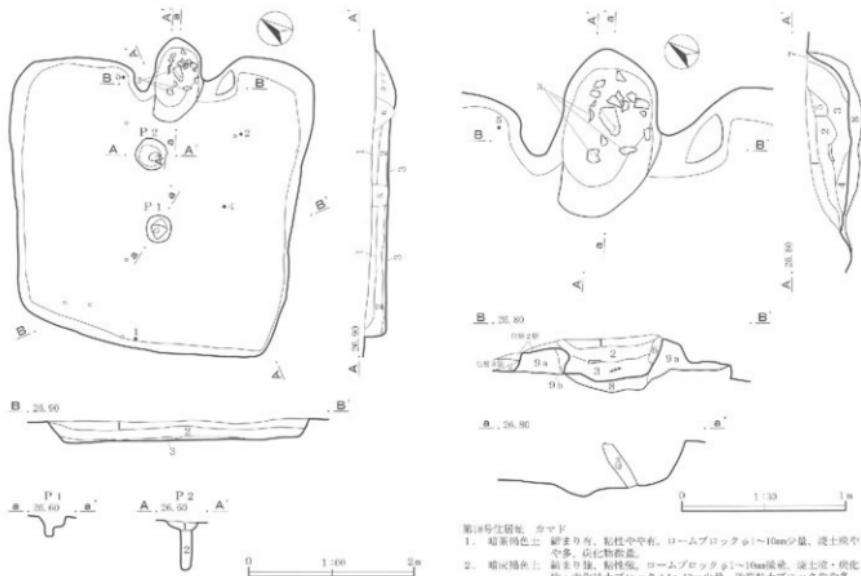
燃焼部直上の第5層には多少ではあるが灰も混じるようだ。両袖の先端部にはそれぞれ壊の破片（3、5）が埋め込まれていた。住居内施設 P1は上面径27×29cm、底面径24×15cm、深さ68cm。P2は上面径28×26cm、底面径14×15cm、深さ24cm。P3は上面径47×31cm、底面径19×9cm、深さ43cm。ピットの覆土は色調や縮まり、粘性にバラつきはあるが、住居覆土と混入物がほぼ類似するため、住居に伴うものと考える。出土遺物 器種は壊、甕。土師質壊片24点でそのうち、内面黒色処理の破片は11点。高台甕片（4、5）、無台（1、2、3）がある。墨書き器が出土しており、「富」と読める。土師質の甕片9点（6）で叩き目を持つ。須恵器の甕片3点。土師器の甕片は28点。そのほかにカマド左袖部西側から丸みをおびた石が出土。表面を加工したのか、かなり滑らか。石材は玉髓と思われる。また、床面近くからは比較的大きな炭化材が検出され、その直上には、赤化した粘土ブロックが多量に確認されている。炭化材は、カマド内部や

住居全体に広く分布するが、北西側・南東側に特に多く見られる。このうち、取り上げNo.6、7、17は分析資料とした。

備考 狹住居。

第18号住居址（第82図、第31表、図版10, 62, 67）

グリッド W29・30。東台地北部中央のやや平坦地に占地。遺存・重複 他遺構との切り合い関係はない。現代の搅乱が住居南側を削平。さらに住居西側から南側にかけて4本の切り株が立ち並び、根があり込んだ影響で一部搅乱されている。**形状・規模** 方形。上面径3.40×3.40m、床面径3.18×3.14m、最大壁高25cm。床面積約9.99m²。**主軸方位** N-45°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としている。カマド前面から住居中央まで、まばらに硬化し、堅際に行くほど縮まりがなくなる。カマド北カマド。住居北壁の中央やや東寄りに、幅58cm、長さ84cm、深さ50cmの半楕円形に掘り込み構築する。左右



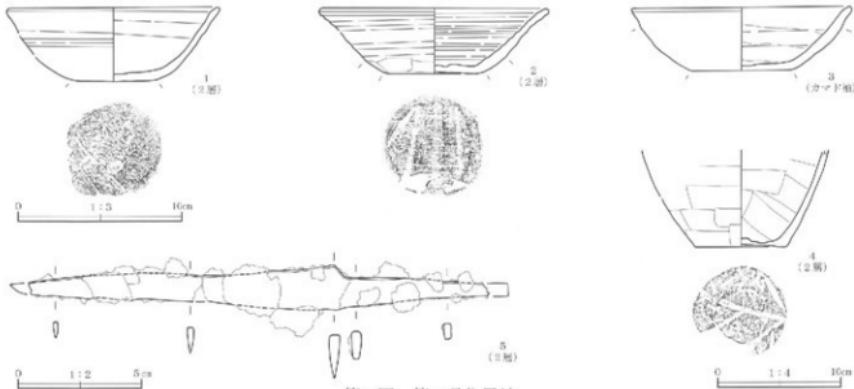
第18号住居址

- 暗黄褐色土 硬より有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ 少量、炭土粒・炭化物微量。
- 暗茶褐色土 硬より有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ 、炭土粒・炭化物少量。
- 黄褐色土 硬より強、粘性やや有。ロームブロック $\phi 20\sim30\text{cm}$ 少量。ローム粒多量。

第18号住居址 P2

- 暗茶褐色土 硬より有、粘性弱。ロームブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ 少量、炭土粒・炭化物微量。
- 暗茶褐色土 硬より弱、粘性弱。ロームブロック $\phi 10\sim20\text{cm}$ 多量。

- 第18号住居址 カド
- 暗茶褐色土 硬より有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ 少量、炭土粒や砂粒多量、炭化物微量。
 - 暗灰褐色土 硬より強、粘性強。ロームブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ 少量、炭土粒ブロックやや多量。
 - 赤褐色土 硬より強、粘性有。ローム粒微量、炭土粒ブロック $\phi 10\sim20\text{cm}$ 多量、炭化物少量。
 - 暗赤褐色土 硬より有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ や多量。
 - 明灰褐色土 硬より強、粘性有。粘性上、ロームブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ 、炭土粒・砂粒微量。
 - 茶褐色土 硬より有、粘性有。ローム粒、炭土粒・炭化物微量。粘土粒ブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ 少量。カド付植葉材。
 - 暗茶褐色土 硬より有、粘性やや有。ロームブロック $\phi 1\sim10\text{cm}$ 、炭土粒・炭化物微量。
 - 黄褐色土 硬より弱、粘性有。ロームブロック $\phi 10\sim20\text{cm}$ 、炭土粒ブロック $\phi 10\sim20\text{cm}$ 多量、炭化物微量。
 - 灰白色土 硬より弱、粘性弱。砂質粘土ブロック多量。ガマズ味。
 - 暗赤褐色土 硬より強、粘性やや有。B'a層が被熱変化したもの。



第82図 第18号住居址

の袖部には砂泥じりの粘土を貼り付けていて、右側の袖に関しては東側に一部崩壊・流出している形跡がある。燃焼部は皿状の掘り込みで、赤化はしないがやや硬化している。この燃焼部中央には板状に加工したと思われる筑波石が直立した状態で検出されており、支脚として利用されたのではないかと想われる。左右の壁面は多少赤化するが、それほど硬化はしていない。住居内施設 P1 は上面径 30×32 cm、底面径 6×6 cm、深さ 21 cm、P2 は上面径 40×36 cm、底面径 6×4 cm、深さ 58 cm。P2 はかなりしっかりと掘り込まれており、柱穴と考えてもよいと思われる。出土遺物 器種は壺、甕、灰釉陶器、刀子。壺片はクロコ成形の七師質で、30 点出土（1、2、3）。このうち、内面黒色処理を施したもの 8 点。その中で高台壺片は 1 点。第 2 層から出土した壺の底部片が、第 19 号住居址の第 3 層から出土した底部片と接合。側部に焼き目を持つ土師質の甕片は 8 点。上師器の甕片は 18 点（4）。須恵器の甕と思われる小片が 2 点。灰釉陶器の小片が 2 点。刀子 1 点（5）。

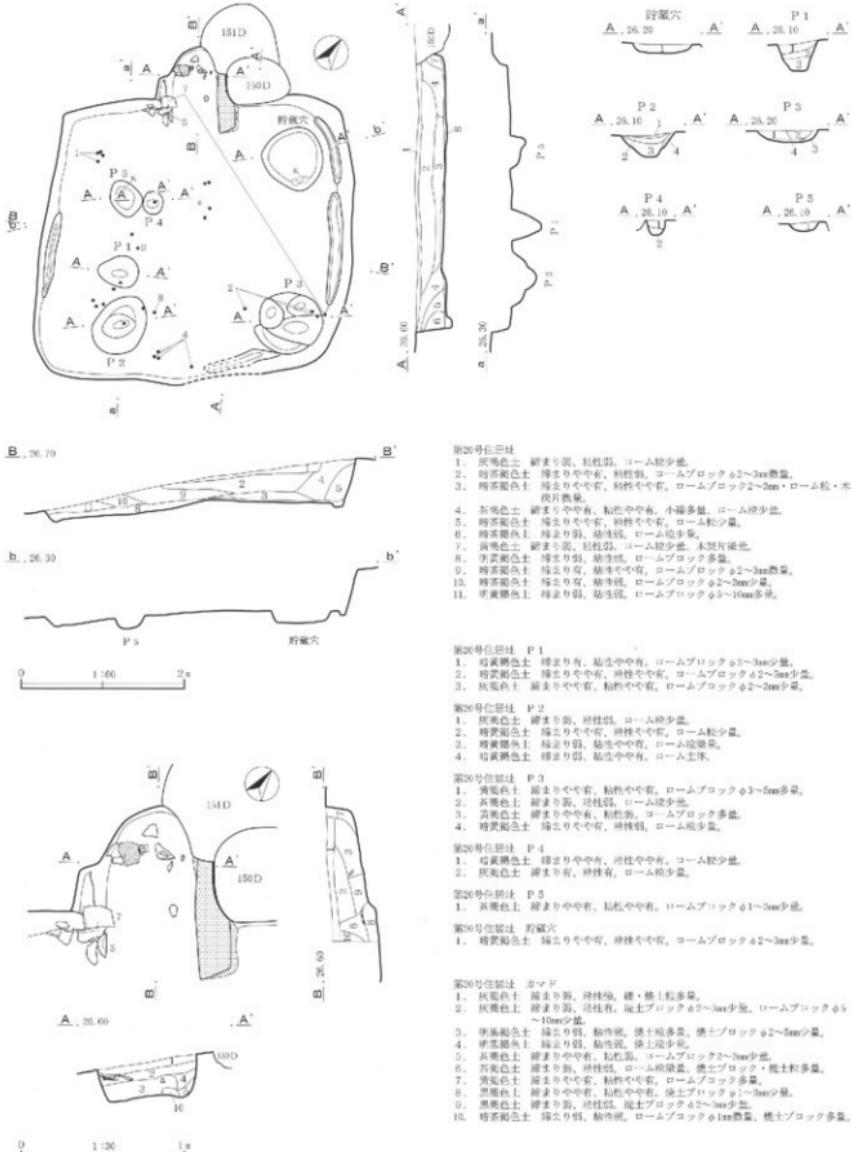
第 20 号住居址（第 83・84 図、第 32 表、図版 11, 62, 66, 67）
グリッド G27。 東台地北部西側傾斜地に位置する。
遺存・重複 住居北壁中央部とカマドが第 150 号・151 号土坑に切られ、住居南壁中央部は第 199 号土坑を切っている。第 199 号土坑の方が住居よりも古いが同時に掘り進めたため壁の一部を壊してしまった。台地傾斜部付近に位置するため住居西半分は床面・壁ともに明瞭なもののはなかった。
形状・規模 方形。上面径 3.45×3.76 m、床面径 3.0×3.4 m、最大壁高は東壁にあり 0.57 m、床面積約 10.2 m²。
主軸方位 N-35°-W。
床面・掘り方 ローム面を床面とする。住居東半分は踏み固まっているが、西半分は台地傾斜の影響により低くなっている。カマド 北カマド。北壁中央部にあり幅約 1.0 m、長さ 0.63 m、深さ 0.42 m の梢円形に掘り込んで構築されている。左右袖部には灰白色の粘土があるためカマド本体も同様の粘土で構築されたと考えられる。左袖部には高さ約 20 cm の段状部があるが、これをカマド袖部の基礎部分としていて、右袖も同様の構造と考えられる。燃焼部については、掘り込みも硬化した燃焼面も確認できず、カマド中央部では焼土ブロックや焼土を確認できなかつたが明瞭な範囲は確認できず、灰の分布も確認できなかつた。

カマド内からは十師器甕 11 点、上師質須恵器片 1 点（4）、甕片 28 点、壺片 8 点、甕 3 点が出土し、7 もカマドから出土している。住居内施設 北東隅に上面径 77×73 cm、底面径 60×60 cm、深さ約 16 cm の深い貯蔵穴が検出された。ローム層主体の覆土で根穴が 2 本からんでいる。出土遺物はない。ピットは計 5 本検出された。P2 の覆土から十師器甕 2 片が出土した。P3 の覆土からは上師質の壺片が 1 点、甕片が 1 点、須恵器甕片が 1 点出土した。覆土は貯蔵穴と同様の上であった。

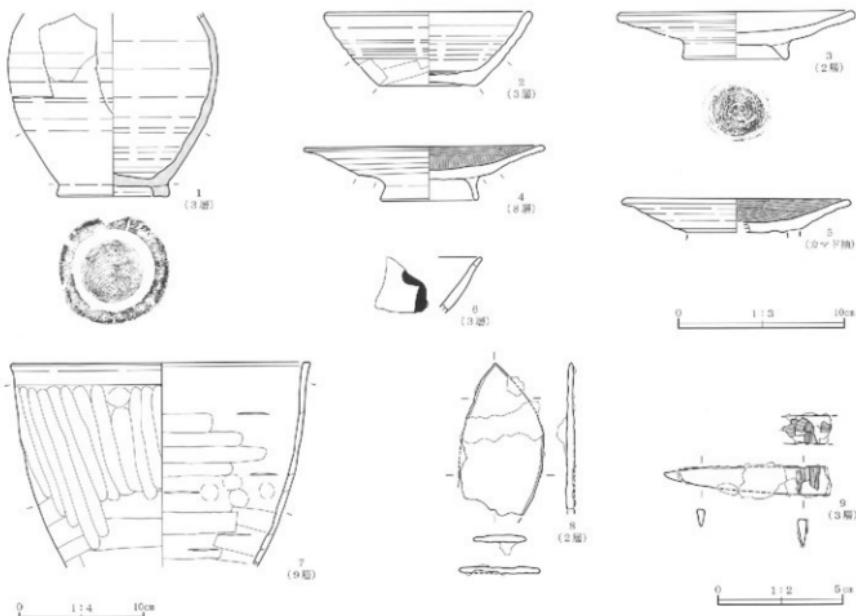
No.	上面径 cm	底面径 cm	深さ cm
P 1	45×50	7×18	35
P 2	70×67	10×20	29
P 3	74×80	15×32	28
P 4	27×24	9×15	22
P 5	45×38	28×22	12

出土位置やピットの形状から住居の主柱穴と考えられるものはなかった。周溝は住居を全周せず断続的に確認することができる。断面形は U 字形で深さは 3~10 cm を測る。
出土遺物 カマド・ピット以外に住居内から上師質須恵器の皿が 3 個（3・4・5）、壺 1 個（2）、灰釉陶器の長頸壺が 1 個（1）出土した。その他に十師質の皿・壺片が 144 点、甕片 54 点、須恵器の壺片 6 点、甕片 8 点、その他の不明小片が 6 点、土師器甕片が 203 点、灰釉陶器片が 4 点、鉄製品 2 点（2・9）が出土した。鉄製品は刀子と不明鉄製品である。土師質の壺で墨書きが出土している（6）が、文字判読不能である。

第 23 号住居址（第 85・86 図、第 33 表、図版 11, 62, 63）
グリッド V25。 東台地南縁斜面に位置する。
遺存・重複 住居東壁一部を第 167 号土坑により損なわれ、後世の搅乱によって住居西壁が切られている。
形状・規模 方形。上面径は推定 4.55×3.69 m、床面は南北径 4.35 m、北壁 2.72 m、南壁 3.74 m、最大壁高は南東壁で 64 cm。
主軸方位 N-9°-W。
床面・掘り方 ローム面を床面としており、南東隅・西壁を除いて床面全体が踏み固められている。特に床中央部が他の部分に比べて強く硬化し、その部分に焼上が集中的に分布している。
カマド 北カマド。住居北壁中央部付近を幅 1.37 m、長さ 0.65 m、深さ約 0.40 m の半梢円形に掘り込んで構築



第83図 第20号住居址（1）

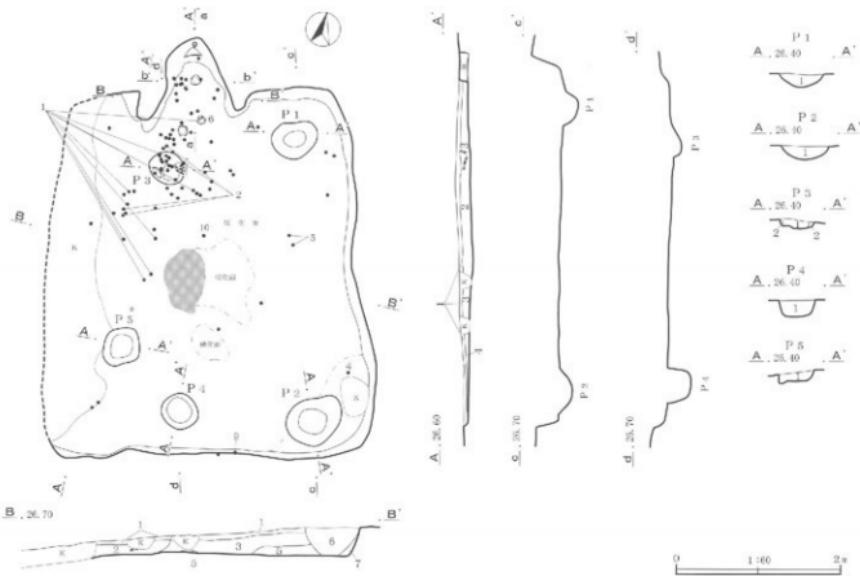


第84図 第20号住居址（2）

する。やや小規模な煙道があり、カマドの両側には粘土を構成材とした造り出しの袖が残存する。明確な燃焼部は確認されていない。しかし、燃焼部とおぼしき皿状の掘り込み部には、上面径7×6cm、下面径14×10cm、高さ19cmの石製の支脚が存在し、被熱のためボロボロに崩壊している。石材は不明である。他の住居のように支脚に土器が伏せ置かれてはいなかった。支脚が確認された層からは焼土粒・炭化材が多量に検出されている。カマド内部からは土師器壺片72点、土師質の皿片4点、壺片20点、甕片18点、不明1片、須恵器甕片6点、器種不明須恵器片1点、灰釉陶器瓶3点、水瓶1点、鉄製品1点、不明土製品2点が出土した。また、6、8もカマド出土遺物である。住居内施設 ピットが計5本検出された。P1の覆土中から土師質の壺片2点が出土した。

No.	上面径cm	底面径cm	深さcm
P 1	45×55	20×25	15
P 2	60×67	31×34	17
P 3	41×41	19×17	15
P 4	45×44	30×30	28
P 5	45×43	28×26	22

P2の覆土中から土師質の壺片1点が出土する。P5の覆土中から土師質の壺片2点、器種不明須恵器片が1点出土している。検出位置から主柱穴と断定できるものはないが、P1・P2は貯藏穴の可能性が考えられる。
出土遺物 カマドやピット以外に住居内から土師質の壺9個体（3・5・7・9・11・12含む）、鉢1個体、甕1個体、甕3個体（2含む）、灰釉陶器の長頸壺1個体（1）、水瓶1個体、土師器甕2個体が出土した。その他にも土師質の壺片82点、皿片5点、土師質の甕片17点、甕片2点、須恵器の甕片14点、その他の須恵器片2点、灰釉陶器



第23号住居址

1. 黒褐色土上 細まりや有、粘性弱、ローム混微量。
2. 黒褐色土 細まりやや有、発生やや有、焼土ブロック $\phi 2\sim3$ m・木炭片微量。
3. 時計柄色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック $\phi 2\sim3$ m少量。
4. 黒褐色土 細まりやや有、発生弱、ローム微量。
5. 緑黒褐色土 細まりやや有、発生弱、ロームブロック $\phi 2\sim3$ m微量、焼土ブロック $\phi 2\sim3$ m少量。
6. 緑茶褐色土 細まり弱、粘性弱、ローム塊 $\phi 2\sim3$ m微量。
7. 黄褐色土 細まり弱、粘性弱、ロームブロック少量。

第23号住居址 P 1

1. 緑茶褐色土 上 細まりやや有、粘性やや有、焼土粒微量、ロームブロック $\phi 8$ m少量。

第23号住居址 P 2

1. 緑茶褐色土 上 細まりやや有、粘性やや有、ロームブロック $\phi 5$ m少量。

第23号住居址 P 3

1. 明黄褐色土 細まりやや有、粘性弱、焼土粒・焼土ブロック多量、灰化物少。
2. 緑茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック少量。

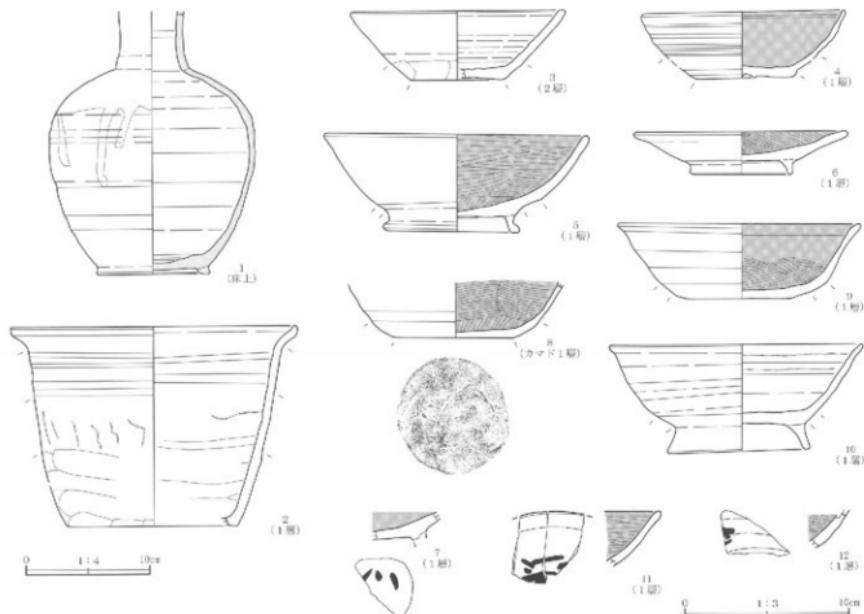
第23号住居址 P 4・5

1. 緑茶褐色土 上 細まりやや有、粘性やや有、ロームブロック $\phi 5$ m少量。

第23号住居址 分マド

1. 緑茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、焼土ブロック $\phi 2\sim5$ m少量・ロームブロック $\phi 4$ m少量。
2. 黒褐色土 細まりやや有、粘性やや有、ロームブロック $\phi 2\sim3$ m少量、焼土ブロック $\phi 2\sim3$ m少量。
3. 緑茶褐色土 細まりやや有、粘性やや有、燒土粒・木炭片多量。
4. 黑褐色土 上 細まりやや有、粘性やや有、ロームブロック $\phi 1\sim3$ m・礫少量。
5. 淡褐色土 細まりやや有、粘性弱、焼土粒多量。

第85図 第23号住居址 (1)



第86図 第23号住居址（2）

片3点、土師器壺片164点が出土している。

第25号住居址（第87図、第34表、図版12,63）

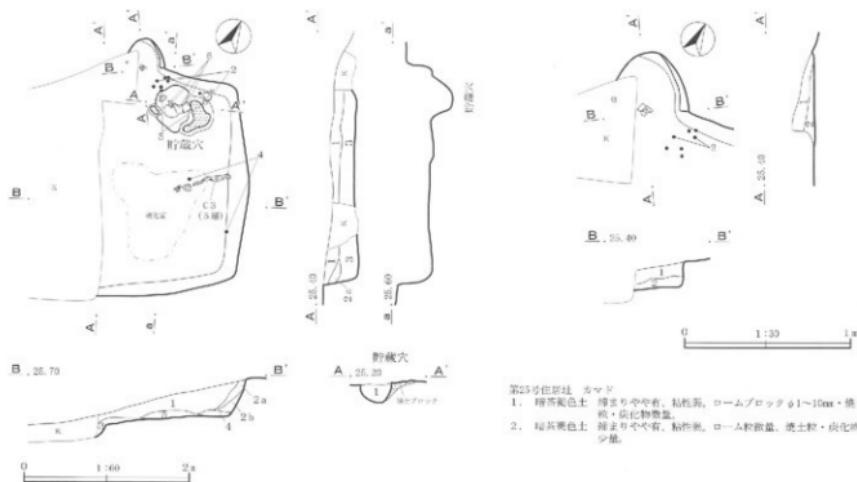
グリッド U27・28、東台地中央西側、谷部を望む斜面地に占地。遺存・重複 他遺構との切り合いはないが、東壁の一部と南壁の中央は切り抜きに、住居西側のほぼ1/2は比較的新しい搅乱によって破壊されている。形状・規模 方形。上面径[2.58]×[1.74]m、床面径[2.33]×[1.50]m、最大壁高は東側で、46cm。床面積約[3.50]m²。主軸方位 N-23.5°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としていて良好に締まる。住居中央から南側にかけてが特に硬直化してガタガチ。カマド 北カマド。北壁を住居外に向かって幅33cm、長さ40cm、深さ24cmの半楕円形に掘り込んで構築する。甕土粒を含む層はあるが、搅乱のためか燃焼部として確定できる面は見つからなかった。また、左袖部は完全に失われているが、右袖部にはやや粘性のある凸部が遺存し、袖部の基礎部

分と思われる。**住居内施設** 上面径58×36cm、底面径19×16cm、深さ21cmの掘り込みが住居東北コーナー附近に検出された。貯蔵穴と思われる。床面から貯蔵穴に落ち込む縁の部分には多量の白色粘土ブロックが確認されている。出土遺物 器種は壺、甕、灰釉陶器瓶で、上部質の片壺が21点(1, 2, 3, 4, 5)で、そのうち内面黒色処理を施したものが11点。その中で高台片壺は5点。底部に「X」の刻書を持つ壺が出土している(5)。土師質の壺片は11点(6)。須恵器甕片1点。土師器壺片5点。灰釉陶器瓶1点。

備考 住居東壁際の中央付近第5層から炭化材が検出されていて、資料分析遺物とした。また、住居裏手の第1層・第5層からも形にはならないが炭化材が検出されている。

第28号住居址（第88図、第35表、図版13,63）

グリッド O・P26・27。谷部を望む東斜面地に占地す



第25号住居址 地質図

1. 稲葉褐色土 緩まりやや有、粘性弱。ロームブロック \varnothing 10~20mm・施土・炭化物少。
2. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性有。ロームブロック \varnothing 10~20mm少有、施土・炭化物微量。

第26号住居址

1. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性弱。ロームブロック \varnothing 10~20mm・施土ブロック \varnothing 10~20mm・炭化物・施土・炭化物少。

2a. 黄褐色土 緩まり有、粘性有。ローム较少量、施土少、炭化物微量。

2b. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性有。ローム较少量、施土少、炭化物微量。

3. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性有。ローム较少量、施土少、炭化物微量。

4. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性弱。ローム较多量。

5. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性弱。ロームブロック \varnothing 10~20mm・施土少・炭化物や多。

第26号住居址 計算図

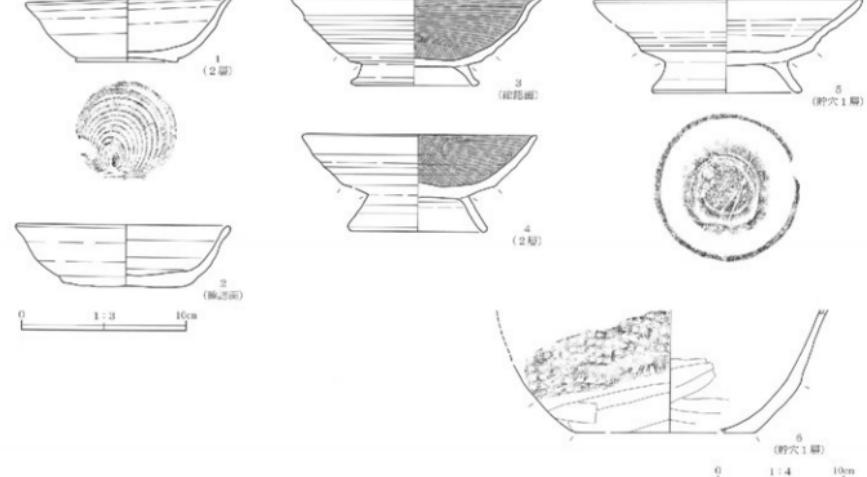
1. 稲葉褐色土 緩まりやや有、粘性弱。ロームブロック \varnothing 1~10mm・施土・炭化物少。

2. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性有。ローム较少量、施土少、炭化物微量。

3. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性有。ローム较少量、施土少、炭化物微量。

4. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性弱。ローム较少量、施土少、炭化物微量。

5. 稲葉褐色土 緩まり有、粘性弱。ロームブロック \varnothing 10~20mm・施土少・炭化物少。



第87図 第25号住居址

る。遺存・重複 南東壁は流出のためか遺存は悪い。形狀・規模 方形。上面径 2.71×2.51m、床面径 2.44×2.17 m、最大壁高は北西壁の 26 cm。床面積約 5.3 m²。主軸方位 N-10°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、周溝周辺を除きよく踏み固まって、硬化する。**カマド** 北カマド。北壁のほぼ中央を幅 66 cm、奥行き 65 cm、深さ 33 cm の半楕円形に掘り込み、類い煙道を付設する。カマド本体は灰色粘土を構築材としたらしく、右袖部に硬化した灰色粘土ブロックが残存する。左袖部は地山のロームが舌状に伸びており、造り出しの袖部基礎部分と思われる。この端に壇上半部の約 1/2 が横転した状態で検出された。袖部の補強材として転用された土器かもしれない(3)。燃焼部は皿状の掘り込みで、赤化・硬化してよく使い込まれている。中央やや北寄りに板状のつばば石を埋臟して支脚としている。焼土は多くないが、灰が住居内に流出して貯蔵穴の一部を覆っていた。なお、赤化面の下から、径 22 cm、深さ 10 cm のビットが検出された。古い段階の支脚据え付け痕らしいが、燃焼部に 2 面の使用面は確認されていない。カマド内からは、内ミガキの高台坏片 3 点(1 個体)(1)、内黒片 5 点、甕小片 11 点。**住居内施設** 北東側に上面径 58×43 cm、床面径 25×23 cm、深さ 10 cm の浅い貯蔵穴がある。土師器甕胴部片 1 点。周溝は西壁から南壁下のみに巡っている。深さ 5~8 cm。**出土遺物** 器種は甕、甌。住居裏土から床面にかけて、坏片 18 点、内黒片 10 点、小型甕(2)を含む甕片 36 点。カマド内遺物と接合する土器片もあるが、図示し得た遺物は少ない。1 はカマド内出土、3 はカマド左袖部に横転していた甕である。

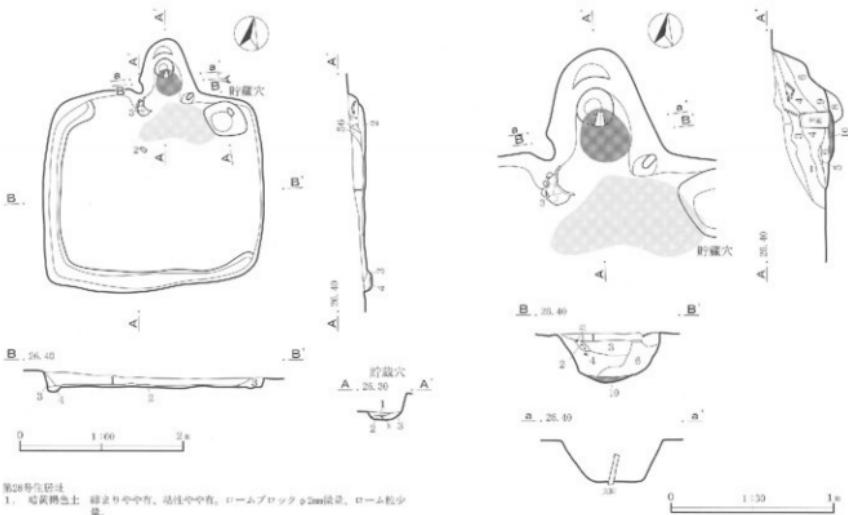
第 29 号住居址 (第 89 図、第 36 表、図版 13, 63)

グリッド Q28。西台地の谷部を望む東斜面地。**遺存・重複** 流出のためか、南東壁の遺存がやや悪い。床面に木根による複雑な乱れがある。**形狀・規模** 方形。上面径 3.01×2.94 m、床面径 2.71×2.67 m、最大壁高は北西壁にあって 46 cm。床面積約 7.2 m²。**主軸方位** N-50°-E。床面・掘り方 ローム面を床面とする。壁周辺を除きよく踏み固まり、特に住居中央は硬化する。**カマド** 北カマド。北西壁のやや南東側に寄る。北西壁を幅約 1.07 m、奥行き約 66 cm、深さ 40 cm の半楕円形状に掘り込んで構築される。左右袖部は段状に造作され、袖部の

基礎部分となっている。燃焼部は焼土がわずかに分布している程度で、ほとんど焼けておらず、灰の分布もみられない。遺物は内黒片 2 点、内ミガキ片 1 点、高台坏片 3 点、土師質の甕・甌片類 27 点、土師器甕片 12 点で、図示し得たものは内ミガキの高台坏 3、内黒 2、甕 4、甌 5、3 以外は住居裏土中や床面出土遺物と接合関係をもつ。**住居内施設** なし。**出土遺物** 器種は甕、甌、甌。カマド以外の遺物総破片数 208 点。坏片類 61 点(うち内黒片 16 点)、土師質の甕・甌片類 27 点、土師器甕片 123 点。接合するものは少ない。坏 1 は床面出土、6 は錐状の鉄器で木質部が遺存する。現長 10.35 cm、錐部長 5.15 cm で、断面は一辺 0.5 cm の方形を呈し、先端は断面円形となっている。木質部は径約 1.05 cm、端部は欠損するが断面 0.45×0.35 cm の長方形状の鉄部が一部露出する。

第 30 号住居址 (第 90 図、第 37 表、図版 13, 14, 63, 67)

グリッド O30。西台地北側の平坦地。**遺存・重複** 第 39 号住居址を切る。**形狀・規模** 方形。上面径 3.10×2.59 m、床面径 2.65×2.31 m、最大壁高は東壁にあって 34 cm。床面積約 6.1 m²。**主軸方位** N-5°-E。床面・掘り方 ローム面を床面とする。周溝周辺を除きよく踏み固まるが、とくに硬質面はない。**カマド** 北カマド。北壁のほぼ中央を幅 96 cm、奥行き約 62 cm、深さ約 27 cm の半円形状に掘り込んで構築されている。袖部は遺存しないが、覆土 3 層に灰黄色の粘質土粒が含まれるので、この種の粘質土がカマド本体の構築材であった可能性がある。燃焼部はよく焼けて、赤化・硬化しているが、焼土は少なく、灰はほとんどみられない。遺物は、坏片 4 点、土師質の甕・甌片類 11 点、土師器甕片 5 点、いずれも燃焼部北寄りにまとめて出土しており、とくに甌 3 の大片 2 枚と、図示し得ないが土師質の甕胴部大片 2 枚とが立て並べたように検出されており、注意をひく。支脚の代用であろうか。**住居内施設** P1 は左袖部付近の小ビットで、深さ 14 cm。周溝は深さ 4~7 cm で、やや幅広の比較的しっかりした掘り込みである。北壁下には巡らない。**出土遺物** カマドを除く総破片数 373 点。器種は甕、甌、甌、刀子。坏類 29 点(うち、内黒片 7 点、内ミガキ片 2 点)、土師質の甕・甌片類 38 点、土師器甕片 305 点、刀子 1 点。坏 1、内ミガキ 2、刀子 4 は床面出土、甌 3 はカマド内と住居裏土 1・2 層の破片が接合した。刀子は背部

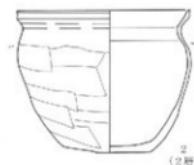
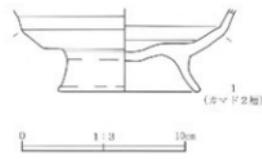


第28号住居址

1. 暗黄褐色土 緩まりやや有。粘性やや有。ロームブロック約2mm底設。ローム少少。
2. 喜賀褐色土 緩さり有。粘性やや有。ローム粒。ロームブロック約1~5mmやや多。底土少・木炭少量。
3. 黄褐色土 緩まりやや有。粘性やや有。コーム粒多。ロームブロック約1~10mmやや多。
4. 黄褐色土 緩まり弱。粘性やや有。ローム底。コームブロック約10~20mm多。河底。
5. 沼澤色土 緩まりやや有。粘性有。板土粒や多。燒土ブロック約5mm少量。
6. 泥赤褐色土 緩まりやや有。粘性有。底土灰・灰白粘質土粒やや多。板土ブロック約5mm少量。
7. 喜賀褐色土 緩さりやや有。粘性やや有。ロームブロック約5mm底設。ローム粒。底土少・木炭少量。

第28号住居址

1. 喜賀褐色土 緩まりやや有。粘性有。ローム底少些。木炭・燒土底無灰。灰。
2. 黄褐色土 緩まりやや有。粘性有。ローム粒。板土粒少量。
3. 黄褐色土 緩まりやや有。粘性有。ローム底やや多。コームブロック約1mm底設。板土粒少少。



第88図 第28号住居址

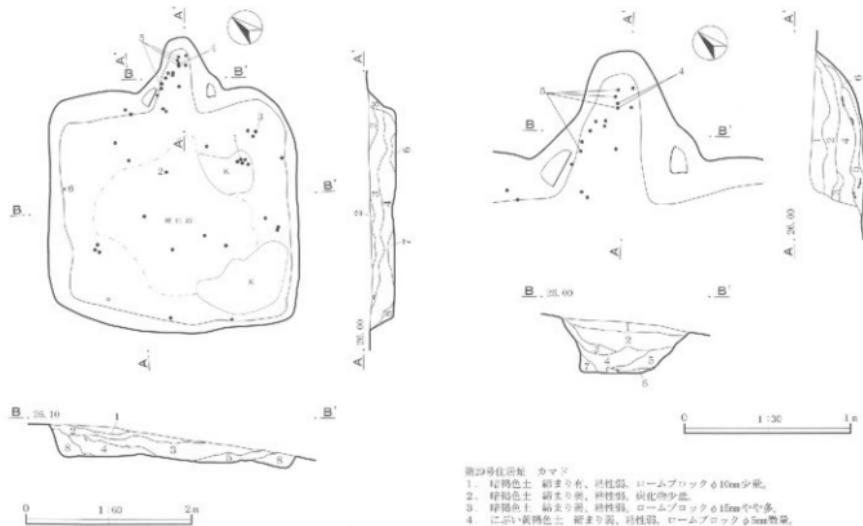
側に間を持つ形状で、切先と茎部が欠損する。現長 9.25

cm。

第35号住居址 (第91図、第38表、図版15, 63)

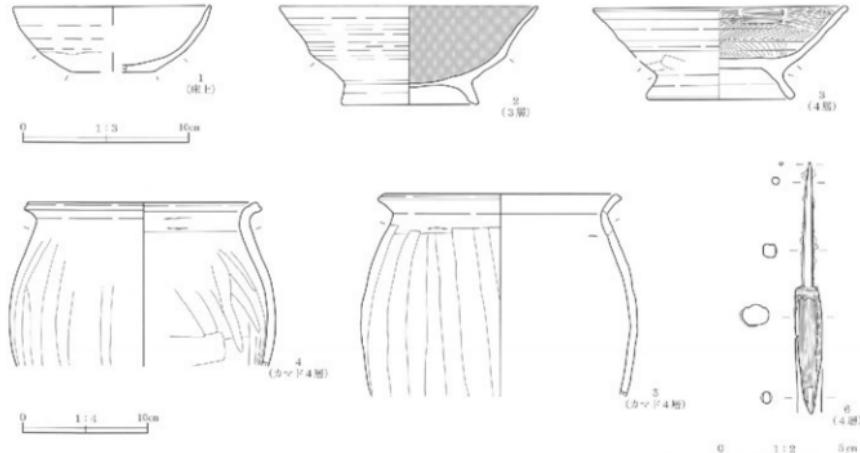
グリッド V27。東台地中央よりやや西よりの平坦地。

遺存・重複 他遺構との切り合いはないが、西側とカマド前、北東側を切り株の根があり込んだことによって康されしている。形状・規模 方形。上面径 2.64×2.52m、

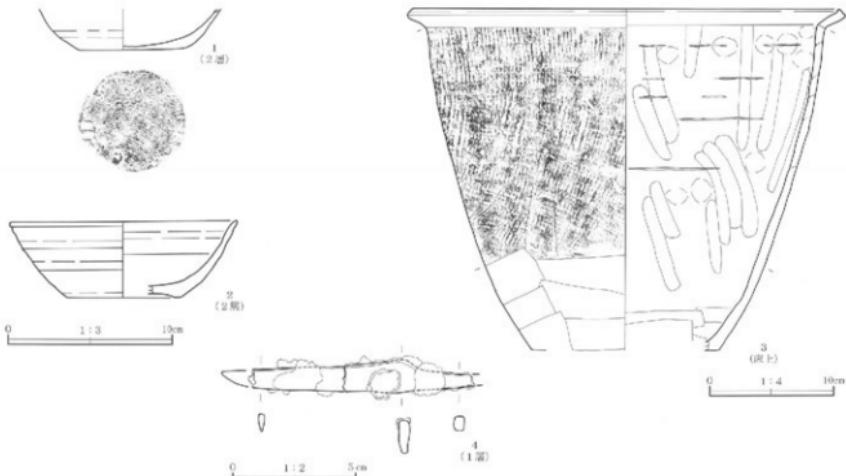
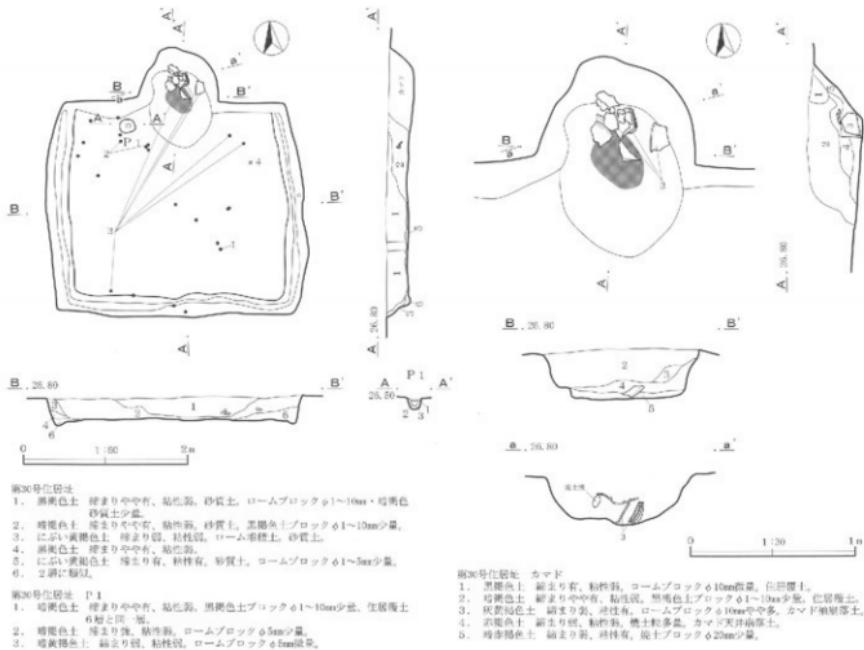


第29号住居址

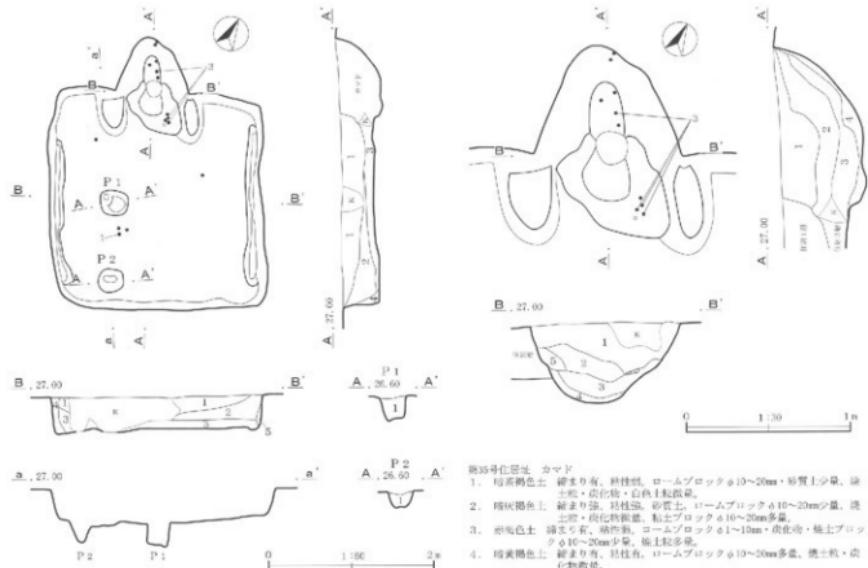
1. 砂質褐色土・縫まり有、粘性弱。ロームブロックφ10mm少量。
2. 砂褐色土・縫まり有、粘性弱。ロームブロックφ10mm少量。
3. 砂褐色土・縫まり有、粘性弱。ロームブロックφ10mm少量。
4. 砂褐色土・縫まり有、粘性弱。ロームブロックφ10mm少量。
5. 砂褐色土・縫まり有、粘性弱。ロームブロックφ5mm少量。
6. 砂褐色土・縫まり有、粘性弱。ロームブロックφ5mm少量。
7. 砂質褐色土・縫まり有、粘性弱。ロームブロックφ10mm少量。
8. 砂質褐色土・縫まり有、粘性弱。ロームブロックφ10mm多量。地山削落土。



第89図 第29号住居址

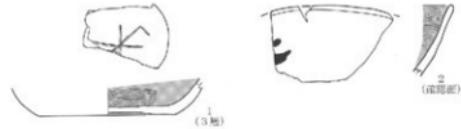


第90図 第30号住居址



第35号住居址

1. 磷灰鵝色土 滲り有、粘性弱。ロームブロックφ1~10mm少量、洗土塊、炭化物微量。
2. 磷灰鵝色土 滲り有、粘性弱。ロームブロックφ1~10mm少量、洗土塊、炭化物微量。
3. 磷灰鵝色土 滲り有、粘性有。ロームブロックφ10~20mm、洗土塊、炭化物や多、砂質粘土ブロックφ10~30mm少量。
4. 磷灰鵝色土 滲り有、粘性弱。ロームブロックφ1~10mmや多、炭化物微量。



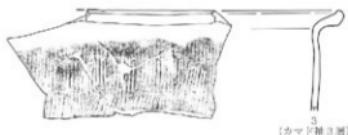
- 第35号住居址 カマド
1. 磷灰鵝色土 破片有り、粘性弱。ロームブロックφ10~20mm、砂質土少量、洗土塊、炭化物、白灰と粒微量。
 2. 磷灰鵝色土 破片有り、粘性弱。砂質土、ロームブロックφ10~20mm少量、洗土塊、炭化物微量、白灰と粒微量。粘土ブロックφ10~20mm多量。
 3. 磷灰鵝色土 滲り有、粘性有。ロームブロックφ10~20mm多量、洗土塊、粘土ブロックφ10~20mm少量、地土較多量。
 4. 磷灰鵝色土 滲り有、粘性有。ロームブロックφ10~20mm多量、洗土塊、炭化物微量。
 5. 磷灰鵝色土 破片有り、粘性弱。ロームブロックφ1~10mm少量、洗土塊、炭化物微量。

第35号住居址 P1

1. 磷灰鵝色土 破片有り、粘性弱。ロームブロックφ1~10mm多量、洗土塊、炭化物微量。

第35号住居址 P2

1. 磷灰鵝色土 破片有り、粘性有。ロームブロックφ10~20mm多量、洗土塊微量。

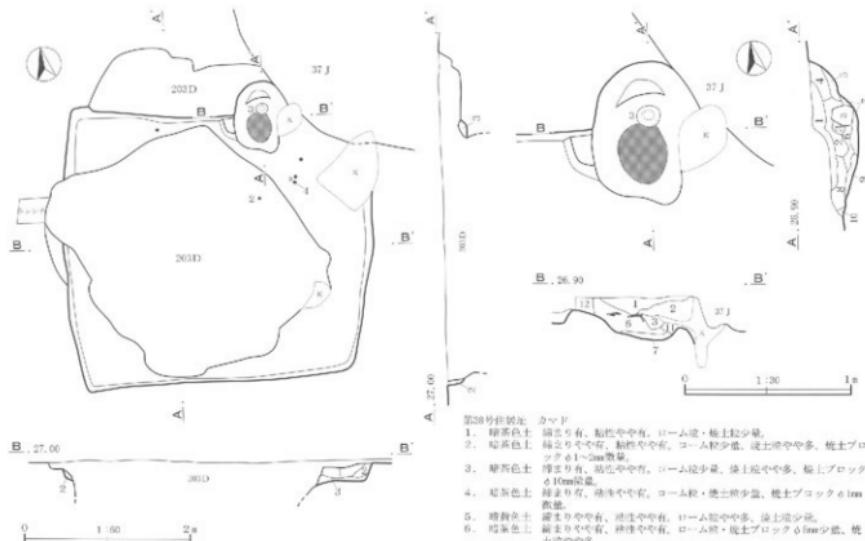


0 1:3 10cm

第91図 第35号住居址

床面径 2.41×2.40m、最大壁高は東側で、42 cm。床面積約 5.78 m²。主軸方位 N-45°-W。床面・掘り方 ローム面を床面としており、よく縮まる。住居西側の床面は切り株などの影響でやや荒れるが、他は全体に良好。特に住居中央から南側の壁際付近ではガチガチに硬化する。カマド 北カマド。住居中央付近の北壁を幅 76 cm、長さ 63 cm、深さ 96 cm の半楕円形に掘り込んで構築している。左右袖部の殘存はあまり良くないが、地山を

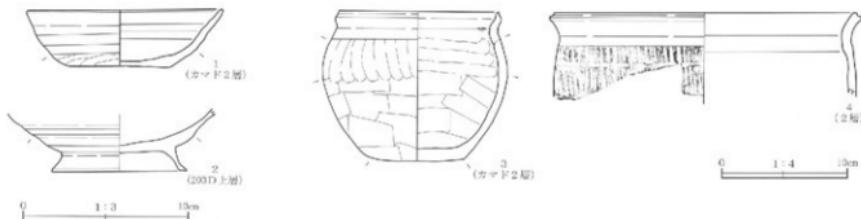
掘り残した上に砂混じりの白色粘土を貼り付けて構築していたものと思われる。壁面はところどころで赤化し、硬化しているが、木の根による搅乱で穴が開いたように硬化面が抜け落ちる。住居内施設 2 本のピットが検出された。P1 は上面径 30×32 cm、底面径 18×20 cm、深さ 23 cm。P2 は上面径 30×27 cm、底面径 18×7 cm、深さ 13 cm。2 本とも掘り込みはしっかりとしており、住居に伴うものと考えられる。周溝は西の壁際と東の壁際に走



第38号住居址

1. 黒色土上 線立り有、隙地やや有。黄ロームブロック約2cm・木骨片微量、ローム粒少。
2. 暗茶色土 線立りやや有、隙地やや有。ローム粒や多。
3. 暗褐色土 線立り有、隙地やや有。黄ロームブロック約1~10mm少、ローム粒や多。

- カマド
1. 線系白色 土立りやや有、粘性やや有。ローム粒、土粒少量。
2. 暗茶色土 土立りやや有、粘性やや有。コーム粒少、土粒やや多、粘土ブロック約1~2mm微量。
3. 暗茶色土 土立り有、粘性やや有。ローム粒や量。土粒やや多、板土ブロック約10mm微量。
4. 暗茶色土 土立り有、粘性やや有。コーム粒、土粒少、粘土ブロック約1mm微量。
5. 暗茶色土 土立りやや有、粘性やや有。ローム粒やや多、土粒少、土上部少。
6. 暗茶色土 土立りやや有、粘性やや有。ローム・土粒ブロック約1mm微量、桃土立り多。
7. 暗茶色土 土立りやや有、粘性やや有。ローム粒やや多、土粒少、土上部少。
8. 暗茶色土 土立りやや有、粘性やや有。ローム粒やや多、土粒少、土上部少。
9. 暗茶色土 土立りやや有、粘性やや有。ロームブロック約1~10mm微量、ローム粒微量、土粒少。
10. 暗茶色土 土立りやや有、粘性やや有。ロームブロック約1~2mm微量、ローム粒微量、土粒少。
11. 黄褐色土 土立り有、粘性やや有。研化黄ロームブロック約5mm・土粒ブロック約10mm微量、ローム粒多、土粒やや有。
12. 暗茶色土 土立り有、粘性やや有。ローム粒、灰色粘質土粘（カマド構築材）、土粒少微量。

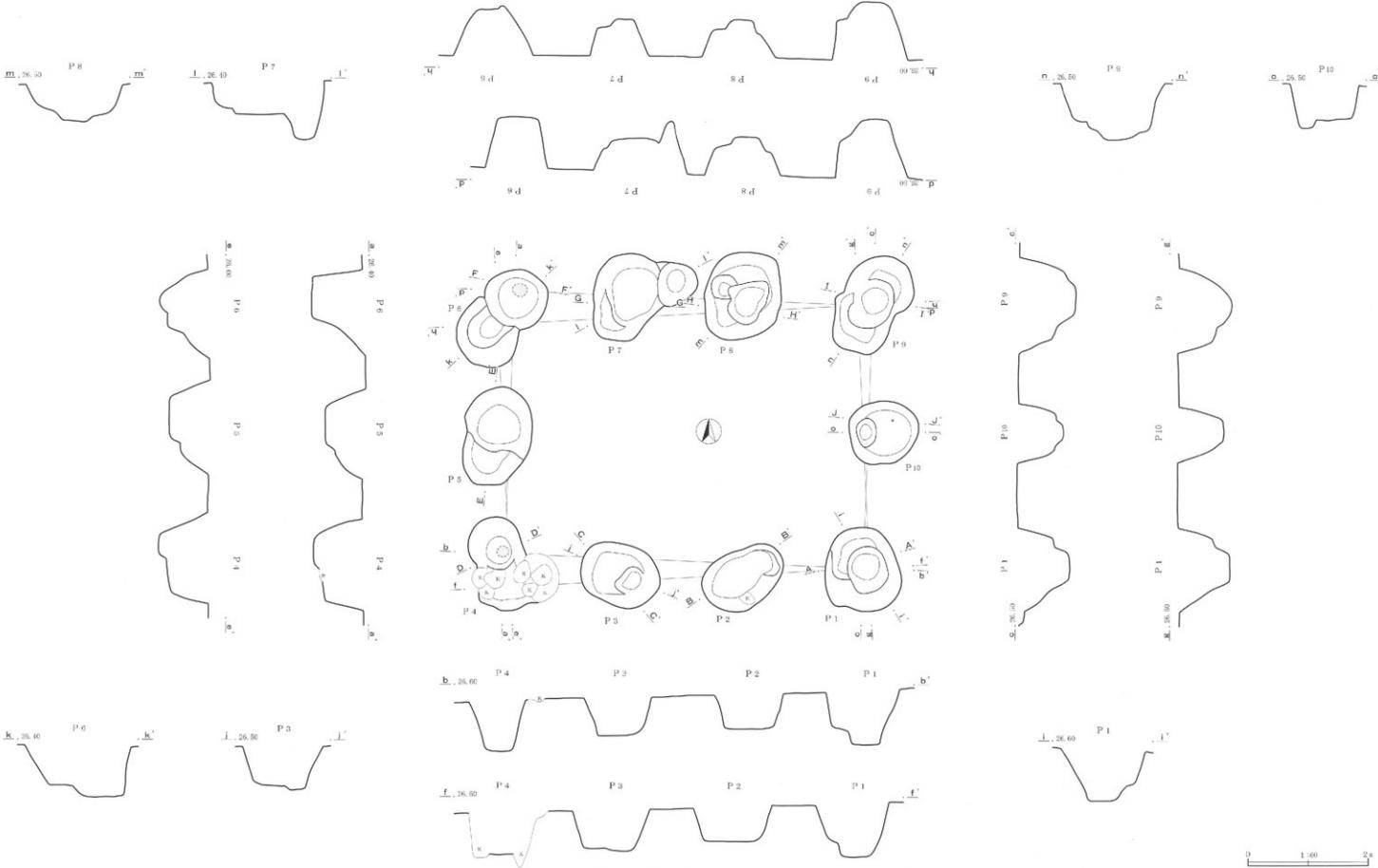


第92図 第38号住居址

る。幅14~6cm、深さ4cm。出土遺物 器種は壺、皿、甕で、土師質の壺片はクロコ成形。45点出土(1、2)の内、内面黒色処理を施したものは30点で、その中で高台壺片は2点。土師質の皿片は4点で全て内面黒色処理を施す。土師質甕片は17点(3)。須恵器壺片1点。須恵器蓋(?)小片2点。須恵器甕片2点。土師器甕片48点あるが接合するものは少ない。

第38号住居址(第92図、第39表、図版16,63)

グリッド O30。遺存・重複 第203号土坑に切られ、遺存は悪い。南西で第39号住居址を、北東で第37号住居址を切る。形状・規模 方形。上面径3.78×3.13m、床面積3.60×3.17m、最大壁高は北西壁にあって28cm。床面積約11.4m²。主軸方位 N-10°-E。床面・掘り方 ローム面を床面とし、貼床はない。カマド前面がや



第93図 第1号掘立柱建物址(1)

や踏み固まる程度で、全体的に軟弱である。カマド・北カマド。北壁中央やや東寄りを幅約 55 cm、奥行き 40 cm、深さ 27 cm の半円形に掘り込んで構築され、奥壁に高さ 14 cm の低い煙道が付設されている。右袖部は木根址で損壊する。左袖部は、高さ 10 cm ほどロームが舌状に残っており、造り出しの袖部基礎部分と思われる。燃焼部は皿状の掘り込みで、赤化・硬化してよく使い込まれている。焼土も比較的多いが、灰の分布はほとんどみられない。燃焼部北側、奥壁に一部かかる位置に、ほぼ完形の土師器小壺甕（3）が倒立状態で据え置かれており、この上層に坏（1）の破片がやまとった状態で出土したが、置かれた状況はみられない。その他、土師質の甕片 3 点、土師器甕片 9 点。住居内施設 検出されない。出土遺物 カマド内以外では少ない。カマド内を除く總破片数 42 点。坏、高台坏片 9 点、上師質の甕片 4 点、土師器甕片 27 点。第 203 号土坑内の高台坏は本住居址の遺物であろう。

掘立柱建物址

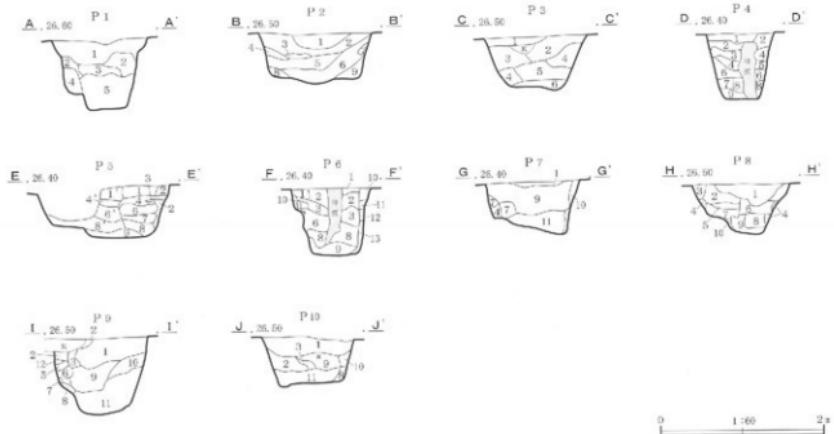
第1号掘立柱建物址（第 93～95 図、第 42 表、図版 18, 67）
グリッド K・L22・23。西台地中央部の半坦地。遺存・重複 P9、P10 には木根がはびこって難儀な掘り下げではあったが、埋土への影響はそれほど大きくはないようと思われる。P4 南側壁は木根址でかなり損壊している。形状・規模 2 間 × 3 間の東西神。柱替えが行われているが、規模はほぼ同じで、新棟長軸（棟行）方位 N-88°-W、同旧棟 N-87°-W で、長軸がわずかにずれる。新棟は E P A ~ E P D、旧棟は E P E ~ E P H で図示した。棟行総長約 6m、桁行総長約 4.1m。柱間距離は棟行で約 2m、桁行で約 2.2m を測る。各柱穴は径約 1 m 前後の円形の掘り込みで、P10 は新・旧棟の共有した掘り込みとなっている。柱痕は径約 20 cm で、新棟の P4、P6 で確認される。P3 や P10 にみえる、底面径約 25 cm 前後の凹部（深さは P3 で 5 cm、P10 で 13 cm）は柱抜け付け痕と思われる。柱のアタリ痕は確認されない。柱穴の深さは、新棟で 56～99 cm、旧棟では P1、P7～P10 が新棟と重複するため不明だが、確認される柱穴では 54～70 cm と概して新棟より浅めである。P1、P4、P6、P9 は他の柱穴より深めに掘り込まれている。この傾向

は新棟で顕著で、83～99 cm と他の柱穴より 20～30 cm ほど深い。P9 には 3 段の掘り込みがあり、中央（深さ 99 cm、標高 25.48m）が新棟の柱穴であるが、北の掘り込み（深さ 85 cm、標高 25.62m）と南の掘り込み（深さ 66 cm、標高 25.81m）が、旧棟の掘り込みなのか、あるいは柱抜き取り用の掘削痕なのか判然としない。このことは、2 段掘りの P1、P7 についてもいえる。**埋土** P2、P3、P5、P7～P9 は、当初土坑として掘り下げを行ったため、柱穴としての土層観察面の設定位置が良好とはいえない。その上、遺構プランの確認が木根等の影響でかなり難しく、とりあえず半裁で掘り下げを開始したため、その他の柱穴に關しても結果的に十分な土層観察ができていない。その欠陥は、例えば P9 の 3 段掘りの意味付けの不確かさに露呈していよう。P4～P6 は、黒茶褐色土と暗褐色土との互層で、P9 にも一部この互層が認められる。この互層の塗面は全体的にはやや縮まる程度で、版築のような硬質化は認められない。P5 の 1・4・6・8 層は更に軟質である。P2、P3、P7、P9、P10 はローム粒・ロームブロック混入土が主体となる土層、P1、P8 は班状のロームを含む土層である。なお、P1 の 5 层、P2 の 6 層、P4 の柱底内には少量ながら燒土粒・焼上ブロックが混入するが、木炭片はみられない。**出土遺物** 総破片数 31 点。土器はいずれも小・細片で、須恵器蓋片 2 点（P5 の 2 層出土）（1）、坏片 19 点（うち、内盤片 4 点）、甕片 6 点、器種不明 3 点、鉄器 1 点。1 は須恵器蓋、坏 3 は P10 出土、坏 2 は P6 出土、4 は器種不明の鉄器で P10 の 9 層出土。鉄器は鍛造著しいが、重量感がある。断面径 2.25 × 1.50 cm、長さ 12.50 cm の角柱状の縦棒に、断面径 1.0 × 1.0 cm、長さ 7.90 cm のやや細い角柱状の横棒が付いて T の字状を立てる鉄器で、縦棒の先端はくさび状になっている。横棒の両端は欠損するようで、片側先端がやや曲がっている。また、縦棒に長さ 3.4 cm、幅 2.25 cm、厚さ 0.55 cm の板状品が付着している。鍛造による鉄分の膨張ではなさそうである。**備考** 遺物からみて、平安時代前半期以降と思われる。

平安時代の土坑

第4号土坑（第 96・97 図、図版 28）

グリッド P34。西台地北平野部に占地する。遺存・重



第94図 第1号掘立柱建物址(2)

第1号立柱建物址 P 1

1. 硫黄褐色土 細まりやや有、粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5~10mm少量。
2. 硫黄褐色土 細まりやや有、粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ10~20mm少量。
3. 黄褐色土 粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~5mm少量。
4. 塗装黒褐色土 粘性やや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~3mm少量。
5. 塗装黒褐色土 粘性やや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~10mm少量。土士ブロックφ20mm少量。

※ 全体に斑状のコムを含む。

第1号立柱建物址 P 2

1. 黄褐色土 細まりやや有。粘性少。ローム質粘上ブロックφ5~10mm少量。
2. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ロームブロックφ5~10mm少量。
3. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム質粘上ブロックφ10mm少量。
4. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。粘性少。
5. 硫黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム質粘上少量。
6. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ロームブロックφ5mm。土士粒微量。
7. 黄褐色土 細まりやや有。粘性有。更裏層上。
8. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ロームブロックφ20mm少量。
9. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ロームブロックφ5~10mm少量。

第1号立柱建物址 P 4・5・6

1. 黄褐色土 細まりやや有。やや赤みあり。ローム粘やや多。ロームブロックφ10mm少量。
2. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~2mm少量。1層よりやや暗色。
3. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5mm少量。
4. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~10mm少量。
5. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ3mm少量。
6. 黑褐色土 細まりや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5~10mm少量。
7. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ10~20mm少量。
8. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~2mm少量。
9. 黑褐色土 細まりや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5mm少量。
10. 塗装黒褐色土 細まりや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5~10mm少量。
11. 黄褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘。
12. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。
13. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ10~20mm少量。

※ P 4・5・6は、P 1・2・3と、約1.5~2m離れて位置し、よく対応するが、細まり、粘性がなく、明確に分離可。

第1号壁立柱建物址 P 3

1. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5mm少量。
2. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5mm少量。
3. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘多量。ロームブロックφ5~10mm少量。
4. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~20mm少量。
5. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘多量。ロームブロックφ1~10mm少量。
6. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5mm少量。

第1号壁立柱建物址 P 7・9・10

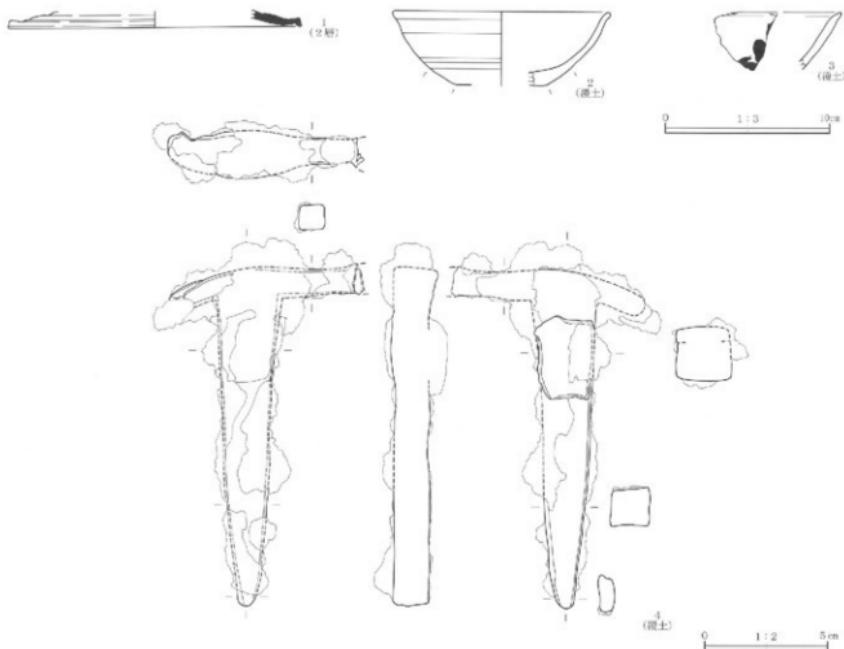
1. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。
2. 黄褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ローム粘主。
3. 黄褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム主。
4. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘主。ロームブロックφ10mm少量。
5. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ3mm少量。
6. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5~15mm少量。
7. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘。ロームブロックφ5~15mm少量。
8. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1mm少量。
9. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ5~10mm少量。
10. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ10~20mm少量。

※ P 9には木筋がびびる。

第1号壁立柱建物址 P 8

1. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘少量。
2. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘。ロームブロックφ1mm少量。
3. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~5mm少量。
4. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ10~20mm少量。
5. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1mm少量。
6. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ローム粘やや有。ローム粘少量。
7. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ローム粘やや有。ローム粘少量。
8. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粘やや多。ローム粘やや有。ローム粘少量。
9. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ10mm。黑色。
10. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。9層より明色。
11. 塗装黒褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粘やや多。ロームブロックφ1~2mm少量。

※ 全体に斑状のロームを含む。



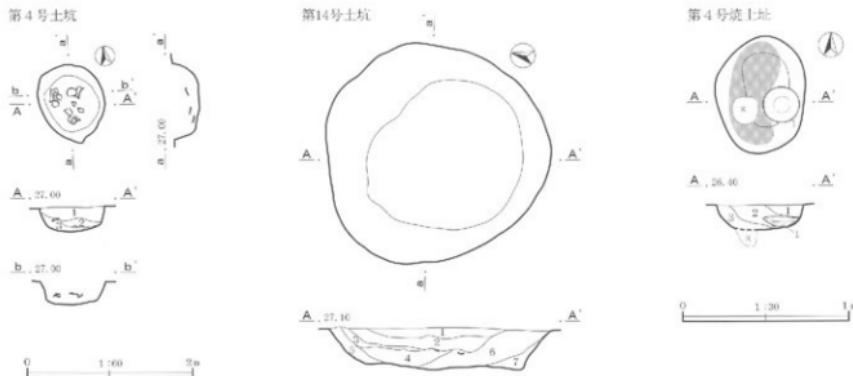
第95図 第1号掘立柱建物址（3）

複 第2号住居址北西隅を切っている。形状・規模 円形。上面径 93×80 cm、底面径 68×67 cm、深さ 41 cm を測る。出土遺物 床面より 5~10 cm 浮いた状態で検出されている。土師器の壺片 17 点が出土し、その内の 11 点が第2号住居址の2の上部器壺に接合した。土師器壺の他に縄文土器も 3 片出土している。

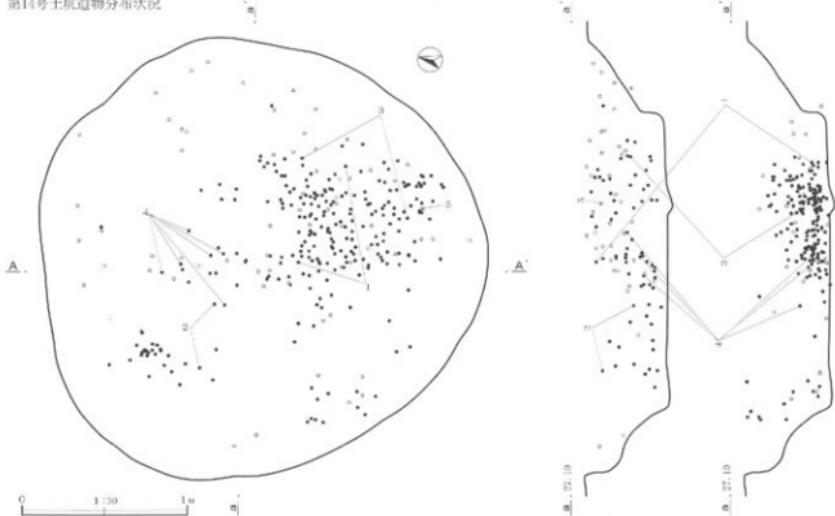
第14号土坑 (第 96・97 図、第 40 表、図版 28, 64, 67)
グリッド P31 西台地北西寄りにある。遺存・重複 土坑壁部分に木根痕があり、土坑壁が一部で破壊されていた。形状・規模 円形。上面径 2.66×2.68m、底面径 1.82 ×1.88m、最大壁高 0.50m。出土遺物 器種は壺、瓶、甕、瓶、灰釉陶器、銅器。土師質の壺片は 40 点出土しており (2, 3, 4 含む)、そのうち内面黒色処理されたものが 25 点。高台壺は 1 点のみ。土師質の瓶片は 2 点で、全て内黒。土師質甕片は小片が多く、25 点。土師質の瓶片

は 3 点出土している (5 含む)。また、須恵器の壺片は 5 点、須恵器甕片は 16 点、須恵器の瓶片は 5 点出土。土師器の甕片は 169 点出土しているが、接合するものは少ない。灰釉陶器が 4 点出土 (1 含む) しており、3 点は同一個体か。さらに、不明銅器が 1 点 (5) 出土。石錐 1 点も出土している。

備考 第 14 号土坑は、火災に遭った第 4 号住居址の北西側に位置する。350 点を超える土器片は土坑全体から出土したが、土坑南東部に遺物の集中が認められた。第 14 号土坑は、第 6 層のように、南東から土砂の流入が認められ、第 1 層、第 2 層、第 6 層は炭化物と焼土粒、さらに土器片を含む。第 4 号住居址との位置関係から、第 14 号土坑は、第 4 号住居址の廃材を捨てた、土器捨て場だった可能性がある。



第14号土坑遺物分布状況



第4号土坑

1. 黄褐色土 硬さりやや有。粘性やや有。炭化物・礫微量。
2. 次褐色土 硬さりやや有。粘性やや有。炭土ブロック約6mm、炭化物少數。
3. 黑褐色土 硬さりやや有。粘性やや有。コームブロック約15mm少數。

第14号土坑

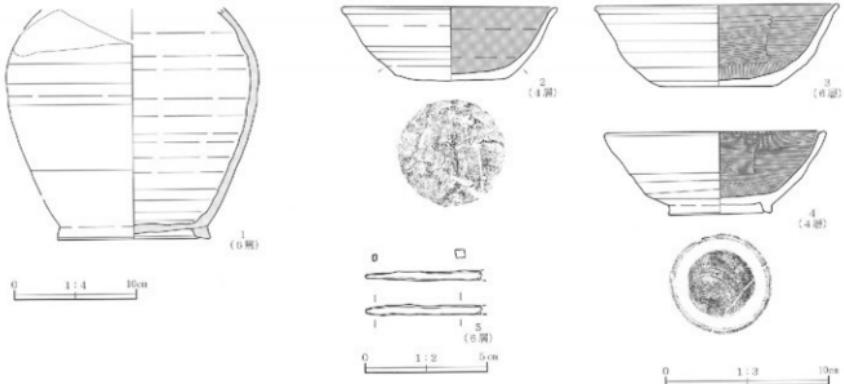
1. 黄褐色土 硬さりやや有。粘性や有。炭土ブロック約0.5mm、炭化物・礫微量。
2. 次褐色土 硬さりやや有。粘性やや有。コームブロック約2mm、礫上級炭化物。
3. 黑褐色土 硬さりやや有。粘性やや有。コームブロック約10mm少數。
4. 棕灰色土 硬さりやや有。粘性やや有。コームブロック約5~10mm少數。
5. 棕黑色土 硬さりや有。粘性有。コームブロック約10mmや少數。堅黑落土。
6. 淡褐色土 硬さり弱。粘性やや有。炭化物微量。上透片灰分。
7. 淡灰黑色土 硬さり弱。粘性有。コームブロック約10~20mmや多。堅黑落土。

第4号土坑

1. 明黄系褐色土 硬さり有。粘性やや有。ローハニグ。
2. 淡赤褐色土 硬さりやや有。粘性やや有。炭土ブロック約1~2mm、炭化物少數。
3. 黑褐色土 硬さりや有。粘性やや有。ローハニグ。

第96図 平安時代の土坑 (1)

第14号土坑



第4号焼土址



第97図 平安時代の土坑 (2)

焼土址

第4号焼土址 (第96・97図、第43表、図版29)

グリッド M27。 西台地西斜面上にある。遺存・重複 遺構内に木根莖が入っていた。形状・規模 椭円形。上面径 1.08×1.44 m、底面径 0.52×0.92 m、最大壁高 0.15m。**出土遺物** 穀食器の盤が1個体(1)出土している。
備考 第2層の焼土は、盤と共に西から流れ込んだものである。第2層の焼土の堆積が均一であることから、短期間で遺構内に流入したものと考えている。第4号焼土址の西側は、東側より高さが低いことから、西側に何らかの構造物があり、それが崩落して第4号焼土址の遺構に流れ込んだものと推測している。しかしながら、第4号焼土址西側には、近世以降の遺構と推定される第8号溝状遺構があり、焼土を作り出した遺構は既に破壊されていると推測される。

藏骨器

第1号藏骨器 (第98図、第45表、図版25, 64)

グリッド O31。 西台地北平野部に占地する。遺存・重複 他の遺構との重複関係なし。形状・規模 サブトレンチ状の掘り込みをいためた全形をつかむ事はできなかったが、上面径約 51×44 cm、底面径約 24×24 cm、深さ約 23 cm の円形の掘り方内に、口縁部欠損の須恵器甕を据え、蓋として須恵器甕を転用した藏骨器である。**覆土** 掘り込み部分のものはロームを主体とし、掘り込み周辺部分の土と色調が若干異なる以外に変化はない。
備考 藏骨器に使用されているのは須恵器の中型甕で、頸部から上の部分は欠損しているが胴があまり張らずに、最大径が上位にあり平底、叩き目は縱位平行線文とおもわれる。

第2号藏骨器 (第98・99図、第45表、図版26, 64)

グリッド P29。 西台地北側にある。遺存・重複 遺構

に木根痕が入っている。形状・規模 楕円形。上面径 1.41 × 1.63m、底面径 0.90 × 0.95m、最大壁高 0.64m。これに、上面径 0.69 × 0.54m、底面径 0.24 × 0.34m、最大壁高 0.35m の横穴状の小穴が掘り込まれ、中に蔵骨器が据えられていた。

備考 土坑には、壁の西側に掘り込みの際に足場として使われたと思われる段がある。上坑断面形の西壁と東壁の傾斜の違いは、この土坑が西側から掘削されて作られたことを示すと考えている。土坑底面東側と上坑東壁を掘削して横穴を造った後、横穴底面に炭を少し敷いて、炭の上に蔵骨器を据え付け、横穴全部を炭で埋めて、蔵骨器を覆ったと推測している。土坑は埋め戻されている。遺物だが、蓋と本体ともに灰釉陶器である。胎土や焼成から、蓋と皿は伴焼である。肩部から胴部中位にかけて深緑色の霜葉がかかる。内面には重ね焼き底か、あるいは焼台痕が残っていて、径 12.5cm 程のものである。

第 3 号蔵骨器 (第 98・99 図、第 46 表、図版 27, 65)

グリッド P28。西台地北側にある。遺存・重複 土坑北東側に木の株があり、土坑の北東壁、西壁、さらに南壁が木根痕により一部破壊されている。形状・規模 楕円形。上面径 1.38 × 1.61m、底面径 0.86 × 0.59m、最大壁高 0.62m。これに、上面径 0.43 × 0.45m、底面径 0.30 × 0.34m、最大壁高 0.30m の横穴状小穴が掘り込まれ、中に蔵骨器が据えられていた。

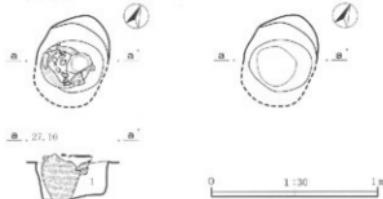
備考 土坑は北側が浅く平緩になっているが、深い土坑南側を掘る際に、土坑北側を足場としたためであると考えている。この深い土坑南側から、土坑底面北側と上坑北壁を掘って横穴が造られ、横穴底面の地面の上に直接、蔵骨器が据えられた。炭が、小穴と蔵骨器が半分ほど埋まるまで入れられ、その後、炭混じりのローム土(第 5 層)で蔵骨器を全て覆ったと推測している。蔵骨器が若干北側へ傾いているのは、炭を蔵骨器周囲に入れる際、南側から北側奥へ炭を押しながら入れていったためと思われる。土坑は埋め戻されている。遺物本体だが、蓋は完形の須恵器壺蓋で、内側に「大伴」の墨書きが書かれている。本体は須恵器の短頸壺で、肩部と内定面に自然釉・陥りものが付着している。底部はヘラ状の工具の先端を使用し難に調整。なお、本体と壺蓋の時期はほぼ同時期かと思われる。

方形区画溝 (第 6 号溝状遺構)

(第 100・101 図、第 41 表、図版 20, 65, 66, 67)

グリッド M～P21～25。西台地中央部平坦地から東斜面地にかけて占地する。遺存・重複 第 9 号住居址・第 130 号土坑に切られ、第 8 号住居址・第 128・129 号土坑を切る。焼上を含む第 137 号土坑との切り合いは不明。K1・K5 は 1 層土をもつ擾乱坑、K2・K3・K4 は木根址、K6 は倒木痕である。形状・規模 北辺、西辺、南辺がコの字に巡り、それぞれの辺に橋状部を造り出した区画溝である。西辺の走向方位 N-30°-E、南・北辺は N-60°-W で、ほぼ直角に交わる。北辺全長約 17.45 m で、東端は斜面地にかかる。南辺現長約 18.40m で、東端部は調査しえなかつたが、北辺と同様斜面地にかかって消滅するものと思われる。西辺は全長約 26.80m。幅は西辺中央部で最大 2.85m を測る。断面は、下平で逆梯形、上半は漏斗状にひらく形状で、底面はほぼ平坦である。底面の標高をみると、北辺の橋状部東側直下で 25.10m (深さ 1.02m)、斜面際は 24.50m でかなり低くなっている。他の地点ではおおむね 25.60m 前後にあるが、南北両でやや高く 25.81m (深さ 69 cm)、西辺の橋状部北側でやや低く 25.40m (深さ 96 cm) を測り、北辺に至る約 20 cm の段差にステップ状の掘り込みがみられる。また、南辺の橋状部東側の底面もほぼ同じ標高を保持していることから、この東端部が北辺のように深くなることはないものと思われる。橋状部 北辺の橋状部は幅 1.52m。西辺では幅 1.38m で、深さ 26 cm と 43 cm の 2 段の掘り込みがある。南辺では、第 9 号住居址とサブトレレンチのため一部損壊しているが、幅約 1.35m で、深さ 24 cm の 1 段の掘り込みをもつていて。覆土 自然埋没状況を示す。断面 B-B' はサブトレレンチとその抜取のため約半分の土層断面となった。北辺の橋状部東側にも土層断面を設定したが、造成工事への引き廻し時期が迫り、因化しえなかつた。この部分ではローム主体の暗褐色土である。断面 B-B' の 3～5 層は斑状のロームを含むほぼ同質の覆土で、わずかに色調が異なる。このうち 3・4 層が断面 A-A' には欠落する。出土遺物 大半が 3～5 層出土である。灰釉瓶、須恵器蓋・壺・甕・高台壺、須恵器技法の十師質十器の壺・高台壺・甕、十師器甕、鉄滓など。灰釉瓶 (I) は 3 片 2 個体あるが、図示したの

第1号藏骨器



第1号底骨器

1. 黄褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ローム粒・ロームブロック ϕ 1~2mm少量。

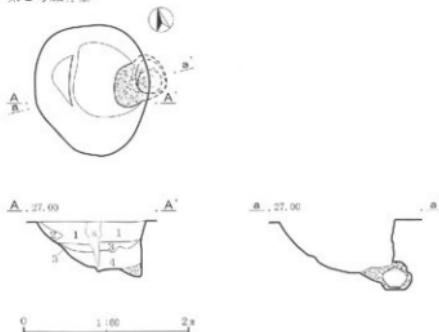
第2号象骨器

1. 錫質系褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム粒や多、ロームブロック ϕ 10mm少量。
2. 錫質系褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム粒や多、ロームブロック ϕ 10mm少量。
3. 錫質系褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ローム粒多量。
4. 錫質系褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム粒多量、ロームブロック ϕ 16~20mm少量。

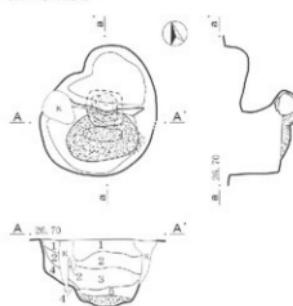
第3号底骨器

1. 錫質系褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム粒多量、ロームブロック ϕ 20~60mm少量。
2. 錫質系褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム粒や多、ロームブロック ϕ 5mm少量。
3. 錫質系褐色土 硬まり有、粘性やや有。ロームブロック ϕ 10~40mmや多、炭化物少量。
4. 錫質系褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ローム粒少、ロームブロック ϕ 3~20mm少量。
5. 錫質系褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム粒少、ロームブロック ϕ 5~30mm・本状アシ量。

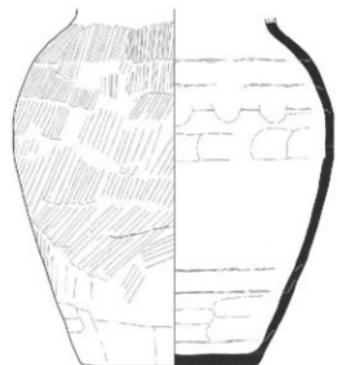
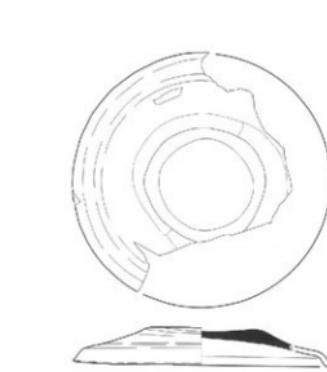
第2号藏骨器



第3号藏骨器



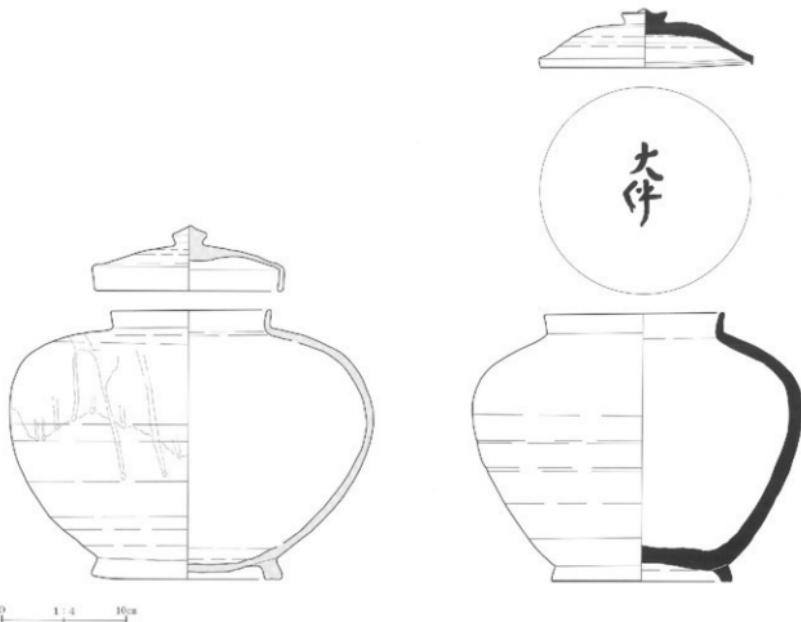
第1号藏骨器



第98図 藏骨器（1）

第2号藏骨器

第3号藏骨器



第99図 藏骨器（2）

は1個体のみである。須恵器蓋は2・3の他3点あるが、それぞれ別個体のようである。須恵器片は3個体(4~6)の他49点、高台片は7の他1点、甕片は4点。土師質では壺・高台壺の内ミガキ片2点(10)、内黒片9点(8・9)で、8の底部に「志太」の、9には「良」(?)の墨書がある。土師質の甕片14点、土師器壺片15点あるが、小片で図示しない。11は2肩出土の壺形洋で、長さ9.4cm、幅11.5cm、厚さ4.9cm、重さ355g。底面に灰青色の硬化した砂質部分(図ドット範囲)が付着している。備考 遺物はある程度埋没した段階で流入しており、情状時期は、遺物の年代より若干遅る可能性が強い。

グリッド出土遺物

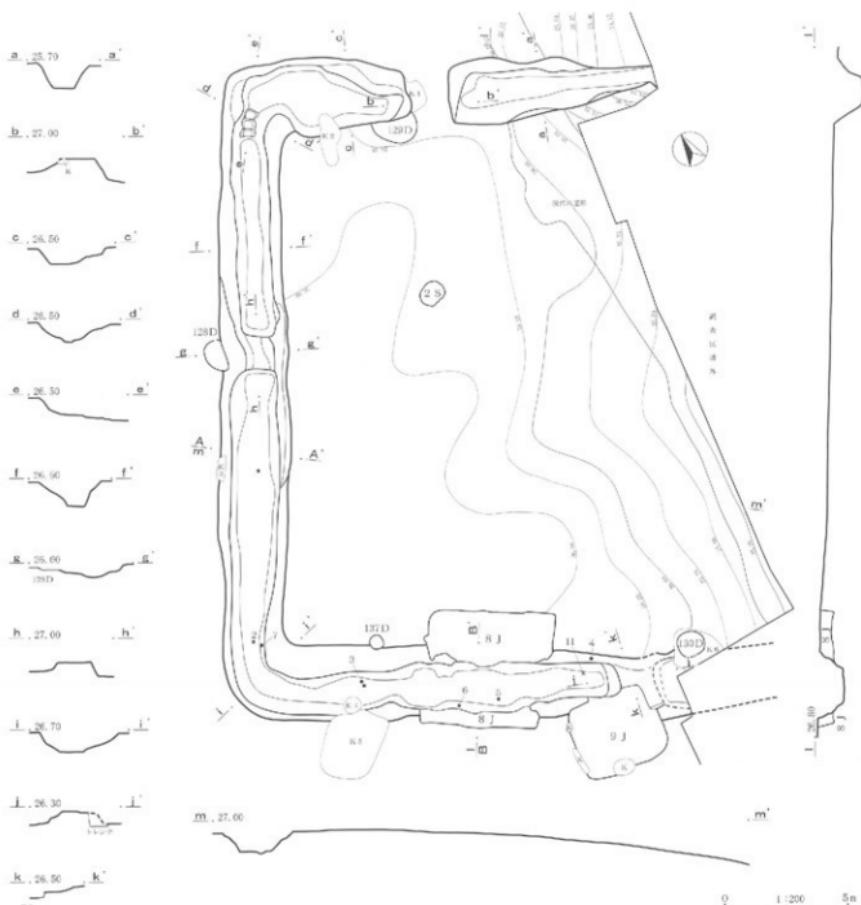
グリッドからは761点の土器片が採取されている。東

台地では391点あり、斜面地を除く各グリッドからほぼまんべんなく出土している。種別・器種による特徴的な分布もみられない。ただ、平安住居の位置するグリッドでは、概して遺物分布がやや希薄になる傾向がある。土師器甕類、土師質の壺・甕が主体であるが、灰釉片が10点、須恵器壺・甕片が17点混じる。

西台地では370点の土器片が採取されている。西側斜面地、グリッド26ライン、Q~U29・30の谷頭部とTライン(現代道路部分)にはほとんど分布はみられない。

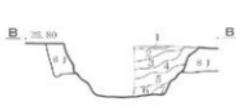
27ライン以北の北部では250点で、平坦部に広く分布する。灰釉片が8点、須恵器片が14点まるで、種別・器種による偏在は認められない。グリッドP31の灰釉3点は14号坑に、直接接するQ31の墨書「寺」(?) (図版66)は4号住居に関わる遺物かもしれない。P28からは須恵器高台壺の大片が採取されている。

27ライン以南の中央部では112点で、1号掘立柱周辺

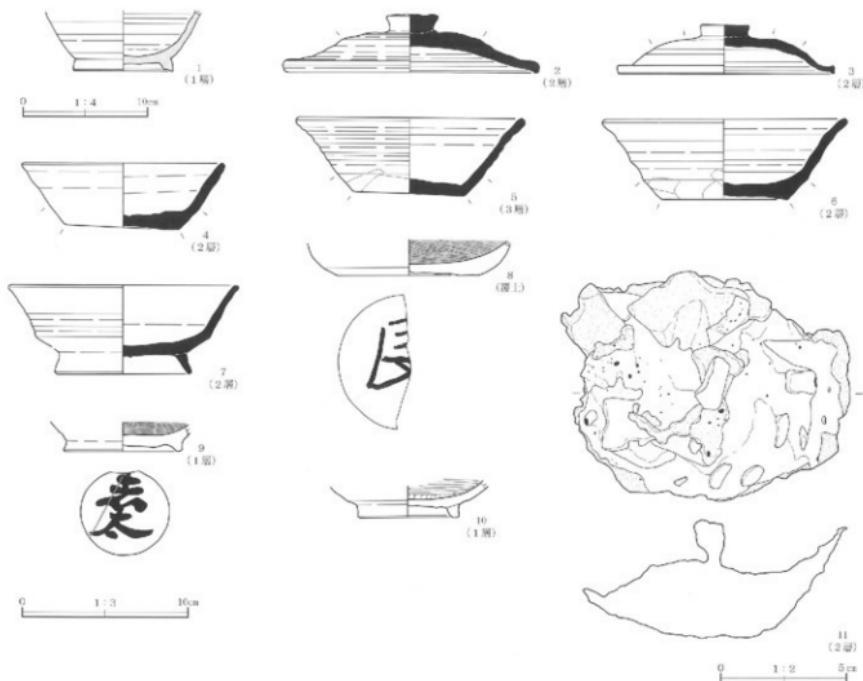


第6号溝状遺構

1. 黒褐色土 塗りあり、粘性やや有。ローム粒少量。ロームブロックφ10mm程度、黒色土粒多。
2. 暗褐色土 剥離面有。粘性やや有。ローム粒多。ロームブロックφ1~2mmやや多。
3. 黒褐色土 塗まり有。粘性や有。ローム粒やや多。ロームブロックφ1~5mm程度、同のローム少量。
4. 黑褐色土 塗まり有。粘性やや有。3層切替。色調やや薄。
5. 黑褐色土 塗りあり、粘性有。ローム粒少。ロームブロックφ1mm程度、極大的ローム少量。
6. 黑褐色土 塗りあり、粘性有。ローム粒・ロームブロックφ1~2mmやや多。羅丸のローム少量。
7. 黑褐色土 塗りあり有。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロックφ10~20mm少量。
8. 黑褐色土 塗りあり有。粘性やや有。ローム粒多。ロームブロックφ1~3mmやや多。窓状のコーム少量。ロームブロックφ1mm無量。
9. 黑褐色土 塗りやや有。粘性やや有。ローム粒多。回次のローム少量。
10. 黑褐色土 塗りやや有。粘性やや有。ローム粒多。回次のローム少量。
11. 黑褐色土 塗りやや有。粘性やや有。ローム粒多。ロームブロックφ1~10mm少量。
12. 深褐色土 塗りやや有。粘性やや有。大粒度のローム粒・ロームブロックφ1~30mmやや多。
13. 黑褐色土 塗り有。粘性有。ローム粒多。灰青ロームブロックφ10~20mmやや多。



第100図 第6号溝状遺構 (1)



第101図 第6号溝状遺構（2）

のJ22で33点、K22で65点、L22で43点、N22で79点とやまとまった分布がみられる。特に須恵器が多く、K22で26点、L22で23点、M22で11点、N22で30点ときわだっている。器種は壺・蓋・盤・甕であり、6号溝（方形区画溝）出土の須恵器との関連が窺われる。接合するものが少なく、図示できる資料はないが、掘立柱建物址のおおよその構築時期を推定する上でも、手がかりを提供するグリッド遺物と思われる。

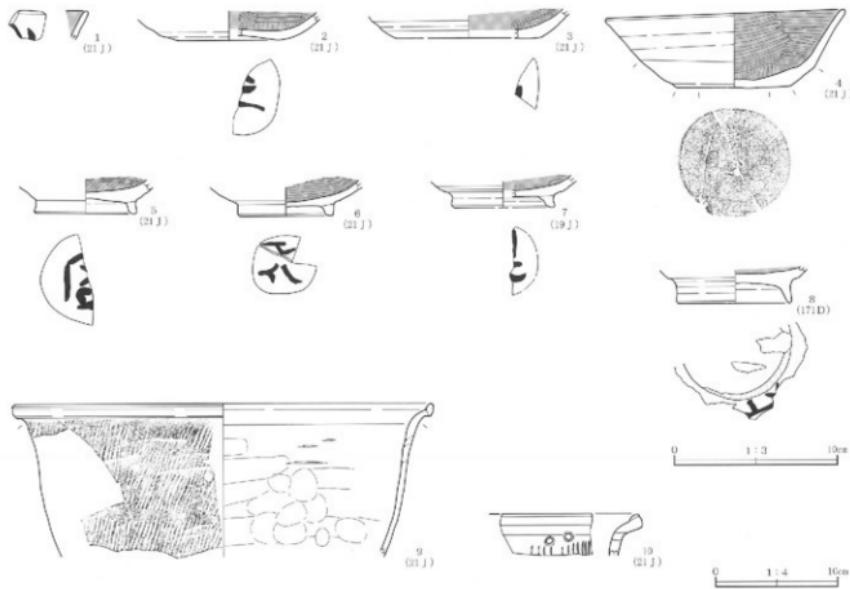
このほか、鉄滓6点と鉄製品1点が採取されている。鉄滓はN33、P33、Q27、K22に各1点、N22に2点と鉄釘片1点である。

トレンチ出土遺物

トレンチからは234点の土器片が採取されている。西

台地では144点で、南部の1T～16Tで67点、中部部の17T～22Tで36点、北部の23T～29Tで37点、谷部31Tの基本層序第II層で3点、同Vc層で1点。東台地では90点で、北半部の33T～35Tで24点、南半部の36T～42Tで66点である。

西台地南部の1T～16Tでは、須恵器（壺・蓋・甕）が22点あり、中央部5点、北部1点、東台地南部5点と比べ比較的目立つ数量である。グリッド22ラインの須恵器出土状況の延長線上にある現象のようにも思われる。土器以外では、鉄滓が10点採取されている。12・14～18・20'・21・39Tで、17Tで2点、他は各1点である。西台地中央部から南部にはほぼ限定されるが、これとともに筑波石片が出土しているのが注意を引く。6・11・13・15・17・20Tで各1点と数は少ないが、他のトレンチではみられない現象である。



第102図 時期外遺構出土の平安時代遺物

時期外遺構出土の平安時代遺物

(第102図、第44表)

平安期以外の遺構から出土した平安遺物に関しては、各遺構および各項で触れておいたので、それを参照されたい。第102図は、墨書き器を中心図示した。1~7は内黒の壺・高台壺、8は叩き調整の壺あるいは瓶、9は2個の焼成後穿孔を持つ甕の破片である。

金属器のX線写真について

(IV 出土遺物の鑑定と分析 図版2)

今回、第29号住居址出土の錐状鉄器（第89図6）、第1号掘立柱建物址出土の器種不明鉄器（第97図4）、第14号土坑出土の銅器（第97図5）の3点について、X線写真撮影を行った。第1号掘立柱の鉄器では、形状のやや不明瞭な上部形状の透視であったが、著しい鏽化のために、良好なX線写真は得られなかった。また、第29号住居址の鉄器についても、一部鉄分に置換された木質部の遺存は比較的よく、期待したほどの結果は得られていない。従って、実測図はあくまで肉眼観察による作図である。

第22表 第2分作区止山・山瀬観察表

No.	位置 層位	種別 種類	遺存度	し度 (cm)	器形・技法の特徴	砲士	機械	色 調	備考
1	覆上2層 土師質 灰(内風)	口縁 8/8 高麗光仔	22.7 3.3 16.6	- - -	本体内部で焼て、やち上がり。はくわづかに外腹。 ロクロ成形、ヨコヨリ削り。底面断面へくびり。 外腹断面へくびり。	砲士 小鉢 朱雀身	良好 茶褐色	赤褐色	本体外側にヒザツのビビング。
2	複数層 二重質 灰	口縁 6/8 高麗光仔	13.0 3.6 8.8	- - -	本体ややさめに内腹溝なし立ち上がり。ロクロ成形。 ロクロ成形、ヨコヨリ削り。底面断面へくびり。 内腹断面へくびり。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	本体外側にヒザツのビビング。
3	覆上3層 三重質 灰 (内風)	口縁 6/8 芯部-灰 灰	13.6 3.9 7.65	- - -	本体ややさめに内腹溝なし立ち上がり。ロクロ成形。 ロクロ成形、ヨコヨリ削り。底面断面へくびり。 内腹断面へくびり。	砲士 機械 朱雀身	良好 茶褐色	茶褐色	本体外側にヒザツのビビング。
4	覆上層 (内風)	口縁 1/5 [3.1]	(12.75)	-	本体はヤハナ内腹で、立ち上がり。ロクロ成形。ヨ クロ成形。内腹黒色斑状。丁寧な仕事。外風無 い。	砲士	良好	茶褐色	ロクロヒザツが強烈だが、腹では 全く工具使用か?
5	カマド2層 土師質 灰	体部~ 底部 6/8 [1.9]	- - -	- - -	ロクロ成形。ロクロミ削り。追加。作業下部に左方 の平手をへくびり。底部一方の平手をへく びり。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	ロクロは全く未発達している。
6	覆土1層 土師質 灰(内風)	口縁 3/8 高麗光仔	(13.6) 4.2 6.5	- - -	本体内部(内腹)に立ち上がり。ロクロ成形に外腹。 ロクロ成形、ヨコヨリ削り。底面断面へくびり。 底部断面へくびり。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	ロクロやヒザツが少く、火道黒色地 面。(作業ナゲ)。
7	カマド内 土師質 高砂灰	口縁 2/3 高青常窯	(14.0) 8.6 5.5	- - -	ハの字に開けた外腹、底部直腹間に有る。ロ クロ成形。ヨコヨリ削りなどして、底部断面不規 則。底部二つともくびり。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	内腹やや落灰。 内腹直腹ナゲ。
8	覆土2層 土師質 高砂灰 (内風)	芯部-灰 灰 灰常窯	14.2 2.5 0.7	- - -	ハの字に開けた外腹、底部直腹間に有る。ロ クロ成形。ヨコヨリ削りなどして、底部断面不規 則。底部二つともくびり。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	本体下部に手作らへくびり。 内腹黒色地。
9	覆土2層 土師質 小窓灰	口縁 4/8 -	12.7 12.9 8.2	- - -	側面中央に人頭を付けて、裏面は落灰しない。 横手や外腹。横手正面立腹。内腹は直腹。5.5万 円のロクロ。底面直腹。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	内腹ヨコ方向のヒザツが入る。
10	覆土2層 土師質 壁	瓶片 (内風 1/8) [6.65]	(24.0)	-	ロクロはくびり上げ、受け口の裏面はほとんど落 灰せず、そのまま裏面にロクロ。瓶頭はヨコサギ。 瓶頭はヨコサギ。内腹はヒザツが強烈しない。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	表面平滑。
11	カマド内 覆土3層 小窓灰	口縁 2/6 -	(15.8)	-	ロクロはくびり上げ、瓶首や瓶底、小窓部オフ セット。瓶底内腹のヨコサギ。脚部等へくびり。 頭部はヨコサギ。	砲士	良好	茶褐色	内腹に旋渦面。内外深付済。 頭部が脚部面なし。
12	覆上 2~3層	土師質 灰	口縁 6/8 22.2 21.5 16.7	- - -	白番目つぶしあげ。口縁は心臓部ロクロ、底面 は横手削子文字後。上部内腹(スレーブサズ)、内 腹ヨコサギ(バニティボトム)。	砲士 機械	良好	茶褐色	古文映出済。 シマリ模様材に巻き。 ハゼ柄、火道黒色。
13	カマド 剥離質	口縁 灰	口縁 4/8 20.2 24.4 -	- - -	口縫部は受け口で強めに外腹。腰帶はくび り。底部中央に最大断面、外腹アカタマのケツリが ヨコ方向のヒザツに置かず。	砲士 機械	良好 茶褐色 多 数	白茶色	薄手、秋田焼風。 内腹押圧感。
14	覆土2層 軟器 刀ノ	-	4.21 1.3 0.35	- - -	刀部と木部に分かれれる。接合しないのが同一個体 か。蓋部には刃が付着している。	-	-	-	-
15	復土2層 石織 摩石	足存	7.4 6.55 2.85	-	底面に軽打痕。全蓋溝。	-	-	-	石材-安石 蓋重:192.0kg

第23表 第3分作区止山・山瀬観察表

No.	位置 層位	種別 種類	遺存度	寸 数 (cm)	器形・技法の特徴	砲士	機械	色 調	備 考
1	覆上4層 土師質 灰	完存	12.8 3.35 5.2	- - -	体部や内腹にひだり立上り。ロクロ成形。ロ クロ目削り。(底面は横手削子へくびり)、底面直 腹。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	内腹ヨコ、火道灰、裏面。
2	覆土2層 土師質 灰	口縁 7/8 -	12.4 3.2 7.25	- - -	ロクロ成形。ヨコヨリ削り。体部や内腹直腹に ひだり立上りがある。底面直腹へくびり。底板へく びり。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	近部粘土洗浄。
3	復土2層 土師質 灰 4層	土師質 灰	口縁 6/8 -	12.5 3.1 7.6	ロクロ成形。ヨコヨリ削り。体部や内腹直腹に ひだり立上りがある。底面直腹へくびり。内腹2ヒ ダ。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色	茶褐色
4	覆土1層 土師質 灰 復土2層	口縁 7/8 底部-灰 灰	12.4 2.9 6.8	- - -	ロクロ成形。ヨコヨリ削り。体部や内腹直腹に ひだり立上りがある。底面直腹へくびり。内腹2ヒ ダ。	砲士 機械	良好 茶褐色 小鉢	茶褐色 明示色	腰背灰。
5	復土4層 土師質 灰	口縁 4/8 底部光仔	13.0 2.66 6.7	- - -	ヨコヨリ削り。ヨコヨリ削り。体部内腹直腹にひだ り立上り。内腹や外腹。底板へくびり。外板ヨコヨ リ削り。工具痕等にヒダ。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色 茶むらさき	外腹一目覚める。 内腹の墨面荒れる。
6	覆土4層 土師質 灰	口縁-陶火燒 底部光仔	12.9 3.5 7.6	- - -	ヨコヨリ削り。ヨコヨリ削り。体部内腹直腹にひだ り立上り。内腹や外腹。底板へくびり。外板ヨコヨ リ削り。工具痕等にヒダ。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色 茶むらさき	内腹には粘土が からみ残されている。
7	カマド1層 覆土2層	土師質 灰	口縁~ 仙都 底部光仔	15.1 4.5 6.8	ヨコヨリ削り。ヨコヨリ削り。体部内腹直腹にひだ り立上り。内腹や外腹。底板へくびり。外板ヨコヨ リ削り。	砲士 機械	良好 茶褐色	茶褐色 茶褐色	大ぶりな墨面。 外腹ヨコヨリ。 工具等にヒダ。

No.	位置 層位	種類 特徴	高さ cm	器形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
8	復土1層 土質 高台付 (内高)	口縁 高台付 灰陶	11.8 8.6 9.1	ハセの半径に高く貼り高さ。シクン式円錐型、ロクロト彫 め。体部内面高さに立ち上がり、内面高さは絶対 的半径。底面へクタ切付。体部一辺縦長いナット。	細砂粒 小颗粒 褐色物	良好 良好	赤褐色 赤褐色	斜付高窓やや下向。
9	カマド一層 土質 高台付 (内高)	口縁部 高台付 灰陶	14.4 [4.5] -	私文高台。コロコロ成形。ロクロの目地。体部内面高 さに立ち上がり。内面高さは絶対的半径。底面へ クタ切付。底面不規則。	細砂粒 白色粒	三好	褐紫色	体部下部に「左方角」の文字も ヘラケズリ。内面ハゼ模。
10	カマド一層 土質 高台付 灰陶	口縁部 高台付 灰陶	[20.0] [8.8] -	裏面丸みをもつて内側押す。口縁付近上げ 取。内面は立上がり。内面高さは絶対的 的半径。底面へクタ切付。内面に「ナ カマド」の文字。	細砂粒 白色粒	良好	赤褐色	外面壓模型部分多く 底付焼れ。内面ハゼ模。
11	復土3層 カマド周 囲	土質 灰陶	1.9 [3.7] -	複数の立派な窓と区別なく、壁なし。段差 無。窓一つもみづけ。内面はテラコッタの弱い ペラテ後ナツメ、ヨロの捺印。内面にはナツ メの文字。	細砂粒 赤褐色	良好	赤茶褐色	高窓現れ。底付焼れ。灰陶 外面压模型部分。ハゼ模。
12	復土4層 土質 小型窓	口縁部 高台付 灰陶	12.0 11.6 2.3	複数窓中間に大きな窓。口縁付近上げ 取。底面、内面の手打ちタコグサ・タコグサが 入る。粗面半径から下部にはコロコロのタコグサ。	細砂粒 黑紫	良好	淡褐色	内面半径からハゼ模。 スヌ付。

第24表 第1号住居址出土土器観察表

No.	位置 層位	種別 特徴	高さ cm	器形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	復土1層 灰陶萬葉 窓?	高台 -	- [4.5] [3.9]	ロクロ成形。外側施釉。やや足の低い貼付け高 度。内面も釉なし。	白 球状骨量 黑色粒	良好	褐灰色	
2	復土1層 土質 灰	口縁部 高台付	[11.9] 4.1 3.6	ロクロ成形。ロクロ目地。本体内面高さに立ち 上がり。内面外側、底面半径から内側延長。内 面タコグサ。本体下部半径からタコグサ。	細砂粒 白色粒	良好	明茶褐色	
3	復土1層 土質 萬葉作	口縁部 高台付	[13.6] 4.45 [7.2]	ややハセの底に底付付近、シクン式底。ロクロト彫 め。体部内面高さに立ち上がり。内面わざ模。外側 無施釉陶器。底面陶器タコグサ。底付付近。	細砂粒 白色粒	良好 墨斑	淡茶褐色 黑色粒	底付焼れ。 ハゼ模。内面ハゼ模。
4	カマド 土質 灰	口縁 素面欠損	- [2.5] [1.0]	底盤ひんぐく。ズル付。バツツイハ。縫合にタケダ 窓の跡。底付。下部にはタコグサのタコグサ。内面 ナツメの捺印。底付。調節不規。	白 白色	良好 墨斑	灰茶褐色 黑色粒	内面付焼れ。 カマド焼成跡付。一時熱帯。
5	復土1層 土質 灰	万字	[5.8] 0.9 0.95					

第25表 第5号住居址出土土器観察表

No.	位置 層位	種別 特徴	高さ cm	器形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	復土1層 土質 灰	口縁 高台付	[10.9] 3.1 5.1	ロクロ成形。ロクロ目地。底付に立派やや内側 施釉に立ち上がる。底盤や底付。内面わざ模。外側 半径0.4の半径タコグサ。底付半径から内側延長へタコ グサ。内面ナツメの捺印。	細砂粒 白色粒	良好	褐茶褐色	胎土に焼成の底付。 外側ハゼ模。やや渋青。
2	復土1層 土質 灰	子鉢型 窓	[14.0] [6.0]	子鉢型。底盤ひんぐく。内面はタコグサのタコグサ。 内面ナツメの捺印。底付。半径へタコグサ。	細砂粒 白色粒	良好	外 茶褐色	底盤のためか色付。
3	復土2層 土質 灰	万字	[5.8] 0.9 0.95					内面茶褐色。

第26表 第9号住居址出土土器観察表

No.	位置 層位	種別 特徴	高さ cm	器形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	復土2層 土質 灰	口縁 高台付 (内高)	13.6 5.9	ロクロ成形。ロクロ目地見え。体部内面高さ に立ち上がり。内面わざ模。内面高さは絶対的 的半径。底面へクタ切付。内面ナツメ。	砂粒 白色粒	良好 墨斑	褐灰色 黑色粒	体部底部外側に、 それぞれ「横」折、 の墨斑。
2	復土4層 土質 萬葉作 (内高)	口縁部 高台付	-	ロクロ成形。底盤ひんぐく。内面は立派やや内側 施釉。内面ナツメの捺印。	細砂粒 白色粒	良好	淡茶褐色	底部裏部の内側に墨斑。 文字不明。
3	復土3層 土質 灰	破片	-	ロクロ成形。	細砂粒 白色粒	良好	灰茶褐色	体部裏部に墨斑。 文字不明。
4	復土1層 土質 灰	口縁部 高台付	20.0 14.7 -	側面に底盤ひんぐく。側面下部に内側のへタ コグサ。上部にはタコグサ。内面は立派やや内側。 内面は内側のへタコグサの底付。	細砂粒 白色粒	良好	褐茶褐色	底盤は黒く、縫合は薄い。
5	カマド1層 土質 灰	上半 素面 欠損	[21.2] [16.5] -	側面中立派。底盤タコグサのへタコグサの底付。	細砂粒 白色粒	良好	茶褐色	表面茶褐色に側面付焼れ。 輪郭線。
6	復土1層 土質 灰	先端 灰		底盤は鋸歯のためか本体部は灰茶褐色。内面は 本体部に引く日本の鉄器系の符号をしているよう。				底盤[4.4] 太さ0.8cm×0.9cm(上) 0.7cm×0.6cm(下)

第27表 第11号住居址出土土器観察表

No.	位置 層位	種別 特徴	高さ cm	器形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	カマド 「お盆 鉢 (内高)	口縁 灰	22.0 9.4 8.8	ロクロ成形。ロクロ目地やや内側。底盤内面高さに立ち 上がり。内面は立派やや内側。底面で底盤は 薄い。底盤へタコグサ。	細砂粒 白色粒	良好 墨斑	茶褐色 黑色粒	内面茶褐色。 ミガリ。板張模。

No.	位臵 層位	判別 基準	遺存度	重量 (g)	形態・接法の特徴	出土	造成	色調	備考
2	米上 上部質 地	底部 充填 (P.F.)	底部充填	11.9 2.9 6.7	クロ成形、ロクロアラナ削り、体部外反しない 所立ち上がり、ハサの手形くた式合造、底部四 面削り、内面墨色絞り、ミガリ。	松原 良好 美佐子 吉田智	良好	青褐色 青褐色 青褐色	口財多少少がむ。
3	瓦土層 上部質 地	白鉢灰 高台坏 (内側)	白鉢灰 高台坏 (内側)	- [3.1] 6.95	ハサの手形くた式合造、ロクロ成形、ハサの手形 くた式合造見えた。外縁外反、底部削合ヘタ リ。	松原 吉田智 吉田智	良好	青褐色 (底は灰褐色) 青褐色	厚平、苔青ひびく模様。 黄褐色みつ。
4	後土層 下部質 地	上部質 地	底部 充填 (P.F.)	[11.8] [2.3] [3.6]	財部内合へタ式合造、ロクロ成形、ハサの手形くた 式合造見えた。内面墨色絞り、ミガリ。	松原 吉田智 小堀	良好	赤褐色 青褐色 小堀	画面か面に「食」の墨書き、 色が進行落ちている。
5	後土層 下部質 地	白鉢灰 高台坏 (内側)	白鉢灰 高台坏 (内側)	13.6 4.8 5.2	ハサの手形くた式合造、ロクロ成形、ロクロ削り、 内面墨色絞り、ミガリ。	松原 吉田智 吉田智	良好	薄褐色 黑色	深褐色。
6	後土層 下部質 地	上部質 地	1.塊～ 側部 2/8	[31.6] [17.7] -	側部1.塊～内面墨色絞り立ち上がり、底部水摩 内削り、内面にハサの手形くた式合造、内面墨色 絞り、柄輪有ナガ。	鶴谷純 吉田智 吉田智	良好	黑色純 (地は 赤褐色)	側部1.塊ナガ、 右側の白ハケナガ。 側部の西墨見立つ。
7	後土層 下部質 地	上部質 地	12.8～ 側部 2/8	[21.6] [31.9] -	側部最大径上位に付合せ壁厚、口縁までハサの 手形くた式合造、側部ハサナガ、内面墨色絞り、 内面削合ナガ。	松原 吉田智 吉田智	良好	赤褐色純 内面部分的に付合せ したようナガ。	西墨スズ。
8	後土層 下部質 地	七頭灰 灰	口縁～ 側部 上面充填 下平4/8	[19.8] 17.9 7.8	側部最大径上位に付合せ壁厚、口縁までハサの 手形くた式合造、側部ハサナガ、内面墨色絞り、 内面削合ナガ。	松原 吉田智 吉田智	良好	青褐色 青褐色 吉田智	アラハクタナガは、中位 近くまで反反、内面 ナガナ。
9	カマド 壁上部	土師器 表	口縁～胸部 上半次横 下平4/8	[19.8] 8.2	側部墨わざかに内面墨色絞り立ち上がり、底部には 内削り、内面にカ合せ壁、付合せ口縁に付合せ して、外縁に位に底板右方墨ナガ。	鶴谷純 吉田智	良好	紫褐色 青色	内面墨絞り付合せ。 底板つきついしない。 下半壁：底板。

第28表 第12号住居址出土十士型觀鏡表

No.	位臵 層位	種別 基準	遺存度	重量 (g)	形態・接法の特徴	出土	造成	色調	備考
1	瓦土層 上部質 地	1.塊 2/8	[11.6] 2.65 [4.2]	ロクロ成形、ハサの手形くた式合造、内面 墨色絞り立ち上がり、底部吉田智、ケリ、底部下端 に手押らハタケナガ。	鶴谷純 吉田智	良好	青褐色純	内面にスズが付着。	
2	後土層 下部質 地	上部質 地	11.8 底部 1/8	[11.6] 3.0 [5.4]	ロクロ成形、ハサの手形くた式合造、内面 墨色絞り立ち上がり、底部吉田智、吉田智、底部 下端に手押らハタケナガ、内面ハタケナガ。	鶴谷純 吉田智	良好	青褐色 青褐色	内面墨絞り、やや薄青。
3	後土 上部質 地	口縁 2/8 底部充填	[10.2] [3.65]	ロクロ成形、ロクロ削り、底部充填。底部墨わざか に内面墨色絞り立ち上がる。	鶴谷純 吉田智	良好	青褐色 青褐色	青色墨 青色墨	底瓦暗緑。
4	後土 土師器 地	口縁 3/8 底部充填	[19.8] 13.9 [9.5]	内面内削りで立ち上がり、底部ハサの手形くた式合 造、底部充填、底部吉田智、吉田智、底部下端 ハタケナガ、内面墨色絞り、吉田智。	鶴谷純 吉田智 吉田智	良好	青褐色 青褐色 吉田智	脚部上位ヨウナゲ後、 やや粗なハタケ。 下位ハタケナ。	

第29表 第15号住居址出土十士型觀鏡表

No.	位臵 層位	種別 基準	遺存度	重量 (g)	形態・接法の特徴	出土	上段～口縁、中段～墨絞り、下段～底端 (：復元壁、：現存壁)		
1	カマド 壁	口縁 充填	-	12.0 3.1 6.3	ロクロ成形、ロクロ削り、体部から口縁、右端 の外壁、底部ハタケナガ、底部下端にハサの 手形立ち上がりハタケナガ、ロ陰着丁手形。	鶴谷純 吉田智	良好	青褐色 青褐色	底部厚手、内面 底部による変色あり。 底瓦青。
2	カマド 壁	口縁 2/8 底部 0/8	[G.24.0] 3.6 [6.5]	ロクロ成形、ロクロ削り、体部内面墨色絞りから 立ち上がり、底部吉田智、吉田智、内面ハタケナ ガのハタケナ。	鶴谷純 吉田智 吉田智	良好	青褐色 青褐色 吉田智	やや薄青、体部にハゼ色。 体部内面青色に底色。	
3	後土層 土師器 地	口縁 充填 充填	- [2.0] 6.2	ロクロ成形、ロクロ削り、ハサの手形くた式合 造、内面内削り立ち上がり、底部吉田智、吉田智。	鶴谷純 吉田智	良好	青褐色 青褐色	やや薄青。	
4	後土層 上部質 地	壁	-	-	ロクロ成形、内面墨色絞り、底部ハサの手形く た式合造。	鶴谷純 吉田智	良好	青褐色 青褐色	小片、 断面に墨書き。 尺寸不明。
5	壁上層 上部質 地	口縁 2/8 底部充填	[10.6] [6.0] -	ロクロ成形、細かいロクロ目、口縁内面尚しながら 立ち上がり、吉田智から内削り、立ち上がり、底 部吉田智、吉田智、吉田智。	鶴谷純 吉田智 吉田智	良好	青褐色 青褐色 吉田智	口縫ナガ、平行、 外面部墨絞りによる 金色。	
6	カマド 土石3層	口縁 高台 高台 充填	11.8 5.4 8.1	ハサの手形くた式合造、ハサの手形くた式合 造、底部ハサの手形くた式合造から内削り、立ち 上がり、吉田智から内削り、立ち上がり、底 部吉田智、吉田智。	鶴谷純 吉田智 吉田智	良好	青褐色 青褐色 吉田智	被削たため前面剥落、 大きなくせ質、薄手。	
7	カマド 壁上	口縁～ 胸高 底部 充填	26.8 13.9 [13.8]	側部上位ハサの手形くた式合造、吉田智から内削 り、底部ハサの手形くた式合造から内削り、底 部吉田智、吉田智。	鶴谷純 吉田智 吉田智	良好	青褐色 青褐色 吉田智	鶴11はカマド奥からて右、 鶴11は向かって左に、鶴11 を倒すで下さられて。	
8	カマド カマド3層	口縁 胸高 底部 充填	- [14.2] 7.2	底部下位の墨絞り、底部吉田智から内削り、吉 田智から内削り、吉田智から内削り、吉田智。	鶴谷純 吉田智 吉田智	良好	青褐色 青褐色 吉田智	外強内や青葉付青、 内面墨絞り。	
9	カマド層 土石面 裏	完壁	13.2 8.4	笠や墨書きが残り、脚部墨絞りが口縁に来る、頂部 「く」字に外削り、口縁つぶし上げ、口縁内削、 底部吉田智から下口縁のハタケナガ、小型窓。	鶴谷純	良好	青褐色	カマド太陽、被削たため 底部へ倒落まで変化。 スズ付青。	

No.	位置 層位	種別 器	裏存灰	法面 (cm)	造形・技術の特徴	新土	焼成	色 調	備考
10	覆土3層 上部	上斜斜 壁	上斜斜 2/6 下斜斜 4/3	[24.0] [16.6]	手や指の跡、丁度横のやや外側、11番階 後ろに「生き」の跡、滑落した陶片が下へ 落とすか下へ落とすかの様子、半位からタガのへき ケタの「生き」など。	赤褐色 灰色地 黒褐色	良好	茶褐色	やや粗いのものと23. 外壁比較的の平ら。
11	カマツ 覆土層	口縁火鉢 甌	一 甌～ 甌 3/6	[17.7] [16.7]	36部火鉢、立ち止り火鉢、当面ナカム下に二ヶ ヶ所、平底、甌身内側には刃の内側タガ、バ ケツ型か?	深紅色	良好	暗褐色	被燒度、カット 標準付箋、内面 ハセ型、蓋由来る。

第30表 第17号住居址出土土器観察表

No.	位置 層位	種別 器	裏存灰	法面 (cm)	解釈・復元の特徴	新土	焼成	色 調	備考
1	カマツ層 2層	土質質 灰	11壁 7/8 底灰火鉢	14.2 [3.7] 8.8	火鉢は近縁的に外へ出し、口縁外側、ハクヒ成 形、口は自然燒成、底部や底火鉢、燒成不順、 火鉢、手すりの跡、底火鉢。	小便 多 高身 灰	良好	青灰色 青灰色	カマツ燒成材、電 爐付箋。
2	カマツ層	土質質 灰	11壁 2/3 底灰火鉢	14.1 3.9 6.8	「本物」の山形、底火鉢に外反する、クロヒ成 形、口は自然燒成、底部や底火鉢、燒成不順、 火鉢、手すりの跡、底火鉢。	小便 多 高身 灰	良好	青褐色 青褐色	表面や底火鉢、 カマツ標準付箋。
3	カマツ層	土質質 灰 (内窓)	11壁 3/4 底灰火 灰(内窓)	16.5 5.1 7.1	休憩用し山形、内窓無しに立ち上がる。ハクヒ成 形、口は自然燒成、底部や底火鉢、火口部や 火口部の内窓、内窓火鉢。	難燃性 火口部 火口部	良好	暗褐色 青色地	焼成に要する、こ替 三種火口、丸み凹び、 火口部内窓。
4	復12号 屋根灰 灰火鉢 (内窓)	11壁 6/8 底灰火 鉢、灰 灰(内窓)	13.1 4.8 6.6	ハクヒに隣接した窓火鉢、口自然、わずかに外反、 ハクヒ成形、口は自然燒成、底部や底火鉢、火 口部窓火、火口部火、内窓無しの窓、内窓火 鉢。	難燃性 窓火口 火口部	良好	青褐色 青褐色	内部外面に窓の墨書き、 火口部火。	
5	カマツ層	上斜斜 底灰火 鉢(内窓)	11壁 3/4 底灰火 鉢(内窓)	14.0 5.0 7.0	ハクヒに隣接した窓火鉢、口自然、わずかに外 反、ハクヒ成形、口は自然燒成、底部や底火鉢、火 口部火、内窓無しの窓、内窓火鉢。	難燃性 窓火口 火口部	良好	青褐色 青褐色	表面荒れ、一窓墨、 火口部火。
6	カマツ層 上部	口縁火 鉢	11壁 1/5	[33.0] [16.7] -	制御はわざに内窓した火鉢に立ち上がり、底火鉢 から火鉢にかけて窓面に隣接、窓面から窓タガ方 向の隙間等、内窓ハサナゲ調節。	難燃性 火口部 火口部	良好	灰褐色 青色地	ローラー軸に引けた火鉢、 外側つまみに凹び。

第31表 第18号住居址出土土器観察表

No.	位置 層位	種別 器	裏存灰	法面 (cm)	解釈・復元の特徴	新土	焼成	色 調	備考
1	復12号 土質質 灰	11壁 6/8	-	12.6 4.5 5.1	クロヒ成形、口自然火、やや内窓無し、せん 上に上窓火、火口部火で外反、底部や底火鉢、火 口部窓火、火口部火、内窓、内窓火鉢のノブ。	青褐色 火口部 火口部	良好	青褐色 青褐色	内窓外面に墨書き、 ハグリが強しい。
2	覆土3層 上斜斜 火	口縁 1/5 底灰火 鉢	(13.0) 1.0 0.1	14.0 1.0 0.1	ハクヒ成形、ローラー軸、火口部火で外反、 ローラー軸火、火口部火、火口部火、火口部火、 火口部火、火口部火、火口部火、火口部火。	小便 多 高身 灰	良好	青褐色 青褐色	底火鉢火に沿って墨書き。
3	カマツ 層上2層	11斜斜 火	窓	13.2 3.9 6.0	ハクヒ成形、ローラー軸、火口部火で外反、 ローラー軸火、火口部火、火口部火、火口部火、 火口部火、火口部火、火口部火、火口部火。	難燃性 火口部 火口部	良好	青褐色 青褐色	外壁に一部墨書き、 火口部火。
4	覆土2層 土質質 灰	下斜斜 火	下斜斜 2/6 灰 灰	[1.9] [1.9] 7.4	「火下」の火口部火の火口部火、火口部火、火 口部火は火口部火の火口部火、内窓無しの火 口部火。	難燃性 火口部 火口部	良好	青褐色 青褐色	墨書き、 火口部火。
5	覆土2層	鉢器 刀子	鐵器 刀子	青面 0.3cm 總長 1.6cm 總長 0.6cm	青面 0.3cm 總長 1.6cm 總長 0.6cm	-	-	-	刀子現長 [12.6cm] 青面現長 [6.0cm]

第32表 第20号住居址出土遺物観察表

No.	位置 層位	種別 器	裏存灰	法面 (cm)	器形・技術の特徴	新土	焼成	色 調	備考
1	覆土3層 灰 灰火 鉢	コロ火 鉢	底灰火 灰	[15.0] 9.0	ローラー成形、ロコロ目皿火、横筋が位置するやや上 に最大径、底部や底火鉢、火口部火、やや火 口部火の高さ、外壁、内窓無し、底火鉢の高さがある。	黒褐色 底火鉢 火口部	良好	内 墨書き 外 墨書き	外壁墨書き、横筋火2.2cm 外壁墨書きからの 割合、3割。
2	覆土2層 土質質 灰	口縁 1/6 底灰火 鉢	[12.1] 4.5 5.8	クロヒ成形、ローラー軸火、火口部火で外反、底部や 底火鉢火、火口部火、火口部火、火口部火、火 口部火、火口部火、火口部火。	難燃性 火口部 火口部	良好	青褐色 青褐色	底火鉢火と墨書きの 高さ、火口部火。	
3	覆土2層	土質質 灰	1.壁 2/6 高台 4/6	[14.2] 2.9 [0.2]	クロヒ成形、ローラー軸火、火口部火で外反、底部や 底火鉢火、火口部火、火口部火、火口部火、火 口部火、火口部火、火口部火。	難燃性 火口部 火口部	良好	青褐色 青褐色	明滅墨書き 底火鉢火。
4	覆土3層 上斜斜 底火 (内窓)	コロ火 鉢	高台 2/6 高台 4/6	13.9 3.3 5.6	ローラー成形、ロコロ目皿火、火口部火で外反、 底部や底火鉢火、火口部火、火口部火、火 口部火、火口部火、火口部火。	難燃性 火口部 火口部	良好	青褐色 青褐色	ローラー火や火口部火、 火口部火。
5	カマツ層 11斜斜 火	口縁 4/6 底灰 4/6 白泥ハクリ	[13.0] [2.0] [2.2]	ローラー成形、ロコロ目皿火、火口部火で外反、 底部や底火鉢火、火口部火、火口部火、火 口部火、火口部火、火口部火。	難燃性 火口部 火口部	良好	青褐色 青褐色	口部火の一部墨書き、 火口部火。	
6	覆土2層	土質質 灰	壁片	-	ローラー成形、火口部火で外反、火口部火、 底部や底火鉢火、火口部火、火口部火、火 口部火、火口部火。	難燃性 火口部 火口部	良好	青褐色 青褐色	火口部火に墨書き、 文字不明。
7	覆土2層	土質質 灰	11壁 2/6 高台 4/6	[24.0] [16.7]	横筋やや内窓無しの火口部火で外反する。 ハクヒ型、ロコロ目皿火、火口部火で外反、火 口部火、火口部火、火口部火、火口部火。	難燃性 火口部 火口部	良好	暗褐色 暗褐色	内壁には脚上墨書き、 被燒度の火口部火。

No.	位置 部位	種別 品種	生育度	収量 (kg)	収穫・技法の特徴	肥土	砂土	汚泥	備考
8	肥土上部 表面	野菜 小芋		規則 3.3 厚 0.3	穴の開いた状態。表面不平。下部が擴張するが、上部と同時に木質化しないものはない。内部のより硬い部分も見当たらない。				
9	肥土3層 表面	野菜 力士	力士のひみ		表面や内部は水ぬれ、然しが斯うして、無理に力を抜いても簡単に剥離されて、その構造の外へ出でる。表面ではなまら。				力士底長 6.0cm 力士幅 1.1cm 重さ 0.5kg

第33表 第23号住居址出土土器観察表

No.	位置 部位	種別 品種	遺物名	重量 (kg)	収穫・技法の特徴	粘土	焼成	色調	備考
1	灰土上 表面	灰種陶器 瓦類	口縁欠損 瓦片 4/8	- [21.8] [0.0]	クロコ成形、リクヨ見付。底部を削る。高台部 正丸刃切端、底丸切端。高台は大抵丸いの字 形。柄部に斜めに右方内へペッタリ。	滑物 出玉粒 黑色粒	良好 灰 灰黑色	白色 灰 灰黑色	頭部に凹凸。内部間に溝筋 の跡がある。腹の一部 背面に直角に 1/4 個。
2	壁 1.3 層 土御賞 塗		壁上口縁欠損 瓦類欠損	23.0 [16.4] [13.6]	陶器上口縁欠損形。クロコ底存。受け口切 端。内側に斜めに右方内へペッタリ。高台部の方 面のセザン、株土追加目立つ。	吸物 出玉粒 白色粒	良好 白 白	素黄色 白色 白色	側面部に直角に 1/4 個 より多く、横筋へ傾斜 半手で作る調子。
3	壁 1.2 層 土御賞 灰		口縁 李形 2/8 瓦片 6/8	[13.0] 4.2 5.5	クロコ成形、リクヨ見付。体部へ、底盤から削 り落す。1/4 周辺や先端に若干底盤削除。手柄へ タブレット。体頂下端を削らべタブレット。	滑物 出玉粒 黑色粒	良好 白 白	褐色 白色 白色	全体的にやや厚手。 器皿部。
4	壁 1.1 层 土御賞 灰 高台片 (内裏)	口縁 6/8 体各部 瓦片 7/8	12.0 4.05 5.6	クロコ成形、リクヨ口縁「正丸」具足羽(弓羽)。盆部 かぶせ。今後は底盤に立ちあがく。盆部底盤下端に削 り落す。ハシゴ片、高台片等、初期タイプ(ナダツ)。	滑物 出玉粒 黑色粒 黑色粒	良好 白 白	明灰色 白色 黑色	外周に凹凸。 破損部に心地のない 器皿部。	
5	壁 1.1 层 土御賞 高台片 (内裏)	口縁 6/8 体各部 瓦片 7/8	16.9 6.1 8.2	クロコ成形。リクヨ口縁「正丸」具足羽(弓羽)。盆部 かぶせ。今後は底盤に立ちあがく。盆部底盤下端に削 り落す。ハシゴ片、高台片等、初期タイプ(ナダツ)。	滑物 出玉粒 黑色粒 黑色粒	良好 白 白	明灰色 白色 黑色	側面部に直角。 漆器部。金本に厚手。 器皿部。	
6	カマド 1 層 土御賞 灰 (内裏)	口縁 7/8 高台一部 瓦片	12.5 2.0 6.0	クロコ成形。クロコ口縁。体基へ縦擦出し端に開 き、内面黒色底斑。ミカキ。底盤高台付近、盆部ナダツ。	滑物 出玉粒 黑色粒 黑色粒	良好 白 白	白色 白色 白色	器皿部の一部。 燒接部の黒色。 破損部のみ。	
7	灰土 1 层 土御賞 高台片 (内裏)	破片	-	クロコ成形。底盤高台付近後、回転ナダツ。内面 白地斑、ミカキ。	砂粒	良好	烧物	芯部に墨痕。 文字不明。	
8	カマド 1 层 土御賞 灰 (内裏)	口縁欠損 瓦類瓦片	[3.2] 7.0	リクヨ成形。リクヨ口縁やや歪曲。底部や内面は 側に立ちあがく。底盤は方角に削らべタブレット。	滑物 出玉粒 黑色粒 白色粒	良好 白 白	茶褐色 茶褐色 (底部)	外周にピケである。 内面黒色化。	
9	壁土 1 层 土御賞 高台片 (内裏)	口縁 4/8 瓦片 6/8 瓦片 6/8 (内裏)	11.5 4.7 6.6	リクヨ成形。リクヨ口縁。体部へ縦擦出し端に開 き、内面黒色底斑。ミカキ。底盤高台付近、盆部 ナダツ。底盤下端を削らべタブレット。	滑物 出玉粒 黑色粒 黑色粒	良好 白 白	明灰色 白色 白色	外周に筋状熱痕。 スズ付葉。変色。	
10	壁土 1 层 土御賞 高台片 (内裏)	口縁 6/8 高台片 7/8	14.9 6.6 8.1	クロコ成形。リクヨ口縁やや歪曲。盆部内面黒色 に立ちあがく。盆部底盤下端に削り落す。高台 片。体頂下端を削らべタブレット。	砂粒	良好 白 白	明灰色 白色 黑色	全体的に筋状かげ。 底部付葉に土器底痕。 方面にガキ。	
11	壁土 1 层 土御賞 灰 (内裏)	破片	-	クロコ成形。口縁わずかに外湾。内面黒色化褪 色。	砂粒	良好 白	烧物	芯部に墨痕。 文字不明。	
12	壁土 1 层 土御賞 灰 (内裏)	破片	-	クロコ成形。内面黒色化褪色。ミカキ。	砂粒	良好	茶褐色	全体的に墨痕。 文字不明。	

第34表 第25号住居址出土土器観察表

No.	位置 部位	種別 品種	遺物名	重量 (kg)	収穫・技法の特徴	粘土	焼成	色調	備考
1	土御賞 灰	口縁 瓦片	口縁 4/8 瓦片 4/8 瓦片 6/8 瓦片	12.3 4.1 6.2	クロコ成形。リクヨ口縁。体部内面黒色に立ちあ がく。底盤下端に削り落す。底盤を斜めに削 り落す。底盤へ縦擦出。内面黒色化褪色。	滑物 出玉粒 黑色粒 黑色粒	良好 白 白	白色 白色	内面ではないナダツ。
2	時六五上 土御賞 灰	口縁	口縁 5/8 瓦片	12.6 3.7 7.0	クロコ成形。リクヨ口縁見えず。底盤へ縦擦出 し。底盤へ縦擦出。底盤を斜めに削り落す。内 面ともに削り落す。	砂粒	良好	毛燒物	被燒底。芯が切羽。 窓を保護されたか。 粘土七。
3	窓認印 土御賞 高台片 (内裏)	口縁 2/8 高台片 (内裏)	(14.8) 5.4 7.0	リクヨ成形。リクヨ口縁やや歪曲。体部内面黒色 に立ちあがく。底盤へ縦擦出。底盤を斜めに削 り落す。底盤下端を削らべタブレット。	砂粒 多 燒物	良好 白	烧物	芯部に墨痕。 内面。ミカキ。 窓を立つ。墨痕。	
4	復七 3 層 土御賞 高台片 (内裏)	口縁 2/8 高台片 (内裏)	(13.8) 6.9 8.1	リクヨ成形。リクヨ口縁を斜め。体部内面黒色 に立ちあがく。底盤へ縦擦出。底盤を斜めに削 り落す。底盤へ縦擦出。内面黒色化褪色。	砂粒 多 燒物	良好 白	茶褐色 白色 白色	芯部に墨痕。 内面。ミカキ。 被燒底變色。	
5	時六五上 土御賞 高台片	口縁 1/8 高台片	16.0 3.7 8.8	リクヨ成形。リクヨ口縁。体部へ縦擦出。外擦出しな がらも。底盤へ縦擦出。底盤を斜めに削り落す。底盤 下端を斜めに削り落す。内面黒色化。	砂粒 黑 烧物	良好 黑	明灰色 黑色 黑色	窓に多くの剥離。 やや墨濃い墨痕。 芯部。ミカキ。	
6	時六五上 土御賞 灰	口縁欠損 瓦片 3/8	[10.0] [11.5]	頸部や内面等にさしか上る。平底。梅子文 印が強め。下位には内面へ手持らべタブレット。	砂粒 白	良好	烧物 白	芯部に多量のスス 付着。全体に被燒。	

第35表 第28号住居址出土土器類觀察表

No.	位臯 層位	種別 器種	遺物序	法量 (cm)	器形・特徴の特徴	紹介	施成	色調	備考
1	カマド層	土師質 高足杯	二号灰陶 瓶形 底部~ 近2.7/8	[5.0] 8.3	口クロ成形、やや豊富の凹の字に開く點打痕等、 施部は直系切込み。全体やや内凹、内面しづか。	表沙粒 裏は	良好	暗赤 色	内瓦部の中央くぼみ、 断面にカマドの焼成材 で看、被覆物多。
2	壤土1層	土師質 甕	口鉢 4/8 芯部光牙	[14.0] 11.5 7.0	肩部や口部、脚部の中ほど以下に最大径、 底部4/8、へり切り、脚部下端は右方向の子持ち ハラケズ、二重底つまみ上げ。	表沙粒 裏黒 色	良好	深赤 色むら	内面焼成に工具使用か、 ハラケズの底。 被覆物多。
3	カマド2層	土師質 甕	口鉢 6/8 瓶形 2/8 底部大鉢	[19.4] 19.0 -	唇部大人跡を以て凹やくび上に開き、口縁外反 上に口縁が半円に上げる、通底下から左側アカラ 角の傾度へハラケズ)、下底にはナメキの左方向の クズ。	表沙粒 裏色	良好	褐褐色 色むら	口縁外面にテグテ 並ぶナメキのような底。 ヌメリ付。

第36表 第29号住居址出土土器類觀察表

No.	位臯 層位	種別 器種	遺物序	法量 (cm)	器形・特徴の特徴	紹介	施成	色調	備考
1	床土	土師質 甕	口鉢 1/8 手鉢 2/8 底部 3/8	[11.6] [6.0] [5.0]	クロ成形、ロクロ口縁無き者。体部へロコ 内窓無しに立ち上る者。施部下端子持ちハラ ケズ、底部外反ハラケズ。	表砂粒 裏青 色	良好	青赤 色	内面スミ付量、 被熱底。
2	壤土3層	土師質 高足杯 (内窓)	口鉢 1/8 脚部~ 底部 3/8 内窓	[15.1] 6.0 8.0	ハの字に開く丸い内窓、クロ成形、ロクロ口縁 無し、わざと内窓にして止む。ハラケズ、 施部下端子持ちハラケズ。内窓難窓不明。	表砂粒 裏青 色	良好	褐褐色 色	内面が入り易いが、 ハラケズ多く被熱底。 被熱底。
3	床土	土師質 高足杯	口鉢 2/8 底部 高足杯	[14.8] 5.8 9.4	ハラケズノボルや内窓無しの洪付甕、ロクロ成形、 内窓無し、底部ハラケズ。内窓外反、体部へ手持ちハ ラケズ。	表砂粒 裏青 色	良好	暗赤 色	内面が入り易いが、 カマド焼成材付量、 スミ付量。
4	カマド4層	土師質 甕	口鉢 1/8 溝トロ 3/8 脚部下サク型	[19.1] [13.3] -	ハラケズノボルや内窓無しの洪付甕、ロクロ成形、 内窓無し、底部ハラケズからタケナカのハラ ケズ。内窓の右方向のハラケズハラケズ。ナメキ ナメキ。	表砂粒 裏青 色	良好	青赤 色	内面スミも有り、 カマド焼成材付量、 スミ付量。
5	カマド5層	土師質 甕	口鉢 3/8 手持ち次鉢	[18.6] [16.5]	ナメキ、底部中位に最大幅を有し、口縁外反し、 ロクロ底無し者。外縁ナメキハラケズ。内 窓ナメキ、ナメキナメキ付、ロコ方向のナメキ。	表砂粒 裏青 色	良好	褐褐色 色	外縁難窓。 カマド焼成材付量、 ボロボロ。
6	壇上4層	鉢 盤	手鉢 盤	[10.4]	複合式、手鉢 5.2/1 手鉢底 1.1	複合式 5.2cm 0.5~0.4cm 先端部前面1丸みを有する。	良好	青灰色 色	

第37表 第30号住居址出土土器類觀察表

No.	位臯 層位	種別 器種	遺物序	法量 (cm)	器形・特徴の特徴	紹介	施成	色調	備考
1	壤土2層	土師質 甕	口鉢 次鉢 底部光身	[2.5] 6.2	ロクロ成形、ロクロ口縁。底部やへり出、周輪1.5 cm。内窓無し。施部下端ハラケズ。	表砂粒 裏青 色	良好	青赤 色	被熱した断面に施部底が あらため、発熱後に被熱か。
2	壤土2層	土師質 甕	口鉢 2/8 手鉢 3/8 底部 3/8 内窓	[13.6] 4.6 6.8	ロクロ成形、ロクロ口縁。体部や内窓無しに 立ち上る者。ロクロ口縁。施部や内窓。内窓2/8 cm。内窓の右方向のナメキ。	表砂粒 裏青 色	良好	褐褐色 色	全体的にスミが付着している。 特に底部に多く見られる。
3	床土	土師質 甕	口鉢 3/8 脚部 1/8 底部 1/8 火拂	[9.0] 27.8 15.0	ハラケズ脚部、脚部が直線的な内窓無しに立ち上 る者。ロクロ外に斜め。壁部ハラケズ。内窓2/8cm。 上部。脚部底の1/8目。丁度左方ナメキ。	表砂粒 裏青 色	良好	青灰色 色	内面タガニ付ビザデ、 脚部難窓。 ヨコ、ナメキ方向も見える。
4	壇上1層	柄 刀子	刃部 刃部	[9.0cm]	刃部横貫 6.1 刃部 1.1 背骨 0.4	刃部横貫 6.1cm、刃部 0.6cm、刃部 0.4cm ※刃部と切欠、背骨の削れ跡を有する。	良好	青灰色 色	

第38表 第35号住居址出土土器類觀察表

No.	位臯 層位	種別 器種	遺物序	法量 (cm)	器形・特徴の特徴	紹介	施成	色調	備考
1	壤土3層	土師質 甕 (内窓)	底部 2/8	- 1.2 8.0	ロクロ成形、ロクロ口縁。底部下端ハラケズ。 底部ハラケズ後、ナメキ。内窓無色地窓。ミガ ナメキ。	表砂粒 裏青 色	良好	褐色 色	内面にナメキ付。
2	施成面	土師質 甕 (内窓)	瓶片	-	ロクロ成形、ロクロ口縁。体部や内窓無し。 内窓無色地窓。ミガナメキ。	表砂粒 裏青 色	良好	青灰色 色	体部ナメキ、文字不明。 ロクロ口縁。削れたような底。
3	カマド	土師質 甕	破片	-	4段の直腹に立ち上り、口縁突出に状に目 向かう者。外縁ナメキ方向の切欠き。底部は右方向の ハラケズ。	表砂粒 裏青 色	良好	褐褐色 色むら	ハラケズ削れ。 内面難窓付立。

第39表 第38号住居址出土土器類觀察表

No.	位臯 層位	種別 器種	遺物序	法量 (cm)	器形・特徴の特徴	紹介	施成	色調	備考
1	壤土2層	土師質 甕	口鉢 3/8 底部 6/8	12.5 3.4 6.0	1/3の底無し、ロクロ口縁。体部下端ハラケズ。 内窓無し。内窓ハラケズ後、ナメキ。内窓無色地窓。ミガ ナメキ。底部2/8cmの手持ちハラケズ。	表砂粒 裏青 色	良好	薄赤 色	半端。
2	壤土	土師質 甕	底部 2/8	"3.5" 5.0	1/3の底無し、ロクロ口縁。ハの字に内窓無し。 前部や内窓無し。立ち上り5.0cm。 底部下端ハラケズ。	表砂粒 裏青 色	良好	青灰色 色	前部内窓へ切り欠、 高台付。
3	カマド3層	土師質 甕	口鉢 7/8 底部充存	12.0 7.6	青筋地無しに斜ら立ち上り、脚部はやや低く、 底部充存のナメキ。施部難窓。	表砂粒 裏青 色	良好	程赤	小型。

No.	位置 層位	種別 層級	堆存度	法量 (cm)	器形・技術の特徴	出土	焼成	色 調	備 考
4	カドノ層 上部質 硬	上部質 硬	し深 2/8 別面へ傾	25.0 [7.4] -	原形は底面に立ち上がりで外反。胴部外壁をタマ方向に叩いた。底部は方角のスビナデ。コ 電面に付く。底ぐる。T基に上る。のほか。	滑らか 面付 裏付	薄茶褐色 茶褐色 黒	口縁内側へラテア？ 熟成灰。少量のスビナデ。	

第40表 第14号土坑出土物観察表

法量: 上段→口径、中段→堆高、下段→底径 (): 備考箇 [] : 現存値

No.	位置 層位	種別 層級	堆存度	法量 (cm)	器形・技術の特徴	出土	焼成	色 調	備 考
1	複土層 火被施設 質硬	ご深へ強張 欠損	13.9, 14.1	[7.4]	シクン成形。クロコ目やや強張。底部外壁をタマクリ後、裏の頸の弱い部分を叩いた。胴部半周へタマクリ。やや上に大きめ。底付に付する。底付へラテア。	滑らか 小窓	良好	灰白色 灰白色	わずかに灰化する質感と、 内部灰に薄茶色の 地がかかる。
2	複土層 土師質 灰 (内面)	二段 5/8 底付付近	4.5 7.6	[12.8]	リニア成形。クロコ目やや強張。底付に強張付いて立上り。口縁外反。底付へ底付へタマクリ。2/3の手付をタマクリ。体部底付手付へタマクリ。	滑らか 赤色付 墨型付	良好	明桂灰色 灰白色	内面高溫灰化。 ミガキ。体部外壁質ナガ。
3	複土層 土師質 灰 (内面)	二段 3/8 底付 4/8	5.0 [6.8]	[14.8]	クロコ成形。クロコ目やや強張。底付内側灰化して立ち上り。口縁外反。底付へ底付へタマクリ。2/3の手付をタマクリ。体部底付手付へタマクリ。	滑らか 赤色付 墨型付	良好	深褐色 灰白色	内面墨色化。ミガキ。 製造のためか、 底付も墨色。
4	複土層 土師質 高台 (内面)	一段 0/8 底付・高台 光付	4.9 6.2	[13.1]	クロコ成形。クロコ目やや強張。体部内側灰化に立ち上り。手付が少く、11枚以上付する。静止回転泥の底付。底付強張付。体部各面へタマクリ。	滑らか 赤色付 墨型付	良好	深褐色 灰白色	内面墨色處理。 ミガキ。端子を付する。
5	複土層 灰状土質	現段 4.7			0.35cm×0.35cmの角粒化。先端とよくに上がって12%~24%。先端0.3cm×0.2cmの凹凸。				

第41表 第6号溝址出土遺物観察表

法量: 上段→口径、中段→堆高、下段→底径 (): 備考箇 [] : 現存値

No.	位置 層位	種別 層級	堆存度	法量 (cm)	器形・技術の特徴	出土	焼成	色 調	備 考
1	覆土層 从輪郭器 底?	肩下平～ 底部のみ		[15.0] 7.8	ひし形成形。クロコ目外壁が弱い(内部側)。太い短い斜肩高台。底付外壁へタマクリ。頭部の底付灰化に立ち上る。	滑らか 黑色付	良好	青灰黑色 黑色	内面灰に今や過多色の 地がたまし、浮き付する。
2	覆土層 須恵器 西	白縫 3/8	13.3	[3.5]	クロコ成形。クロコ目やや弱い。2/3はやや墨化。天井部は圓筒形へタマクリ。内側はヒゲタマクリ。底部をむねりに内側へ曲げ匙を付す。	滑らか 墨型付 墨型付	良好	薄青灰色 墨色	青目立つ。 天井部削面へタマクリは 打撲跡。
3	覆土層 須恵器 西	1段 2/8 入部 7/8	[13.0]	3.0	クロコ成形。1/2目やや弱い。天井部灰化。口縁はやや墨化。底付やや下方へ曲げる。2/3は底へ屈て扁平。外蓋は底付上方へタマクリ。	滑らか 黑色付	良好	青灰色 黑色	つまみ頭部削面は欠損。 底付はなじみのなか。
4	覆土層 須恵器 井	1段 5/8 底付光付	11.7 3.9 6.7	[11.7]	クロコ成形。1/2目やや強張。体部やや質硬の に外反。底付は分厚い。内側は四脚へタマクリ。武部底付へタマクリ。やや屈ゆく。	滑らか 黑色付 小窓	良好	薄青灰色 黑色	内井口内コロコロア。 内底一部木質片付。
5	覆土層 須恵器 井	2段 6/8 底付光付	13.7 4.6 6.6	[13.7]	クロコ成形。1/2目やや強張。体部やや質硬の に外反。底付は分厚い。内側は四脚へタマクリ。底付に外井口の内側へタマクリ。	滑らか 黑色付 墨型付	良好	青灰色 黑色	内井口内付材質。
6	覆土層 須恵器 井	口縁 3/8 底部 5/8	[11.3]	4.9 7.4	クロコ成形。クロコ目やや強張。本体やや質硬の に立上り。口縁外反。底付は外井口の内側へタマクリ。底付は下屈て内側へ曲げ匙を付す。	滑らか 多 小窓 墨型付	良好	青灰黑色 黑色 黑色	露出する。 やや底付、底部算み。
7	覆土層 須恵器 高台部 (内面)	口縁 1/8 底部 5/8	[13.0]	5.4 7.5	クロコ成形。クロコ目やや強張。1年弱付に内側へ 立ち上り。口縁外反。1/2目やや強張。内側は四脚へタマクリ。底付は下屈て内側へ曲げ匙を付す。	滑らか 黑色付 墨型付	良好	青灰色 黑色	小窓多い。 内底付は古のひびき。
8	M234 覆土	土師質 灰 (内面)	1段欠刻 底部 4/8	[2.0] [12.2]	クロコ成形。体部下端に右方向の手持らしきタマ クリ。底付は四脚へタマクリ。外井口は四脚へタマ クリ。底付は墨系灰。底付内側は墨色。	滑らか 黑色付 墨型付	良好	青褐色 黑色	底付は青褐色！良か。
9	O244 覆土層 須恵器 高台部 (内面)	口縁 1/8 底部 5/8	[1.8]	[6.0]	クロコ成形。リタク目やや強張。ややハムに隠れ柱付萬 台。底付は墨系灰。内側は墨色。	滑らか 黑色付 墨型付	良好	青褐色 黑色	底付は青褐色！良か。
10	205 覆土層 須恵器 高台部 (内面)	口縁 1/8 底部 5/8	[1.9] 6.0	[1.9] 6.0	クロコ成形。クロコ目やや強張。底付は新井付萬 台。底付は墨系灰。内側は墨色。	滑らか 黑色付 墨型付	良好	研茶褐色 黑色	底付は青褐色！良か。
11	覆土層 須恵器 井	蓋蓋 底部	蓋蓋 底部 蓋蓋 底部	9.4 11.5 7.7	底面には青灰色の質變分が見付いている。				

第42表 第1号掘立柱建物址出土遺物観察表

法量: 上段→口径、中段→堆高、下段→底径 (): 備考箇 [] : 現存値

No.	空室 層位	種別 層級	堆存度	法量 (cm)	器形・技術の特徴	出土	焼成	色 調	備 考
1	P5 覆土層 蓋	始端 2/8 天井付 3/8 欠損	- [1.0] [17.0]	[1.0]	クロコ成形。クロコ目弱い。天井付は内側へタ マクリ。内側はヒゲに弱いタマクリ。コ錐形の内側へ 墨色オフ白にわざり42cm。	滑らか 黑色付 墨型付	良好	青褐色 黑色	既に白雲は片付つ。 小窓、器厚やや薄す。
2	P6 覆土	土師質 灰	口縁 2/8 底部 5/8	[13.0]	クロコ成形。クロコ目はぼえぎ。体部内側灰化して立 上り。右方向へタマクリ。底付は新井付萬台。右方向へタ マクリ。	滑らか 黑色付 墨型付	良好	青褐色 黑色	底付内側は墨付。 底付は墨付！良か。
3	P10 覆土	土師質 灰	横穴	-	クロコ成形。クロコ目はぼえぎ。口縁はばらばらに 外透。内側は墨色。	滑らか 黑色付 墨型付	良好	茶褐色 黑色	底付内側は墨付。 「寺」か？

No.	位置 層位	種類 器形	遺存度	測量 (cm)	縁形・技法の特徴	粒土	焼成	色調	備考
4	P10 覆土	燒過 不變			T字型の器底、火炎の使用目的的小野。T字の柄 いもつひのーの四方は折れている。長いほのな邊 部は火のままであるらしい。				

第43表 第4号出土土器觀察表

No.	位置 層位	種類 器形	遺存度	測量 (cm)	縁形・技法の特徴	粒土	焼成	色調	備考
1	覆土2番 裏窓器 盤	火炎 火炎	完形	20.1	T字型の器底、火炎の使用目的的小野。T字の柄 いもつひのーの四方は折れている。長いほのな邊 部は火のままであるらしい。	砂砾土 4.3	砂砾土 10.1	青灰色 白黑色	内外にクリック入る。 内面凹方のスリット有。

第44表 時期外遺構出土十器觀察表

No.	位置 層位	種別 器形	遺存度	測量 (cm)	縁形・技法の特徴	粒土	焼成	色調	備考	
1	覆土1層 (内品)	土師質 片	-	-	口沿成形。口唇部はわずかに外側。内面黑色絞 地、ミガ有。	砂砾土 黑色地 墨絞地	良好	暗青灰色 文字不明。	字部に墨書き。 文字不明。	
2	覆土1層 (内品)	土師質 片	-	-	口沿成形。底部へケズリ。やや凹凸有。全体や や内面全体に立ち上がり。内面黑色絞地。ミガ 有。	砂砾土 石英	良好	黄赤褐色 文字不明。	字部に墨書き。 文字不明。	
3	覆土1層 (内品)	土師質 片	-	-	口沿成形。底部を切り落し。底部下端に左方の 回転ケズリ有。内面凸凹有。ミガ有。	砂砾土 白色地 墨絞地	良好	黄赤褐色 文字不明。	字部に墨書き。 文字不明。	
4	覆土1層 土師質 片 4/6 底部欠損	口沿~ 4.5 6.9	1.6 4.5 6.9	ロクロ成形。コロクロは見えない。全体直線的に 内凹。口縁部はケズリ有。平底。底部側面に 凹向のケズリ。底部側面黒化。ミガ有。	砂砾土 白色地 墨絞地	良好	暗青色 青褐色 墨絞地	口縁や中身が白。 体部は左方向の 斜削り。ナカゲ。	字部に墨書き。 体部は左方向の 斜削り。ナカゲ。	
5	覆土1層 土師質 高台坪 (内品)	口沿欠損 底部~高台 6/8	- [2.1] 6.1	-	ロクロ成形。底部側面黒化。口唇部斜材。高台 は矢やの中に開く。内面黑色絞地。ミガ有。	砂砾土 白色地 墨絞地	良好	茶褐色 文字不明。	字部に墨書き。 字部に墨書き。	
6	覆土1層 土師質 高台坪 (内品)	口沿欠損 底部~ 高台 6/8	- [1.7] 5.5	-	ロクロ成形。ロクロ目焼成です。底部側面は丸り 後、付付高台。内面黑色絞地。ミガ有。外面ナ ツアリ。	砂砾土 墨絞地	良好	棕褐色 墨絞地	店名に墨書き。 文字不明。	
7	覆土1層 土師質 高台坪 (内品)	口唇斜 2/8	[1.9] (6.2)	ロクロ成形。底部側面黒化後、再びナツアリ。斜材 高台。内面黑色絞地。ミガ有。	砂砾土 墨絞地	良好	茶褐色 墨絞地	店名に墨書き。 文字不明。	店名に墨書き。 文字不明。	
8	覆土 土師質 高台坪 (内品)	口唇欠損 底部~高台部 [部欠損]	- 2.5 7.0	-	ロクロ成形。矢やの開わざるに窪材。底部側面へ ケズリ有。底部側面黒化。内面黑色絞地。底部で 矢や部分に開いては一方開いたミガ有。	砂砾土 白色地 墨絞地	良好	茶褐色 墨絞地	店名に墨書き。 文字不明。	店名に墨書き。 文字不明。
9	覆土2層 土師質 便	口縁 底部~中 底部欠損	[04.2] [12.31]	19.4 3.35 -	脚部は直線的で立ち上がり。ご縁部外に脚部。 受口口付。下方側の脚部。内側はヨコ方向の 脚ナリ。直脚。	砂砾土 白色地 墨絞地	良好	暗青灰色 墨絞地	骨袋目立つ。 無(白)。	骨袋目立つ。 無(白)。
10	覆土1層 土師質 便	残片	-	-	口縁の一部のみ残存。ロクロ成形。口唇部はま 上げて、受け口状の凹。内面クサバ川の明け目。 内面ナツアリ。	砂砾土 白色地 墨絞地	良好	暗茶褐色 小野 墨絞地	茶孔に二つの穿孔あり 後焼成。	茶孔に二つの穿孔あり 後焼成。

第45表 瓷器觀察表

No.	位置 層位	種別 器形	遺存度	測量 (cm)	縁形・技法の特徴	粒土	焼成	色調	備考	
1	裸土1層 裏窓器 盤	高台欠損 6/8	(21.0) 3.0 9.8	-	ロクロ成形。ロクロ目や強い。外縁下端ケズ リ内面ナツアリ。	乾燥土 白色地 白光沢	良好	白灰 青灰色	白灰 青灰色	
2	裸土1層 裏窓器 盤	口縁欠損 7/8	-	[29.3] 14.0	脚部上部に蔓入脚部等半周。外縁上端に脚部 内側の開き材。中段に脚部の吸口。下端へ内面ロ コナリ。	白色地 墨絞地 石英	やややや 良質	黑色地	筋土から剥離面か。	
3	裸土4層 灰陶物 灰	完形	19.4 3.35 -	-	シロク成形。天井井戸輪ヘア有。下端へ内面ロ コナリ。	石英地 良質	良好	金属性的 褐色。地は淡 褐色に発色 少塵	脚土1.5次心管と伴生。内面 に径1.5cmの窓ねあめ、ある が地は苔痕有。	
4	裸土4層 灰陶物 灰	完形	12.7 22.1 16.4	-	ハハの字に開くやや弱めの脚部ヘア有。ロクロ成 形。底部強なナギ。外縁上端も内面下端、ロク コナリ。内面三段から4段、脚部ヘア有。	石英地 良質	良好	金属性的 褐色。地は淡 褐色に発色 少塵	本体特にヒビ アリ。豆井のロクロ使用。 井井谷78号墓式。	
5	裸土5層 裏窓器 盤	完形	17.0 4.8 -	-	ロクロ成形。ハハの字を弱く。英井地。直ナツア リ。付付手持へケズリ。あらゆる少しつの跡跡を 回してのヘア有。	石英地 白色地 長石質	普通	褐色 褐色	内面に「人」の墨書き。 墨は不明だが字や火牛等。内 面に厚1.5cm程の窓ねあ め。井井川剥離點か。	
6	裸土5層 次回窓器 盤	完形	14.2 22.1 14.6	-	ハハの字に開くやや弱めの脚部ヘア有。ロクロ成形。 ハハの字に開くやや弱めの脚部ヘア有。内面クサバ川の明け目。 内面ナツアリ。直脚ナリ。	石英地 白色地 長石質	良好	褐色 褐色	脚部(白色地)と引き出され て取扱。實地に開けた跡跡。 脚部(白色地)と引き出され て取扱。(正面剥落)	脚部(白色地)と引き出され て取扱。實地に開けた跡跡。 脚部(白色地)と引き出され て取扱。(正面剥落)

5. その他の遺構

概要

ここでは時期不明の遺構を一括して取り扱った。遺物がなく、あっても数点の小細片か、あるいは有意義な出土状況を示さない遺構である。切り合ひ関係や覆土・掘り込み状態で時代・時期が推定される遺構もあるが、こうした遺構も、一部を除き、ここで扱っておくことにしたい。

以下にみると、遺構名称にやや不統一な点があるが、現地では遺物洗浄・注記を併行して行っていたため、混乱を避けるため、現地の遺構番号を変えることなく、そのまま使用している。なお、出土した遺物に関しては、各時代の「時期外遺構出土の遺物」の項に掲載した。

焼土址

現地調査において焼土址としたのは、確認面で焼上分布のみられる遺構である。第1・3～8号焼土址、第56・136～139号土坑がこの種の遺構である。第2号焼土址・第132号土坑は、赤化した全体や底面をもち、屋外炉とでもいべき遺構であるが、ここで扱っておく。第174・198号土坑は、わずかに赤化・硬化した底面をもつもので、平面形状から炉穴の可能性があるが、ここで扱っておくことにしたい。第4号焼土址は、時期の判明した唯一の焼土址で、平安時代の章に掲載した。また、覆土にところどころ、わずかに焼土を含む土坑については、「その他の上坑」の項で旨及することにしたい。土坑のデータについては、「第15表 上坑一覧表」を参照されたい。なお、第103図「第2号焼土址確認状況」図中の網掛けは、本図のみ通用の凡例である。

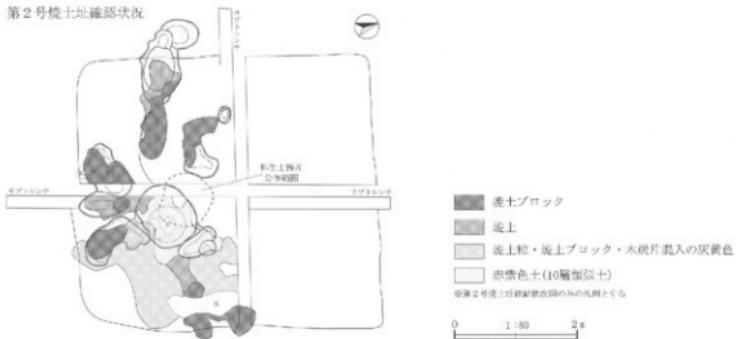
第1号焼土址 (第104図、図版29)

グリッド I 24。西台地中央部の西斜面地。東側斜面上方に包含層No.2 土器群（縄文中期）が位置する。遺存・重複 良好。形状・規模 楕円形。上面径 92.5×56 cm、底面径 89×49.5 cm、深さ 4.5 cm。底面にはわずかに赤化・硬化面がみられる。焼土は多くない。出土遺物 なし。

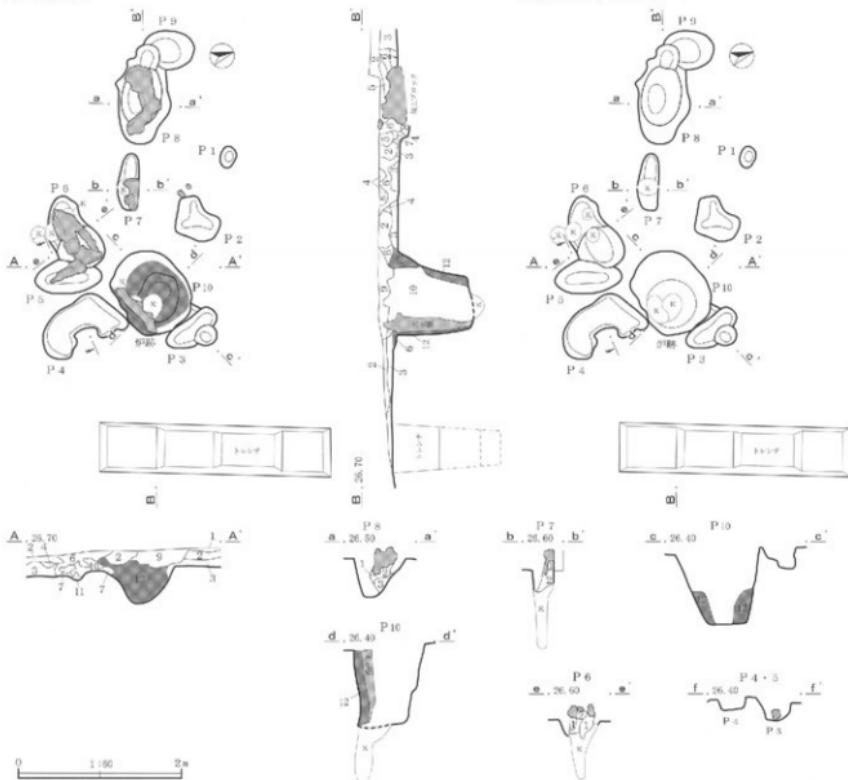
第2号焼土址 (第104図、図版29)

グリッド N22。第6号溝状遺構（方形区画溝）内北寄りの、平坦部から東に下る緩斜面地。確認状況・調査経過 径約 4.8×4.4 m の方形プランの南東部に焼土・焼土ブロックの分布がみられ、当初住居址として調査を開始した。掘り下げ直後に南側より弥生土器片が出土。層位は第1・2層である。さらに 10 cmほど掘り下げた段階で、南側から焼土・施土ブロックを含む赤紫色土が多量に検出され、火を使用したなんらかの遺構であることが確認された。北側には焼上の分布は全くみられなかつた。この段階で、当初の方形プランは、壁の立ち上がりが確認できず、床面らしい痕跡もなく、遺物も出土しないこと、第1・2層は第6号溝状遺構（方形区画溝）第2層と類似の二次移動したロームらしいことなど、住居址ではないと判断して、南側の焼土分布範囲を調査対象とした。形状・規模 が体状の赤化壁をもつP10と、崩壊した赤化壁ブロックの集積をもつP5～8、その他のビットからなる。P1は円形のビットで、深さ 15 cm、覆土は焼上粒混入の黒灰色砂質土の單一層。P2・4は不整形の掘り込みで、P2は深さ 34 cm、P4は木根址のため底面は安定しないが、深さ約 12 cm。いずれも赤化壁ブロックの集積はみられず、上面を赤化ブロック混じりの焼上が覆っていた。P3は楕円形で深さ 15 cm、東側に深さ 30 cm のビットが重複するが切り合ひはなく、覆土は P10 類似の焼上粒混じりの赤紫色土。P5～8は楕円形状の掘り込みで、赤化壁ブロックの集積をもつ。P6・7には木根址が斜めに入り込み、赤化壁を一部破壊している。赤化壁ブロック下の覆土は焼土混じりの砂質土で、被熱による地山ロームの変質か、赤化壁裏側にもともと付着していた砂質土なのかはつきりしない。P10は赤化壁をもつが体で、南壁に赤化壁が遺存する。かなり深く、太い木根址が底面を破壊するが、復元すると、上面径約 80×60 cm、底面径約 35×20 cm、深さ約 90 cm の隅丸方形の掘り方に厚さ約 10 cm の粘質土を貼り付けて構築されていたと思われる。赤化壁裏側（第12層）は被熱のためか地山ロームが軟弱な砂質土に変質しており、調査途次にかなり崩落した。底面は地山ロームで、赤化部分は認められず、カフカの木根址が下方に続いている。赤化部分はすでに除去さ

第2号焼土址確認状況



第2号焼土址



第103図 焼土址 (1)

れたものであろう。なお、東側のトレンチは、P10を標準とする窯址の可能性を考慮して、斜面側を掘り下げたものであるが、窯体を示すような痕跡は認められなかつた。造成工事による台地削除時にもこの点を再確認した。

P9は西端部にあって、上面径 52×49 cm、深さ 36 cmで、P8に切られ、覆土も斑状のロームを含む暗茶褐色土で、焼土を含まず、別造構の可能性が強い。**出土遺物** 断面 A・B の第1・2層から縄文土器小片（前期前半～後半）5点と底部を含む弥生後期土器片 11点、P6 確認面の焼土ブロック上面から縄文早期条痕文系と思われる小片が 1点出土。

備考 出土遺物から弥生時代の可能性も否定しえないが、出土層位が、第6号構造の第2層同様の二次移動したロームであるとすると、時代はさらに下ることになる。

第3号焼土址（第104図、図版30）

グリッド K27。西台地中央部の西斜面地。北西に接して第109号土坑がある。**遺存・重複** 木根址で底面一部損壊。図の網掛けは上面の焼上範囲。**形状・規模** 円形。上面径 70×60 cm、底面径 [32]×28 cm、深さ 29 cm。覆土に焼土粒・焼土ブロック含むが、多くはない。赤化面はない。**出土遺物** なし。

第5号焼土址（第104図、図版30）

グリッド R31。西台地北部の平坦地。**遺存・重複** 良好。図の網掛けは上面の焼上範囲。**形状・規模** 楕円形、上半は漏斗状に開く。上面径 78×73 cm、底面径 43×33 cm、深さ 37 cm。覆土第4層は焼上層。赤化・硬化面はない。**出土遺物** 縄文土器小片 2点、弥生土器小片 1点。

第6号焼土址（第104図、図版30）

グリッド S27。谷頭部の南に下る斜面地。**遺存・重複** 一部木根址が入る。図の網掛けは上面焼土範囲。**形状・規模** 上面径 72×42 cm、深さ約 3~6 cm の浅い楕円形状の掘り込み北側に、底面径 15×12 cm、深さ 24 cm のピット状の落ち込みを伴う。この落ち込みは木根址の可能性もある。**出土遺物** なし。

第7号焼土址（第104図、図版30）

グリッド W22。東台地南端の南斜面地。**遺存・重複** 良好。図の網掛けは上面の焼土範囲。**形状・規模** 楕丸方形。上面径 2.35×1.95 m、底面径 2.25×1.85 m、深さ 15 cm。覆土中の焼上は比較的多い。**出土遺物** なし。

第8号焼土址（第104図、図版30）

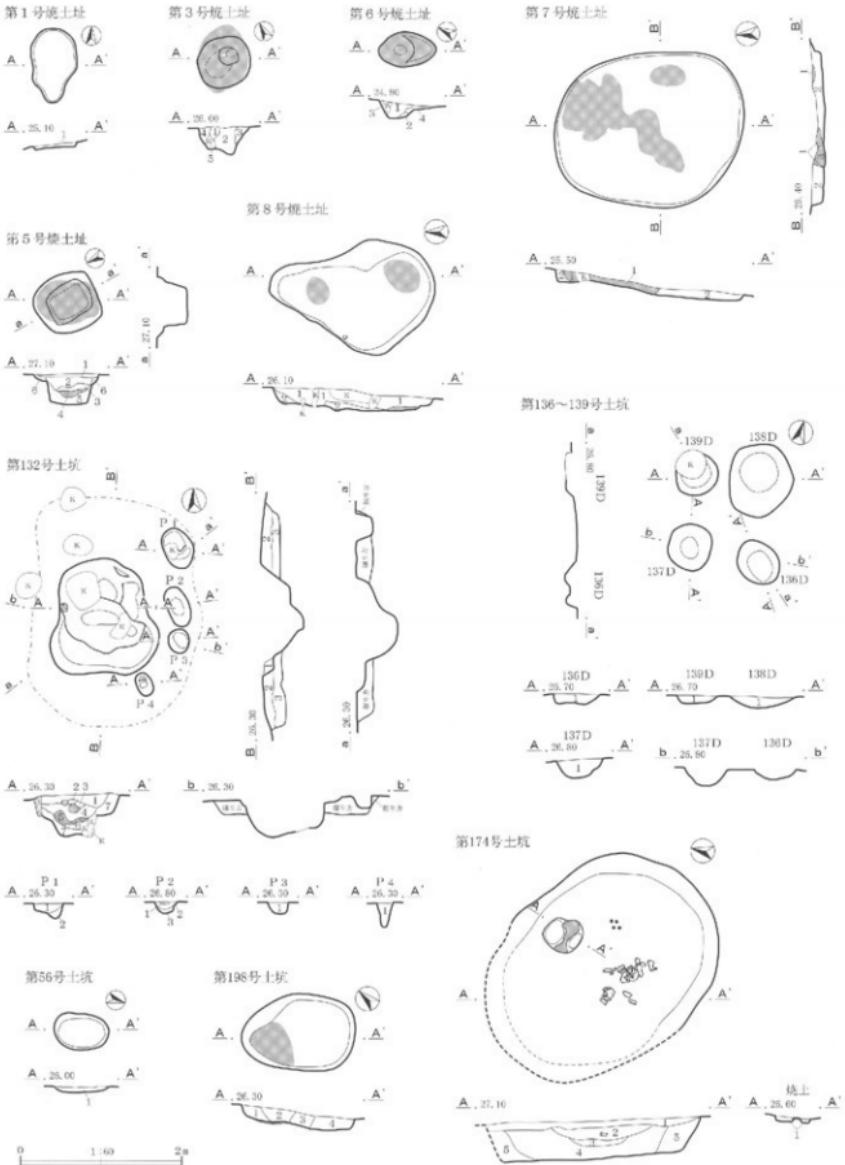
グリッド U・V24。東台地南部の西斜面地。**遺存・重複** 良好。図の網掛けは底面の焼土範囲。**形状・規模** 不整形。南北長軸約 2 m、北西～南東長軸約 1.45 m の楕円形状の 2 道構が重複したような形状である。深さ約 22 cm。底面の焼土範囲はやや赤化・硬化している。**出土遺物** 縄文土器小片 1点、弥生土器小片 1点、須恵器小片 3点、土師質の杯・甕小片 3点。

第56・136～139号土坑（第104図、図版31）

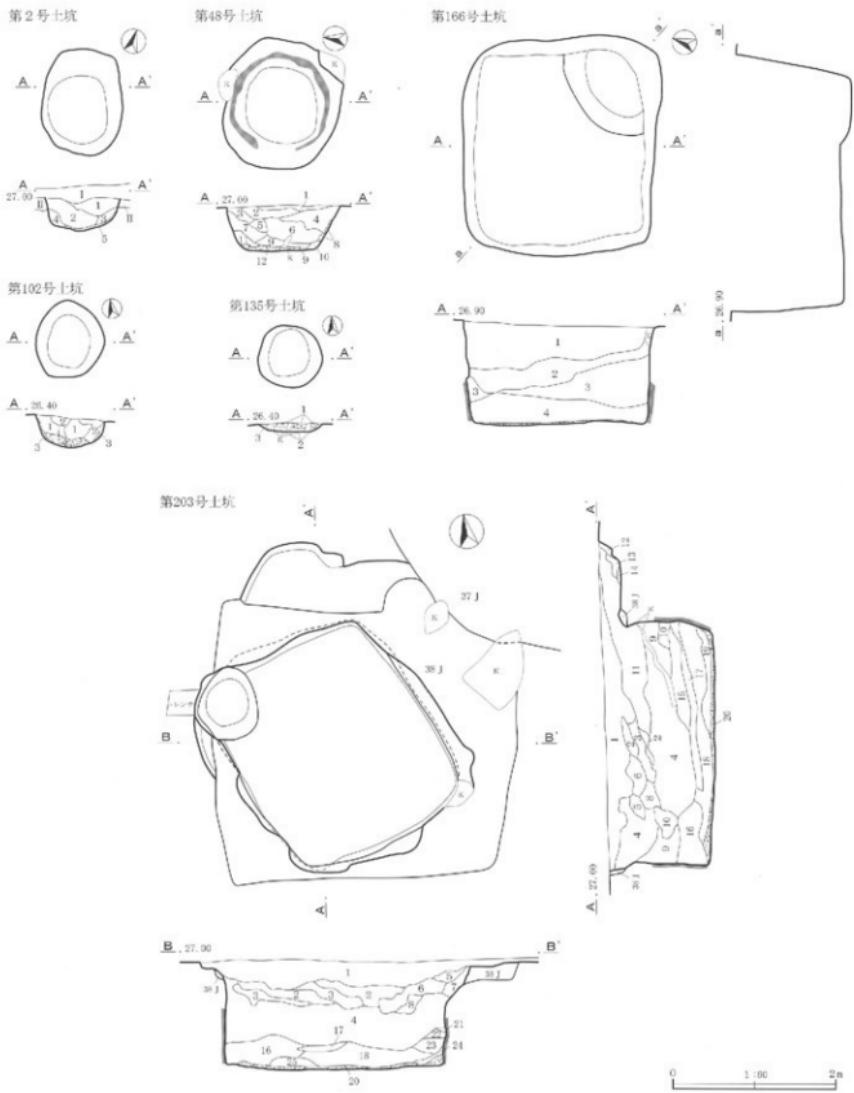
グリッド 第56号土坑は西台地北部の西緩斜面地（グリッドL33）、第136～139号土坑は西台地中央部東寄り平坦地（グリッドM22）に占地する。**遺存・重複** 良好。第137号土坑が第2号構造（方形区画溝）と重複するが、土坑が新しいようである。**形状・規模** 楕円形、円形を呈する、小規模な、浅い掘り込みである。覆土は焼上少量の單一層。**出土遺物** 56分で縄文片 1点、137号より縄文片 1点（前期後半）、時期不明 2片。

第132号土坑（第104図、図版31）

グリッド K24。西台地中央部の西緩斜面地。**遺存・重複** 木根、木根址があり込み、本来の形状をかなり損なうようである。**形状・規模** 上面径 2.85×2.08 m、深さ約 20 cm の楕丸方形の掘り方に、2枚の茶褐色土を敷いて整地し、赤化壁をもつ炉体とピット 4本を掘り込んだ道構である。炉体は、現状では、ほぼ円形の掘り込みと思われ、上面径 1.18×1.07 m、底面径 0.7×0.19 m、深さ約 50 cm を測る。南側には幅約 30 cm、深さ約 5~10 cm の段状の掘り込みがあり、あるいは足場的な掘り込みであろうか。底面は木根址の影響をうけたためか、0.7×0.19 m の細長い楕円形状を呈し、この部分周辺の底面と壁が赤化・硬化している。覆土には、焼上ブロック層や焼土層（第5層）がみられる。第6層は被燃により硬化したロームブロックの崩落層である。ピットは斜面上方側に 4本あり、整地面内に掘り込まれていることから、



第104図 烧土址(2)・土坑(1)



第105図 土坑（2）

第2号土坑
 I. 黒系褐色土透土。
 II. 黄系褐色土。硬さり弱、粘性弱。ローム質。
 1. 黑系褐色土。硬さり弱、粘性弱。炭化物少。

2. 黑系褐色土。緑茎りやや弱、透性やや有。炭化物多量。
 3. 深茶褐色土。緑茎りやや弱、透性やや有。炭化物の少。
 4. 黄系褐色土。硬さり弱、粘性やや有。炭化物の少や多、炭化物少量。
 5. 黑系褐色土。硬さり弱、粘性やや有。ローム土。

第68号下

1. 緑葉色土 緑葉色やや有、粘性弱、ローム粘・木炭片微量。
2. 黒茶色土 黒茶色やや有、粘性やや有、ローム粘・灰褐色化ロームブロック約1mm・木炭片・水溶性アソーブメント約2mm強。
3. 茶褐色土 茶褐色、粘性やや有。2層構造だが常温ロームブロックを含まない。
4. 黑茶色土 上述までやや、粘性やや有。ローム粘・ロームブロック約3mm・木炭片・木炭片少量。
5. 黑茶色土 上述と同様だがやや例化。
6. 黑茶色土 上述と同様。4層構造で木炭片を含まない。
7. 黑茶色土 上述と同様、粘性やや有。当該部解剖が木炭片をより多く含む。
8. 黑茶色土 上述と同様。粘性やや有。ローム粘・常温ローム・ロームブロック約3mm少量。
9. 黑茶色土 上述と同様、粘性やや有。ローム粘・常温ロームブロック約3mm・木炭片少量。
10. 黑茶色土 上述と同様、粘性やや有。ローム粘・木炭片やや多、炭化ロームブロックなしの層。
11. 黑色土 黒色、粘性やや有。木炭片・木炭粉多、ローム少量。
12. 黑色土 條理り有り、粘性少、火葬場。春化リムブロック約5mm強。

第105号下

1. 緑葉色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘・六炭片少量。
 2. 黑茶色土 上述と同様、粘性やや有。ローム粘・ロームブロック約1mm少量、木炭片少量。
 3. 棕黄色土 上述と同様、粘性やや有。ローム粘やや多、ロームブロック約1~5mm・木炭片少量。
 4. 黑茶色土 上述と同様。木炭片の純層。
- 第135号下
1. 灰褐色土 灰褐色やや有、粘性少、火葬場。
 2. 灰褐色土 上述と同様。ローム粉多、ロームブロック約10~20mmやや多、木炭片少量。
 3. 黑茶色土 上述と同様、粘性やや有。ローム粘・木炭片・木炭粉少量。
- 第166号下
1. 灰褐色土 上述と同様、粘性少。ロームブロックやや多、灰白色多量、東土粒少量。
 2. 灰褐色土 上述と同様、火葬場。コームブロック・炭化物多量、灰白色少量。
 3. 黑茶色土 上述と同様、粘性少。ローム粘・木炭片・木炭粉少量。
 4. 紫褐色土 上述と同様、粘性少、灰白色やや有。ローム粘・木炭片・木炭粉少量。

土坑

(第105~117図、第16表、図版32~38)

概要 この項では、縄文時代の10基、平安時代の4基、焼上式の項で扱った6基以外の195基の上坑を対象とする。その際、覆土に木炭あるいは木炭層をもつ土坑と、その他の土坑とに大別して記述することにしたい。前者のうち、最下層に木炭層をもつ土坑は壁が赤化して、炭焼き窓かとも思われる構造で、第48・166・203号土坑がこれにあたる。遺跡内ではすでに骨器が検出されていたため、火葬址の可能性も考えられたが、火葬骨片・粉が全く検出されないことから火葬址でないことは確実である。また、覆土全体に木炭が混入する土坑は、第2・102・135号土坑で、この3基では壁の赤化はみられない。なお、第5・7・41・58・75・80・141・153号は現地調査中あるいは整理段階で倒木痕と判断したもので、この8基は欠番とした。

木炭層をもつ土坑 (第105図、図版32・33)

グリッド 西台地北部の平坦地に2基 (第48・203号七坑)、東台地南半部の平坦地に1基 (第166号七坑)。遺存・重複 第48号が5構造、第203号が平安時代の第

第203号上

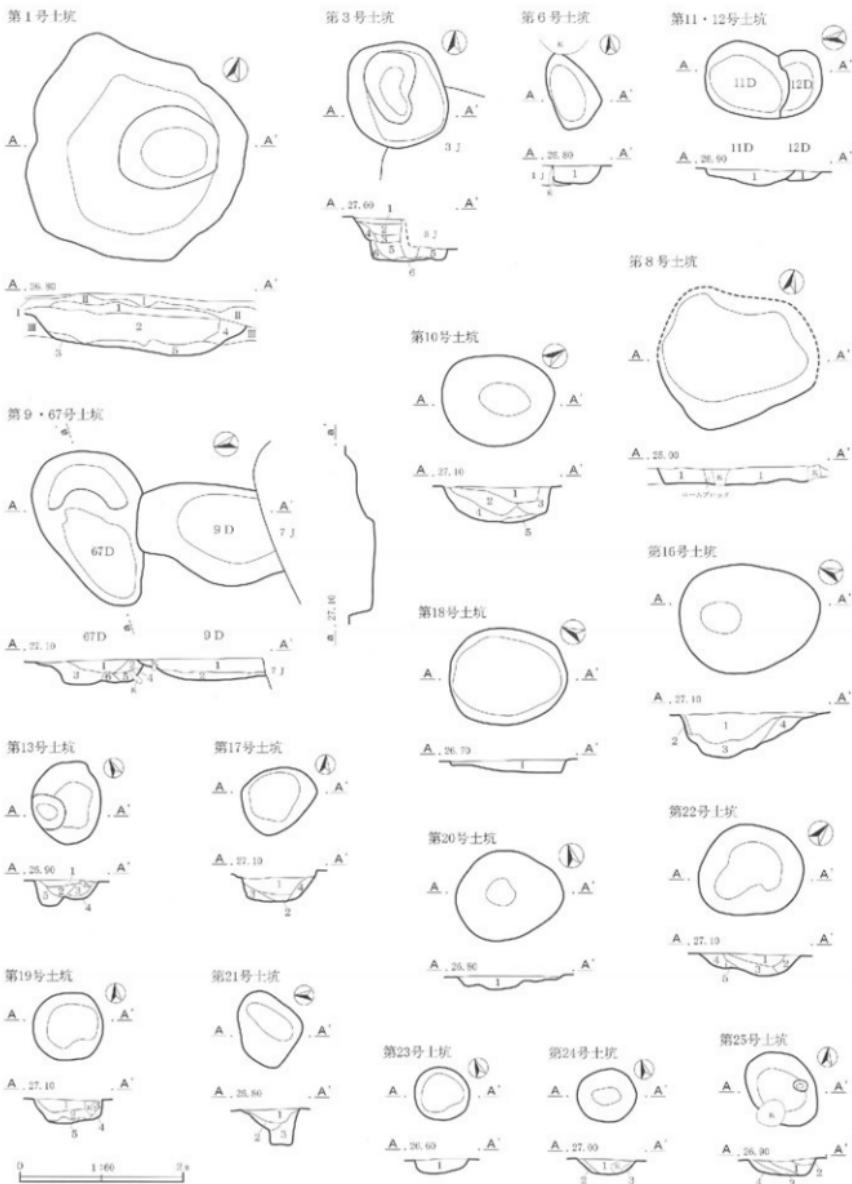
1. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性少、ローム粘・黄コムブロック約1~3mmやや多、木炭片・木炭粉約1~2mm強。
2. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性少、ローム粘・木炭片・黄コムブロック約1~10mm強。
3. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘やや多、黄コムブロック約6~10mm強。
4. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘やや多、黄コムブロック約6~30mm強。
5. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘・黄コムブロック約10~60mm強。
6. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘・黄コムブロック約2mm少量。
7. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘やや多、黄コムブロック約3~20mm強。
8. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘やや多、黄コムブロック約6mm少量。
9. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘・木炭片少量、木炭粉約1mm少量。
10. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘・木炭片少量、木炭粉約1mm少量。
11. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘・黄コムブロック約10~100mm少量、木炭片多量。
12. 棕黄色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘やや多。
13. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘やや多、木炭片少量。
14. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘やや多、木炭片やや多。
15. 黑茶色土 緑葉色やや有、粘性やや有。ローム粘・木炭片少量。
16. 紫褐色土 紫褐色やや有、粘性やや有。ローム粘・コームブロック約2mm少量。
17. 黑茶色土 黑茶色やや有、粘性やや有。ローム粘・木炭片・木炭粉・木炭少量。
18. 灰褐色土 灰褐色やや有、粘性やや有。ローム粘やや多、木炭片少量。
19. 灰褐色土 灰褐色やや有、粘性やや有。ローム粘・木炭片少量。
20. 大理石 灰褐色やや有、粘性やや有。ローム粘・木炭片少量。
21. 黑茶色土 灰褐色やや有、粘性やや有。ローム粘・木炭片少量。
22. 灰褐色土 灰褐色やや有、粘性弱。ローム粘少量。
23. 黑茶色土 灰褐色やや有、粘性弱。ローム粘少量。
24. 黑茶色土 灰褐色やや有、粘性弱。ローム粘少量。
25. 黑茶色土 灰褐色やや有、粘性弱。ローム粘・木炭片少量。

38号住居址を切る。形状・規模 第48号は円形、第166・

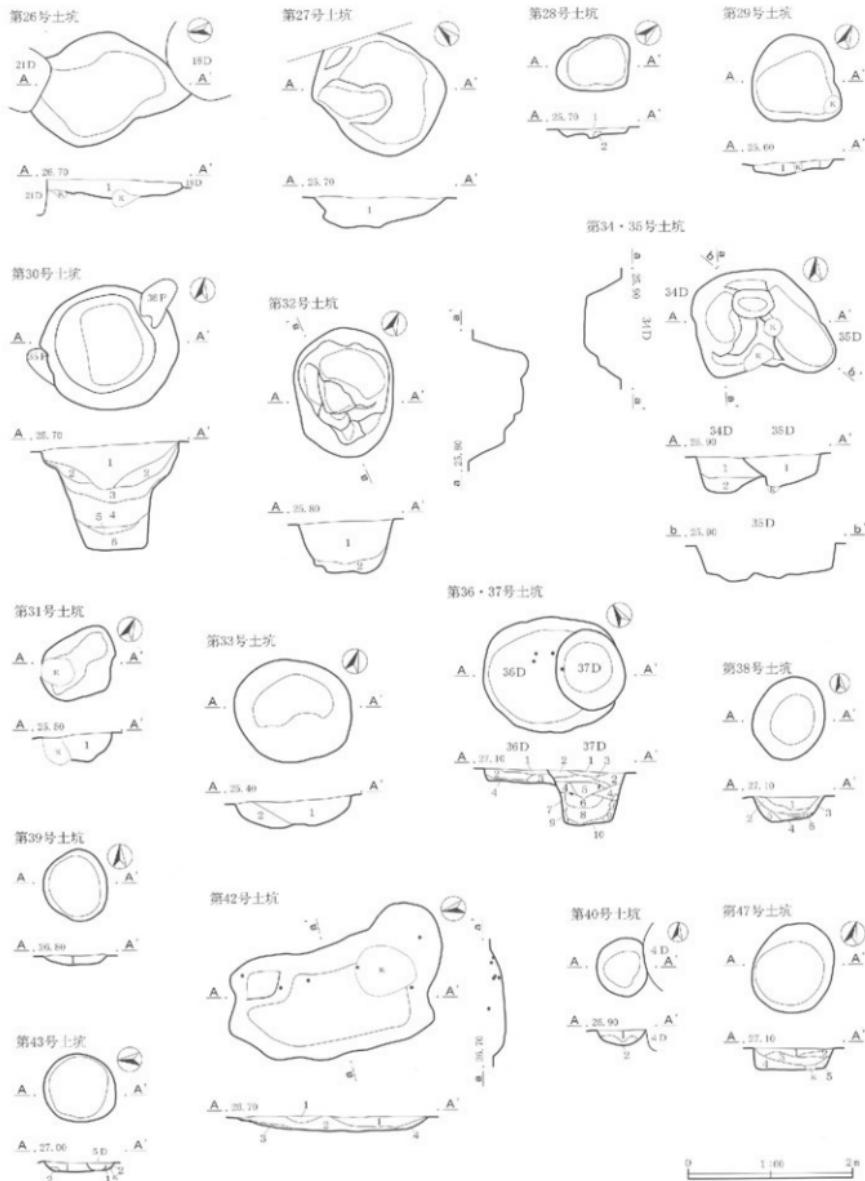
203号は方形を呈し、規模も大きく、掘り込みも深い。いずれも底面に接する最下層に木炭層・粒の純層があり、壁下半部が赤化しているが、48号では西壁、166・203号では一段深い掘り込みのあるコーナー部分の壁は赤化していない。166・203号では壁が一部オーバーハングしていて天井部があった可能性が強く、コーナー部分に円形の凹窓が掘削され、ここから横穴状に燃焼室が造り出されたという掘削工程が想定される。構築後は出入り口として使用されたであろう。なお、203号の周辺には深さ約10~20cm前後の一段低い掘り込みがあり、第38号住居址のため一部未検出であるが、作業場的な空間であろうか。また、166号の東壁・西壁際には炭化物を含む136・138Pがあり、あるいは上屋構造を支えるピットかもしれない。出土遺物 48号より土器片56点 (縄文前期前半~後半30、時期不明26点)、166号より縄文片5点、灰釉片2点、須恵器片1点、土師器片1点、時期不明6点。203号より縄文片43点 (前期上体)、灰釉片3点、上師器・須恵器片84点、時期不明56点。

木炭を混入する土坑 (第105図、図版32)

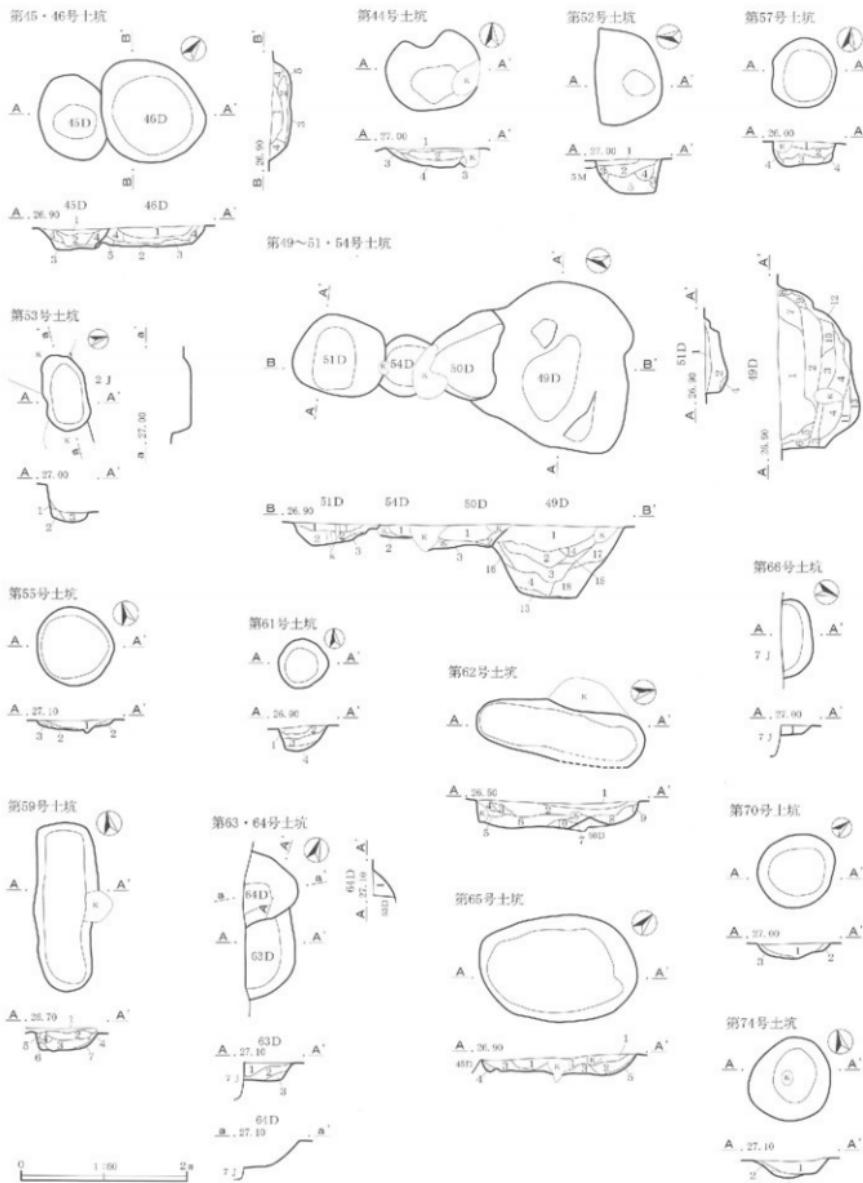
グリッド いずれも西台地にある。南部平坦地 (第2号



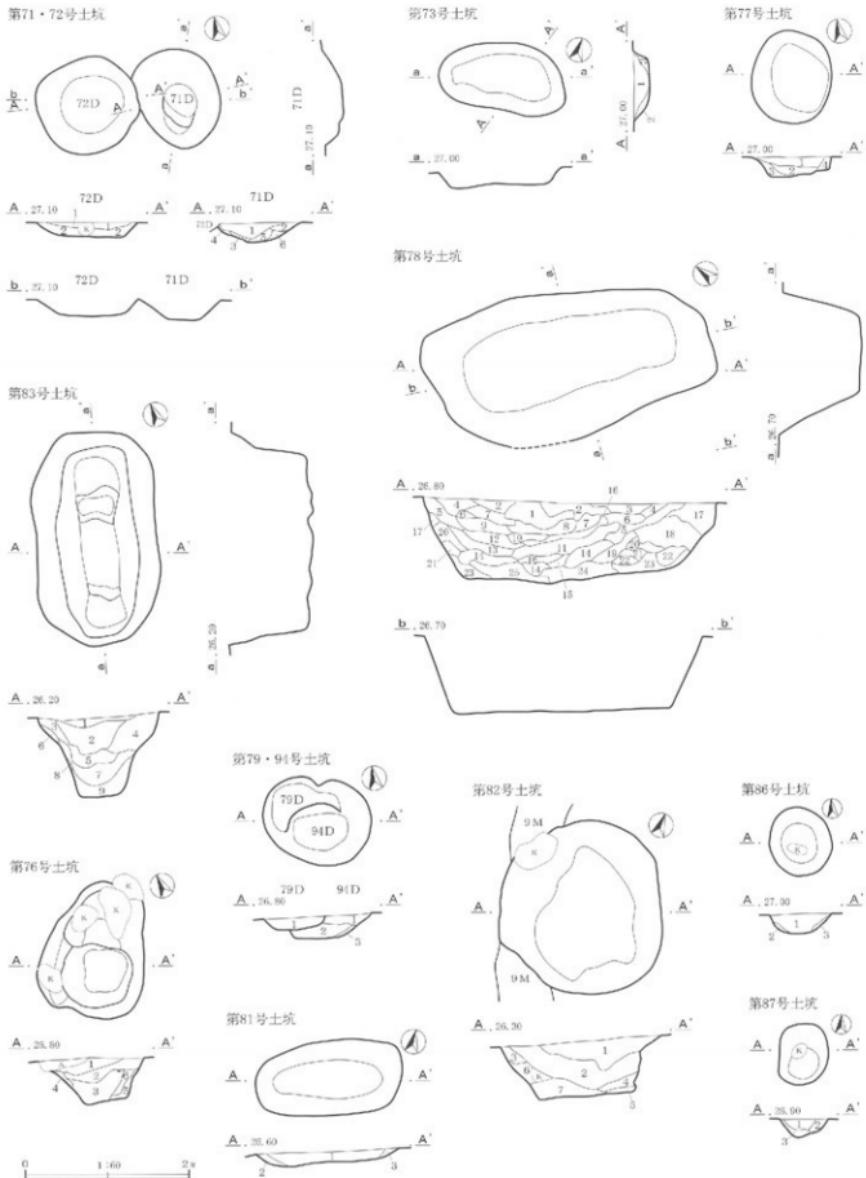
第106図 土坑(3)

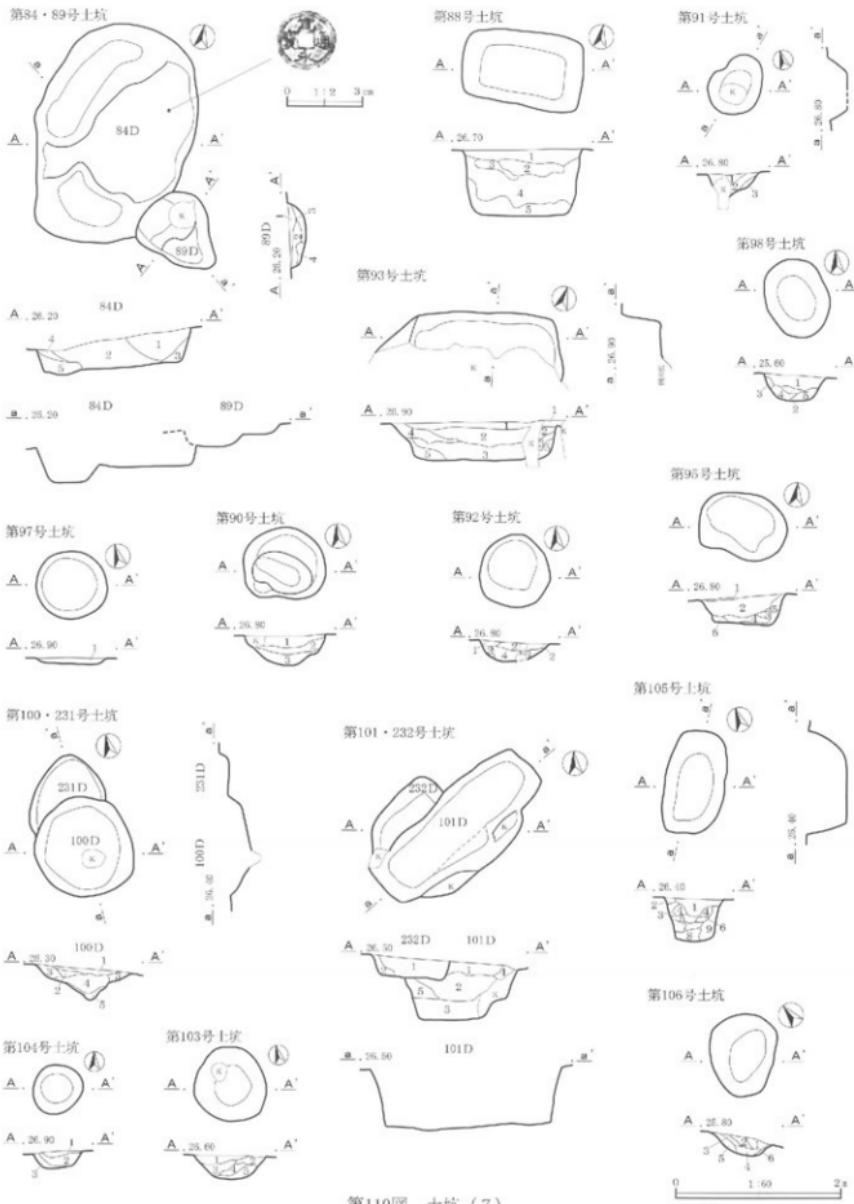


第107図 土坑 (4)

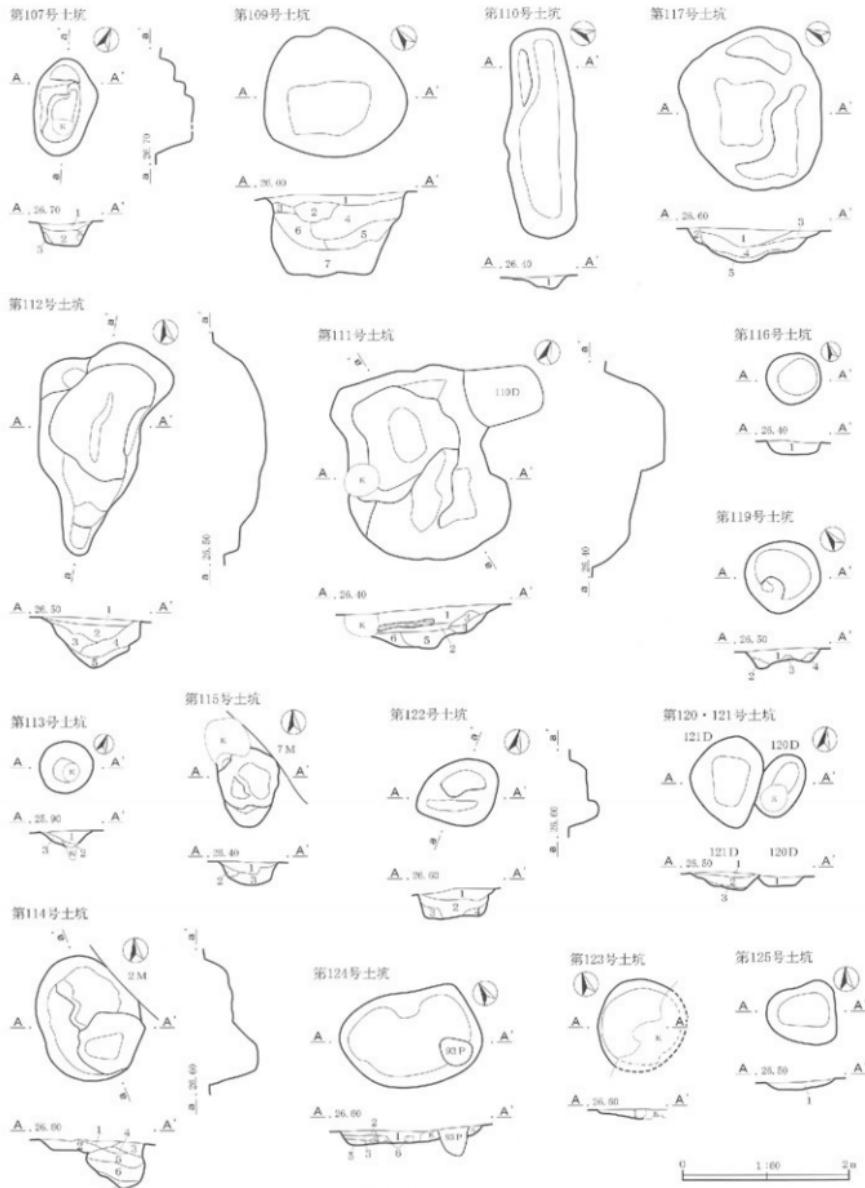


第108図 土坑 (5)

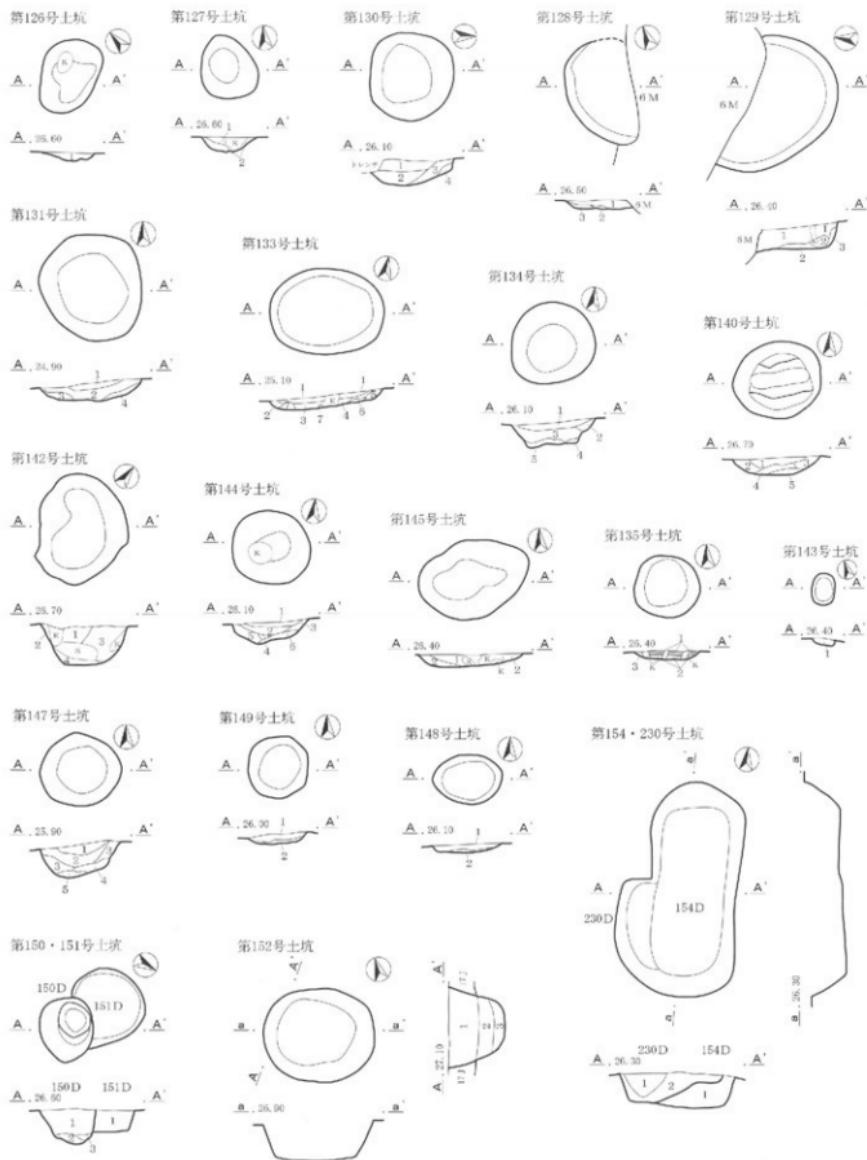




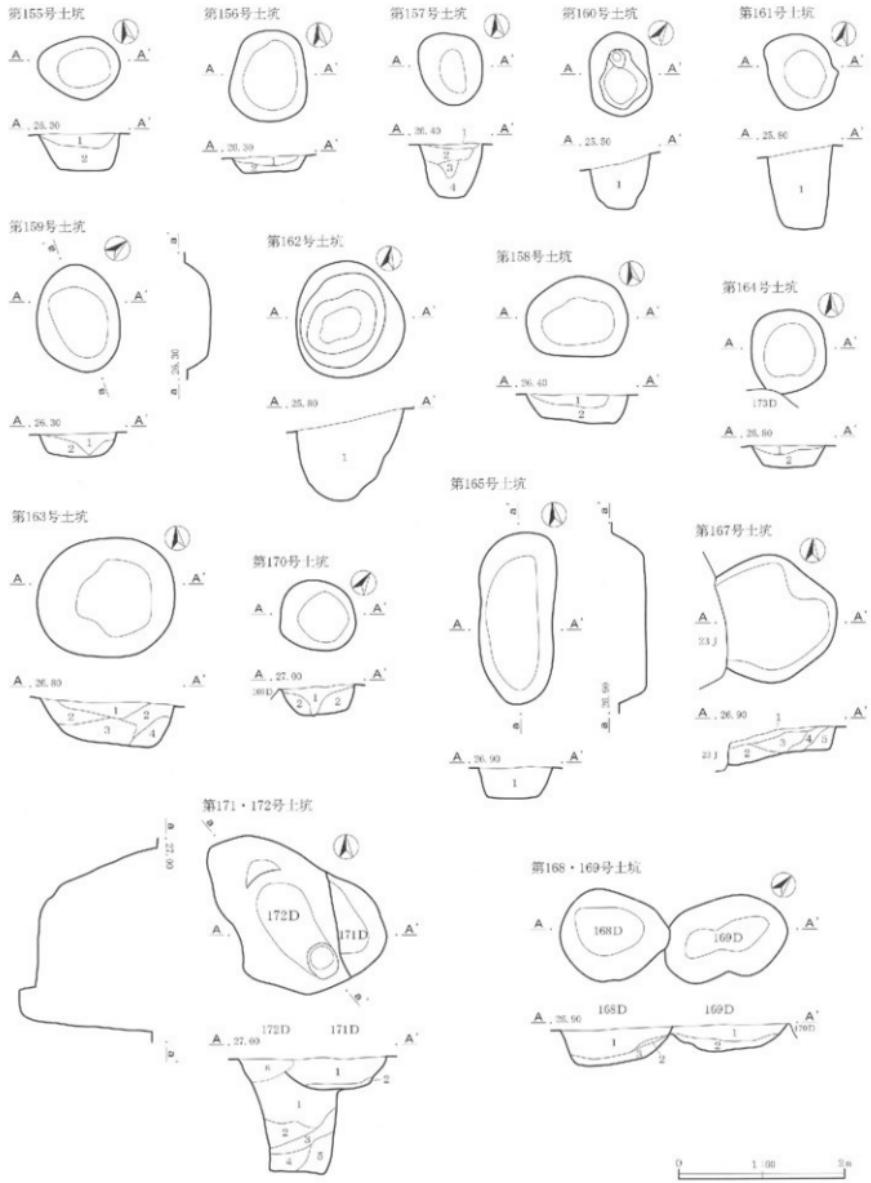
第110図 土坑 (7)



第111図 土坑 (8)

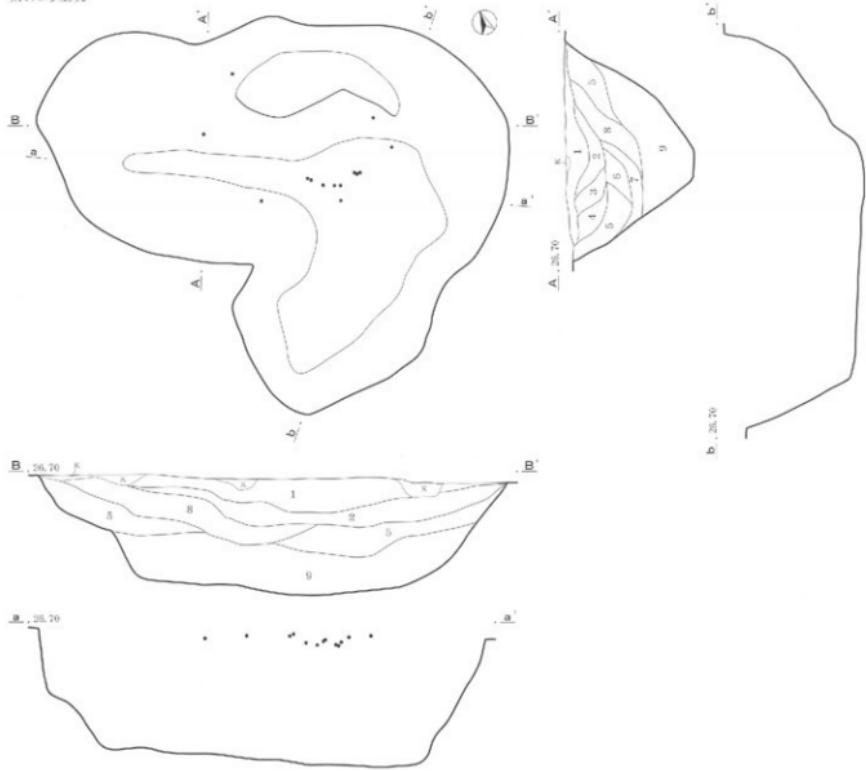


第112図 土坑 (9)

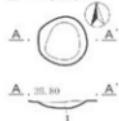


第113図 土坑 (10)

第173号土坑



第175号土坑



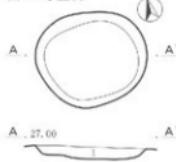
第179号土坑



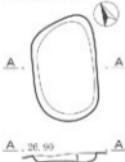
第176号土坑



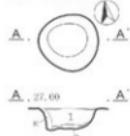
第181号土坑



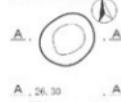
第182号土坑



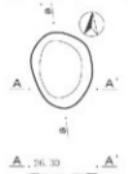
第177号土坑



第178号土坑



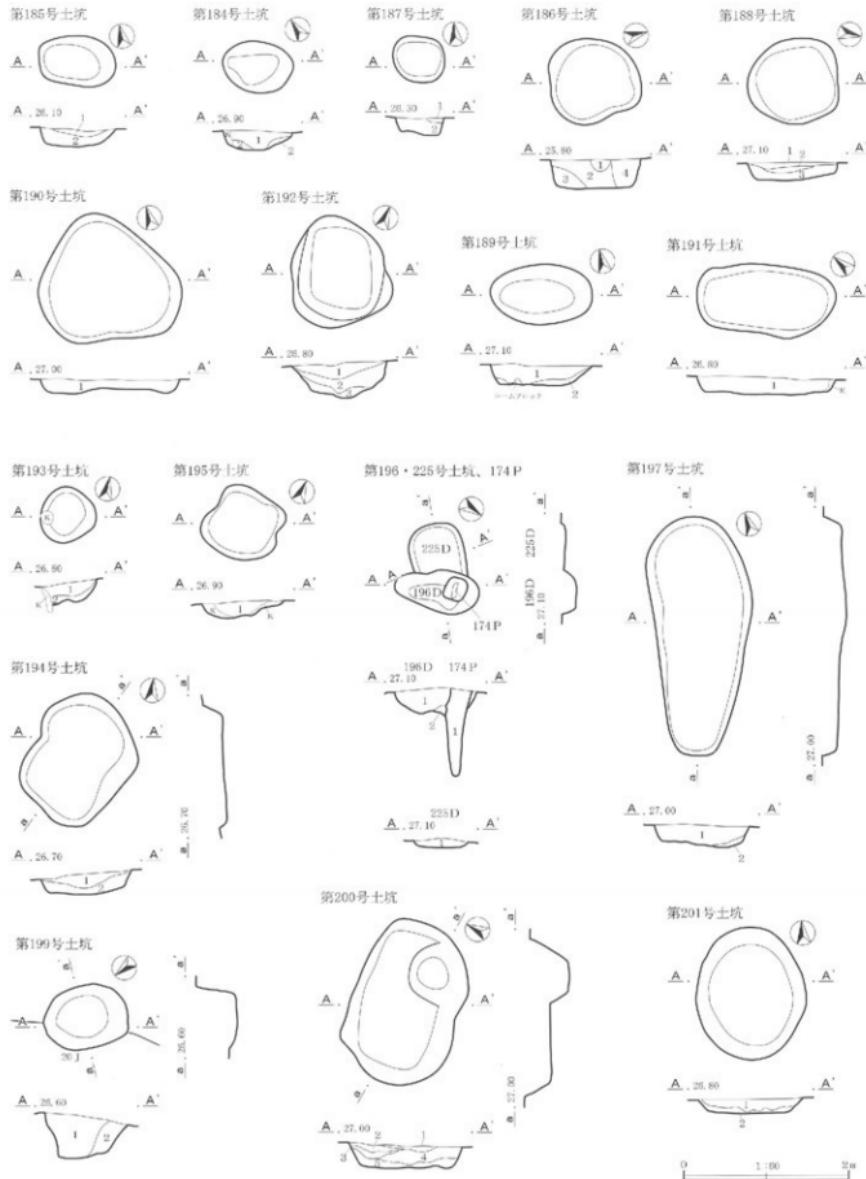
第180号土坑



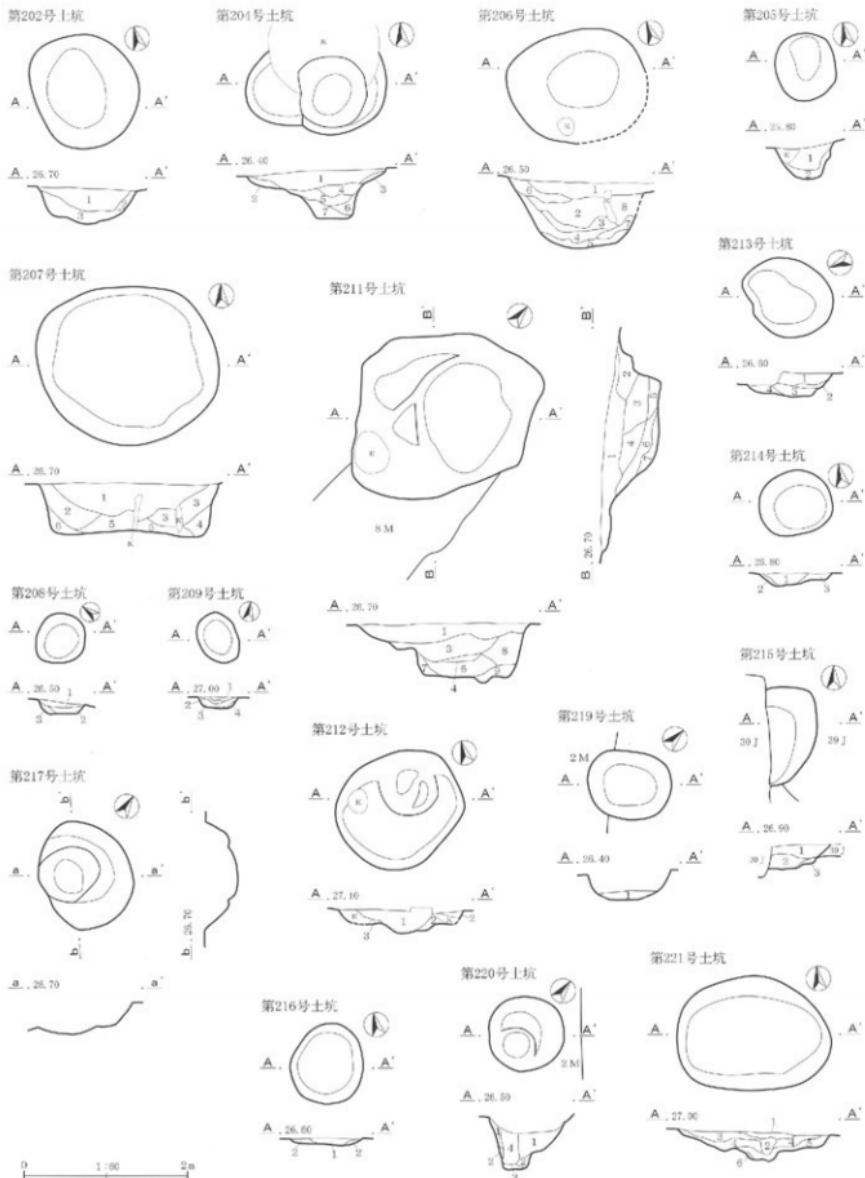
第183号土坑



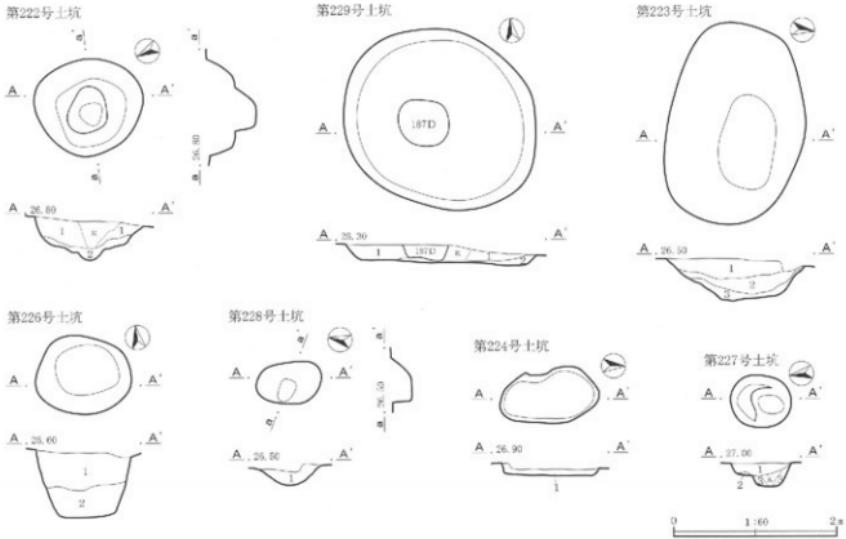
第114図 土坑 (11)



第115図 土坑 (12)



第116図 土坑 (13)



第117図 土坑 (14)

第1号土坑

1. 黄茶褐色土 黏土。
2. 黄茶褐色土 硬まり弱、粘性弱。ロームへの変形層。
3. 黄茶褐色土 地山ごと層。
4. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。
5. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。硬次のローム、炭化物少量。
6. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。地山ごと層。
7. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。ロームブロックφ20~30mm少量。
8. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。地山ごと層。
9. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性有。ロームのコルク層。
10. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性有。ローム少体。

第3号土坑

1. 黄茶褐色土 硬まり有、泥性少有。ロームブロックφ10mm少量。
2. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性少有。ロームブロックφ10~20mm少量。
3. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性少有。地山ごと層。
4. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性少有。ロームブロックφ2~3mm少量。
5. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ロームブロックφ2~3mm少量。ローム
6. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性有。ロームブロック多量。

第6号土坑

1. 淡黄褐色土 硬まり有、粘性弱。ローム少体、炭化物多量。

第8号土坑

1. 淡黄褐色土 硬まり有、粘性弱。ローム少体、炭化物多量。

第9号土坑

1. 淡黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。硬次のローム、炭化物多量。

第9号土坑

2. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性少有。地山ごと層。

第7号土坑

1. 淡黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性少有。硬次のローム、炭化物少量。土器片包含。

第10号土坑

2. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性少有。地山ごと層。

第10号土坑

3. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性少有。ローム少量。

第10号土坑

4. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性少有。地山ごと層。

第10号土坑

5. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性少有。ローム少量や多。地山ごと層。

第11~12号土坑

第11号土坑

1. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ロームブロックφ5mm少量。土器片包含。

第12号土坑

1. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ローム少量。

第13号土坑

1. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。硬次のロームやや多。炭化物少量。
2. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ロームブロックφ10mm、炭化物多量。
3. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性少有。ローム少量。
4. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム少量。
5. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム少量。

第16号土坑

1. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有、粘性少有。硬次のローム少量。
2. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム少量。
3. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性有。硬次のローム少量。
4. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性有。ローム少量。

第17号土坑

1. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。硬次のローム少量。
2. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性少有。ローム少量。
3. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性有。ローム少量。
4. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性有。硬次のロームやや多。

第18号土坑

1. 淡黄褐色土 硬まり有、粘性やや有。硬次のローム多量。土器片包含。

第19号土坑

1. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。硬次のローム、炭化物多量。
2. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性少有。ローム少量や多。ロームブロックφ2~10mm。
3. 淡黄褐色土 硬まりやや有、粘性少有。硬次のローム少量。
4. 淡黄褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。硬次のローム多量。
5. 黄茶褐色土 硬まり有、粘性有。ローム少量。

第20号土坑

1. 淡黄茶褐色土 硬まり弱、粘性やや有。硬次のローム多量。

第21号土坑

1. 黑褐色土 硬まり有、粘性やや有、粘性少有。硬次のローム少量。
2. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。硬次のローム少量。
3. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性少有。硬次のローム少量。
4. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ローム少量。

第22号土坑

1. 黑褐色土 硬まり有、粘性やや有、粘性少有。硬次のローム少量。
2. 淡黄褐色土 硬まりやや有、粘性少有。硬次のローム少量。
3. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性少有。硬次のローム少量。
4. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。ローム少量。
5. 淡黄茶褐色土 硬まり有、粘性やや有。ローム少量。

第23号土坑

1. 黄茶褐色土 硬まりやや有、粘性やや有。硬次のローム少量。

第211号土坑

1. 塗装黒色土 織まりや有、粒性や多、コームブロック約5~10cm少量。
2. 漆喰茶褐色土 織りや有、粒性弱。コーム粒少量、ロームブロック約2~10cmや多。
3. 茶葉色土 織りや有、粘性や有。灰状のロームや多。
4. 漆喰茶褐色土 前よりや有、粘性や有。コーム粒少量、ロームブロック約5~10cm少量。
5. 黄褐色土 織りや有、粘性や有。コーム粒や多、ロームブロック約10cm少量。
6. 漆喰茶褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒多量、ロームブロック約10~20cm少量。
7. 漆喰茶褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒や多量。
8. 漆喰茶褐色土 織りや有、粘性や有。灰状のローム多量。
9. 漆喰茶褐色土 織りや有、粘性や有。ローム粒や多。

第212号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性や有。ローム粒や多、二段階凸凹。
2. 漆喰茶褐色土 織りや有、粘性や有。ローム粒や多。
3. 黄褐色土 織りや有、粘性や有。コーム粒多。

第213号土坑

1. 塗装黒色土 織りや有、粘性弱。ローム粒や多。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性や有。ローム粒や多。
3. 漆喰茶褐色土 織りや有、粘性有。コーム粒少、ロームブロック約10~60cm少量。
4. 黄褐色土 織りや有、粘性有。コーム生糞、土器片含む。

第214号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性有。ローム粒や多。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性有。ローム粒や多。

第215号土坑

1. 漆喰白土 織りや有、粘性や有。ローム粒や多。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性や有。ローム粒や多。
3. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒や多。

第216号土坑

1. 漆喰茶褐色土 織りや有、粘性有。ローム粒や多、炭化物微量。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性や有。ローム粒や多。

第217号土坑

1. 漆喰白土 織りや有、粘性有。ローム粒や多。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性有。ローム粒や多。
3. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒や多。

第218号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性有。ローム粒や多。

十坑)、中央部の平坦地(第135号土坑)と東斜面地(第102号土坑)。遺存・重複 2号は第6号溝状遺構埋土上面構築。形状・規模 円形で、上面径約1m前後。比較的浅い掘り込みで、最下層に木炭片・粒のほぼ純層をもつが、焼上や壁・底面の赤化はみられない。出土遺物 2号より土師器片5点、時期不明5点。135号より筑波石片1点。

その他の土坑(第106~117号、図版34~38)

分布 全体的にみると、西台地北部の北側中央と、東台地南半部とにまとまった分布がみられる。他の地区ではそれほどまとった分布はみられず、とくに西台地中央部から北部南側にかけてはやや希薄な分布状況である。

重複 時代・時期の判明する遺構との重複関係をみると、埴文作居(1号住居)との切り合いで6号が新、以下、弥生~古墳前期住居(7・8・41号住居)では9・64・66号が古く、47・142・224号が新、平安前半期(6号溝)では129号が古く、130号が新、平安後期(2・17・20・21・31号住居)では3・167・199号が古く、150~152号が新である。まとめると、埴文前期以降に位置付けられる6号、以下、弥生後期~古墳前期以前の9・64・66

第220号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粒性有。コーム粒多、ロームブロック約5~20cm少量。
2. 黄褐色土 織りや有、粒性弱。ローム粒、ローム主体。
3. 黄褐色土 織りや有、粒性有。灰状のローム粒や多。
4. 黄褐色土 織りや有、粘性や有。ローム粒や多。ロームブロック約5~20cm少量。

第221号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒や多。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒、ローム主体。
3. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。
4. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒や多。
5. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒や多。
6. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ローム粒や多。

第222号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多、灰状物微量。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。

第223号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多、灰状物微量。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。
3. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。

第224号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多。

第225号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。

第226号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多。

第227号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多。
2. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。
3. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多。

第228号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロック・塙土粒、炭化物微量。

第229号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多。

第230号土坑

1. 黄褐色土 織りや有、粘性弱。ロームブロックや多。

分、以降の47・142・224号、平安前半期以前の129号、以降の130号、平安後期以降の150~152号である。出土した遺物や土壌の状況を加味すると、9・64・66号は埴文前期から中期、47・130・142・150~152・224号は平安期の可能性が強いと考えられる。他の土坑は構築時の上限や下限が知られるのみである。

形状・規模 円形、椭円形、長方形、隅丸方形、隅丸長方形とあるが、掻乱等で形状のはつきりしない不整形や、2基の重複かと思われるような形状のものも若干ある。このうち、隅丸長方形や長軸の長い楕円形状の土坑をみると、東台地に7基(154・165・182・189・191・197・224号)、西台地に11基(59・62・73・78・81・83・93・100・105・109・110号)ある。分布状況をみると、西台地の93・101・105号は東斜面地に長軸をほぼ斜面に平行させて、等間隔(約13m)に並んでいるのが注意を引く。東台地の154・182・191号も類似した分布状況を示すが、掘り込みは浅く、西台地の3基とは若干様相を異にしている。西台地の59・62・81号も浅い掘り込みであるが、北側平坦地に3基がまとまり、59・62号は長軸方位をほぼ同じくしている。同じく西台地北側の東西両端に位置する78・83号は規模が比較的大きく、掘り込みも深い点

で類似した土坑であるが、83号の壁上半は漏斗状にやや開いた形状を呈している。その他、特徴的な土坑について、簡単に触れておきたい。

27・32・34・35・76・107・111・112・114・115・117・140・211号は木根址のため底面が安定しないが、32号にはステップ状の掘り込みが南側に付設されている。

東台地南半部の173号は、当初地下室かとも思われた遺構であるが、掘り上がりは不整形となった。東西上面径5.73×3.04m、南北上面径4.89×2.25mの二つの楕円形がLの字状に合体したような平面形で、切り合いはない、一体の遺構である。

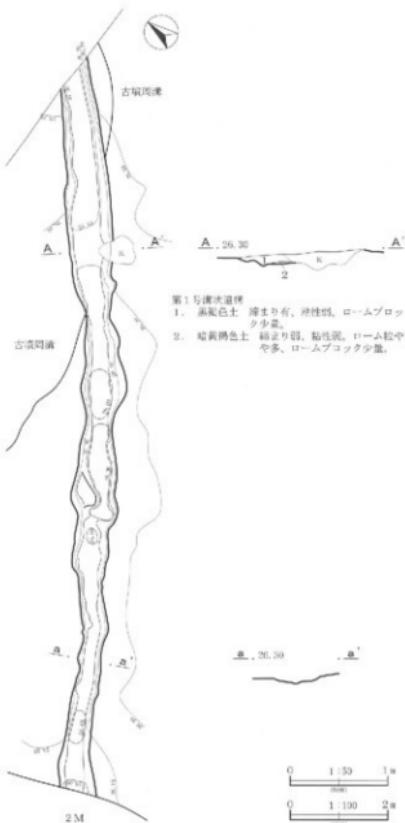
西台地の204号は、径1.7×[1.1]m、深さ0.13mの楕円形の掘り込み内に径0.88m、深さ0.68mの円形の掘り込みをもつ形状であるが、覆土の状況からみて、楕円形と円形との2基重複の可能性が強い。

覆土 黒褐色土や黒茶褐色土など分層の比較的容易な覆土をもつ土坑は、東台地では少なく、茶褐色や黄褐色系の土層が大半である。一方、西台地では、この種の覆土をもつ土坑は少なからず確認されるが、特徴的な土坑分布はみられない。時代・時期的にも、縄文期（99号等）から平安期（14号等）まで認められる覆土である。

底状ロームを含む黒褐色～暗茶褐色系の覆土をもつ土坑は、東台地ではなく、ほぼ西台地に限られる。隅丸長方形土坑はほとんどこの覆土をもつが、この覆土が特定の時代・時期を示さないことは、縄文期の第37号生居や15号土坑、平安期の第6号溝（方形区画溝）をみてもわかる。そのためか、この覆土をもつ土坑の分布にも特徴的な様相を見て取ることはできない。

ロームブロックを含むややボソ付いた覆土をもつ土坑は、西台地北部の西斜面地に多い。27・29・31・32・34・35・82・84・211・217号で、覆して底面の安定しない土坑が目に付く。時期的には、本遠跡の遺構のなかでももつとも新しい段階の遺構と思われる。84号より「寛永通宝」（吉寛永）が出土しているので、近世以降であろう。西台地東端の、現代の道路下に検出された88号も同種の覆土をもち、平面形もきっかりした長方形を呈する。

焼土をわずかに含む覆土をもつ土坑は、東台地北半部の西側にまとまった分布を示す。171・175・177～184・188・189・191～195・197・199・222・223・225・227・228号の24基であるが、この地区の29ライン以北の平



第118図 第1号溝状遺構

坦地は以前あつた宅地造成で削平を受けており、先述したように第1号坦堀の上半部がこの時破壊されている。したがって、消滅した土坑もあつたものと思われる。焼土の由来は判然としないものだが、東台地では炉穴かとも思われる遺構が散見され、縄文早期条痕文系の土器も比較的目立った出土量をもつことなどから、焼土の由来もこのあたりの現象のなかに求められるかもしれない。

前述した173号も焼土をもつが、東台地南半部ではほかに7・8号焼土址のみで、焼土をもつ土坑の分布は希薄

である。西台地では、基數こそ少ないが、30・33・89・207・143・149号と西斜面地寄りに分布の偏りがある。
遺物 繩文から平安遺物までの小片が多いが、その中でも36・37号は、いずれも縄文前期後半の土器片がそれぞれ31点、22点出土しており、縄文期の十坑の可能性がつよい。42号も縄文前期前半から後半を主体とした土器片が出土しているが、時期不明瞭な小細片も多い。173号は磁器面から第2層にかけて111点ほどの土器片が出土している。主体は縄文早期条痕文で、図中のドットはすべて同時期の土器片である。

溝状遺構

第1号溝状遺構（第118図、図版39）

グリッド M・N33。西台地北端部平埴地から西に下る緩斜面地、遺存・重複 2溝に切られ、古墳周溝を切る。2溝西側には検出されない。東側は調査区外にかかる。
走向方位 N-53°-E。形状・規模 現長 15.25m、幅 0.92~0.5m、深さ 10~26cm。底面標高は東端で26.08m、西端で26.00mを測り、底面の高低差はほとんど無し。断面は浅い逆梯形で、底面は凹凸があつて安定しない。
覆土 ロームブロックを含む黒褐色土。出土遺物 縄文片53点（早期～中期、前期後半主体）、土器師・須恵器片8点（坪、皿、甕）。

備考 切り合いから古墳時代以降。

第2号溝状遺構（第119・120図、図版39）

グリッド K-O26~35。西台地中央部へ北西側。グリッド32ライン以北はほぼ西斜面に平行に走向するが、以南では平坦部を斜めに縦断して谷部を望む東斜面地際まで続く。遺存・重複 縄文期の43住や218坑、占墳周溝、107坑、217坑など重複する全ての遺構を切る。南端部は一部未調査であるが、グリッド26ラインで当溝と合流する現代道路の掘り下げ所見では、2溝の続きは確認されていないので、この合流地点で現代道路に切られていると思われる。占墳周溝と重複する部分の壁は検出できなかつた。
走向方位 N-20°-W。グリッドO27地点でやや東向きに方位を変え、N-38°-W。形状・規模 現長 90.05m。断面土層から3段階の掘削状況が確認できる。第1段階は、幅約1.25m、底面幅約50cm、深さ約

30cmの断面逆梯形の掘り込みで、側溝を伴う溝である。底面は硬質化しており、道路状構造であろう。側溝は部分的に左右2条となるため新旧が考えられるが確認できなかつた。第2段階は、長方形の坑状の落ち込みの掘削で、この落ち込みは北側にのみみられる。溝の左右に掘削されるが、恐らく根切り坑と思われる。第3段階は第1層の現代の道路であるが、他の現代道路とは違って腐植土が厚く、廃道になつて久しい感じである。出土遺物 土器片136点、縄文土器片110点、平安期上器片25点、近世の陶器甕片1点。M32地点の底面から、張り付いたように「1銭銅貨」が出土しているので、近代以降の溝であろう。

第3号溝状遺構（第121図、図版39）

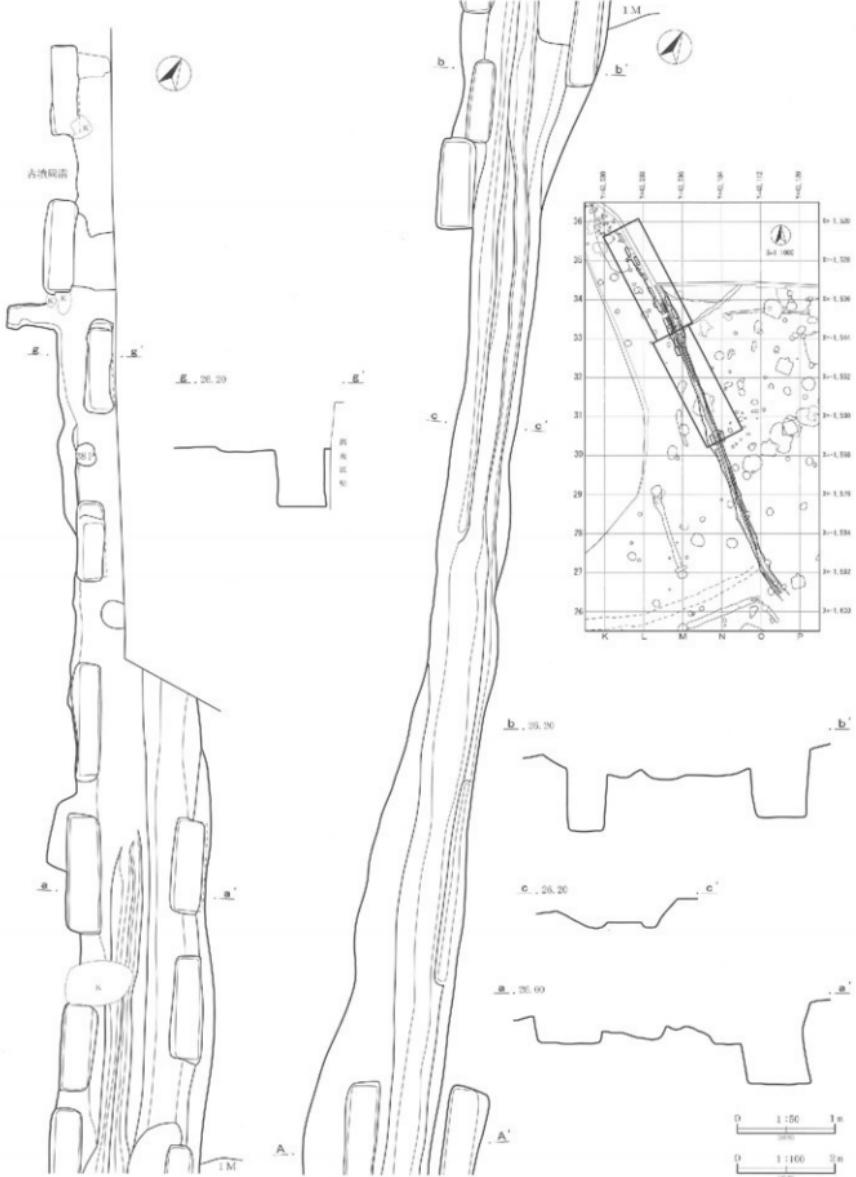
グリッド I・J36。西台地北西端部。遺存・重複 大半が調査区外。走向方位 N-62°-E。形状・規模 現長 2.07m、幅約47cm、深さ約12cm、断面は浅い逆梯形。
覆土 ロームブロックを含む茶褐色の單一層。出土遺物なし。

第4号溝状遺構（第121図、図版39）

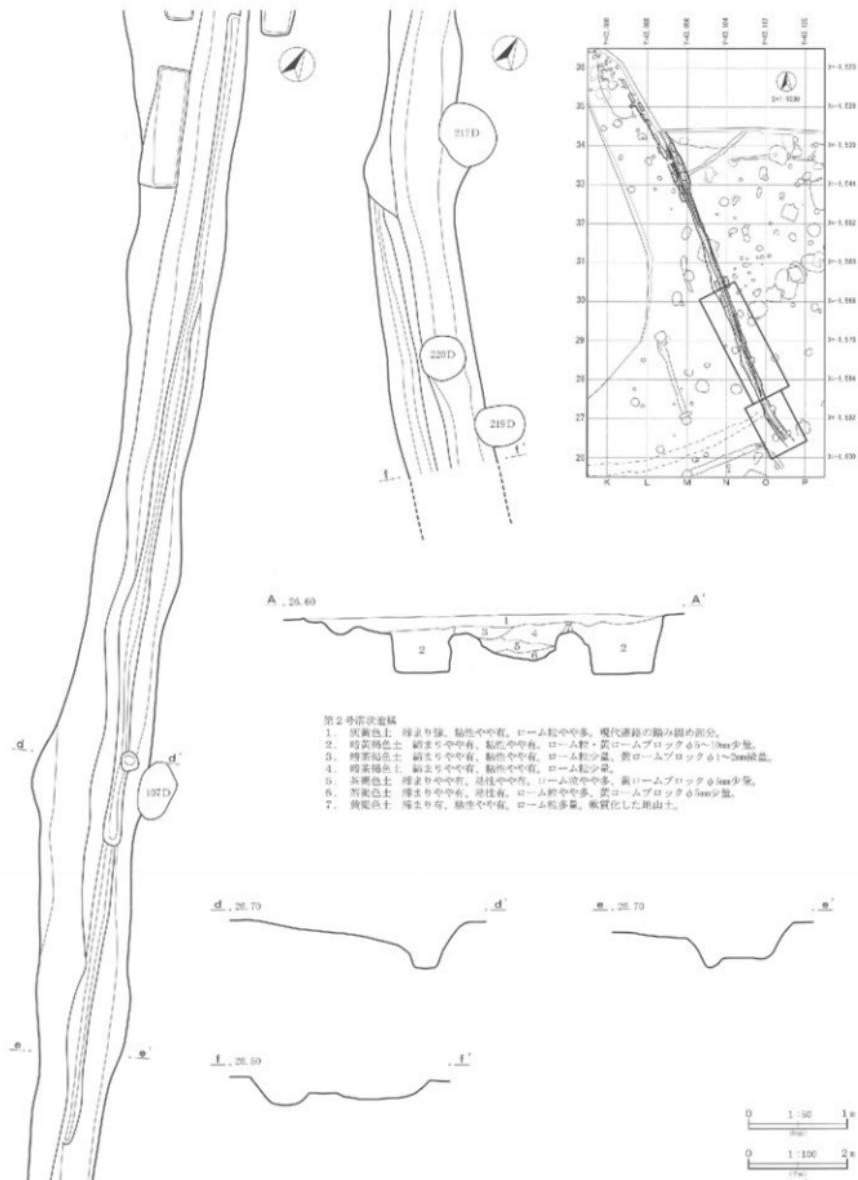
グリッド J36。遺存・重複 27坑に切られる。2Pとの新旧不明。人半が調査区外。走向方位 N-62°-E。
形状・規模 現長 4.22m、幅約1.6m、深さ約22cm、断面は浅く、幅広の逆梯形。
覆土 第1層は3溝の1層と同質。
出土遺物 縄文土器片5点。

第5号溝状遺構（第121図、図版40）

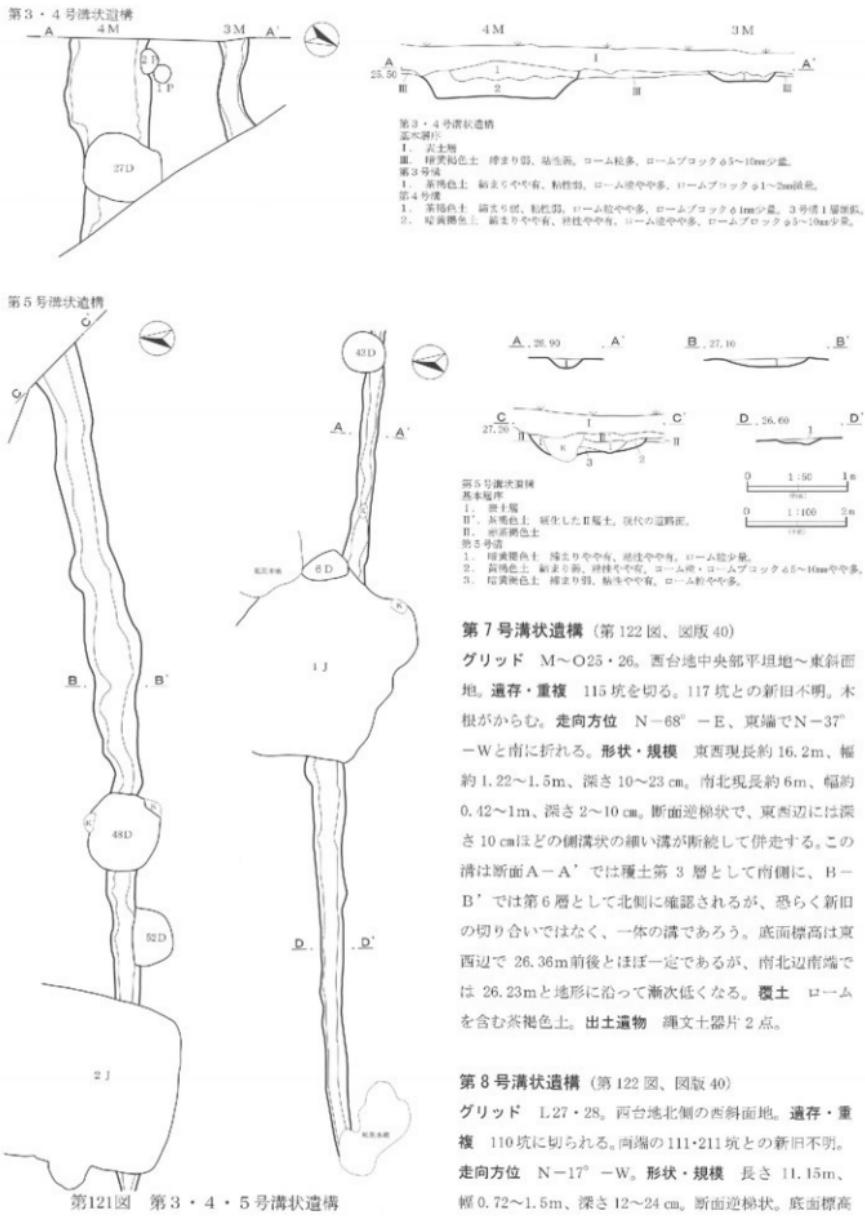
グリッド N-R33。西台地北部の平坦地。西端は西緩斜面地にかかる。遺存・重複 西端部は消失。東端部は調査区外。1・2住、48・52坑に切られ、43坑を切る。
走向方位 東側でN-78°-E、中央部はほぼ東西位、西側でN-84°-E。
形状・規模 場長 34.5m、幅 0.4~1.15m、底面幅 0.2~0.63m、深さは約14cm。底面標高は東端で26.89m、西端で26.28mと、地形に沿つてゆるやかに底面を下げ、同時に幅員も減じている。
覆土 ローム主体の暗黄褐色土。
出土遺物 縄文土器片19点（前期後半主体）。
備考 切り合いから見ると、縄文前期後半期の1住より新しい段階の溝のようである。



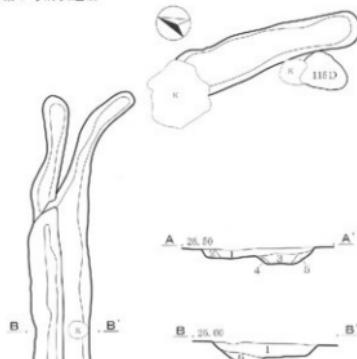
第119図 第2号溝状遺構（1）



第120図 第2号構造面積 (2)



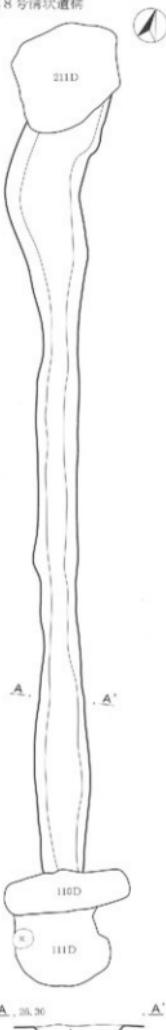
第7号溝状遺構



第7号溝状遺構

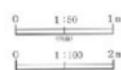
1. 黒褐色土 細まりやや有、粘性やや有。ロームブロックφ3~5mm少量、礁上ブロックφ2cm・硬塊物微量。
2. 淡黃茶褐色土 細まりやや有、粘性弱。ロームブロックφ5~10mm微量。
3. 黄褐色土 細まり弱、粘性やや有。
4. 褐黃色褐色土 細まり強、粘性やや有。ローム粒やや多、ロームブロックφ5mm微量。
5. 暗黃新褐色土 細まりやや有、粘性弱。ローム粒や多。
6. 淡茶褐色土 細まりやや有、粘性やや有。ローム粒・ロームブロックφ2~3mm少量。

第8号溝状遺構

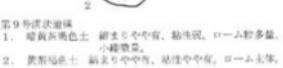


第8号溝状遺構

1. 黒褐色土 細まり強、粘性やや有。ロームブロックφ5~10mm少量。



第9号溝状遺構 第7・8・9号溝状遺構



第9号溝状遺構

1. 暗黃新褐色土 細まりやや有、粘性況。ローム粒多量、小磯塊微量。
2. 黄褐色土 細まりやや有、粘性やや有。ローム主導。

は南端で 26.10m、北端で 25.77m と、地形に沿って漸次低くなる。底面の凹凸著しい。**覆土** ロームブロック含む茶褐色土の單一層。**出土遺物** 繩文土器片 1 点、須恵器片 1 点。

備考 覆土の状況からみて、溝と 111・211 坑との時間差はあまりないように思われる。

第 9 号溝状遺構 (第 122 図、図版 2)

グリッド L・M30・31。西台地北側の西斜面地。遺存・重複 82 坑に切られる。走向方位 N-13°-W。形状・規模 長さ 7.7m、幅 0.62-1.1m、深さ 12-20 cm。断面 U 字型。底面標高は南端で 26.06m、北端で 25.83 m と、地形に沿って漸次低くなる。**覆土** ロームを含む暗茶褐色土。**出土遺物** なし。

備考 8 溝と同様、2 溝と併走する点や覆土の状況から、2 溝と近い時期が考えられる。

ピット

(第 123-127 図、第 47 表、図版 41)

概要 1P から 181 P (70 P-89 P は欠番) まで番号を付したが、68 P は第 96 号土坑に伴うピットとしたため、単独のピットは計 160 本である。確認面は他の遺構同様ローム面 (基本層序Ⅲ層上面) であるが、グリッド N30・31 の、縄文住居 33・37・39・43 号住居に開まれた範囲では、掘立柱建物址検出の可能性も考えられたため、人力による数回にわたる遺構確認を行った。そのため、確認面はさらに低くなっている。結果として、掘立柱は検出されなかった。

平面図では、小規模な土坑とさして違わない大きさのピットもあるが、主として掘り込みや覆土の状況から、ピットと土坑を区別している。木根址や自然薯掘りの穴も相当数あったが、全て没遺構として埋め戻した。

分布状況 ほぼ 5 群のまとまりが抽出できる。西台地では、グリッド J・K35・36 の占墳周溝内 (周溝を切る)、N30・31 の第 33・39・43 号住居に囲まれた地区、東台地では、グリッド V28 周辺、W25 周辺と V24 周辺である。このうち、V24 の 109-112-115-117 P、W25・26 の 132-149-151-159-155-152 P、またグリッド U26 の 140-142-144 P などの並びは、柵列の可能性を考え

られるが、現地で検討を行ったものではなく、あくまで図上での復元のため、推測の域を出ない。西台地でも、グリッド N30 の 67-66-53-64-69-63 P、中央部の 96-97-98 P などが候補となる。

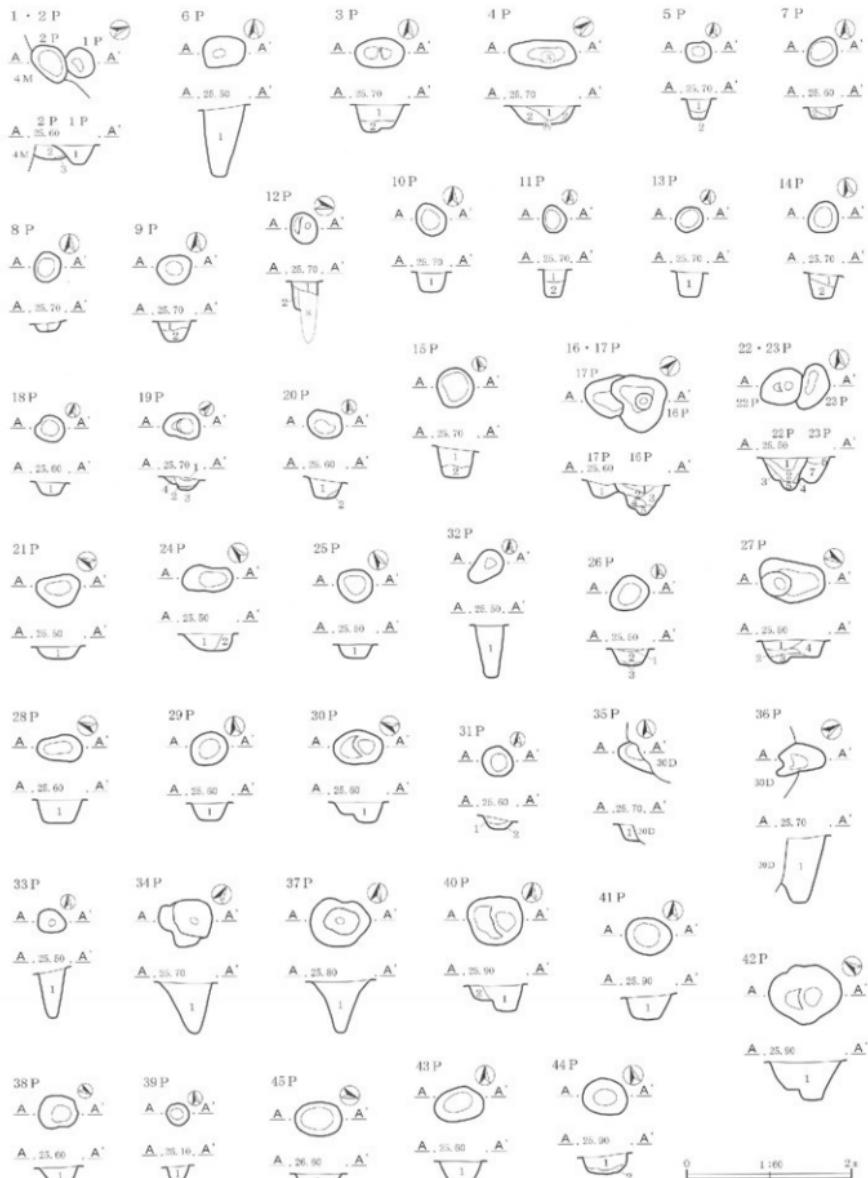
覆土 土坑とはやや異なり、単純に分層されることが多い。大別すると、ローム粒やロームブロックが主体となる茶褐色土、斑状ロームを含む黒茶褐色土、ローム粒少量の黒褐色土がある。こうした覆土の違いが時代や時期の差なのか、検証できる材料がない。土坑のように時代・時期の判明する場合がほとんどないからである。

以上の覆土に焼土を含むピットがある。90-92・136・138・160・161・164・166・170-178 P などで、90-92 P は西台地グリッド L26・27 の西緩斜面地、160・161・164・166・170-178 P は東台地北半部の西側であり、この分布は、焼土をもつ土坑の分布と重なっている。このことは、とくに東台地の場合、上坑とピットの時期がそれほどかけはなれていないことを示しているように思われる。

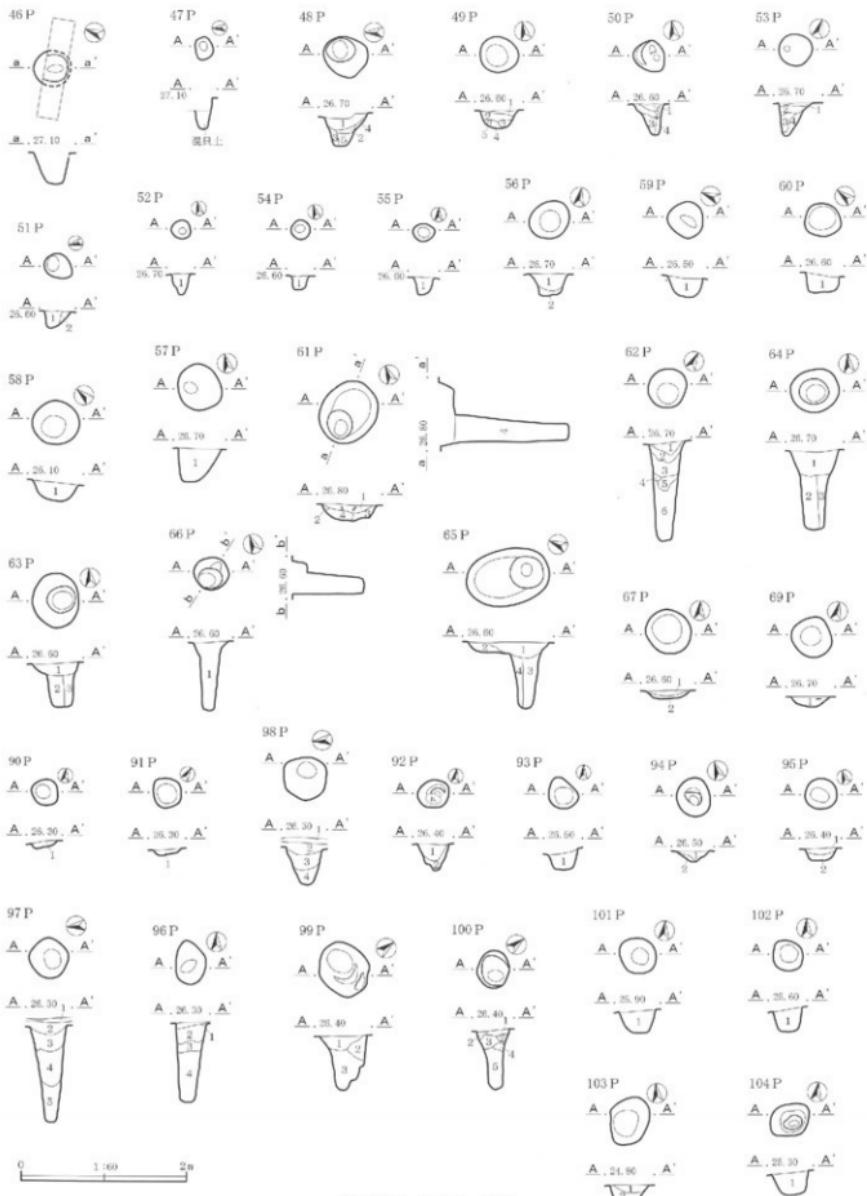
136・138 P の覆土には炭化物が含まれる。先述したように、東台地第 166 号土坑の東壁と西壁際にあるピットで、当上坑は炭焼き窯かと推定される遺構であるため、なんらかの上層構造を推定した。

出土遺物 西台地で 9 本、東台地で 20 本のピットから土器片が出土している。西台地北部では、縄文住居に囲まれたピット群のうち、61-65 P から縄文前期を主体に中期前半までの土器片が出土している。中央部の 96-98 P では縄文中期片が出土し、包含層 No.2 土器群など包含層 No. 土器群との関連が窺われる。1 号掘立柱建物址南西の 99 P では縄文片のほか須恵器素片、片が入り、西台地では絶じて、ピット近辺の遺構と関連した遺物の出土が多い点が注意を引く。

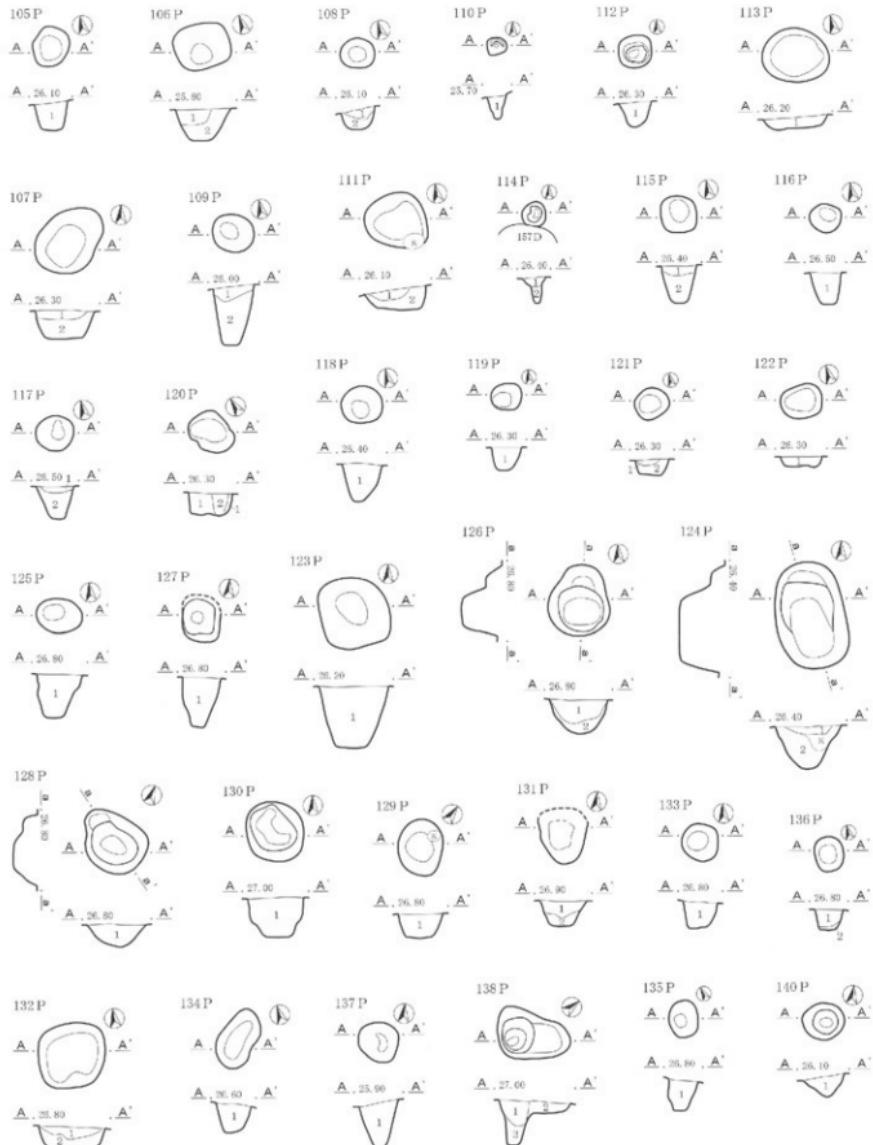
東台地では、小細片が多く、上器の時期判定がむずかしいが、縄文では織維を含む土器ではなく、前期後半から中期の土器片が主体と思われる。南部半 13 本のうち、弥生片が 123-127 P で、上部器・須恵器片が 120-126-131-148 P で出土しており、他の 125-132-134-138-139-159 P では縄文片や土師片が目立つ。北半部 7 本のうち、176 P から上部器・須恵器片が、179-181 P では縄文片が出土している。他の 160-163-178-180 P では縄文片と思われるがはつきりしない。



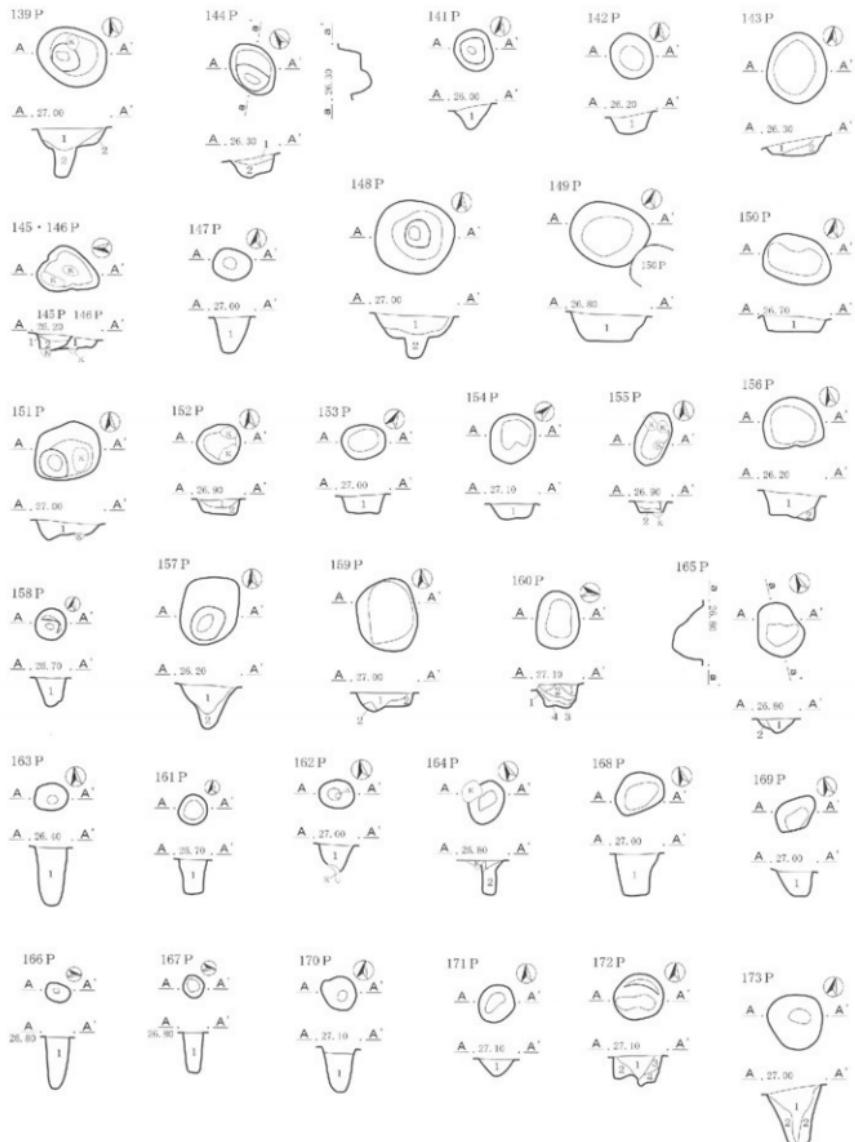
第123図 ピット(1)



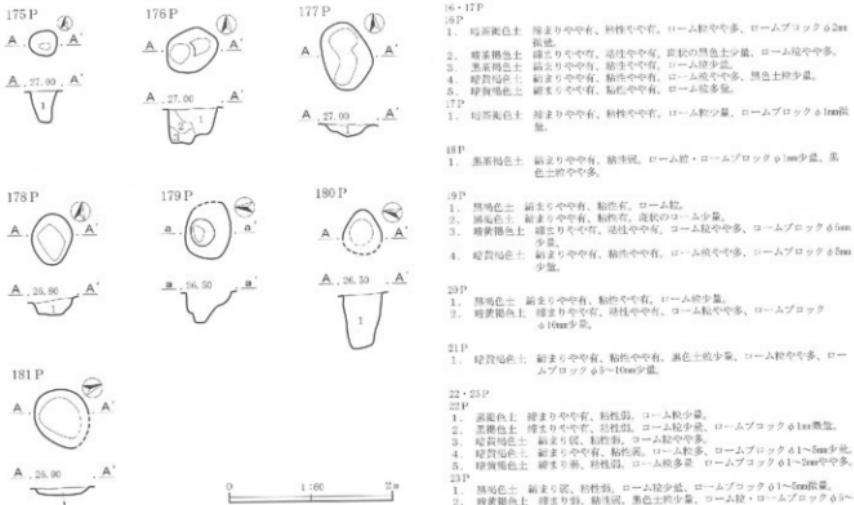
第124図 ピット (2)



第125図 ピット (3)



第126図 ピット (4)



第127図 ピット(5)

- 1・2 P
1 P
1. 砂蒸褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。黑色土粒少有。
2 P
1. 砂蒸褐色土 細まりやや有。粘性やや有。1層より明。
2. 砂質褐色土 細まり弱。粘性やや多。コーム粒やや多。
3 P
1. 砂蒸褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒やや多。範状の黒色土粒少量。
2. 黑褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒多。
4 P
1. 砂質褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。範状の黒色土粒少量。
2. 黑褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒多。
5 P
1. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒少量。ローム粒やや多。
2. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。
6 P
1. 砂質褐色土 細まり弱。粘性弱。ローム粒・ロームブロック多。
7 P
1. 砂蒸褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒少量。ローム粒やや多。
2. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒多。
8 P
1. 砂黃褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒少量。ローム粒やや有。
9 P
1. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒やや多。薄状のローム少量。
2. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。
10 P
1. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒やや多。範状のコーム少量。
11 P
1. 砂褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粒少量。
2. 砂質褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒少量。ロームブロックやや多。
12 P
1. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒やや多。ローム粒少量。
2. 砂質褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒多。
13 P
1. 砂質褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロックやや多。1mm粒少量。
14 P
1. 砂茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。黑色土粒少量。ロームブロック約1~2mm粒。
2. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。
15 P
1. 砂茶褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒やや多。黑色土粒少量。ロームブロック約1mm粒。
2. 黑褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒やや多。黑色土粒少量。ローム粒少量。
16・17 P
15 P
1. 砂蒸褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロック約2mm粒。
2. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒少量。ローム粒やや多。
3. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。
4. 砂質褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。黑色土粒少量。
5. 砂質褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。
17 P
1. 砂茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。ロームブロック約1mm粒。
18 P
1. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性弱。ローム粒・ロームブロック約1mm粒少量。黑色土粒やや多。
19 P
1. 黑褐色土 細まりやや有。粘性有。ローム粒。
2. 黑褐色土 細まりやや有。粘性有。成状のコーム少量。
3. 砂茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。コーム粒やや多。ロームブロック約5mm少量。
4. 砂質褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロック約5mm少量。
20 P
1. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。
2. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。コーム粒やや多。ロームブロック約5mm少量。
21 P
1. 砂茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒少量。ローム粒やや多。ロームブロック約5~10mm少量。
22 P
1. 黑褐色土 細まりやや有。粘性弱。ローム粒少量。
2. 黑褐色土 細まりやや有。粘性弱。ローム粒少量。ロームブロック約1mm粒。
3. 黑褐色土 細まり弱。粘性弱。ローム粒やや多。
4. 砂茶褐色土 細まりやや有。粘性弱。ローム粒多。ロームブロック約1~5mm少量。
5. 砂質褐色土 細まりやや有。粘性弱。ローム粒多。ロームブロック約1~2mm少量。
23 P
1. 黑褐色土 細まり弱。粘性弱。ローム粒少量。ロームブロック約1~5mm少量。
2. 黑褐色土 細まり弱。粘性弱。黑色土粒少量。ローム粒・ロームブロック約5~15mm少量。
24 P
1. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。羅状のローム少量。
2. 砂質褐色土 細まりやや有。粘性やや有。黑色土粒ブロック約5~10mm少量。粘性やや多。
25 P
1. 黑茶褐色土 細まり弱。粘性弱。ローム粒・黑色土粒ブロック約10~20mm。ロームブロック約10mm少量。
26 P
1. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。
2. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。ロームブロック約10mm少量。
3. 黑褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒少量。
27 P
1. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。
2. 砂質褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロック約5~10mm少量。
3. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロック約5~10mm少量。
4. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒・ロームブロック約5mm少量。
28 P
1. 黑茶褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。ロームブロック約5~10mm少量。
29 P
1. 黑茶褐色土 細まり弱。粘性やや有。黑色土粒・ローム粒やや多。ロームブロック約1mm少量。
30 P
1. 黑茶褐色土 細まり弱。粘性やや有。黑色土粒・ローム粒やや多。ロームブロック約5mm少量。
31 P
1. 黑茶褐色土 細まり弱。粘性やや有。黑色土粒やや多。ローム粒少量。
2. 黑褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒多。ロームブロック約1~2mm少量。
32 P
1. 砂褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロック約5mm少量。
33 P
1. 砂茶褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロック約5mm少量。
34 P
1. 砂茶褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロック約5mm少量。
35 P
1. 黑褐色土 細まりやや有。粘性やや有。ローム粒少量。
36 P
1. 黑褐色土 細まり弱。粘性弱。ローム粒・ロームブロック約5~10mm多量。
37 P
1. 砂茶褐色土 細まり弱。粘性やや有。ローム粒やや多。ロームブロック約5mm少量。

161P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、コームブロックや多、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。

162P
1. 黑茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック、地主土、炭化物少量。

163P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック少、地主土、炭化物や多。

164P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、コームブロック微量、地主土、炭化物少量。
2. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、コームブロックや多、地主土、炭化物微量。

165P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。
2. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロックや多、地主土、炭化物微量。

166P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。
2. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロックや多、地主土、炭化物微量。

167P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。
2. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロックや多、地主土、炭化物微量。

168P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。

169P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック少。

170P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。

171P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、コームブロック、地主土、炭化物少量。

172P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、ローム粘や多、粘性少、炭化物微量。
2. 地主土 細まりやや有、粘性弱、ローム粘、コームブロック少量。
3. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、ローム粘少量。
4. 黑褐色土 地主土有、粘性少、地主土、コームブロック少量。

173P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、ロームブロック、地主土、炭化物微量。
2. 地主土 細まりやや有、粘性弱、地主土、ロームブロック少量、炭化物微量。

174P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、炭化物微量。

175P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。
2. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、炭化物微量。コームブロックや多、地主土、炭化物微量。

176P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、炭化物微量。

177P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、ロームブロック、地主土、炭化物微量。

178P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。

179P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、ロームブロック少、地主土、炭化物微量。

180P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、炭化物微量。

181P
1. 暗茶褐色土 細まりやや有、粘性弱、地主土、炭化物微量。

第46表 土坑一覧表

No.	グリッド	平面形	上径m	底径m	深さm	層土	記号
1	N15	円形	2.93×2.75	1.95×1.75	0.31	黑茶褐色土	土断片18(底面・上部)
2	M18	椭円形	1.30×0.98	0.85×0.72	0.33	炭化物多量の黑茶褐色土	1.23片(上部)
3	Q23	溝九角形	1.30×1.16	1.13×0.87	0.50	暗茶褐色土	3件より古。純文片11, 墓底片1
4	P34	円形	0.98×0.78	0.69×0.60	0.32	燒土合む黄褐色土	2件より新。土断片焼土片11底
5	(欠番)						
6	Q33	律円形	0.96×0.58	0.70×0.36	0.22	淡茶褐色土	1件・5編より新。譜文片8
7	(欠番)						
8	R35	不規形	(1.94)×(1.72)	1.79×1.33	0.20	炭化物含む黄褐色土	同廣15片。純文片7
9	P33	椭円形	1.95×1.23	1.78×0.84	0.31	断状ターレムの底面土	67-488点より新。70より古。
10	R31	椭円形	1.49×1.12	0.62×0.39	0.54	淡茶褐色・暗茶褐色土	譜文片3
11	C32	椭円形	1.97×0.89	0.96×0.61	0.18	黑茶褐色土	12枚より新。譜文片2
12	Q32	円形?	0.78×[0.53]	0.55×[0.30]	0.13	淡茶褐色土	11枚より古。土断片11底
13	S30	円形	1.02×0.83	0.56×0.47	0.23	河川断含む黄褐色土	譜文片2
14	P31	円形	2.72×2.65	2.05×1.75	0.50	黒土合付・黑褐色土	褐色325点。次種、原茶褐色等
15	M+292	円形	1.89×1.70	1.52×1.97	0.61	施状ロームの黒褐色土	ブラスコ形。譜文片61
16	Q31	律円形	1.72×1.34	0.50×0.37	0.61	前次ワームの淡茶褐色土	土断片17(譜文片・上断片)
17	R31	円形	0.90×0.75	0.68×0.57	0.39	淡茶褐色土	譜文片12
18	N31	椭円形	1.43×1.19	1.32×0.96	0.14	淡状ロームの淡茶褐色土	260点より新。譜文片16
19	R31	円形	0.68×0.83	0.63×0.62	0.32	施状ワームの淡茶褐色土	譜文片2
20	N31	円形	1.33×1.10	0.36×0.33	0.22	淡状ロームの淡茶褐色土	譜文片10
21	N32	椭円形	0.83×0.76	0.66×0.28	0.16	施状ロームの淡茶褐色土	265点より新。譜文片4
22	S31-32	円形	1.32×1.19	0.88×0.21	0.32	施状ワームの淡茶褐色土	譜文片12
23	K33	円形	0.67×0.65	0.52×0.47	0.15	定状ロームの淡茶褐色土	譜文片2
24	P36	円形	0.73×0.65	0.38×0.21	0.27	施状ロームの淡茶褐色土	譜文片2
25	S30	律円形	1.04×0.77	0.66×0.56	0.24	施状ロームの淡茶褐色土	譜文片2
26	N31	円形	[1.94]×1.32	[1.46]×0.85	0.20	施状ロームの淡茶褐色土	15-21筑より古。譜文片12
27	K35	溝九角形	1.37×1.35	1.19×1.12	0.34	RB多の淡茶褐色土	5個より新。譜文片2
28	J36	溝九角形	0.87×0.68	0.69×0.58	0.22	RB多の淡茶褐色土	土断片2(下部)
29	J34	溝九角形	1.11×1.03	0.87×0.79	0.22	RB多の淡茶褐色土	土断片3(下部)
30	K34	溝九角形	1.03×1.34	0.36×0.67	1.32	走行する淡茶褐色土	
31	K33	溝九角形	0.99×0.81	0.59×0.40	0.37	RB多の淡茶褐色土	譜文片1

No.	グリッド	平面形	上底mm	下底mm	高さmm	面積	頂上	底面
32	K-L33	斜丸円形	1.59×1.15	0.53×0.45	0.70	RB多の黒茶褐色土	土端片1	
33	K32	円形	1.43×1.25	0.97×0.45	0.45	砂土含む暗赤色土	調文片1	
34	K31	隅丸長方形	1.22×(0.98)	0.92×0.31	0.49	RB多の茶系褐色土	35块より古、十脚片1	
35	K34	隅丸長方形	(1.30)×0.70	1.14×0.31	0.39	RB多の暗茶褐色土	24块より新、暗文片3	
36	K35	鈍円形	(1.70)×1.41	1.12×1.13	0.18	斑状コームの暗茶褐色土	風文5、細文片31	
37	R33	円形	0.99×0.82	0.62×0.58	0.68	斑状コームの茶褐色土	調文片1、36块より新、調文片22	
38	P31	棱円形	1.01×0.85	0.62×0.50	0.28	暗茶褐色土	上部片9(調文片4、底土部分)	
39	G33	円形	0.89×0.78	0.74×0.61	0.17	暗黄茶褐色土	土端片1	
40	F33-34	円形	0.72×0.60	0.47×0.39	0.24	黒褐色土	4块に渡る、底台片1	
41	(欠番)							
42	N33	長方形	2.43×1.32	1.96×0.86	0.24	暗茶褐色土	調文1、調文片9、底土端片2	
43	P33	円形	0.87×0.84	0.75×0.70	0.11	斑状コームの墨黒褐色土	5块より古	
44	P33	円形	11.3×0.90	9.59×0.45	0.48	斑状コームの墨黑色土	調文5、調文片3	
45	O33	円形	1.07×(0.84)	0.52×0.42	0.30	斑状コームの茶系褐色土	46块より新、調文片2	
46	O33	円形	1.37×1.29	0.97×0.90	0.31	灰状土の暗黄褐色土	45块より新、調文片4、底片1	
47	P32	円形	1.12×0.90	0.85×0.76	0.27	斑状コームの暗茶褐色土	7往上更新、土端片16(調文片21)	
48	Q33	円形	1.59×1.40	0.88×0.93	0.58	木灰層、透二透三層	5块より新、調文片21、他2片	
49	O33	不規形	2.03×1.61	1.50×0.54	0.96	斑状コームの墨黑色土	50块より古、調文片21、他6片	
50	O33	不規形	2.05×1.15	1.081×0.75	0.29	斑状コームの暗茶褐色土	49块より古	
51	O34	傾丸形	1.15×0.96	0.77×0.51	0.32	斑状コームの暗茶褐色土	64块の下、調文片3、他10片	
52	P33	棱円形	1.18×0.82	0.69×0.32	0.56	斑状コームの茶系褐色土	59块より新、一番片31(調文片11)	
53	P33	偏円形	0.94×0.50	0.75×0.38	0.49	斑状コームの墨黑色土	調文5、2件より古	
54	Q34	円形	0.76×[0.48]	0.50×[0.42]	0.17	斑状コームの暗茶褐色土	調文片3、他2片	
55	Q32	円形	0.91×0.97	0.83×0.76	0.14	斑状コームの茶系褐色土	調文片2	
56	L33	楕円形	0.68×0.46	0.39×0.35	0.05	斑状土の暗茶褐色土	調文1	
57	L32	円形	0.86×0.70	0.64×0.58	0.29	斑状コームの暗茶褐色土	調文片4、他4片	
58	(欠番)(削木板)							
59	N32	隅丸長方形	2.07×0.75	1.89×0.52	0.29	暗茶褐色土	調文片5、他2片	
60	N32	鈍円形	0.89×0.68	0.65×0.46	0.53	斑状化物含む暗茶褐色土	調文前削、底形1、調文片22	
61	O31-33	円形	0.62×0.60	0.43×0.40	0.37	斑状コームの暗茶褐色土		
62	N32	隅丸長方形	2.09×0.69	1.96×0.47	0.35	斑状コームの暗茶褐色土	60块より新、調文片6、他3片	
63	P33	偏円形	[1.10]×0.62	0.951×0.45*	0.17	斑状コームの暗茶褐色土	7件より新、調文片1、他9片	
64	P32-33	隅丸長方形	0.981×0.95	0.634×0.33	0.33	斑状コームの墨黑色土	7件、63块より新、上部片3	
65	O-P33	隅丸長方形	1.02×1.30	1.56×1.02	0.21	斑状コームの墨黑色土	調文5	
66	P33	扁丸形	[0.42]×0.95	0.301×0.82	0.16	北状土の墨黑色土	2件より新、調文片1	
67	P33	偏円形	2.04×1.31	1.77×0.96	0.37	斑状コームの暗茶褐色土	調文片11、底片11、他2片	
68	P33	円形	2.17×1.95	1.04×0.86	1.44	斑状コームの暗茶褐色土	調文片25、序片7、他16片	
69	Q32	円形	2.05×1.93	1.64×1.42	0.62	斑状コームの暗茶褐色土	調文中期、43片	
70	S2-32	円形	0.97×0.78	0.68×0.56	0.22	斑状コームの墨黑色土	調文片4、他4片	
71	Q30-31	円形	1.21×0.99	0.63×0.41	0.24	斑状コームの暗茶褐色土	72块より古	
72	Q30-31	円形	1.27×1.20	0.77×0.71	0.20	暗茶褐色土	71块より新	
73	P30	椭円形	1.37×0.85	1.21×0.51	0.23	暗茶褐色土	調文片8、土端片4、他5片	
74	Q31	円形	1.04×0.96	0.66×0.51	0.29	黑褐色土		
75	(欠番)(削木板)							
76	N30	隅丸長方形	0.91×0.77	0.53×0.51	0.52	斑褐色土	調文片21	
77	R30	円形	1.12×0.97	0.90×0.69	0.26	斑状コームの暗茶褐色土	調文片2	
78	T31	隅丸長方形	2.40×1.76	2.80×1.97	1.05	斑状コームの墨黑色土	調文5	
79	S29	偏円形	[0.89]×0.89	[0.84]×0.86	0.26	寒青灰土	94块より新、上部小片12	
80	(欠番)							
81	N31	楕円形	1.79×0.91	1.32×0.47	0.21	暗茶系褐色土	調文5、調文片1	
82	L-M30	不整形円形	2.14×1.93	1.66×1.17	0.77	RB含む暗茶褐色土	9块より新、調文片4	
83	L-M3	隅丸長方形	2.63×1.45	2.24×1.0	1.0	斑状コームの墨黑色土	調文5、調文片21、他20片	
84	L-39-30	楕円形	2.75×1.92	2.35×1.87	0.71	RB含む暗茶褐色土	8块の重複5、東京酒造出土	
85	P29	円形	1.57×1.95	0.98×0.67	0.65	木紋層、黄系褐色土	2号横手窑、平成。	
86	P29	円形	0.81×0.75	0.49×0.45	0.28	暗茶褐色土	弥生5	
87	P29	円形	0.75×0.59	0.40×0.34	0.21	暗茶褐色土	調文片5、他2片	
88	T31	圓形	1.49×0.93	1.03×0.56	0.81	RB含む茶褐色土		
89	L29	不規形	[1.01]×0.85	[0.92]×0.52	0.26	桃子むら産茶葉褐色土	84块より新。	
90	S29	円形	0.99×0.87	0.79×0.72	0.27	暗茶褐色土	調文片1	
91	Q39	円形	0.77×0.63	0.43×0.35	0.24	暗茶褐色土	調文片2、【銘片2、他3片】	
92	T29	円形	0.98×0.86	0.60×0.59	0.28	暗茶褐色土	土端片1	

No.	形状	上径cm	高さcm	溝さcm	側上	背壳	
93	S29	扇大長方形	1.81×[0.76]	1.70×[0.50]	0.48	面状ロームの暗黄褐色土	調文か、調文片5
94	S+T29	円形	1.03×1.00	0.66×0.45	0.33	暗黃褐色土	798mより古、調文片1、調台片1
95	S29	橢円形	1.09×0.59	0.56×0.54	0.36	茶褐色土	調文片1、仰牛片1
96	N29	円形	1.16×1.18	1.39×1.38	0.68	黒褐色～深茶褐色土	調文中類、2個体～53片
97	K29	円形	0.85×0.82	0.65×0.61	0.10	曲状コムの暗黄褐色土	
98	R29	椭円形	0.98×0.75	0.58×0.41	0.12	近似ツバメの呂尻灰土上	谷頭部、調文片4
99	N29	円形	1.50×1.47	1.50×1.45	0.74	黑褐色～深茶褐色土	調文中類、188片
100	Q28	11形	1.23×1.16	1.01×0.93	0.36	面状ロームの暗黄褐色土	23mより古、調文片6
101	Q28	扇大長方形	2.34×0.80	2.03×0.54	0.78	曲状コムの暗黄褐色土	232mより古、調文片9
102	Q28	円形	0.94×0.85	0.65×0.52	0.39	木炭層	
103	Q28	円形	0.89×0.92	0.49×0.46	0.32	斑状ロームの茶褐色土	
104	O31	円形	0.61×0.60	0.39×0.36	0.27	黄茶褐色土	土壤片1
105	P27	狭大長方形	1.27×0.73	0.81×0.42	0.51	斜状ロームの暗黄褐色土	調文片1
106	P26	橢円形	1.02×0.82	0.68×0.43	0.35	暗灰～墨茶褐色土	
107	N28	椭円形	1.21×0.70	0.71×0.40	0.43	暗系～黄茶褐色土	上器片7、調片1
108	M27	円形			0.75	茶褐色土	調文片8、調文片285
109	K27	扇大長方形	1.73×1.59	1.01×0.66	1.02	暗黄褐色土	調文か、調文片3
110	M27	扇大長方形	2.08×0.67	2.31×0.47	0.29	堆土状古苔綠茶褐色土	111個・8個古苔類
111	L+M26-27	椭丸形	2.48×1.76	0.69×0.37	0.87	暗黄茶褐色土	110mより古。
112	N+O25+26	不整形	2.68×1.23	0.87×0.11	0.67	暗黄茶褐色土	調本版か、調文片12
113	K27	円形	0.65×0.63	0.31×0.27	0.17	暗黄茶褐色土	
114	O26	椭円形	1.57×1.23	1.20×0.57	0.38	黒褐色～暗黄茶褐色土	2個より古、碎片1
115	O2a	椭円形	0.97×0.74	0.47×0.28	0.30	暗黄茶褐色土	2個より古。
116	O2a	円形	0.66×0.62	0.47×0.41	0.20	暗黄茶褐色土	調文片1
117	L+M25	椭丸形	2.02×1.65	0.77×0.48	0.45	暗黄茶褐色土	調文片1、他1片、碎片1
118	1.26	円形	1.55×1.48	0.59×0.85	0.83	暗黄茶褐色土	調文片1、調文片1、他1片
119	N24	円形	0.92×0.90	0.70×0.58	0.21	暗黄茶褐色土	
120	M25	椭円形	0.81×0.82	(0.58)×0.28	0.15	暗黄茶褐色土	
121	M25	椭丸形	1.10×0.82	0.39×0.15	0.30	暗黄褐色土	
122	M26	円形	0.89×0.83	[0.36]×0.33	0.26	暗褐色土	
123	N24	円形	1.17×1.07	0.97×[0.66]	0.13	灰褐色土	
124	L+M24	椭丸形	1.72×1.18	1.48×0.83	0.23	暗黄茶褐色土	93Pより古。
125	M24	椭円形	0.85×0.76	0.63×0.42	0.15	暗黄茶褐色土	
126	M24	椭円形	0.94×0.69	0.52×0.45	0.17	泥質茶褐色土	
127	N25	円形	0.80×0.70	0.43×0.35	0.17	暗黄茶褐色土	
128	M24	円形	1.27×[0.79]	1.18×[0.68]	0.09	暗黄茶褐色土	
129	O24+25	円形	[1.88]×[1.48]	[1.61]×[1.39]	0.34	茶褐色～暗茶褐色土	61mより古、調文片2
130	N+O2+22	円形	1.09×1.01	0.72×0.80	0.35	暗黄茶褐色土	61mより古。
131	I25	円形	1.31×1.24	0.89×0.75	0.27	暗黄茶褐色土	
132	K24	円形	1.18×1.07	0.70×0.19	0.50	猪骨付、施・ブロック	調文片1、上器片4
133	I25	椭円形	1.37×1.06	1.13×0.86	0.23	茶褐色土	
134	J25	円形	1.07×1.00	0.61×0.55	0.32	暗黄茶褐色土	
135	M23	円形	0.80×0.76	0.58×0.50	0.21	人骨層	61号上面供地。
136	M22	椭円形	0.60×0.47	0.39×0.37	0.11	柱上含む茶褐色土	
137	M22	円形	0.57×0.53	0.27×0.22	0.25	埴土含む茶褐色土	調文片1、十番片2
138	M22	円形	0.92×0.80	0.49×0.48	0.14	赤土含む茶褐色土	
139	M22	円形	0.51×[0.43]	0.36×[0.30]	0.13	赤土含む茶褐色土	
140	M23	円形	1.08×0.95	0.78×0.68	0.15	茶褐色土	上器片1
141	(欠番)						
142	N22	椭円形	1.56×1.07	0.98×0.61	0.46	暗黄茶褐色土	81mより古。
143	K23	椭円形	0.41×0.28	0.29×0.20	0.08	施肥土含む暗黄褐色土	
144	J24	円形	0.51×0.90	0.53×0.33	0.26	暗黄茶褐色土	
145	L24	椭円形	1.38×0.95	0.91×0.48	0.21	暗黄茶褐色土	余志海片1
146	J23	椭丸形	2.33×2.02	1.80×1.73	0.77	黑褐色土	調文片6、上器片5、調片1
147	J23	円形	0.98×0.91	0.61×0.58	0.43	新褐色土	
148	J22	椭円形	0.85×0.61	0.65×0.47	0.12	暗黄茶褐色土	
149	J22	円形	0.76×0.72	0.55×0.47	0.16	暗黄茶褐色土	
150	U27+28	円形	0.78×0.65	0.51×0.38	0.32	暗黄茶褐色土	70件・151件より新、土希片5
151	U28	円形	0.59×0.82	0.79×[0.72]	0.27	暗黄茶褐色土	20件より新、土希・酒井片8など
152	W27	円形	1.36×1.17	1.00×0.87	0.50		17件より新。
153	(欠番)						

Ko	グリッド	平面形	上深cm	底深cm	高さcm	層2	層3
154	V23-24	隅丸方四形	2.64×1.14	2.07×0.81	0.53	岩手褐色土	230cmより古。
155	V24	積円形	0.98×0.77	0.62×0.46	0.48	暗赤褐色土	
156	V24	隅丸方四形	1.12×0.93	0.93×0.64	0.26	暗茶褐色土	
157	V24	積円形	0.88×0.76	0.54×0.39	0.67	黑褐色～茶褐色土	
158	V24	積円形	1.24×0.99	0.88×0.68	0.49	暗茶褐色土	
159	W24	積円形	1.33×0.99	0.90×0.63	0.11	暗茶褐色土	
160	U24	隅丸方四形	1.14×0.73	0.47×0.39	0.64	暗黄褐色土	縞文片1、土削・須惠片2
161	U24	円形	0.94×0.79	0.61×0.48	1.03	暗黄褐色土	土削・須惠片6
162	U25	円形	1.42×1.30	0.57×0.38	1.08	明赤褐色土	
163	W25	円形	1.69×1.48	0.96×0.91	0.51	黒褐色～深茶褐色土	弥生片2、土削・須惠片14など
164	W25	円形	1.02×0.91	0.64×0.62	0.35	暗茶褐色土	
165	W25	積円形	2.10×0.93	1.65×0.63	0.42	暗茶褐色土	上鉢片6
166	W25	方形	2.67×2.40	2.35×2.10	1.35	木炭層、Rn多、堆土層	赤化層
167	V25	円形	1.34×1.57	[1.36]×1.51	0.36	暗茶褐色土	230cmより古。
168	V25	積円形	1.34×1.13	0.82×0.89	0.47	暗茶褐色土	169cmより新。縞文片1など
169	W25	積円形	1.31×1.02	1.06×0.39	0.33	暗茶褐色土	2基塗抹。
170	W25	隅丸方四形	0.95×0.88	0.57×0.56	0.40	高麗～諸島茶褐色土	
171	W27	積片切引	[1.06]×[0.76]	[1.08]×[0.46]	0.46	奥土合む輝石角閃石	172號より新。縞文片12など
172	W27	隅丸形	2.35×1.37	1.35×0.61	1.44	暗茶褐色土	171cmより古。
173	W24-25	不規形	3.73×4.87	3.88×3.09	1.73	赤土合む暗茶褐色土	縞文片78、他上鉢片33
174	U28	廣長方四形	(3.10)×2.35	(2.60)×2.01	0.56	拂土合苔壁灰～具輪色土	唯正記に弥生・古墳上器も169
175	U30	円形	0.60×0.59	0.46×0.41	0.23	拂土合む輕黃褐色土	
176	V30-31	円形	0.31×0.45	0.27×0.21	0.34	暗茶褐色土	
177	V29	円形	0.73×0.69	0.48×0.40	0.30	拂土合む暗茶褐色土	
178	W30	円形	0.69×0.58	0.42×0.37	0.33	拂土合む暗茶褐色土	
179	V+W30	円形	0.61×0.53	0.33×0.32	0.32	拂土合む暗茶褐色土	縞文片1、十鉢片2
180	X30	拂円形	0.94×0.73	0.70×0.52	0.34	拂土合む暗茶褐色土	縞文片4
181	U29	隅丸方四形	1.30×1.15	1.08×0.92	0.22	拂土合む暗茶褐色土	
182	U29-30	隅丸方四形	1.24×0.80	1.12×0.67	0.17	拂土合む暗茶褐色土	
183	V29	円形	0.63×0.62	0.51×0.44	0.10	拂土合む暗茶褐色土	
184	W29	積円形	0.86×0.63	0.62×0.37	0.28	拂土合む暗茶褐色土	
185	X29-30	拂円形	0.93×0.62	0.67×0.49	0.81	暗茶褐色土	13作に接する。縞文片1
186	Y28	不整圓形	1.18×1.06	0.96×0.93	0.41	暗茶褐色土	12作に接する。
187	X30	隅丸方四形	0.63×0.57	0.55×0.42	0.43	暗茶褐色土	229號より新。弥生・古。
188	U28	隅丸方四形	1.12×1.03	0.91×0.85	0.34	拂土合む暗茶褐色土	土削・須惠片7
189	V28	拂円形	1.25×0.73	0.92×0.41	0.37	拂土合む暗茶褐色土	縞文片2
190	V29	不規形	1.56×1.70	1.49×1.45	0.37	刷毛化物合苔青褐色土	縞文片2
191	U27	拂丸長方形	1.69×0.85	1.51×0.70	0.29	拂土合む暗茶褐色土	20作以下。土削・須惠片2
192	U28	拂丸方四形	1.23×1.01	0.99×0.73	0.55	拂土合む暗茶褐色土	縞文片3、十鉢片7
193	U28	円形	0.69×0.65	0.52×0.45	0.28	拂土合む暗茶褐色土	
194	U27	隅丸方四形	1.48×1.29	1.29×0.96	0.28	拂土合む暗茶褐色土	
195	U27	隅丸方四形	0.91×0.87	0.74×0.69	0.27	拂土合む暗茶褐色土	
196	V27	拂円形	1.03×0.53	0.82×0.27	0.32	暗茶褐色土	223號より新。土器片1
197	U29	積円形	2.94×1.21	2.77×0.95	0.26	拂土合む暗茶褐色土	縞文片4、土器片4
198	X27-28	隅丸方四形	1.42×1.95	1.25×0.83	0.20	暗茶褐色土	西化物あり。伊豆の16位に接する。
199	U27	円形	1.02×0.77	0.64×0.52	0.51	拂土合む暗茶褐色土	20位より新。土削・須惠片15
200	W28	隅丸方四形	2.02×1.47	1.87×0.92	0.32	暗茶褐色土	縞文片1、土器片1
201	O26	拂円形	1.64×1.33	1.27×1.00	0.18	暗茶褐色土	縞文片1、十鉢片1
202	N28	円形	1.10×1.26	0.98×0.70	0.51	暗茶褐色土	縞文片1、十鉢片4
203	O30	方形	2.74×2.62	2.64×2.23	1.36	木炭層、拂土合フック	縞文片43、土削・須惠片8など
204	L+M24	円形	0.89×0.82	0.52×0.43	0.68	暗茶褐色土	縞文片1
205	K28	円形	0.83×0.73	0.53×0.35	0.40	道立ロームの暗茶褐色土	
206	T28	円形	(1.70)×1.43	0.87×0.69	0.88	竪坑ロームの暗茶褐色土	縞文片2、土器片2
207	N27	円形	2.23×1.95	1.81×1.62	0.65	拂土合む暗茶褐色土	縞文片3、土器片3、土削片5
208	P27	円形	0.66×0.60	0.46×0.37	0.21	暗茶褐色土	10片1、土削片1
209	Q31	円形	0.63×0.47	0.43×0.32	0.16	暗茶褐色土	縞文片1
210	F28				0.83	拂土合褐色土。木炭層	3号骨董。
211	L29-30	隅丸方四形	2.09×2.00	1.35×1.05	0.67	Rn合む暗茶褐色土	縞文片2、土削・須惠片3
212	Q31	隅丸方四形	1.67×1.35	1.33×1.00	0.13	暗茶褐色土	縞文片6、弥生片1、16cmなど
213	M28	拂円形	1.16×0.93	0.88×0.51	0.30	暗茶褐色土	土器片1
214	O29	円形	0.90×0.78	0.64×0.53	0.13	素褐色土	

No	グリッド	平面形	上面cm	側面cm	深さcm	壁土	備考
215	Q30	輪刃形?	1.20×[0.66]	0.94×[0.33]	0.29	茶褐色	39件より、39件より。
216	N30	円形	1.00×0.89	0.75×0.68	0.10	輪葉系褐色土	純文5%
217	O27	円形	1.34×[1.13]	0.80×[0.93]	0.37	KB含む茶褐色土	2箇と重複。形状不明。
218	M30	円形	1.57×1.52	1.48×1.46	0.68	無色	2箇下段山。鷺文片23
219	Q26	輪円形	1.02×0.84	0.65×0.49	0.35	黃褐色土	3例より。鷺文片1
220	Q26	円形	0.91×0.90	0.31×0.30	0.74	黄茶褐色土	2箇より。
221	W-X28	摩円形	1.58×1.25	1.65×0.95	0.23	暗褐色土	鷺文片9、土器片3
222	U27	円形	1.30×1.18	0.94×0.79	0.39	燒土含む暗褐色土	
223	V30	輪円形	2.43×1.67	1.14×0.80	0.75	燒土含む淡褐色土	鷺文片16、上器片8
224	W28	輪円形	1.22×0.65	1.11×0.68	0.30	暗褐色土	41件より。土器片6
225	V27	楕丸形	10.70×0.55	[0.65]×0.32	0.14	無土	196件より。鷺文片1
226	U31	楕丸形	1.18×0.99	0.73×0.68	0.77	暗褐色土	鷺文片1、上器片2
227	V28	円形	0.76×0.64	0.57×0.45	0.44	燒土含む茶褐色土	鷺文片2
228	V30	輪円形	0.81×0.52	0.29×0.18	0.43	燒土含む茶褐色土	
229	X30	円形	2.51×2.13	2.14×1.93	0.47	暗褐色土	187件より。鷺文片16など
230	V23+24	楕丸形?	1.20×[0.42]	1.05×[0.29]	0.11	暗褐色土	
231	Q26	輪円形?	[0.67]×0.90	[0.73]×0.80	0.12		100件より。
232	Q23	楕丸形?	1.14×[0.43]	[0.85]×[0.25]	0.32	燒土	101件より。

第47表 ピット一覧表

(1) 深度10cm未満

No	グリッド	平面形	上面cm	側面cm	深さcm	底土	備考
1	J36	円形	28.0×34.0	27.0×28.3	21.0	25.27	茶褐色
2	J36	準円形	52.0×36.0	36.0×34.0	17.0	25.34	茶褐色
3	J36	輪円形	49.5×35.0	17.5×14.0	32.0	25.29	茶褐色
4	J36	輪円形	79.0×33.0	41.0×26.5	23.0	25.10	茶褐色
5	J36	楕丸形	30.0×23.0	15.0×1.5	25.0	25.38	黒茶褐色
6	K35	輪円形	91.0×37.0	18.0×9.0	79.0	24.55	茶褐色
7	J36	円形	42.0×33.0	28.0×21.0	11.0	25.33	茶褐色
8	J36	円形	39.0×32.0	24.0×20.0	7.5	25.47	茶褐色
9	J36	円形	11.0×35.0	20.0×17.0	26.0	25.37	黑茶褐色
10	J36	円形	41.0×34.0	25.0×21.0	24.5	25.39	黑茶褐色
11	J+K36	円形	34.0×18.5	25.0×18.0	34.0	25.28	黑茶褐色
12	J36	円形	39.0×32.0	7.0×6.5	78.0	24.84	黑茶褐色
13	J36	円形	34.0×29.0	24.0×19.0	8.0	25.29	茶褐色
14	J36	円形	38.0×37.5	25.0×22.0	13.0	25.27	黑茶褐色
15	K36	楕丸形	48.0×41.0	33.0×29.0	14.0	25.31	茶褐色
16	J36	不規形	76.0×67.5	9.0×7.0	46.0	25.04	黒茶褐色
17	E6	不規形	[45]×1.0	[27]×2.0	27.5	25.37	茶褐色
18	J35	円形	35.0×32.0	21.0×18.0	14.0	25.33	茶褐色
19	J35	輪円形	41.0×31.0	17.0×16.0	14.0	25.35	黒茶褐色
20	J36	輪円形	42.0×33.0	24.0×15.5	21.0	25.25	黑茶褐色
21	J35	輪円形	53.0×38.0	32.0×12.5	15.0	25.25	茶褐色
22	K35	輪円形	57.5×45.0	10.0×9.5	39.0	25.01	黒褐色
23	K35	輪円形	57.0×33.0	39.0×19.5	31.0	25.09	黑褐色
24	K35+36	輪円形	62.5×32.0	31.0×18.0	3.0	25.16	茶褐色
25	K36	円形	44.0×45.0	27.0×23.0	15.0	25.20	茶褐色
26	K35	輪円形	47.0×38.0	36.0×22.0	15.0	25.21	茶褐色
27	K36	輪円形	78.0×50.0	16.0×12.0	24.0	25.15	黑褐色
28	K35	輪円形	55.0×32.5	34.0×14.0	24.0	25.23	黑褐色
29	J35	円形	45.0×38.0	26.0×21.0	9.5	25.30	茶褐色
30	J35	輪円形	39.0×41.0	26.0×18.0	25.0	25.26	黑褐色
31	J35	円形	39.0×36.0	21.0×19.0	16.0	25.33	黑褐色
32	K35	輪円形	48.0×32.0	11.0×13.5	65.0	24.69	茶褐色
33	K35	円形	53.0×28.0	9.0×8.5	61.0	24.82	茶褐色
34	K34	楕丸形	65.0×57.0	11.0×7.5	67.0	25.02	茶褐色
35	K34	輪円形?	[45]×[40]	[12.1]×[20]	19.0	25.37	黒褐色
36	K34	輪円形	[37]×34.0	26.0×18.0	81.0	24.74	茶褐色
37	K34	輪円形	72.0×62.0	43.0×31.0	71.5	25.05	茶褐色
38	K34	円形	[0.0]×37.0	24.0×20.0	29.5	25.31	黑茶褐色
39	L32	円形	29.0×28.0	16.0×13.0	17.0	25.80	黑茶褐色
40	L33	円形	65.0×59.0	2.0×21.0	33.0	25.46	茶褐色

No.	グリッド	平面形	上面寸法	前面寸法	深さcm	奥深さcm	幅cm	参考
41	L22	円形	55.0×46.0	31.0×27.0	32.0	25.49	黒褐色	
42	L33	楕円形	87.0×72.0	23.0×20.0	19.0	25.35	茶褐色	
43	J35	楕円形	61.0×40.0	37.0×22.6	24.0	25.24	墨茶褐色	
44	M32	楕円形	53.0×43.0	27.0×20.5	22.0	26.21	茶褐色	
45	N32	楕円形	55.0×42.0	26.0×28.0	16.0	26.35	墨スモーク	
46	Q22	円形	(45)×(43)	19.0×9.5	16.0	26.53	セミシル	
47	O47	円形	27.0×21.0	12.0×9.0	21.0	26.83	透口土	
48	N29	円形	53.0×47.0	22.0×17.0	73.0	25.91	茶褐色	33注全切込
49	N31	円形	47.0×43.0	29.0×25.0	22.0	26.28	茶褐色	
50	N31	円形	38.0×36.0	8.0×7.5	41.0	26.15	茶褐色	
51	N30	円形	36.0×30.5	19.0×14.0	32.0	26.24	茶褐色	
52	N30	円形	23.0×22.5	9.0×8.0	25.0	26.38	茶褐色	
53	N30	円形	11.0×10.0	8.0×6.5	38.0	26.22	茶褐色	
54	N30	円形	24.0×23.0	13.0×9.5	18.0	26.34	茶褐色	
55	N30	円形	27.0×21.5	15.0×14.0	20.5	26.31	茶褐色	
56	M+N28	円形	32.0×44.0	27.0×25.0	27.0	26.36	茶褐色	
57	P28	円形	37.0×30.5	17.0×13.0	83.0	25.77	墨茶褐色	
58	Q+N28	円形	37.0×33.0	27.0×26.0	22.0	26.80	墨茶褐色	
59	R29	円形	43.0×41.0	23.0×9.5	30.0	26.11	墨茶褐色	
60	Q28	楕円形	47.0×40.5	32.0×30.5	26.0	26.27	墨茶褐色	
61	N31	楕円形	79.0×65.0	20.0×15.0	169.0	25.10	墨茶褐色	絞文字13
62	N21	円形	49.0×42.0	23.0×24.0	125.0	25.43	茶褐色	絞文字3
63	N31	円形	68.0×50.5	21.0×23.5	56.0	25.99	茶褐色	絞文字3
64	N30	円形	57.0×53.0	23.0×22.0	160.0	25.61	茶褐色	絞文字7
65	N30	楕円形	102.0×69.0	16.0×15.0	83.0	25.71	茶褐色	絞文字12
66	N30	円形	43.0×42.0	19.0×18.5	89.0	25.68	茶褐色	
67	N30	円形	56.0×31.0	35.0×24.0	10.5	26.42	茶褐色	
68	N29	円形	22.0×20.0	17.0×12.0	34.0	25.63	墨褐色	96片に半ウビット
69	N30	円形	50.0×46.0	25.0×23.0	14.0	26.44	墨茶褐色	
70~89	欠番							
90	L28	円形	32.0×30.5	18.0×17.0	19.0	26.14	網り粒	
91	L27	円形	37.0×33.0	25.0×23.0	8.0	26.10	炭化物	
92	L26	円錐	39.0×34.0	8.0×(7)	33.0	25.99	炭化物	
93	M21	円形	40.0×35.0	22.0×29.5	37.0	26.13	茶褐色	121項を引む
94	N25	円形	47.0×40.0	13.0×9.0	15.0	26.33	茶褐色	
95	K26	円形	38.0×37.0	23.0×17.0	15.0	26.13	茶褐色	
96	K24	楕円形	34.5×36.0	22.0×13.0	89.0	25.20	茶褐色	絞文字11
97	K24	円形	30.5×47.0	24.0×29.0	21.0	21.88	茶褐色	絞文字15
98	K24	円錐	33.0×32.0	23.0×19.0	55.0	25.62	茶褐色	絞文字3
99	K22	円形	70.0×65.5	35.0×26.0	69.0	25.81	墨茶褐色	絞文字3
100	K22	円形	46.0×38.0	28.0×14.0	73.0	25.52	墨茶褐色	
101	V23	円形	48.0×44.0	21.0×20.5	29.0	25.53	茶褐色	
102	V23	円形	37.0×36.0	22.0×21.0	36.0	25.22	茶褐色	
103	U23	円形	60.0×47.0	33.0×28.5	23.0	21.47	墨褐色	
104	U24	円形	46.0×39.0	14.0×7.5	38.0	24.88	茶褐色	
105	V24	円形	49.0×46.0	31.0×26.0	33.0	25.70	茶褐色	
106	V23	楕丸形	67.0×56.0	26.0×25.0	45.0	25.30	茶褐色	
107	V24	楕円形	94.0×69.0	52.0×38.0	39.0	25.87	茶褐色	
108	V21	円形	41.0×37.6	25.5×19.0	15.0	25.72	墨褐色	
109	V24	円形	52.0×45.0	24.0×19.0	67.0	25.33	墨褐色	
110	U24	円形	24.0×21.0	6.0×5.0	29.0	25.28	茶褐色	
111	V21	円形	77.0×68.0	56.0×48.0	16.0	25.72	茶褐色	
112	V24	楕丸形	41.0×40.0	11.0×9.0	25.0	25.95	茶褐色	
113	V24	楕円形	90.0×66.0	64.0×31.0	18.0	25.97	茶褐色	
114	V24	円形	39.0×29.0	13.0×9.5	35.0	25.97	墨褐色	
115	V24	楕丸形	45.0×43.0	28.0×23.0	44.0	25.91	茶褐色	
116	V24	円形	9.0×35.0	22.0×13.0	42.0	25.98	茶褐色	
117	V24	円形	46.0×43.0	24.0×18.5	42.0	26.03	墨褐色	
118	V24	円形	59.0×63.0	23.0×28.0	59.5	25.79	茶褐色	
119	W24	楕丸形	37.0×32.0	22.0×18.5	29.0	26.03	茶褐色	
120	W24	楕円形	58.0×48.0	45.0×28.0	41.0	25.99	茶褐色	

No.	グリッド	平面形	上面径cm	底面径cm	深さcm	底面周長cm	覆土	備考
121	W24	円形	41.0×37.0	27.0×22.0	29.0	25.97	茶褐色	
122	W24	楕円形	50.0×40.0	37.0×28.0	22.0	26.06	茶褐色	
123	W23	椭丸形	67.0×83.0	44.0×29.0	28.0	25.36	茶褐色	
124	W24	椭円形	132.0×84.0	74.0×46.0	62.0	25.75	茶褐色	
125	W25	椭円形	56.0×42.0	26.0×18.0	38.0	26.12	茶褐色	
126	W25	椭丸形	87.0×75.0	45.0×33.0	48.0	26.26	茶褐色	
127	W25	椭丸形	(57)×47.0	15.0×14.0	66.0	26.12	茶褐色	
128	W25	椭円形	87.0×72.0	32.0×21.0	32.0	26.46	茶褐色	
129	W25	円形	59.0×33.0	34.0×33.0	37.0	26.41	茶褐色	
130	W25	円形	73.0×72.0	47.0×15.0	46.0	26.45	茶褐色	
131	W25	椭丸形	(68)×85.0	(35)×59.0	39.0	26.50	茶褐色	
132	X25	椭丸形	81.0×78.0	62.0×47.0	30.0	26.43	茶褐色	
133	X25	円形	48.0×45.0	26.0×23.0	27.0	26.34	茶褐色	
134	X25	椭円形	75.0×13.0	52.0×21.0	39.0	26.19	茶褐色	
135	X25	円形	44.0×36.0	16.0×14.0	39.0	26.17	茶褐色	
136	X25	円形	43.0×35.0	22.0×21.0	31.0	26.44	茶褐色	
137	U25	円形	53.0×47.0	23.0×9.5	56.0	25.23	茶褐色	
138	W25	椭円形	90.0×62.0	15.0×10.5	33.0	26.34	茶褐色	
139	W25	椭円形	85.0×71.0	17.0×12.0	61.0	26.26	茶褐色	
140	U26	円形	51.0×46.0	16.0×12.0	29.0	25.77	茶褐色	
141	U26	円形	52.0×36.0	12.0×7.0	30.0	25.66	茶褐色	
142	U26	円形	57.0×49.0	33.0×26.0	25.0	25.89	茶褐色	
143	U26	椭円形	87.0×71.0	67.0×49.0	27.0	25.97	茶褐色	
144	U26	椭円形	69.0×50.0	21.0×8.0	36.0	25.83	茶褐色	
145	U26	円形?	45.0×43.0	36.0×-	21.0	25.98	茶褐色	
146	U26	椭円形?	69.0×-	52.0×-	29.0	25.90	茶褐色	
147	W25	円形	45.0×37.0	16.0×14.0	45.0	26.44	茶褐色	
148	W25	円形	98.0×93.0	18.0×13.0	33.0	26.33	茶褐色	
149	W-X26	円形	5.0×76.0	62.0×47.0	36.0	26.38	茶褐色	
150	X26	椭円形	83.0×57.0	67.0×27.0	23.0	26.47	茶褐色	
151	W26	椭丸形	79.0×70.5	26.0×16.0	25.0	26.60	茶褐色	
152	V27	円形	53.0×48.0	39.0×33.0	22.0	26.53	茶褐色	
153	V27	椭円形	33.0×41.0	36.0×26.0	26.0	26.67	茶褐色	
154	V27	円形	61.0×55.0	36.0×35.0	19.0	26.79	茶褐色	
155	V27	椭円形	66.0×49.0	[37]×25.0	31.0	26.56	茶褐色	
156	W-X23	椭丸形	72.0×61.0	51.0×17.0	23.0	25.69	茶褐色	
157	W-X23+24	椭丸形	85.0×68.0	26.0×15.0	53.0	25.49	茶褐色	
158	X26	円形	38.0×37.5	11.0×7.0	29.0	25.99	茶褐色	
159	W26	椭円形	90.0×70.0	73.0×33.0	32.0	26.54	茶褐色	
160	V27	椭円形	70.0×52.0	46.0×31.0	31.0	26.71	病状	
161	U30	円形	37.0×35.0	24.0×23.0	57.0	26.93	微生物	
162	U30	円形	42.0×34.0	17.0×15.0	33.0	26.36	茶褐色	
163	V28	円形	39.0×33.0	13.0×11.0	89.0	25.60	茶褐色	
164	V29	円形	65.0×41.0	29.0×19.0	36.0	25.33	微生物	
165	V29	椭円形	67.0×58.0	40.0×29.0	38.0	26.35	茶褐色	
166	V-W29	円形	29.0×22.0	7.0×5.6	62.0	26.12	病状・腐化物	
167	V-W29	円形	28.0×26.0	17.0×16.0	30.0	26.24	茶褐色	
168	V28	椭円形	61.0×47.0	46.0×29.0	43.0	26.60	茶褐色	
169	V28	椭円形	56.0×39.0	33.0×21.0	67.0	26.37	茶褐色	
170	U28	円形	43.0×42.0	12.0×11.0	58.0	26.40	微生物	
171	V28	円形	49.0×43.0	36.0×16.0	32.0	26.73	病状・腐化物	
172	V28	円形	58.0×56.0	47.0×18.0	31.0	26.74	微生物	
173	U27-28	円形	68.0×61.0	28.0×17.0	64.0	26.19	微生物	
174	V27	椭丸形	8.0×26.0	26.0×5.0	99.0	26.95	病状・腐化物	196病状切片
175	V28	円形	34.0×31.0	13.0×8.0	50.0	26.55	微生物	
176	V28	椭円形	66.0×59.0	51.0×21.0	57.0	26.48	微生物	
177	U-V28	椭円形	91.0×60.0	69.0×34.0	33.0	26.69	病状・腐化物	2本重複か?
178	U27	椭丸形	62.0×58.0	38.0×27.0	17.0	26.34	微生物	
179	V26	椭丸形	70.5×55.0	22.0×11.0	32.0	26.01		Seeなし
180	X-Y29	円形	(55)×48.0	(33)×29.0	70.0	26.68	茶褐色	
181	W29	円形	75.0×65.0	53.0×42.0	9.0	26.69	茶褐色	飼木底より新

IV 出土遺物の鑑定と分析、保存処理

1. 信太入子ノ台遺跡出土古代人骨について

谷畠美帆

(明治大学研究知能戦略機構・客員研究員)

本稿では平成21年10月1日～平成22年6月1日に実施された発掘調査により、信太入子ノ台遺跡から出土した壺内に納められていた人骨片についての記載をする。詳細は下記のとおりである。

①第1号蔵骨器

壺内には土混じりの人骨が納められている。壺内に納められている人骨には部位によって焼成時の温度差があり、大腿骨など下肢骨が特に白っぽい色調（5RP, 9/0.5）を呈している。

壺内の上層には大腿骨などの下肢骨が配され、下層には頭蓋骨片が納められている。そのため壺には頭蓋骨片など頭部に位置する人骨が先に収納され、大腿骨など下肢の骨が最後に納められたと考えられる。成人個体であるが、年齢や性別の詳細については不明である。

②第2号蔵骨器（灰釉陶器）

壺内には土混じりの人骨が納められている。壺内に納められている人骨には部位によって焼成時の温度差があり、大腿骨など下肢骨が特に白っぽい色調（5RP, 9/0.5）を呈している。

壺内の上層には大腿骨などの下肢骨が配され、腰椎は検出されていないが、中層に肋骨・頸骨・上肢骨などが配されている。また下層には下頸骨や頭蓋骨片が納められている。

焼成人骨の場合は、比熱による収縮が生じるため、困難であるが、本個体の場合、検出された寛骨臼の大きさから男性の可能性がある。また本個体の年齢は、頭蓋骨の外板が未閉鎖、内板閉鎖が終了していることから、壮年と考えられる。

③第3号蔵骨器（須恵質・蓋裏に「人伴」墨書）

壺内には、土混じりの人骨が納められている。鑑定を実施した結果、部位によっては被熱差が見られる。人骨片は、下肢骨片が上層に配され、下肢骨は特に白っぽい色調（5RP, 9/0.5）を呈しており、被熱による変形も見られる。寛骨と推される破片は検出されていない。この他、頸椎や肋骨片が中層から見つかっている。また上肢骨の一部も中層から検出されている。

下肢骨の中でも大腿骨は近位端を上に遠位端を下にして納められていることが明らかとなった。下層には頭蓋骨片などが納められており、歯牙片も1本検出されている。歯牙は、焼成の際に消失してしまうことが多いらしく、今回のような焼成人骨の場合は遺存していないことが多い。性別については不明であるが、頭蓋骨内板の縫合が終了していることから本個体の年齢は壮年以降と考えられる。

焼成人骨については、遺存状態の不良さ等からこれまであまり注目されてこなかった。しかし、比熱による温度差が部位によって存在することから、焼成時の様相を考察する手がかりとなるものもあり、興味深い。またすべての壺内には重複している部位が存在しないことから、1個体分のみが納められていると考えられる。

2. 信太入子ノ台遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

信太入子ノ台遺跡（茨城県稲敷郡美浦村信太）は、霞ヶ浦の東側、小野川左岸の台地（稲敷台地）上に位置する。発掘調査の結果、本遺跡は縄文時代前期後半から平安時代の集落であることが確認されている。

本報告では、平安時代の焼失住居と考えられる住居址から出土した炭化材の樹種、および木材利用の検討を目的として樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、平安時代の住居址から出土した柱材あるいは屋根材と推定される炭化材 10 点である。その内訳は、4 号住居址が 6 点（№ 1 ~ 5.8）、17 号住居址が 3 点（№ 6,7,17）、25 号住居址が 1 点（№ 3）である（表 1）。

試料に供された炭化材は、いずれも棒状を呈し、木口（横断面）の観察から芯持丸木材（4 号住居址；№ 1,17 号住居址；№ 6・17）、芯持材（4 号住居址；№ 3・4）、および芯材部が欠損する、あるいは不明瞭なものに分類された。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・桿目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の剖断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3. 結果

結果を表 1 に示す。炭化材は、広葉樹 3 分類群（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は 1-3 列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織がある。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prima*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は 1-3 列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織がある。

- ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は 3-4 列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

表1. 樹種同定結果

試料番号	遺構	時代	遺物番号	観察所見		樹種
				形状	径(cm)*	
No.1	4号住居址	平安時代	No.1	芯持丸木	6.0	クリ
No.5	4号住居址	平安時代	No.2		3.5	クリ
No.6	4号住居址	平安時代	No.3	芯持材	7.0	コナラ属コナラ亜属コナラ節
No.7	4号住居址	平安時代	No.4	芯持材	3.5	クリ
No.8	4号住居址	平安時代	No.5		4.0	コナラ属コナラ亜属コナラ節
No.9	4号住居址	平安時代	No.8		1.5	クリ
No.10	17号住居址	平安時代	No.6	芯持丸木	3.0	コナラ属コナラ亜属コナラ節
No.11	17号住居址	平安時代	No.7		2.5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
No.12	17号住居址	平安時代	No.17	芯持丸木	4.5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
No.13	25号住居址	平安時代	No.3		3.0	コナラ属コナラ亜属コナラ節

*径は、形状が芯持丸木のものは直径、芯持材は半径、その他は残存する木口(横断面)の幅に相当。

4. 考察

平安時代の住居址から出土した炭化材からは、クヌギ節、コナラ節、クリの落葉広葉樹3分類群が認められた。これらは、二次林等を構成する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する種類である。また、いずれも人里周辺に普通に見られる分類群であることから、遺跡周辺に生育した樹木のうち強度の高い木材が選択、利用されたと考えられる。

各住居址の炭化材の出土状況と樹種構成についてみると、4号住居址の實際出土試料(No.1,2,8)にクリが多いという傾向や、17号住居址および25号住居址はクリが認められずクヌギ節、コナラ節を主体とするという特徴が窺われる。

本遺跡周辺における調査事例では、興津白井遺跡(美浦村)の平安時代の住居址より出土した炭化材にクヌギ節が確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社,2000)。この他、馬場遺跡や行人田遺跡(牛久市)の8世紀後半~9世紀初頭の住居址から出土した炭化材にクヌギ節やコナラ節(パリノ・サーヴェイ株式会社,1996)、霞ヶ浦の対岸に位置する木ノ台遺跡(行方市)の9世紀中頃~後半の住居址から出土した炭化材にクリ、サクラ属、ヤマウルシが確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社,1998)。これらの調査事例を踏まえると、今回の分析調査で確認されたクヌギ節、コナラ節、クリは、本遺跡周辺の平安時代と考えられる住居跡の建築部材の主要な用材であったことが推定される。

引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 観微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1996,馬場遺跡・行人田遺跡出土の炭化材・炭化種子同定報告について,牛久北部特定土地内埋蔵文化財調査報告書(IV),茨城県教育財团,261-264.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1998,木ノ台遺跡から出土した炭化材の樹種,北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ,茨城県教育財团,394-398.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2000,興津白井遺跡における自然科学分析,興津白井遺跡 一美浦村水処

- 理センター建設に伴う埋蔵文化財の調査一、美浦村教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告9、美浦村教育委員会・美浦村興津白井遺跡調査会、35-38。
- 島地 謙・伊東 降大、1982、図説木材組織、地球社、176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編) ,1998、広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト、伊東隆大・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修)、海青社、122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)
IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

3. 金属遺物の保存処理

信太入子ノ台遺跡より出土した金属遺物3点の保存処理工程を記す。

1. 保存処理方法および工程

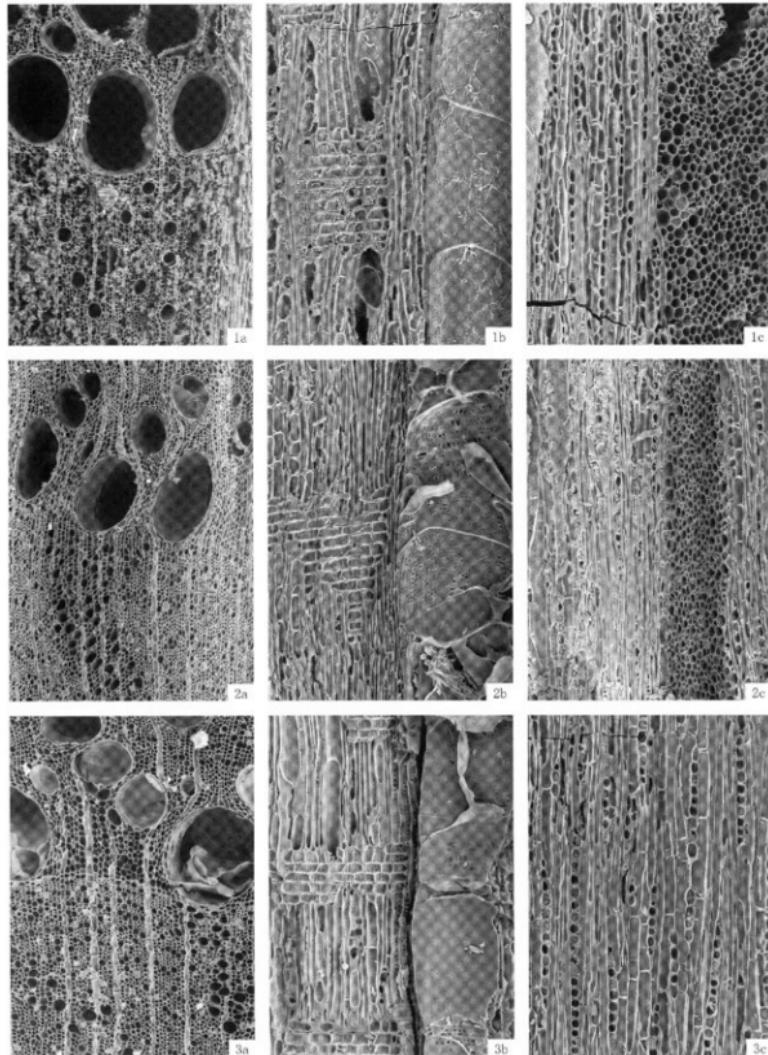
(1) 鉄製品

- 1) 事前記録（処理前状況）
- 2) X線写真撮影（装置：(株)理学電気 RF-250 X-ray）
- 3) 脱塩処理（アルカリ溶液による脱塩処理後、脱アルカリ処理）
- 4) クリーニング（ミニグラインダー・エアーブラシ等による）
- 5) 合成樹脂による強化処理（アクリル樹脂プライマルMV-1の減圧含浸・塗布）
- 6) 乾燥（脱水処理）
- 7) 接合（エポキシ系接着材による）
- 8) 写真撮影（処理跡後状況）
- 9) 脱酸素剤を封入したフィルムパックへ梱包

(2) 銅製品

- 1) 事前記録
- 2) X線写真撮影（装置：(株)理学電気 RF-250 X-ray）
- 3) 脱塩処理（アルカリ溶液による脱塩処理後、脱アルカリ処理）
- 4) クリーニング（ミニグラインダー・エアーブラシ等による）
- 5) 合成樹脂による強化処理（アクリル樹脂バラロイドB-72の減圧含浸・塗布）
- 6) 乾燥（脱水処理）
- 7) 接合（エポキシ系接着剤による）
- 8) 写真撮影
- 9) 脱酸素剤を封入したフィルムパックへ梱包

図版1 炭化材



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(17号住;No.17)

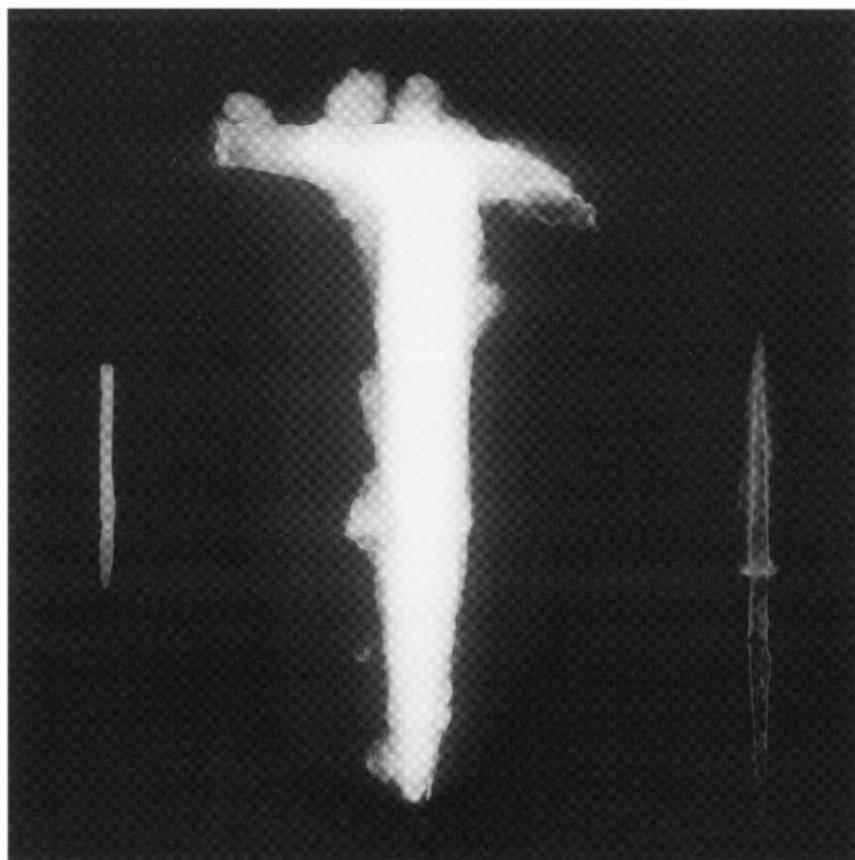
2. コナラ属コナラ亜属コナラ節(4号住;No.3)

3. クリ(4号住;No.8)

a:木口, b:軸目, c:板目

— 200 μ m : a
— 200 μ m : b, c

図版2 金属器のX線写真



(左) 第14号土坑・銅器 (中央) 第1号掘立柱建物址・鉄器 (右) 第29号住居址・鉄器

V まとめ

縄文時代

縄文時代のものと考えている遺構は、堅穴住居址 7 軒、十坑 10 基である。その他、時期不明とした、いくつかの上坑とピットは、遺構の形状、堆積上、山上遺物を考慮すると、縄文時代のものである可能性がある。堅穴住居址はいずれも前期のもので、前期前半と思われる住居址が 2 軒、前期後半の、浮島式～奥津式の時期のものと思われる住居址が 3 軒、前期の住居址が 2 軒である。上坑は、前期後半の浮島・奥津式期 2 基、中期中葉 4 基、中期後葉 2 基である。

土器片は、中期～後期までの上器が出土した。土器欄半は、茨城県における最新の縄文土器研究をまとめている「茨城の縄文土器」(茨城県立歴史館史料部 2006) を基準にしている。

早期の土器片では、器面を横にへラ削りした土器片が出土しており、一部は横に凹状に器面を削っている。胎土が灰黄褐色で、白色粒や礫を多く含み、胎土の密度が疎である点は、早期中葉の沈線文系土器と同じである。この器面を横にへラ削りした土器は、撚糸文系土器と沈線文系土器の間に位置する土器群と考えており、本遺跡出土土器の中ではもっとも古い土器である。出土した土器片数は、沈線文系土器と同様、多くはない。早期の後半の条痕文系土器は、東台地を中心に比較的多く出土した。特に早期の終末期と考えられる、土器の外側と内面に条痕や擦痕を施すものが多く出土している。胎土に纖維を含み、条痕を施さず、縄文を器面に施した、前期前半の土器群は、東台地・西台地の北側を中心に出土している。器面に、単節縄文、無節縄文、羽状縄文、木目状撚糸文や付加条縄文を施しており、沈線は単沈線を横方向に並べて巡らしたものが多い。黒浜式を中心に山上していると考えている。同じく調査区北側を中心に出土する前期後半の土器は、胎土に纖維を含まず、黄褐色～橙褐色を呈し、一部の土器片は白色粒や礫を多く含み、雲母を含むこともある。文様では、半截竹管状工具を使った平行沈線文や、貝殻を使った波状貝設文が多く、輪積み痕を残しているものも少なくない。浮島式～奥津式を

中心に出土している。中期は、器厚が厚くなり、沈線と隆帯を器面に施す。単沈線を組み合わせた文様が多い中期前葉の五領ヶ台式と見られるものは少なく、隆帯や沈線、角押文を使って区画を作り、中に縄文や柔線を充填させる、中期中葉～後葉の上器片が多い。中期中葉の土器は、胎土に白色粒や礫、雲母を含む。後期の土器は、器面に磨消縄文を施している。

信太入子ノ台遺跡において、土器片の時期別出土数では、3 時期に土器片数が増加する。最初の時期が、早期後半の条痕文系土器の時期で、特に外側と内面に条痕文のみが施された早期終末の時期ものが、東台地北部で多く出土する。次の時期が、前期前半の黒浜式から、前期後半の奥津式までの時期で、土器片は調査区北側を中心に出土する。最後の時期が、中期中葉から後葉の時期で、土器片が西台地南より出土する。堅穴住居址は前期のもの、十坑は中期中葉～後葉のものが多いと推定しており、土器片数の増加と信太入子ノ台遺跡の利用された時期には関連性があると考えられる。早期の遺構は確認できなかったが、早期の土器片が多く出土した東台地の北側は、現在の宅地跡や、弥生時代から平安時代までの遺構が多く出土しており、早期後半の遺構は、これらの後世の遺構によって破壊されているものと考えられる。

要するに、今回の発掘調査で分かったことは、調査箇所は、早期後半に何らかの利用がなされ、前期に堅穴住居址が建設され、中期中葉から後葉には上坑が存在したことである。

弥生・古墳時代

今回の調査の結果、弥生時代に属する遺構として堅穴住居址 9 軒、古墳時代に属する遺構として堅穴住居跡 9 軒、周溝 1 基が検出された。両時代の住居のほとんどが東台地に占地し、東台地より広い平野部を持つ西台地には第 7 号住居址と第 8 号住居址の 2 軒が確認されるだけであった。

出土遺物をみると弥生時代の住居内では第 13 号住居址の大型壺や、第 34 号住居址の完形の壺など、ほとん

どの住居址で胸部下半から底部、口縁から胸部上半と遺存率の良い資料が出土した。しかも、住居内出土の弥生土器片の半数近くがこれらの資料に接合した。一方、古墳時代では第 26 分住居址を除く住居では遺存率の良い資料の出土は少なかった。また、両時代の住居址からは土器以外の遺物の出土は少なく、紡錘車・球状土錐も各 1~2 点の出土と出土数は非常に少なかった。

弥生・古墳の住居址に共通する個体数の少なさは主に住居廃絶時に伴う住居の解体・清掃によるものと考えられる。第 13 号住居址や第 26 号住居址では床面付近に炭化材が確認でき、第 10・27 分住居址では床面が粘土質に変化し、その他の住居でも床面付近の層から焼土が確認され住居のピットには焼土が含まれない傾向が見られた。このことから住居廃絶に解体が行われ、解体に伴って住居内を清掃が行われたため住居覆土内から遺存率の良い資料の出土が少なかったと考えができる。弥生時代の住居では床面からは弥生土器・上層からは古墳時代の遺物が出土する傾向を持ち第 13・16 号住居址のように遺存率の良い古墳時代の遺物も出土している。断言はできないが、古墳時代の住居廃絶時との関係性も考えられる。

しかし、弥生時代の住居址に関しては廃絶に伴う清掃だけでは説明しきれない。第 16 分住居址の東壁で出土した壺は、床面を掘り込み、隣に磨石をそえて壺を掘えていた事からみても意図的な行為である事は明白である。また、先述したが住居内山上器の大半が同一個体に接合する事がほとんどの弥生時代の住居址に確認でき、第 16・32 号住居址出土の小型壺や第 13 号住居址出土の胸部に穿孔を施した壺の出土とあわせて第 16 号住居址のみに意図的な行為が行われていたと考えにくく、他の目的を持っていると考え事ができる。古墳時代の住居は弥生時代の住居址ほど全体的に接合はないため同様の行為があったとは考えにくく、この遺物出土状況は弥生時代後期を考える上で留意した方がよいと思われる。

今回の調査では台地上に弥生後期後半～古墳時代前期の住居が密集したが、両時代の住居址が台地上に密集して検出される例は少なく、弥生時代から古墳時代の過渡期や当時の台地利用を考える上で良い資料を提供した遺跡と言える。今後の弥生・古墳時代の研究及び美術

村の古代史の解明に少しでも役に立てば幸いである。

奈良・平安時代

今回の調査で確認された住居址や上坑などについて、その覆土中から出土した遺物の傾向などを参考にしながら見ていきたい。

まず、出土遺物による遺構の時期認定については、今後詳細な検討を行う必要があるが、おおまかにみると、住居址群では、供膳具が上部質土器主体の構成をとり、削り整形の上部質土器が多いことから、おおよそ 9 世紀後半から 10 世紀代の時期が想定される（浅井 1992, 1993 他）。一方、方形区画構（第 6 号溝状遺構）の覆土中から纏まつて検出された須恵器群のうち、胎土に白雲母を含み新治窯跡群產と思われる第 101 図 5 の壺は、器高指数（器高／口径×100）が 33.58、底径指数（底径／口径×100）が 48.18 を示し、9 世紀第 2 四半期の東城寺寄居前 B 段階におおよそ位置付けられる（赤井 1998）。また、廻骨器では、新治窯跡群產と思われる第 1 号の壺は、平底で腹部に縱位の平行線文叩きがみられ、8 世紀末～9 世紀前半の時期が与えられる（佐々木 2001）。さらに、第 2 号の灰釉陶器は、川井正一氏の御教示によると、9 世紀初頭に位置付けられる猿投窯編年の井ヶ谷 78 号窯式に比定される可能性がある。このように、住居址群と西台地に展開する方形区画構や廻骨器などとの遺構群とは構築時期にずれが認められる。

次に住居址だが、第 2・3・15 号住居址のカマドには、いずれも土師器の小型壺を倒立させて支脚の代わりとして使用したという共通点がある。さらに第 2・15 号住居址については補部に半蔵した土師器壺を配置し、補強目的で使用した形跡もある。そして、第 4・17 号住居址などは床面付近から多量の炭化材が検出されており、焼失住居であると思われる。また東台地の谷部を望む西側斜面には第 20・23 号住居址があり、谷を挟んで対岸にあたる西台地の東側斜面には第 28・29 号住居址がある。このうち、第 29 号住居址を除きカマドの軸線が同様の方向を向いている点も注意をひく。住居址は全体を見渡すと、北カマドが多いことに気が付く。東カマドを持つ住居 2 軒、西カマドを持つ住居 1 軒に対し、北カマドを持つ住居は 15 軒である。

平安時代の土坑と考えられるものは、第 4 号上坑、第

14号土坑である。このうち第14号土坑からはかなりの数の土器片が出土している。これだけの遺物数がありながら小片が多く、接合するものがほとんどなかった。周辺に土器捨て場だったのだろう。

さて、この時代の遺構の中でひときわ目を引くものとしては、やはり第1号～第3号蔵骨器と方形区画構（第6分構状遺構）であろう。前述したように、蔵骨器と方形区画構は、住居址群より先行する互いに近い時期の所産と思われ、方形区画構も墓もしくは宗教的施設であった可能性も考えられる。また、第6号構を切る形で第9号住居址が占地するのだが、その裏十巾からは「佛」「藤」や「寺」（？）と推測される墨書き土器が、カマド内部からは鉄鉢形土器などが出土している点、近辺に住居址があまり見られず、空疎地になっている点、さらに西側にある壇立柱建物址の存在と合わせて考えてみたときに、この地区になんらかの仏教施設があったのではないかという解釈をした。

ここでは第3号蔵骨器の蓋の裏側に書かれていた「大伴」について少し触れておきたい。

蔵骨器の見つかっている遺跡として、茨城県内では土浦市の前谷遺跡、金澤遺跡、石橋北遺跡、石橋南遺跡、八幡脇遺跡、尻替遺跡などから出土しており、正確な出土地点は不明ながらも土浦市田村町からも蔵骨器が見つかっている。また、本遺跡が所在する美浦村では池端遺跡から、阿見町では手接遺跡、花房遺跡、大日遺跡などから、稲敷市では小野遺跡から見つかっている。さらに、右岡市染谷、桜川市大国玉、玉里村栗又ヶ原からは灰釉

陶器短頸壺の蔵骨器が出土している（上高津貝塚ふるさと歴史の広場 第11回特別展 2006）。

さて、本遺跡の第2号蔵骨器は蓋と本体が灰釉陶器であったが、第3号蔵骨器については、本体・蓋、ともに須恵器で、蓋裏側に墨書きで「大伴」と書かれてある。大伴氏といえば畿内で五世紀から九世紀にかけて繁栄した古代豪族である。物部氏とともに大和国家の軍事を担当し、政治面でも活躍した有力氏族だったが、貞觀8年（666年）に「応天門の変」が起こり没落。それ以降は政治の中心から遠ざかる。

さて、茨城県のこの地域において「大伴」という、7世紀半ばに古代信太郡中家郷（現在の土浦市近辺）に「大伴部」が存在していたという指摘がある（千葉 2009）。本遺跡の位置と推定される時代に若干のずれがあるようと思われるが、大伴氏は『古屋家家譜』（『甲斐国・ノ宮浅間神社誌』資料編及び『各家系譜』所収）によれば高皇產靈神からおこったとされており、その祭祀などにも関係があったとされている。高皇產靈神を祀る神社が美浦村周辺にもあることや、今回出土した資料と合わせて考えると何らかの関連があるかと推測されるが、問題点も多く課題は残る。

第2号・第3号蔵骨器に関しての類例だが、桜川市大国玉出土例や、稲敷市小野遺跡出土例などが挙げられるだろう。

最後に本遺跡の土師質の坏についての編年を多少なりとも試みようとしたが、今回は見送ることとし、幾つかの問題点とともに今後の課題としたい。

引用・参考文献

報告書

- 大川清他 1977 「茨城県美浦村虚空藏貝塚」 美浦村教育委員会
- 西村正衛 1984 「茨城県稲敷郡美浦村興津貝塚—縄文前期後半文化の研究—」『石器時代における利根川下流域の研究—貝塚を中心として—』早稲田大学出版部
- 高木國男 小泉美明 伊藤秀一 1986 「下り内遺跡」 美浦村教育委員会
- 庚申古墳発掘調査会 1989 「庚申古墳」 美浦村教育委員会
- 戸沢充則 安藤政雄 中村哲也他 1992 「陣屋敷遺跡」『陸平研究所報告1』美浦村・陸平調査会
- 緑川正實 海老澤鶴 1993 「原田北遺跡 原田西遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告 第80集』
- 財団法人茨城県教育財团
- 高橋嘉郎 大竹房雄他 1994 「御茶園遺跡」 美浦村教育委員会
- 川村勝 奥富雅之 1996 「奥津地区遺跡群」『美浦村教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告7』美浦村教育委員会

- 中村哲也 嵐沢浩 1996「根本遺跡」『陸平研究所報告2』美浦村・陸平調査会
- 小川利博 大瀬淳志也 1996「柳沢・養老田・素行地北遺跡発掘調査報告書』上浦・出島合同遺跡調査会
- 川村勝 2000「奥津白井遺跡」『美浦村教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書9』美浦村教育委員会
- 中村哲也 2000「茨城県稲敷郡美浦村 野中遺跡—第2次発掘調査報告書—」美浦村教育委員会
- 中村哲也 2000「野中遺跡—第2次発掘調査報告書—」『美浦村教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告8』美浦村教育委員会
- 稻田義弘 2002「熊の山遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告 第190集』財団法人茨城県教育財團
- 中村哲也 川村勝 2004「池端遺跡」『陸平研究所叢書2』美浦村教育委員会
- 小竹茂美 鴨志田裕一他 2004「下小池遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告 第210集』財団法人茨城県教育財團
- 中村哲也 橋泉岳二 阿部芳郎 2004「陸平貝塚—調査研究報告書1・1997年度発掘調査の成果—」『陸平研究所叢書1』美浦村教育委員会
- 後藤孝行 2005「石岡別所遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告 第244集』財団法人茨城県教育財團
- 駒澤悦郎 2005「薬師入遺跡」『茨城県教育財團文化財調査報告 第239集』財団法人茨城県教育財團
- 川村勝 2005「木原二本松遺跡 木原城址」美浦村教育委員会
- 中村哲也 川村勝他 2006「陸平貝塚—調査研究報告書2・学史関連資料調査の成果—」『陸平研究所叢書3』美浦村教育委員会
- 綿引英樹 小林悟 2008「薬師入遺跡2」『茨城県教育財團文化財調査報告 第296集』財団法人茨城県教育財團
- 駒澤悦郎 2009「大谷貝塚」『茨城県教育財團文化財調査報告 第317集』財団法人茨城県教育財團
- 中村哲也 橋泉岳二 黑住耐二 2010「陸平貝塚—調査研究報告書4・1987年度確認調査の成果—」『陸平研究所叢書5』美浦村教育委員会

県史・村史・図録等

- 茨城県史編集会 茨城県立歴史館 1968「茨城県史料 古代編」茨城県
- 茨城県史編さん原始古代史部会 1974「茨城県史料 考古資料編 古墳時代」茨城県
- 茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会 1979「茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代」茨城県
- 茨城県史編集委員会 1985「茨城県史 原始古代編」茨城県
- 那珂町史編さん委員会編 1990「那珂町の考古学」那珂町
- 佐藤以男 川井正一 1991「茨城県史料 考古資料編 弥生時代」茨城県
- 美浦村史編さん委員会 1995「美浦村史 一美浦村誕生40周年記念」美浦村
- 茨城県史編集会 茨城県立歴史館 1995「茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代」茨城県
- 大川清 鈴木公雄 工業普通編 1996「H本上器辞典」鈴山閣
- 毛里村立史料館編 2002「霞ヶ浦の縄文土器」毛里村立史料館
- 古代の丘資料館編 2003「右拂り・左拂り・縄文の土器文様と紐の拂り」山形県長井市教育委員会
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2004「第9回特別展 育と白への憧憬 施釉陶器がもたらされた場所」
- 茨城県立歴史館史料部編 2006「茨城の縄文土器」『茨城県立歴史館史料叢書』9 茨城県立歴史館
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2006「第11回特別展 火葬と古代社会 死をめぐる文化の受容」

論文等

- 西村正衛 1966「茨城県稲敷郡浮島貝ヶ岸貝塚—東部関東における縄文前期後半の文化研究 その一」『学術研究 人文科学・社会科学篇』第15号 早稲田大学教育学部
- 川崎純徳 1967『茨城県八幡協遺跡調査報告—常総台地における縄文前期の地域的研究—』常総台地研究会報告書第1冊
- 寺門義範 1967「詰平遺跡における阿玉台式土器の在り方」『常総台地』2 常総台地研究会
- 井上義安 1970「浮島I式土器の編年に関する問題—那珂川下流域の資料を中心として—」

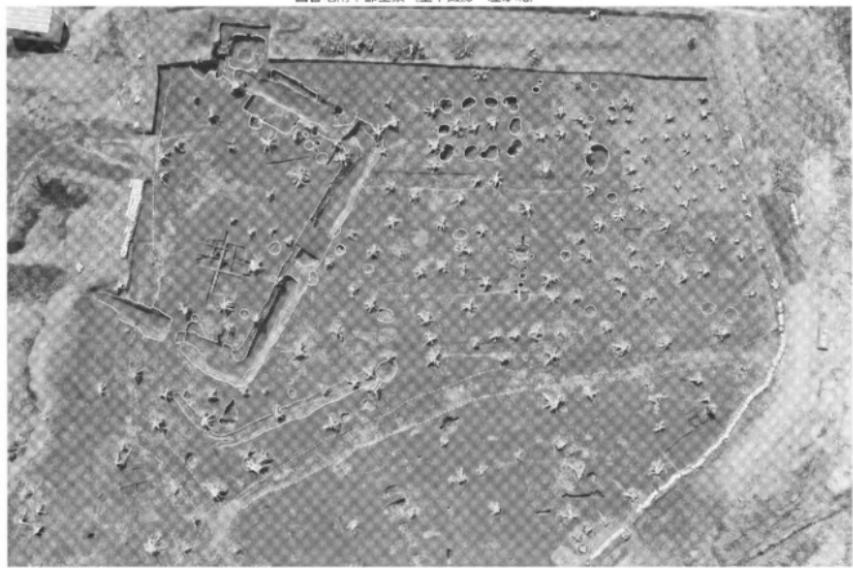
- 和田哲也 1973 「浮島系土器の諸問題」『古和田台遺跡 繩文前期集落址発掘調査報告』船橋市教育委員会
- 山内清男 1979 「日本先史土器の縄紋」先史考古学会
- 斎藤弘道 1983 「茨城の縄文時代草創期・早期の土器群について(一)」『年報』3 財團法人茨城県教育財団
- 坂本亨 1986 「常総台地」『日本の地質3 関東地方』共立出版
- 市毛美津子 1988 「律令時代における火葬墓と骸骨器の様相—水戸市内出土資料を中心として—」『婆良岐考古』第10号 婆良岐考古同人会
- 高橋嘉徳 1990 「美浦村の古墳と古墳群」『美浦村史研究6』美浦村史編さん委員会
- 浅井哲也 1992・1993 「茨城県内における奈良・平安時代の土器(1)(2)」『研究ノート』1・2号 財團法人茨城県教育財団
- 海老澤稔 1992 「土浦市原田遺跡群にみる南関東系土器と地域交流」『研究ノート』2号 財團法人茨城県教育財団
- 守野沢昭 1993 「筑波研究学園都市および周辺地域の下総層群・特に上巣橋層および常総層の古地理を中心として」『TAGS』5 筑波応用地学談話会
- 佐々木義則 1995 「木葉下窯跡群産壺A1の変化について 消費地における形態と調整技法の様相」『婆良岐考古』第17号 婆良岐考古同人会
- 松浦史浩 1995 「浮島式土器の施文技法について」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第13号 東京大学文学部考古学研究室
- 弥生時代研究班 1995~2000 「茨城考古弥生式土器編年検討IV~IX 上縄吉式土器について(1)~(6)」『研究ノート』4~9号 財團法人茨城県教育財団
- 佐々木義則 1996 「新治窯跡群須恵器壺A1の変化—消費地の様相—」『婆良岐考古』第18号 婆良岐考古同人会
- 鈴木素行 1997 「原田北遺跡の「貼壷」—「土糞吉式」分析のための基礎的な作業—」『婆良岐考古』第19号 婆良岐考古同人会
- 瓦吹堅也 1998 「茨城考古学20年の歩みと展望」『茨城県考古学協会誌』第10号 茨城県考古学協会
- 佐々木義則 1998 「常陸におけるロクロ成形土器壺の展開」『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会
- 川村満博 1998 「熊ノ山遺跡の奈良・平安時代の土器様相について—平成7年度調査の成果から—」『研究ノート』7号 財團法人茨城県教育財団
- 赤井博之 1998 「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究(1)」『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会
- 赤井博之 2000 「古代仮想系遺物集成・関東・茨城」考古学から古代を考える会
- 海老澤稔 2000 「茨城県における弥生後期の土器編年」『婆良岐考古』第22号 婆良岐考古同人会
- 佐々木義則 2001 「茨城県における8・9世紀の須恵器甕瓶視」『婆良岐考古』第23号 婆良岐考古同人会
- 須田亞紀 2003 「基礎社会の仏教受容に関する一考察—北関東における奈良・平安期の集落を中心として—」『婆良岐考古』第25号 婆良岐考古同人会
- 渥美賀吾 吉澤悟 2003 「二つの「灰釉」無頬壺—霞ヶ浦町馬場山・水戸市大串遺跡出土の短頬壺について—」『婆良岐考古』第25号 婆良岐考古同人会
- 鈴木素行 2003 「館山遺跡の土器—茨城県南部における「関山式」「森東式」「植房式」の土器群—」『玉里村立史料館報』Vol.8 玉里村立史料館
- 稻田義弘 2005 「島名熊の山遺跡の様相について」『茨城県考古学協会シンポジウム 古代地方官衙周辺における集落の様相—常陸国河内郡を中心として—』茨城県考古学協会
- 中村哲也 2005 「八幡塚遺跡と館山遺跡出土の縄文時代中期土器—浮島式土器をめぐる研究史探訪—」『玉里村立史料館報』Vol.10 玉里村立史料館
- 塚本師也 2005 「田木谷遺跡出土の縄文時代中期土器について—霞ヶ浦北岸における中期土器の上器様相—」『玉里村立史料館報』Vol.10 玉里村立史料館

- 松田光太郎 2005 「浮島式土器の研究」『古代探叢IV—龍口宏先生追悼考古学論集一』 千葉大学出版部
- 栗山章 古澤悟 涙美賀吾 2007 「小野遺跡出土の灰釉陶器について」『稲敷市歴史民俗資料館館報』第1号
- 中村哲也 2008 「霞ヶ浦の縄文景観 陸平丘塚」新泉社
- 千葉隆司 2009 「常陸国信太郡の古代豪族—霞ヶ浦南岸地方の古墳時代素描—」『斐良岐考古』第31号
斐良岐考古同人会
- 関博允 2009 「律令期の常陸国における鉄器供給の実態解明に向けて—出土鉄器の科学組成を通して—」
『茨城県考古学協会誌』第21号 茨城県考古学協会
- 越川欣和 2009 「霞ヶ浦周辺の縄文時代前期中葉の土器群について—戸崎中山遺跡の資料に注目して—」
『茨城県考古学協会誌』第21号 茨城県考古学協会
- 中村 哲也 2009 「貝ヶ塚貝塚出土の浮島I式土器—浮島式土器をめぐる研究史探訪・その2—」
『茨城県考古学協会誌』第21号 茨城県考古学協会

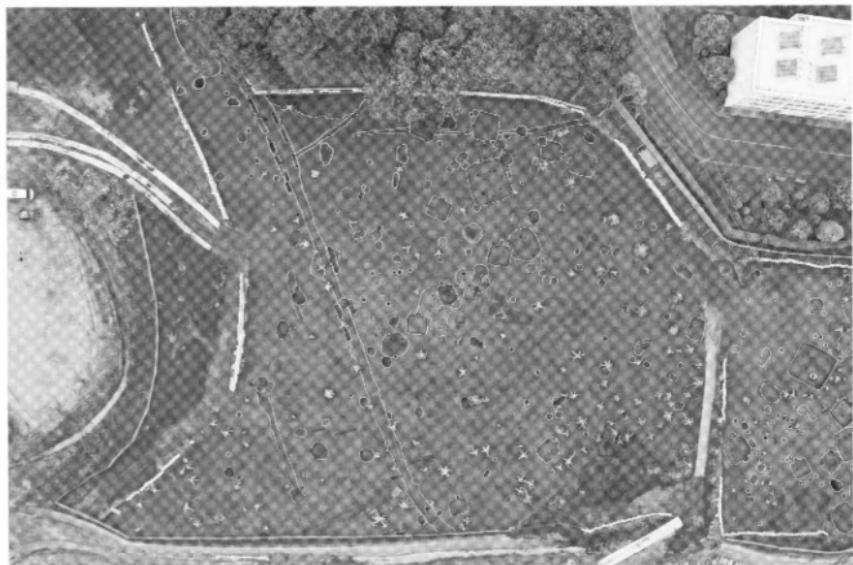
写 真 図 版



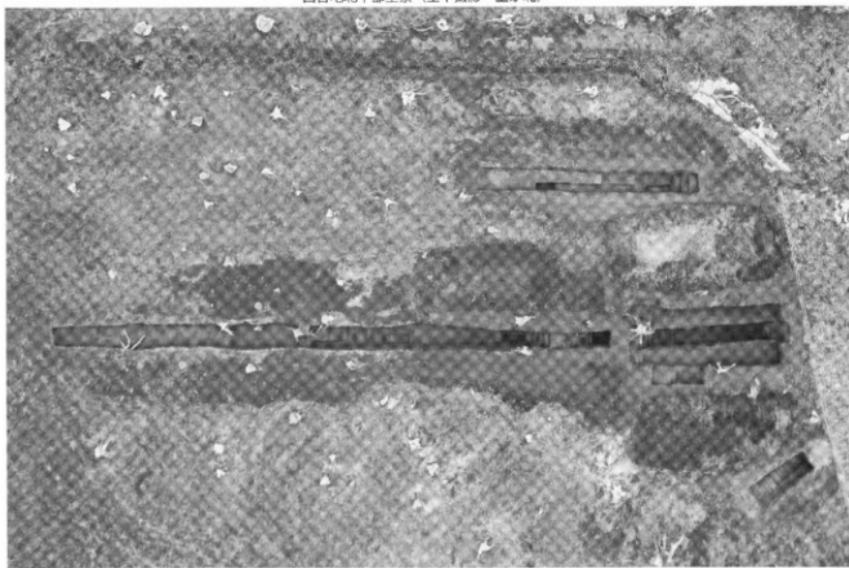
西台地南半部全景（空中摄影 左が北）



西台地中央部全景（空中摄影 下が北）



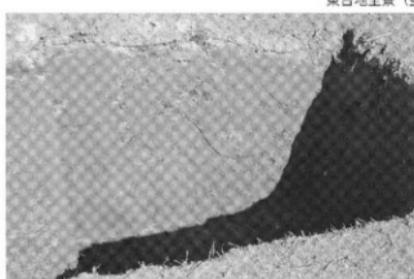
西台地北半部全景（空中撮影 上が北）



谷部全景（空中撮影 左が北）



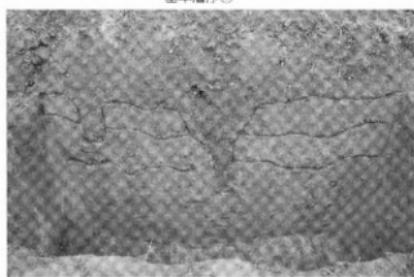
東台地全景(空中撮影 左が北)



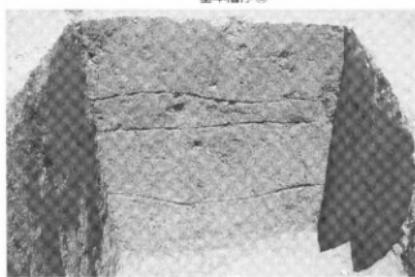
基本層序①



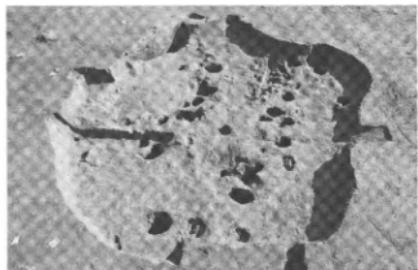
基本層序②



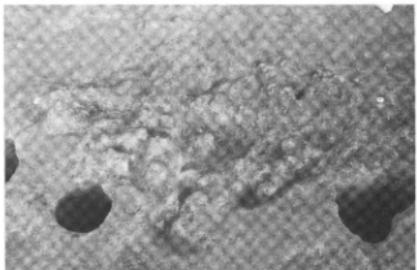
基本層序③



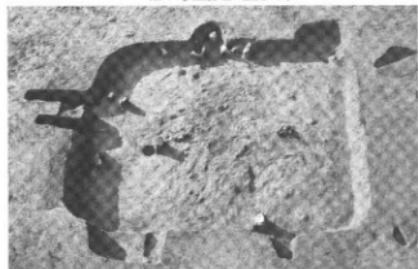
基本層序④



第1号住居址（西より）



第1号住居址炉（南より）



第2号住居址（東より）



第3号住居址（西より）



第2号住居址カマド土器出土状況（東より）



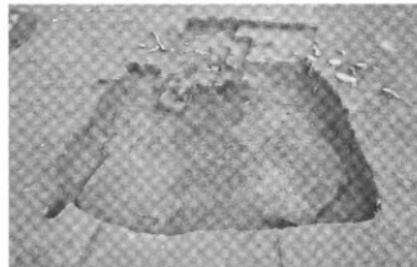
第3号住居址カマド土層（西より）



第2号住居址カマド（東より）



第3号住居址カマド（西より）



第4号住居址（南より）



第4号住居址カマド（南より）



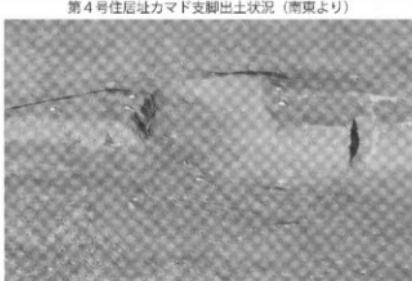
第4号住居址焼化材出土状況（南東より）



第4号住居址カマド支脚出土状況（南東より）



第5号住居址（南西より）



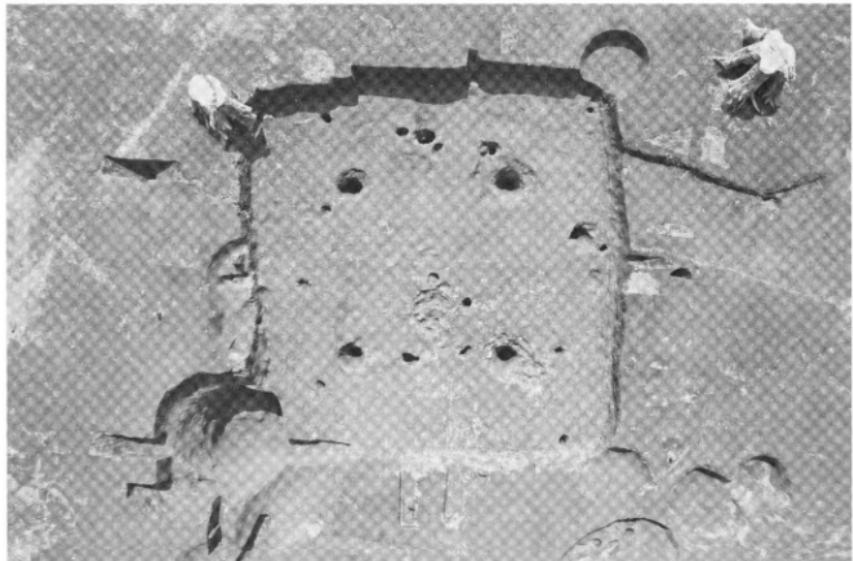
第5号住居址カマド（南西より）



第6号住居址（西より）



第6号住居址炉（南より）



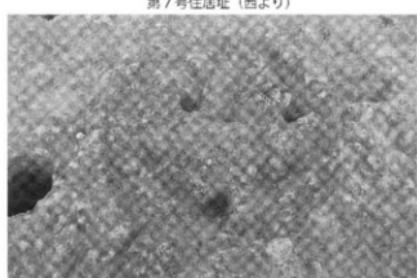
第7号住居址（空中撮影 下が北）



第7号住居址（西より）



第7号住居址土層（A-A'）



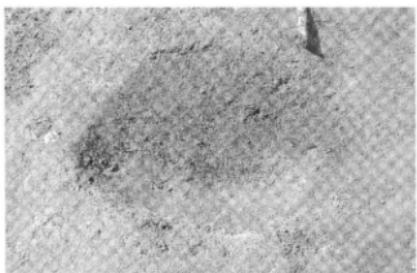
第7号住居址炉（南より）



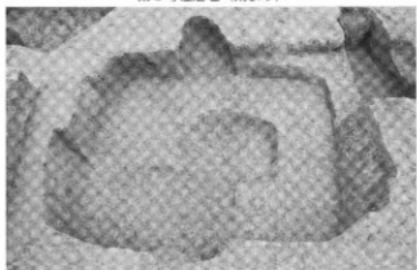
第7号住居址炉土層（A-A'）



第8号住居址（南より）



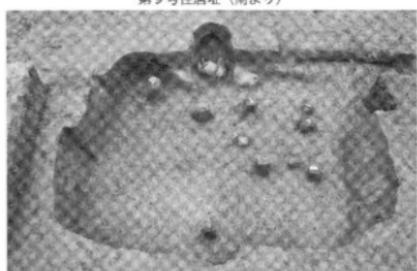
第8号住居址炉（南より）



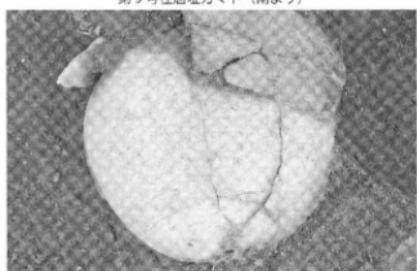
第9号住居址（南より）



第9号住居址カマド（南より）



第9号住居址土器出土状況（南より）



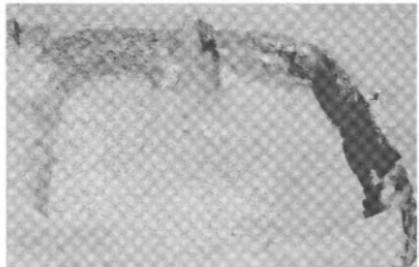
第9号住居址カマド出土土器（No.4）近接



第10号住居址（南より）



第10号住居址土層（南より）



第11号住居址（南より）



第12号住居址（西より）



第11号住居址カマド（南より）



第12号住居址 1号炉（東より）



第11号住居址土器出土状況（南より）



第12号住居址筑波石出土状況（西より）



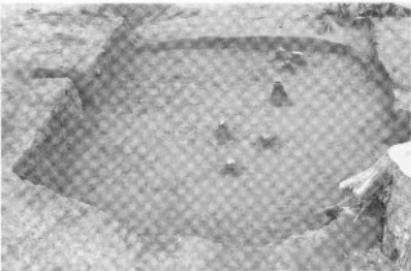
第13号住居址（南より）



第13号住居址出土土器（No.1）（東より）



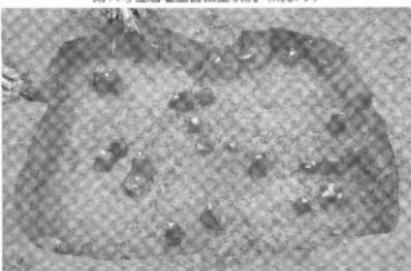
第14号住居址（南より）



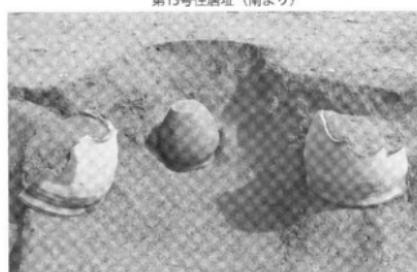
第14号住居址土器出土状況（南より）



第15号住居址（南より）



第15号住居址土器出土状況（南より）



第15号住居址カマド（南より）



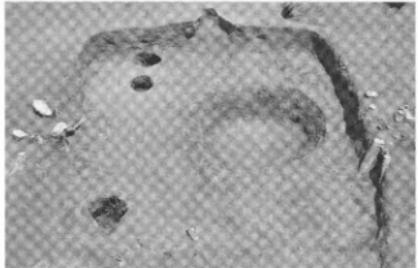
第15号住居址カマド土器出土状況（東より）



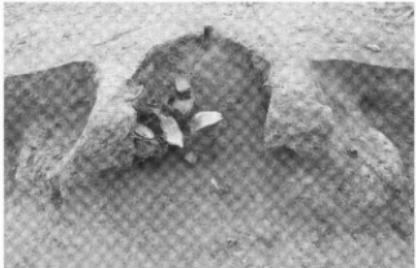
第16号住居址（南より）



第16号住居址出土土器（No.2）（西より）



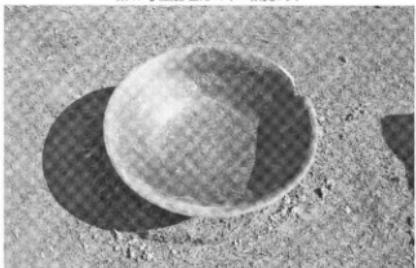
第17号住居址（南より）



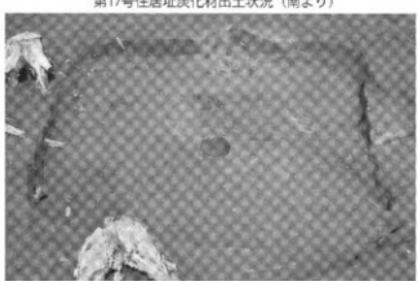
第17号住居址カマド（南より）



第17号住居址炭化材出土状況（南より）



第17号住居址出土土器（No.4）（南より）



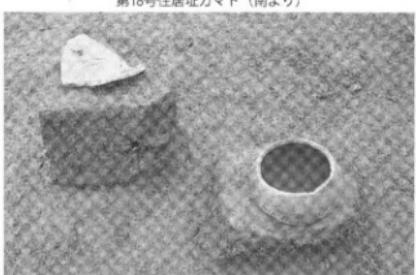
第18号住居址（南より）



第18号住居址カマド（南より）



第19号住居址（空中撮影 右が北）



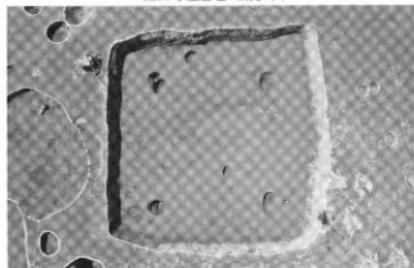
第19号住居址土器（手前No.1）出土状況（東より）



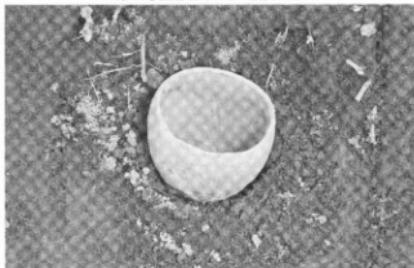
第20号住居址（南より）



第20号住居址カマド（南より）



第21号住居址（空中撮影 上が北）



第21号住居址出土土器（№3）（南より）



第22号住居址（空中撮影 下が北）



第22号住居址土器出土状況（北壁際 南より）



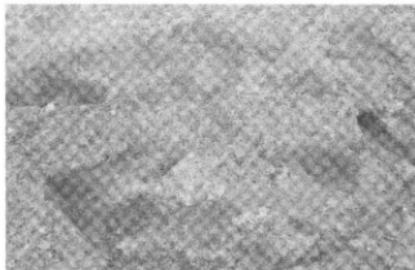
第23号住居址（南より）



第23号住居址カマド（南より）



第24号住居址（南より）



第24号住居址炉（南より）



第25号住居址（南より）



第25号住居址柱穴（南より）



第26号住居址（空中撮影 左が北）



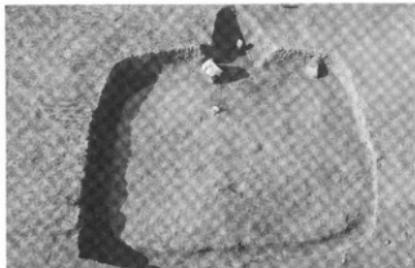
第26号住居址土器出土状況（西より）



第27号住居址（南より）



第27号住居址土器出土状況（南より）



第28号住居址（南より）



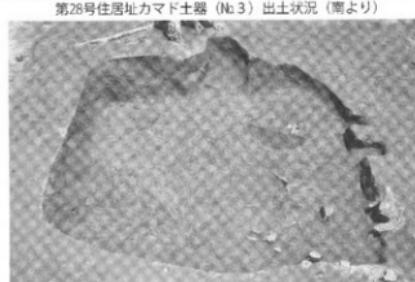
第28号住居址カマド（南より）



第28号住居址カマド土器（No. 3）出土状況（南より）



第28号住居址出土土器（No. 3）（南より）近接



第29号住居址（南西より）



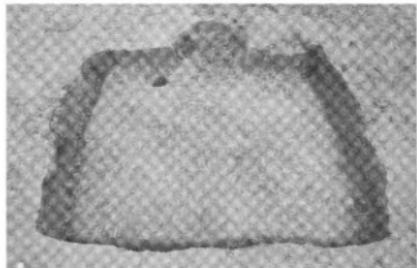
第29号住居址カマド土器（南西より）



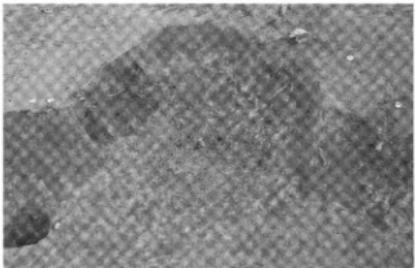
第30号住居址土器出土状況（南より）



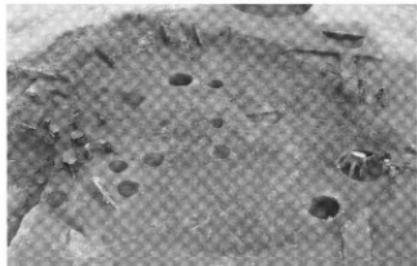
第30号住居址カマド土器出土状況（南より）



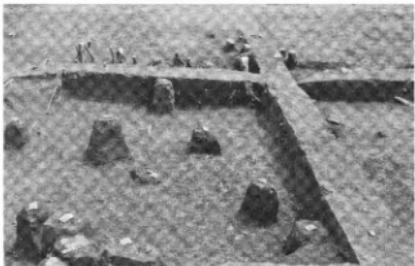
第30号住居址（南より）



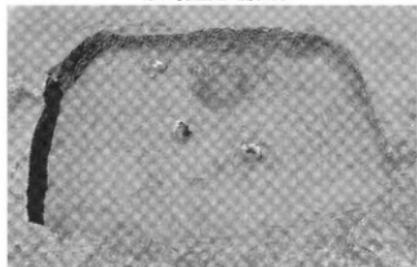
第30号住居址カマド（南より）



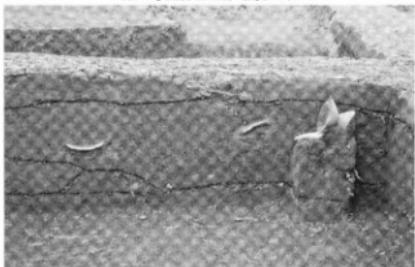
第31号住居址（南より）



第31号住居址土層（南より）



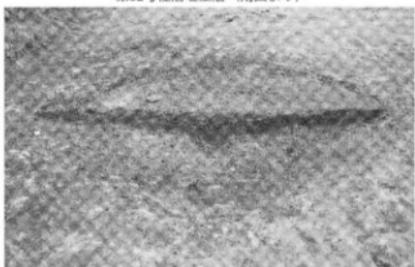
第32号住居址（東より）



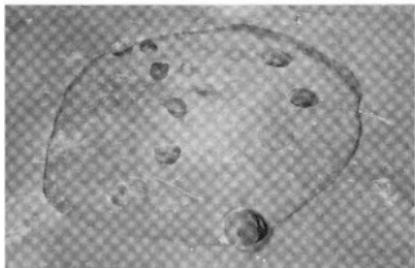
第32号住居址土層（南西より）



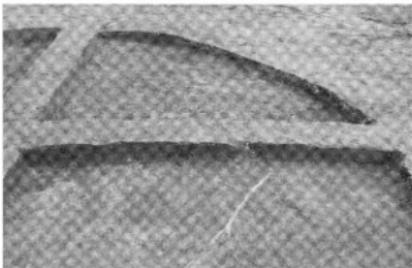
第32号住居址出土土器（No.5）（東より）近接



第32号住居址炉土層（南より）



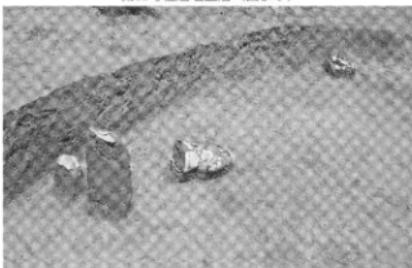
第33号住居址（南より）



第33号住居址土塁（西より）



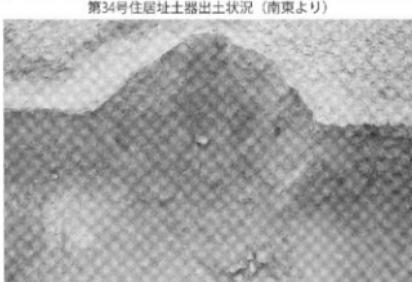
第34号住居址（南より）



第34号住居址土器出土状況（南東より）



第35号住居址（南より）



第35号住居址カマド（南より）



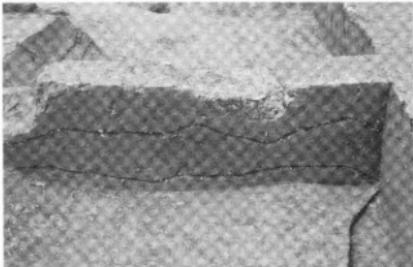
第36号住居址（南より）



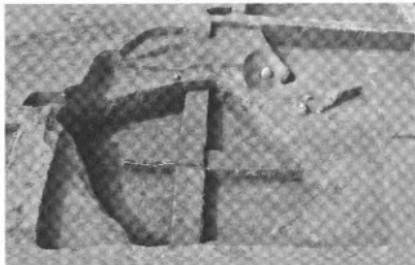
第36号住居址炉（南より）



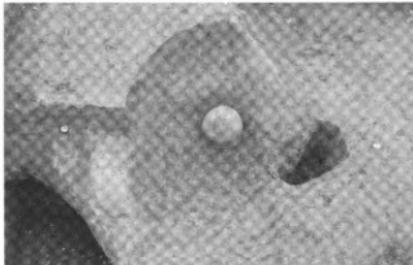
第37号住居址（南より）



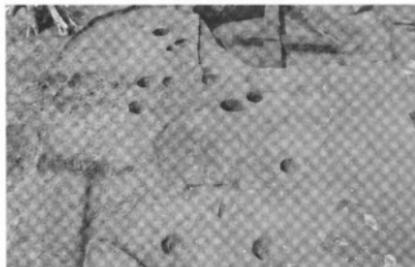
第37号住居址土層（東より）



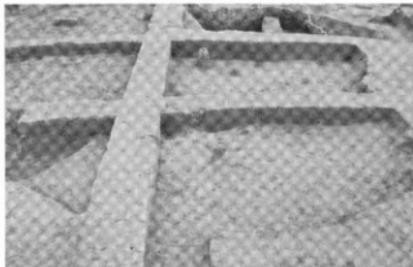
第38号住居址（南より）



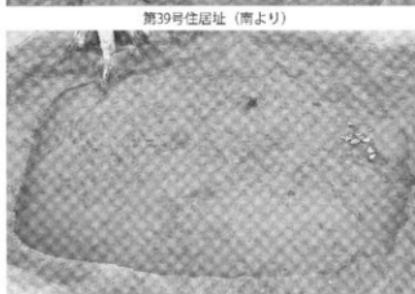
第38号住居址カマド（南より）



第39号住居址（南より）



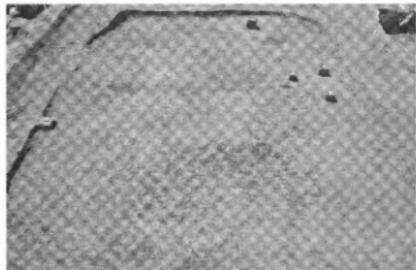
第39号住居址土層（南より）



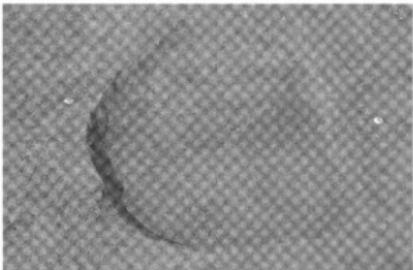
第40号住居址（南より）



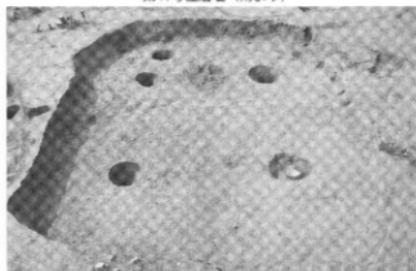
第40号住居址出土土器（No.5）近接



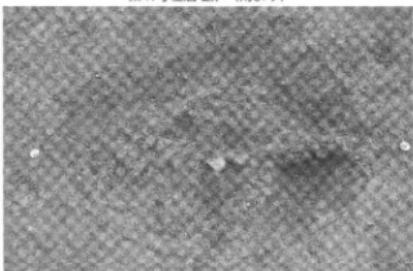
第41号住居址（南より）



第41号住居址炉（南より）



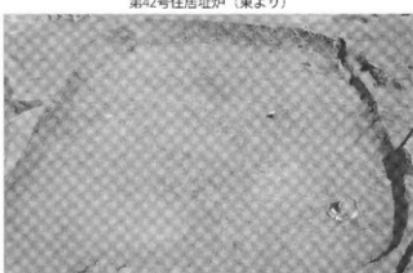
第42号住居址（南より）



第42号住居址炉（東より）



第42号住居址出土土器（No.4）（北より）近接



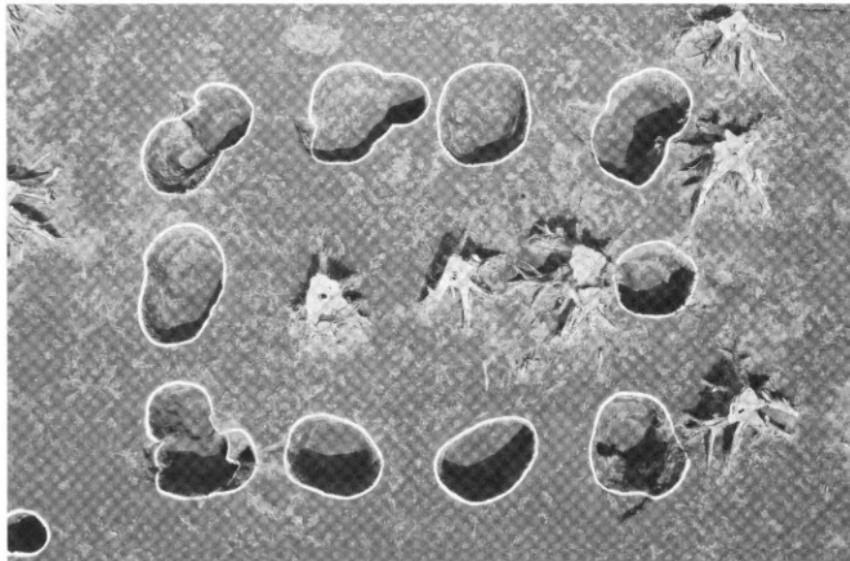
第42号住居址土器出土状況（南より）



第43号住居址土器（北東より）



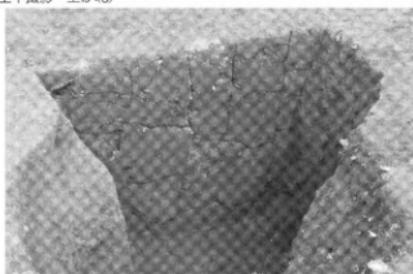
第43号住居址（東より）



第1号掘立柱建物址（空中撮影 上が北）



第1号掘立柱建物址P 4土層（南より）



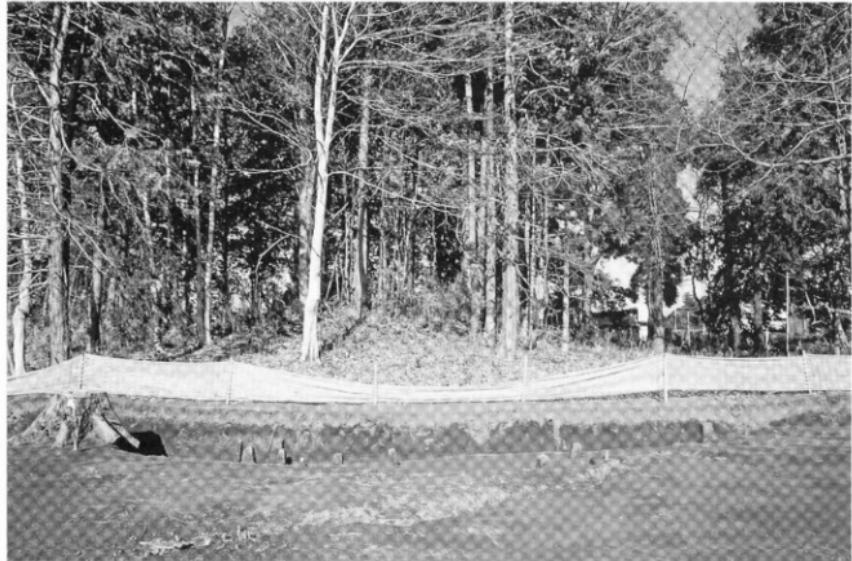
第1号掘立柱建物址P 6土層（南より）



第1号掘立柱建物址P 8土層（南より）



第1号掘立柱建物址P 10土層（南より）



周溝（南より　奥は墳丘）



周溝西側（南より）



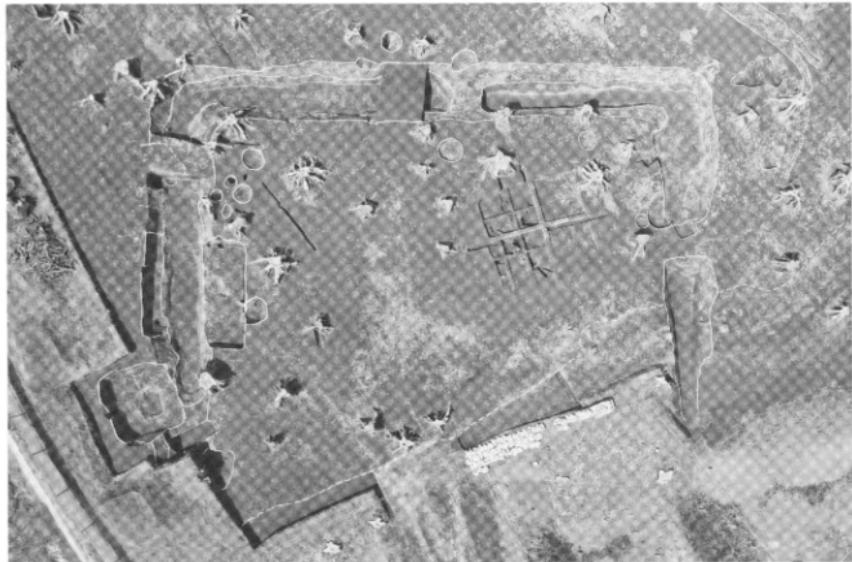
周溝西側土層（南より）



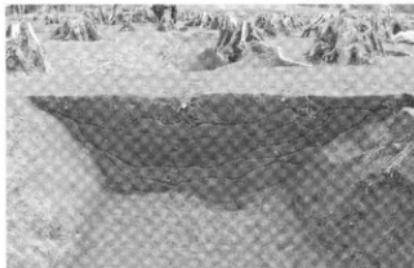
周溝東側（南西より　左奥は墳丘）



周溝東側（東より　右奥は墳丘）



第6号溝状遺構（空中撮影 上が北西）



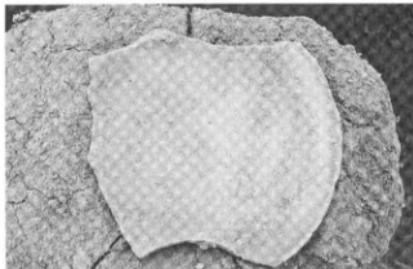
第6号溝状遺構土層（南より）



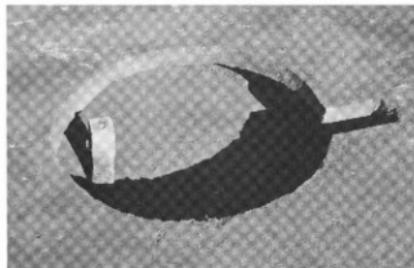
第6号溝状遺構南側ブリッジ（南西より）



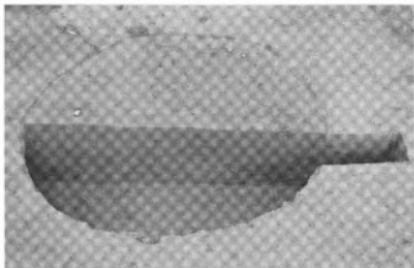
第6号溝状遺構出土土器（No.4）（南より）



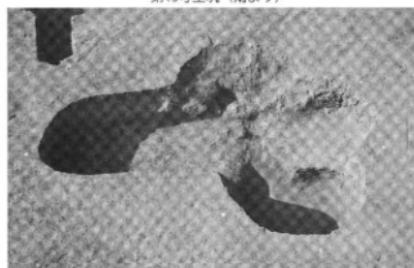
第6号溝状遺構出土土器（No.2）（東より）



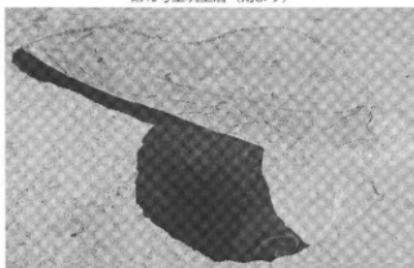
第15号土坑（南より）



第15号土坑土層（南より）



第60号土坑（東より）



第60号土坑土層（東より）



第60号土坑土器出土状況（南より）



第60号土坑土器出土状況（東より）近接



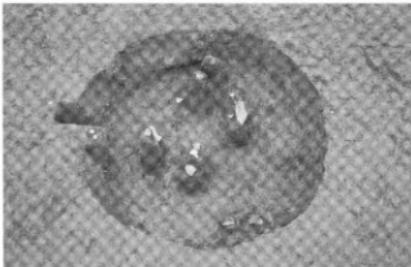
第68号土坑（東より）



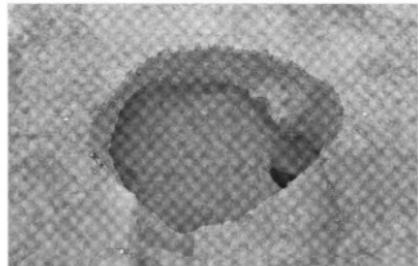
第68号土坑土層（東より）



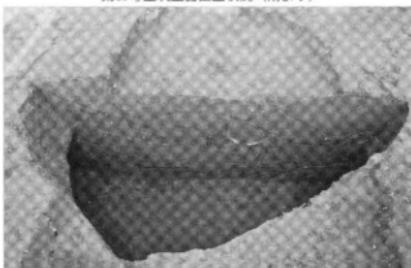
第69号土坑（南より）



第69号土坑土器出土状況（南より）



第96号土坑（南より）



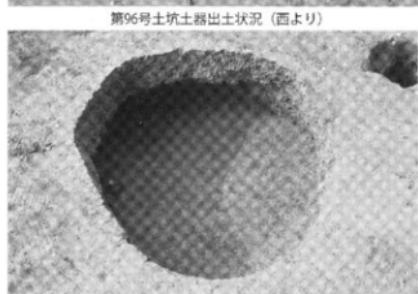
第96号土坑土層（西より）



第96号土坑土器出土状況（西より）



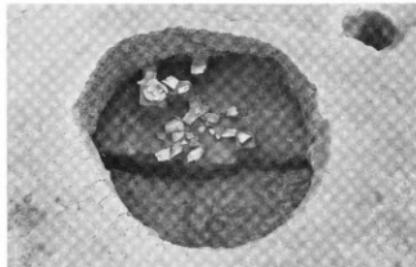
第96号土坑土器出土状況（東より）近接



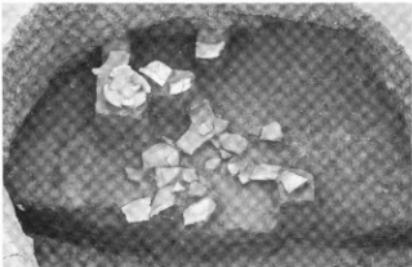
第99号土坑（南より）



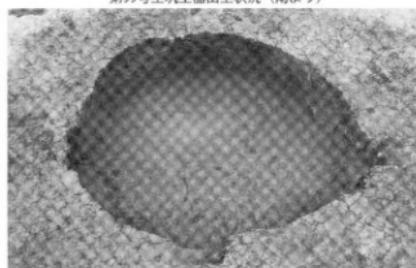
第99号土坑土層（南より）



第99号土坑土器出土状況（南より）



第99号土坑土器出土状況（南より）近接



第108号土坑（南より）



第108号土坑土器出土状況近接



第146号土坑（南西より）



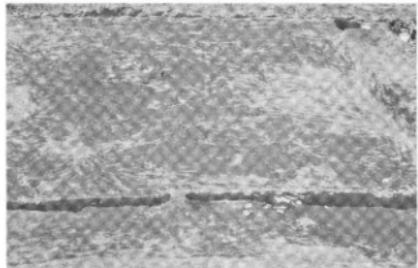
第146号土坑土層（南より）



第218号土坑（北より）



第218号土坑土層（北より）



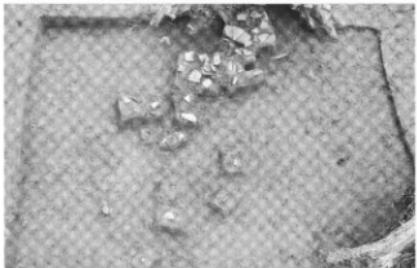
包含層No.1土器群（南より）



包含層No.1土器群（南より）近接



包含層No.2土器群（南より）



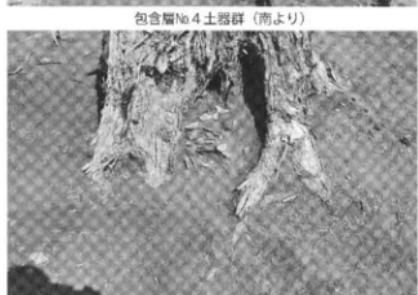
包含層No.3土器群（北より）



包含層No.4土器群（南より）



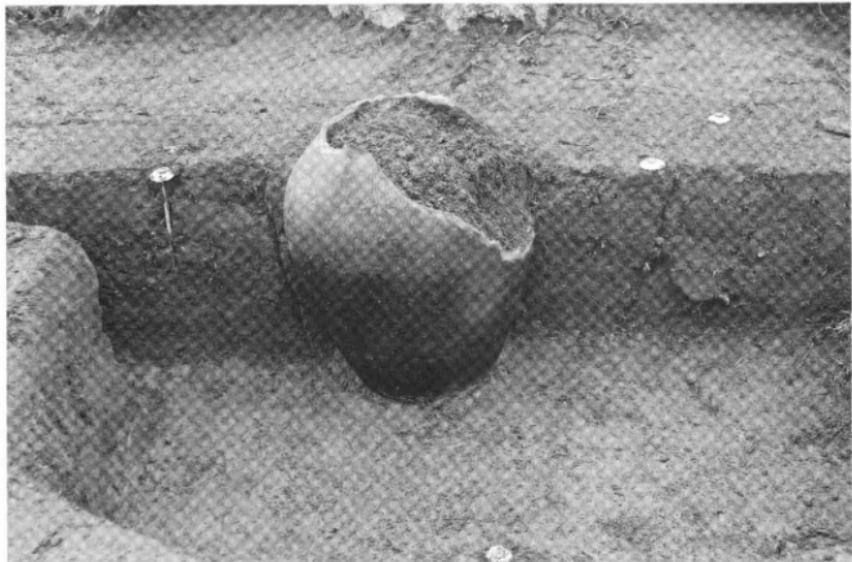
包含層No.4土器群（南より）近接



包含層No.5土器群（南より）



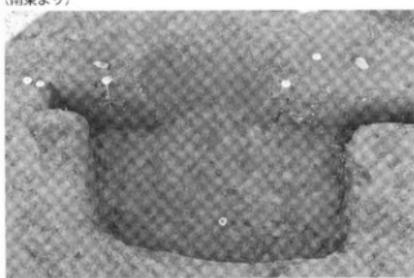
谷頭部包含層（南東より）



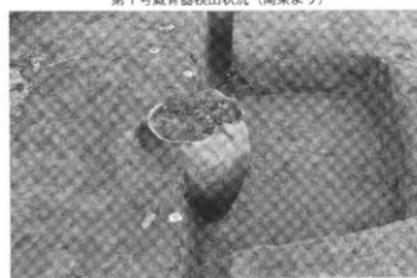
第1号藏骨器（南東より）



第1号藏骨器検出状況（南東より）



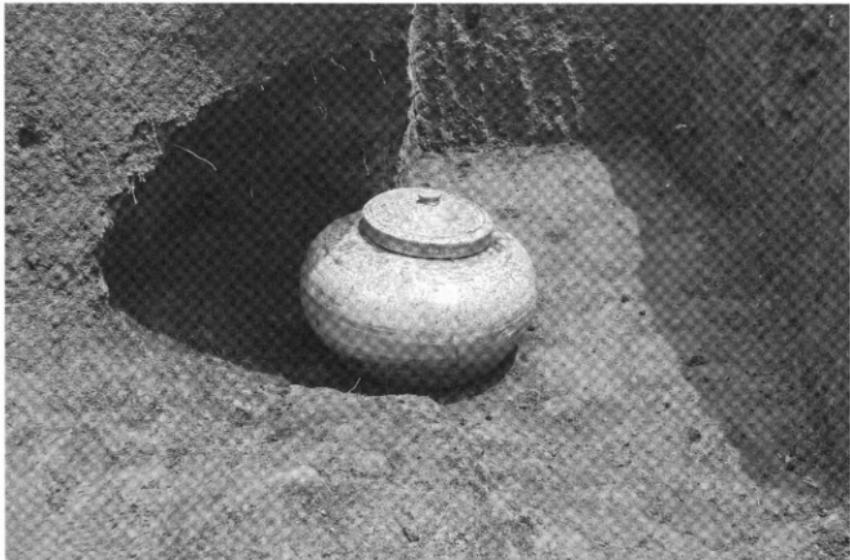
第1号藏骨器完把状況（南より）



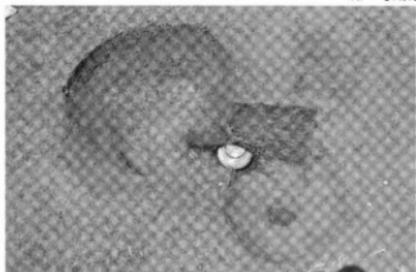
第1号藏骨器出土状況（西より）



第1号藏骨器内部



第2号藏骨器（西より）



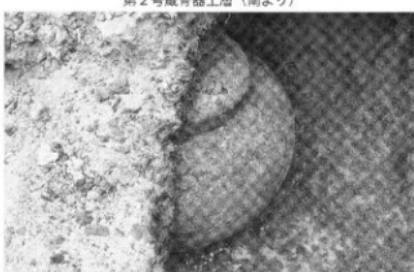
第2号藏骨器出土状況（南より）



第2号藏骨器土層（南より）



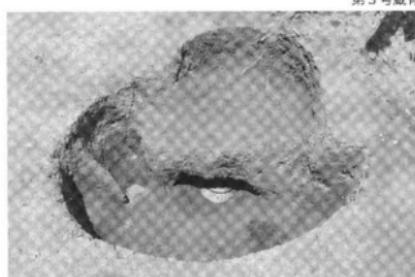
第2号藏骨器出土状況（西侧直上より）



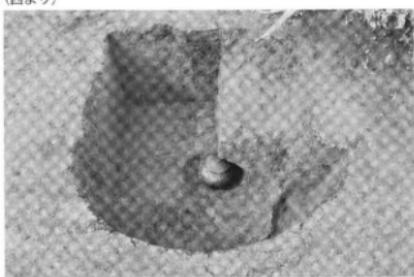
第2号藏骨器出土状況（西より）近接



第3号藏骨器（西より）



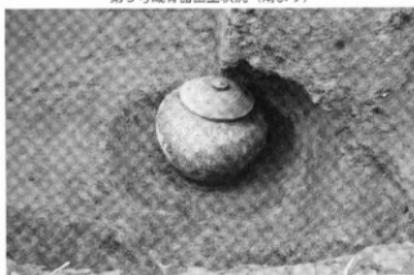
第3号藏骨器出土状況（南より）



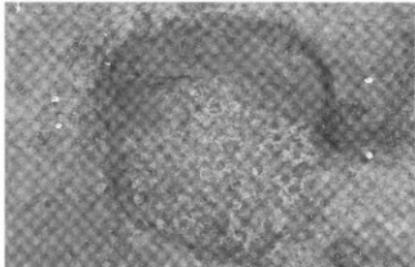
第3号藏骨器出土状況（南より）



第3号藏骨器出土状況（南より）近接



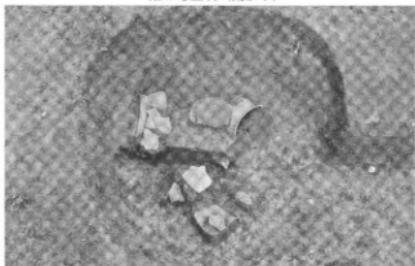
第3号藏骨器出土状況（南より）近接



第4号土坑（南より）



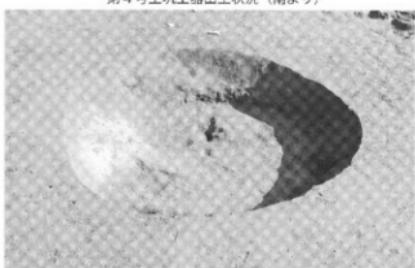
第4号土坑土層（西より）



第4号土坑土器出土状況（南より）



第4号土坑土器出土状況（西より）近接



第14号土坑（南西より）



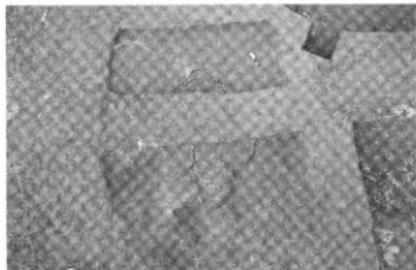
第14号土坑土層（南西より）



第14号土坑土器出土状況（西より）



第14号土坑土器出土状況（西より）近接



第1号焼土址確認状況（南より）



第2号焼土址土層（南西より）



第2号焼土址（南より）



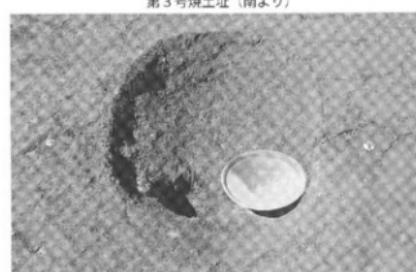
第2号焼土址P 10（北西より）



第3号焼土址（南より）



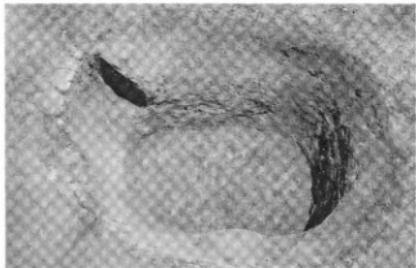
第3号焼土址土層（南より）



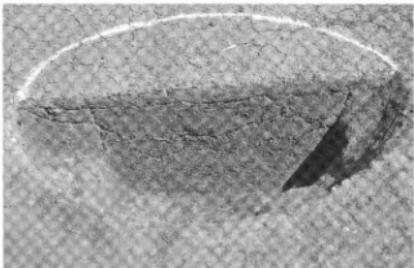
第4号焼土址（南より）



第4号焼土址土層（南より）



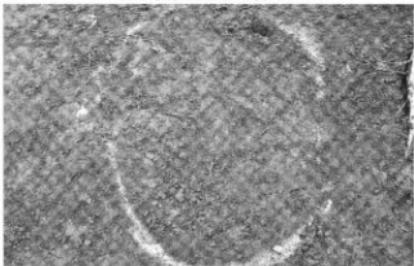
第5号焼土址（南より）



第5号焼土址土層（南より）



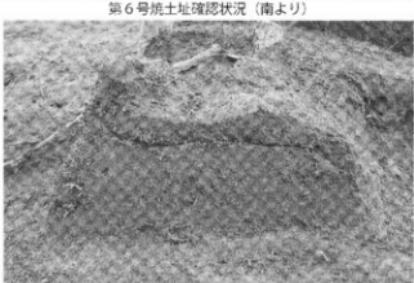
第6号焼土址（西より）



第6号焼土址確認状況（南より）



第7号焼土址（南より）



第7号焼土址土層（南より）



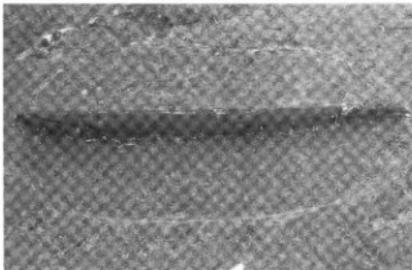
第8号焼土址（西より）



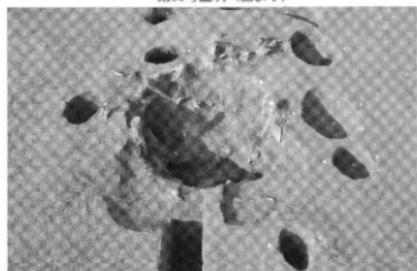
第8号焼土址土層（南西より）



第56号土坑（西より）



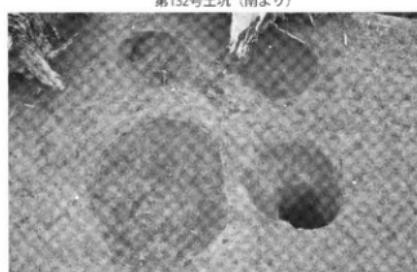
第56号土坑土層（東より）



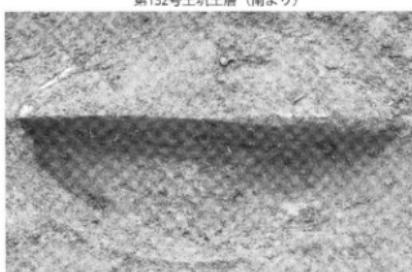
第132号土坑（南より）



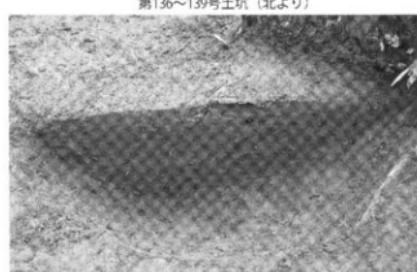
第132号土坑土層（南より）



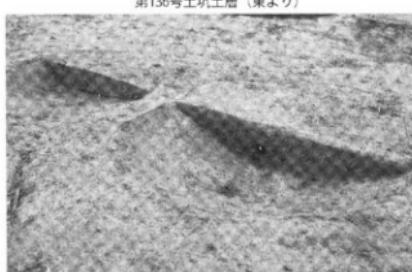
第136～139号土坑（北より）



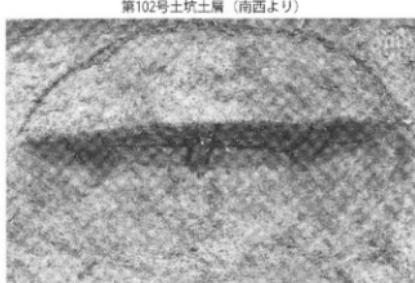
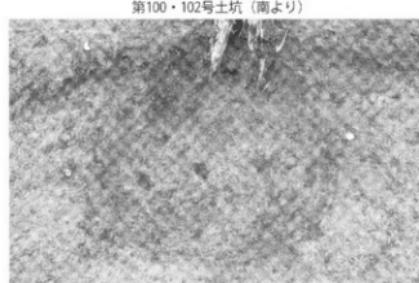
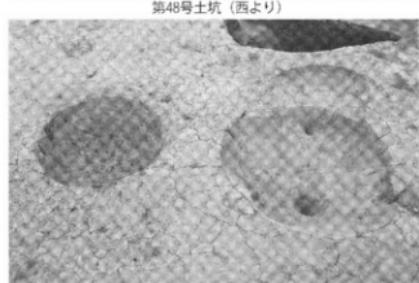
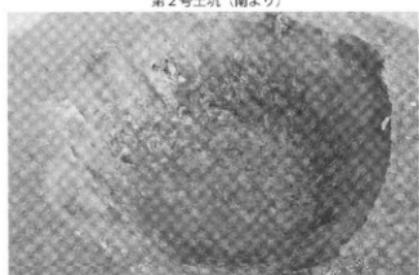
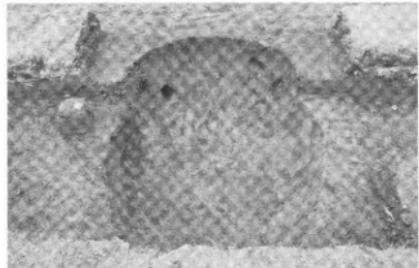
第136号土坑土層（東より）

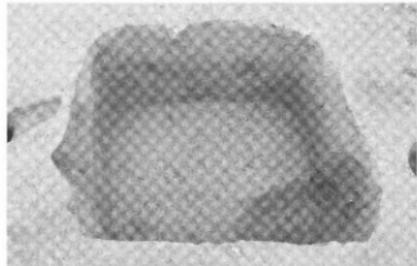


第137号土坑土層（西より）

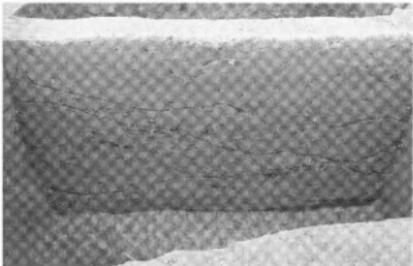


第138・139号土坑土層（南西より）

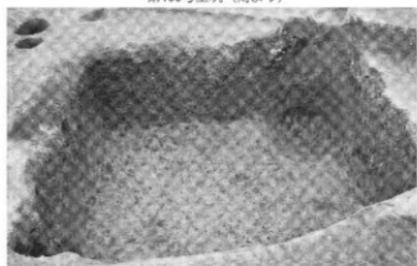




第166号土坑（南より）



第166号土坑土層（東より）



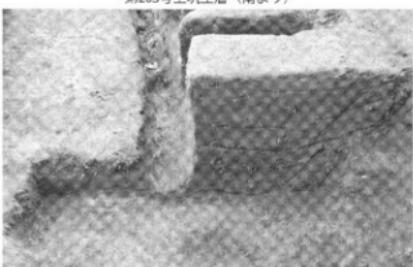
第203号土坑（南より）



第203号土坑土層（南より）



第3号土坑（西より）



第3号土坑土層（西より）



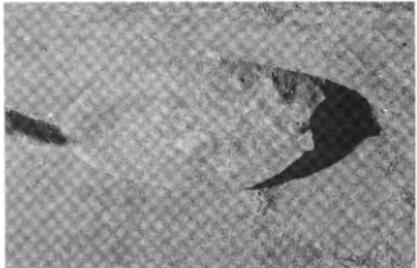
第11・12号土坑（南より）



第11・12号土坑土層（南より）



第16号土坑（南西より）



第18号土坑（南西より）



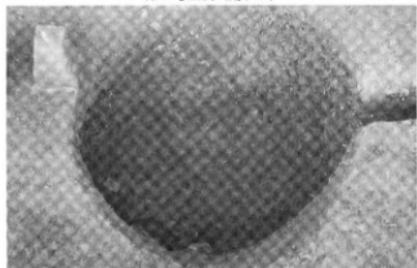
第30号土坑（南より）



第31号土坑（南より）



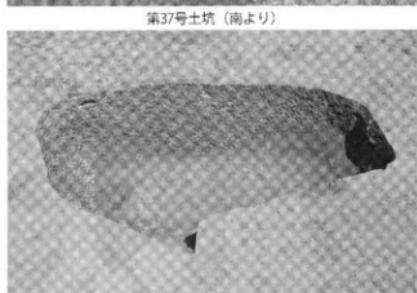
第32号土坑（南より）



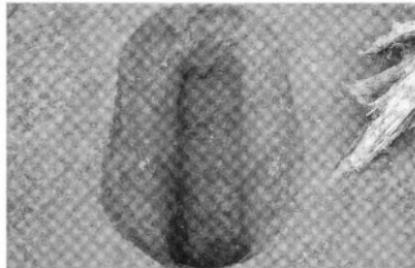
第37号土坑（南より）



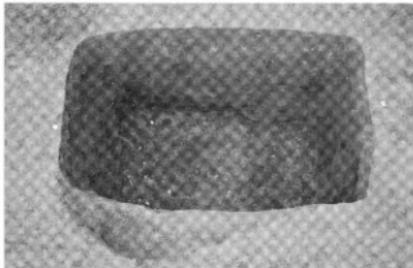
第38号土坑（南より）



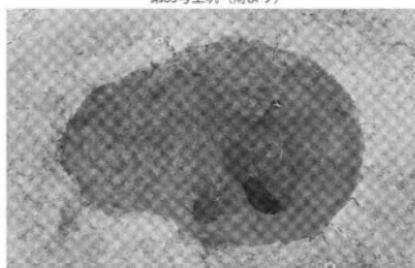
第78号土坑（南西より）



第83号土坑（南より）



第88号土坑（南より）



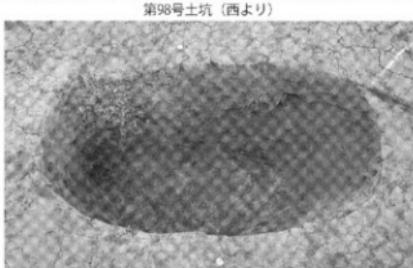
第91号土坑（北西より）



第98号土坑（西より）



第101号土坑（南東より）



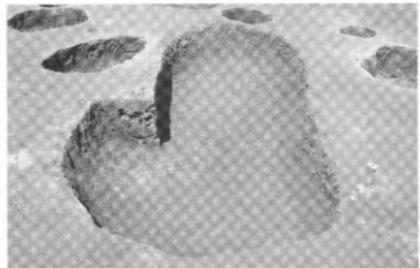
第105号土坑（東より）



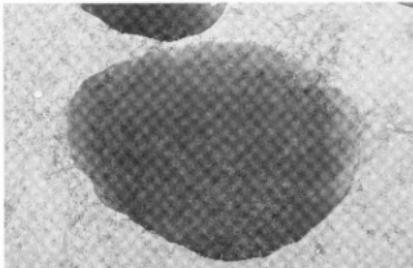
第118号土坑（南より）



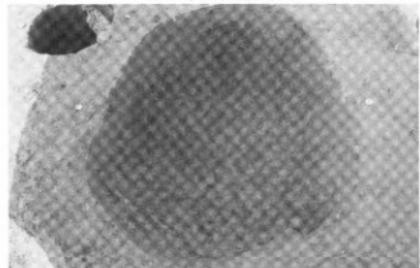
第131号土坑（南より）



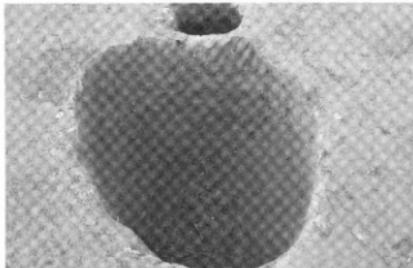
第154号土坑（南より）



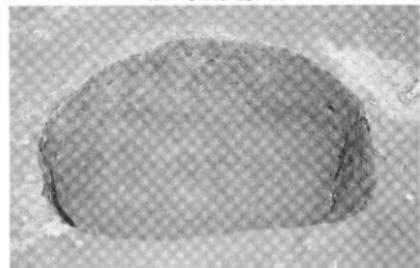
第155号土坑（南より）



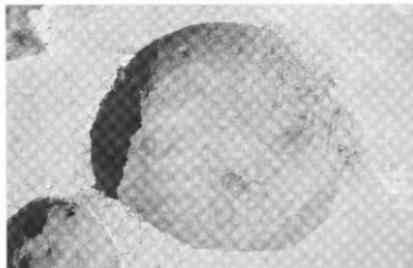
第156号土坑（南より）



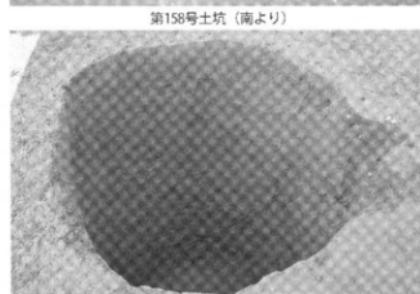
第157号土坑（南より）



第158号土坑（南より）



第159号土坑（東より）



第161号土坑（南より）



第162号土坑（南より）



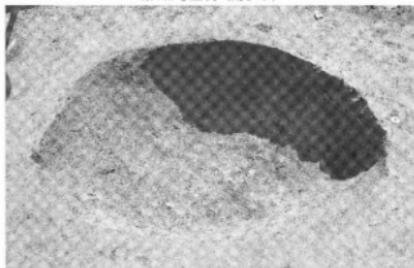
第163号土坑（南より）



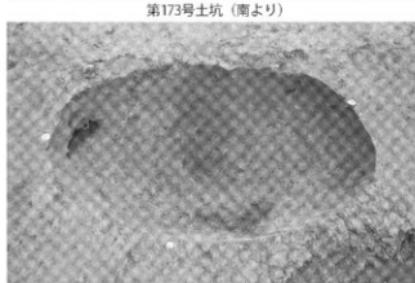
第165号土坑（南より）



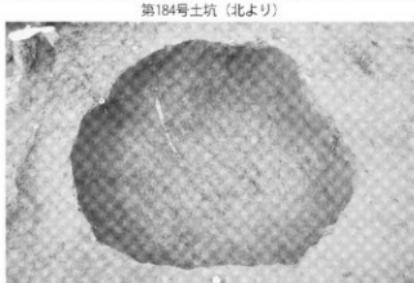
第173号土坑（南より）



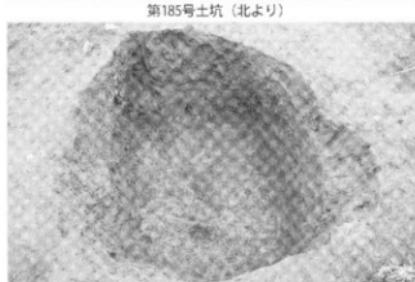
第184号土坑（北より）



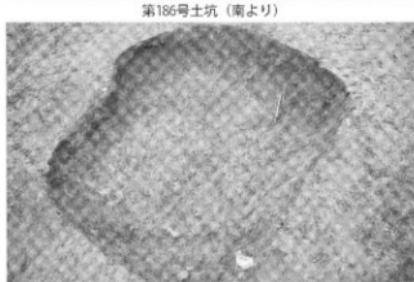
第185号土坑（北より）



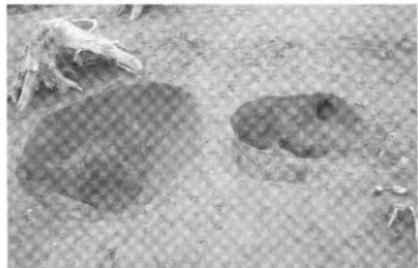
第186号土坑（南より）



第192号土坑（南より）



第194号土坑（南より）



第195・222号土坑（南より）



第197号土坑（南より）



第200号土坑（南より）



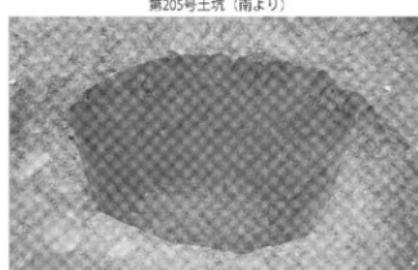
第201号土坑（南より）



第205号土坑（南より）



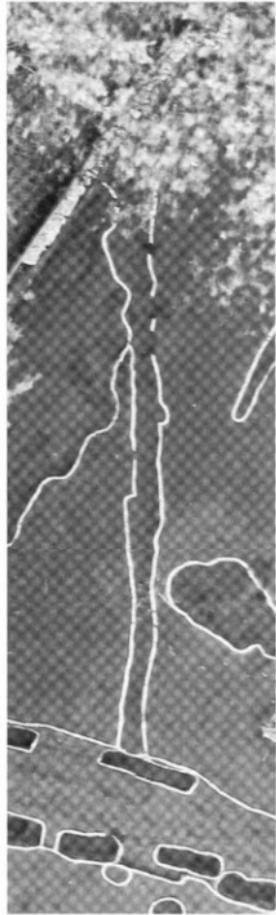
第221号土坑（北より）



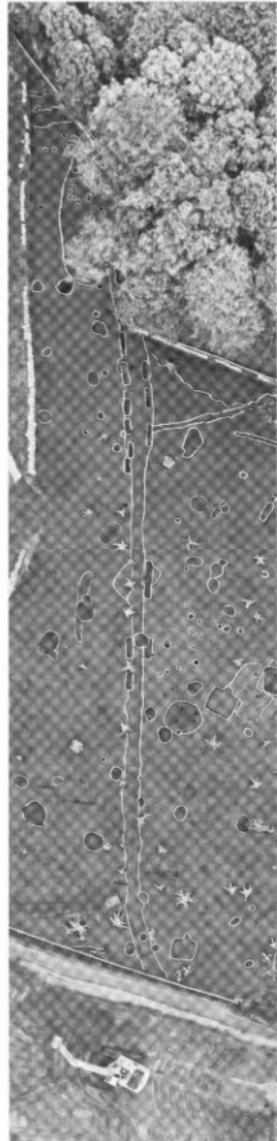
第226号土坑（北より）



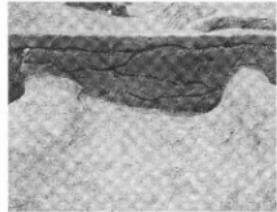
第227号土坑（南より）



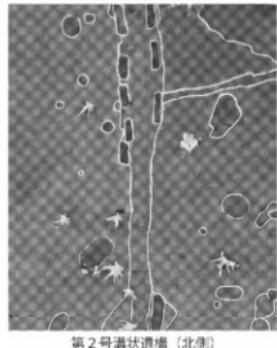
第1号溝状遺構 (左が北)



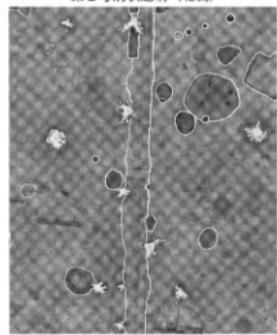
第2号溝状遺構 (上が北)



第2号溝状遺構土層



第2号溝状遺構 (北側)



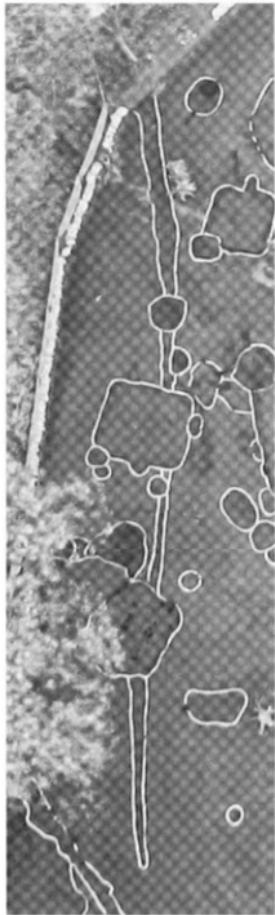
第2号溝状遺構 (南側)



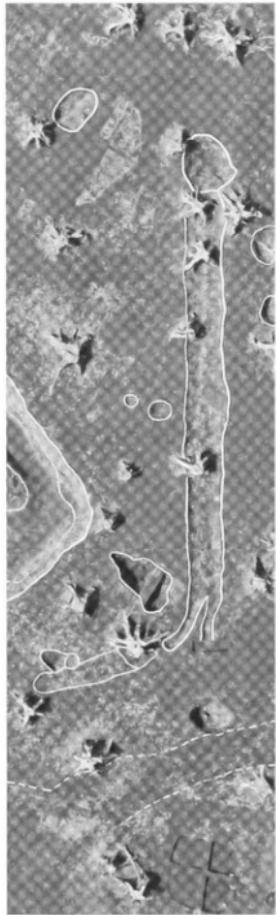
第1号溝状遺構土層



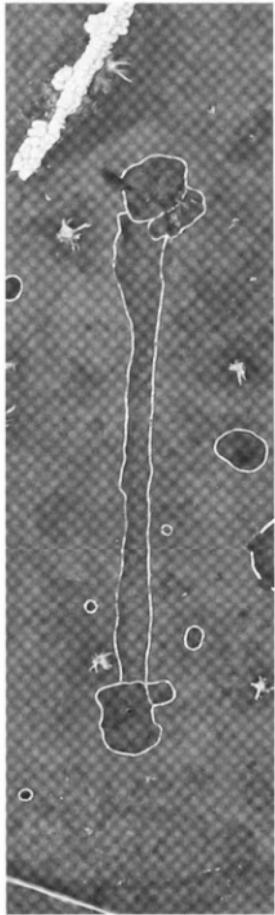
第3・4号溝状遺構 (西より)



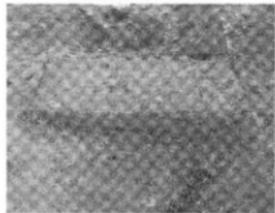
第5号溝状遺構（左が北）



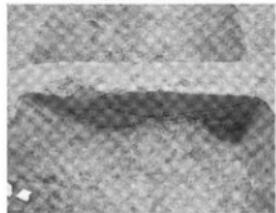
第7号溝状遺構（右が北）



第8号溝状遺構（上が北）



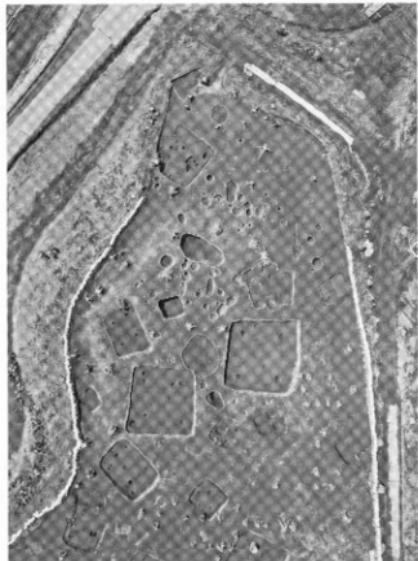
第5号溝状遺構土層



第7号溝状遺構土層



第8号溝状遺構土層



東台地南半部西側ピット群（下が北）



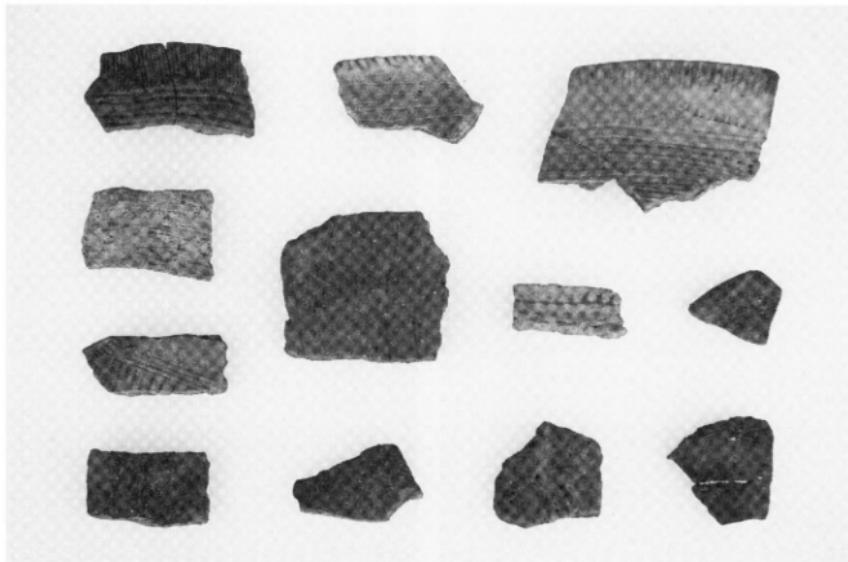
東台地南半部東側ピット群（下が北）



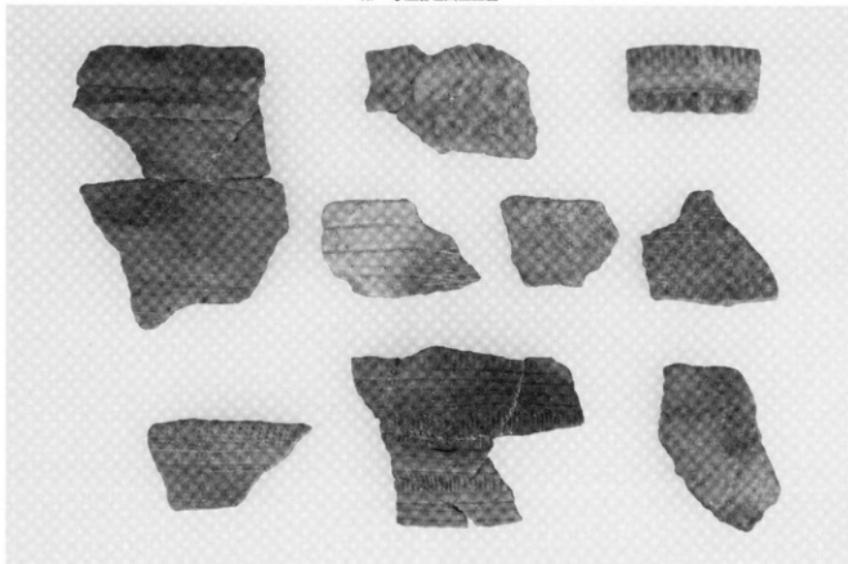
東台地南半部西側ピット群（下が北）



西台地北部西側ピット群（南西より）



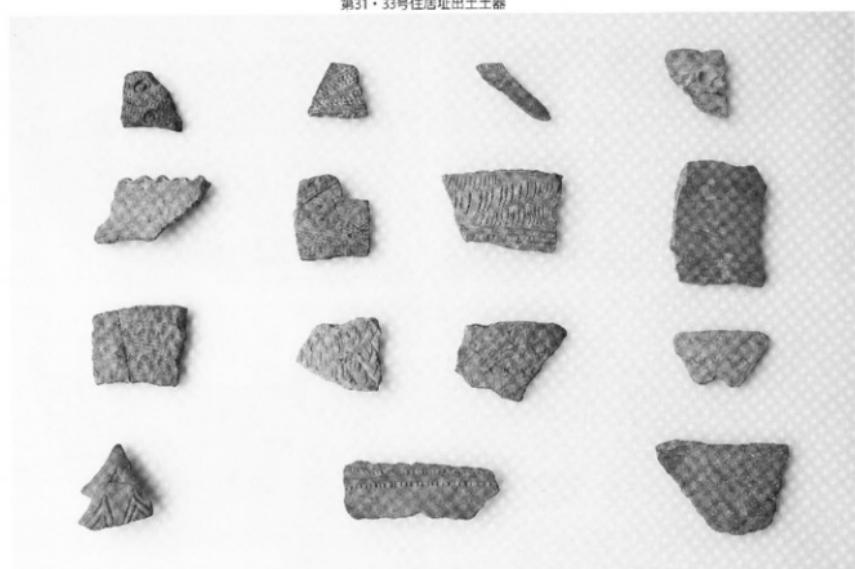
第1号住居址出土土器



第6号住居址出土土器



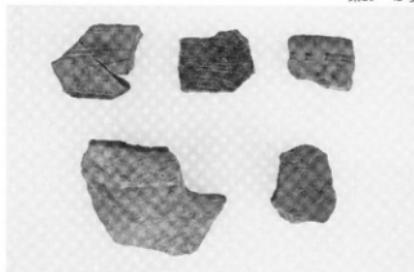
第31·33号住居址出土土器



第37号住居址出土土器



第39·43号住居址出土土器



第15号土坑出土土器



第60号土坑出土土器（1）



第60号土坑出土土器（2）



第69号土坑出土土器



第96号土坑 1



第96号土坑 2



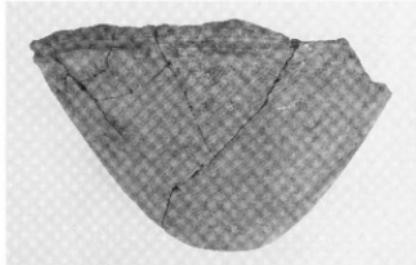
第99号土坑 7



第99号土坑 5



第99号土坑 6



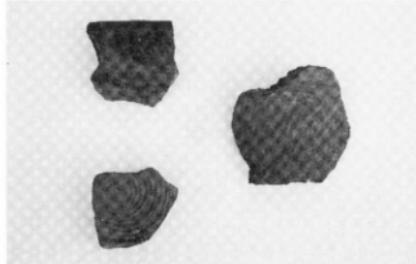
第108号土坑 1



第108号土坑 2



第108号土坑 5



第108号土坑 7~9



第1号埋藏



包含层No.2土器群 1



包含层No.2土器群 4



包含层No.2土器群 2



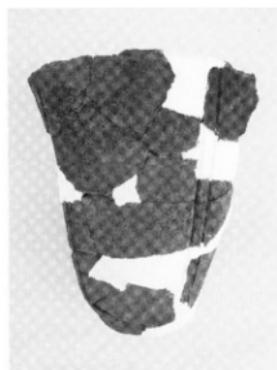
包含層No.3土器群 1



包含層No.4土器群 1



包含層No.4土器群 2



包含層No.4土器群 8



包含層No.4土器群 9



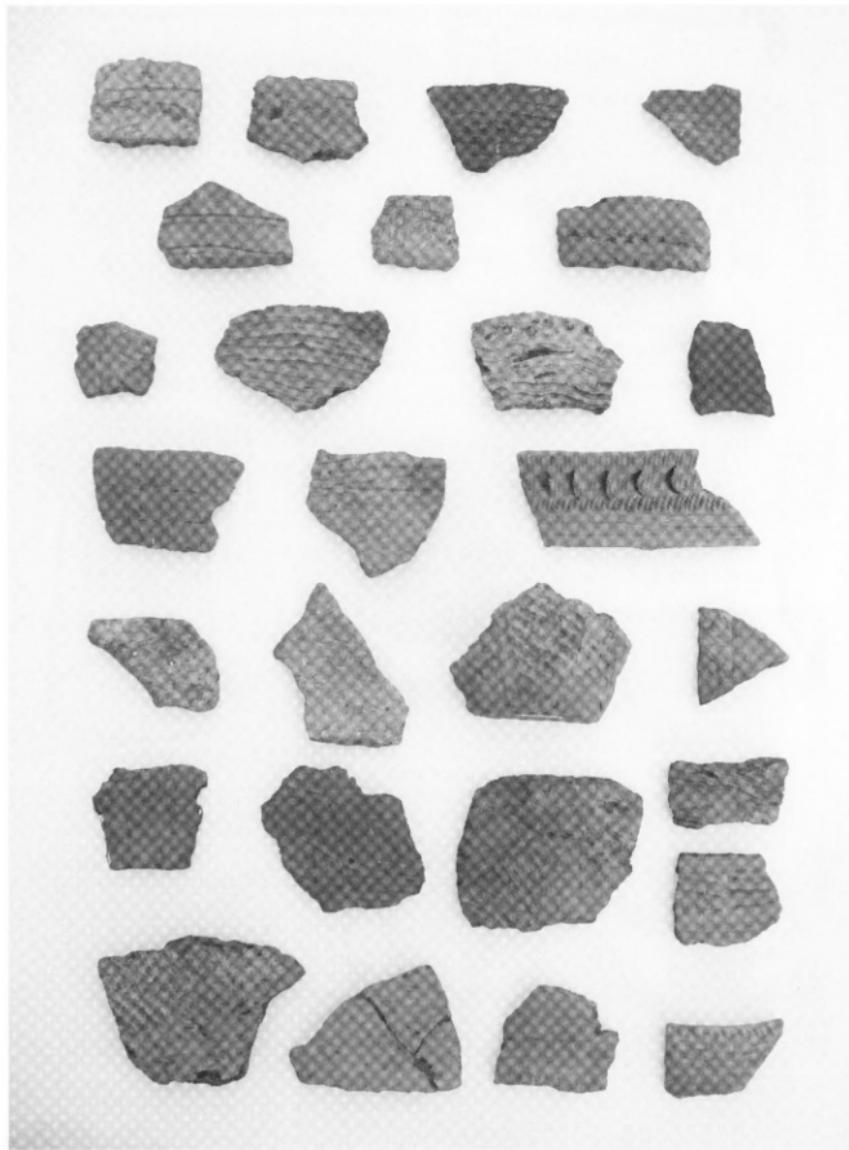
包含層No.5土器群 1



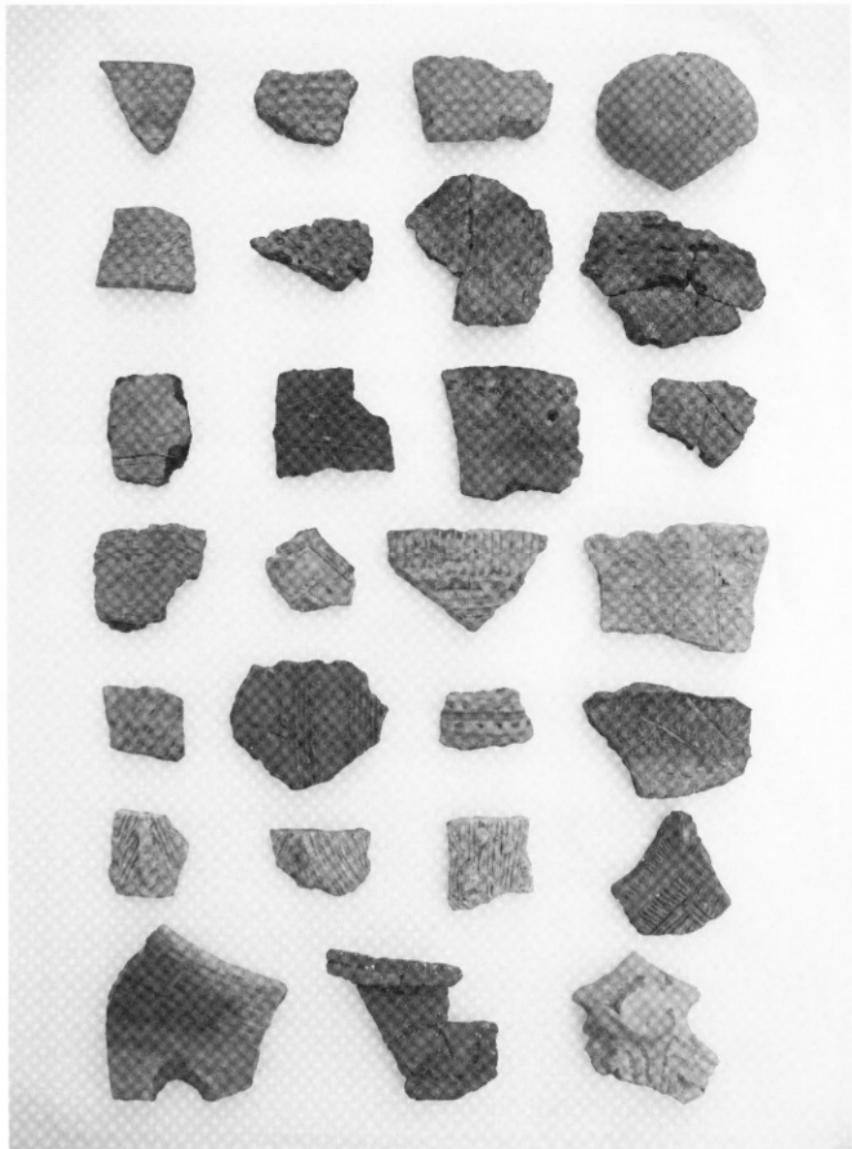
包含層No.5土器群 2



包含層No.5土器群 3



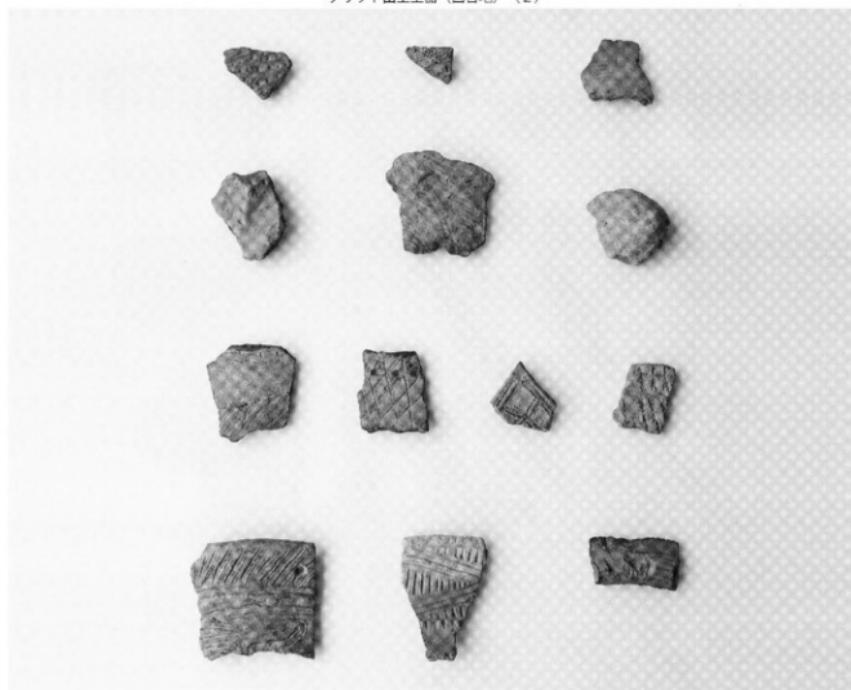
谷頭部・谷部出土土器



グリッド出土土器（西台地）（1）



グリッド出土土器（西台地）（2）



グリッド出土土器（東台地）



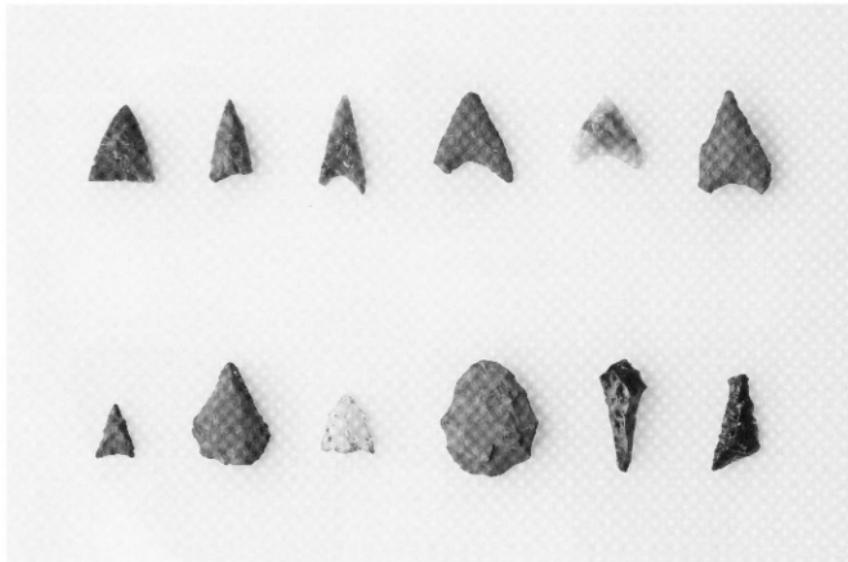
時期外遺構出土の縄文土器（東台地）（1）



時期外遺構出土の縄文土器（東台地）（2）



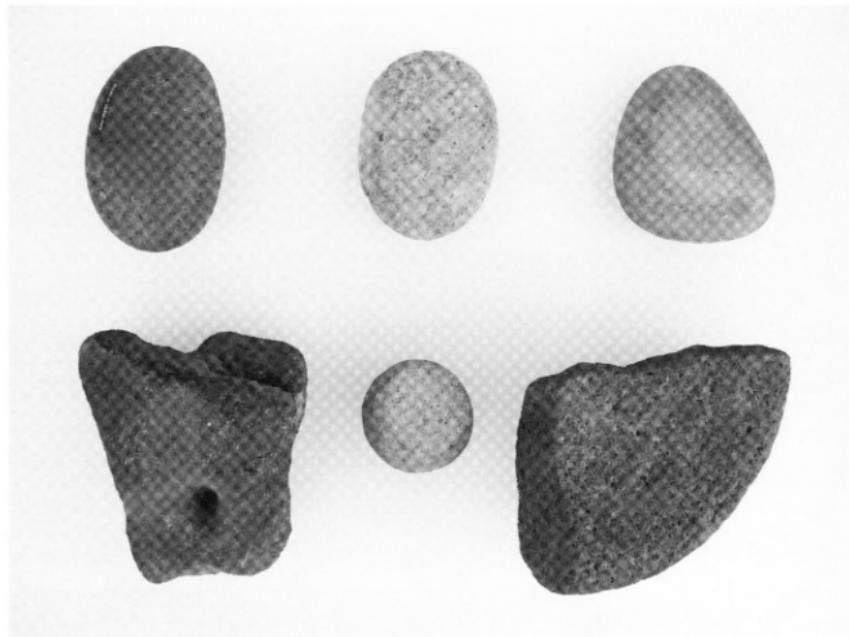
時期外遺構出土の縄文土器（西台地）



石器（1）



石器（2）



石器 (3)



土製品



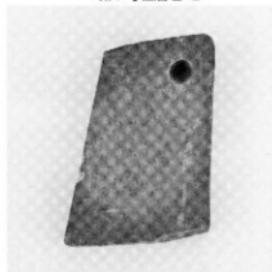
第7号住居址 2



第7号住居址 3



第8号住居址 1



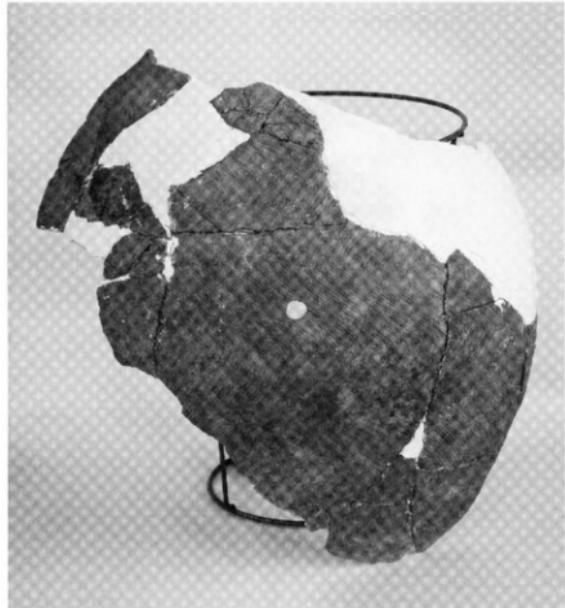
第13号住居址 10



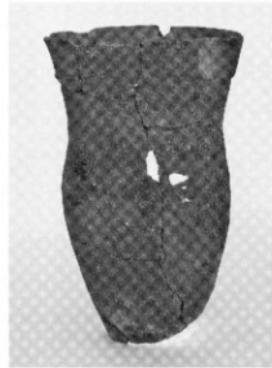
第13号住居址 8



第13号住居址 7



第13号住居址 1



第13号住居址 4



第13号住居址 9



第16号住居址 3



第16号住居址 2



第16号住居址 1



第16号住居址 7



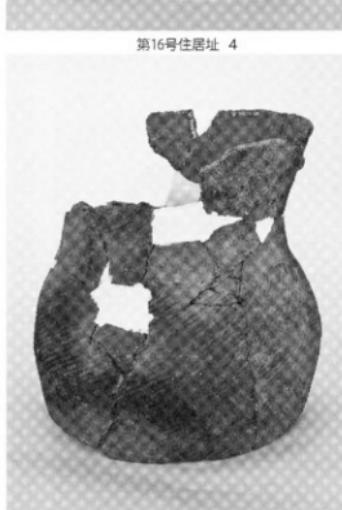
第16号住居址 4



第19号住居址 3



第19号住居址 1



第24号住居址 2



第24号住居址 1



第21号住居址 3



第26号住居址 1



第26号住居址 2

第26号住居址 4



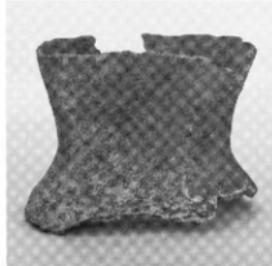
第26号住居址 3



第26号住居址 5



第26号住居址 7



第32号住居址 2



第32号住居址 4



第32号住居址 5



第34号住居址 1



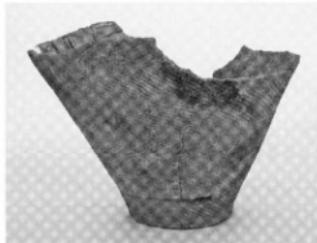
第34号住居址 4



第40号住居址 4



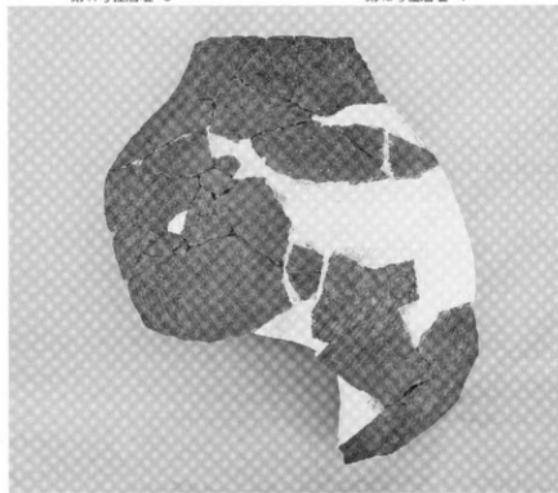
第41号住居址 6



第42号住居址 4



包含層No.1 土器群 9



包含層No.1 土器群 11



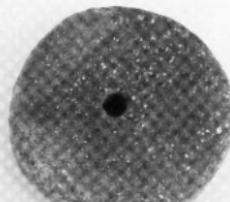
グリッド出土遺物 7 (砾石)



グリッド出土遺物 5 (勾玉)



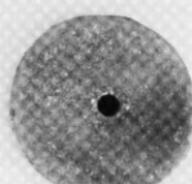
7号住居



13号住居



34号住居

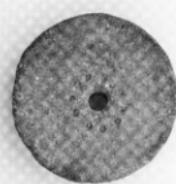


40号住居



第13号住居址 12

纺锤石



40号住居



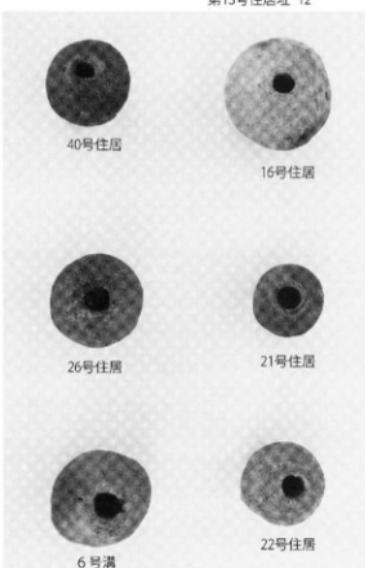
16号住居



26号住居



21号住居



第21号住居址 4

第42号住居址 6

6号溝

球状土器



第2号住居址 2



第2号住居址 7



第2号住居址 8



第2号住居址 3



第2号住居址 12



第2号住居址 13



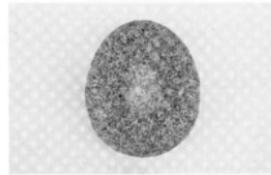
第2号住居址 6



第2号住居址 9



第3号住居址 2



第2号住居址 15



第3号住居址 7



第3号住居址 12



第3号住居址 1



第3号住居址 9



第3号住居址 4



第3号住居址 8



第4号住居址 4



第5号住居址 1



第9号住居址 4



第11号住居址 6



第11号住居址 5



第11号住居址 2



第15号住居址 7



第15号住居址 8



第15号住居址 9



第15号住居址 11



第15号住居址 6



第15号住居址 1



第17号住居址 1



第17号住居址 2



第17号住居址 3



第17号住居址 4



第17号住居址 5



第17号住居址 6



第18号住居址 1



第18号住居址 3



第20号住居址 4



第20号住居址 1

第21号住居址 4

第23号住居址 10

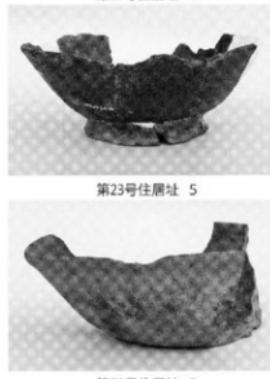
第23号住居址 5



第23号住居址 1



第23号住居址 2



第23号住居址 9



第23号住居址 4



第23号住居址 6



第25号住居址 2



第25号住居址 6



第25号住居址 1



第25号住居址 5 刻畫



第28号住居址 3



第28号住居址 2



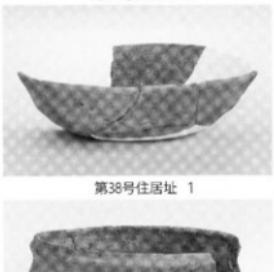
第29号住居址 5



第30号住居址 3



第28号住居址 4



第38号住居址 1



第35号住居址 1 刻畫



第38号住居址 3



第14号土坑 1



第14号土坑 2



第14号土坑 4



第4号烧土址 1



第6号满状遗構 5



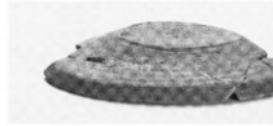
第6号满状遗構 7



第6号满状遗構 2



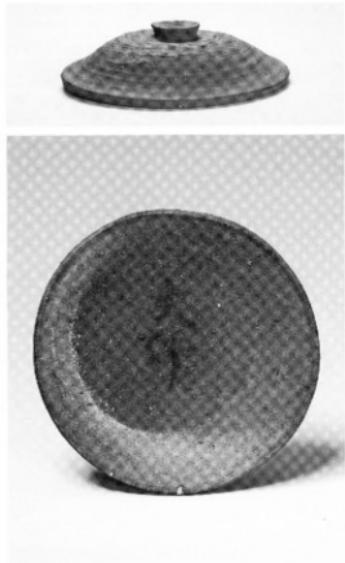
第6号满状遗構 4



第1号藏骨器



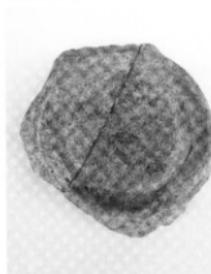
第2号藏骨器



第3号藏骨器



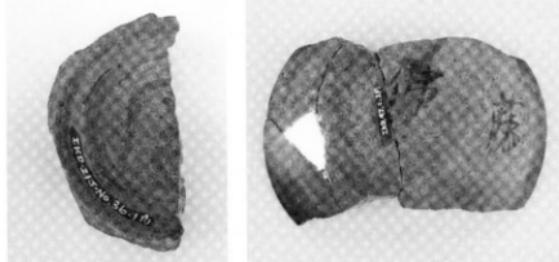
墨書き土器（17号住居 4）「高」



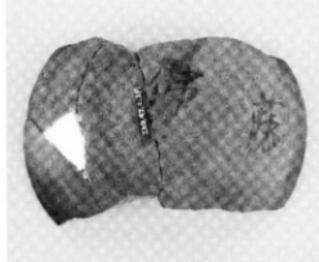
墨書き土器（6号溝 9）「志太」



墨書き土器（6号溝 8）「良」



墨書き土器（21号住居 5）「良」



墨書き土器（9号住居 1）「佛」「藤」



墨書き土器（11号住居 4）「良」



9号住居



9号住居



21号住居



20号住居



19号住居



15号住居



21号住居



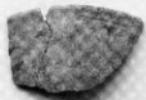
21号住居



21号住居



23号住居



35号住居



1号掘立柱建物



23号住居



23号住居



Q31-d



171号土坑



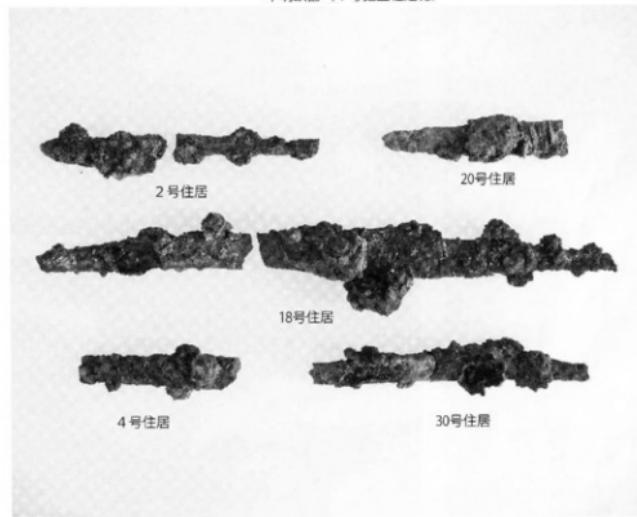
不明鐵器（1号掘立柱建物）



錐（29号住居）



銅器（14号土坑）



刀子

金属製品

不明鐵器（20号住居）





調査風景（西台地中央部）



調査風景（西台地北部）



調査風景（7号住居）



調査風景（21号住居）



洗浄作業



注記作業



遺物接合作業



デジタル編集作業

調査・整理作業風景

報告書抄録

ふりがな	しだいりこのだいいせき						
書名	信太入子ノ台遺跡						
副書名	「日本中央競馬会美浦トレーニング・センター移馬苑移設に伴なう造成工事」に伴なう埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	中村哲也 宇佐美義春 関健吾 丸山和浩 坂田裕之						
編集機関	美浦村教育委員会 アジア航測K.K.						
発行機関	美浦村教育委員会						
発行機関所在地	〒300-0404 水城町穂敷郡美浦村土浦2359 TEL. 029-886-0291						
発行年月日	平成23年12月28日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積	調査原因
信太入子ノ台 遺跡	茨城県 穂敷郡 美浦村 大字信太 北緯36度23分56秒 東経144度52分53秒	08442	144	35度58分52秒	140度18分53秒	2009.10.06～ 2010.06.01	約13,200m ² 美浦トレーニング・ センター移馬苑移 設に伴なう発掘調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺溝	主な遺物			特記事項
信太入子ノ台 遺跡	集落	縄文時代	堅穴住居址7軒 (前期) 十坑10基(中期) 埋葬基(前期前半) 上器集中地点4ヶ所 (中期)	土器(早期中葉～後期) 石器(石礫・石錐・石匙・ 磨石・圓石・石皿等) 土製品(耳飾・土器片鍤等)	<ul style="list-style-type: none"> 上器は前期後半が 主体 十坑にはフラスコ 形の貯藏穴がある 		
	弥生時代		堅穴住居址9軒 (後期) 土器集中地点 1ヶ所(後期)	土器(後期) 土製品(紡錘車)			
		古墳時代	堅穴住居址9軒 (前期) 占墳周溝(後期)	土器(前期) 土製品(紡錘車・管狀土鍤) 石器(砥石) 右製品(勾玉)			
		平安時代	堅穴住居址18軒 掘立柱建物址1棟 土坑2基 烧土址1基 溝(方形区画溝) 1基 藏骨器3基	上器(灰釉・須恵器・ 土師器) 金属器(刀子・釘・針?) 石器(砥石) 鉄滓	<ul style="list-style-type: none"> 墨書「寺」「酒」「廟」「大伴」等 第9号住居址より 鐵鉢形七器 		
		時期不明	土坑201基 漏8条 ビット161本 烧土址7				

茨城県稲敷郡美浦村 信太入子ノ台遺跡
-「日本中央競馬会美浦トレーニング・センター乗馬苑
移設に伴う造成工事」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

発行年月日 平成23（西暦2011）年12月28日

編集・発行 美浦村教育委員会

茨城県稲敷郡美浦村土浦2359

〒300-0404 TEL 029-886-0291



Ibaraki, Sida Irikonodai Site

Miho Village Board of Education 2011